千葉県教育振興財団調査報告第557集

四街道市小屋ノ内遺跡(2)

縄文時代～中・近世編

— 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ —

［第３分冊］

平成18年10月

独立行政法人　都市再生機構

財団法人　千葉県教育振興財団

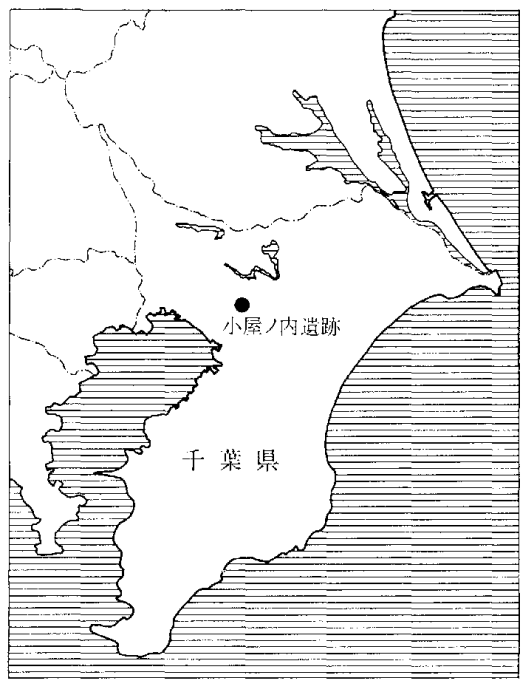
四街道市小屋ノ内遺跡(2)

よつかいどう　こやのうち

縄文時代～中・近世編

— 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ —

［第３分冊］



第３分冊目次

本文目次

第４章
第２節　掘立柱建物跡 …… 621
第３節　土坑墓 …… 721
第４節　大型円形土坑 …… 722
第５節　土坑 …… 729
第６節　遺構外出土遺物 …… 740
第５章　中・近世およびその他の遺構・遺物 …… 753
第１節　概要 …… 753
第２節　遺構・遺物 …… 760
1　南部地区 …… 760
(1)　土坑墓 …… 760
(2)　地下式坑 …… 762
(3)　溝状遺構・道路状遺構 …… 763
2　中央部・西部地区 …… 770
(1)　溝状遺構・道路状遺構，土坑列，台地整形遺構および関連遺構 …… 770
(2)　井戸状遺構 …… 789
3　東部地区 …… 791
(1)　建物遺構および関連遺構 …… 791
(2)　井戸状遺構 …… 804
(3)　地下式坑 …… 805
(4)　溝状遺構・道路状遺構，土坑列および関連遺構 …… 807
(5)　台地整形区画遺構および関連遺構 …… 822
4　土坑 …… 832
(1)　遺構 …… 833
(2)　遺物 …… 841
5　遺構外出土陶磁器およびその他の遺物 …… 889
第６章　分析 …… 896
第１節　貝サンプルの分析 …… 896
第２節　土サンプル・火山灰・動植物遺体の分析 …… 901
第３節　炭化モモ核と赤彩土器 …… 905
第７章　まとめ …… 912

表目次

第４表　SK・P位置図番号一覧 …… 834
第５表　貝サンプル一覧 …… 896
第６表　貝類種名一覧 …… 896
第７表　貝類同定結果 …… 898
第８表　貝種組成 …… 898
第９表　貝類計測値分布 …… 899
第10表　マガキの付着痕 …… 900
第11表　炭化植物遺体 …… 903
第12表　動物遺体 …… 905
第13表　赤彩土器出土数の比較 …… 908
第14表　竪穴住居跡観察表 …… 919
第15表　掘立柱建物跡観察表 …… 923
第16表　奈良・平安時代竪穴住居跡
　　出土土器観察表 …… 926
第17表　金属製品観察表 …… 1000
第18表　土製品観察表 …… 1007
第19表　石製品観察表 …… 1010
第20表　中・近世陶磁器・土器観察表 …… 1013

挿図目次

第478図　SB－001 …… 622
第479図　SB－002・003 …… 623
第480図　SB－004 …… 625
第481図　SB－005・006(A) …… 626
第482図　SB－006(B)・007(A)・008・009 …… 627
第483図　SB－007(B)・010 …… 629
第484図　SB－011・012 …… 630
第485図　SB－013・014 …… 632
第486図　SB－015 …… 633
第487図　SB－016 …… 634
第488図　SB－017 …… 635
第489図　SB－018 …… 636
第490図　SB－019（1） …… 637
第491図　SB－019（2） …… 638
第492図　SB－020 …… 639
第493図　SB－021 …… 640
第494図　SB－022・023 …… 641
第495図　SB－024・025 …… 643
第496図　SB－026・027(A)・027(B) …… 644
第497図　SB－028・029（1） …… 646
第498図　SB－029（2） …… 647
第499図　SB－030・031 …… 648
第500図　SB－032・033 …… 650
第501図　SB－034（1） …… 651
第502図　SB－034・035（2） …… 652
第503図　SB－036 …… 654
第504図　SB－037 …… 655
第505図　SB－038・039 …… 657
第506図　SB－040・043 …… 658
第507図　SB－041 …… 659
第508図　SB－042 …… 660
第509図　SB－044・045 …… 662
第510図　SB－046・047 …… 663
第511図　SB－048 …… 664
第512図　SB－049 …… 665
第513図　SB－050・051 …… 666
第514図　SB－052(A)・052(B) …… 667
第515図　SB－053・054 …… 669
第516図　SB－054・055 …… 670
第517図　SB－056・057 …… 671
第518図　SB－058・059 …… 673
第519図　SB－060 …… 674
第520図　SB－061 …… 675
第521図　SB－062 …… 677
第522図　SB－063・064 …… 678
第523図　SB－065・066 …… 679
第524図　SB－067 …… 681
第525図　SB－068 …… 682
第526図　SB－069 …… 683
第527図　SB－070 …… 684
第528図　SB－071 …… 685
第529図　SB－072・073 …… 686
第530図　SB－074・075 …… 687
第531図　SB－076・077 …… 688
第532図　SB－078・079・080 …… 690
第533図　SB－081・082 …… 691
第534図　SB－083(A)・(B) …… 693
第535図　SB－084 …… 694
第536図　SB－085・087・088・090 …… 695
第537図　SB－086・089 …… 696
第538図　SB－091・141 …… 697
第539図　SB－100 …… 698
第540図　SB－101 …… 699
第541図　SB－102 …… 700
第542図　SB－103・104 …… 701
第543図　SB－105 …… 703
第544図　SB－106 …… 704

第545図　SB－107・108 …… 705
第546図　SB－109 …… 706
第547図　SB－110 …… 707
第548図　SB－111・112 …… 708
第549図　SB－113・114 …… 710
第550図　SB－115 …… 711
第551図　SB－116 …… 712
第552図　SB－117 …… 713
第553図　SB－118 …… 714
第554図　SB－119・120 …… 715
第555図　SB－121・122 …… 716
第556図　SB－123 …… 717
第557図　SB－124 …… 717
第558図　SB－125 …… 718
第559図　SB－126 …… 719
第560図　SB－128 …… 720
第561図　SB－129 …… 721
第562図　有天井土坑 …… 722
第563図　SK－164・165（1） …… 724
第564図　SK－164・165出土遺物（1） …… 725
第565図　SK－164・165出土遺物（2） …… 727
第566図　奈良・平安時代土坑 …… 730
第567図　奈良・平安時代土坑出土遺物 …… 732
第568図　SK－400（1） …… 735
第569図　SK－400（2） …… 736
第570図　P－851 …… 739
第571図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（1） …… 741
第572図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（2） …… 744
第573図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（3） …… 746
第574図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（4） …… 748
第575図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（5） …… 750
第576図　中近世遺構・南部地区 …… 756
第577図　中近世遺構中央部・西部地区 …… 757
第578図　中近世遺構・東部地区 …… 759
第579図　SK－017・018 …… 762
第580図　SK－071 …… 763
第581図　SD－002・013・023・024 …… 764
第582図　SD－001 …… 766
第583図　SD－012・014・015・016・026・027・SX－016 …… 768
第584図　SD－017・018 …… 769
第585図　SD－025 …… 770
第586図　SD－022 …… 771
第587図　SD－028・029・034・071・072 …… 772
第588図　SD－035・038 …… 773
第589図　SD－036・037 …… 775
第590図　SD－030・031・032・033 …… 776
第591図　SD－020・021・040 …… 778
第592図　SD－019 …… 779
第593図　SX－019・SK－109 …… 780
第594図　SD－042 …… 781
第595図　SD－041・057・058・059・SX－024 …… 783
第596図　SD－055・060・061・062・063・079・080・081 …… 785
第597図　SD－055・056・SK－411・412 …… 787
第598図　SX－025 …… 788
第599図　SK－411・412 …… 790
第600図　SX－010・011・012（1） …… 794
第601図　SX－010・011・012（2） …… 795
第602図　SX－010・011・012（3） …… 798
第603図　SX－020 …… 803
第604図　井戸状遺構 …… 805
第605図　地下式坑 …… 806
第606図　SD－004 …… 808
第607図　SX－015 …… 810
第608図　SX－014 …… 811
第609図　SD－009・010 …… 812
第610図　SD－005（1）・006・007・008・011・050・051 …… 815
第611図　SD－005（2）・052 …… 817
第612図　SD－003・054（1）・SX－031 …… 819
第613図　SX－031階段遺構 …… 820
第614図　SD－053・054・SX－023 …… 821
第615図　SX－013・029・030 …… 825
第616図　SX－022 …… 828
第617図　SX－032・SD－064・SK－582・583・588他 …… 832
第618図　SX－002・003・006・SI－023 …… 840
第619図　土坑位置分割枠全体図 …… 843
第620図　土坑① …… 844
第621図　土坑② …… 845
第622図　土坑②断面 …… 846
第623図　土坑③ …… 847
第624図　土坑④ …… 848

第625図　土坑④断面 …… 849
第626図　土坑⑥断面 …… 849
第627図　土坑⑤ …… 850
第628図　土坑⑤断面 …… 851
第629図　土坑⑥ …… 852
第630図　土坑⑦ …… 853
第631図　土坑⑧ …… 854
第632図　土坑⑧断面 …… 855
第633図　土坑⑨断面 …… 855
第634図　土坑⑨ …… 856
第635図　土坑⑩ …… 857
第636図　土坑⑪ …… 858
第637図　土坑⑪断面 …… 859
第638図　土坑⑫ …… 859
第639図　土坑⑬ …… 860
第640図　土坑⑭ …… 861
第641図　土坑⑮ …… 862
第642図　土坑⑯ …… 863
第643図　土坑⑰ …… 864
第644図　土坑⑱ …… 865
第645図　土坑⑲ …… 866
第646図　土坑⑳ …… 867
第647図　土坑㉑ …… 868
第648図　土坑㉒ …… 869
第649図　土坑㉓ …… 870
第650図　土坑㉔ …… 871
第651図　土坑㉕ …… 872
第652図　土坑㉖ …… 873
第653図　土坑㉗ …… 874
第654図　土坑㉘ …… 875
第655図　土坑㉙ …… 876
第656図　土坑㉚ …… 877
第657図　土坑㉛ …… 878
第658図　土坑㉜ …… 879
第659図　土坑㉝ …… 880
第660図　土坑㉞ …… 881
第661図　土坑㉟ …… 882
第662図　土坑㊱ …… 883
第663図　土坑㊱断面 …… 884
第664図　土坑㊲断面 …… 884
第665図　土坑㊳ …… 884
第666図　土坑㊲ …… 885
第667図　土坑㊴ …… 886
第668図　土坑㊵ …… 887
第669図　中近世土器・陶磁器（1） …… 888
第670図　中近世土器・陶磁器（2） …… 890
第671図　中近世石製品（1） …… 891
第672図　中近世石製品（2） …… 892
第673図　中近世石製品（3） …… 894
第674図　中近世銭貨・金属製品 …… 895
第675図　貝種組成 …… 898
第676図　SK－112のウミニナ …… 900
第677図　炭化植物写真 …… 904
第678図　中心建物群周辺の遺構と赤彩土器・
炭化モモ核の出土点数 …… 906
第679図　炭化モモ核の集中出土状況 …… 907
第680図　赤彩土器出土数 …… 908
第681図　弥生時代～古墳時代前期遺構分布図
…… 913
第682図　古墳時代中期遺構分布図 …… 915
第683図　古墳時代後期遺構分布図 …… 916

第４章　奈良・平安時代

第２節　掘立柱建物跡（第15表）

本遺跡から検出された掘立柱建物跡は計127棟である。1949（昭和55）年に遺跡の中央部を通る道路建設工事に伴い，四街道市教育委員会が発掘調査を実施し検出した掘立柱建物跡５棟を含めると，現在まで132棟が確認されていることになる。遺跡全体からみると掘立柱建物跡は北側で少なく，南側に舌状に張り出す台地上平坦部で多く検出された。掘立柱建物跡に伴う遺物は少なく時期を細分できるものは少ないが，竪穴住居跡跡やその他の遺構との重複関係からそのほとんどが奈良・平安時代に時期大別できる。詳細な計測値については観察表に記載したので，併せて参考とされたい。

SB－001（第478図，図版138）

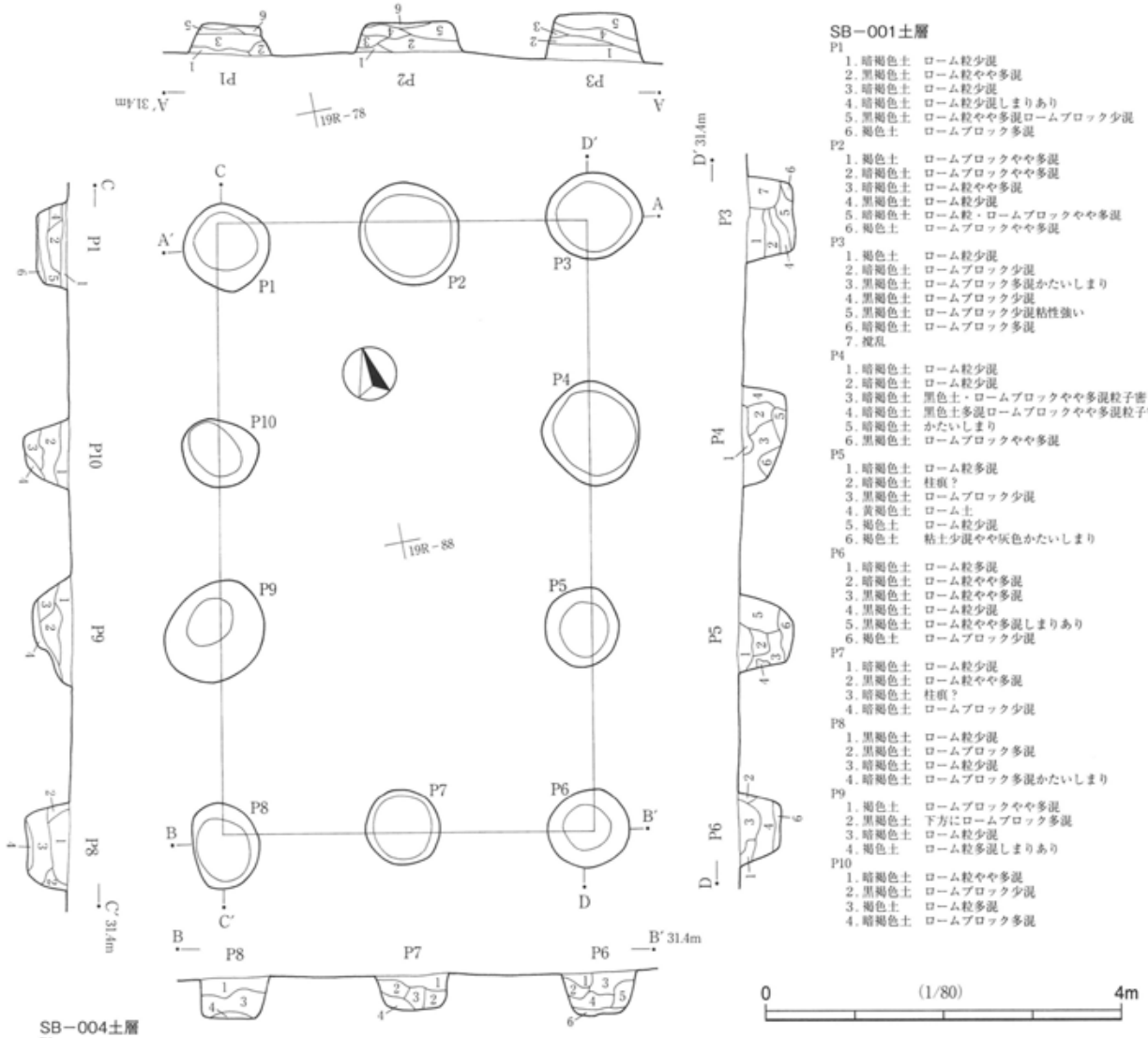
遺跡中央部南西寄りの19R－88区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，北東部隅の柱穴Ｐ３部分でSB－002と重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約49cmの深さがあるが，北列のＰ１とＰ２は最深で35cmと最も浅く，東列のＰ５が64cmで最も深い。径は79cm～121cmで若干のばらつきがあり，Ｐ２～Ｐ４・Ｐ９は110cm～121cmと大きい。柱穴底面はいずれもほぼ平らで，覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はP1～Ｐ５・Ｐ８・Ｐ９の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－002（第479図，図版138）

遺跡中央部南西寄りの19R－79区に位置する。南辺側に庇が付く掘立柱建物跡で，身舎は桁行２間×梁行２間で桁行長の方が若干長く，柱穴Ｐ２・Ｐ10はやや外側にずれている。庇部の桁行長は約1.2m，梁行２間で梁行長は約4.1ｍを測る。本遺構は南西部の柱穴Ｐ７～・Ｐ９・Ｐ11部分でSB－001と重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約46cmの深さがあるが，南列西隅のＰ９が28cmで最も浅く，北列東隅のＰ３が64cmで最も深い。径はＰ４とＰ５で１ｍをこえるが，残りは60cm前後である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ４～Ｐ６には焼土が混入している。遺物はP1・Ｐ３～Ｐ７・Ｐ10・Ｐ11の覆土内から出土しており，Ｐ１覆土内出土の須恵器底部小片はSB－003のＰ３覆土内出土の須恵器と接合し，実測図はSB－003の挿図に示した。他の遺物で図示できたものはない。

SB－003（第479図，図版139）

遺跡中央部南西寄りの19R－58区に位置し，SB－002の北西側に近接する。検出された柱穴は７基で，北東側は道路建設に際し掘削を受け調査不能であった。検出された柱穴の状況から，桁行２間×梁行２間の総柱建物跡であると思われる。柱穴深の平均は遺構確認面から約28cmの深さがあるが，西列中央のＰ６が16cmで最も浅く，東柱とみられるＰ７が40cmで最も深い。径は東柱とみられるＰ７で１ｍをこえ，Ｐ３とＰ４で90cm前後で，残りは若干小さめである。特にＰ２は径40cmと小さく，配置も若干南にずれている。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，東柱とみられるＰ７には焼土が混入している。遺物はＰ３・Ｐ６・Ｐ７の覆土内から出土し，Ｐ３出土の須恵器底部から体部にかけての破片１点が，SB－002のＰ１覆土内出土の須恵器と接合し，遺物番号１として図で示した。他の遺物で図示できたものはない。



SB－001土層

P1
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒少混しまりあり
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混ロームブロック少混
6. 褐色土　ロームブロック多混

P2
1. 褐色土　ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混
5. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
6. 褐色土　ロームブロックやや多混

P3
1. 褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混かたいしまり
4. 黒褐色土　ロームブロック少混
5. 黒褐色土　ロームブロック少混粘性強い
6. 暗褐色土　ロームブロック多混
7. 攪乱

P4
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混粒子密
4. 暗褐色土　黒色土多混ロームブロックやや多混粒子密
5. 暗褐色土　かたいしまり
6. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

P5
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　柱痕？
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 黄褐色土　ローム土
5. 褐色土　ローム粒少混
6. 褐色土　粘土少混やや灰色かたいしまり

P6
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混しまりあり
6. 褐色土　ロームブロック少混

P7
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　柱痕？
4. 暗褐色土　ロームブロック少混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混かたいしまり

P9
1. 褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　下方にロームブロック多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 褐色土　ローム粒多混しまりあり

P10
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混

SB－004土層

P1
1. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
3. 黄褐色土　ローム土，しまりあり，砂質
4. ソフトローム主体
5. 黒褐色土　しまり良
6. 暗褐色土　ソフトローム含

P2
1. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性あり，しまりあり
2. 黄褐色土　ローム土，しまりあり，砂質
3. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
5. 暗褐色土　ローム粒少混

P3
1. 褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
2. 黄褐色土　ローム土，しまりあり，砂質

P4
1. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
2. 暗褐色土　灰褐色土（砂質土）やや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
4. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
5. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
6. 攪乱

P5
1. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性あり，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
3. 黄褐色土　ローム土

P6
1. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
3. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
4. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
5. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
6. 黄褐色土　ローム土
7. 暗褐色土　粘性あり・しまりあり
8. 暗褐色土　ローム粒少混
9. 攪乱

P7
1. 黒褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
4. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
5. 黒色土　ロームブロック少混

P8
1. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
3. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
4. 黒色土　ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ローム粒多混

P9
1. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
3. 黒褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
4. 黒色土　ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり

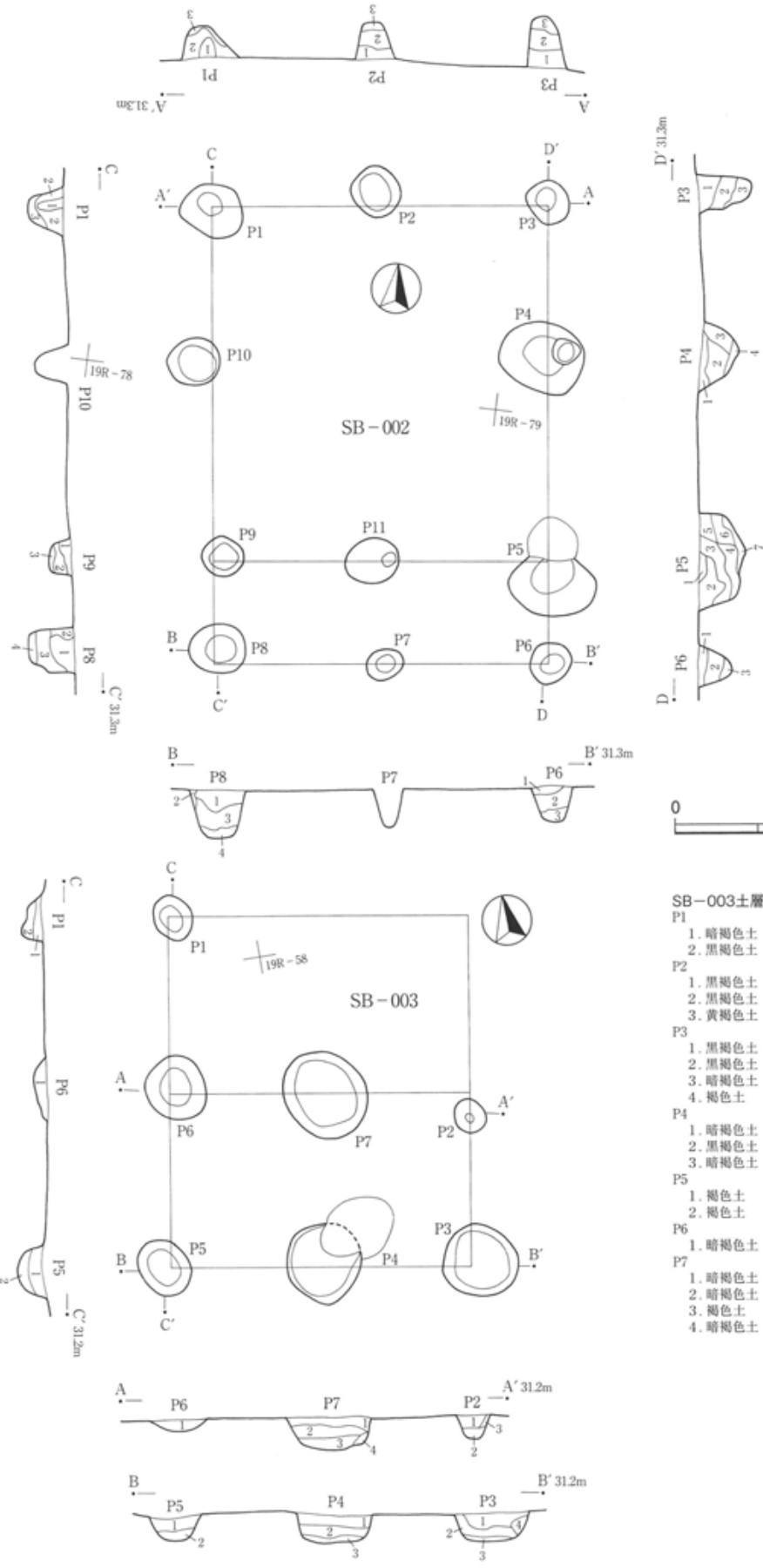
P10
1. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり
2. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質
4. 黒色土　ロームブロック少混

P11
1. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質

P12
1. 暗褐色土　ロームブロック少混，褐色土やや多混，粘性あり，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり，砂質

第478図　SB－001

1は須恵器杯で復元底径7.0cmを測り，遺存度30％である。色調は内外面ともに褐灰色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は内外面ともにロクロナデが施され，底部外面は手持ちヘラケズリで切り離し技法は不明で，千葉産の須恵器杯である。



SB－002土層

P1
1．黒褐色土　炭化物粒やや多混，柱痕？
2．黒褐色土　ロームブロック少混
3．暗褐色土　ローム粒多混

P2
1．暗褐色土　黒色土少混
2．黒褐色土
3．暗褐色土　粘土質，かたいしまり

P3
1．黒褐色土　ローム粒やや多混
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．褐色土　ロームブロックやや多混，かたいしまり

P4
1．暗褐色土　ローム粒・砂粒少混
2．黒褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
3．黒褐色土
4．褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり

P5
1．黒褐色土　ローム粒・炭化物粒・焼土粒やや多混
2．黒褐色土　ローム粒少混
3．暗褐色土　黒色土少混，ロームブロックやや多混
4．暗褐色土　黒色土少混
5．暗褐色土　ローム粒少混
6．黒褐色土　ローム粒少混
7．褐色土　ローム粒多混，かたいしまり

P6
1．黒褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
2．暗褐色土　ローム粒少混
3．暗褐色土　粘性強い，かたいしまり

P8
1．黒褐色土　ローム粒多混
2．黒褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ローム粒やや多混
4．褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P9
1．暗褐色土　ローム粒少混
2．黒褐色土　粘性強い
3．暗褐色土　ローム粒少混

SB－003土層

P1
1．暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
2．黒褐色土　褐色土・ロームブロックやや多混，しまりあり

P2
1．黒褐色土　ロームブロックやや多混
2．黒褐色土　ロームブロックやや多混
3．黄褐色土　ローム土

P3
1．黒褐色土　ローム粒多混
2．黒褐色土　ローム粒少混
3．暗褐色土　ローム粒やや多混
4．褐色土　ローム土，崩落痕

P4
1．暗褐色土　ローム粒やや多混
2．黒褐色土　ロームブロック少混
3．暗褐色土　ローム粒多混

P5
1．褐色土　粘性強い
2．褐色土　黒色土少混，粘性強い

P6
1．暗褐色土　ローム粒多混

P7
1．暗褐色土　ロームブロック少混
2．暗褐色土　焼土粒少混，しまりあり
3．褐色土　ロームブロックやや多混，焼土粒少混，しまりあり
4．暗褐色土　ロームブロック多混

第479図　SB－002・003

SB－004（第480図，図版139）

遺跡南部南寄りの19U－54区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の総柱建物跡で，北辺東部隅の柱穴Ｐ３でSI－006と，南辺東部隅の柱穴Ｐ６でSI－003とそれぞれ重複する。この竪穴住居跡跡との重複関係から本遺構は竪穴住居跡跡よりも時期が新しいことがわかった。本遺構中央部にある束柱Ｐ11・Ｐ12を除いた柱穴深の平均は遺構確認面から約90cmと深くいずれもしっかりしており，束柱Ｐ11・Ｐ12の柱穴深は概ね30cmと浅い。径はＰ10で104cmとやや大きめであるが，その他のものは径90cm前後とほぼ同一である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，全体的に粘性を帯びしまりがある。遺物はＰ３を除くすべての柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものは１点のみである。

１は土師器の高杯で，柱穴Ｐ１の覆土内一括出土の小片が６点接合したものである。色調は内外面ともににぶい赤褐色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は外面には手持ちヘラケズリと一部ヨコナデ，内面は剥離が激しく不明瞭であるがナデが施されている。

SB－005（第481図，図版138）

遺跡南部南寄りの19U－23区に位置し，SB－005の北西側に近接する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，ほぼ全面的にSB－006（A）・SB－006（B）と重複する。３棟が桁行方位を若干異にしてほぼ同一地点に存在することで建て替えの可能性もある。柱穴深の平均は遺構確認面から約46cmの深さがあるが，北列のＰ1～Ｐ３とＰ4・Ｐ10は16cm～30cmと浅く，南列のＰ６～Ｐ８とＰ５・Ｐ９は50cm～76cmと深く，南側へ行くにしたがい深さは増す。径は36cm～104cmでかなりのばらつきがあり，南列のＰ７・Ｐ８は100cm前後で特に大きい。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ２・Ｐ７の覆土には焼土粒がやや多めに混入している。遺物はＰ１・Ｐ２・Ｐ７・Ｐ８の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－006（A）（第481図，図版138）

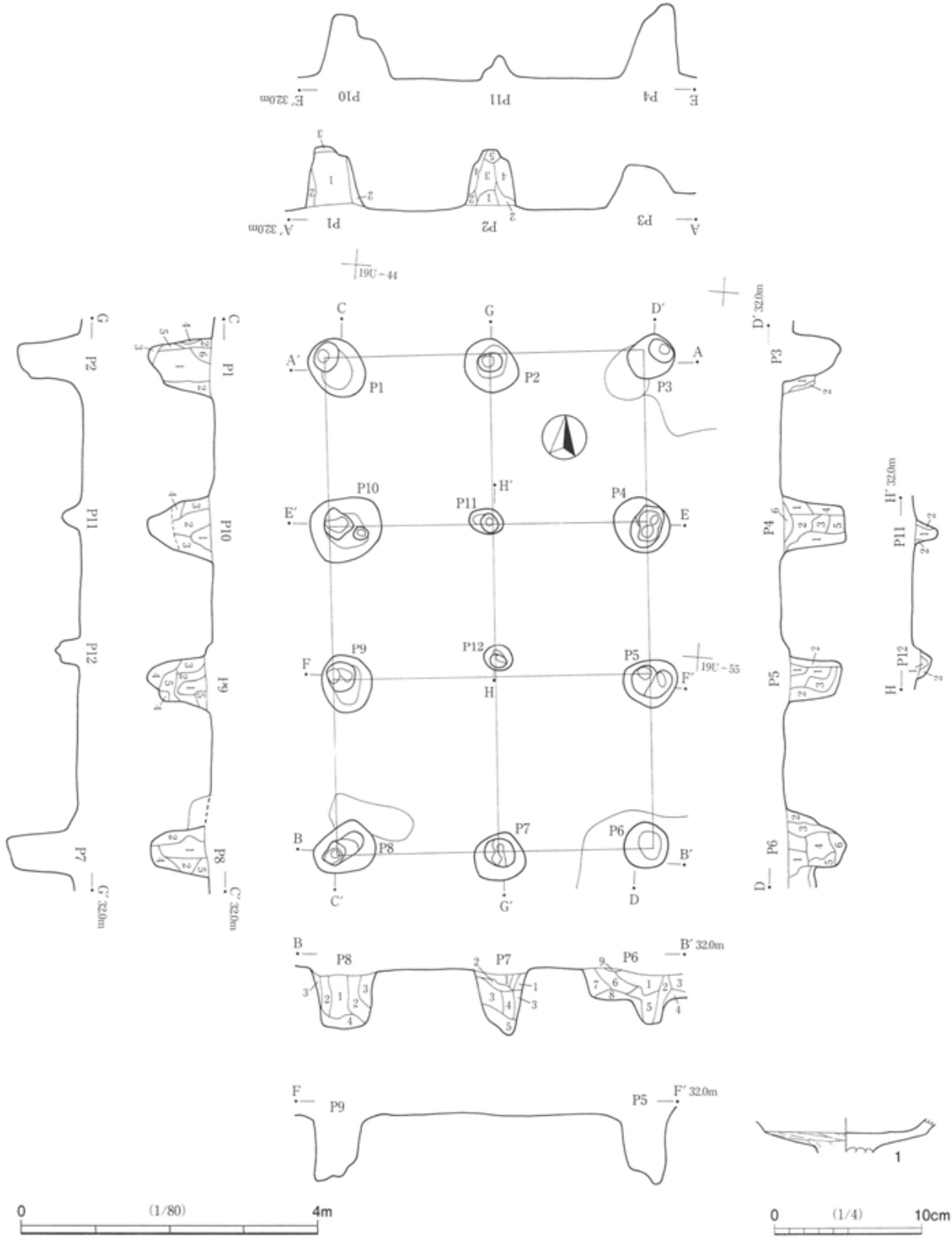
遺跡南部南寄りの19U－23区に位置し，SB－005の北西側に近接する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，ほぼ全面的にSB－005・SB－006（B）と重複する。３棟が桁行方位を若干異にしてほぼ同一地点に存在することで建て替えの可能性もある。柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmと全体的に浅い。特に東列のＰ５は12cmと浅い。径は36cm～112cmでかなりのばらつきがあり，北列のＰ１・Ｐ３と東列のＰ４は100cm前後で特に大きい。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ６の覆土には少量であるが炭化粒，Ｐ９の覆土には焼土粒が少量であるが混入している。遺物はＰ１・Ｐ９を除く柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－006（B）（第482図，図版138）

遺跡南部南寄りの19U－23区に位置し，SB－005の北西側に近接する。柱穴の配置からすると桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡とすることができるが，ほぼ全面的にSB－005・SB－006（A）と重複し，その他の遺構も重複するため不明な点が多い。そのためか四隅の柱穴は正確に配置されるが中間の柱穴は規模も配置もばらつきが大きい。３棟が桁行方位を若干異にしてほぼ同一地点に存在することで建て替えの可能性もある。出土遺物はない。

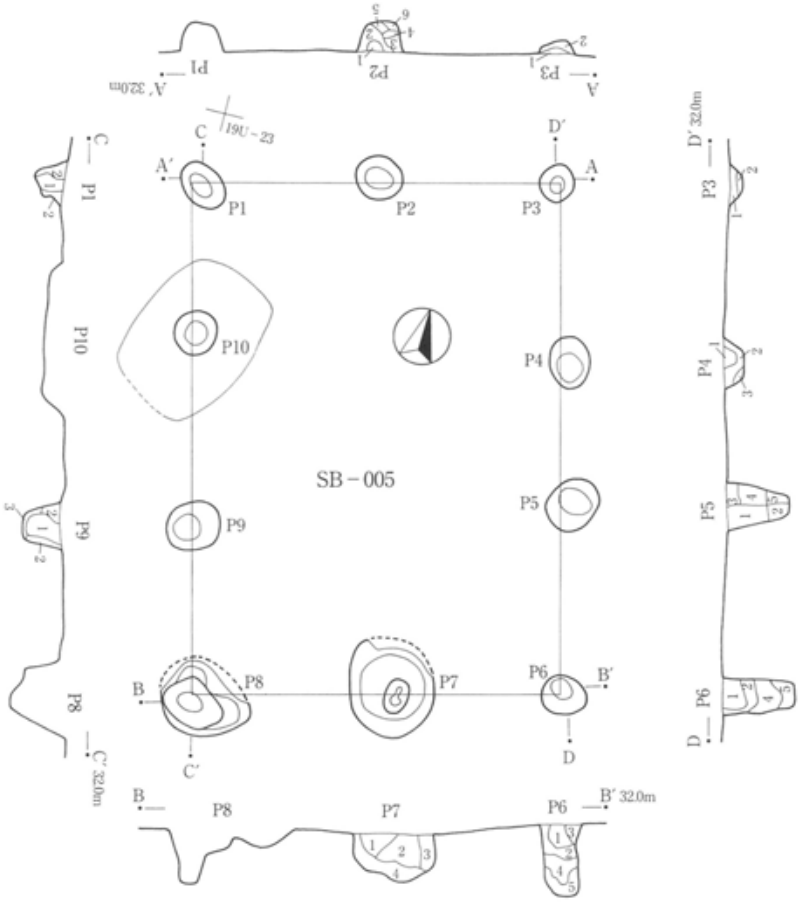
SB－007（A）（第482図，図版139）

遺跡南部南寄りの19U－13区に位置する。本遺構はほぼ同一地点でSB－008・SB－009と重複する。柱



第480図　SB－004

穴も重なり合うように配置され，桁行方位もまったく同一のため建て替えが行われた可能性が強い。また，建て替えの際の抜き取りピットも絡み合い，正確な柱穴の配置が不明瞭な点が多い。本遺構は南辺側に庇が付く身舎桁行２間×梁行２間の総柱建物跡と思われるが，北列中央部分の柱穴がはっきりしない。庇部



SB-005土層

P1
1．黒褐色土　ローム粒多混
2．暗褐色土　ローム粒多混

P2
1．黒褐色土　ローム粒多混
2．暗褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
3．暗褐色土　ローム粒やや多混
4．褐色土　ロームブロック多混
5．暗褐色土　ローム粒やや多混
6．黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い

P3
1．黒褐色土　ローム粒・砂粒多混
2．褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

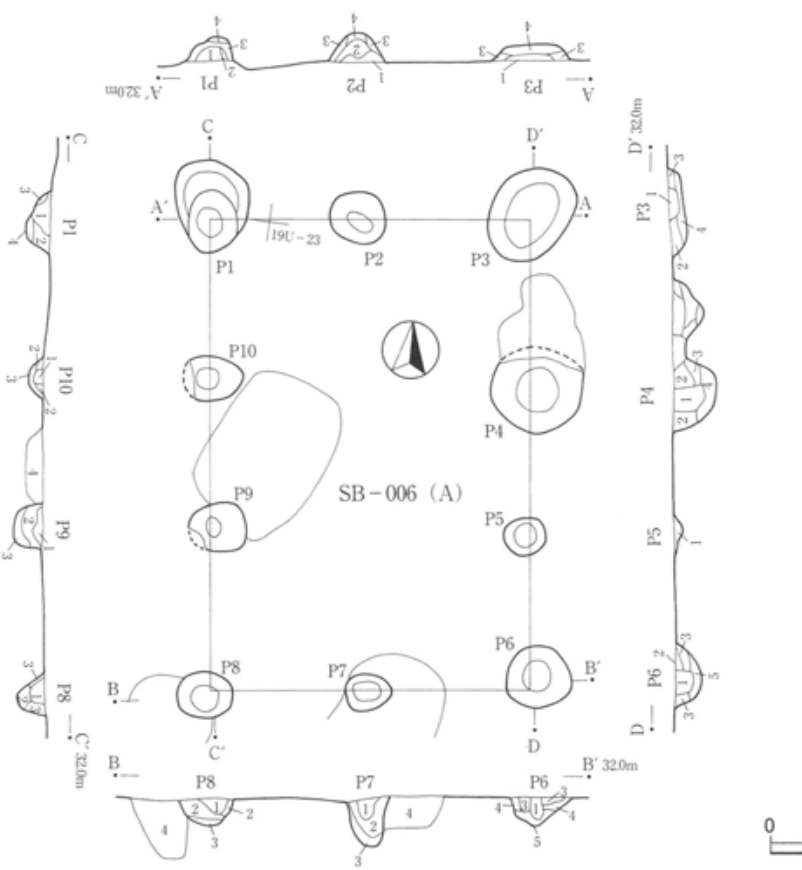
P4
1．黒褐色土　ローム粒少混
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ロームブロックやや多混

P5
1．黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2．黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
3．暗褐色土　ローム粒やや多混
4．褐色土　ロームブロック多混
5．暗褐色土　ロームブロック少混

P6
1．黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
4．褐色土　ロームブロック多混
5．暗褐色土　ローム粒やや多混

P7
1．黒褐色土　ローム粒多混
2．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多混
3．黒褐色土　ロームブロックやや多混，かたいしまり
4．暗褐色土　ロームブロックやや多混，粒子密

P9
1．黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い，粒子密
2．褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ロームブロック少混



SB－006（A）土層

P1
1．黒褐色土　ローム粒やや多混
2．黒褐色土　ローム粒多混
3．褐色土　ロームブロック少混
4．褐色土　ロームブロック多混

P2
1．黒褐色土　ローム粒少混
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ローム粒多混
4．褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P3
1．暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2．黒褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ローム粒やや多混
4．暗褐色土　ロームブロックやや多混

P4
1．黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い，粒子密，柱痕？
2．暗褐色土　ローム粒少混
3．暗褐色土　ローム粒多混
4．暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P5
1．暗褐色土　ロームブロック少混

P6
1．黒褐色土　ローム粒・炭化物粒少混
2．黒褐色土　ロームブロックやや多混
3．暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い
4．褐色土　黒色土多混，ローム粒やや多混
5．暗褐色土　ロームブロック多混

P7
1．暗褐色土　ローム粒多混
2．暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混
3．褐色土　ロームブロック少混
4．攪乱

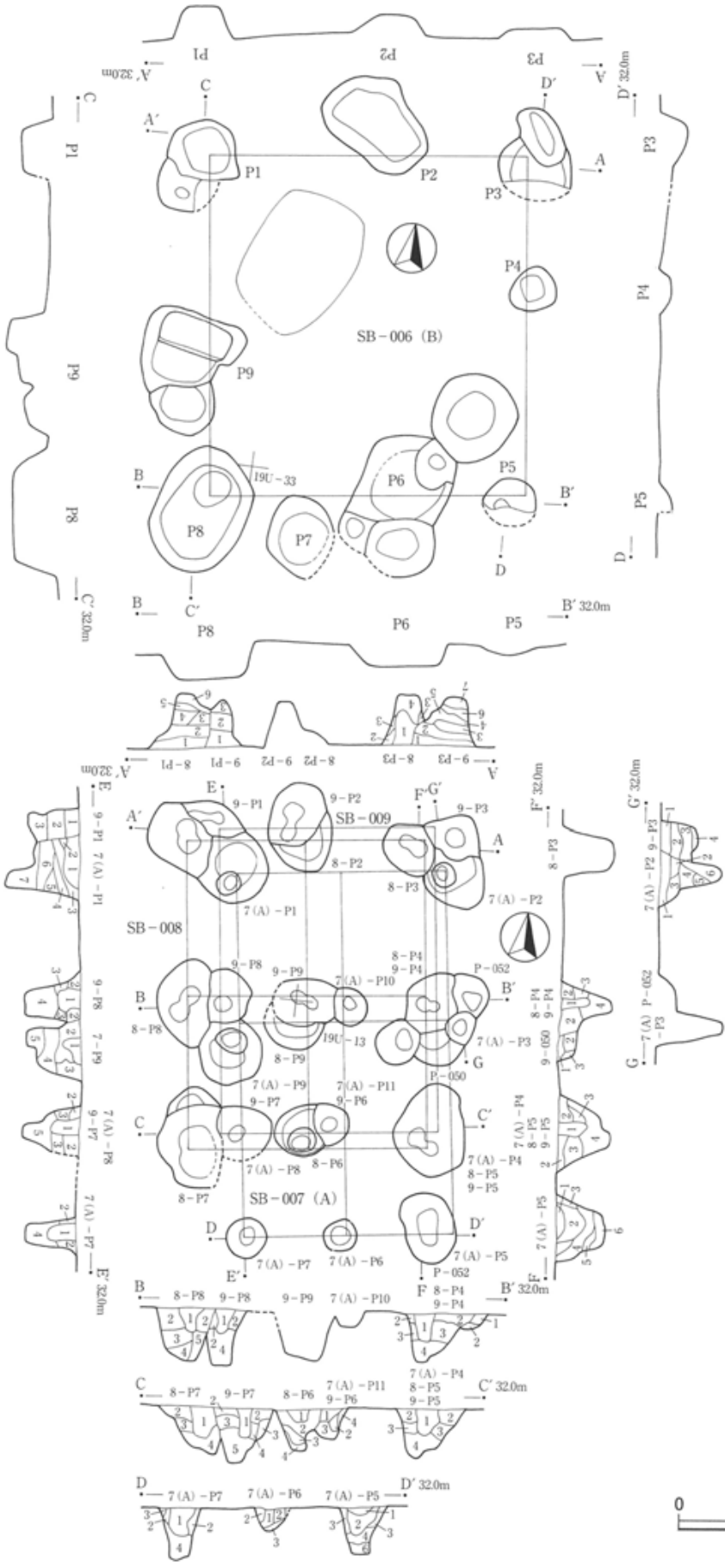
P8
1．暗褐色土　ローム粒少混
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．褐色土　ローム粒多混
4．攪乱

P9
1．黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
4．攪乱

P10
1．黒褐色土　砂粒やや多混，粒子密
2．暗褐色土　ローム粒やや多混
3．褐色土　黒色土多混

0　(1/80)　4m

第481図　SB－005・006(A)



SB－007(A)，008，009土層

7(A)－P1
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混炭化物粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混粒子密
4. 黒褐色土　ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
6. 黒褐色土　ローム粒少混
7. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

7(A)－P2
1. 暗褐色土　ローム粒・微砂粒少混
2. 暗褐色土　1層に類似やや暗め
3. 黒褐色土　ロームブロック多混粒子密
4. 黒褐色土　3層類似ロームブロックなし
5. 黒褐色土　3層類似ロームブロック少混
6. 黒褐色土　ローム粒斑状少混

7(A)－P4，8－P5，9－P5
1. 黒褐色土　ローム粒・炭化粒やや多混柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混粒子密
4. 暗褐色土　ローム粒少混粒子密

7(A)－P5
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混粘土少混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 暗褐色土　ローム粒少混粘性強い粒子密

7(A)－P6
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混粘性強い
2. 暗褐色土　ローム粒多混砂粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混粒子密

7(A)－P7
1. 暗褐色土　黒色土多混ローム粒・炭化粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒・粘土少混粘性強い
3. 褐色土　黒色土・ローム粒多混
4. 褐色土　ロームブロック多混

7(A)－P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混粘性強い

7(A)－P9
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒多混粘性強い
5. 褐色土　ロームブロック少混

7(A)－P11，9－P6
1. 黒褐色土　ローム粒含粘性強い
2. 黒褐色土　1層よりやや明め
3. 黒褐色土　ローム粒多混ローム粒小混
4. 褐色土　ソフトローム主体崩落痕

8－P1
1. 暗褐色土　ローム粒多混粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒斑状多混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混粒子密
5. 暗褐色土　4層類似ややしまる
6. 褐色土　ロームブロック多混

8－P3
1. 暗褐色土　ローム粒少混粘性強い
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混粘性強い

8－P4，9－P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混粒子密
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混粘性強い

8－P6
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ロームブロックやや多混

8－P7
1. 黒褐色土　ローム粒多混粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒多混ロームブロックやや多混

8－P8
1. 暗褐色土　ロームブロック少混粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒・炭化粒・焼土粒少混
3. 褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混
5. 褐色土　ロームブロックやや多混粒子密かたいしまり

9－P1
1. 暗褐色土　ローム粒少混粘性強い
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 褐色土　ロームブロック少混

9－P3
1. 暗褐色土　粗いローム粒少混
2. 黒褐色土　粗いローム粒少混
3. 暗褐色土　粗いローム粒少混粒子密
4. 黒褐色土　ローム粒斑状多混粘性強い
5. 黒褐色土　4層類似ローム粒少混やや暗い
6. 褐色土　ロームブロック多混
7. 暗褐色土　ロームブロック少混粒子密

9－P5
1. 黒褐色土　ローム粒・炭化粒やや多混柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混粒子密
4. 暗褐色土　ローム粒少混粒子密

9－P6
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ロームブロックやや多混

9－P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混粘性強い

9－P8
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混粘性強い

P050
1. 黒褐色土　ローム粒少混粘性強い
2. 暗褐色土　ローム粒少混粘性強い
3. 褐色土　ロームブロック少混

P052
1. 暗褐色土　ローム粒少混粒子密
2. 褐色土　ロームブロックやや多混

0　(1/80)　4m

第482図　SB－006(B)・007(A)・008・009

の桁行長は約1.2m，梁行２間で梁行長は約2.4mを測る。身舎部分の柱穴深は遺構確認面から60cm～92cmの深さがありしっかりしている。東柱と思われるＰ10と庇部中央のＰ６の柱穴深は，遺構確認面から30cm程度の深さで浅い。Ｐ４はSB－008・SB－009の南列東隅の柱穴と，Ｐ８・Ｐ11はSB－009の柱穴とそれぞれ共有する。新旧関係を土層図からみると，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ９で本遺構がSB－009を切っているので，本遺構がSB－009よりも新しいということがわかる。SB－008とSB－009の新旧関係については微妙な点があるが，SB－009がSB－008を切っている柱穴が多いのでSB－009の方が新しいと思われる。よって３棟の新旧関係は古い順からSB－008→SB－009→SB－007（A）となる。遺物は各柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－007（B）（第483図，図版139）

遺跡南部南寄りの19U－03区に位置する。SB－007（A）・SB－008・SB－009の北側に近接する。柱穴の配置からすると桁行２間×梁行１間の掘立柱建物跡とすることができるが，南列西側隅の柱穴が不明である。検出された柱穴の柱穴深の平均は遺構確認面から56cmでしっかりしている。また，東列Ｐ２～Ｐ４には柱痕らしき層がみられる。出土遺物はない。

SB－008（第482図，図版139）

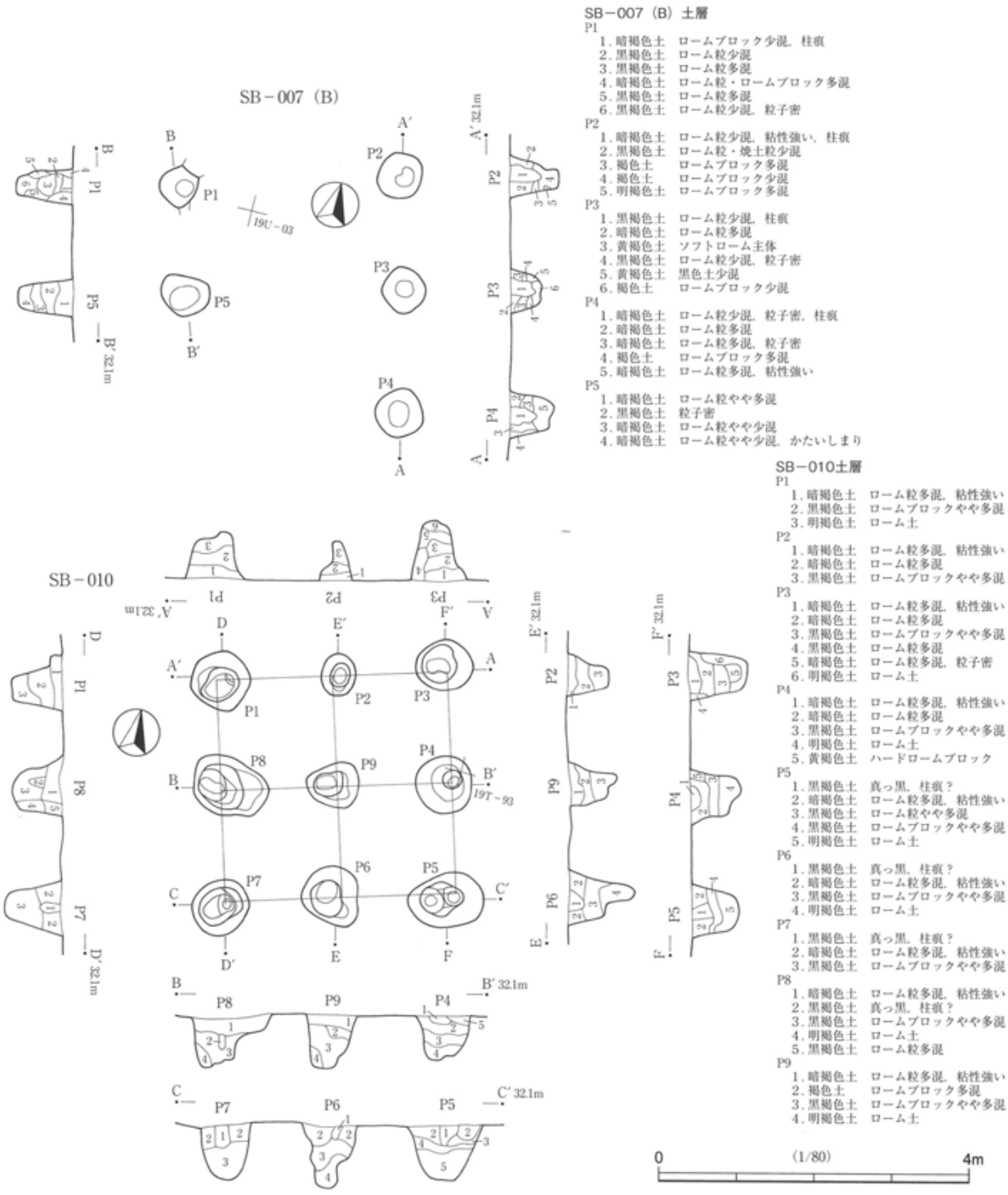
遺跡南部南寄りの19U－13区に位置する。本遺構はほぼ同一地点でSB－007（A）・SB－009と重複する。柱穴も重なり合うように配置され，桁行方位もまったく同一のため建て替えが行われた可能性が強い。また，建て替えの際の抜き取りピットも絡み合い，正確な柱穴の配置が不明瞭な点が多い。本遺構は桁行２間×梁行２間の総柱建物跡と思われる。柱穴深は遺構確認面から56cm～72cmの深さがあるが，SB－009・SB－007（A）により破壊されている柱穴が多い。東柱と思われるＰ９の柱穴深は，遺構確認面から50cm程度の深さで比較的しっかりしている。Ｐ５はSB－008・SB－009の南列東隅の柱穴と，Ｐ４はSB－009の柱穴とそれぞれ共有する。新旧関係を土層図からみると，古い順からSB－008→SB－009→SB－007(A)となる。遺物は各柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－009（第482図，図版139）

遺跡南部南寄りの19U－13区に位置する。本遺構はほぼ同一地点でSB－007（A）・SB－008と重複する。柱穴も重なり合うように配置され，桁行方位もまったく同一のため建て替えが行われた可能性が強い。また，建て替えの際の抜き取りピットも絡み合い，正確な柱穴の配置が不明瞭な点が多い。本遺構は桁行２間×梁行２間の総柱建物跡と思われる。柱穴深は遺構確認面から44cm～68cmの深さがあるが，SB－007(A)により破壊されている柱穴が多い。東柱と思われるＰ９の柱穴深は，遺構確認面から55cm程度の深さで比較的しっかりしている。Ｐ５はSB－007（A）・SB－008の南列東隅の柱穴と，Ｐ４はSB－008の柱穴と，Ｐ６・Ｐ７はSB－007（A）の柱穴とそれぞれ共有する。新旧関係を土層図からみると，古い順からSB－008→SB－009→SB－007（A）となる。遺物は各柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－010（第483図，図版140）

遺跡南部中央の19T－92区に位置し，SB－007（B）の北西側に近接する。本遺構は他遺構と重複せず単独で，柱の配置は桁行２間×梁行２間のほぼ正確な正方形を呈す総柱建物跡である。柱穴深の平均は遺構確認面から約70cmの深さがあり，北列中央のＰ２が50cm前後で最も浅く，柱穴径も44cm前後と最も小さい。東柱とみられるＰ９は遺構確認面から約70cmで比較的しっかりしている。。径は北列中央のＰ２と東

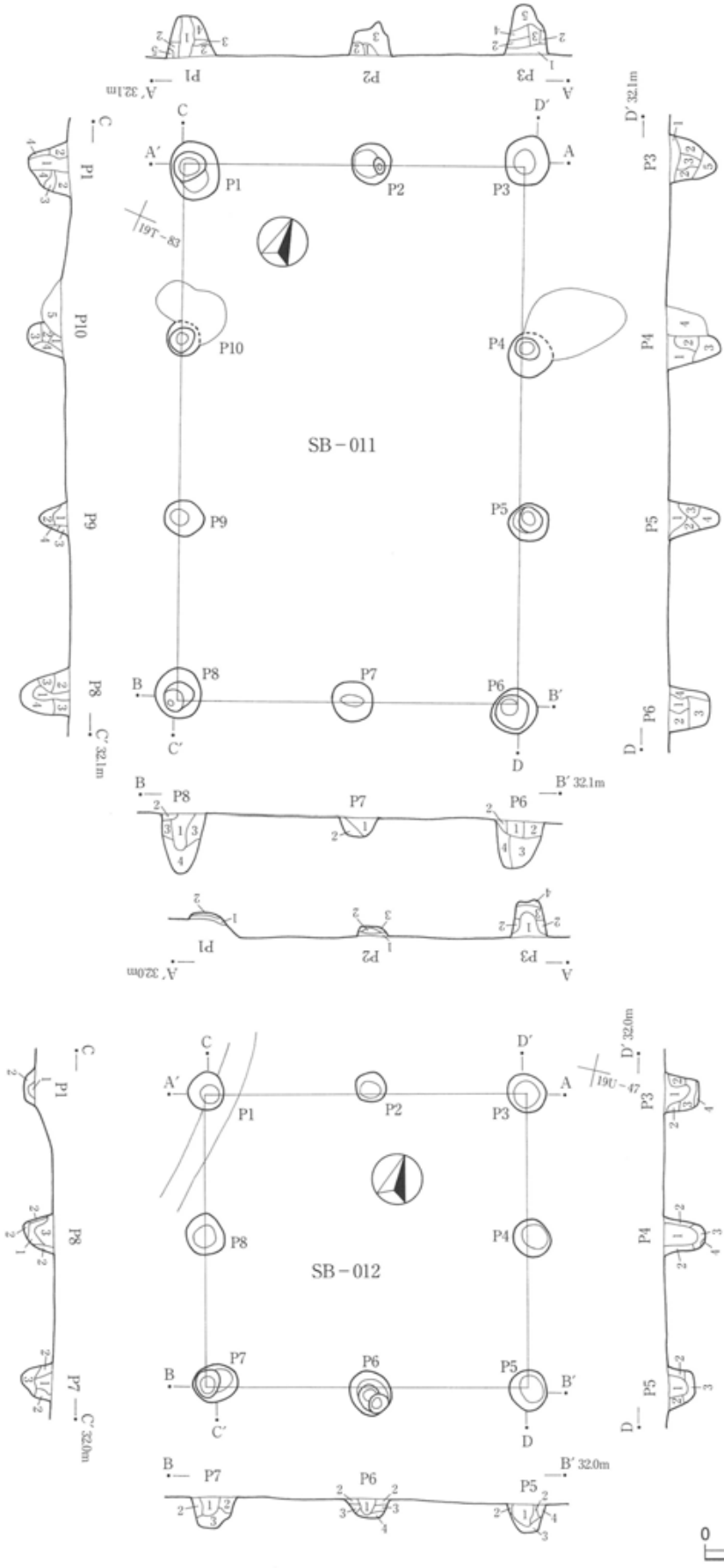


第483図　SB－007(B)・010

柱とみられるＰ９で，50cm前後と全体的に小さい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，全体的に粘性を帯びている。遺物はＰ３～Ｐ７の覆土内から出土したが，図示できたものはない。

SB－011（第484図，図版140）

遺跡南部中央の19T－83区に位置し，SB－027（A）・SB－027（B）の東側に近接する。柱穴の配置がほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，東列の柱穴Ｐ４部分でSB－044と重複する。柱



SB－011土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒多混，柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ローム粒やや多混
5. 黄褐色土　ローム土

P2
1. 黒褐色土　ローム粒多混，柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 褐色土　ローム粒やや多混

P3
1. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混，柱痕
4. 明褐色土　ローム土主体
5. 褐色土　ローム粒やや多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 褐色土　ローム粒やや多混
4. 攪乱

P5
1. 黒褐色土　ローム粒多混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 褐色土　ローム粒やや多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒多混，柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
4. 明褐色土　ローム土

P7
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 明褐色土　ローム土主体

P8
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混

P9
1. 黒褐色土　ローム粒多混，しまりあり
2. 褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　かたいしまり
4. 明褐色土　ローム土

P10
1. 黒褐色土　ローム粒多混，柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 褐色土　ローム粒やや多混
4. 明褐色土　ローム土
5. 攪乱

SB－012土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混，粒子密
2. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒多混，炭化粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
4. 黄褐色土　ローム土

P5
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 攪乱

P6
1. 黒褐色土　ローム粒・炭化物粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 黒褐色土　ローム粒少混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混，粒子密

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混
3. 攪乱

0　(1/80)　4m

第484図　SB－011・012

穴深の平均は遺構確認面から約48cmの深さがあるが，南列中央部のＰ７は最深で24cmと最も浅く，北列中央部のＰ２と西列のＰ９は最深で30cm前後とＰ７に次ぐ浅さである。それ以外の柱穴は60cm前後で深くしっかりしている。径は44cm～76cmでばらつきはあまりない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－012（第484図，図版139）

遺跡南部南寄りの19U－46区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応し，桁行長が梁行長を40cm前後上回る桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡で，東列の柱穴Ｐ３～Ｐ５部分でSB－013と重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約30cmの深さで，全体的にはやや浅めであるが，東列中央部のＰ４は最深で50cmと最も深く，北列西端部のＰ１は最深で12cm前後と最も浅い。径は36cm～56cmで，比較的小さくばらつきはあまりない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ４・Ｐ６の覆土中に若干の炭化物粒がみられる。出土遺物はない。

SB－013（第485図，図版139）

遺跡南部南寄りの19U－47区に位置する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，北列中央部と西端部の柱穴が，竪穴住居跡跡SI－015と重複しており不明である。また，西列の柱穴Ｐ６～Ｐ８部分でSB－012と重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約48cmの深さであるが，各柱穴深は最も深いＰ４で72cm，最も浅いＰ８で24cm，径は最も小さいＰ８で36cm，最も大きいＰ６で72cmと，ともにばらつきがある。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ１の覆土中に若干の炭化物粒がみられる。出土遺物はない。

SB－014（第485図，図版140）

遺跡南部南東寄りの20U－43区に位置し，SB－015の東側とSI－017の北東側にそれぞれ近接する。基本的には桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であるが，西列Ｐ１とＰ９の間の柱穴が見つからなかった。それ以外の部分では柱穴の配置はほぼ正確に対応する。北列の柱穴Ｐ１～Ｐ３から南へ三分の二の範囲でSB－033と重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約48cmの深さがあるが，東列のＰ４は16cmと最も浅く，西列のＰ９は最深で80cmと最も深くばらつきがある。径は44cm～84cmで，西列のＰ９と東列Ｐ５は80cm前後で大きく，残りの柱穴は60cm前後でばらつきはあまりない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，若干の粘性がある。また，Ｐ１以外の柱穴の覆土には焼土粒が含まれている。遺物は一括で取り上げ，図示できたのは須恵器３点のみでいずれも茨城産である。

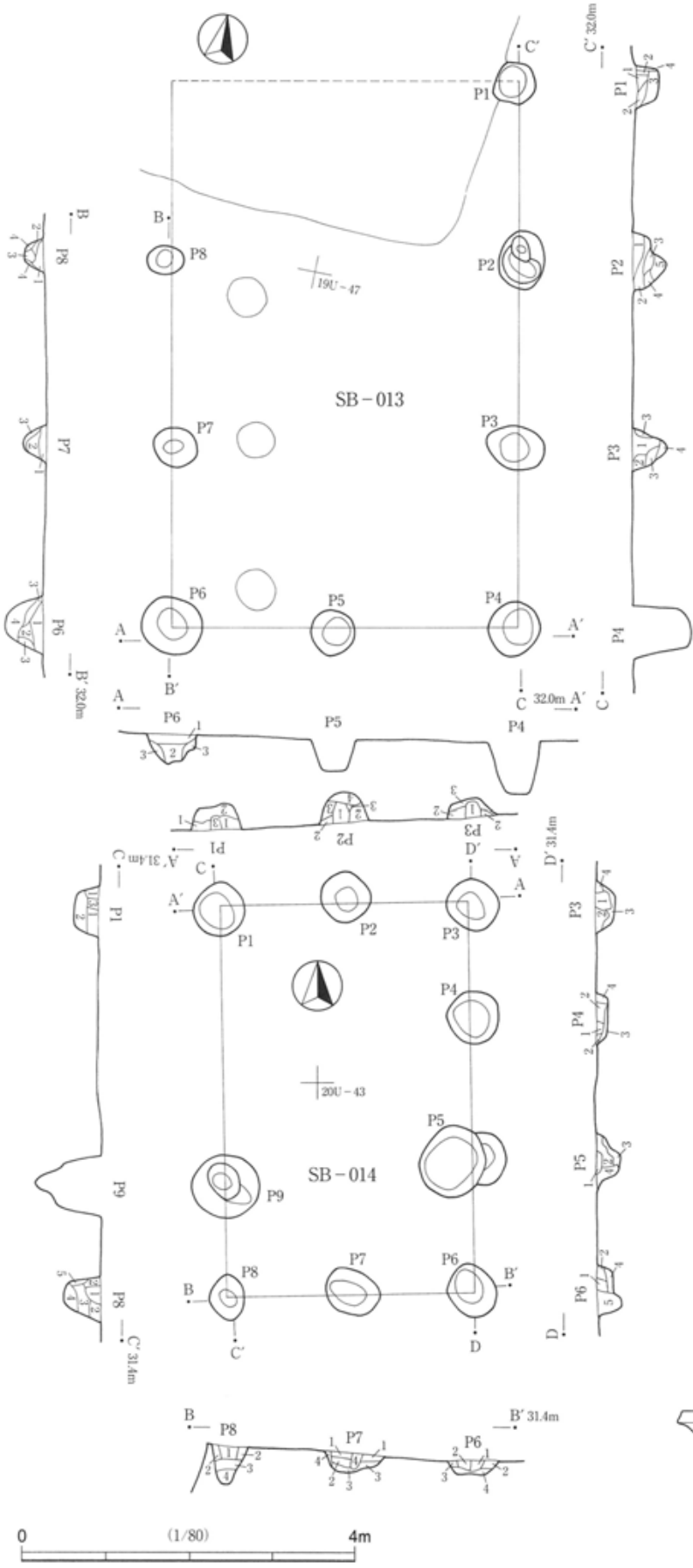
１は須恵器の杯で，復元口径13.1cm，復元底径7.1cm，器高3.7cmを測る。色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は外面には回転ヘラケズリと一部ロクロナデ，内面はロクロナデが施されている。底部外面は磨耗が激しく切り離し技法は不明である。

２は須恵器の高台付杯の底部から高台にかけての破片である。復元底径6.9cmを測り，色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は内外面ともにロクロナデ，底部外面は回転ヘラケズリが施され，切り離し技法は不明である。

３は須恵器の甕の口縁部破片である。復元口径20.6cmを測り，色調は内外面ともににぶい黄褐色を呈し，胎土は粗で焼成は良好である。調整は内外面ともにロクロナデが施される。

SB－015（第486図，図版141）

遺跡南部南東寄りの20U－31区に位置する。SB－014の西側及びSI－016の北東側に近接し，東辺側に庇



SB－013土層

P1
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・炭化粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
4. 褐色土　ロームブロック多混

P2
1. 暗褐色土　ロームブロック多混，粒子密
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ローム粒少混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P3
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック少混

P6
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 撹乱

P7
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混

SB－014土層

P1
1. 暗褐色土　ローム粒・砂粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック多混
3. 撹乱

P2
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い
4. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

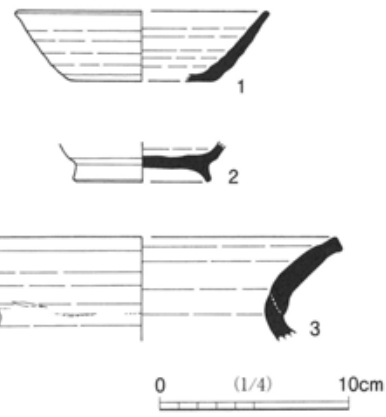
P4
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒・砂粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 撹乱

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混，山砂粒多混
2. 暗褐色土　ロームブロック多混，焼土粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒・山砂粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ローム粒多混

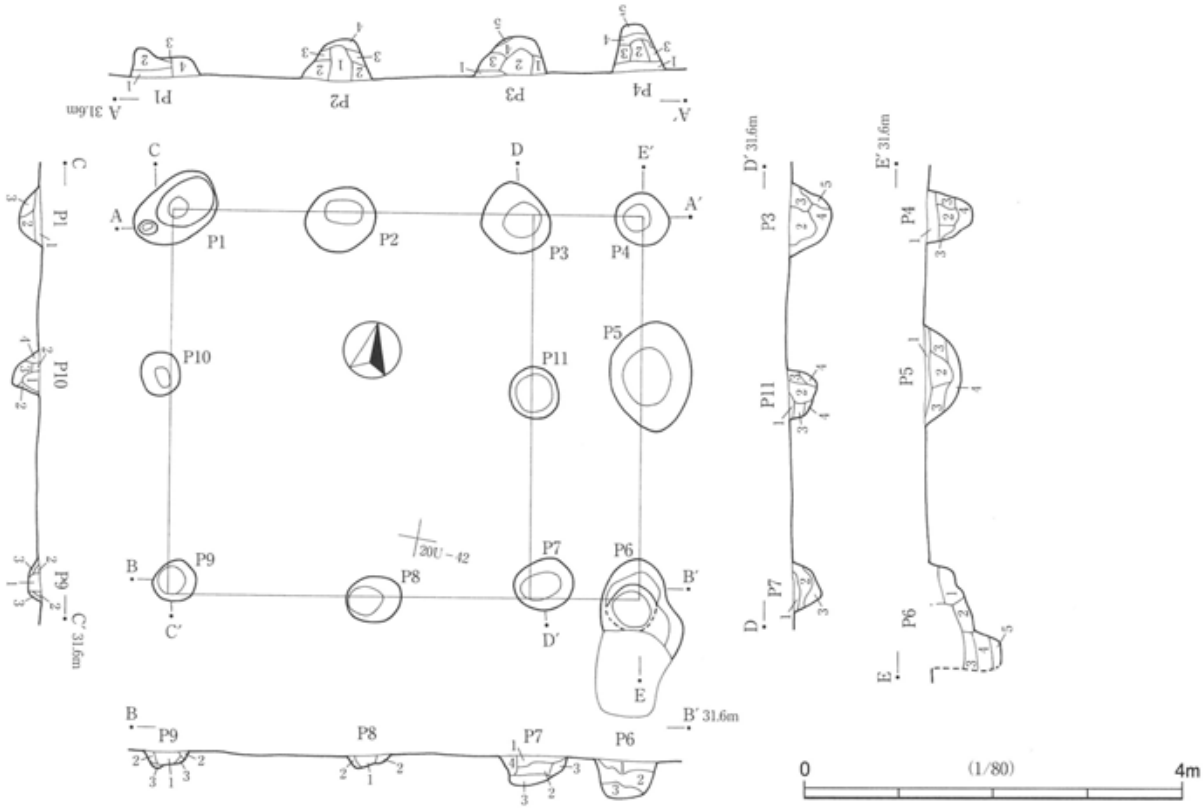
P6
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒・山砂粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 撹乱

P7
1. 暗褐色土　砂粒・焼土粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
4. 撹乱

P8
1. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック少混
5. 撹乱



第485図　SB－013・014



SB－015土層

P1
1．暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2．黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
3．褐色土　ロームブロック多混
4．撹乱

P2
1．黒褐色土　ローム粒多混，焼土粒やや多混
2．黒褐色土　ローム粒・焼土粒多混，粒子密
3．暗褐色土　ロームブロック多混・焼土粒少混
4．暗褐色土　ロームブロック多混

P3
1．暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2．黒褐色土　山砂粒・焼土粒多混
3．黒褐色土　ローム粒多混
4．黒褐色土　焼土粒多混
5．暗褐色土　ロームブロック多混

P4
1．黒褐色土　山砂粒・焼土粒少混
2．黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混，粘性強い
3．黒褐色土　焼土粒やや多混，粒子密
4．黒褐色土　粘性強い
5．暗褐色土　ロームブロック少混

P5
1．黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混，粒子密
2．黒褐色土　焼土粒多混
3．黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4．暗褐色土　ロームブロック少混

P6
1．黒褐色土　ローム粒少混
2．暗褐色土　ローム粒少混
3．黒褐色土　ロームブロック少混
4．黒褐色土　ロームブロック多混
5．黒褐色土　粘性強い

P7
1．黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
2．黒褐色土　ロームブロック少混
3．褐色土　ローム粒多混
4．撹乱

P8
1．黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2．暗褐色土　ローム粒多混，焼土粒やや多混粒子密

P9
1．暗褐色土　焼土粒少混
2．暗褐色土　ロームブロック少混
3．暗褐色土　ロームブロックやや多混

P10
1．黒褐色土　焼土粒・砂粒・炭化物粒やや多混
2．黒褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ローム粒多混
4．暗褐色土　ロームブロックやや多混

P11
1．暗褐色土　ローム粒少混
2．黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混，粒子密
3．暗褐色土　ロームブロック少混，粒子密
4．暗褐色土　ロームブロック多混

第486図　SB－015

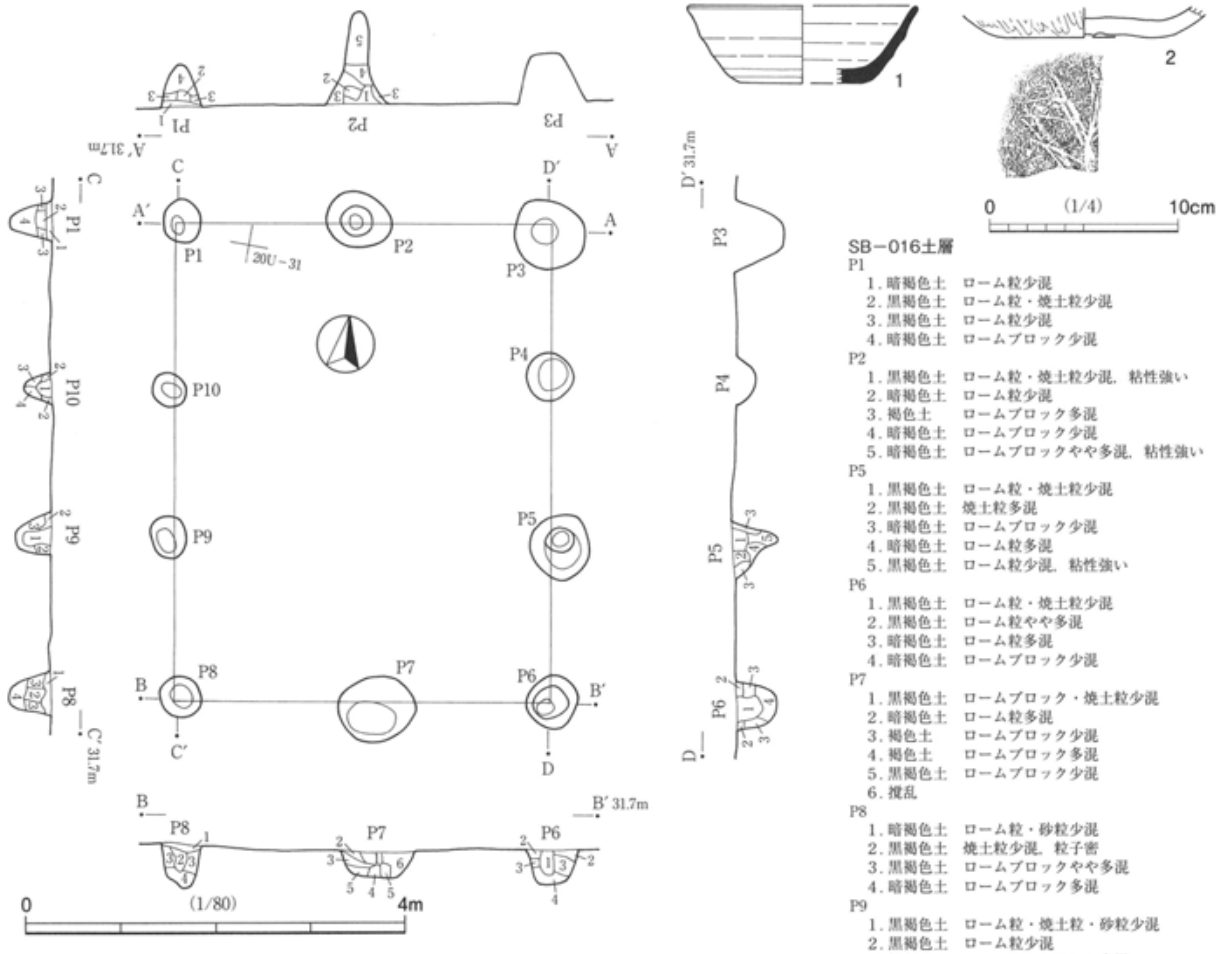
が付く掘立柱建物跡で，身舎は桁行２間×梁行２間で梁行長の方が若干長く，柱穴Ｐ10はやや外側にずれている。庇部の桁行長は約1.2m，梁行２間で梁行長は約4.1mを測る。本遺構は北西部の柱穴Ｐ１・Ｐ２・Ｐ10の部分でSB－016と，また，南東部の柱穴Ｐ５・Ｐ６の部分でSB－033とそれぞれ重複する。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約30cmで比較的浅く，庇部を含めた全体の柱穴深の平均は46cmを測る。南列西隅のＰ９と南列中央のＰ８が16cm前後で最も浅い。径は庇部中央のＰ５で115cmと最も大きく，身舎部西列中央のＰ10で40cmと最も小さい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ６・Ｐ７を除くその他の柱穴には焼土粒が混入している。遺物は一括で取り上げたが図示できたものはない。

SB－016（第487図，図版141）

遺跡南部南東寄りの20U－31区に位置し，SI－029の南側，SI－016の北側に近接する。柱穴の配置がほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，南東側の柱穴Ｐ５～Ｐ７の部分でSB－015と重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約60cmの深さがあるが，東列のＰ４は最深で24cmと最も浅く，北列中央部のＰ２は最深で96cmと最も深く全体的にばらつきがある。径は全体的に見ると西列側が小さく40cm前後，東列側が大きく80cm前後で若干のばらつきがある。覆土はローム粒とロームブロック及び焼土粒がいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ１～Ｐ３及びＰ７～Ｐ10の覆土中から出土したが，図示できたのは２点のみである。

１は茨城産の須恵器の杯でＰ８の覆土一括出土である。復元口径11.9cm，復元底径6.6cm，器高4.1cmを測る。色調は内外面ともに赤灰色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は外面には回転ヘラケズリと一部ロクロナデ，内面はロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は不明である。

２は土師器の常総甕の底部片でＰ９の覆土一括出土である。復元底径9.4cmを測り，色調は内面が黒褐色で外面がにぶい赤褐色を呈し，胎土は多量の砂粒を含み粗で焼成は良好である。調整は内外面ともにヘ



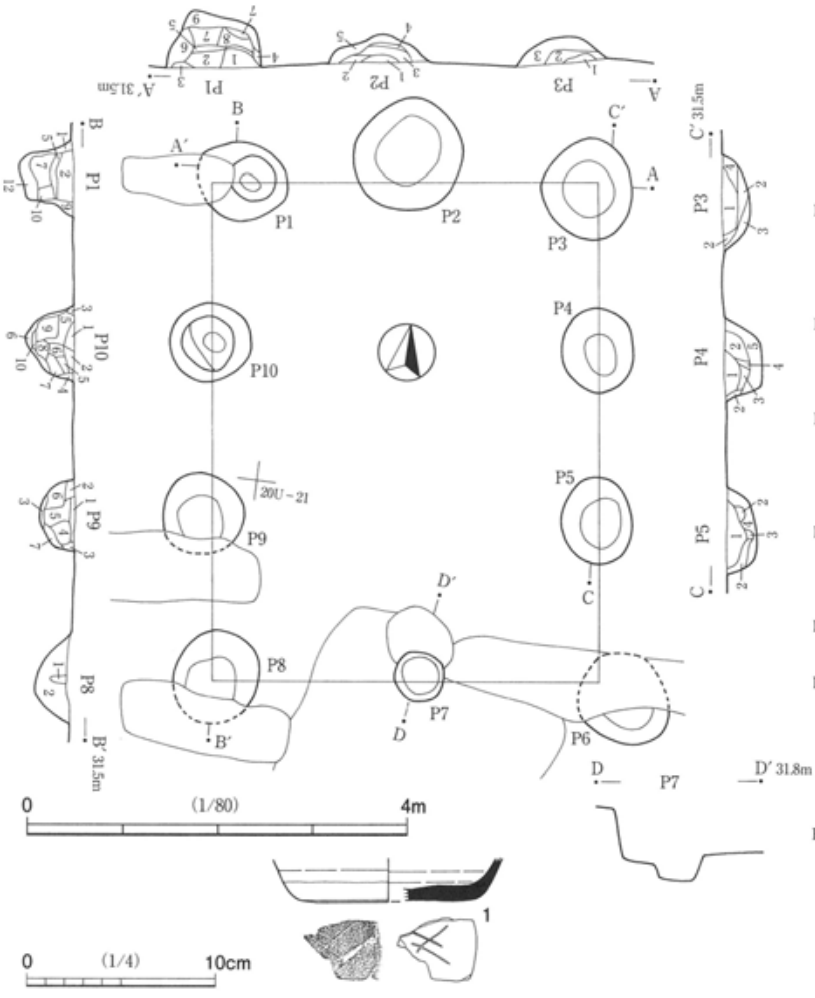
第487図　SB－016

ラナデが施され，底部外面には木葉痕が見られる。

SB－017（第488図，図版140・299）

遺跡南部南東寄りの20U－21区に位置し，SI－016の北側，SI－019の西側に近接する。柱穴の配置が若干ずれる箇所もあるが桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，東列のＰ３～Ｐ６の部分でSB－034と，また，南列中央のＰ７の部分でSI－029とそれぞれ重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約48cmの深さがあるが，北列中央部のＰ２は最深で28cmと最も浅く，北列西端部のＰ１は最深で68cmと最も深く全体的に若干のばらつきがある。径は全体的に見ると１ｍ前後で大きくあまりばらつきは見られない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，Ｐ９とＰ10には若干の焼土粒が混入している。遺物はＰ７を除くすべての柱穴の覆土中から出土したが，図示できたのは１点のみである。

１は須恵器の杯の底部片でＰ７の覆土一括出土である。復元底径9.2cmを測り，色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は外面には回転ヘラケズリと一部ロクロナデ，内面はロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は不明で焼成後に施された線刻が見られる。



SB－017土層

P1
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混
6. 暗褐色土　ローム粒・砂質土やや多混
7. 暗灰褐色土　褐色土やや多混，粘性あり
8. 黄褐色土　ローム土
9. 暗黄褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土主体
10. 暗褐色土　ローム粒やや多混
11. 黄褐色土　ローム土主体
12. 暗褐色土　しまりあり

P2
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混
5. 黄褐色土　ローム土

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 黄褐色土　ローム土
4. 暗褐色土　褐色土やや多混，砂質

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　褐色土やや多混，砂質
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗黄褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土主体
5. 黄褐色土　ローム土主体

P5
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗黄褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土主体
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 黄褐色土　ローム土主体

P8
1. 黒褐色土　ロームブロック多混
2. 黄褐色土　ローム土主体

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　褐色土やや多混，砂質
3. 暗黄褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土主体
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 黒褐色土　褐色土やや多混，焼土粒少混
6. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
7. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P10
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗黄褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土主体
5. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
6. 黄褐色土　ローム土主体
7. 暗褐色土　ローム粒多混
8. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
9. 黒褐色土　褐色土やや多混，焼土粒少混
10. 暗褐色土　ローム粒多混

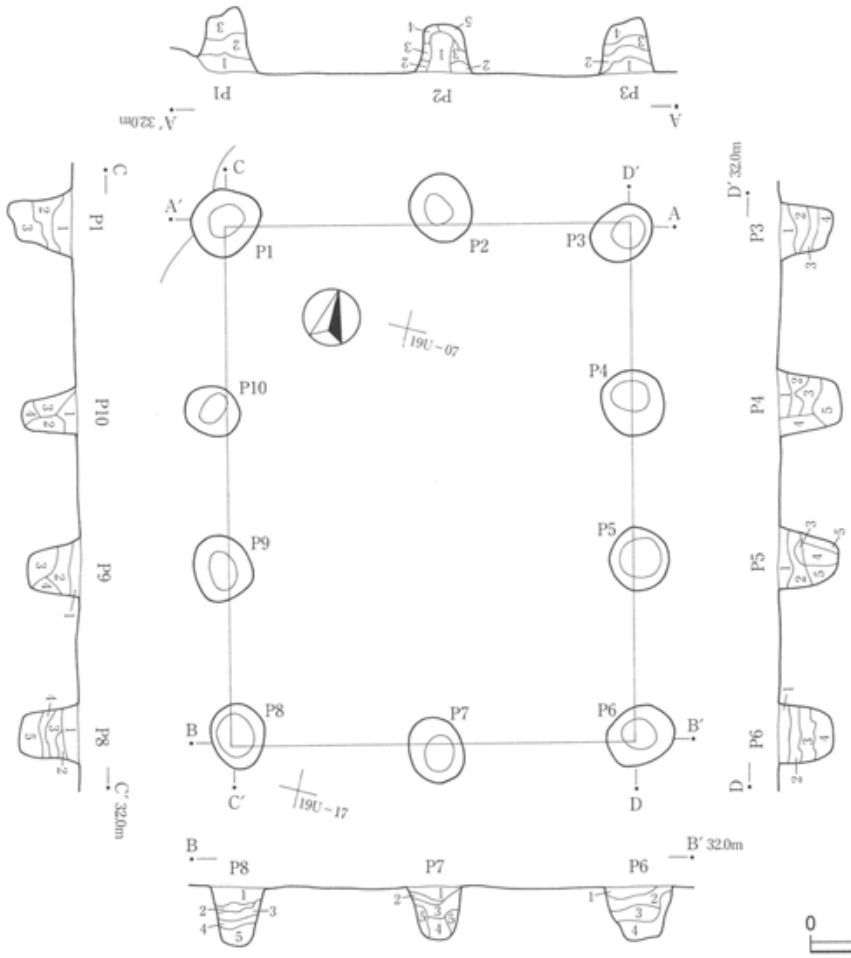
第488図　SB－017

SB－018（第489図，図版140）

遺跡南部南寄りの19U－07区に位置し，SB－020の西側に近接する。柱穴の配置がほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，北列西隅のＰ１の部分でSB－028と重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約62cmの深さでしっかりしており，それぞれの柱穴の深さのばらつきはほとんど見られない。径は全体的に見ると60cm前後であまりばらつきは見られない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－019（第490・491図，図版140・299）

遺跡南部南寄りの19U－18区に位置し，SI－018の南東側に近接する。南北両辺に庇が付く掘立柱建物跡で，身舎は桁行３間×梁行２間で，すべての柱穴の配置はほぼ正確に対応している。北庇部の桁行長は約1.7m，梁行２間で梁行長は約4.3mを測り，南庇部の桁行長は約1.9m，梁行２間で梁行長は約4.3mを測る。また，全体では桁行５間×梁行２間で桁行長は約8.2m，梁行長は約4.3mを測る。本遺構は北庇部分の柱穴Ｐ11～Ｐ13と身舎北列部分の柱穴Ｐ１～Ｐ３の部分でSB－020と重複する。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約68cmで比較的深く，南北両庇部を含めた全体の柱穴深の平均も約68cmと同様の深さ



SB－018土層

P1
1．黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
2．暗褐色土　ロームブロック少混
3．暗褐色土　ロームブロックやや多混

P2
1．黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ローム粒多混
4．黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
5．褐色土　ロームブロックやや多混

P3
1．暗褐色土　ローム粒少混
2．黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
3．暗褐色土　砂粒多混
4．暗褐色土　ロームブロック・砂粒少混

P4
1．黒褐色土　ローム粒やや多混
2．暗褐色土　ローム粒・砂粒少混，粒子密
3．暗褐色土　ロームブロック・砂粒少混
4．暗褐色土　ロームブロック多混
5．暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P5
1．暗褐色土　ローム粒・砂粒少混
2．黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
3．黒褐色土　ロームブロック多混
4．暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い
5．褐色土　ロームブロック多混

P6
1．暗褐色土　ロームブロック多混
2．暗褐色土　ローム粒やや多混，粒子密
3．黒褐色土　ローム粒多混，粒子密
4．暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P7
1．暗褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．黒褐色土　ローム粒多混
4．暗褐色土　ローム粒多混
5．褐色土　ロームブロック多混

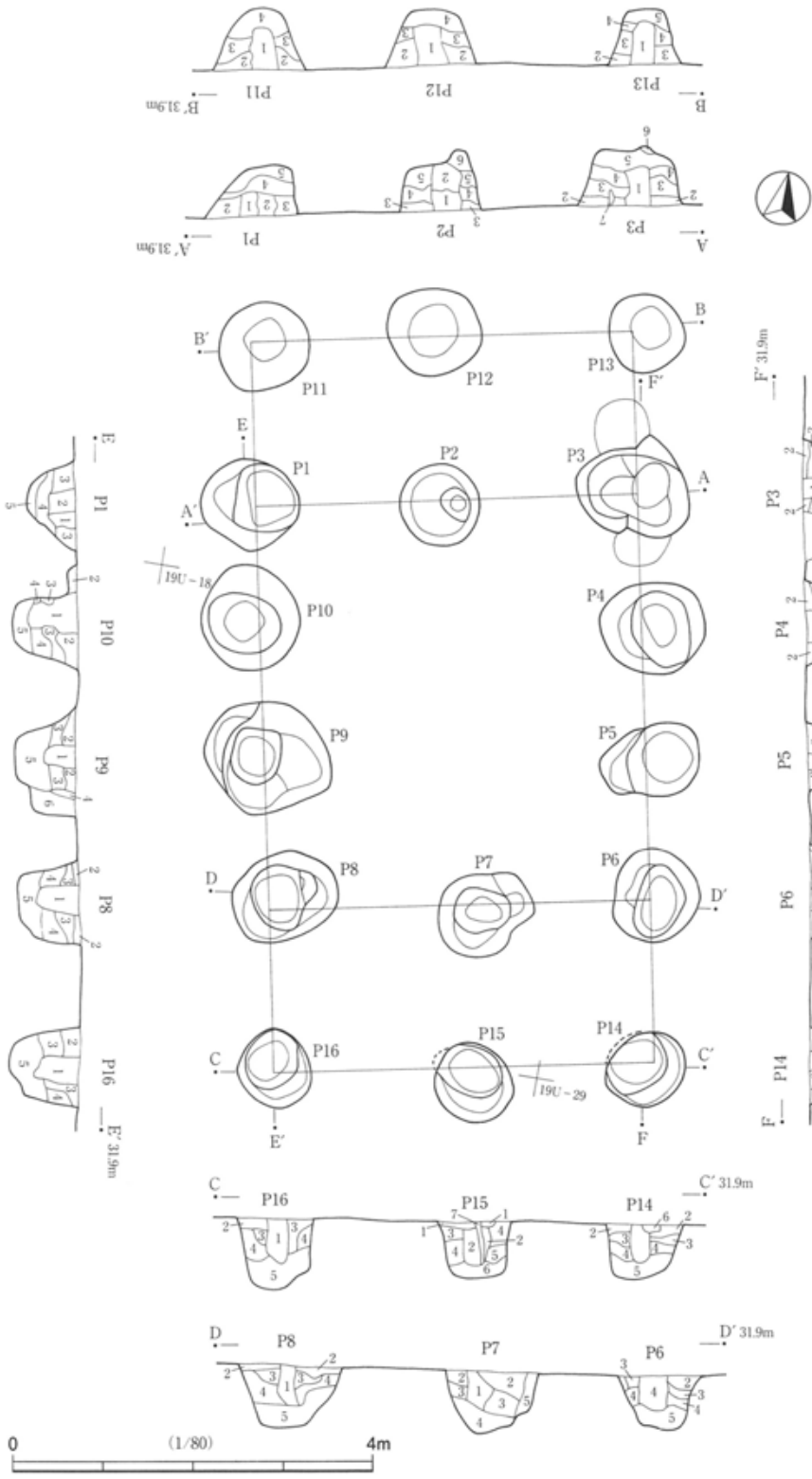
P8
1．暗褐色土　ロームブロックやや多混
2．黒褐色土　ロームブロックやや多混
3．褐色土　黒色土多混
4．黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
5．暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P9
1．暗褐色土　ローム粒多混
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．暗褐色土　ロームブロックやや多混
4．攪乱

P10
1．黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混，粒子密
2．黒褐色土　ローム粒少混
3．暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
4．暗褐色土　ロームブロックやや多混

0　(1/80)　4m

第489図　SB－018



SB－019土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粒子密
5. 黒褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒・炭化物粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 暗褐色土　ローム粒多混，粒子密

P3
1. 黒褐色土　ローム粒多混，粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒・砂粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混，ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混，粘性強い
6. 黒褐色土　ローム粒少混，かたいしまり
7. 攪乱

P4
1. 黒褐色土　ロームブロック少混
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混、粘性強い

P5
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
5. 褐色土　ロームブロック多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒多混
2. 黒褐色土　砂粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混，ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ロームブロック混・炭化物少混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混，粘性強い
6. 暗褐色土　小ロームブロック多混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
2. 黒褐色土　砂粒・焼土粒多混，ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混，粘性強い
5. 攪乱

P8
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・炭化物粒・砂粒少混，粒子密
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ローム粒多混，粒子密
5. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い

P9
1. 黒褐色土　砂粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混・焼土粒少混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
6. 攪乱

P10
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混，粒子密
2. 黒褐色土　ローム粒・炭化物粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ローム粒少混
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P11
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

P12
1. 暗褐色土　ローム粒・炭化物粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混，粘性強い

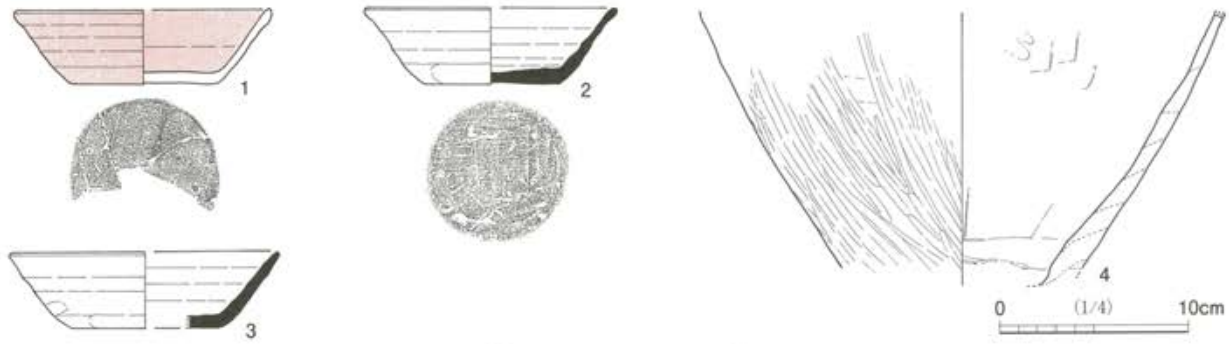
P13
1. 黒褐色土　ロームブロック少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粒子密

P14
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　黒色土・ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混・ロームブロック少混，粘性強い
6. 攪乱

P15
1. 暗褐色土　ローム粒・砂粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混・ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混，粒子密
5. 黒褐色土　ローム粒多混
6. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
7. 攪乱

P16
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混
5. 黒褐色土　粘性強い

第490図　SB－019（1）



第491図　SB－019（2）

を測り，すべての柱穴の深さは大きなばらつきは見られずしっかりしている。径は南北両庇部のＰ11～Ｐ16で平均約90cm，身舎部のＰ１～Ｐ10で平均約114cmと身舎部の柱穴径の方が若干大きい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，焼土粒及び炭化物粒を混入する柱穴も多い。遺物はすべての柱穴の覆土中から出土したが，図示できたのは４点のみである。

１は土師器の杯でＰ１の覆土一括出土である。復元口径13.2cm，復元底径7.7cm，器高3.9cmを測り，色調は内面がにぶい赤褐色で外面が赤色を呈し，内外全面に赤彩が施されている。胎土は密で焼成は良好である。調整は外面には底部周縁部に回転ヘラケズリ，体部にロクロナデ，内面には全面ロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は不明である。

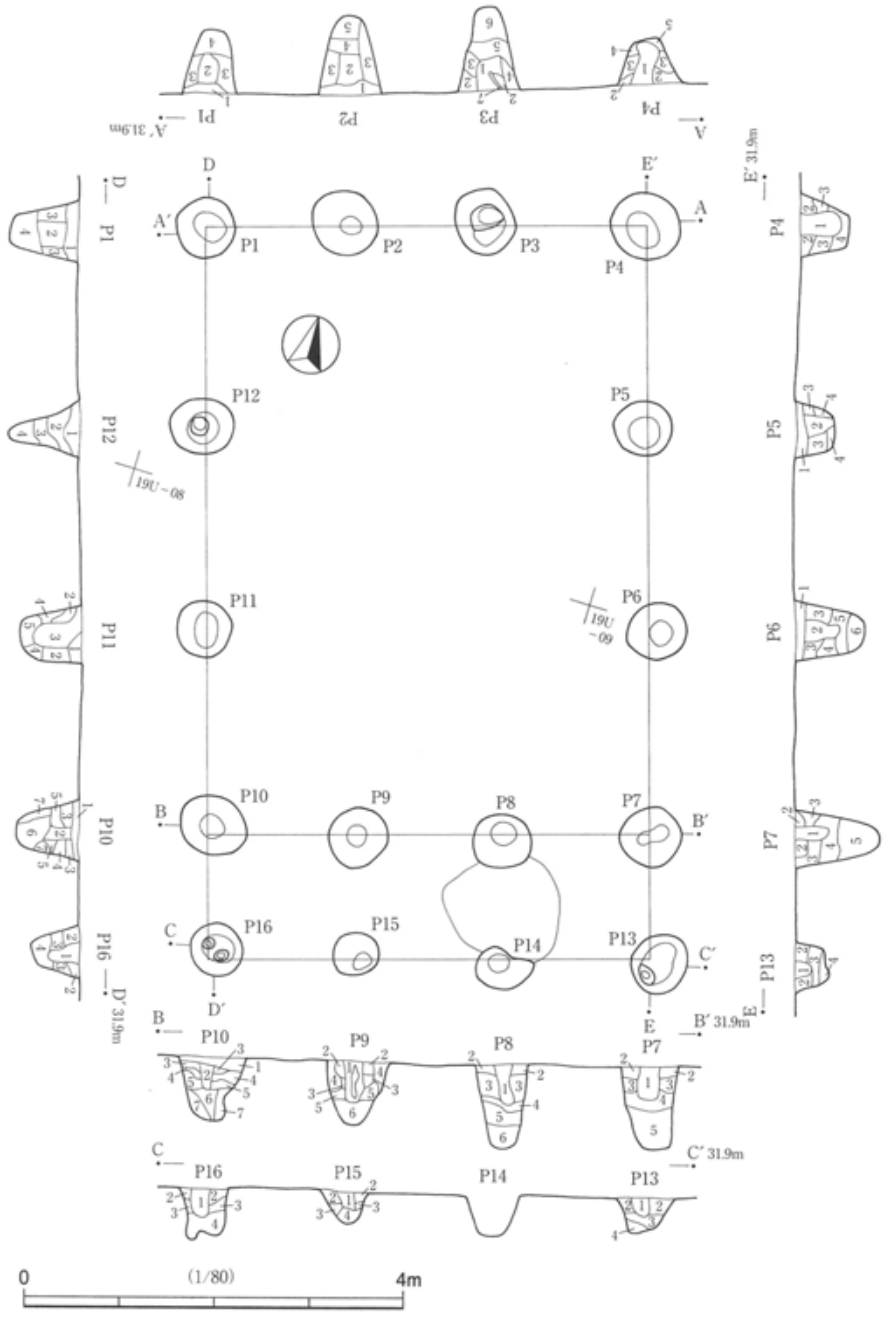
２は茨城産の須恵器の杯でＰ４の覆土一括出土である。復元口径13.0cm，底径7.2cm，器高4.0cmを測り，色調は内面が灰褐色で外面が赤灰色を呈し，胎土は石英・長石・雲母が多量に含まれ粗で焼成は良好である。調整は外面には底部周縁部に回転ヘラケズリ，体部にロクロナデ，内面には全面ロクロナデが施されている。底部外面は回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリが全面に施されている。

３は茨城産の須恵器の杯でＰ７の覆土一括出土で，３点が接合したものである。復元口径14.0cm，復元底径7.8cm，器高4.0cmを測り，色調は内外面ともに赤灰色を呈し，胎土は石英・長石・雲母・砂粒が多量に含まれ粗で焼成は良好である。調整は内外面ともに磨耗が激しく不明瞭であるが，外面には底部周縁部にヘラケズリ，体部にロクロナデ，内面には全面ロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は不明である。

４は土師器の常総甕の胴部片でＰ５の覆土一括出土１点とＰ６の覆土一括出土４点が接合したものである。色調は内面がにぶい赤褐色で外面がにぶい褐色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は外面上部でヘラナデ，下部でヘラ磨きが施され，内面にはヘラナデとナデが施されている。

SB－020（第492図，図版140）

遺跡南部南寄りの19U－08区に位置する。SB－018の東側及びSB－035の南西側に近接し，南辺側に庇が付く掘立柱建物跡で，身舎は桁行３間×梁行３間で，すべての柱穴の配置はほぼ正確に対応している。柱間寸法は桁行方向で約2.2m，梁行方向で約1.5mを測り，桁行方向の柱間寸法が大きく上回っている。庇部の桁行長は約1.3m，梁行３間で梁行長は約4.7mを測る。本遺構は南側の庇部分の柱穴Ｐ７～Ｐ10・Ｐ13～Ｐ16の部分でSB－019と重複する。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約66cm，庇部の柱穴深の平均は約42cmを測り，全体的に身舎部分の柱穴の方が深くしっかりしている。径は庇部中央のＰ14・Ｐ15で48cm前後と小さく，身舎部を含めたそれ以外の柱穴では68cm前後とやや大きく，大きさのばらつき



SB－020土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　粘性強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混，粒子密
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混，粘性強い
5. 黒褐色土　粘性強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混，山砂粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ローム粒少混
6. 黒褐色土　粘性強い
7. 撹乱

P4
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
5. 褐色土　ロームブロック多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒・山砂粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 黒褐色土　粘性強い・粒子密
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 黒褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり

P7
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

P8
1. 黒褐色土　ロームブロック少混
2. 黒褐色土　ローム粒・炭化物粒・砂粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ローム粒少混、粘性強い
6. 褐色土　ロームブロック少混、粘性強い

P9
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
6. 暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い

P10
1. 暗褐色土　ローム粒・砂粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混，粘性強い
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ローム粒多混
5. 暗褐色土　ロームブロック少混
6. 暗褐色土　ロームブロック・粘土ブロック少混
7. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P11
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，粒子密
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P12
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 黒褐色土　ロームブロック多混

P13
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混

P15
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混

P16
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混

第492図　SB－020

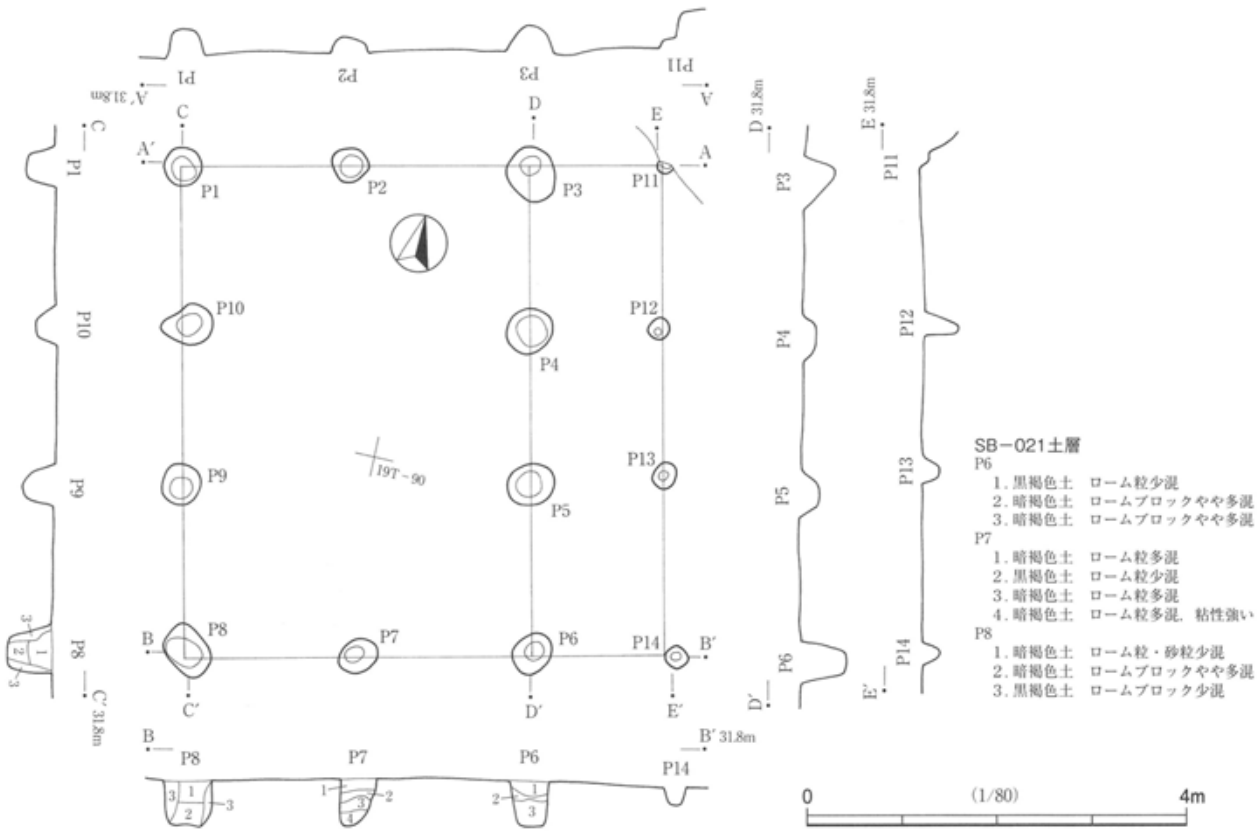
は見られない。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，全体的に粒子が密で若干の粘性を帯びるものが多い。遺物はＰ16を除くすべての柱穴の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－021（第493図，図版141）

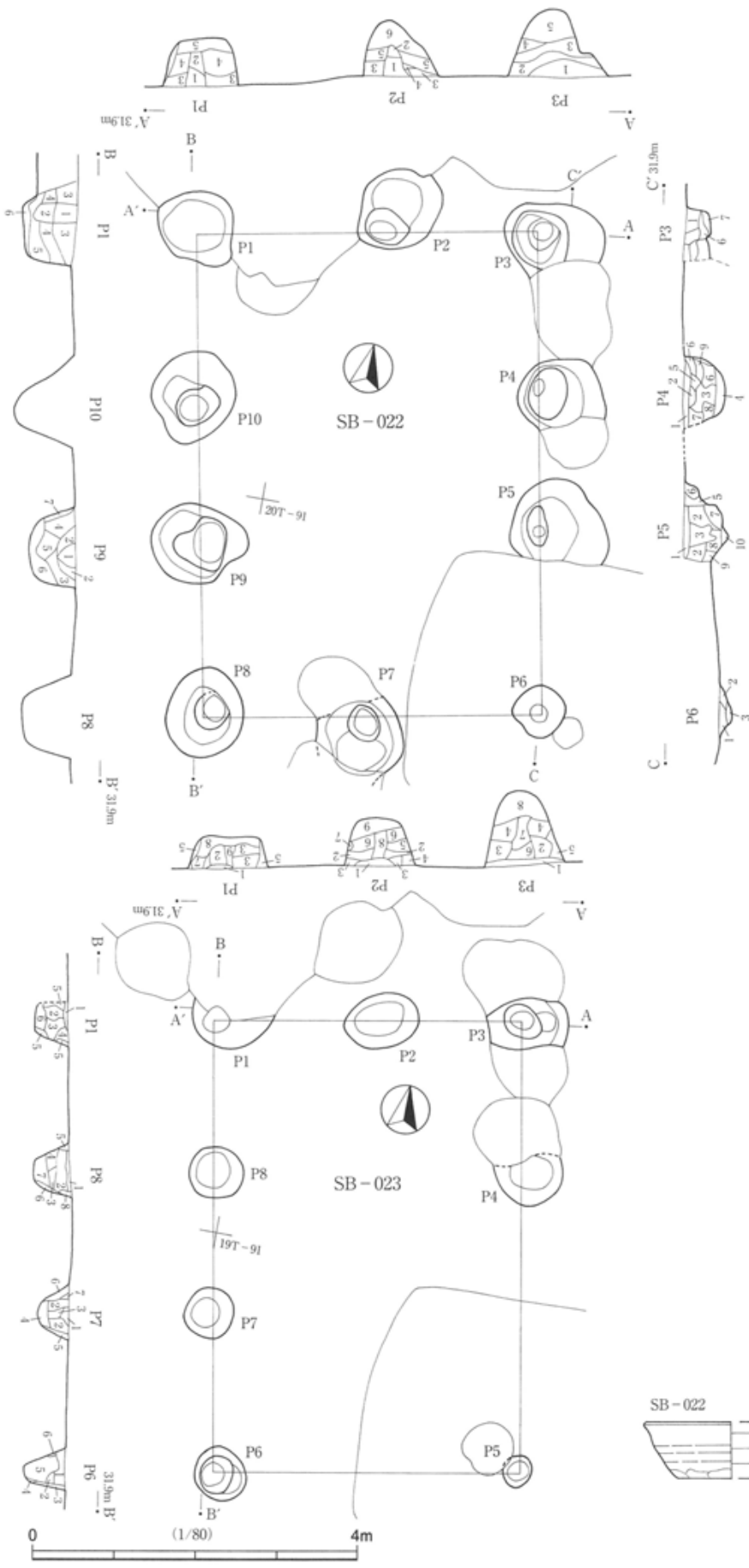
遺跡南部中央の19T－90区に位置する。SB－022・SB－023の西側に近接し，東辺側に庇が付く掘立柱建物跡で，身舎は桁行３間×梁行２間で庇は梁行方向に伸びており，すべての柱穴の配置はほぼ正確に対応している。庇部は桁行３間で桁行長は約5.2m，梁行長は約1.4mを測る。本遺構は北西側の柱穴Ｐ１・Ｐ２・Ｐ10の部分でSB－035と，南側の柱穴Ｐ７・Ｐ８の部分でSI－020と，また，庇部北端の柱穴Ｐ11の部分でSI－027とそれぞれ重複する。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約34cm，庇部の柱穴深の平均は約22cmを測り，全体的に身舎部分の柱穴の方がやや深い。径は庇部のすべての柱穴で20cm前後と極端に小さく，身舎部の柱穴では36cm～60cm前後と大きさのばらつきが若干見られる。柱穴覆土はＰ６～Ｐ８でしか観察できなかったが，ローム粒とロームブロックが主体に混入している。出土遺物はない。

SB－022（第494図，図版141）

遺跡南部東寄りの20T－81区に位置し，SB－021の東側に近接する。柱穴の配置がほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，SB－023・SB－024とほぼ全面で重複する。また，北列の柱穴Ｐ１・Ｐ２の部分でSI－027，南東部の柱穴Ｐ５～Ｐ７の部分でSI－024とそれぞれ重複する。竪穴住居跡跡と重複するＰ６を除いた柱穴深の平均は遺構確認面から約80cmの深さでしっかりしており，それぞれの柱穴の深さのばらつきはあまり見られない。径は１mを超え全体的に見ると大きく，あまりばらつきは見られない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入し，全体的にしまりがあり粘性も強



第493図　SB－021



SB－022土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒混，しまりあり，粘性あり
2. 黒褐色土　ローム粒混，しまりあり，粘性あり
3. 明褐色土　焼土・炭化物少混，しまりあり
4. 褐色土　ローム粒混，しまりあり，粘性あり
5. 褐色土　ローム粒多混，しまりあり，粘性なし

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
2. 黒褐色　土粘性あり
3. 褐色土　ローム粒少混，しまりあり
4. 褐色土　砂多混，しまりあり，粘性あり
5. 褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，粘性あり
6. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり，粘性なし
2. 褐色土　ローム粒混，しまりあり，粘性なし
3. 褐色土　しまりあり，粘性なし
4. 黄褐色土　ローム土
5. 明褐色土　しまりあり，粘性なし
6. 黒褐色土　砂質土小混
7. 黒褐色土　ハードロームブロック小混，しまりあり

P4
1. 黒褐色土　ロームブロック混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　砂質土やや多混，ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロック混，しまりあり
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
6. 暗褐色土　ロームブロック水玉状に含
7. 黒褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土混
8. 黒褐色土　淡青白色砂質土・ローム粒やや多混
9. 黒褐色土　ソフトローム多混，ハードロームブロック混

P5
1. 黒褐色土　ハードロームブロック混
2. 黒褐色土　ハードロームブロック水玉状に混
3. 黒褐色土　砂質，ローム・ハードロームブロック粒混
5. 黒褐色土　ローム粒多混・砂質土
6. 暗褐色土　ローム土多混・ハードローム混
7. 黒褐色土　ロームブロック小混
8. 黒褐色土　ローム粒・砂質土混
9. 暗褐色土　ロームブロック縞状に含
10. 黒褐色土　ローム粒混，砂質

P6
1. 黒褐色土　ローム粒混，砂質
2. 黒褐色土　ローム粒混，ハードロームブロック
3. 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒混

P9
1. 褐色土　ローム粒混，粘性あり，しまりややなし
2. 褐色土　ロームブロック混，しまりあり
3. 褐色土　ローム粒少混，しまりあり
4. 明褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
5. 明褐色土　ロームブロック少混，しまりあり
6. 褐色土　ローム粒混，しまりあり，粘性あり
7. 黄褐色土　ローム層

SB－023土層

P1
1. 黒褐色土　ローム土小混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒縞状に混，ハードローム粒水玉状に混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. ハードローム主体
6. 暗褐色土　ハードローム混，しまりあり
7. 黒褐色土　褐色土多混，ハードローム粒混
8. 暗褐色土　ローム粒混，しまりあり
9. 暗褐色土　ローム粒やや多混

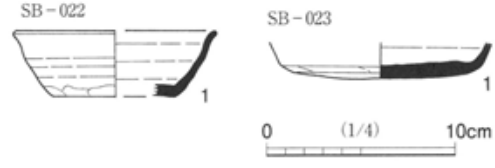
P2
1. 黒褐色土　ハードローム粒混，ソフトローム水玉状・縞状に混
2. 黒褐色土　褐色土縞状に混
3. 黒褐色土　ハードローム粒混，ソフトローム混
4. ソフトローム・ハードローム
5. 黒褐色土　ハードロームブロック粒多混
6. 暗褐色土　ローム粒縞状に混，ハードローム水玉状に混
7. 暗褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック多混
8. 黒褐色土　ローム粒小混，褐色土水玉状に混
9. 暗褐色土　ローム層，しまり強い

P3
1. 暗褐色土　ハードロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ソフトローム多混，ハードローム粒混
4. 黒褐色土　ローム土・ハードロームブロックがモザイク状に混
5. ソフトローム主体　黒褐色土縞状に混
6. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
7. 黒褐色土　ロームブロック多混，砂質，しまり弱い
8. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり

P6
1. 黒褐色土　ハードローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 明褐色土　ソフトローム粒多混
4. 明褐色土　ローム粒混
5. 黒褐色土　ローム粒混，しまりあり
6. ハードロームブロック主体

P7
1. 暗褐色土　ローム土混，焼土粒小混
2. 黒褐色土　褐色土縞状に混
3. 黒褐色土　ローム粒混，褐色土水玉状に混
4. 暗褐色土　ローム層，しまり強い
5. ハードロームブロック主体
6. ソフトローム＋ハードロームブロック
7. 攪乱

P8
1. 黒褐色土　ローム土小混
2. 黒褐色土　褐色土縞状に混
3. 黒褐色土　ローム粒混
4. 暗褐色土　ローム土縞状に混，ハードローム粒水玉状に混
5. ソフトローム主体
6. ハードロームブロック主体
7. 暗褐色土　ローム主体，しまり強い
8. ソフトローム主体



第494図　SB－022・023

い。遺物は柱穴Ｐ１～Ｐ４・Ｐ７・Ｐ８・Ｐ10の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものは１点のみである。

１は茨城産の須恵器の杯でＰ７の覆土一括出土である。復元口径10.5cm，復元底径6.5cm，器高3.4cmを測り，色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は雲母が少量含まれるが密で焼成は良好である。調整は外面には底部周縁部に手持ちヘラケズリ，体部にロクロナデ，内面には全面ロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は不明である。

SB－023（第494図，図版141）

遺跡南部東寄りの19T－81区に位置し，SB－021の東側に近接する。柱穴の配置から桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡と思われるが，本遺構南東部でSI－024と重複しているため柱穴２基を確認できなかったが，その他の柱穴はほぼ正確に対応する。そのほかにはSB－022・SB－024とほぼ全面的に，また，北列の柱穴Ｐ１の部分でSI－027とそれぞれ重複する。検出できた柱穴深の平均は遺構確認面から約64cmの深さでしっかりしており，それぞれの柱穴の深さのばらつきは激しい。竪穴住居跡跡の床面で検出されたＰ５を除いた径の平均は約68cmであまりばらつきは見られない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入し，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ７の覆土には若干の焼土粒が混入している。遺物は柱穴Ｐ１～Ｐ３・Ｐ６～Ｐ８の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものは１点のみである。

１は須恵器の杯の底部片でＰ６の覆土一括出土である。復元底径9.2cmを測り，色調は内外面ともに赤灰色を呈し，胎土は白色針状物質が微量に含まれるが密で焼成は良好である。調整は外面には底部周縁部に手持ちヘラケズリ，体部にロクロナデ，内面には全面ロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は不明である。

SB－024（第495図，図版141）

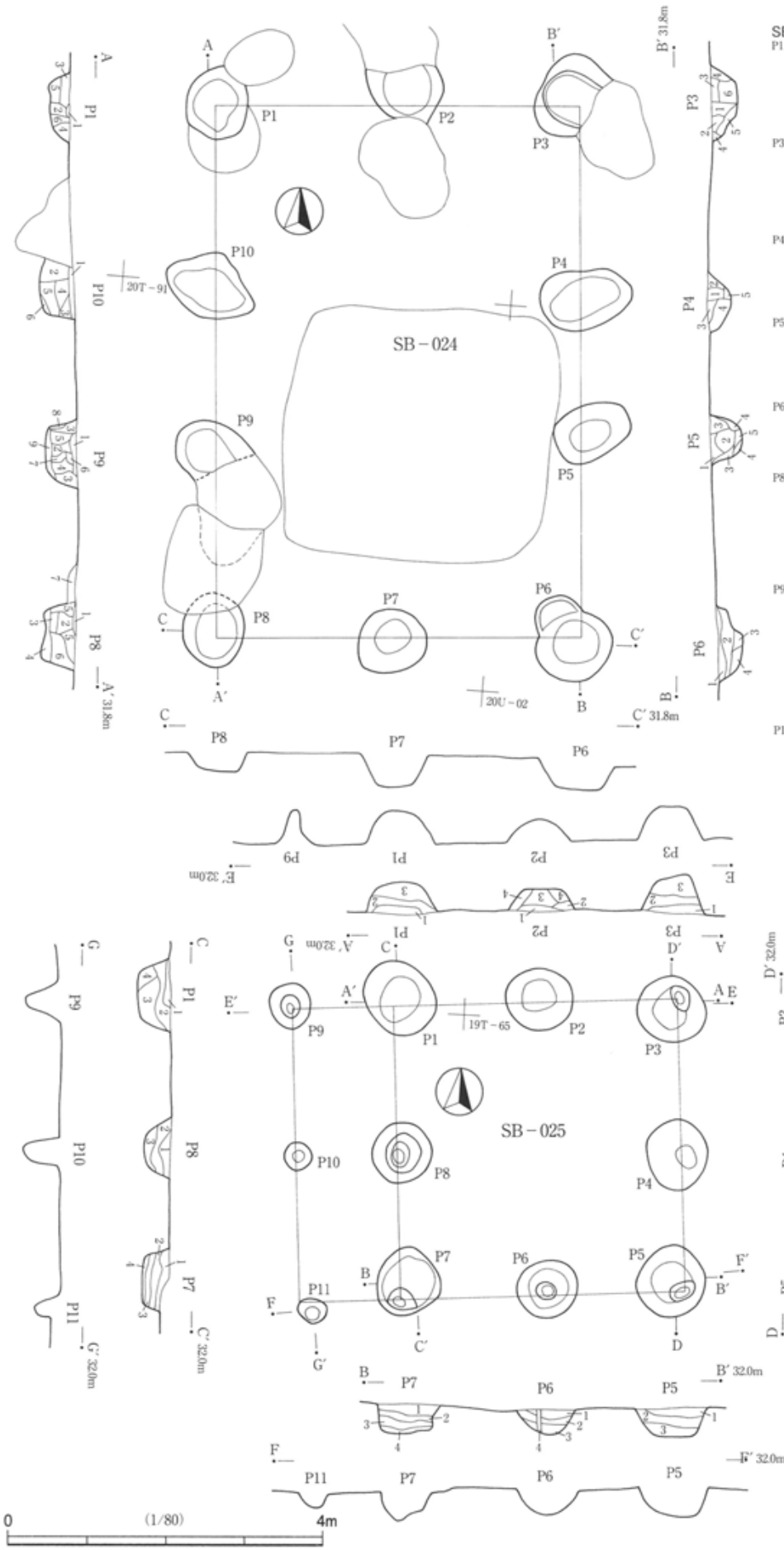
遺跡南部東寄りの20T－91区に位置し，SB－021の東側に近接する。柱穴の配置がほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，SB－022・SB－023・SI－024とほぼ全面で重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約36cmの深さで全体的に浅く，それぞれの柱穴の深さのばらつきはあまり見られない。径は最大で128cm，最小で68cmを測り，ばらつきがある。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入し，Ｐ１・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ９・Ｐ10の覆土には若干の焼土粒が混入している。遺物はすべての柱穴覆土内から少量出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－025（第495図，図版141）

遺跡南部中央の19T－65区に位置する。SB－043・SB－044の北側に近接し，西辺側に庇が付く掘立柱建物跡で，身舎は桁行２間×梁行２間で梁行長の方が若干長く，柱穴の配置はほぼ正確に対応する。庇部の桁行長は約1.3m，梁行２間で梁行長は約3.8mを測る。本遺構は南西部の柱穴Ｐ７・Ｐ８・Ｐ10・Ｐ11の部分でSI－008と，また，南側半分の柱穴Ｐ５～Ｐ８・Ｐ10の部分でSB－026とそれぞれ重複する。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約40cmで比較的浅く，庇部のみの柱穴深の平均は約40cmで身舎部分の柱穴深とほぼ同一である。径は全体的に見ると庇部が小さく，身舎部が大きい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－026（第496図，図版141）

遺跡南部中央の19T－65区に位置する。SB－043・SB－044の北側に近接する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡で，西列の柱穴Ｐ７・Ｐ８の部分でSI－008と，また，北側半分の柱穴Ｐ１～Ｐ４・Ｐ８の部



SB－024土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混
6. 黒褐色土　ローム粒多混，焼土粒少混

P3
1. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
2. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
6. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質

P4
1. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混，焼土粒少混，砂質
4. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
5. 暗褐色土　ロームブロック多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混砂質

P6
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混，砂質
2. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　暗褐色土やや多混，ロームブロック主体

P8
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
3. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
4. 黒褐色土　暗褐色土・ローム土やや多混，ロームブロック主体，しまりあり
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
6. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
7. 黒褐色土　ローム粒多混

P9
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
3. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 黒褐色土　ローム粒多混
7. 暗褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混
8. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
9. 黒褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混

P10
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混

SB－025土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ローム粒少混，かたいしまり

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　ローム土主体
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　砂粒・ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混

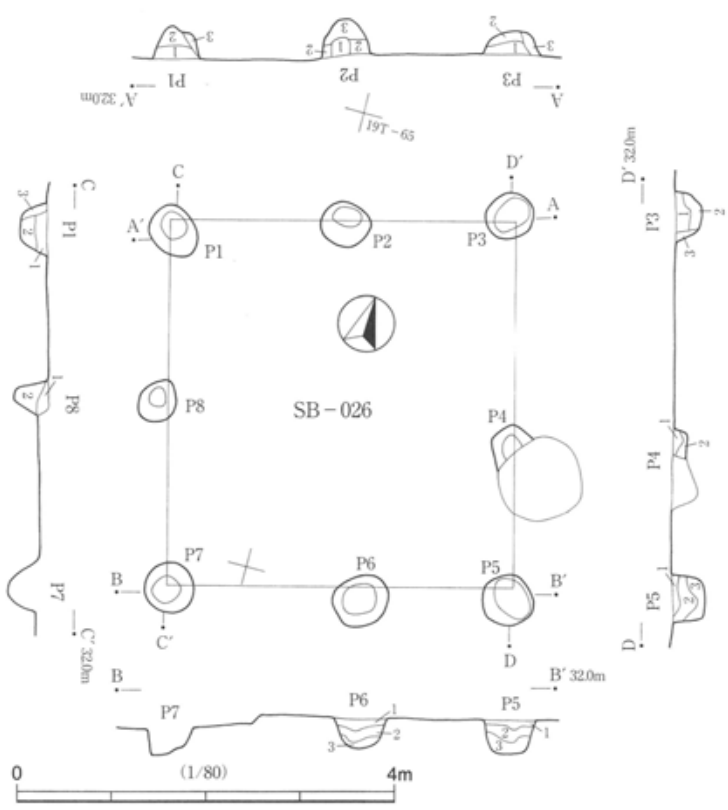
P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混，粒子密
4. 攪乱

P6
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 攪乱

P7
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混

第495図　SB－024・025



SB－026土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム層

P2
1. 黒褐色土　ロームブロック少混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム層

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い

P6
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い

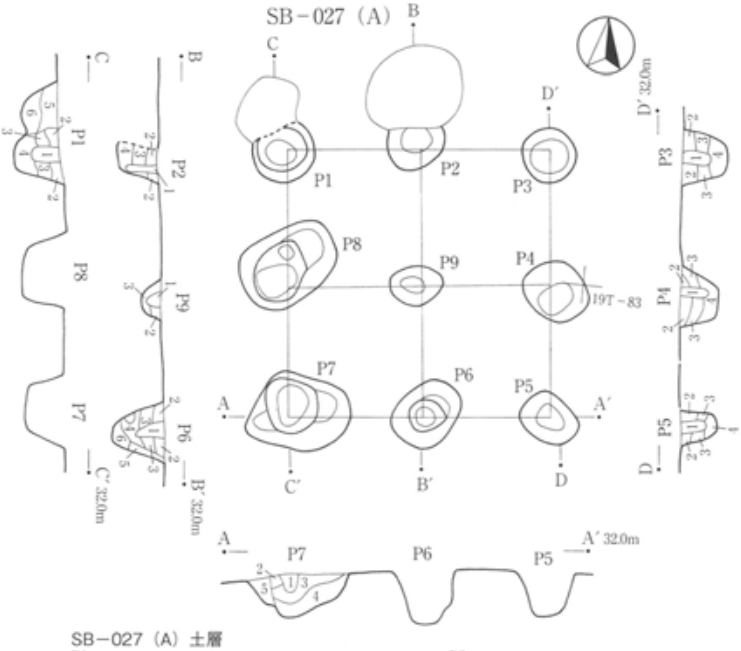
P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混

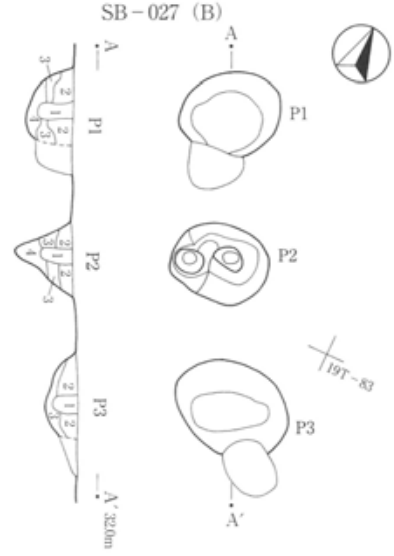
SB－027（B）土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い





SB－027（A）土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
5. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
6. 黒褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い

P4
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粒子密
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混
6. 暗褐色土　ローム粒多混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
5. 攪乱

P9
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混，粒子密
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混

第496図　SB－026・027(A)・027(B)

分でSB－025とそれぞれ重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約30cmの深さで，全体的にはやや浅めで，どの柱穴の深さも同程度でばらつきはない。径は40cm～84cmで，比較的小さくばらつきがある。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，全体的に見て粒子は密で粘性が強い。遺物は柱穴Ｐ７の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－027（A）（第496図，図版142）

遺跡南部中央の19T－82区に位置し，SB－011の西側に近接する桁行２間×梁行２間の総柱建物跡で，柱穴の配置はほぼ正確に対応し，SB－027（B）と全面的に重複する。束柱とみられるＰ９を除いた柱穴深の平均は遺構確認面から約44cmの深さがあり，どの柱穴の深さも同程度でばらつきはない。しかし，束柱とみられるＰ９の柱穴深は最深で20cmと極端に浅い。柱穴径は束柱とみられるＰ９で48cmと極端に小さく，その他の柱穴径も最大で120cmと全体的に径のばらつきは著しい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，全体的に見て粘性が強い。遺物はＰ１・Ｐ３～Ｐ５・Ｐ８の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－027（B）（第496図，図版142）

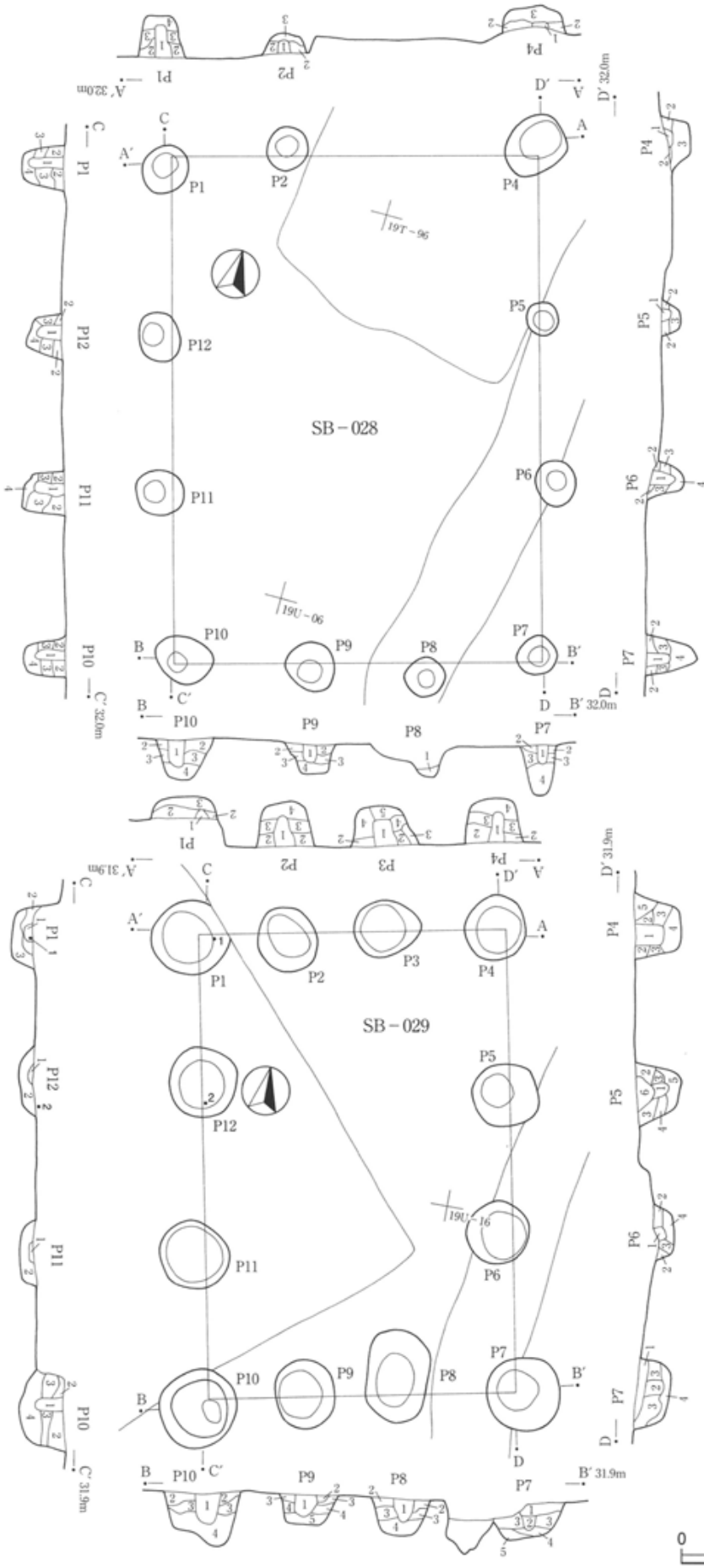
遺跡南部中央の19T－82区に位置し，SB－011の西側に近接する。検出された柱穴は３基のみでSB－027（A）と全面的に重複し，全体の規模は不明である。柱穴深の平均は遺構確認面から約48cmの深さがあり，柱穴の深さは若干のばらつきがある。柱穴径は約１ｍでやや大きめである。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ２の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－028（第497図，図版142）

遺跡南部中央の19T－96区に位置する。SB－029の北東側及びSB－035の南西側に近接し，北東側の柱穴Ｐ２～Ｐ５の部分でSI－029と，南列東側の柱穴Ｐ７の部分でSB－018とそれぞれ重複する。柱穴Ｐ３はSI－029との重複により検出できなかったが，桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡である。柱穴の配置は若干外側にずれるものもあるが，ほぼ正確に対応しているといえる。柱間寸法は桁行方向で約2.2m，梁行方向で約1.5mを測り，桁行方向の柱間寸法が大きく上回り桁行長は約6.4m，梁行３間で梁行長は約4.6mを測る。柱穴深の平均は遺構確認面から約44cmで，重複している柱穴も考慮するとそれぞれの柱穴深のばらつきはあまり見られない。径は多少のばらつきはあるが平均して約66cmを測る。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，全体的に粒子が密で若干の粘性を帯びるものが多い。遺物はＰ11の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－029（第497・498図，図版142）

遺跡南部南寄りの19U－15区に位置する。SB－028の南西側に近接し，西列の柱穴Ｐ１・Ｐ10～Ｐ12の部分でSI－007と，南列東側の柱穴Ｐ７・Ｐ８の部分でSB－030・SB－045とそれぞれ重複する。柱穴の配置は若干内側にずれるものもあるが，ほぼ正確に対応している，桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡である。柱間寸法は桁行方向で約2.1m，梁行方向で約1.1mを測り，桁行方向の柱間寸法が大きく上回り桁行長は約5.8m，梁行３間で梁行長は約3.8mを測る。柱穴深の平均は遺構確認面から約42cmで，竪穴住居跡跡と重複している柱穴も考慮するとそれぞれの柱穴深のばらつきはあまり見られない。径は多少のばらつきはあるが平均して約92cmを測り，柱穴の底面もほぼ平らで大きくしっかりした柱穴といえる。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，全体的に粒子が密で強い粘性を帯びる



SB－028土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密

P2
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロック多混

P6
1. 黒褐色土　ロームブロック少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P7
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
4. 黒褐色土　ロームブロック多混

P8
1. 黒褐色土　ロームブロック多混

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
3. 暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
4. 暗褐色土　ロームブロック多混

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粒子密
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり

P11
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P12
1. 黒褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混，粒子密
2. 黒褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混，粒子密

SB－029土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロック多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粒子密
2. 黒褐色土　ロームブロック多混
3. 黄褐色土　ローム土
4. 黒褐色土　ローム粒少混
5. 暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
2. 暗褐色土　ロームブロック少混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 攪乱

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
2. 黒褐色土　ローム粒・炭化粒少混，粒子密
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
6. 攪乱

P6
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混，粒子密
3. 灰褐色土　灰褐色粘土ブロック
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P7
1. 暗褐色土　ローム粒・山砂粒やや多混，SD001の覆土
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
4. 暗褐色土　ローム粒・粘土粒やや多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒・粘土粒少混
2. 黒褐色土　粘土粒多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P9
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混・粘土粒少混
2. 灰褐色土　灰褐色粘土ブロック
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
4. 黒褐色土　ローム粒多混，焼土粒やや多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粒子密

P11
1. 黒褐色土　ローム粒・粘土粒やや多混
2. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粒子密

P12
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

0　(1/80)　4m

第497図　SB－028・029（1）

第498図　SB－029（2）

ものがほとんどである。遺物はＰ１・Ｐ11・Ｐ12の覆土内から出土したが，図示できたものは２点のみである。

１は須恵器の杯で，Ｐ１の覆土上面から出土した。復元口径13.2cm・底径7.4cm・器高3.75cmで，色調は内外面ともに灰褐色を呈している。胎土は砂粒と白色粒を微量に含み密で，焼成は良好である。調整は内外面にロクロナデ・底部外面及び周縁部に手持ちヘラケズリが施され，切り離し技法は不明である。

２は底部を欠損する須恵器の杯で，Ｐ12の覆土上面から出土した。復元口径14.2cm・器高3.2cmで，色調は内外面ともに黒褐色を呈している。胎土は砂粒と雲母をやや多めに含み密で，焼成は良好である。調整は内外面にロクロナデが施されている。

SB－030（第499図，図版142）

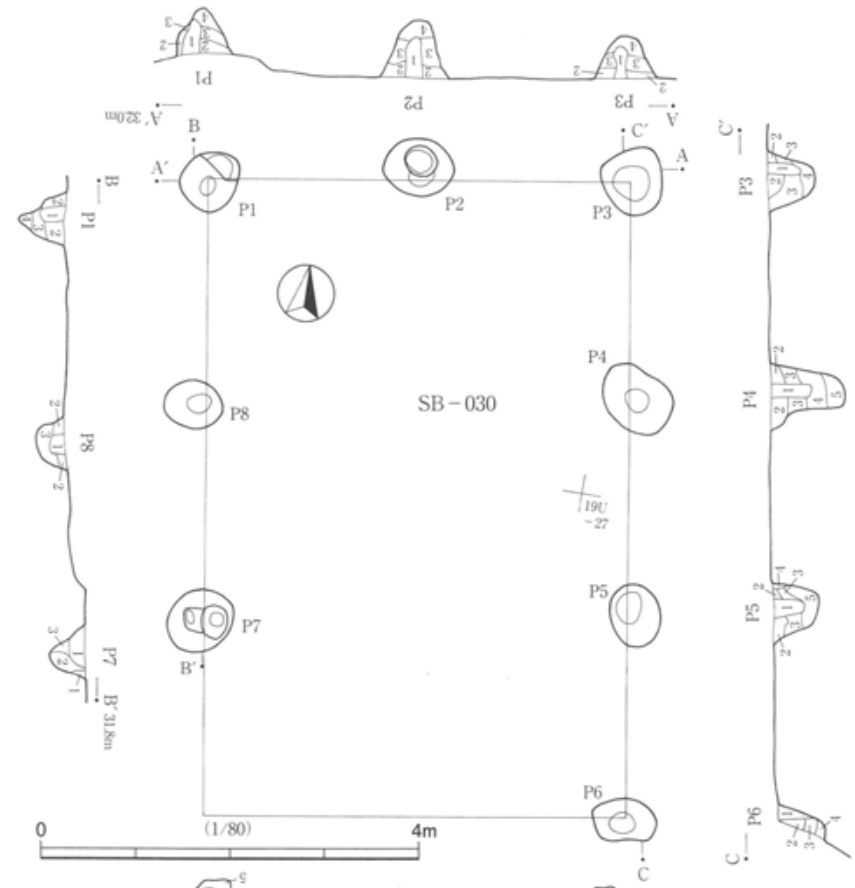
遺跡南部南寄りの19U－26区に位置する。SB－018の南西側に近接し，SB－031とは全面的に，北側半分の柱穴の部分でSB－045と，北列西端の柱穴部分でSB－029と，南列西端と南列中央の柱穴の部分でSI－015と，それぞれ重複する。竪穴住居跡跡SI－015と重複する柱穴は検出できなかったが，柱穴の配置はほぼ正確に対応している，桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。検出されたすべての柱穴の柱間寸法は2.2m～2.3mを測りほぼ等間隔で，桁行３間で桁行長は約6.8m，梁行２間で梁行長は約4.5mを測る。柱穴深の平均は遺構確認面から約54cmで，竪穴住居跡と重複している柱穴を除いても柱穴深のばらつきは若干ある。径は多少のばらつきはあるが平均して約68cmを測り，しっかりした柱穴といえる。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，Ｐ５の覆土には若干の焼土粒が混入している。遺物はＰ３・Ｐ５・Ｐ６の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

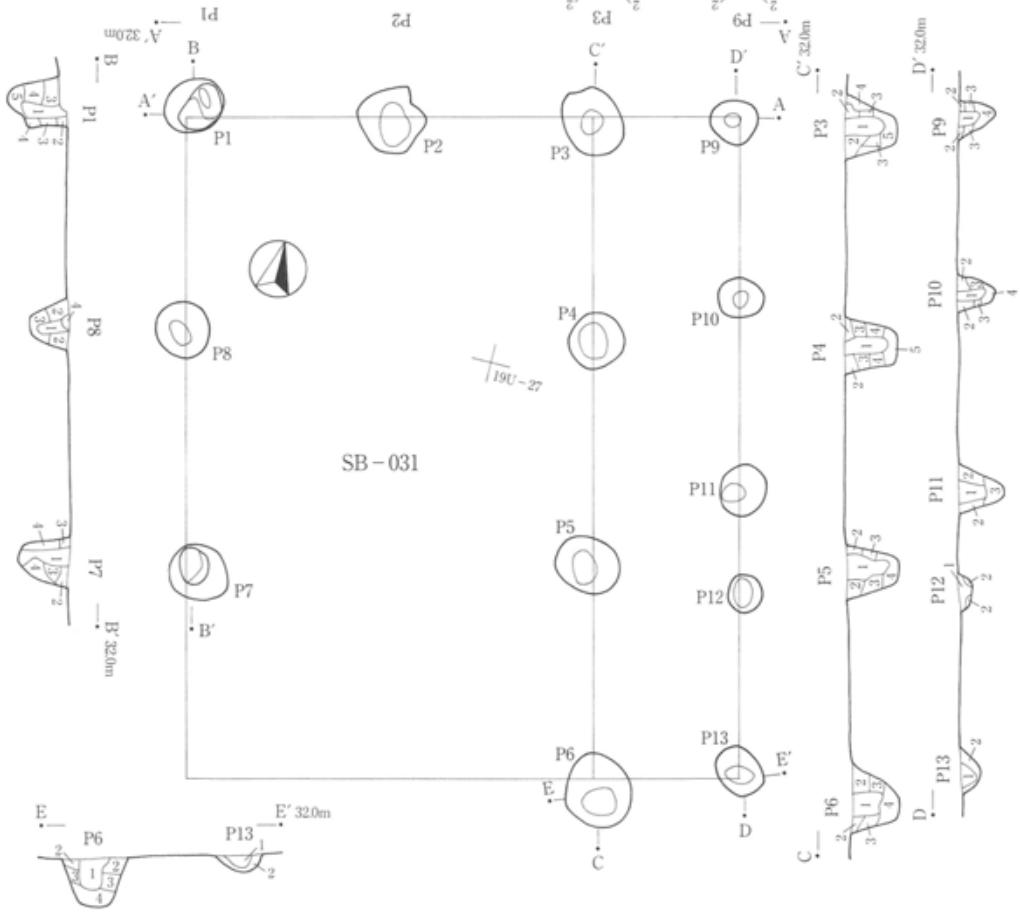
SB－031（第499図，図版142）

遺跡南部南寄りの19U－26区に位置する。SB－029の南東側，SB－032の北西側に近接し，東辺側に庇が付く掘立柱建物跡で，身舎は桁行３間×梁行２間で庇は梁行方向に伸びている。身舎部の南列西端部分で竪穴住居跡跡SI－015と重複しているため柱穴２基は不明であるが，身舎部のすべての柱穴の配置はほぼ正確に対応していると思われる。庇部は桁行４間で桁行長は約7.0m，梁行長は約1.6mを測る。本遺構は身舎部の北側でSB－045と，身舎部ほぼ全面的にSB－030と，身舎部の南列西端部分で竪穴住居跡跡SI－015とそれぞれ重複している。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約50cmで，ばらつきはあまり見られず柱穴深は均一である。庇部の柱穴深の平均は約33cmを測り，全体的に身舎部分の平均柱穴深よりやや浅い。径は庇部の柱穴平均径は45cm前後で身舎部に比べるとやや小さく，身舎部の柱穴径は56cm～80cm前後と大きさのばらつきが若干見られる。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，Ｐ14の覆土には若干の焼土粒が混入している。遺物はＰ２～Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７・Ｐ13～Ｐ15の各柱穴覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－032（第500図，図版142）

遺跡南部南寄りの19U－38区に位置する。SB－031の南東側に近接し，東列南半分の柱穴でSB－018と重複する。竪穴住居跡跡SI－018と重複する柱穴は検出できず，柱穴の配置も正確に対応していない桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。南列東端部の柱穴は竪穴住居跡跡SI－018と重複する





SB－030土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
2. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・山砂粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粒子密
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混，粒子密
5. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
5. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

P6
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

P7
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒・山砂粒少混，粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

SB－031土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混，粒子密
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混，粒子密

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
5. 暗褐色土　ローム粒多混

P4
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
2. 暗褐色土　ローム粒極少混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混，粘性強い
4. 黒褐色土　ローム粒少混
5. 黒褐色土　ロームブロック混，しまり強

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P6
1. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

P7
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
3. 黒褐色土　粗ローム粒子混
4. 褐色土　ロームブロック混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒少含，粒子密
4. 攪乱

P9
1. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混，粒子密
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

P12
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 褐色土　ロームブロックやや多混

P13
1. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
2. 暗褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 攪乱

P14
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック・焼土粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，かたいしまり

P15
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

第499図　SB－030・031

ため未検出であるが，検出されたすべての柱穴の配列から考えると梁行３間になると思われる。本遺構の規格は不明な点もあるが，桁行３間で桁行長は約6.4m，梁行は北側で２間，南側で３間で梁行長は約4.2mを測る。柱穴深の平均は遺構確認面から約38cmで，最大深のＰ９で約68cm，最小深のＰ２で約25cmを測り柱穴深のばらつきは若干ある。径は平均して約68cmを測るが，最大径のＰ１で約104cm，最小深のＰ７で約32cmと柱穴径のばらつきは著しい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－033（第500図，図版142）

遺跡南部南東寄りの20U－32区に位置する。SB－016の南東側に近接する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡で，東側半分の柱穴Ｐ３～Ｐ６の部分でSB－014と，また，西列の柱穴Ｐ７・Ｐ８の部分でSB－015とそれぞれ重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約34cmの深さで，全体的には西列側で深く東列側で極端に浅めである。径は平均で約100cmを測り，比較的大きく若干のばらつきがある。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，特徴的なことは検出されたすべての柱穴の覆土内に，焼土ブロック及び焼土粒が多めに混入していることである。このことから本掘立柱建物跡は焼失した可能性が高いと思われる。遺物は柱穴Ｐ１～Ｐ３・Ｐ６・Ｐ８の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものは２点のみである。

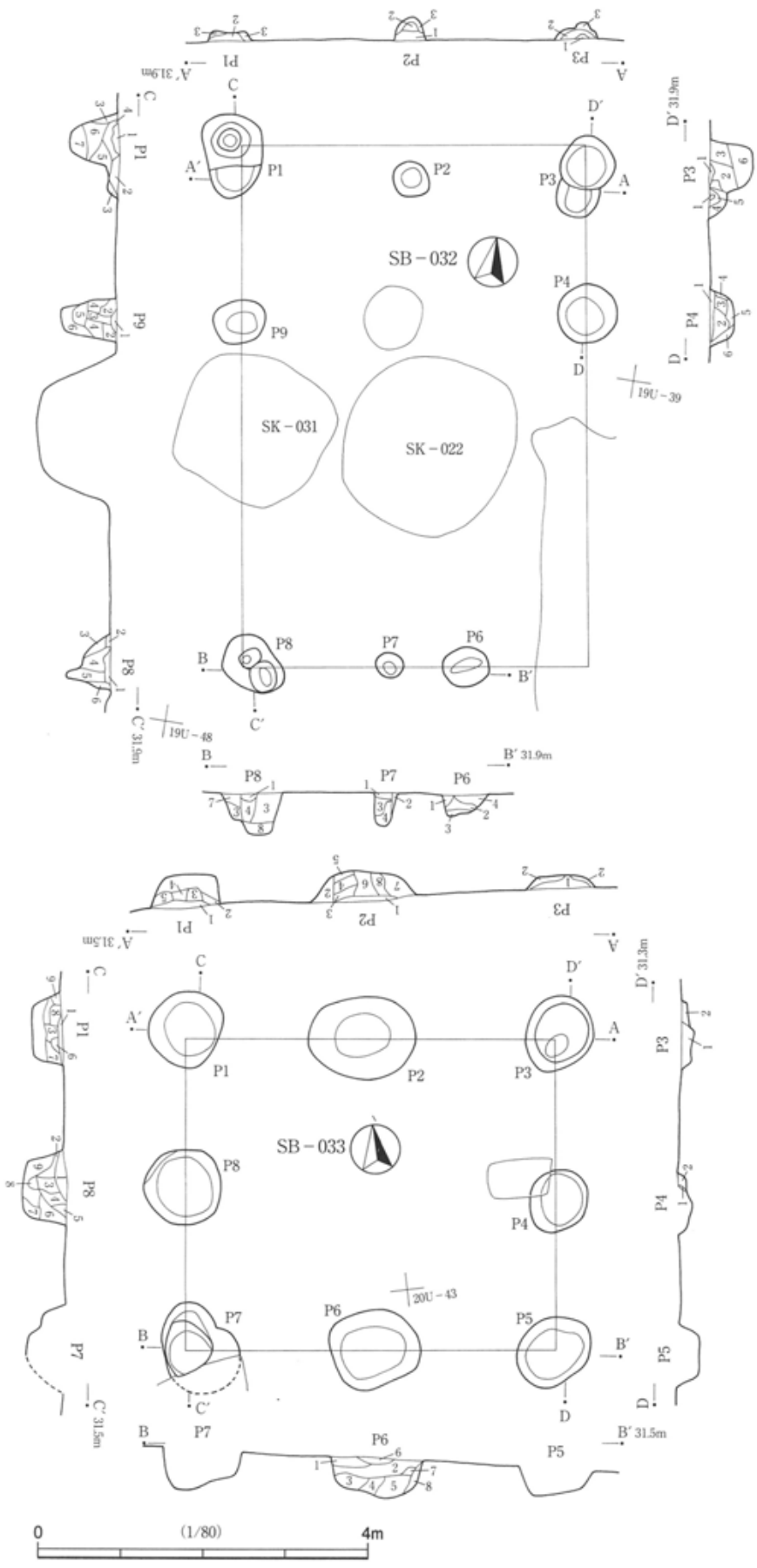
１は茨城産の須恵器の杯でＰ６の覆土一括出土で２点が接合した。復元口径14.6cm，復元底径8.8cm，器高4.1cmを測り，色調は内外面ともに灰褐色を呈し，胎土は雲母がやや多く，長石・砂粒が微量に含まれ粗で焼成は良好である。調整は外面体部にロクロナデ，内面には全面ロクロナデが施されている。

２は茨城産の須恵器の杯でＰ６の覆土一括出土である。復元口径12.8cm，復元底径8.4cm，器高3.5cmを測り，色調は内外面ともに灰黄色を呈し，胎土は雲母がやや多く，長石・砂粒が微量に含まれるが密で焼成は良好である。口縁部付近磨耗が著しいが調整は外面体部にロクロナデ，内面には全面ロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は不明である。

SB－034（第501・502図，図版143・299）

遺跡南部南東寄りの20U－11区に位置する。SB－016の北東側に近接し，東側半分の柱穴Ｐ７～Ｐ10の部分でSB－017と，北東側の柱穴Ｐ２～Ｐ４の部分でSI－019と，南列西端部の柱穴Ｐ８の部分でSI－029と，それぞれ重複する。重複は多いが柱穴はすべて検出でき，柱穴の配置はほぼ正確に対応している桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。検出されたすべての柱穴の柱間寸法は2.0m～2.2mを測りほぼ等間隔で，桁行３間で桁行長は約6.4m，梁行２間で梁行長は約4.5mを測る。柱穴深の平均は遺構確認面から約60cmで，全体的に深くしっかりしておりばらつきはあまりない。径は多少のばらつきはあるが平均して約114cmを測り，しっかりした柱穴といえる。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，特徴的なのは検出されたすべての柱穴の覆土内に，焼土ブロック及び焼土粒が多めに混入していることである。このことから本掘立柱建物跡は焼失した可能性が高いと思われる。遺物は柱穴Ｐ４・Ｐ７を除くすべての柱穴の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものは７点のみである。

１は土師器の杯の底部片でＰ９の覆土一括出土である。底部外面に「寺」と書かれた墨書がある。小破片で，字形が小さいので，上に寺名が記されていたと思われる。色調は内面がにぶい黄橙色，外面がにぶい橙色を呈し，胎土は白色針状物質が微量含まれ密で焼成は良好である。調整は内面にロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが施され，切り離し技法は不明である。



SB－032土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
2. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　褐色土やや多混・ローム土主体
4. 黒褐色土・ローム粒やや多混，砂質
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり，砂質
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混，強いしまり
7. 黄褐色土　ローム土

P2
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　褐色土やや多混・ローム土主体

P3
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
2. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混，砂質
3. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり，砂質
5. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混，強いしまり

P4
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
2. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混，砂質
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり，砂質
4. 黒褐色土　ローム粒多混，砂質
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混，強いしまり
6. 褐色土　ソフトローム主体

P6
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 攪乱

P7
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
2. 暗褐色土　褐色土やや多混・ローム土主体
3. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混，砂質
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混，強いしまり

P8
1. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 明褐色土　ローム土主体，強いしまり
5. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混，砂質
6. 暗褐色土　褐色土やや多混・ローム土主体
7. 暗褐色土　ローム粒多混，やや砂質
8. 黄褐色土　ローム土

P9
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
2. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり，砂質
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，柱痕？
4. 黒褐色土　褐色土・ロームブロックやや多混，しまりあり
5. 黒褐色土　ロームブロック多混，しまりあり，粘性強い
6. 暗褐色土　ローム粒少混

SB－033土層

P1
1. 暗褐色土　ローム粒・砂質土やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混，焼土粒やや多混
5. 暗褐色土　ローム粒・砂質土やや多混
6. 暗褐色土　ローム粒・砂質土やや多混
7. 暗褐色土　ローム粒多混，砂質土・焼土ブロックやや多混
8. 暗褐色土　ローム粒・砂質土・焼土粒やや多混
9. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・砂質土・焼土粒やや多混

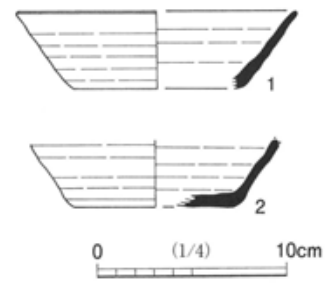
P2
1. 暗褐色土　ローム粒・砂質土やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒・砂質土・焼土粒やや多混
5. 暗褐色土　砂質土少混
6. 暗褐色土　ローム粒・砂質土・焼土ブロックやや多混
7. 暗褐色土　ローム粒多混，砂質土・焼土ブロックやや多混
8. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P3
1. 暗褐色土　ローム粒・焼土ブロックやや多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混

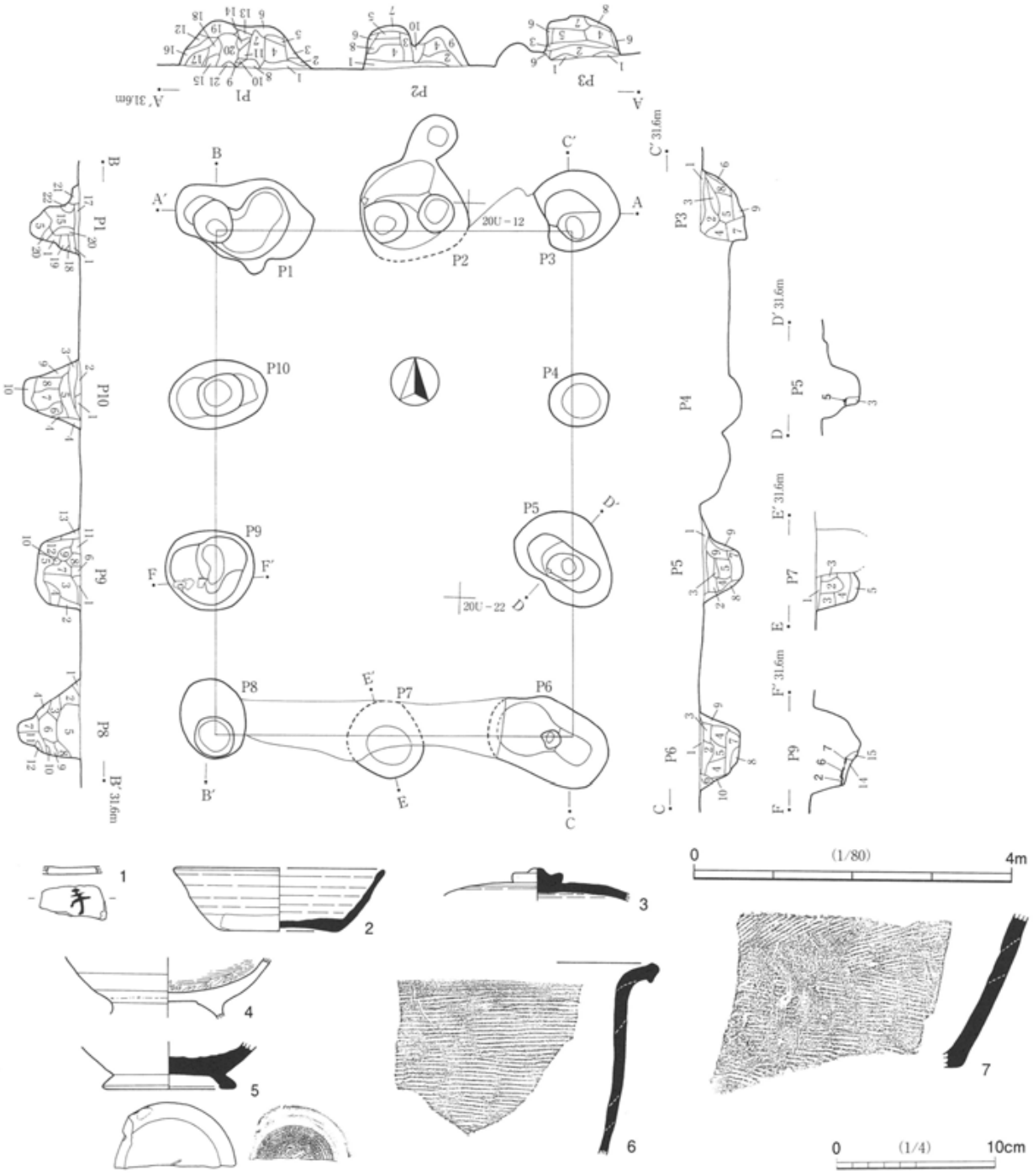
P4
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土主体

P6
1. 暗褐色土　砂質土多混，ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒・砂質土・焼土ブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混
5. 暗褐色土　ロームブロック・砂質土やや多混
6. 褐色土　ローム粒・砂質土やや多混
7. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・砂質土やや多混
8. 暗褐色土　ソフトローム主体，褐色土混入

P8
1. 暗褐色土　砂質土多混，ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　砂質土多混，ローム粒・焼土粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック・砂質土やや多混，強いしまり
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混
5. 暗褐色土　褐色土・ローム粒・砂質土やや多混
6. 暗褐色土　ローム粒やや多混
7. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
8. 黒褐色土　ロームブロック・砂質土やや多混，強いしまり
9. 黒褐色土　ロームブロック・砂質土やや多混，強いしまり



第500図　SB－032・033



第501図　SB－034（1）

２は茨城産の須恵器の杯でＰ９の覆土一括出土である。復元口径13.0cm，底径7.5cm，器高3.9cmを測り，色調は内外面ともに赤灰色を呈し，胎土は雲母がやや多く，長石・砂粒が微量含まれ粗で焼成は良好である。調整は外面体部にロクロナデ，底部周縁部に手持ちヘラケズリ，内面にロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は回転ヘラ切りである。

３は茨城産の須恵器の蓋でＰ２の覆土一括出土で２点が接合した。つまみ部は完存しており径3.2cm高１cmを測る。色調は内外面ともににぶい黄褐色を呈し，胎土は雲母がやや多く，スコリアが微量に含まれ密で焼成は良好である。調整は外面つまみ部に丁寧なナデ，つまみ部以外には回転ヘラケズリ，内面にロ

SB－034土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり
4. 黒褐色土　褐色土やや多混，ロームブロック・焼土粒少混
5. 黒褐色土　ローム粒多混
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
7. 黒褐色土　褐色土やや多混，ロームブロック・焼土粒少混
8. 黒褐色土　ローム粒やや多混，砂質
9. 黒褐色土　褐色土やや多混，かたいしまり
10. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
11. 黒褐色土　ロームブロック多混
12. 黒褐色土　ロームブロック多混
13. 黒褐色土　ロームブロック多混
14. 暗褐色土　褐色土多混
15. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
16. 黒褐色土　ロームブロック多混
17. 暗褐色土　ローム粒多混
18. 黒褐色土　ロームブロック多混
19. 暗褐色土　ローム粒，暗褐色土やや多混，かたいしまり
20. 黒褐色土　褐色土やや多混，ロームブロック・焼土粒少混，砂質
21. 暗褐色土　ローム粒少混
22. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

P2
1. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　褐色土・焼土ブロック・砂質土やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　褐色土多混，焼土ブロック・やや多混
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
6. 黒褐色土　褐色土・ローム粒・砂質土やや多混
7. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混，炭化物粒少混
8. 暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多混，粘性強い，しまりあり
9. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
10. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混

P3
1. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　褐色土・焼土ブロック・砂質土やや多混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
5. 黒褐色土　褐色土・ローム粒・砂質土やや多混
6. 黒褐色土　褐色土多混，焼土ブロック・やや多混
7. 暗褐色土　粘性強い，しまりあり
8. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
9. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり

P5
1. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土
3. 暗褐色土　ローム粒多混，砂質
4. 黒褐色土　褐色土・焼土ブロック・砂質土やや多混
5. 黒褐色土　褐色土多混，焼土ブロックやや多混
6. 黒褐色土　褐色土・ローム粒・砂質土やや多混
7. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
8. 暗褐色土　粘性強い，しまりあり
9. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

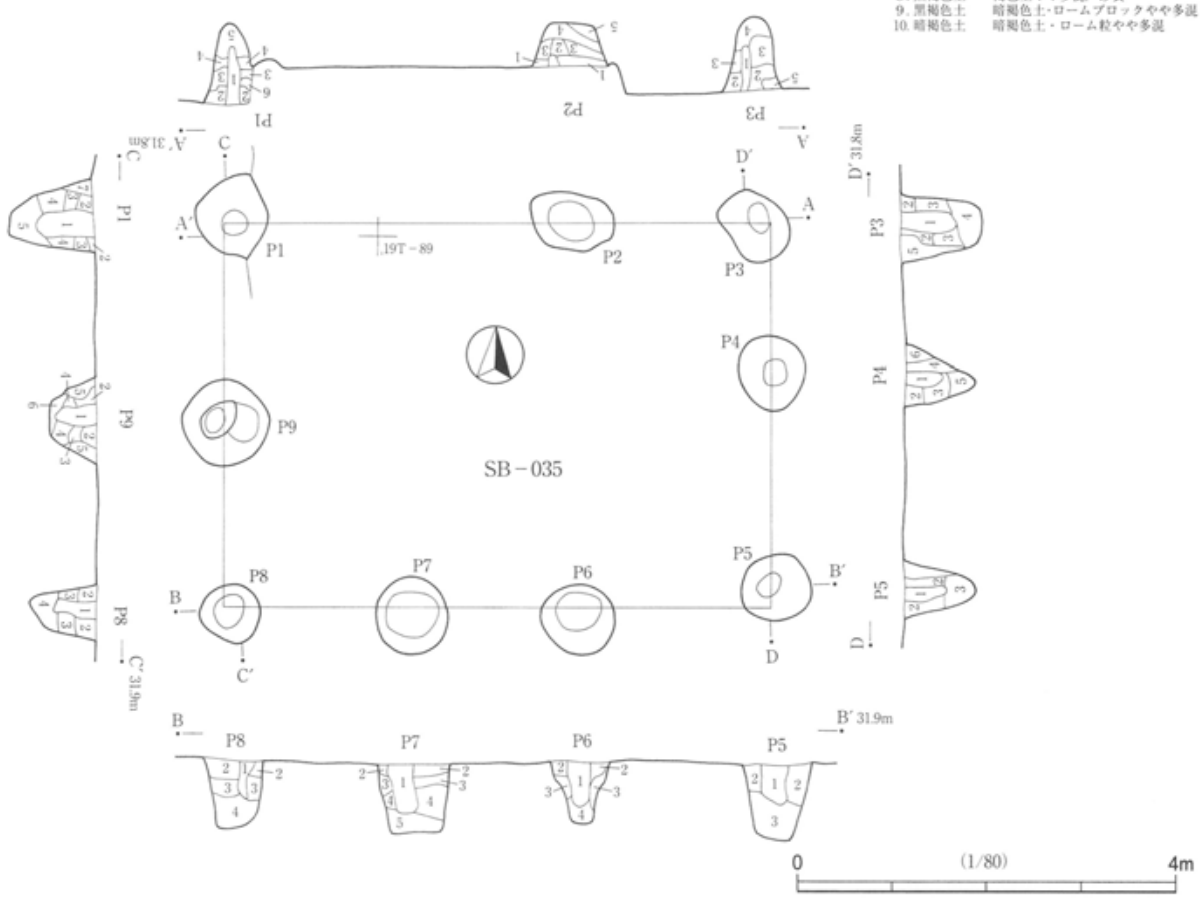
P6
1. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　褐色土・焼土ブロック・砂質土やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混
4. 褐色土　砂質
5. 黄褐色土　ローム土
6. 黒褐色土　褐色土・ローム粒・砂質土やや多混
7. 黒褐色土　褐色土多混，焼土ブロック・やや多混
8. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
9. 暗褐色土　粘性強い，しまりあり
10. 暗褐色土　ローム粒多混

P7
1. 黒褐色土　褐色土・焼土ブロック・砂質土やや多混
2. 黒褐色土　褐色土・ローム粒・砂質土やや多混
3. 黒褐色土　褐色土多混，焼土ブロックやや多混
4. 暗褐色土　粘性強い，しまりあり
5. 暗褐色土　ロームブロック多混

P8
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　褐色土やや多混，ロームブロック・焼土粒少混
3. 暗褐色土　褐色土やや多混，焼土粒少混
4. 暗褐色土　褐色土やや多混，焼土粒少混
5. 暗褐色土　褐色土・ロームブロック・焼土粒・炭化物粒やや多混
6. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
7. 暗褐色土　褐色土やや多混
8. 暗褐色土　砂質土・焼土ブロック多混
9. 暗褐色土　褐色土・ロームブロックやや多混，黒色土少混
10. 暗褐色土　ロームブロック多混
11. 暗褐色土　ロームブロック多混，砂質
12. 黒褐色土　褐色土多混，ロームブロックやや多混

P9
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック・砂質土やや多混
4. 黒褐色土　褐色土やや多混，焼土粒少混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
6. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
7. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
8. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
9. 暗黄褐色土　黒褐色土やや多混，ローム土主体
10. 黒褐色土　褐色土やや多混，ロームブロック・焼土粒少混
11. 黒褐色土　ロームブロック多混
12. 暗褐色土　暗褐色土・ロームブロックやや多混
13. 暗褐色土　暗褐色土・ローム粒やや多混
14. 暗褐色土　ローム粒やや多混
15. 黒褐色土　ローム粒・砂質土少混

P10
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　褐色土やや多混，焼土粒少混
5. 暗褐色土　ローム粒多混
6. 黒褐色土　ローム粒少混
7. 黒褐色土　褐色土やや多混，ロームブロック・焼土粒少混
8. 黒褐色土　褐色土やや多混，砂質
9. 黒褐色土　暗褐色土・ロームブロックやや多混
10. 暗褐色土　暗褐色土・ローム粒やや多混



SB－035土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
5. 暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い
6. ロームブロック
7. 攪乱

P2
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，かたいしまり（SI028の貼床）
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P3
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い
5. 攪乱

P4
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
5. 黄褐色土　ローム土
6. 攪乱

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混

P7
1. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ロームブロック多混，粒子密

P8
1. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P9
1. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
2. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 褐色土　ロームブロックやや多混
6. 暗褐色土　ロームブロック多混

第502図　SB－034・035（2）

クロナデが施されている。

4は土師器の高台付杯の底部片でＰ８の覆土一括出土である。色調は内面が黒褐色，外面が灰黄褐色を呈し，胎土は白色針状物質が微量に含まれ密で焼成は良好である。調整は内面には丁寧なヘラミガキが施され，外面は回転ヘラナデが施され，切り離し技法は不明である。

5は須恵器の高台付杯でＰ２の覆土一括出土で，復元裾径8.4cmを測る。色調は内外面ともに黄灰色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。底部内面中央には緑釉が部分的にかかり，底部外面高台内には線刻が施されている。調整は外面にヘラナデ，内面にロクロナデが施され，全体的に器厚は厚く重量感がある。

6は茨城産の須恵器の甕の口縁部片でＰ９の覆土内出土で，７と同一個体である。色調は内面が灰黄褐色，外面が暗灰黄褐色を呈し，胎土はやや雲母が多く密で焼成は良好である。調整は外面口縁部周縁でヨコナデ，体部で叩き，内面にはヨコナデが施されている。

7は茨城産の須恵器の甕の体部から底部にかけての破片でＰ９の覆土内出土で，６と同一個体である。色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土はやや雲母が多く密で焼成は良好である。調整は外面底部周縁でヨコナデ，体部で叩き，内面にはヘラナデとナデが交互に施されている。

SB－035（第502図，図版143）

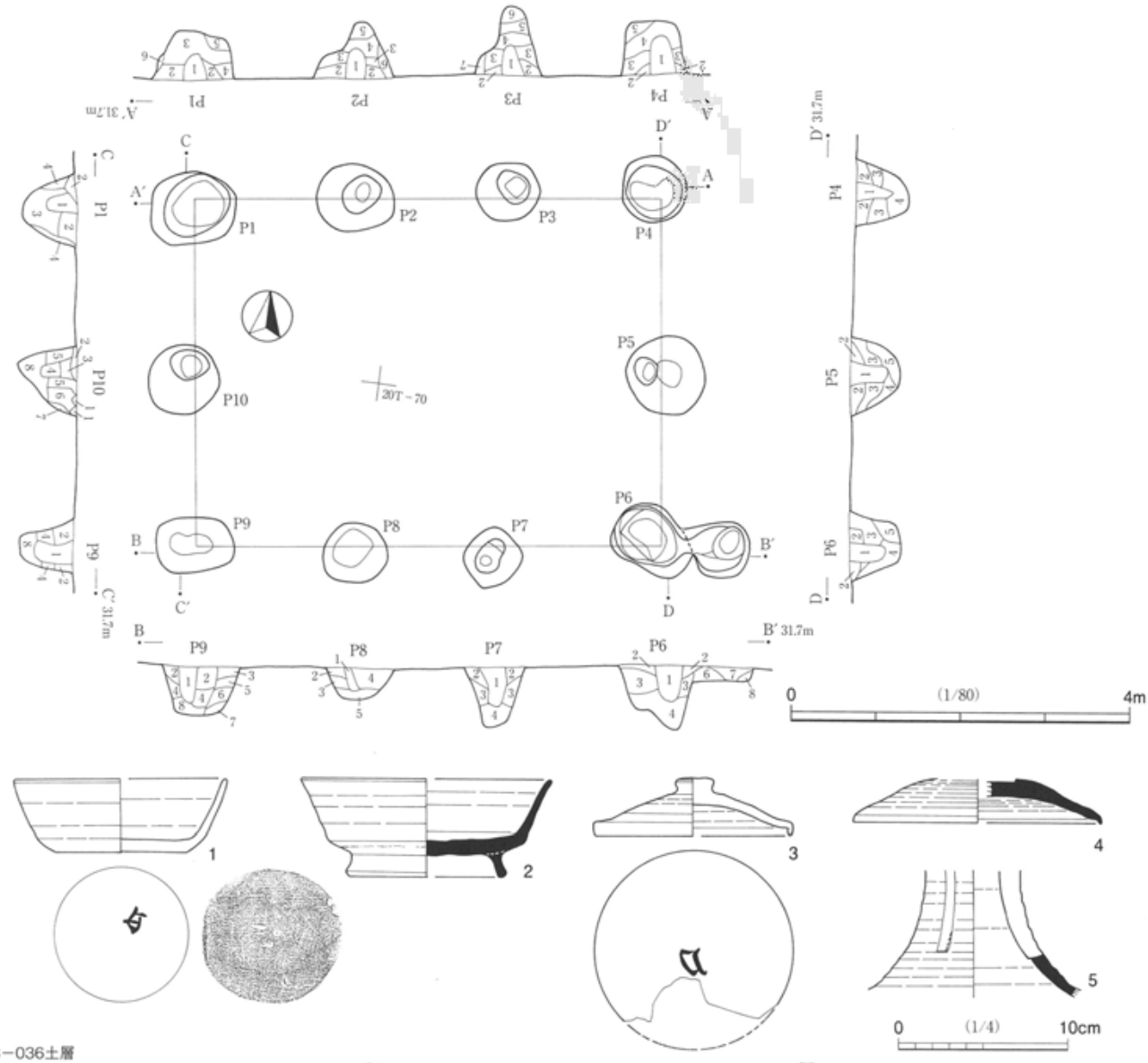
遺跡南部中央の19T－89区に位置し，桁行方位はN-90°-Eを測る。SB－020の北東側に近接し，北列の柱穴Ｐ１・Ｐ２の部分でSI－028と，南列東端部の柱穴Ｐ５の部分でSB－021と，それぞれ重複する。竪穴住居跡跡SI－028と重複する部分の柱穴１基は未検出で，柱穴の配置はＰ５の部分で若干内側にずれるが，ほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。検出されたすべての柱穴の柱間寸法は1.4m～2.2mを測り間隔は若干ばらつきがある。規格は桁行３間で桁行長は約5.8m，梁行２間で梁行長は約4.1mを測る。柱穴深の平均は遺構確認面から約70cmで，全体的に深くしっかりしておりばらつきはあまりない。径はＰ９が最も大きく92cm，最も小さいＰ８で60cmを測りばらつきはあまりないといえる。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－036（第503図，図版143・299）

遺跡南部中央の19T－69区に位置し，桁行方位はN-82°-Eを測る。SB－035の北東側に近接し，SB－037・SB－038と全面的に重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。柱穴の柱間寸法は1.6m～2.2mを測り間隔はほぼ等しいといえる。規格は桁行３間で桁行長は約5.5m，梁行２間で梁行長は約4.1mを測る。柱穴深の平均は遺構確認面から約60cmであるが，柱穴Ｐ８で最深約40cmを測る他は全体的に深くしっかりしている。径はＰ１・Ｐ６が最も大きく約100cm，最も小さいＰ７で64cmを測りばらつきはあまりないといえる。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，Ｐ10以外の柱穴で柱痕が確認できる。遺物はすべての柱穴の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたのは５点のみである。

1は土師器の杯でＰ３の覆土一括出土である。底部外面には墨書が施されており文字は「与」である。色調は内外面ともににぶい褐色を呈し，胎土は金雲母が多量，白色針状物質が微量に含まれ密で焼成は良好である。調整は内外面ともにロクロナデが施されている。底部外面は手持ちヘラケズリが施され，切り離し技法は不明である。

2は須恵器の高台付杯でＰ６の覆土一括出土である。復元口径14.5cm，底径9.0cm，器高5.7cmを測り，色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は雲母がやや多く，長石・砂粒が微量に含まれ密で焼成は良好



SB－036土層

P1
1. 褐色土　ローム粒やや多混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
3. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり．粘性あり
4. 褐色土　ローム粒多混．しまりあり
5. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
6. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり

P2
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり．柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混．しまりあり
3. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
4. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり．粘性あり
5. 黒褐色土　しまりあり．粘性あり
6. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり

P3
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり．柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混．しまりあり
3. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
4. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり．粘性あり
5. 黒褐色土　しまりあり．粘性あり
6. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり
7. 攪乱

P4
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり．柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混．しまりあり
3. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
4. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり．粘性あり
5. 黒褐色土　しまりあり．粘性あり

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり．柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混．しまりあり
3. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
4. 褐色土　ローム粒やや少混．しまりあり．粘性あり
5. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり．粘性あり

P6
1. 褐色土　ローム粒やや多混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性強い
3. 黒褐色土　しまりあり．粘性あり
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
5. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
6. 褐色土　ローム粒多混．しまりあり
7. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり
8. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり

P7
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり．柱痕？
2. 黒褐色土　しまりあり．粘性あり
3. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
4. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり．粘性あり

P8
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり．柱痕？
2. 黒褐色土　しまりあり．粘性あり
3. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
5. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり．粘性あり

P9
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり．柱痕？
2. 黒褐色土　しまりあり．粘性あり
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
4. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
5. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．しまりあり
6. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
7. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり
8. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり．粘性あり

P10
1. 褐色土　しまりあり．粘性あり
2. 褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．しまりあり．粘性あり
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
5. 褐色土　ローム粒多混．粘性あり
6. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり
7. 褐色土　ローム粒多混．しまりあり
8. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり

第503図　SB－036

である。調整は体部内外面にロクロナデが施され，底部外面は回転ヘラケズリが全面に施され，切り離し技法は回転ヘラ切りである。

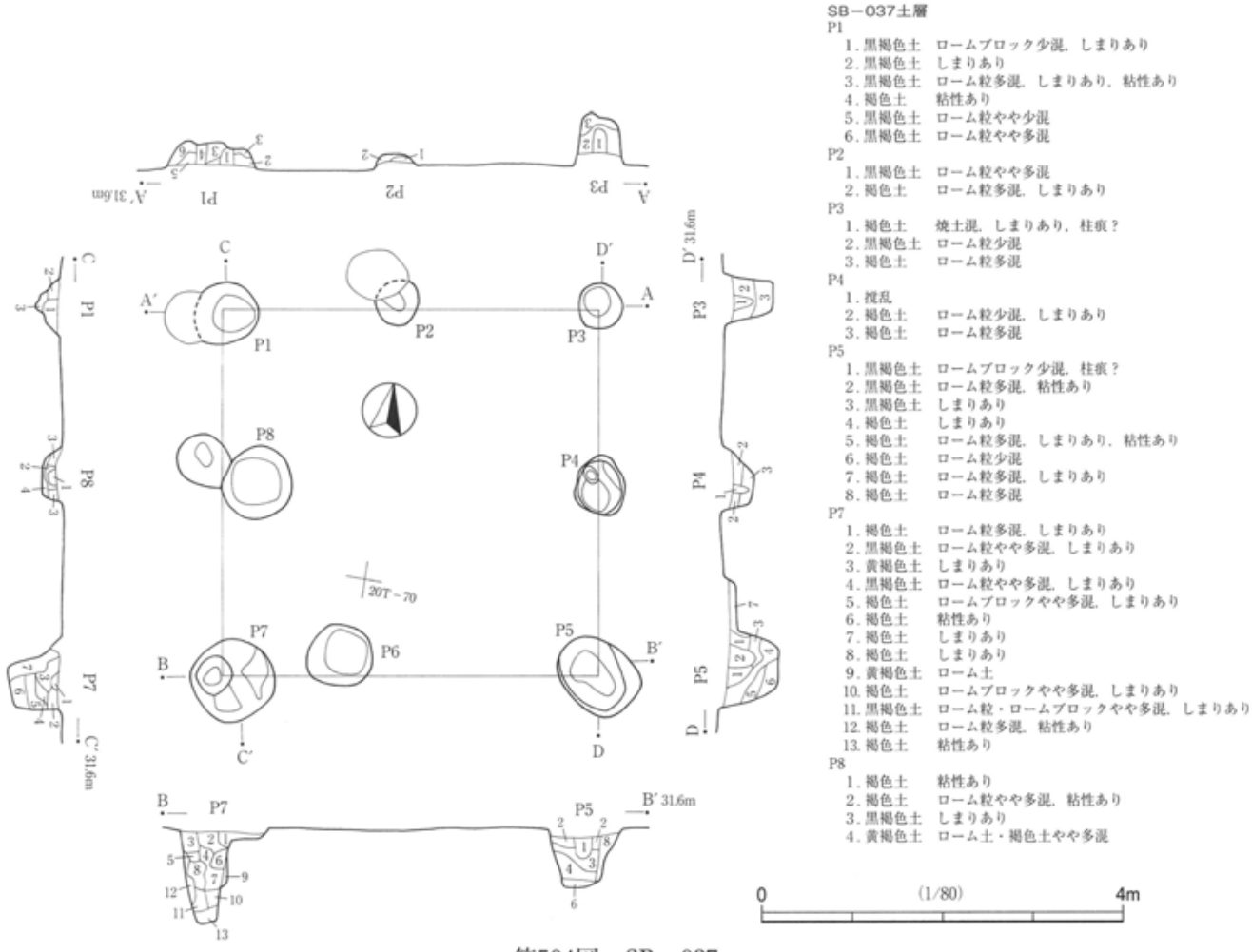
３は土師器の蓋でＰ５の覆土一括出土で２点が接合した。内部中央には墨書が施されており文字は不明である。つまみ部は完存しており径2.3cm，高0.7cmを測り，最大径は11.8cm，器高は3.4cmを測る。色調は内外面ともに明赤褐色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は外面摘み部に丁寧なナデ，つまみ部以外にヘラによるナデ，内面にロクロナデが施されている。

４は茨城産の須恵器の蓋片でＰ６の覆土一括出土である。つまみ部は欠損しており不明で，復元口径は14.5cmを測る。色調は内外面ともに灰褐色を呈し，胎土は雲母・長石が微量に含まれ密で焼成は良好である。調整は内外面ともに丁寧なロクロナデが施されている。内面には籾の圧痕が認められる。

５は須恵器の高杯脚部片でＰ５の覆土一括出土で，長方形の透かし孔が３か所認められる。色調は内外面ともに赤灰色を呈し，胎土は雲母がやや多く，長石が微量に含まれ密で焼成は良好である。調整は内外面ともに丁寧なロクロナデが施されている。

SB－037（第504図，図版143）

遺跡南部中央の19T－69区に位置し，桁行方位はN-81°-Eを測る。SB－035の北東側に近接し，SB－037・SB－038と全面的に重複する。桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡で，南側半分の柱穴Ｐ４～Ｐ８の部分でSB－036・SB－038とそれぞれ重複する。柱穴深の平均は遺構確認面から約58cmの深さで，全体



第504図　SB－037

的には列中央部の柱穴が極端に浅めで，列端部の柱穴が深い。径は最も小さいＰ３で約48cmを測り，最も大きいＰ７で約94cmを測り若干のばらつきがある。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，Ｐ３の覆土には焼土粒が若干混入している。遺物は柱穴Ｐ１・Ｐ５の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－038（第505図，図版143）

遺跡南部中央の19T－69区に位置し，桁行方位はN-75°-Eを測る。SB－035の北東側に近接し，SB－036・SB－037と東側半分で重複する。桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡であるが，西列中央の柱穴は未検出である。柱穴深は最も浅いＰ４を除けば，全体的に約100cm前後の深さがある。径は最も小さいＰ３で約40cmを測り，全体的に小さくばらつきはあまりない。覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物は柱穴Ｐ１・Ｐ５の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－039（第505図，図版142）

遺跡南部中央の19T－78区に位置し，SI－028の北西側に近接する桁行２間×梁行２間の総柱建物跡で，柱穴の配置はほぼ正確に対応し，SB－040と南西側半分で重複する。束柱とみられるＰ９の柱穴深は遺構確認面から約50cmの深さがあり，どの柱穴の深さも同程度でばらつきはない。柱穴径はＰ７で60cmと若干小さいが，その他の柱穴径も全体的に径のばらつきはあまり見られない。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，Ｐ５の柱穴を除いたすべての柱穴に柱痕が認められる。遺物はＰ９を除いたすべての柱穴の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものは１点のみである。

１は須恵器の高台付皿片でＰ２の覆土一括出土である。復元底径14.6cmを測り，色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は雲母がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は内外面にロクロナデが施され，切り離し技法は不明である。

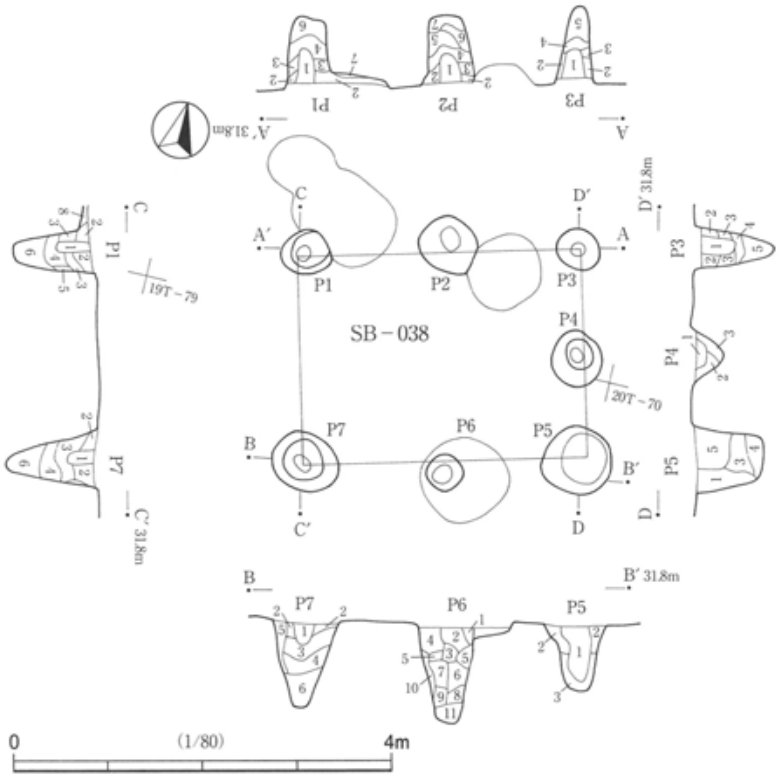
SB－040（第506図，図版142）

遺跡南部中央の19T－78区に位置し，SI－028の北西側に近接する桁行２間×梁行２間の総柱建物跡で，柱穴の配置はほぼ正確に対応し，SB－039と北東側半分で重複する。束柱とみられるＰ９を含めた柱穴深の平均は遺構確認面から約36cmで，どの柱穴の深さも同程度で全体的に浅い。柱穴径は束柱とみられるＰ９で約50cmと若干小さいが，その他の柱穴径は約80cm前後で全体的に径のばらつきはあまり見られない。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，Ｐ９の柱穴を除いたすべての柱穴に柱痕が認められる。遺物はＰ２・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８の柱穴の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－041（第507図，図版143）

遺跡南部中央の19T－76区に位置し，SB－040の西側に近接する桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡で，SB－042・SI－026との重複があり柱穴の配置及び規模は若干正確さを欠き，北列東端の柱穴は未検出である。柱穴深の平均は遺構確認面から約60cmで，最も浅い柱穴Ｐ３の深さは44cmを測る。柱穴径の平均は約88cmであるが，Ｐ12の柱穴径が約44cmで極端に小さい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，すべての柱穴に柱痕が認められる。遺物はＰ11・Ｐ12を除くすべての柱穴の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものは１点のみである。

１は須恵器のつまみ部を欠損する蓋片でＰ10の覆土一括出土である。復元底径15.3cmを測り，色調は内



SB－038土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
4. 褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりあり
5. 褐色土　ローム粒多混，しまりあり
6. 褐色土　しまりあり
7. 黒褐色土　しまりあり
8. 褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり

P2
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
3. 黒褐色土　ローム粒多混，しまりあり
4. 褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりあり
5. 褐色土　しまりあり
6. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性あり
7. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり

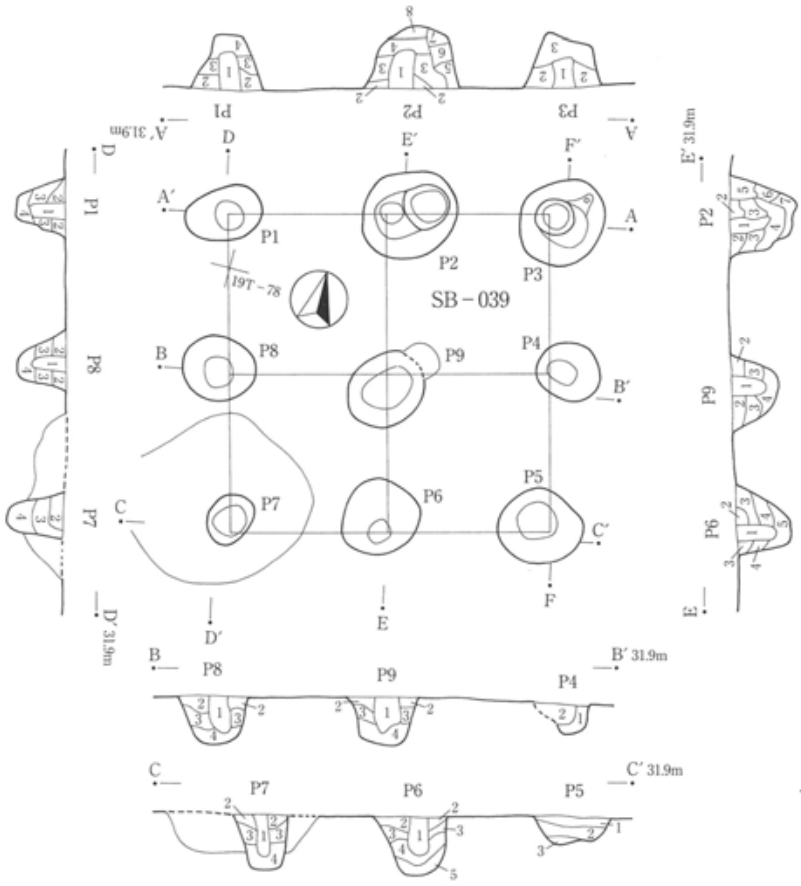
P3
1. 褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
4. 褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりあり
5. 褐色土　ローム粒多混，しまりあり

P4
1. 黒褐色土　柱痕？
2. 褐色土　しまりあり
3. 褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
3. 褐色土　ロームブロック少混，しまりあり
4. 褐色土　ローム粒多混
5. 攪乱

P6
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
2. 黄褐色土　しまりあり
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
4. 褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり，粘性あり
5. 褐色土　粘性あり
6. 褐色土　しまりあり
7. 褐色土　しまりあり
8. 褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
9. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
10. 褐色土　ローム粒多混，粘性あり
11. 褐色土　粘性あり

P7
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
4. 褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりあり
5. 褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり
6. 褐色土　しまりあり



SB－039土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粒子密

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 暗褐色土　ロームブロック少混
7. 黒褐色土　ローム粒少混
8. 黒褐色土　ローム粒やや多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒・砂粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P4
1. 黒褐色土　ロームブロック少混
2. 攪乱

P5
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
4. 攪乱

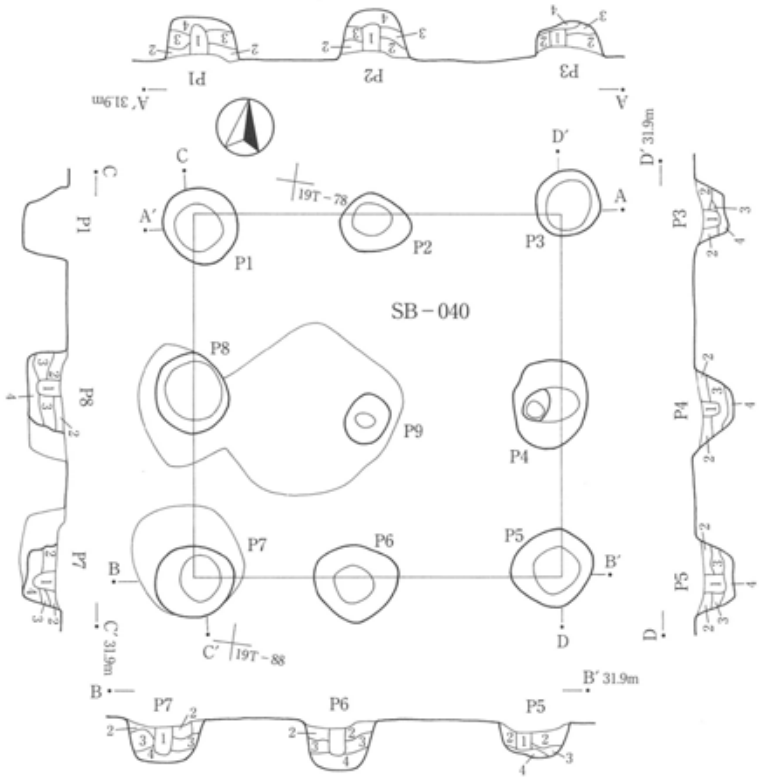
P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ローム粒・砂粒やや多混
4. 黒褐色土　ローム粒多混
5. 暗褐色土　ロームブロック少混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

第505図　SB－038・039



SB－040土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混

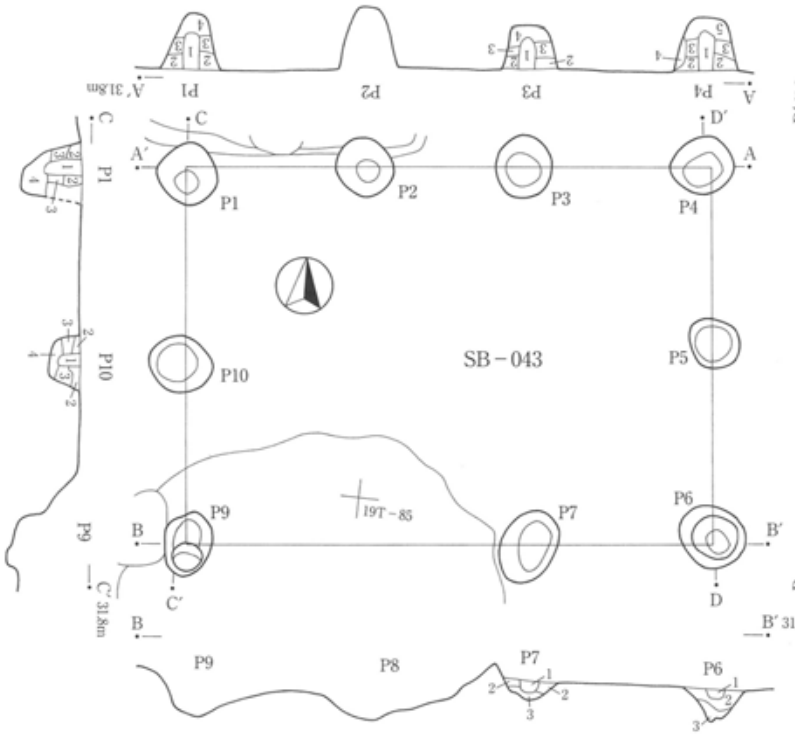
P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混．粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック多混．粘性強い

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混．粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック多混．粘性強い

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混



SB－043土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混．ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混．粘性強い
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混．粒子密．粘性強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混．粘性強い
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混．粘性強い

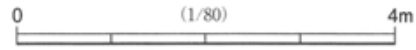
P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混．ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混．粘性強い
4. 暗褐色土　ロームブロック多混．崩落痕
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混．粒子密．粘性強い

P5
1. 黒褐色土　ロームブロックやや多混．粒子密．粘性強い

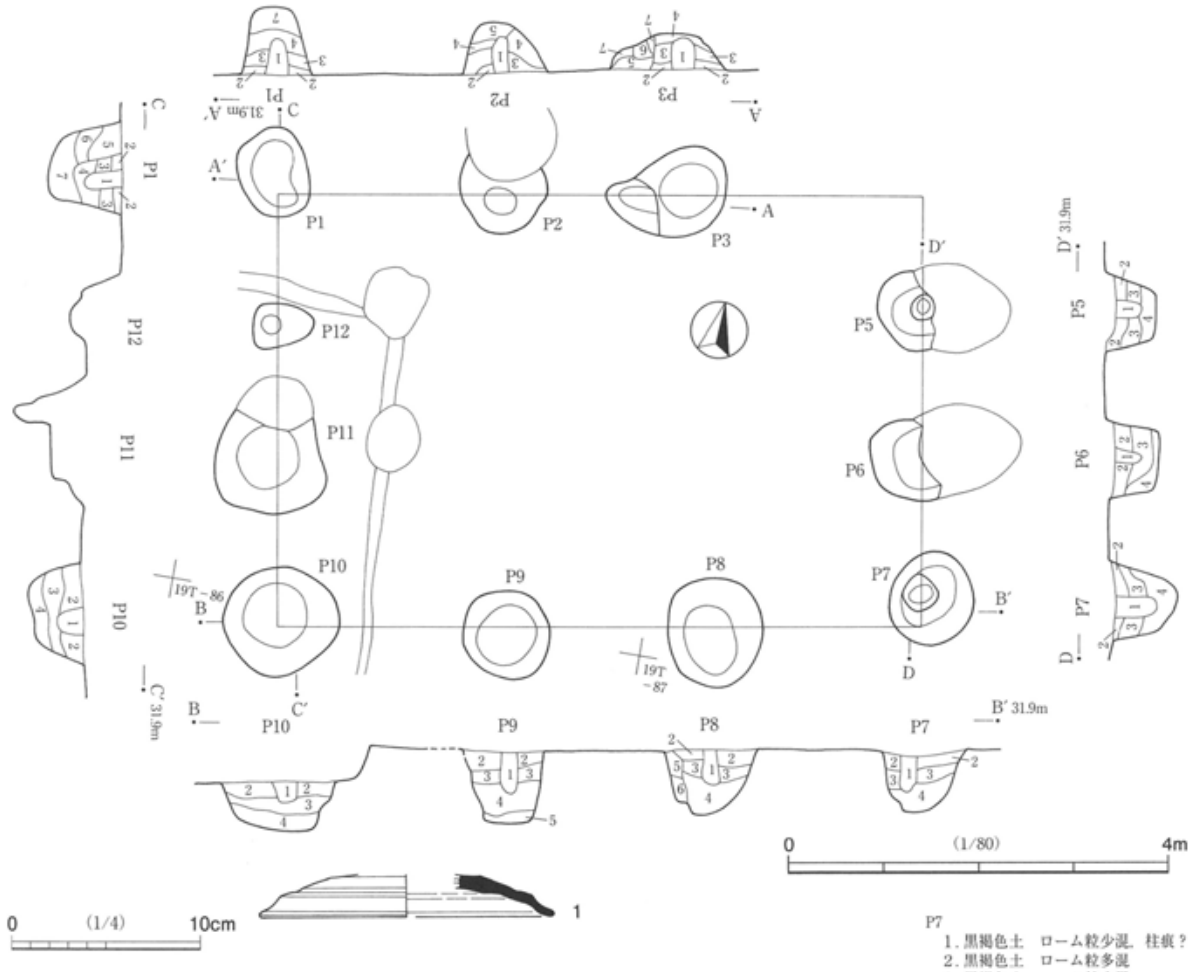
P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混．粘性強い
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混．粒子密．粘性強い

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混．ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混．粘性強い
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混．粒子密．粘性強い



第506図　SB－040・043



SB－041土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
4. 暗褐色土　ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 黒褐色土　ロームブロック多混，粘性強い
7. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

P2
1. 暗褐色土　ロームブロック少混
2. 灰褐色土　灰褐色粘土
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，粘性強い
5. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い

P3
1. 暗褐色土　ロームブロック・粘土やや多混，柱痕？
2. 暗褐色土　ロームブロック・粘土やや多混，かたいしまり，粒子密
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ローム粒多混
6. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
7. 褐色土　ロームブロック多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混，粘性強い

P6
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・粘土粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密

P9
1. 黒褐色土　ロームブロック少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混，粒子密
5. 暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

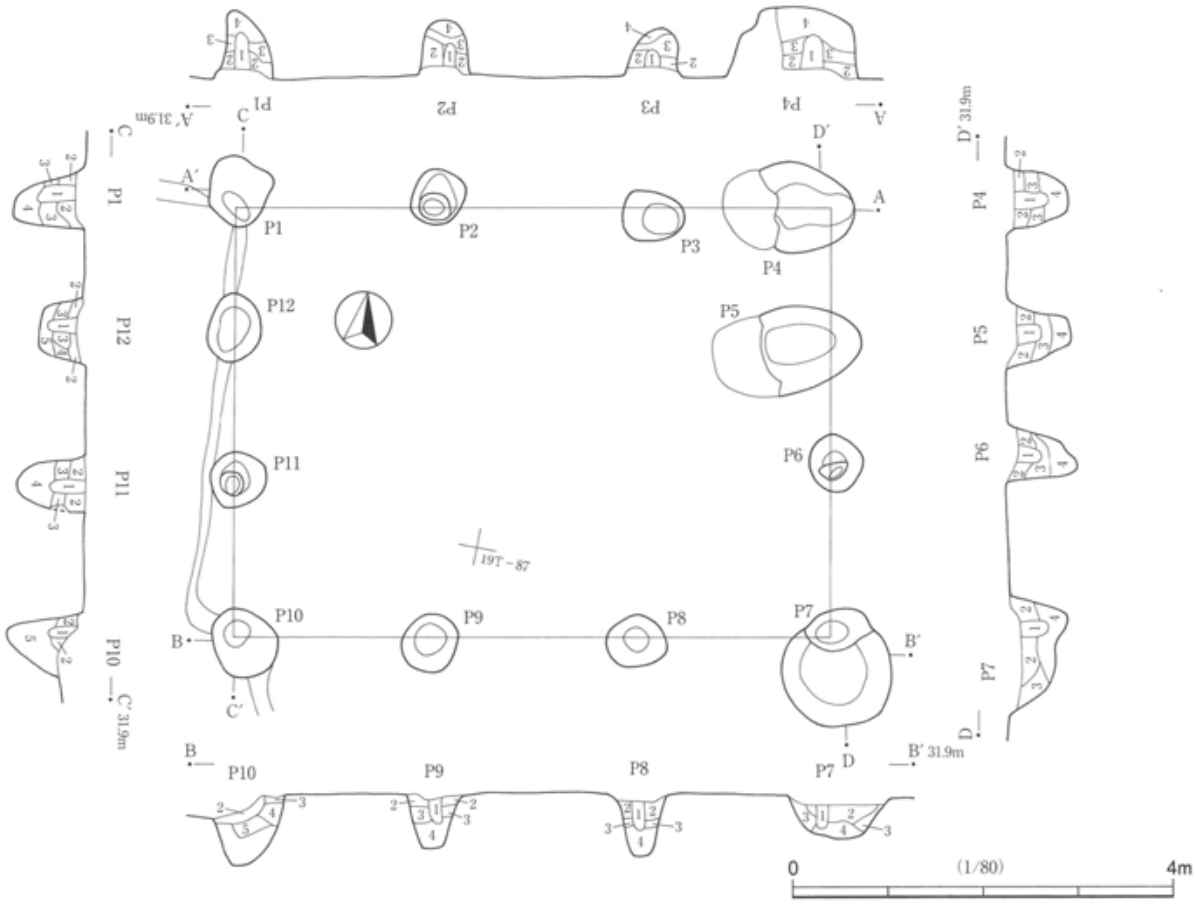
P10
1. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ローム粒少混

第507図　SB－041

外面ともににぶい黄橙色を呈し，胎土は石英・長石がやや多く含まれ粗で焼成は良好である。調整は外面に回転ヘラケズリ後ナデが，内面にナデが施されている。

SB－042（第508図，図版143）

遺跡南部中央の19T－76区に位置し，SB－040の西側に近接する桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡で，SB－041・SI－026との重複があり柱穴の配置はほぼ正確である。柱穴深の平均は遺構確認面から約58cmで，極端な柱穴深の差はなくほぼ同規模である。柱穴径は最大のＰ７で約128cm，最小のＰ11で約56cmと極端な差がある。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，すべての柱穴に柱痕が認められる。遺物はＰ10を除くすべての柱穴の覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示でき



SB－042土層

P1
1. 黒褐色土　ロームブロック少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粒子密

P3
1. 黒褐色土　ローム粒多混，注痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロック・砂粒多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ローム粒多混

P9
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ローム粒多混

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P11
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 黒褐色土　ローム粒少混

P12
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒・粘土粒少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

第508図　SB－042

たものはない。

SB－043（第506図，図版142）

遺跡南部中央の19T－75区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であるが，南列西よりの柱穴Ｐ８はSK－018と重複しており未検出である。また，北列西よりの柱穴Ｐ１・Ｐ２の部分でSI－008と，東側半分の範囲でSI－026と，西側半分の範囲でSB－044とそれぞれ重複する。柱穴深の平均は他の遺構との重複が激しいため正確には分からないが，遺構確認面から約40cmの深さがあると思われる。柱穴径は52cm～80cm前後で大きなばらつきは認められない。Ｐ２～Ｐ４・Ｐ９は110cm～121cmと大きい。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ1の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－044（第509図，図版142）

遺跡南部中央の19T－74区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であるが，SB－011・SB－043・SI－008・SI－026とそれぞれ激しく重複しているため，遺構データは正確には分からない。柱穴深の平均は遺構確認面から約56cmの深さがあると思われる。柱穴径は44cm～112cm前後ではあるが，本来の状況であれば大きなばらつきはないと思われる。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ1の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－045（第509図，図版144）

遺跡南部南寄り19U－16区に位置し，桁行方位N-87°-Eで桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡であるが，北列西端の柱穴はSD－001と重複するため未検出である。また，SB－029・SB－030・SB－031ともそれぞれ重複している。柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmで比較的浅い。柱穴径は40cm～55cm前後で小さくほぼ同規模である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，全体的にしまりが強い。遺物はＰ３・Ｐ５・Ｐ10の覆土内から出土しているが，図示できたものは１点のみである。

１は須恵器の杯底部片でＰ10の覆土一括出土である。復元底径8.2cmを測り，色調は外面がにぶい灰褐色内面がにぶい灰赤色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。破損後激しく被熱を受けたようである。調整は体部外面に回転ヘラケズリ後ロクロナデが，内面にロクロナデが施されている。底部外面は全面に手持ちヘラケズリが施され，切り離し技法は不明である。

SB－046（第510図，図版144）

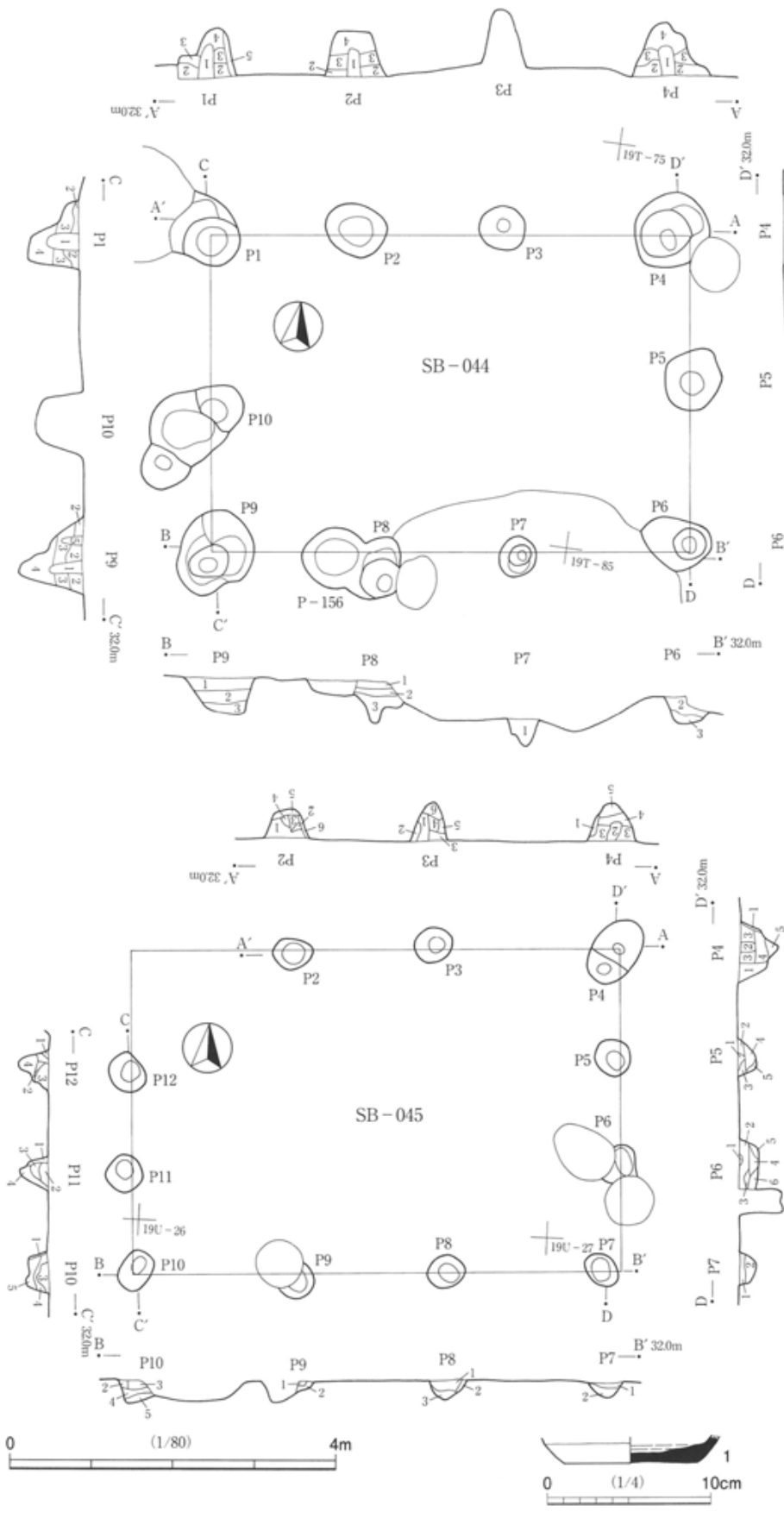
遺跡南部中央の19T－43区に位置し，桁行方位N-6°-Eで柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。本遺構は掘立柱建物跡及び竪穴住居跡跡との重複はなく単独であるが，一部でSK－038・P－217と重複している。柱穴深の平均は遺構確認面から約22cmで極端に浅い。柱穴径は32cm～52cm前後で小さくほぼ同規模である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ２・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ10の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－047（第510図，図版144）

遺跡南部中央の19T－33区に位置し，桁行方位N-5°-Wで柱穴の配置は正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。本遺構は掘立柱建物跡及び竪穴住居跡跡との重複はなく全くの単独である。柱穴深の平均は遺構確認面から約54cmで，柱穴径は85cm～100cm前後でしっかりしている。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，すべての柱穴に柱痕が認められる。遺物は柱穴Ｐ６を除くすべての柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－048（第511図，図版144）

遺跡南部中央の19T－24区に位置し，桁行方位N-89°-Eで柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。本遺構は掘立柱建物跡及び竪穴住居跡跡との重複はなく全くの単独である。柱穴深の平均は遺構確認面から約59cmで，柱穴径は78cm～112cm前後でしっかり掘られた柱穴である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，すべての柱穴に柱痕が認められる。遺物は柱穴Ｐ６の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。



SB－044土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
5. 褐色土　ロームブロック多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混．粒子密
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒・粘土粒やや多混．粘性強い
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P7
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
5. 攪乱

SB－045土層

P2
1. 暗褐色土　ロームブロック多混．砂質
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ロームブロック多混
5. 褐色土　ローム土．しまりあり
6. 褐色土　褐色土やや多混．ローム土主体

P3
1. 暗褐色土　ロームブロック多混．砂質
2. 褐色土　褐色土やや多混．ローム土主体
3. 暗褐色土　ローム粒・砂質土やや多混
4. 暗褐色土　淡褐色砂質土多混．ローム粒やや多混
5. 暗褐色土　ローム粒少混．粘性あり
6. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P4
1. 褐色土　ローム土．しまりあり
2. 淡褐色砂質土　カマド構築材と同様の砂
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質
4. 暗褐色土　ローム粒少混．砂質
5. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質

P5
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混．しまり強い
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混．炭化物粒少混．しまりあり
5. 褐色土　ローム土．しまりあり

P6
1. 暗褐色土　淡褐色砂質土多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 攪乱
4. 褐色土　褐色土やや多混．ローム土主体
5. 褐色土　ローム土．しまりあり
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり

P7
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質．しまりあり

P8
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質
2. 褐色土　褐色土やや多混．ローム土主体
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質．しまりあり

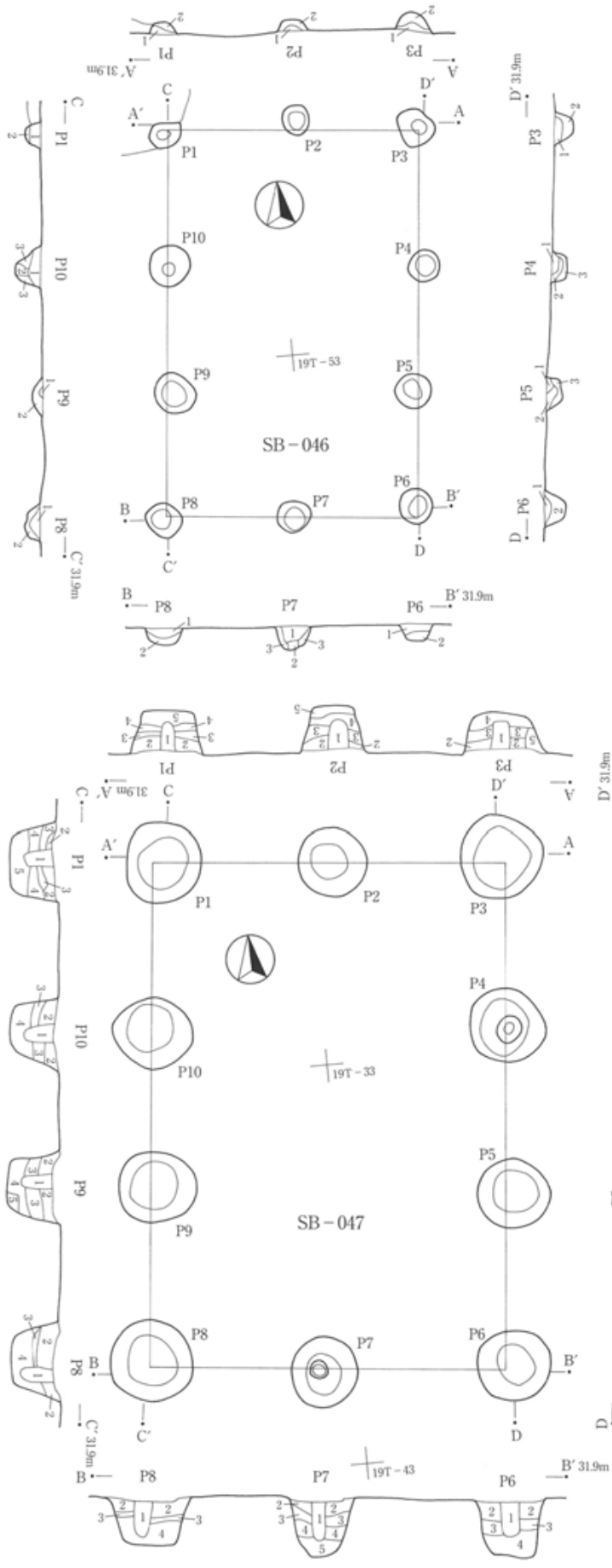
P9
1. 暗褐色土　ロームブロック多混
2. 褐色土　褐色土やや多混．ローム土主体

P10
1. 褐色土　ローム土．しまりあり
2. 褐色土　褐色土やや多混．ローム土主体
3. 暗褐色土　ローム粒多混．砂質
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり

P11
1. 暗褐色土　淡褐色砂質土多混．ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質．しまりあり
4. 褐色土　ローム土．しまりあり

P12
1. 褐色土　褐色土やや多混．ローム土主体
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質．しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒多混．砂質
4. 褐色土　ローム土．しまりあり

第509図　SB－044・045



SB－046土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，かたいしまり
3. 褐色土　ロームブロックやや多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 褐色土　ロームブロックやや多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
3. 褐色土　ロームブロックやや多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い
3. 褐色土　ロームブロックやや多混

SB－047土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
4. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ローム粒多混，粘性強い
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い
5. 撹乱

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
4. 黒褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混，粘性強い

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ローム粒多混，粘性強い
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

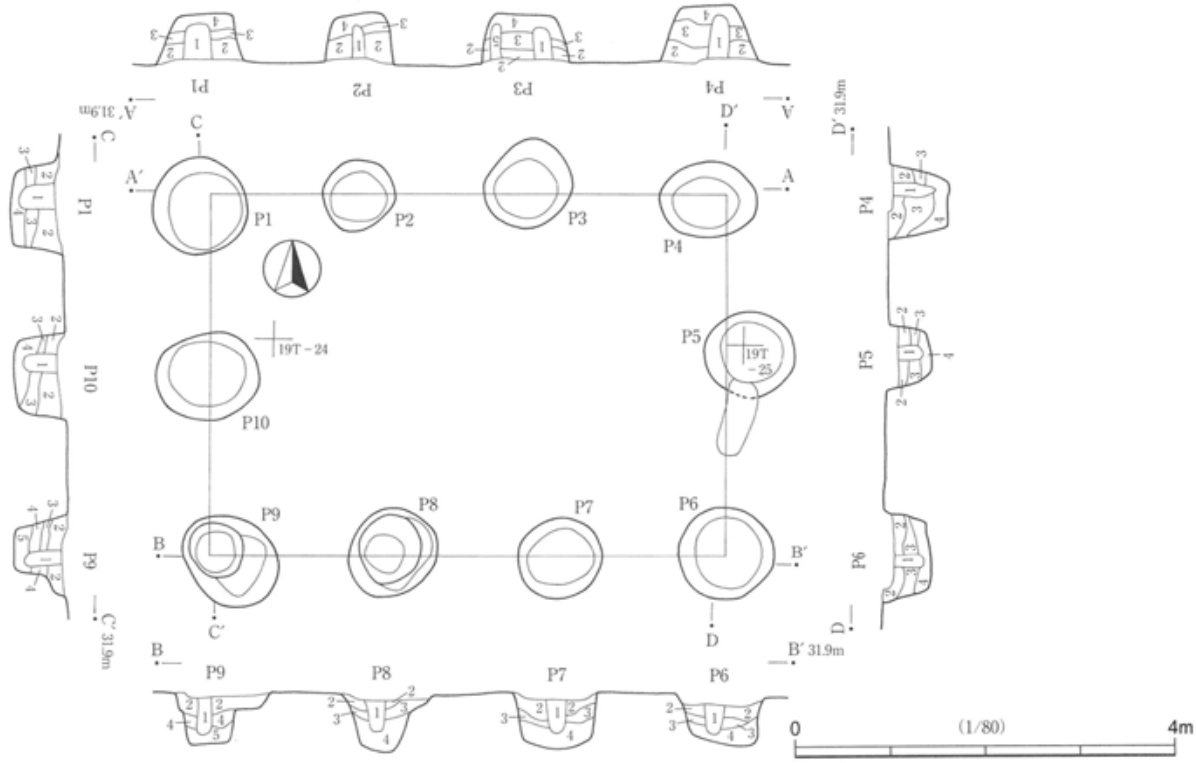
P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり
5. ロームブロック

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

0　(1/80)　4m

第510図　SB－046・047



SB－048土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒・炭化物粒少混，粘性強い，柱痕？
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粒子密
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，粘性強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，かたいしまり，粘性強い
5. 撹乱

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，かたいしまり
4. 褐色土　ロームブロック多混，粘性強い

P6
1. 黒褐色土　ローム粒多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P7
1. 黒褐色土　ローム粒・砂粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロック多混，粘性強い
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，かたいしまり
4. 暗褐色土　ローム粒多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粒子密
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い，真っ黒
4. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，粘性強い
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，粘性強い，粒子密

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混
3. 黄褐色土　ローム土
4. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，粒子密

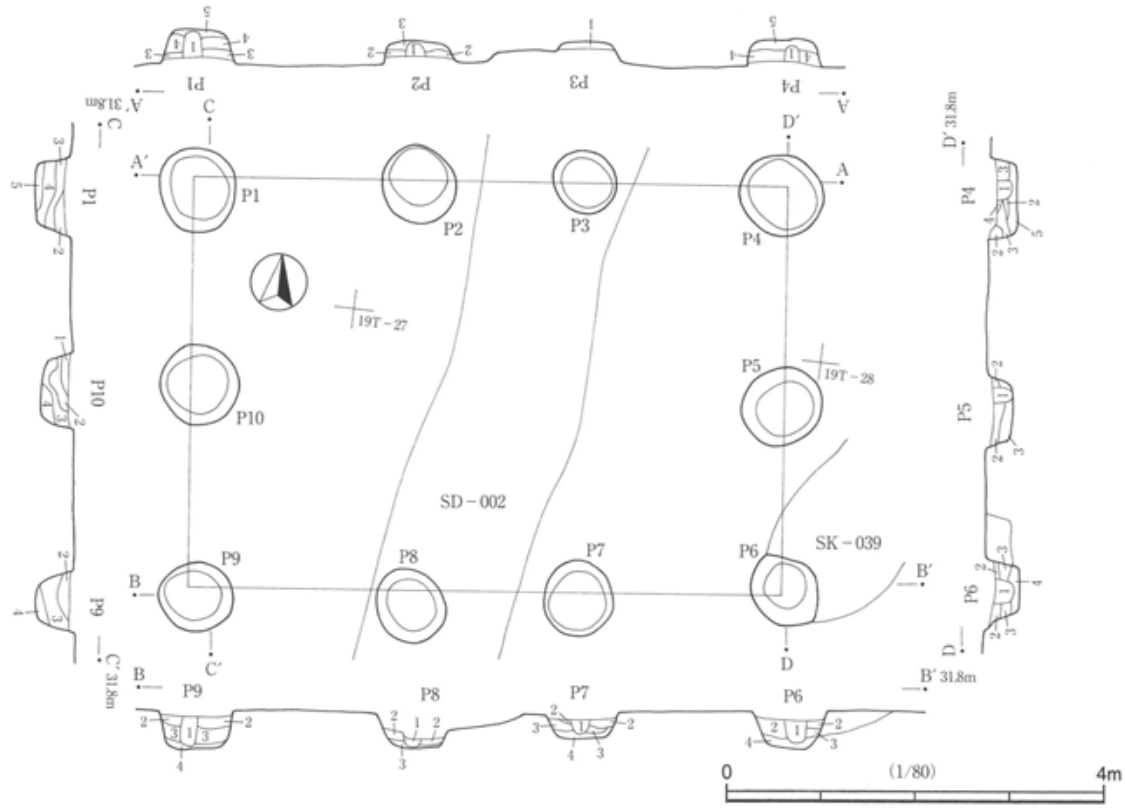
第511図　SB－048

SB－049（第512図，図版144）

遺跡南部中央の19T－27区に位置し，桁行方位N-85°-Eで柱穴の配置は正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。本遺構は掘立柱建物跡及び竪穴住居跡跡との重複はなく単独であるが，SD－002に中央部分をほぼ南北に切られている。柱穴深の平均は遺構確認面から約35cmで，柱穴径は76cm～92cm前後で径が大きいわりには深さがあまりない。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，全体的には粘性が強く固く締まっている。遺物は柱穴Ｐ２・Ｐ５・Ｐ７～Ｐ９の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－050（第513図，図版144）

遺跡南部北東寄りの20S－31区に位置し，桁行方位N-10°-Eで柱穴の配置は正確に対応する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。本遺構は掘立柱建物跡及び竪穴住居跡跡との重複はなく全くの単独である。柱穴深の平均は遺構確認面から約50cmで，柱穴径は87cm～124cm前後でしっかり掘られた柱穴である。



SB－049 土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，真っ黒
4. 暗褐色土　ローム粒多混
5. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，真っ黒
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P3
1. 褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，真っ黒
5. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 暗褐色土　ロームブロック少混

P6
1. 褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 黄褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，真っ黒
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，真っ黒
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，真っ黒
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

P9
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒少混，粘性強い
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，真っ黒
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い

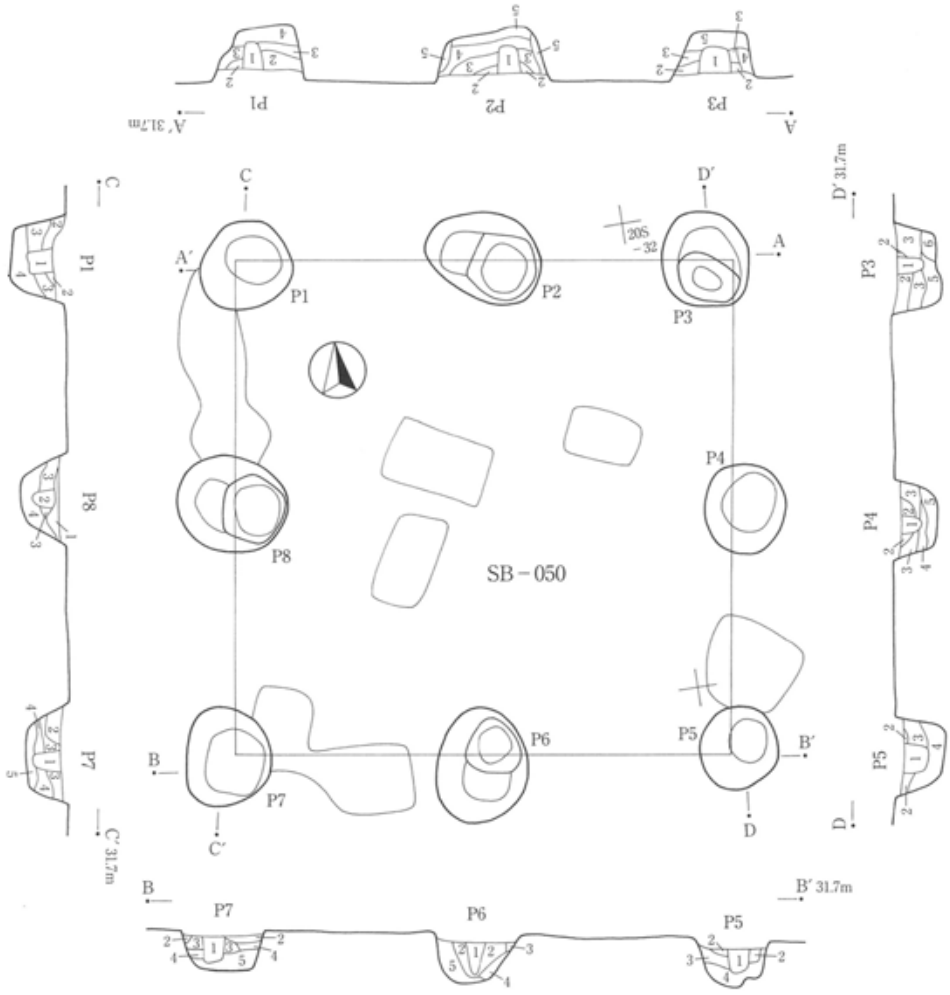
P10
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，粘性強い，かたいしまり，柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ロームブロック少混，粘性強い
4. 褐色土　ロームブロック多混，粒子密

第512図　SB－049

柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しており，全体的には固く締まっている。遺物は柱穴Ｐ２・Ｐ３・Ｐ６の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－051（第513図，図版144）

遺跡南部北東寄りの20S－63区に位置する。南辺側に庇が付く掘立柱建物跡であると思われる。身舎は桁行２間×梁行２間で梁行長の方が若干長く，柱穴Ｐ２・Ｐ７はやや外側にずれている。庇部の桁行長は約1.6m，梁行２間で梁行長は約3.8mを測り，桁行長が庇が付く他の掘立柱建物跡に比べると桁行長がやや長めである。本遺構は掘立柱建物跡及び竪穴住居跡跡との重複はなく全くの単独である。柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmで全体的に浅めである。柱穴径は36cm～48cm前後で小さめである。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ１～Ｐ４の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。



SB－050土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒小混．しまりあり．柱痕？
2. 褐色土　しまり・粘性なし
3. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり

P2
1. 黒褐色土　ローム粒多混．しまりあり．柱痕？
2. 褐色土　しまり・粘性なし
3. 褐色土　ローム粒多混．ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
5. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり

P3
1. 褐色土　ロームブロックやや多混．しまりあり．柱痕？
2. 褐色土　しまり・粘性なし
3. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり
4. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
5. 黒褐色土　ロームブロックやや多混．しまりあり
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混．粘性あり

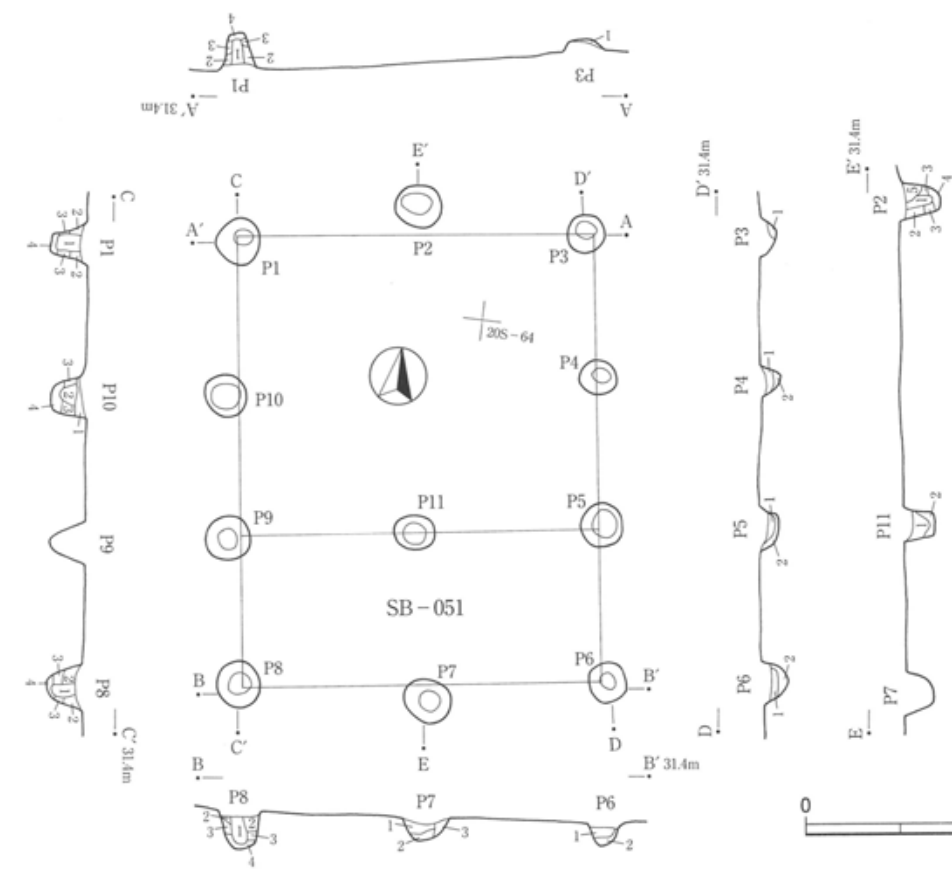
P4
1. 褐色土　ローム粒やや多混．砂質．柱痕？
2. 褐色土　しまりあり
3. 褐色土　ローム粒多混．粘性あり
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
5. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり

P5
1. 黒褐色土　しまりあり．柱痕？
2. 褐色土　しまりあり
3. 褐色土　ロームブロックやや多混．しまりあり
4. 褐色土　ローム粒多混．粘性あり

P6
1. 褐色土　ローム粒少混．しまりあり
2. 褐色土　ロームブロックやや多混．炭化物粒少混．しまりあり
3. 黄褐色土　ローム土
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
5. 黒褐色土　ローム粒多混．ロームブロックやや多混．しまりあり

P7
1. 黒褐色土　しまりあり
2. 褐色土　ローム粒多混．粘性あり
3. 黒褐色土　しまりあり
4. 褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり．粘性あり
5. 褐色土　ローム粒多混．しまりあり．粘性あり

P8
1. 黒褐色土　しまり・粘性なし
2. 褐色土　ローム粒やや多混．ロームブロック多混
3. 褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
4. 褐色土　ローム粒多混



SB－051土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ロームブロック少混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕？
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ロームブロック少混
5. 攪乱

P3
1. 暗褐色土　ロームブロック少混．粘性強い

P4
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 褐色土　ロームブロック少混

P5
1. 暗褐色土　ロームブロック少混．粘性強い
2. 褐色土　ロームブロック少混

P6
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 褐色土　ロームブロック少混

P7
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 褐色土　ロームブロック少混
3. 攪乱

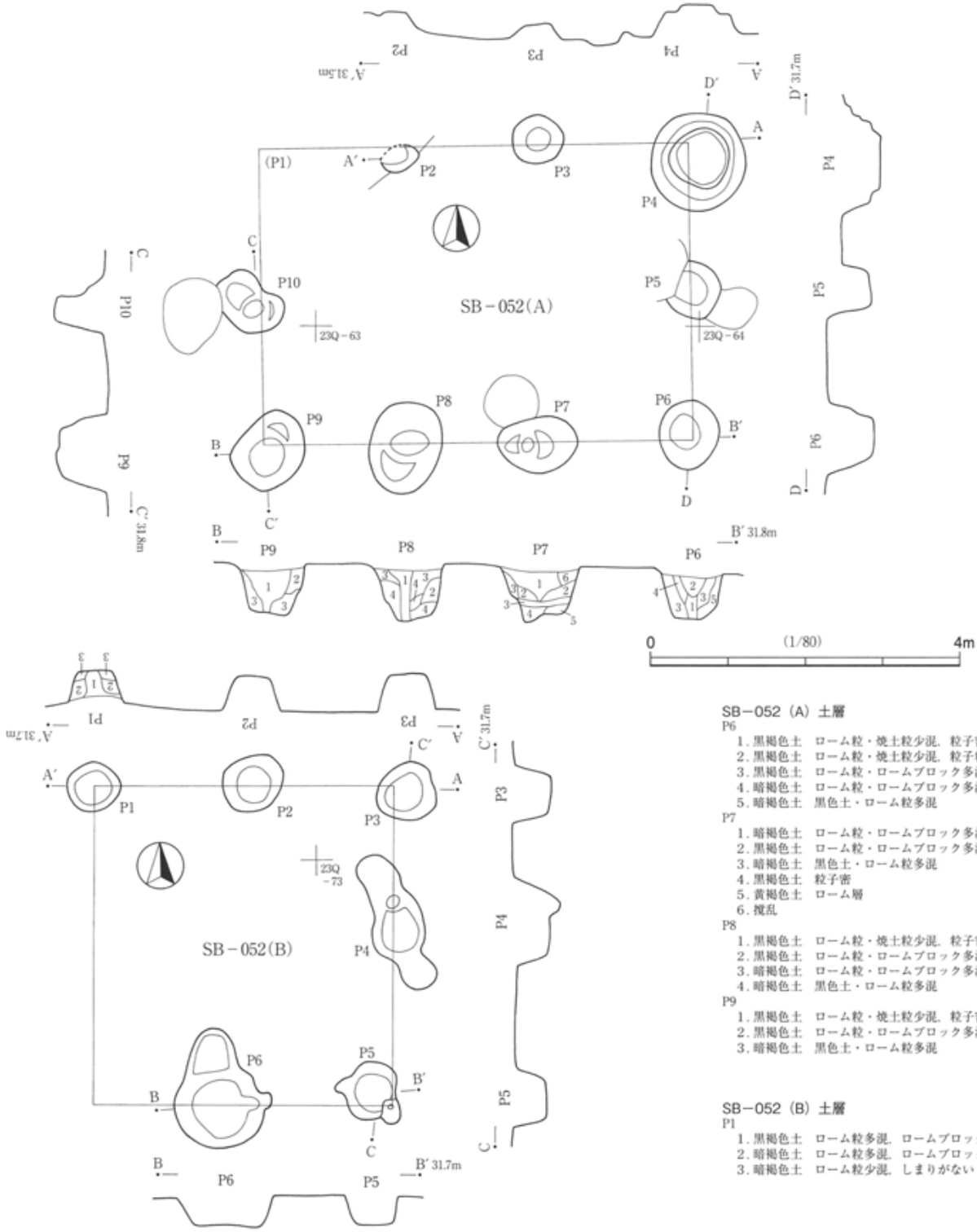
P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ロームブロック少混

P10
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ロームブロック少混

第513図　SB－050・051

SB－052（A）（第514図，図版145）

遺跡東部東寄りの23Q－63区に位置する。本遺構北西端部には撹乱があり柱穴Ｐ１は未検出で，Ｐ２がかろうじて底面が残る状態であるが，柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行方位N-90°-Eで桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。柱穴深の平均は遺構確認面から約48cmで，柱穴径は68cm～128cm前後でばらつきが大きく，特にＰ４は128cmときわめて大きい。柱穴覆土はローム粒とロームブロック



第514図　SB－052(A)・052(B)

がいずれの柱穴にも混入しているが，焼土粒を含む柱穴が多い。出土遺物はない。

SB－052（B）（第514図，図版145）

遺跡東部東寄りの23Q－72区に位置する。本遺構南西部には撹乱があり柱穴Ｐ７・Ｐ８は未検出で柱穴の配置も正確に対応しないが，桁行方位N-90°-Eで桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。柱穴深の平均は遺構確認面から約49cmで，柱穴径は68cm～125cm前後でばらつきが大きく，特にＰ４・Ｐ６はきわめて大きく不正形である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－053（第515図，図版145）

遺跡東部東寄りの23Q－60区に位置し，桁行方位N-19°-Eで柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。本遺構は北西側でSI－043（A）・043（B）と，東側でSI－046とそれぞれ重複する。重複して形が変化していない柱穴の平均深は遺構確認面から約53cmで，柱穴径は82cm～96cm前後でばらつきあまり認められない。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，焼土粒を含むものが多い。遺物はＰ４・Ｐ６～Ｐ８の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－054（第515・516図，図版145・299・300）

遺跡中央部東寄りの21Q－29区に位置し，SB－059の東側に近接する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，柱穴の配置はほぼ正確に対応し，SB－059と北西側で重複する。桁行方位はN-78°-Eで重複して形が変化していない柱穴の平均深は遺構確認面から約71cmで，柱穴径は82cm～120cm前後でしっかり掘られた柱穴である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，焼土粒及び炭化物粒を含むものもある。遺物はすべての柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものは５点のみである。

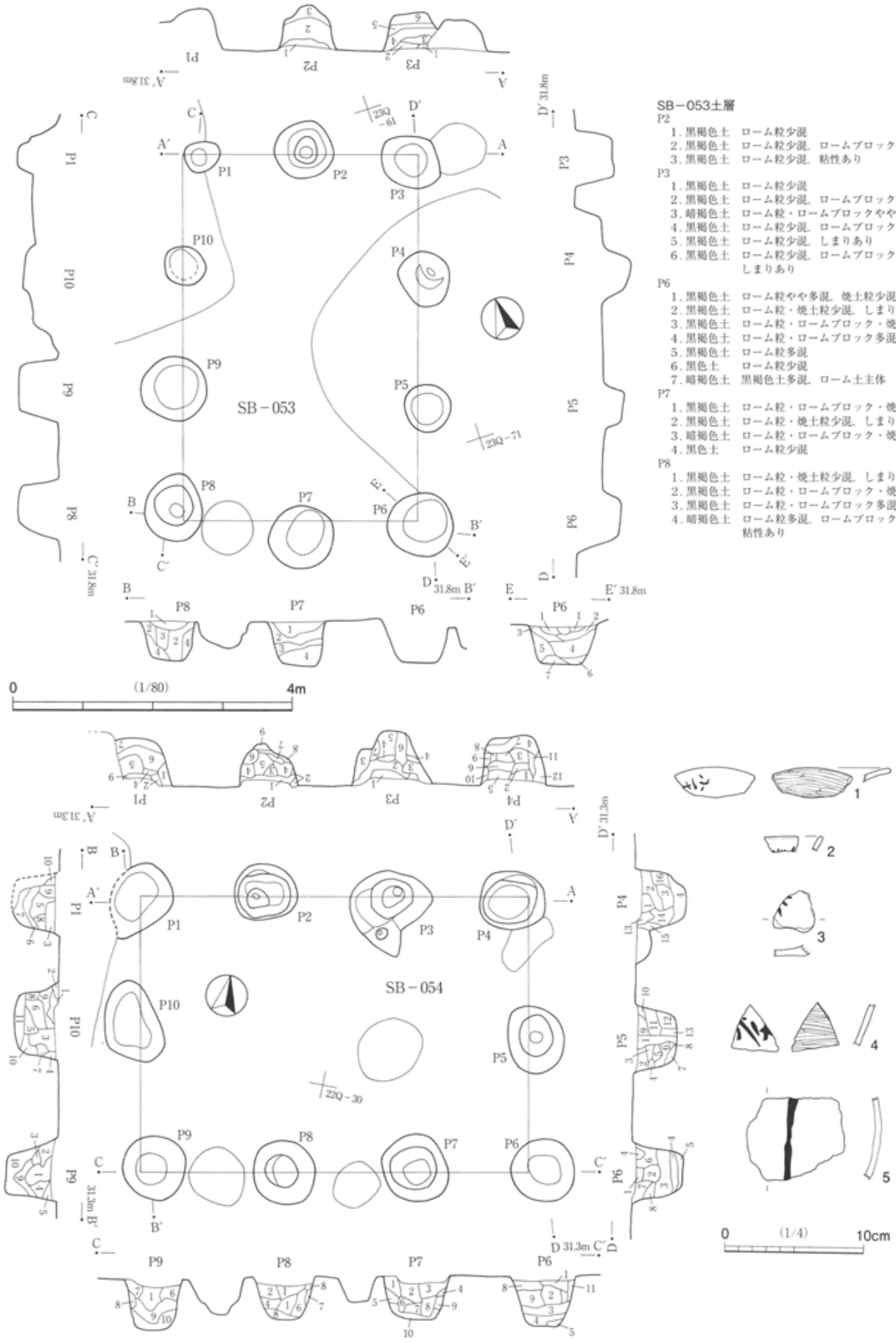
１は土師器の皿口縁部片でＰ９の覆土内出土である。色調は内外面ともに橙色を呈し，胎土は金雲母及び砂粒がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は外面に回転ナデが，内面に回転ナデ後丁寧なミガキが施されている。外面は墨書があり「小・千」と読めるが意味は不明である。

２は土師器の杯口縁部片でＰ２の覆土一括出土である。色調は内外面ともに明黄褐色を呈し，胎土は砂粒がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は内外面ともに回転ナデが施されている。外面は墨書がかろうじて見えるが判読不明である。

３は土師器の杯底部片でＰ５の覆土一括出土である。色調は内外面ともに赤褐色を呈し，胎土は石英及び砂粒がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は外面に回転ヘラケズリが，内面に回転ナデが施されている。底部外面は墨書がかろうじて見えるが判読不明である。

４は土師器の杯体部片でＰ10の覆土内出土である。色調は内外面ともに橙色を呈し，胎土は金雲母及び砂粒がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は外面に回転ナデが，内面に丁寧なミガキが施されている。外面は墨書があるが判読不明である。

５は土師器の甕胴部片でＰ７の覆土内出土である。色調は外面が渋い赤褐色，内面が明赤褐色を呈し，胎土は金雲母及び砂粒がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は内外面ともに回転ナデが施されている。外面はタールと思われる線文がある。



SB－053土層

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混．ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混．粘性あり

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混．ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混．ロームブロックやや多混
5. 黒褐色土　ローム粒少混．しまりあり
6. 黒褐色土　ローム粒少混．ロームブロックやや多混．しまりあり

P6
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．焼土粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混．しまりあり
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒少混
4. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混
6. 黒色土　ローム粒少混
7. 暗褐色土　黒褐色土多混．ローム土主体

P7
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混．しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒少混
4. 黒色土　ローム粒少混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混．しまりあり
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混．ロームブロックやや多混．粘性あり

第515図　SB－053・054

SB－054土層

P1
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
7. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
8. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
9. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
10. 暗褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混，炭化物粒少混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
6. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
7. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
8. 黄褐色土　ローム土
9. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまり強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりあり
4. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
5. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混
7. 黒褐色土　ロームブロックやや多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，しまり強い
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
6. 暗褐色土　褐色土・ロームブロックやや多混，しまりあり
7. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり
8. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり
9. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
10. 暗褐色土　ローム粒やや多混
11. 暗褐色土　ローム粒やや多混
12. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり
13. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
14. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまり強い
15. 暗褐色土　ローム粒多混，焼土粒少混
16. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
4. 黄褐色土　ローム土
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまり強い
6. 暗褐色土　ローム粒多混
7. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，しまり強い
8. 暗褐色土　ローム粒やや多混
9. 暗褐色土　ローム粒やや多混
10. 暗褐色土　ローム粒やや多混
11. 黒褐色土　ローム粒多混
12. 黒褐色土　ローム粒多混
13. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P6
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混，しまりあり
5. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
6. 暗褐色土　ローム粒多混
7. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
8. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
9. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
10. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
11. 暗褐色土　ローム粒少混

P7
1. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
6. 黒褐色土　ローム粒多混
7. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
8. 暗褐色土　ローム粒やや多混
9. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
10. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混，しまり強い

P8
1. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　黒褐色土少混，ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒やや多混
6. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
7. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
8. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混，しまり強い

P9
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒多混
6. 暗褐色土　ロームブロック多混
7. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
8. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
9. 暗褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混
10. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまり強い

P10
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混
5. 黒褐色土　ロームブロック多混
6. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
7. 黒褐色土　ローム粒少混
8. 黒褐色土　ローム粒多混
9. 黒褐色土　ロームブロック多混
10. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまり強い
11. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混，しまり強い

SB－055土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり
4. 暗褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり
5. 黒褐色土　粒子密，しまりあり

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり
4. 黒褐色土　粒子密，しまりあり

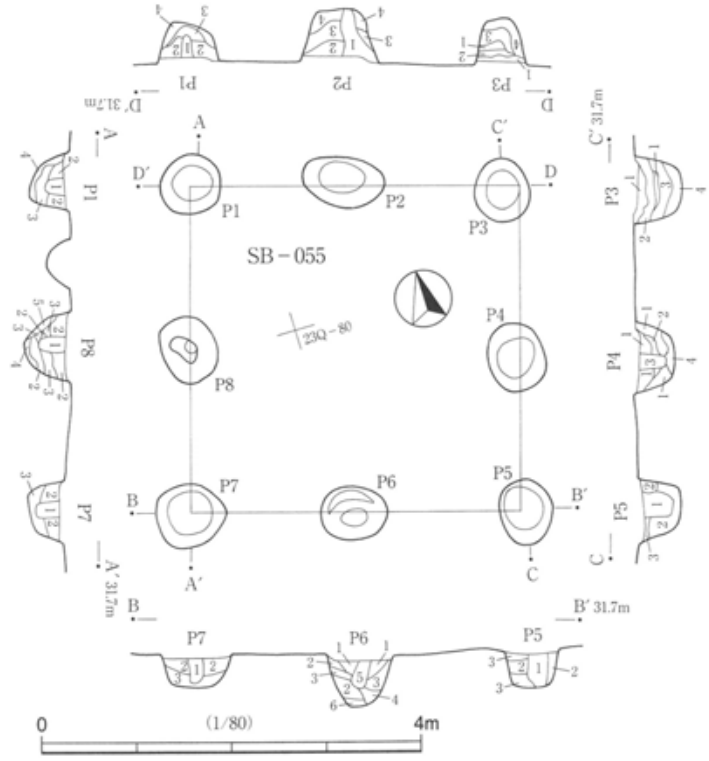
P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　粒子密，しまりあり

P5
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混
6. 黒褐色土　粒子密，しまりあり

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　粒子密，しまりあり

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕？
2. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，粘性あり
4. 黒褐色土　粒子密，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒多混



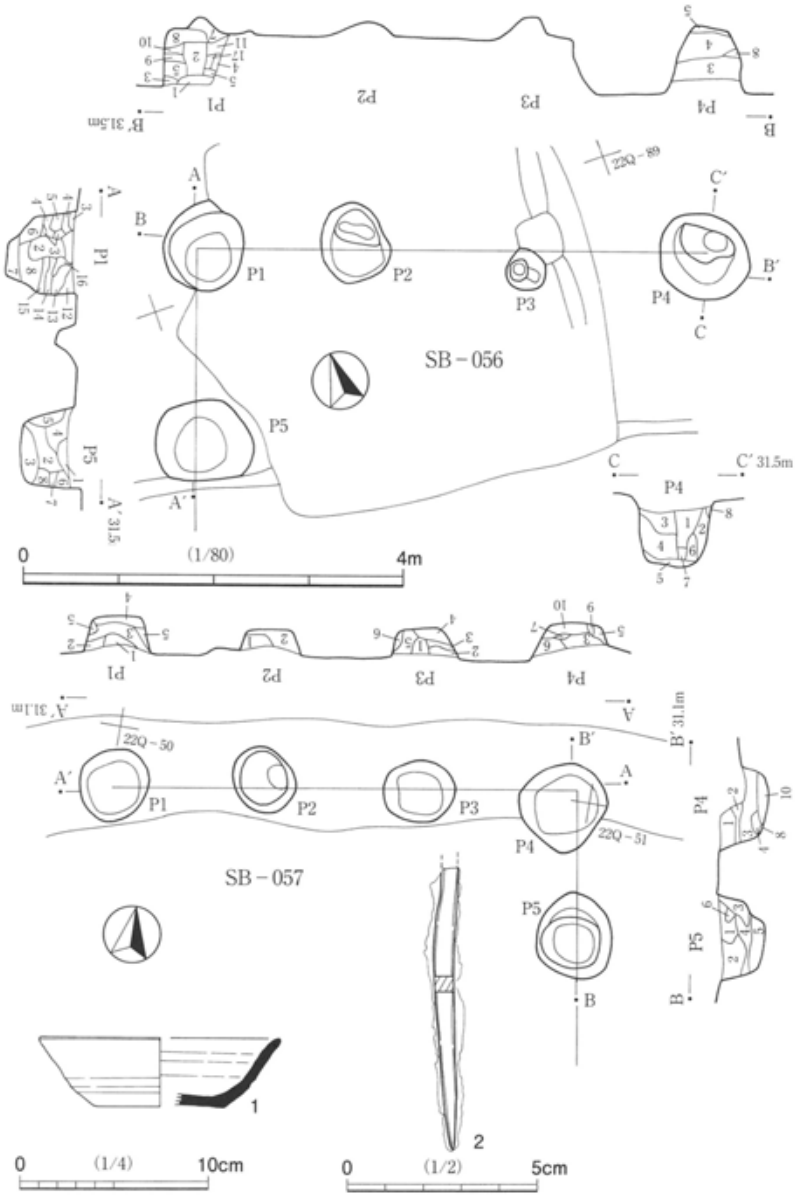
第516図　SB－054・055

SB－055（第516図，図版145）

遺跡東部東寄り23Q－80区に位置し，SB－056の東側に近接する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡で，柱穴の配置はほぼ正確に対応し，他遺構との重複はなく単独である。桁行方位はN-16°-Eで柱穴の平均深は遺構確認面から約48cmで，柱穴径は60cm～88cm前後でほとんどばらつきなく掘られた柱穴である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－056（第517図，図版145）

遺跡東部中央の22Q－88区に位置し，SB－055の西側に近接する桁行３間の掘立柱建物跡であると思わ



SB－056土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，焼土粒少混，柱痕？
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ローム粒多混，焼土ブロック少混
6. 暗黄褐色土　ローム土主体，褐色土・ローム粒やや多混
7. 黄褐色土　ローム土，しまり強い
8. 暗褐色土　ローム粒やや多混
9. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
10. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
11. 暗褐色土　ローム粒やや多混
12. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
13. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまり強い
14. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混，しまりあり
15. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混，しまりあり
16. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
17. 黒褐色土　ローム粒やや多混

P4
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混，柱痕？
2. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
4. 黒褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混
5. 暗赤褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
6. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
7. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
8. 黄褐色土　ローム土，しまりあり

P5
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまり強い
4. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒やや多混
5. 暗褐色土　ローム粒多混
6. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
7. 黒褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
8. 黒褐色土　ロームブロック多混

SB－057土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，焼土粒少混，しまりあり
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土ブロックやや多混，しまりあり
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，しまり強い
5. 暗褐色土　ローム粒多混
6. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまり強い

P2
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，焼土粒少混，しまりあり
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，しまり強い

P3
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，焼土粒少混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　黒褐色土少混，ローム粒やや多混，しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混，しまりあり
6. 黒褐色土　ローム粒やや多混

P4
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまり強い
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
6. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロック少混，しまりあり
7. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
8. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
9. 黒褐色土　ローム粒やや多混
10. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりあり

P5
1. 暗赤褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
3. 暗褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混，しまりあり
4. 黒褐色土　ローム粒多混，しまりあり
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混，しまりあり
6. 撹乱

第517図　SB－056・057

れ，柱穴の半分以上がSI－050と全面的に重複しており未検出のため梁行は不明である。桁行方位はN-71°-Wで検出された柱穴の平均深は遺構確認面から約70cmで，柱穴径は72cm～108cm前後である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ１・Ｐ５には焼土ブロック・焼土粒が含まれている。遺物は検出されたすべての柱穴の覆土内から出土したが，図示できたものはない。

SB－057（第517図，図版145・300・308）

遺跡東部中央の22Ｑ－50区に位置する。本遺構の南側は斜面で南辺側の柱穴は未検出のため梁行は不明

であるが，桁行３間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-75°-Eで検出された柱穴の平均深は遺構確認面から約40cmで，柱穴径は64cm～100cm前後である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ１～Ｐ３には焼土ブロック・焼土粒が含まれている。遺物は検出されたすべての柱穴の覆土内から出土したが，図示できたものは２点のみである。

１は須恵器の杯でＰ３の覆土内出土である。色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は砂粒がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は外面は底部及び周縁部に回転ヘラケズリが施され，切り離し技法は不明である。また，外面体部から口縁部に回転ナデが，内面全体に回転ナデが施されている。内外面は何本もの火襷が認められる。

２は棒状の鉄製品である。上部を欠くが，やや尖った下端が遺存する。鉄鏃の茎，紡錘具の柄，何らかの工具，漁具等，様々に考えられるが，特定しがたい。Ｐ２の覆土内出土である。残存長73.0mm・断面部位幅5.0mm・断面部位厚4.0mm，重量は6.3ｇである。

SB－058（第518図，図版145）

遺跡東部中央の22Ｑ－31区に位置する。本遺構の東側は送電線鉄塔があるため調査不能であり，西側はSI－053・054と重複しているため柱穴は未検出で梁行は不明であるが，桁行３間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-37°-Wで検出された柱穴の平均深は遺構確認面から約34cmで，柱穴径は72cm～88cm前後である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ２・Ｐ４には焼土粒が含まれている。遺物は柱穴Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５の覆土内から出土したが，図示できたものはない。

SB－059（第518図，図版145）

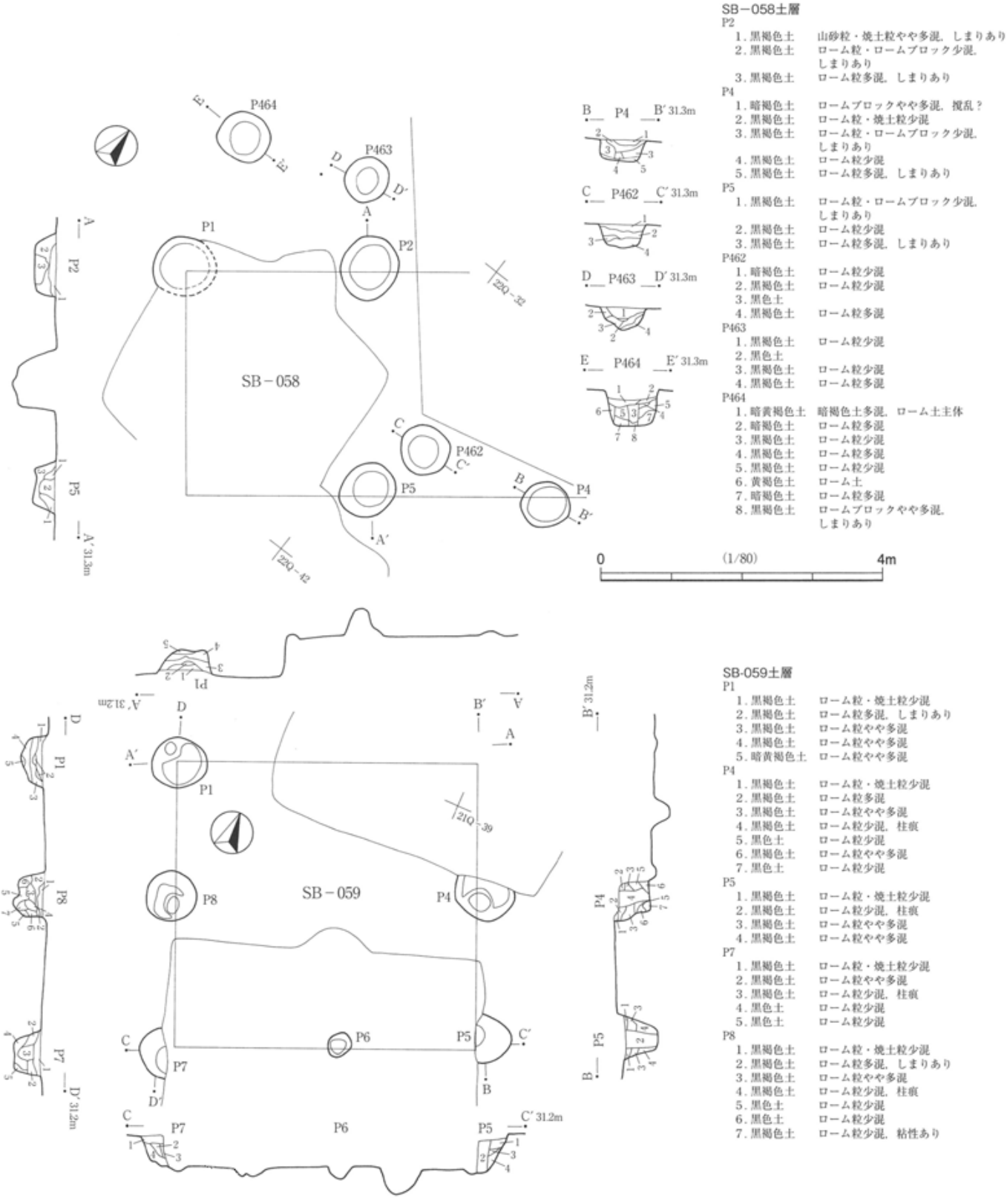
遺跡中央部東寄りの21Ｑ－38区に位置する。本遺構はSI－059・060と重複しておりＰ２・Ｐ３は未検出であるが，桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-67°-Eで検出された柱穴の平均深は遺構確認面から約46cmで，柱穴径は72cm～88cm前後である。柱穴覆土はローム粒と焼土粒がいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ６を除く検出されたすべての柱穴の覆土内から出土したが，図示できたものはない。

SB－060（第519図，図版146）

遺跡南部南端斜面部の19Ｖ－30区に位置する。SI－079と重複し，西辺側に庇が付く掘立柱建物跡で，北側には柱穴が４基検出され桁行４間の可能性もあるが，直列しないため身舎は桁行３間×梁行２間であると思われる。庇は梁行方向に伸び桁行方位はN-37°-Eである。身舎部のすべての柱穴の配置はほぼ正確に対応しており，庇部は桁行３間で桁行長は約5.0m，梁行長は約1.1mを測る。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約68cmで，ばらつきはあまり見られず柱穴深はほぼ同規模である。庇部の柱穴深は40cm前後で，全体的に身舎部分の平均柱穴深より浅い。庇部の柱穴径は76cm～108cm前後で身舎部の柱穴径とほぼ同じで，全体的に大きさのばらつきは見られない。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はＰ８・Ｐ９・Ｐ12～Ｐ14を除く各柱穴覆土内から出土し一括で取り上げたが，図示できたものはない。

SB－061（第520図，図版146）

遺跡南部南端斜面部の19Ｖ－02区に位置する。SB－060の北西側に近接し，SI－108・SB－070と重複する。北辺側に庇が付く掘立柱建物跡で，身舎部の柱穴配置は東辺側は等間隔であるが，西辺側で等間隔で



第518図　SB－058・059

はない。身舎は桁行３間×梁行２間で，庇は桁行方向に伸び桁行方位はN-32°-Eである。庇部は梁行２間で桁行長は約1.0m，梁行長は約4.2mを測る。身舎部分の柱穴深の平均は遺構確認面から約48cmで，ばらつきはあまり見られず柱穴深はほぼ同規模である。庇部の柱穴深は58cm前後で，全体的に身舎部分の平

SB－060土層

P1
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混

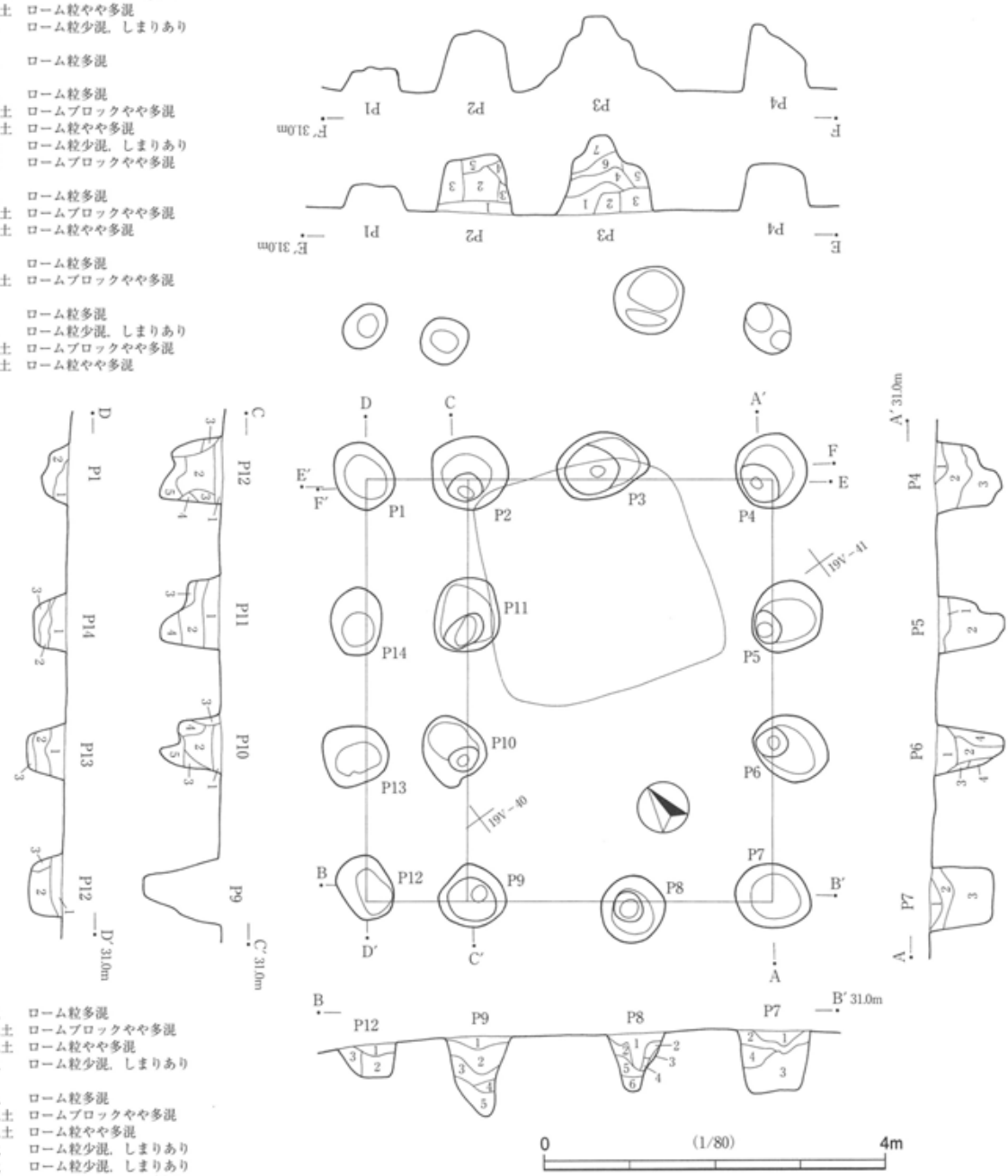
P2
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
3. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
5. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり

P3
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 攪乱
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
5. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
6. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
7. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P4
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混

P5
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混

P6
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
3. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
4. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混



P7
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり

P8
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
6. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P9
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P10
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
5. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

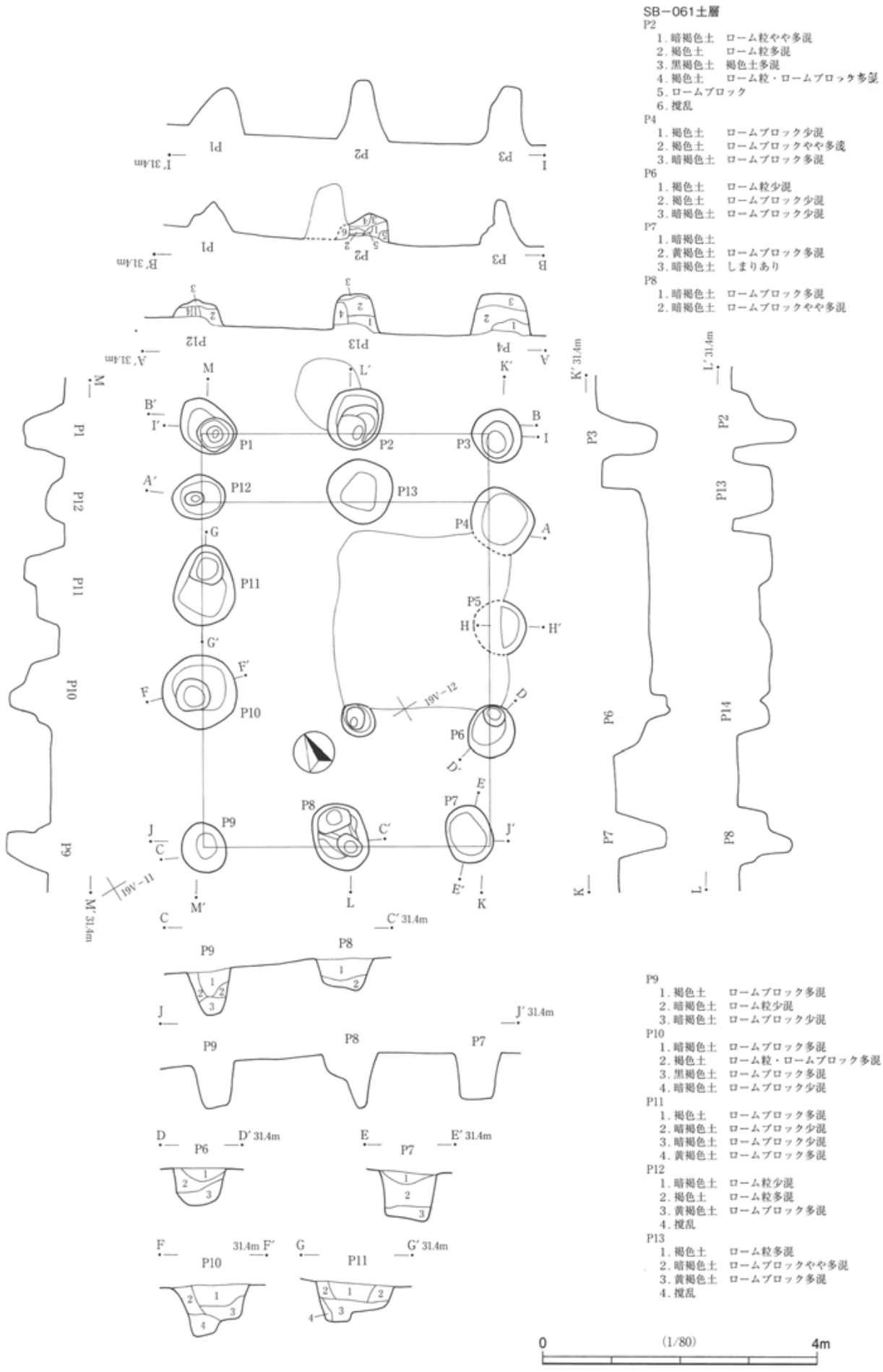
P11
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P12
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混

P13
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混

P14
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗黄褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混

第519図　SB－060


SB－061土層
P2
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　褐色土多混
4. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
5. ロームブロック
6. 撹乱
P4
1. 褐色土　ロームブロック少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
P6
1. 褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
P7
1. 暗褐色土
2. 黄褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　しまりあり
P8
1. 暗褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
P9
1. 褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
P10
1. 暗褐色土　ロームブロック多混
2. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ロームブロック少混
P11
1. 褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混
4. 黄褐色土　ロームブロック多混
P12
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 黄褐色土　ロームブロック多混
4. 撹乱
P13
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 黄褐色土　ロームブロック多混
4. 撹乱
0
(1/80)
4m

第520図　SB－061

均柱穴深より深い。底部の平均柱穴径は70cm～80cm前後で身舎部の柱穴径とほぼ同一であるが，Ｐ９で68cmと小さくＰ10で118cmと大きく全体的に大きさのばらつきが見られる。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。出土遺物はない。

SB－062（第521図，図版146・300）

遺跡南部南東寄りの20U－82区に位置する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，他遺構との重複はなく単独である。柱穴の配置はほぼ正確に対応し，桁行方位はN-9°-Wで柱穴の平均深は遺構確認面から約92cmで，柱穴径は84cm～120cm前後でしっかり掘られた柱穴である。柱穴覆土はローム粒とロームブロックがいずれの柱穴にも混入している。遺物はすべての柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものは３点のみである。

１は須恵器の杯でＰ４の覆土内一括出土である。復元口径13.8cm，底径8.7cm，器高3.9cmで色調は内外面ともに赤灰色を呈し，胎土は長石がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は外面は底部に回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリが，底部周縁部に手持ちヘラケズリが，体部にロクロナデが施され，切り離し技法は回転ヘラ切りである。内面は全体にロクロナデが施されている。

２は茨城産の須恵器の杯片でＰ７の覆土内一括出土である。復元口径13.8cm，底径8.3cm，器高4.2cmで色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は金雲母がやや多く含まれ密で焼成は良好である。調整は外面は底部に回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリが，底部周縁部に手持ちヘラケズリが，体部にロクロナデが施され，切り離し技法は不明である。内面は全体にロクロナデが施されている。

３は土師器の蓋でＰ２の覆土内一括出土である。最大径13.6cmで色調は内外面ともににぶい褐色を呈し，胎土は白色針状物質が微量に含まれ密で焼成は良好である。調整は外面はヘラによるヨコナデが，内面は全体にロクロナデが施されている。

SB－063（第522図，図版146）

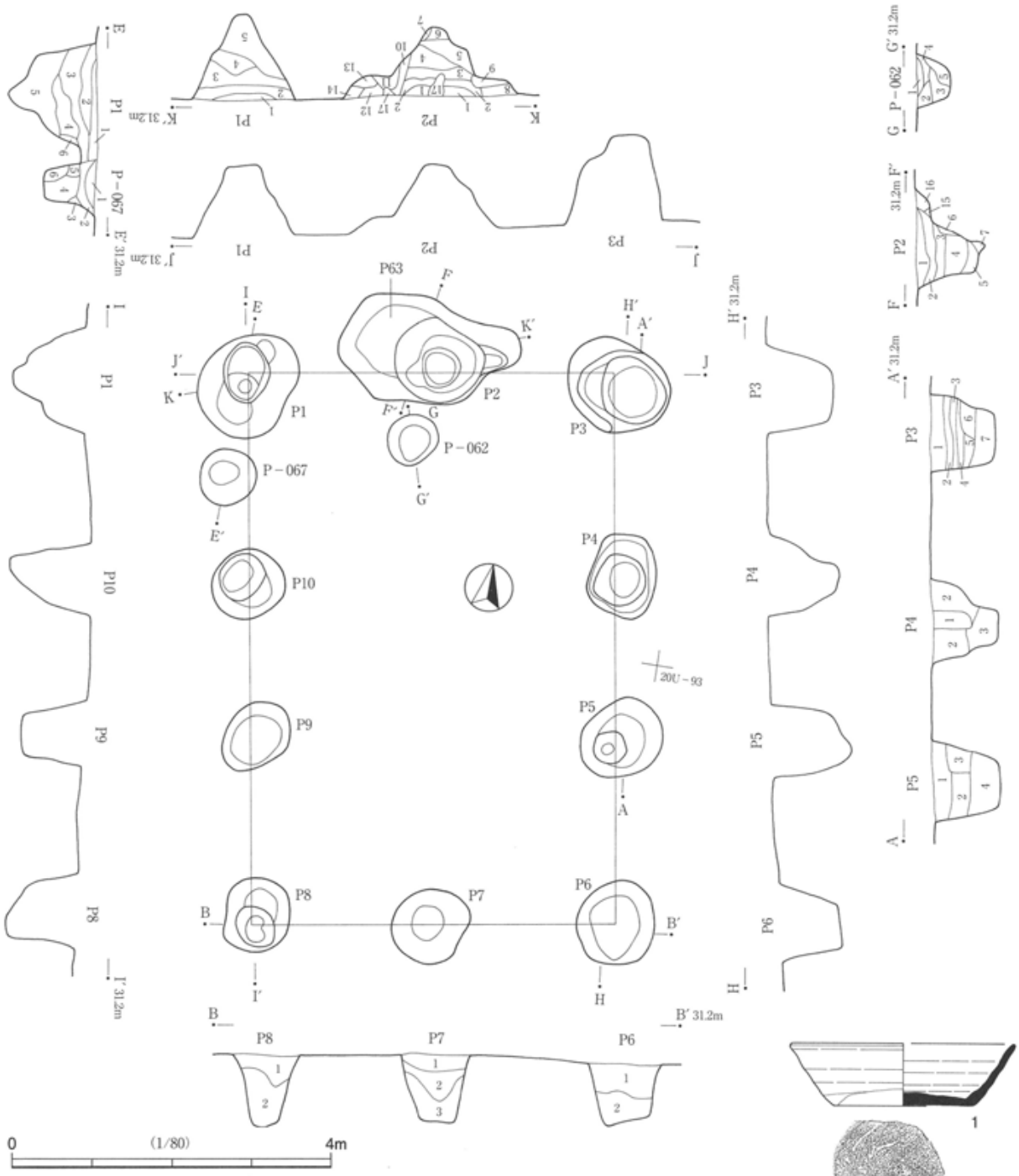
遺跡南部中央やや西寄りの18T－60区に位置し，SB－068の北側に近接する桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡で，柱穴の配置はＰ２・Ｐ３で柱穴間隔がやや狭まる以外はほぼ正確に対応し，北東側でSI－104と西側でSB－107とそれぞれ重複する。桁行方位はN-11°-Wで重複して形が変化していない柱穴の平均深は遺構確認面から約32cmと浅く，柱穴径は56cm～96cm前後で全体的に小さな柱穴である。柱穴覆土はローム粒がいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ１・Ｐ５の覆土には焼土粒が若干含まれている。遺物はＰ２・Ｐ７・Ｐ８・Ｐ11を除く柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

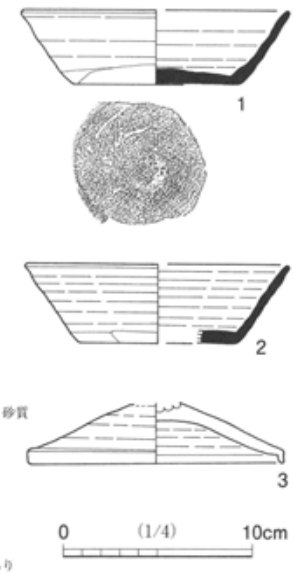
SB－064（第522図，図版147）

遺跡南部西端の17T－38区に位置し，SB－065の西側に近接する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，柱穴の配置は正確に対応し，他遺構との重複はなく単独である。桁行方位はN-3°-Eで柱穴の平均深は遺構確認面から約45cmと浅く，柱穴径は56cm～76cm前後で全体的に小さな柱穴である。柱穴覆土はローム粒がいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ５の覆土には焼土粒が若干含まれている。遺物はＰ１～Ｐ３を除く柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－065（第523図，図版147）

遺跡南部中央やや西寄りの18T－30区に位置し，SB－069の北側に近接する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，柱穴の配置は正確に対応し，他遺構との重複はなく単独である。桁行方位はN-13°-Wで柱穴の平均深は遺構確認面から約43cmと浅く，柱穴径は80cm～108cm前後でやや大きい柱穴である。柱穴覆





SB－062土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混．しまりあり
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒多混．ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．粘性強い
6. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質

P2
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混．粘性あり
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．しまり強い
5. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
6. 暗黄褐色土　暗褐色土やや多混．ローム土主体
7. 黄褐色土　ローム土
8. 暗褐色土　ローム粒やや多混．砂質
9. 黄褐色土　ローム土
10. 黒褐色土　ローム粒少混
11. 暗黄褐色土　暗褐色土やや多混．ローム土主体
12. 黒褐色土　ローム粒多混
13. 黒褐色土　ローム粒やや多混．砂質
14. 黄褐色土　ローム土
15. 暗褐色土　ローム粒やや多混
16. 暗褐色土　ローム粒やや多混
17. 攪乱

P3
1. 暗褐色土　ロームブロック多混
2. 黒褐色土　ロームブロック少混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ロームブロック少混
5. 暗褐色土　ロームブロック少混
6. 黒褐色土　ローム粒多混
7. 暗褐色土　ロームブロック多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混．柱痕
2. 黄褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混

P5
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混

P6
1. 黄褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混

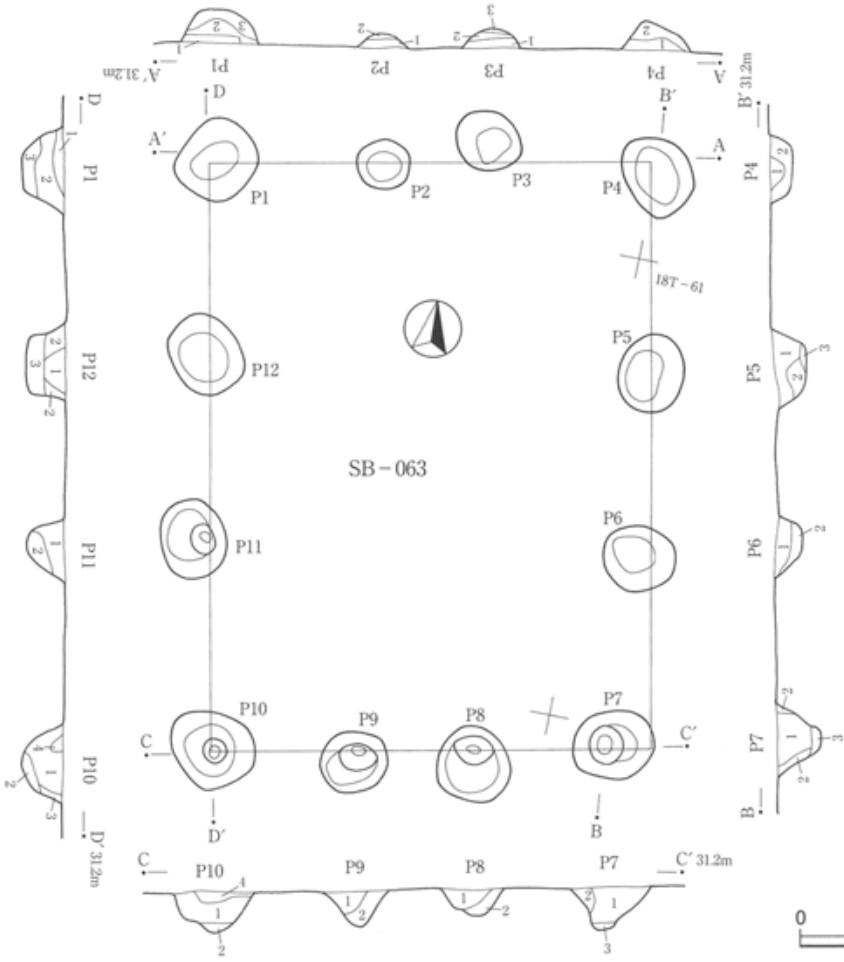
P7
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混

P8
1. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混

P11
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．砂質
3. 黄褐色土　ローム土
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混
5. 黒褐色土　ロームブロック多混．しまり良
6. 暗褐色土　ローム・ハードローム混．しまり良

P12
1. 黒褐色土　砂質
2. 暗褐色土　ローム粒多混．砂質
3. 暗褐色土　褐色土・ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　褐色土・ローム粒やや多混．しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒多混

第521図　SB－062



SB－063土層

P1
1. 黄褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黄褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　ローム粒多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム粒多混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒色土　ローム粒少混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黄褐色土　ローム粒多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕
2. 黄褐色土　ローム粒多混，壁の崩落
3. 暗褐色土　ローム粒多混

P8
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混

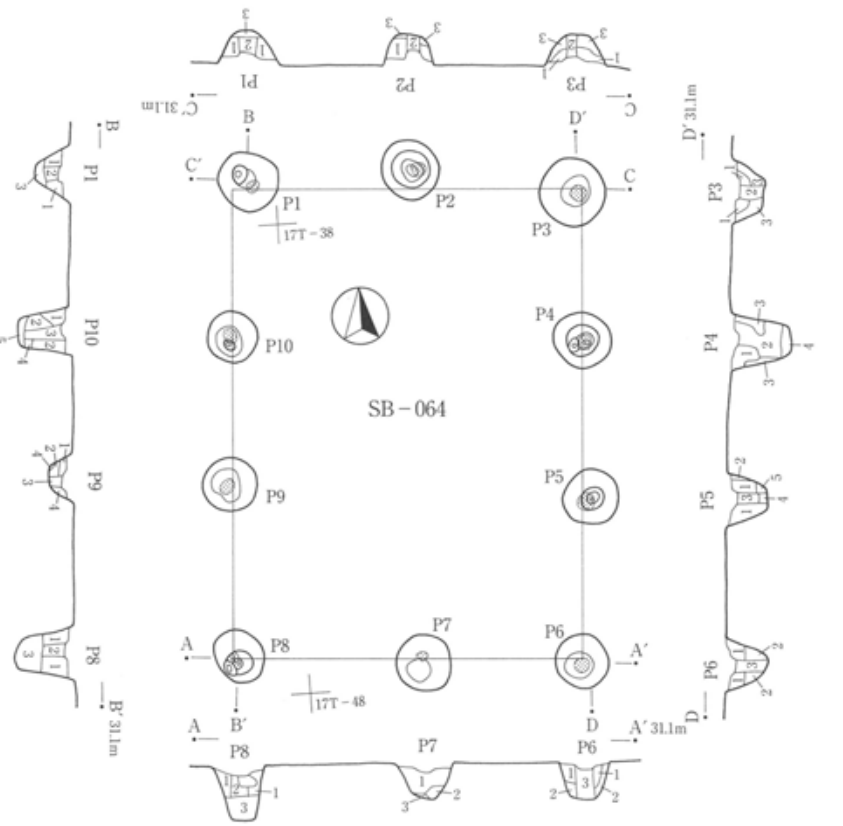
P9
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混

P10
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム粒多混
4

P11
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混

P12
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒色土　ローム粒少混，粘性あり

0　(1/80)　4m



SB－064土層

P1
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 黒褐色土　柱痕
3. 褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混，柱痕
3. 褐色土　ローム粒多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ローム粒多混，柱痕
3. 黄褐色土　ローム粒多混

P4
1. 暗褐色土　褐色土多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム粒多混
4. 褐色土　ローム粒多混

P5
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　褐色土多混，焼土粒少混，柱痕
4. 褐色土　ローム粒多混，柱痕
5. 黄褐色土　ローム粒多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，柱痕

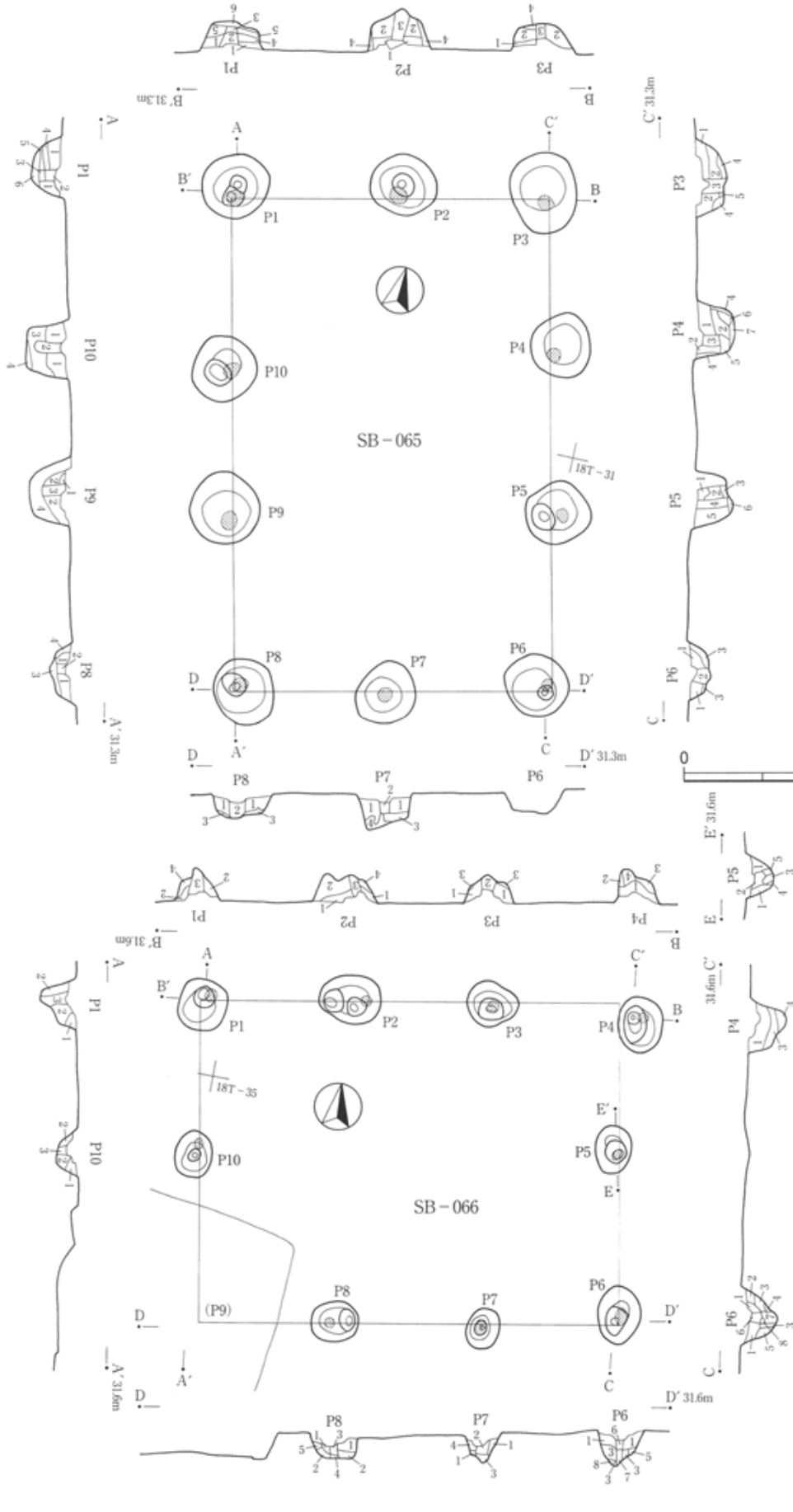
P7
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 黄褐色土　ローム粒多混

P8
1. 黒褐色土　褐色土多混，ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒少混，柱痕
3. 褐色土　ローム粒多混

P9
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，柱痕
4. 黄褐色土　ローム粒多混

P10
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　柱痕
4. 黄褐色土　ローム粒多混
5. 褐色土　ローム粒多混

第522図　SB－063・064



SB－065土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒色土　柱痕
3. 暗褐色土　ローム粒少混，柱痕
4. 黄褐色土　ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混
6. 黄褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　褐色土多混，ローム粒少混
3. 黒褐色土　褐色土多混，柱痕
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒多混，しまりあり
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり
5. 黒色土　しまりあり

P4
1. 黒色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　褐色土多混
3. 暗褐色土　褐色土多混，柱痕
4. 褐色土　ローム粒多混
5. 黒色土　ローム粒少混
6. 黒色土　ローム粒少混
7. 黒褐色土　しまりあり

P5
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混，柱痕
5. 黒褐色土　ローム粒少混
6. 暗褐色土　ローム粒やや多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混，柱痕
3. 黄褐色土　ローム粒多混

P7
1. 黒褐色土　焼土ブロック少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黄褐色土　ローム粒多混

P8
1. 黒褐色土　褐色土多混，ローム粒・焼土粒少混
2. 黒褐色土　柱痕
3. 黄褐色土　ローム粒多混
4. 暗褐色土　ローム粒少混

P9
1. 黒色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　褐色土多混
3. 黒色土　柱痕
4. 褐色土　ロームブロック多混

P10
1. 黒色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　褐色土・焼土粒少混
3. 暗褐色土　褐色土・ローム粒多混
4. 黒褐色土　かたい・しまり

SB－066土層

P1
1. 褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　褐色土多混
3. 黒褐色土　ローム粒多混
4. 黄褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　褐色土多混
3. 褐色土　ローム粒多混，柱痕
4. 黄褐色土　ローム粒多混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 褐色土　ローム粒多混，柱痕
3. 黄褐色土　ローム粒多混

P4
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 黄褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ローム粒多混

P5
1. 暗褐色土　褐色土少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕
3. 黄褐色土　ローム粒多混，柱痕
4. 暗褐色土　ローム粒少混
5. 黄褐色土　ローム粒多混

P6
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 暗褐色土　褐色土多混
3. 褐色土　ローム粒多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混
5. 黄褐色土　ローム粒多混
6. 黒褐色土　柱痕
7. 褐色土　ローム粒多混，柱痕
8. ロームブロック

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム粒多混
4. 攪乱

P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 褐色土　ローム粒多混，粘性・しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混
5. ロームブロック

P10
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 暗褐色土　褐色土多混
3. 褐色土　ローム粒少混，柱痕

第523図　SB－065・066

土はローム粒がいずれの柱穴にも混入しているが，焼土粒・焼土ブロックが含まれる柱穴もある。また，すべての柱穴で柱痕が確認できた。遺物はＰ８を除く柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－066（第523図，図版147）

遺跡南部中央やや西寄りの18T－35区に位置し，SB－067の西側に近接する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，北辺中央部でSI－084と南西端部でSI－085とそれぞれ重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応するが，SI－085と重複する部分の柱穴Ｐ９は未検出である。桁行方位はN-80°-Eで柱穴の平均深は遺構確認面から約41cmと浅く，柱穴径は44cm～80cm前後で全体的に小さな柱穴である。柱穴覆土はローム粒がいずれの柱穴にも混入している。また，検出されたすべての柱穴で柱痕が確認できた。遺物はＰ４・Ｐ６・Ｐ10を除く柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－067（第524図，図版147）

遺跡南部中央やや西寄りの18T－37区に位置する。SB－067の東側に近接し，柱穴の配置は若干の歪みがあるが桁行３間×梁行２間の総柱建物跡で，他遺構との重複はなく単独である。本遺構中央部にある東柱Ｐ11・Ｐ12を除いた柱穴深の平均は遺構確認面から約35cmと浅く，東柱Ｐ11・Ｐ12の柱穴深は概ね50cmと東柱の方がやや深い。柱穴径は40cm～100cm前後とかなり差がある。柱穴覆土はローム粒がいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ10には若干の焼土粒，Ｐ11には炭化粒が混入している。遺物はＰ４・Ｐ５・Ｐ11を除くすべての柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－068（第525図，図版147）

遺跡南部中央やや西寄りの18T－80区に位置し，SB－063の南側に近接する桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡で，南西端部でSI－096・SI－099とそれぞれ重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応するが，重複する部分の柱穴は未検出である。桁行方位はN-1°-Eで柱穴の平均深は遺構確認面から約50cmと比較的浅く，柱穴径は36cm～52cm前後で全体的に小さな柱穴である。柱穴覆土はローム粒がいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ６には若干の焼土粒が混入している。また，検出されたすべての柱穴で柱痕が確認できた。遺物はＰ２・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ12の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

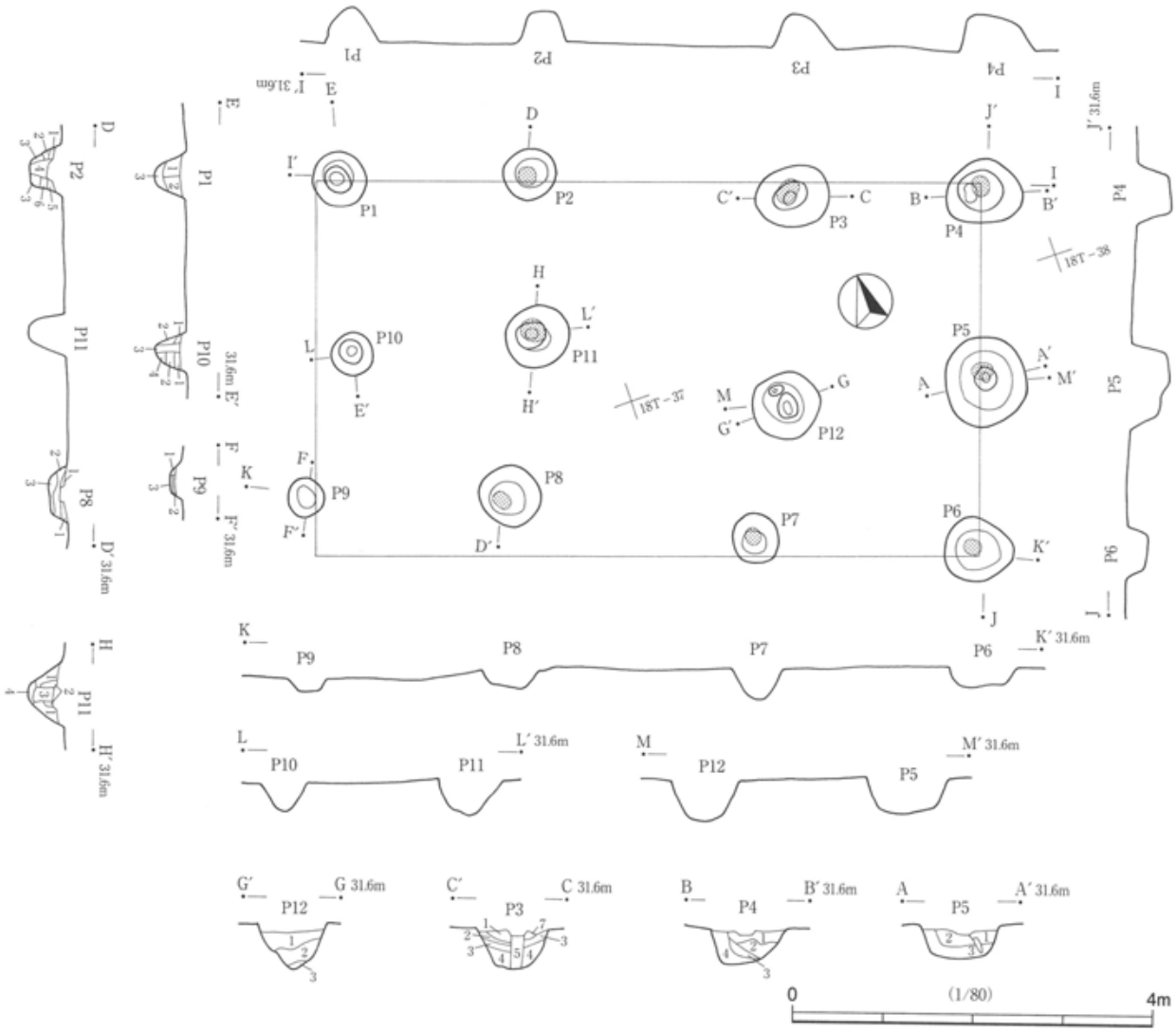
SB－069（第526図，図版147・310）

遺跡南部中央やや西寄りの18T－40区に位置する。SB－073の東側に近接し，柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行２間×梁行２間の総柱建物跡で，他遺構との重複はなく単独である。柱穴深の平均は遺構確認面から約52cmと比較的浅く，特に北辺中央Ｐ２と南辺中央Ｐ６の柱穴深は概ね20cm前後ときわめて浅い。柱穴径は44cm～132cm前後とかなり差がある。柱穴覆土はローム粒がいずれの柱穴にも混入しているが，Ｐ１～Ｐ５には若干の焼土粒が混入している。遺物は東柱と思われるＰ９を除くすべての柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものは１点のみである。

１は柱穴Ｐ６覆土内一括出土の鉄製鎌の刃部片で全長8.4cm・幅2.5cm・厚0.2cmを測る。

SB－070（第527図，図版147）

遺跡南部南端斜面部の19V－02区に位置する。SB－061・SI－108と完全に重複し，柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行５間×梁行３間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-40°-E柱で柱間寸法は桁行方向で約1.4m，梁行方向で約2.1mで梁行方向の柱間寸法の方が大きい。柱穴深の平均は遺構確認面から約58cmであるが，北辺側の柱穴深が全体的に深く80cm前後ある。柱穴径は80cm～120cm前後とかなり大きめで



SB－067土層

P1
1．黒褐色土　焼土粒少混，柱痕
2．暗褐色土　ローム粒多混
3．褐色土　ローム粒多混

P2
1．黄褐色土　ロームブロック多混
2．黒色土　ローム粒少混
3．褐色土　ローム粒多混
4．黒褐色土　褐色土多混，柱痕
5．黒褐色土
6．暗褐色土　ローム粒多混

P3
1．黒褐色土　ローム粒やや多混，焼土粒少混
2．褐色土　ローム粒多混
3．黒褐色土　ローム粒やや多混
4．暗褐色土　ローム粒多混
5．黒褐色土　褐色土多混，柱痕

P4
1．黒褐色土　ローム粒少混
2．褐色土　ローム粒多混
3．黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
4．暗褐色土　ローム粒多混

P5
1．黒褐色土　ローム粒やや多混
2．褐色土　ローム粒多混
3．黄褐色土　ローム粒多混

4

P8
1．暗褐色土　ローム粒やや多混
2．褐色土　ローム粒多混，しまりあり
3．黄褐色土　ローム粒多混，しまりあり

P9
1．黒褐色土　ローム粒少混
2．暗褐色土　褐色土多混，粘性・しまりあり
3．褐色土　ローム粒多混，粘性・しまりあり

P10
1．暗褐色土　ローム粒多混
2．褐色土　ローム粒多混，しまりあり
3．黒褐色土　焼土粒少混，柱痕
4．黒褐色土

P11
1．褐色土　ローム粒多混
2．暗褐色土　ローム粒やや多混
3．黒褐色土　ローム粒・炭化粒少混，柱痕
4．黄褐色土　ローム粒多混

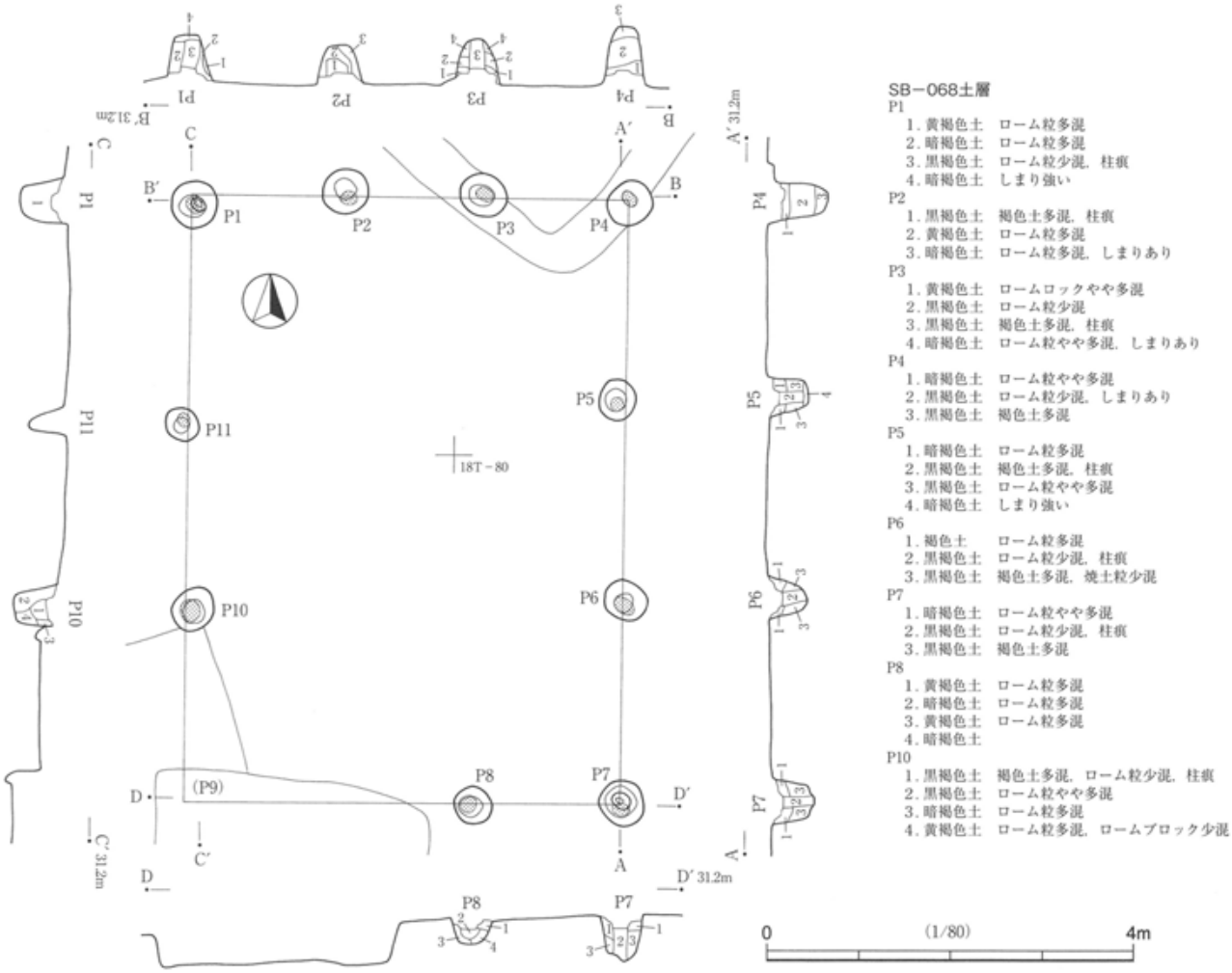
P12
1．黒褐色土　褐色土多混，ローム粒少混
2．暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
3．黄褐色土　ローム粒多混

第524図　SB－067

ある。柱穴覆土はロームブロックが主体に混入しておりしまりがある。出土遺物はない。

SB－071（第528図，図版148）

遺跡南部中央やや西寄りの18T－47区に位置する。SI－083・093と完全に重複し，柱穴西列は未検出であるが，柱穴の配置はほぼ正確に対応すると思われる桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-4°-E柱で，検出された柱穴のうち破壊を受けていないと思われる柱穴深の平均は遺構確認面から約44cmである。柱穴径は60cm～92cm前後とあまり大きな差はなくほぼ同規模である。柱穴覆土はローム



第525図　SB－068

粒・ロームブロックが主体に混入しておりしまりがあり，Ｐ４～Ｐ６には焼土粒が混入している。遺物はＰ１～Ｐ４・Ｐ６の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

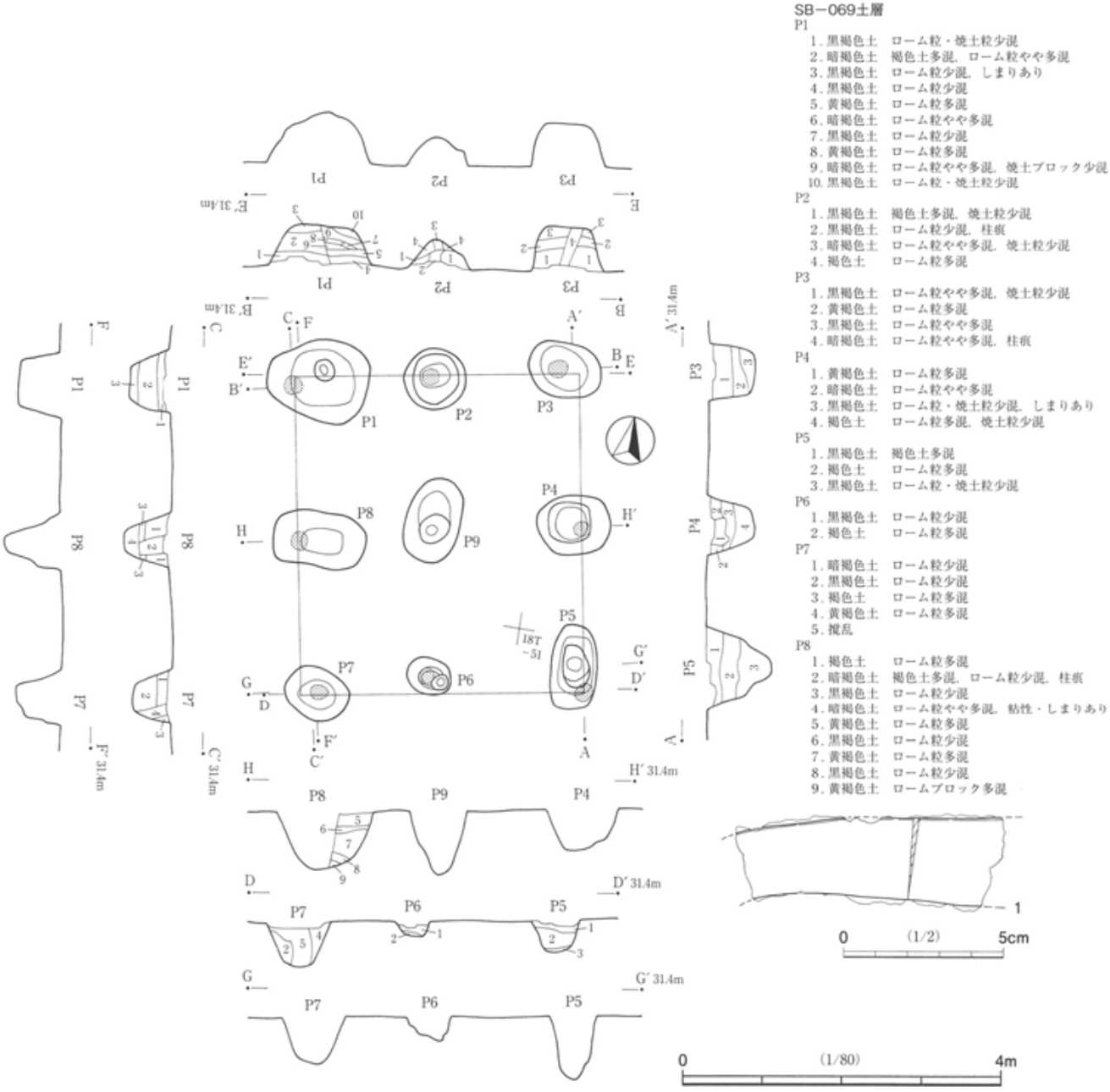
SB－072（第529図，図版148）

遺跡南部中央やや西寄りの18T－32区に位置し，他遺構との重複はなく単独である。柱穴の配置は桁行方向北辺中央部のＰ２・Ｐ３と南辺中央部のＰ７・Ｐ８の柱間寸法が1.4m前後で，他の柱穴の柱間寸法に比べて近い位置に配置される桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-81°-E柱で，柱穴深の平均は遺構確認面から約42cmであるが，東列北端の柱穴Ｐ４の柱穴深は12cmときわめて浅く，各柱穴深のばらつきは大きい。柱穴径は70cm～92cm前後とあまり大きな差はなくほぼ同規模である。柱穴覆土はローム粒・褐色土が主体に混入しているが，焼土粒が混入しているものも多い。遺物はすべての柱穴の覆土内から出土しているが，図示できたものは１点のみである。

１は土師器の杯でＰ６の覆土内一括出土である。復元口径13.2cm・復元底径8.6cm・器高4.3cmで，色調は内外面ともに橙色を呈し，胎土は金雲母・砂粒が微量含まれ密で焼成は良好である。調整は底部外面及び周縁部に回転ヘラケズリが，体部外面から内面は回転ナデが施され，切り離し技法は不明である。

SB－073（第529図，図版148）

遺跡南部西端の17T－59区に位置し，他遺構との重複はなく単独である。柱穴の配置はほぼ正確に対応

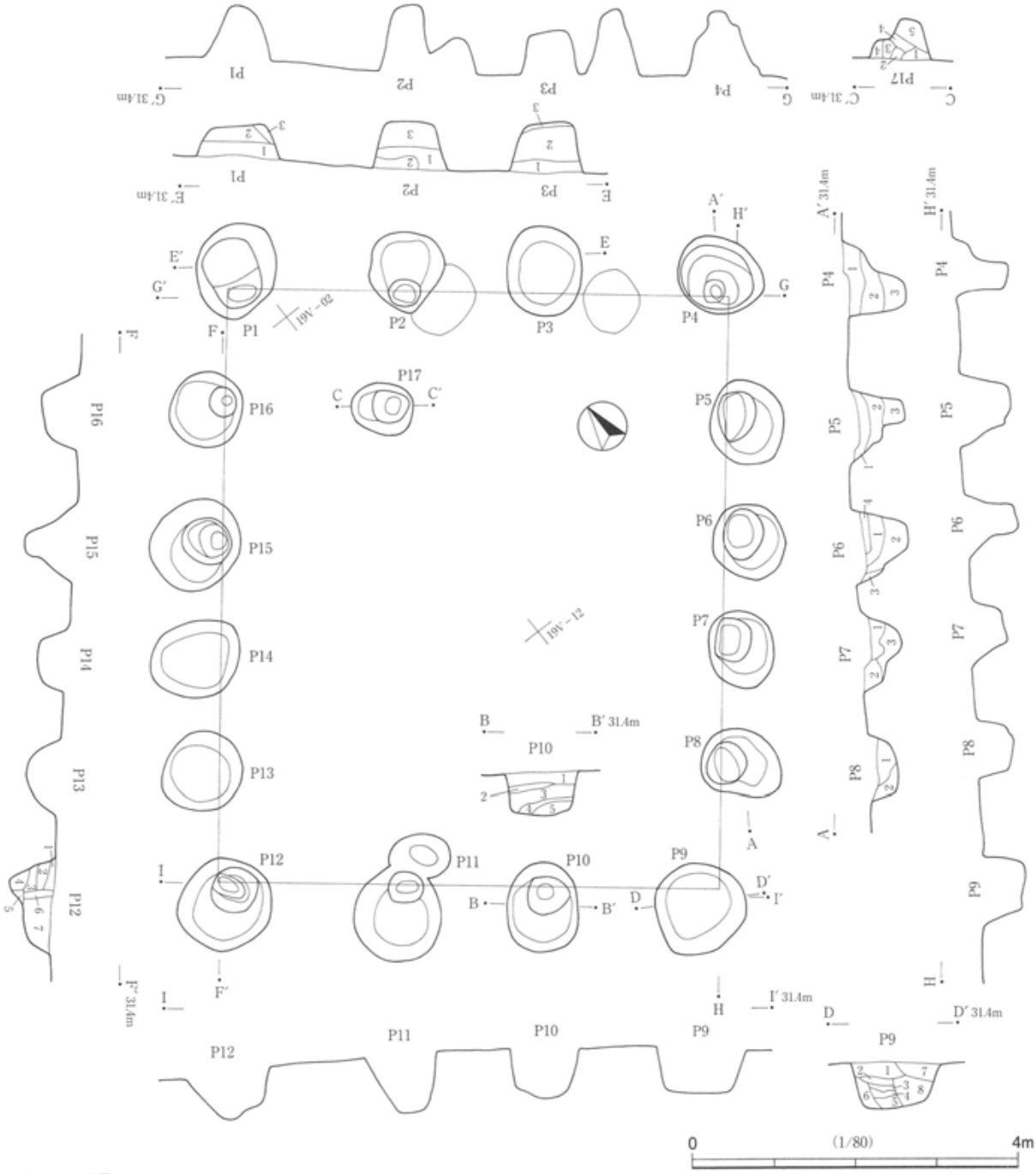


第526図　SB－069

する桁行２間×梁行１間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-1°-Eで柱穴深の平均は遺構確認面から約65cmで，最も浅い柱穴Ｐ４でも50cmを測り全体的に深く掘り込まれている。柱穴径は40cm～56cm前後とかなり小さめである。柱穴覆土はローム粒が主体に混入している。遺物はＰ１・Ｐ２・Ｐ５の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－074（第530図，図版148）

遺跡中央部南寄りの20R－89区に位置する。SB－075・077・080，SI－119とそれぞれ重複し，北列中央の柱穴２基は未検出であるが，柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-75°-Eで検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約42cmと，全体的にやや浅めである。柱穴径は52cm～85cm前後とややばらつきがあり，東列のＰ１・Ｐ７・Ｐ８が80cm前後と大き



SB－070土層

P1
1. 暗褐色土　ロームブロック多混
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P2
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混、しまりあり
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 攪乱

P3
1. 暗褐色土　ロームブロック少混、しまりあり
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　青味帯びる

P4
1. 暗褐色土　ロームブロック少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混

P5
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや少混
3. 褐色土　ローム粒多混、粘性・しまりあり

P6
1. 褐色土　ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 褐色土　ロームブロックやや多混、しまりあり
4. 攪乱

P7
1. 暗褐色土　ロームブロック少混
2. 褐色土　ロームブロックやや多混
3. 黄褐色土　ロームブロック多混

P8
1. 褐色土　ロームブロック少混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

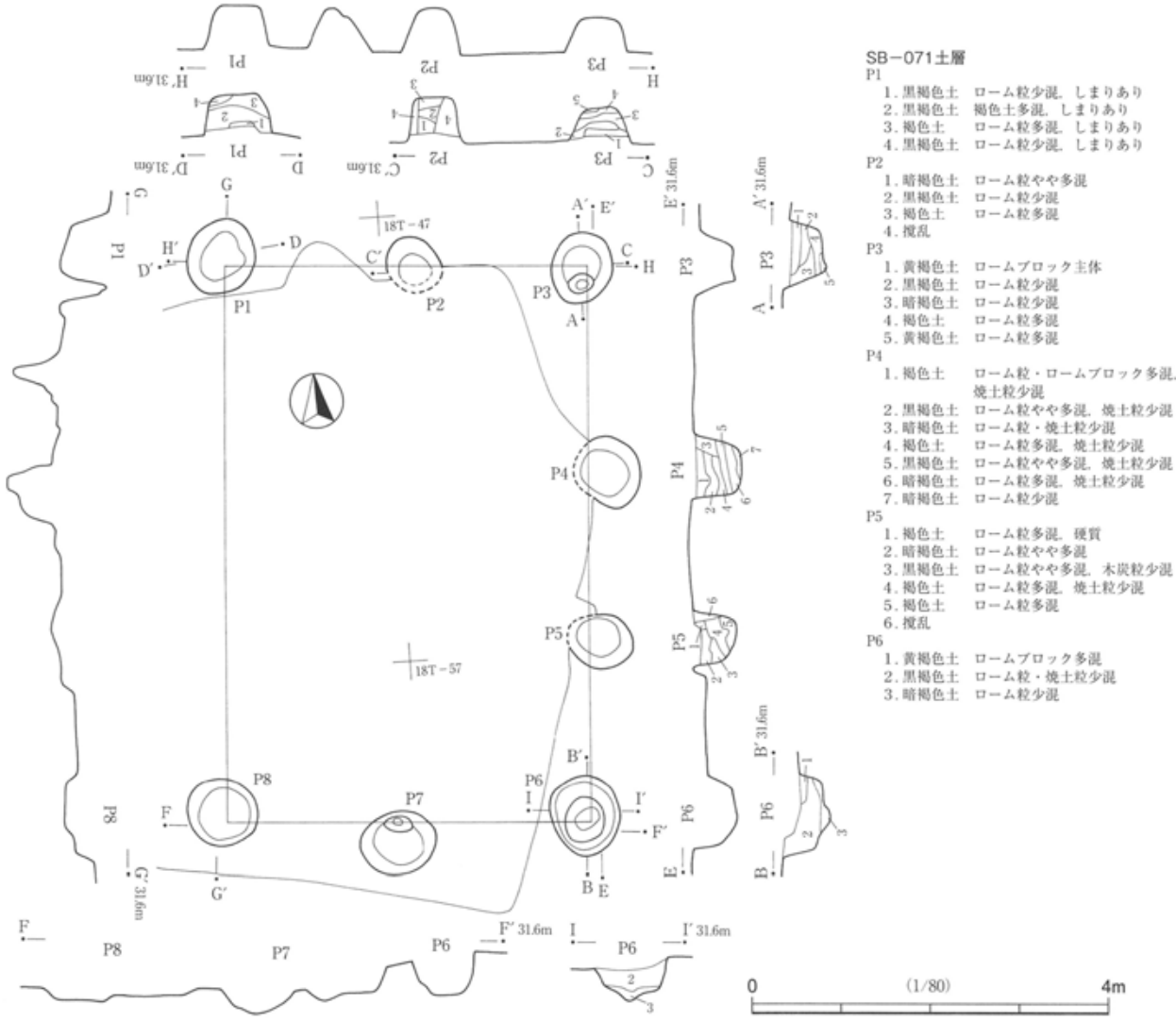
P9
1. 暗褐色土　ロームブロック少混
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　ロームブロック多混
6. 黄褐色土　ロームブロック多混
7. 褐色土　ロームブロックやや多混
8. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P10
1. 褐色土　ロームブロック少混、しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 褐色土　ロームブロック多混
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
5. 褐色土　ロームブロック多混

P12
1. 褐色土　ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
3. 褐色土　ロームブロック多混
4. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
5. 黄褐色土　しまりあり
6. 黒褐色土　ロームブロックやや多混
7. 攪乱

P17
1. 暗褐色土　ロームブロック少混
2. 黄褐色土　ロームブロック多混
3. 黒褐色土　ローム粒やや多混
4. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
5. 黒褐色土　ローム粒やや多混

第527図　SB－070



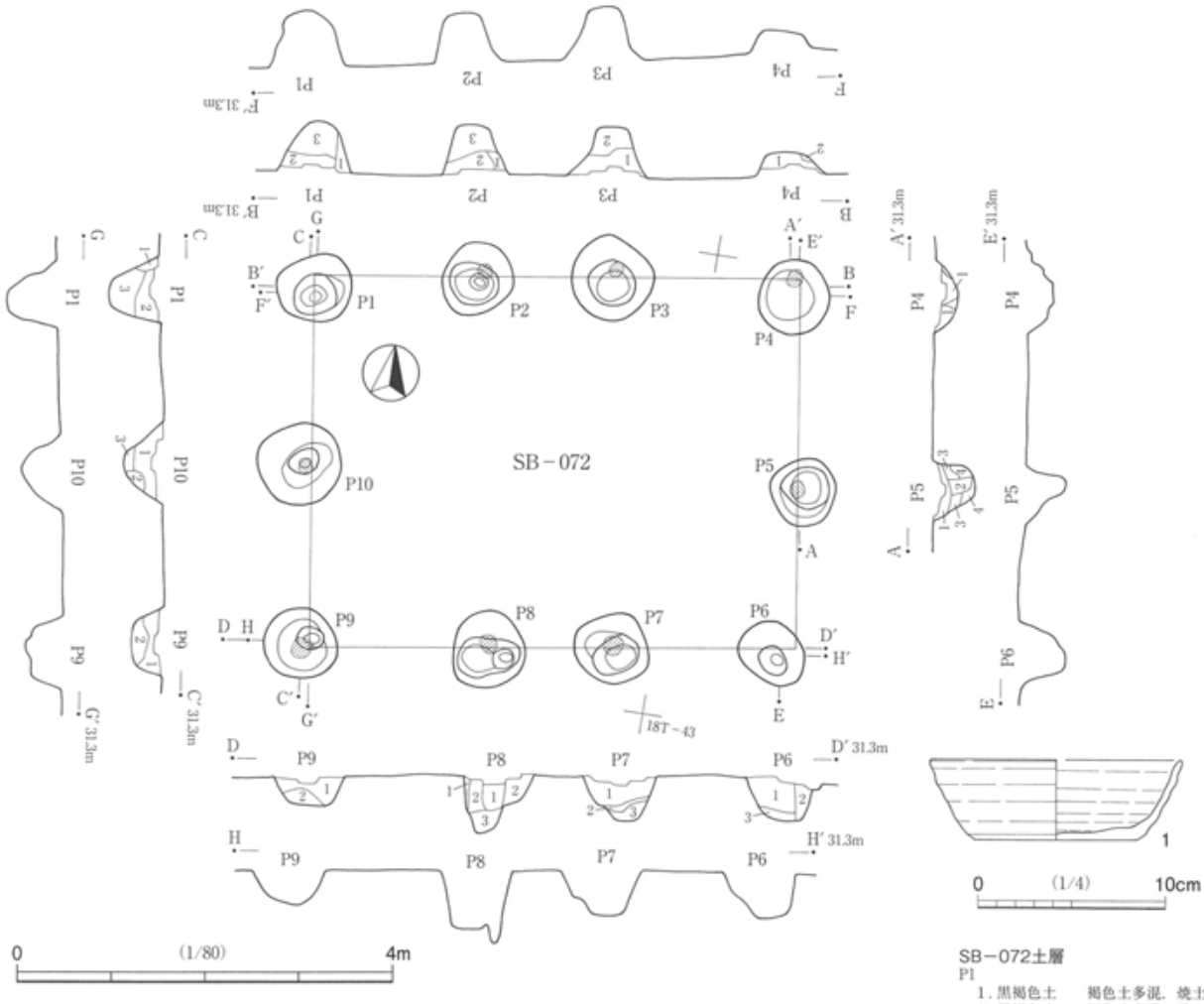
第528図　SB－071

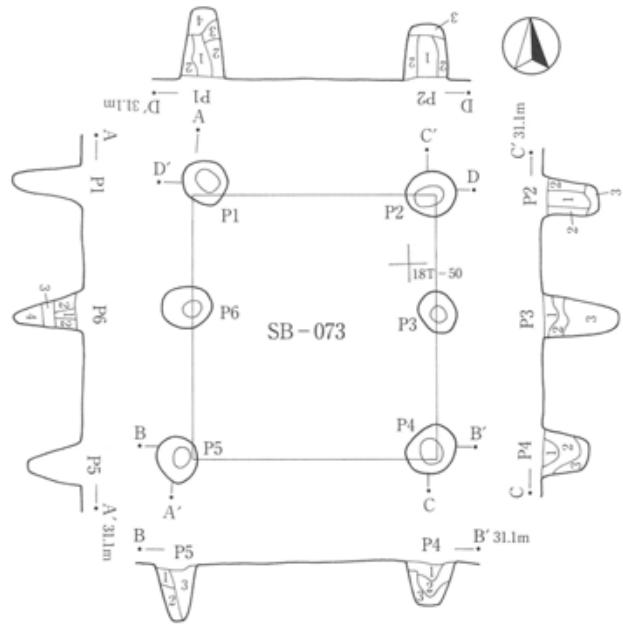
めである。柱穴覆土はローム粒が主体に混入しているが，Ｐ３には炭化粒及び焼土粒が混入している。遺物はＰ１～Ｐ４・Ｐ５・Ｐ８の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものは１点のみである。

１は須恵器の杯底部片でＰ７の覆土内一括出土である。復元底径9.4cmで，色調は内外面ともに褐灰色を呈し，胎土は砂粒がやや多く長石・石英が微量に含まれ粗で焼成は良好である。調整は底部外面及び周縁部に手持ちヘラケズリが，内面はロクロナデが施され，切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SB－075（第530図，図版148）

遺跡中央部南寄りの20R－89区に位置する。SB－074・077・080，SI－119とそれぞれ重複し，北西側の柱穴３基は未検出であるが，柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-23°-Eで検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約44cmと，全体的にやや浅めである。柱穴径は62cm～92cm前後とややばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。検出されたすべての柱穴からは柱痕が確認された。遺物は検出されたすべての柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。





SB－073土層

P1
1. 赤褐色土　褐色土斑状に少混，柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　1層よりも黒味帯びる

P2
1. 黒褐色土　柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ロームブロック少混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混

P4
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 褐色土　ローム粒やや多混
3. 黒褐色土　褐色土斑状に少混

P5
1. 褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 攪乱

P6
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 黒褐色土　ローム粒少混

SB－072土層

P1
1. 黒褐色土　褐色土多混，焼土粒少混
2. 黒褐色土　褐色土多混，焼土粒少混
3. 黒褐色土　褐色土多混，ローム粒やや多混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　褐色土多混
3. 黒褐色土　褐色土多混，しまりあり

P3
1. 黒褐色土　褐色土多混，焼土粒少混，しまりあり
2. 暗黄褐色土　ローム粒多混，しまりあり

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混

P5
1. 黒褐色土　褐色土多混
2. 黒褐色土　焼土粒少混，柱痕
3. 黄褐色土　ローム粒多混，しまりあり
4. 暗褐色土　ローム粒多混

P6
1. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　かたいしまり

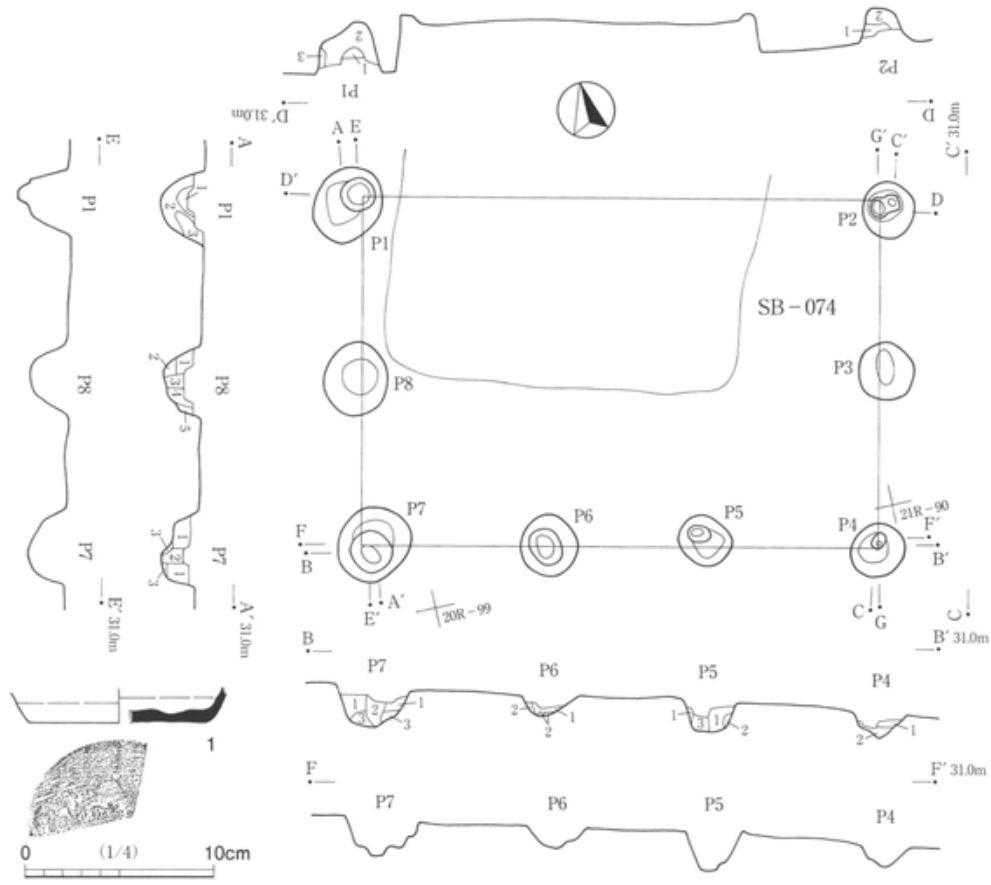
P7
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　ローム粒多混，かたいしまり
3. 黒褐色土　かたいしまり

P8
1. 黒褐色土　褐色土多混，焼土粒少混，柱痕
2. 暗褐色土　褐色土多混
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，しまりあり

P9
1. 黒褐色土　褐色土多混，焼土粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混

P10
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　しまりあり
3. 暗褐色土　かたいしまり

第529図　SB－072・073



SB－074土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混

P2
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　褐色土多混，ローム粒やや多混

P3
1. 暗褐色土　ロームブロック少混
2. 黒褐色土　ロームブロック・炭化粒・焼土粒少混
3. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多混

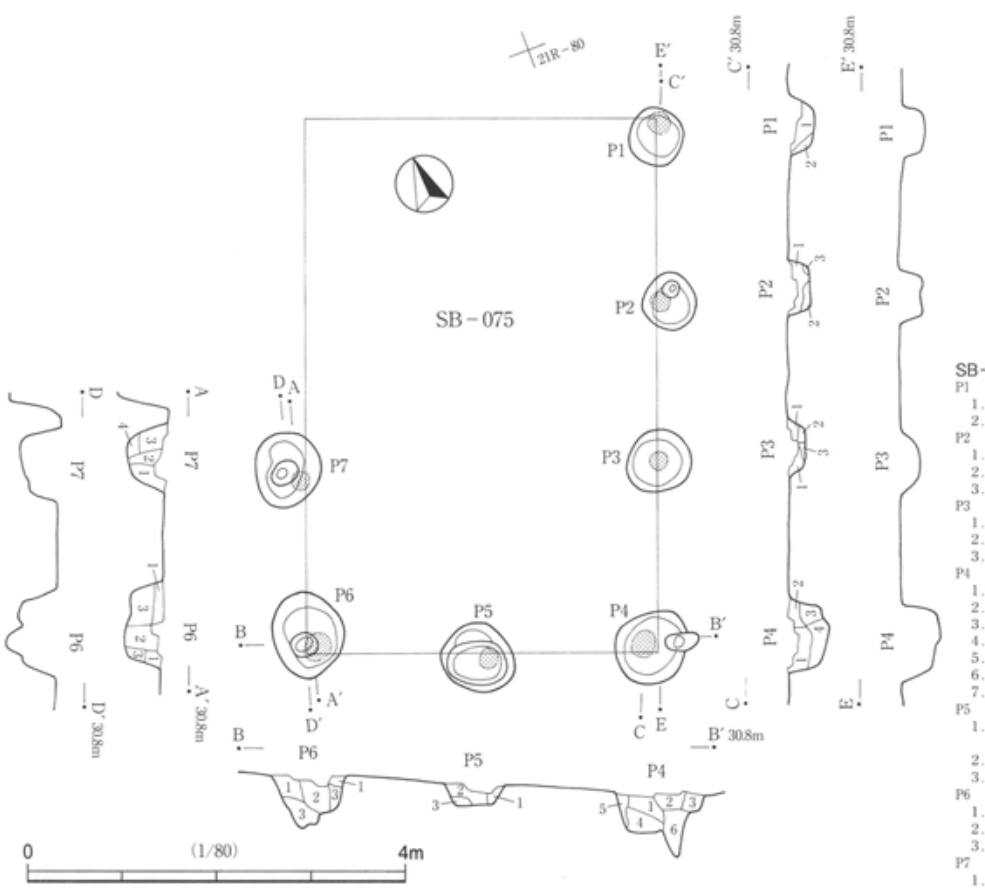
P4
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒多混

P5
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 黄褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕

P6
1. 暗褐色土　ロームブロック少混
2. 黄褐色土　ローム粒多混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，ロームブロックやや多混
2. 黒褐色土　ローム粒少混，柱痕
3. 暗褐色土　ローム粒少混，硬質

P8
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，硬質
褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混，柱痕



SB－075土層

P1
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　ローム粒やや多混，硬質

P2
1. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，硬質
2. 黄褐色土　ローム粒多混，硬質
3. 黒褐色土　ロームブロックやや多混，硬質

P3
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 暗褐色土　ローム粒やや多混
5. 黒褐色土　ローム粒少混
6. 暗褐色土　ローム粒やや多混
7. 黒褐色土　柱痕

P5
1. 黒褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混，柱痕
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒少混

P6
1. 暗褐色土　ローム粒やや多混
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，柱痕
3. 暗褐色土　ローム粒やや多混，ロームブロック少混

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
2. 褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混，しまりあり，柱痕
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混，しまりあり
4. 黒褐色土　ローム粒やや多混

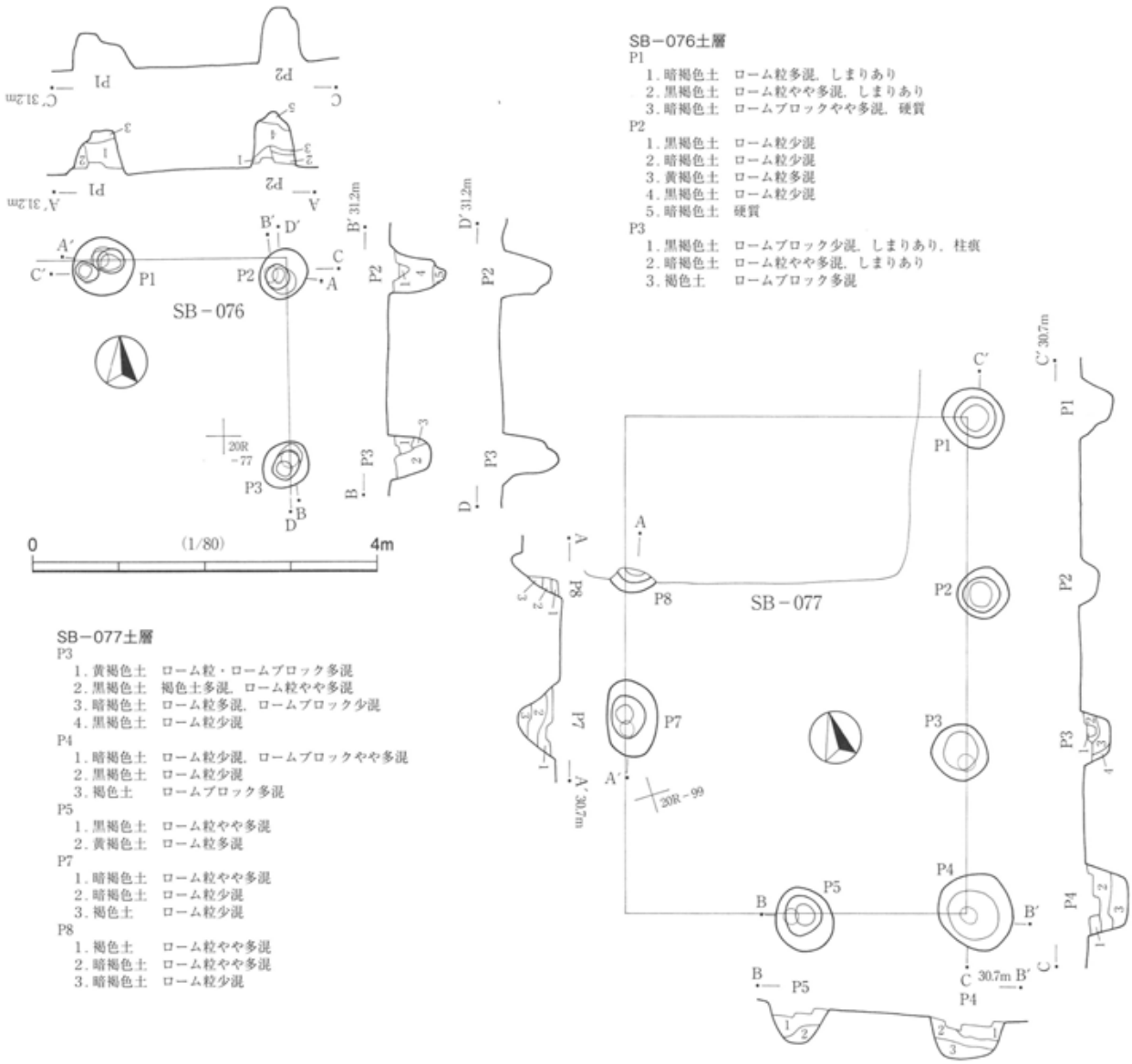
第530図　SB－074・075

SB－076（第531図，図版148）

遺跡中央部南寄りの20R－67区に位置し，SI－117の南側，SI－118の西側にそれぞれ近接する。南西側の柱穴は未検出で北東側の柱穴３基のみが検出された。南西側は道路建設のためすでに調査済みで，今回の調査では前回の調査との丁度境を接する部分である。このため桁行・梁行等の規格は不明であるが，検出された３基の柱穴の配置から掘立柱建物跡の北東端部であると思われる。検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約57cmで，柱穴径は60cm～72cm前後である。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ１・Ｐ２の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－077（第531図，図版148）

遺跡中央部南寄りの20R－99区に位置し，SB－074・075・080，SI－119とそれぞれ重複する。北西側の柱穴はSI－119との重複で未検出である。また，南西側は道路が建設されており南西端部の柱穴は未検出である。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-18°-Eで検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmと全体的にやや浅めである。柱穴径は



第531図　SB－076・077

60cm～92cm前後とややばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。出土遺物はない。

SB－078（第532図，図版148）

遺跡中央部南寄りの20R－68区に位置する。本遺構の南側でSI－118・120とそれぞれ重複するため，未検出の柱穴がある。検出された柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-21°-Eで検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約50cmであるが，最も浅いＰ３が12cmで最も深いＰ７が80cmで大きなばらつきがある。柱穴径は64cm～108cm前後とややばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入しているが，Ｐ７には焼土ブロックが混入している。遺物はＰ１・Ｐ３～Ｐ７の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものは１点のみである。

１は土師器の小型甕口縁部片でＰ７の覆土内一括出土である。復元口径13.2cmで，色調は内外面ともににぶい赤褐色を呈し，胎土は密で焼成は良好である。調整は外面と口縁部にヨコナデ・胴部に手持ちヘラケズリが，内面口縁部にヨコナデ・胴部にヘラナデが施されている。

SB－079（第532図，図版149）

遺跡中央部やや東寄りの21S－00区に位置する。本遺構の南西側でSI－121と重複し，また，道路が建設されており未検出の柱穴がある。検出された柱穴の配置はほぼ正確に対応するが，未検出の柱穴があるため桁行の規格は不明で，梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-26°-Eで検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約35cmで全体的に浅い。柱穴径は32cm～48cm前後とばらつきはないが全体的に小さい。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ１・Ｐ３・Ｐ４の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－080（第532図，図版149）

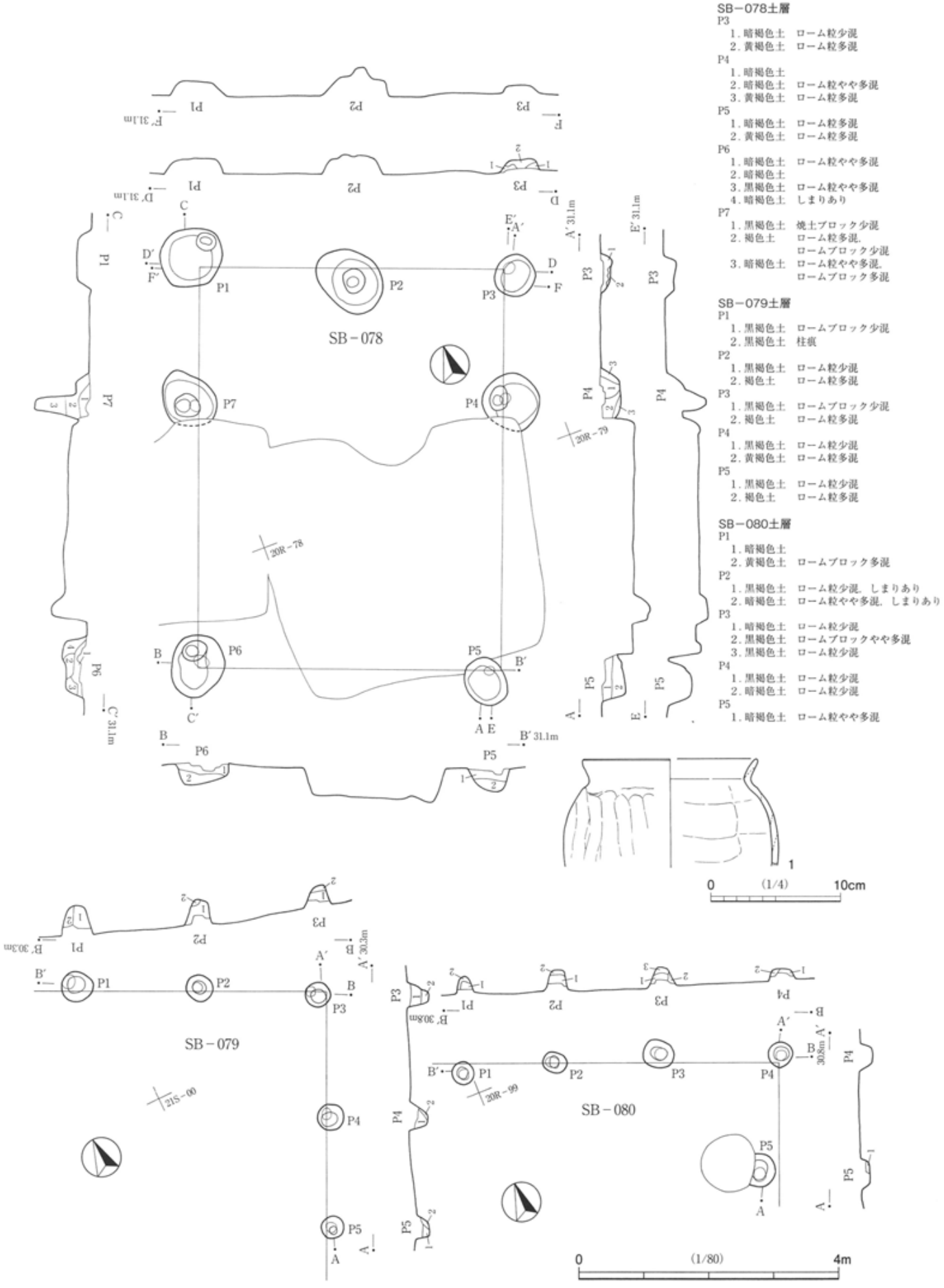
遺跡中央部南寄りの20R－99区に位置する。SB－074・075・077と全面的に重複し，また，南西側は道路が建設されており未検出の柱穴がある。検出された柱穴の配置はほぼ正確に対応するが，未検出の柱穴があるため桁行・梁行等の規格は不明であるが，掘立柱建物跡の一部であると思われる。検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約27cmできわめて浅い。柱穴径は32cm～48cm前後とばらつきはないが全体的に小さい。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ１を除く検出されたすべての柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－081（第533図，図版149）

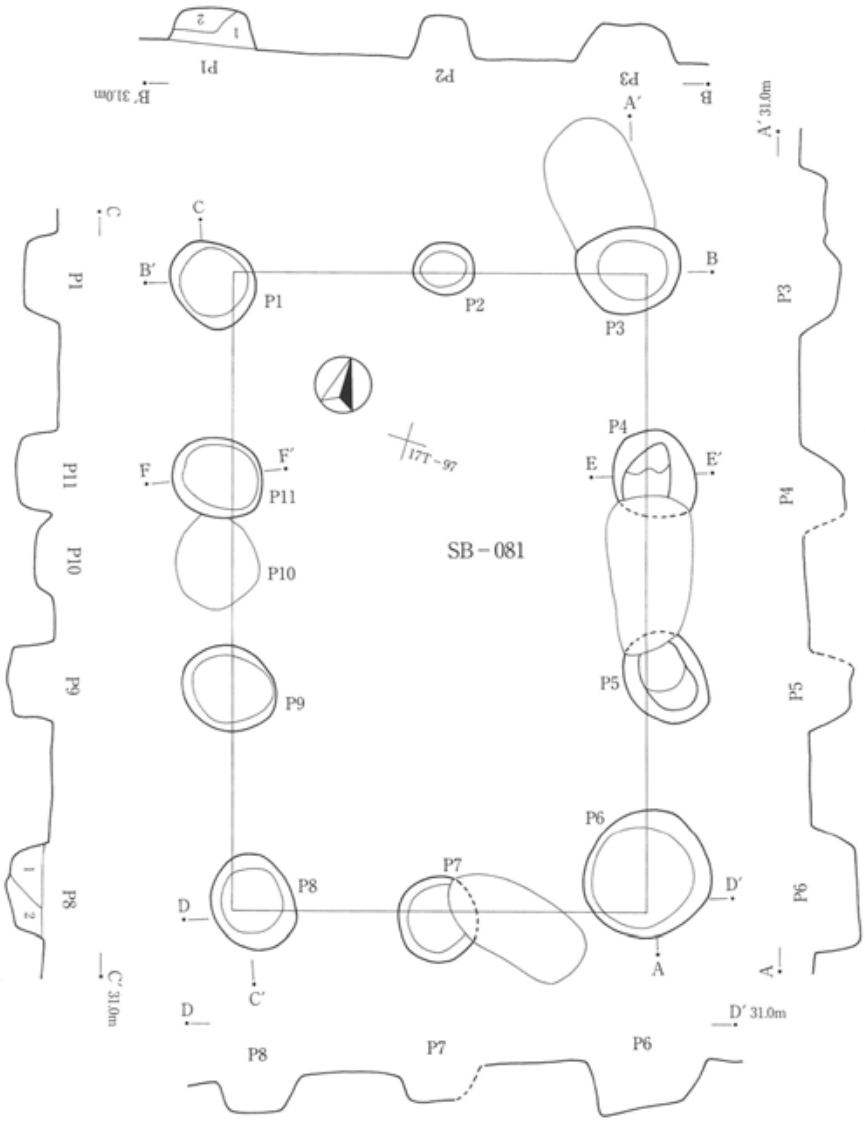
遺跡南部西端の17T－97区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。SB－083(A)・083(B)の南側に近接し，他遺構との重複はなく単独である。桁行方位はN-17°-Wで柱穴深の平均は遺構確認面から約50cmで，全体的に同規模である。柱穴径は56cm～136cm前後とかなりのばらつきがあり，南東端部のＰ６が136cm前後と大きめである。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入しているが，Ｐ４・Ｐ11には焼土粒が混入している。遺物はすべての柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

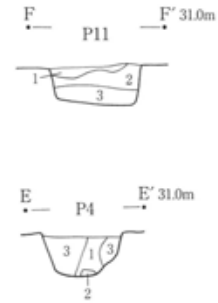
SB－082（第533図，図版149）

遺跡南部西端の17T－36区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行１間×梁行１間の掘立柱建物跡である。SB－064の西側に近接し，他遺構との重複はなく単独である。平面形は一辺２mの正方形で桁行・梁行等の区別は付かないが，柱穴の平面形態から類推すると桁行方位はN-17°-Wであると思わ



第532図　SB－078・079・080





SB－081土層

P1
1. 暗黄褐色土　ローム粒少混
2. 黒色土　ローム粒少混

P4
1. 暗黒褐色土　ローム粒多混
2. 黄褐色土　ローム土
3. 黒色土　ローム粒・焼土粒少混

P8
1. 暗黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土

P11
1. 黒色土　焼土粒少混
2. 暗黒褐色土　ロームブロック少混
3. 黒色土　ローム粒少混

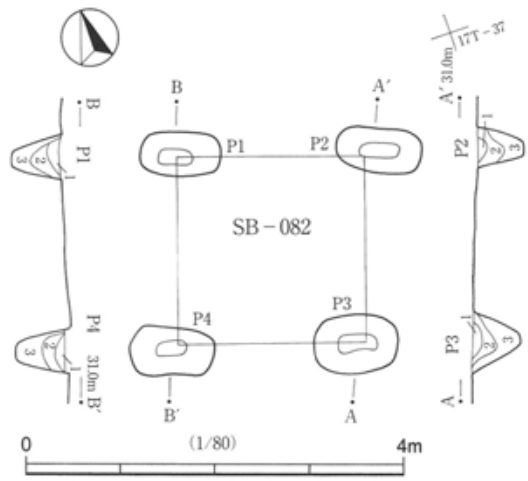
SB－082土層

P1
1. 黒色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黒色土　ローム粒少混
3. 暗黒褐色土　ローム粒多混

P2
1. 黒色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黒色土　ローム粒少混
3. 暗黒褐色土　ローム粒多混

P3
1. 黒色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黒色土　ローム粒少混
3. 暗黒褐色土　ローム粒多混

P4
1. 黒色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黒色土　ローム粒少混
3. 暗黒褐色土　ローム粒多混



第533図　SB－081・082

れる。柱穴深の平均は遺構確認面から約50cmで，全体的に同規模である。柱穴径は柱穴の平面形態が楕円形を呈しているので長軸を計測した。柱穴径は85cm～92cm前後とほとんど同規模である。また，壁の立ち上がりは長軸側で急である。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。出土遺物はない。

SB－083（A）（第534図，図版149）

遺跡南部西端の17T－76区に位置する。柱穴の配置は正確には対応しない桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡である。SB－081の北側に近接し，SB－083（B）と重複する。桁行方位はN-18°-Wで柱穴深の平均は遺構確認面から約44cmで，全体的に同規模である。柱穴径は60cm～120cm前後とかなりのばらつきがある。柱穴覆土はローム粒が主体に混入している。出土遺物はない。

SB－083（B）（第534図，図版149）

遺跡南部西端の17T－76区に位置する。柱穴の配置は正確には対応しない桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。SB－081の北側に近接し，SB－083（A）と重複する。桁行方位はN-63°-Eで柱穴深の平均は遺構確認面から約46cmで，全体的に同規模である。柱穴径は68cm～140cm前後とかなりのばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。出土遺物はない。

SB－084（第535図，図版149）

遺跡西部北東端の19O－50区に位置する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で，他遺構との重複はなく単独である。桁行方位はN-86°-Wで柱穴深の平均は遺構確認面から約34cmで，全体的に浅い。柱穴径は64cm～80cm前後とほぼ同規模である。柱穴底面はいずれもほぼ平らで，柱穴覆土はローム粒が主体に混入している。遺物はＰ４・Ｐ５・Ｐ８～Ｐ10の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－085（第536図，図版149）

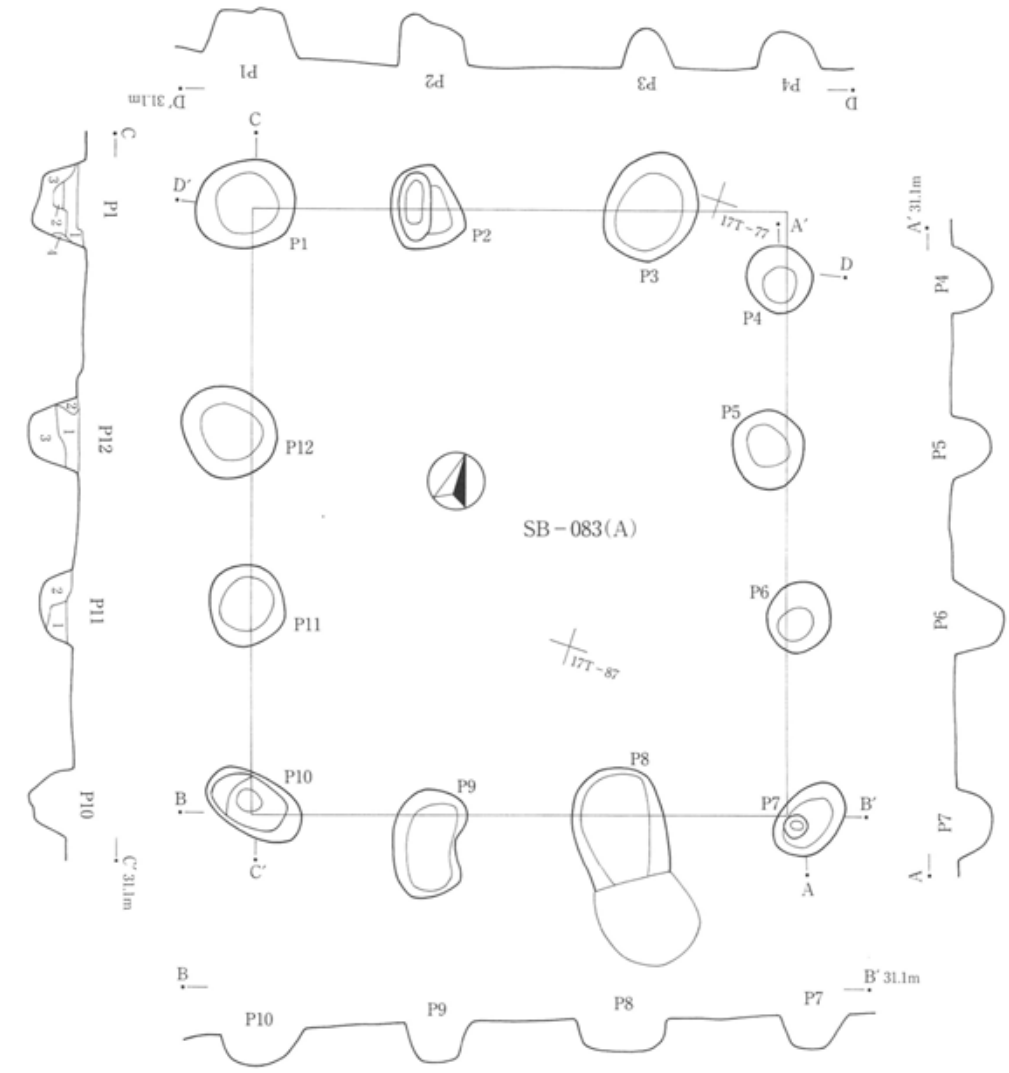
遺跡西部南寄りの17Q－24区に位置する。柱穴の配置は正確に対応する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡で，他遺構との重複はなく単独である。桁行方位はN-82°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmで全体的に浅い。柱穴径は44cm～60cm前後とほぼ同規模で全体的に小さい。すべての柱穴からは柱のアタリが認められ，柱穴覆土はローム粒・黒色土が主体に混入している。出土遺物はない。

SB－086（第537図，図版149）

遺跡西部南寄りの17Q－43区に位置する。柱穴の配置は正確には対応せず，本遺構南西端部の柱穴は未検出である。規格は桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。SB－089・SI－197とそれぞれ重複するが，本遺構の方が新しい。桁行方位はN-13°-Wで，検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmで全体的に浅い。柱穴径は40cm～80cm前後と若干のばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・黒色土が主体に混入しており，すべての柱穴に焼土粒が混入している。遺物はＰ１・Ｐ２・Ｐ５・Ｐ６の柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－087（第536図，図版150）

遺跡西部南寄りの17Q－56区に位置する。本遺構の西側は撹乱が著しく対応する柱穴は未検出であるが，検出された柱穴の配置は正確に対応する梁行２間，桁行不明の掘立柱建物跡であると思われる。撹乱で不明な点が多いが他遺構との重複はなく単独であると思われる。桁行方位はN-85°-Wで，検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約30cmで全体的に浅い。柱穴径は48cm～56cm前後とほぼ同規模で，柱のア

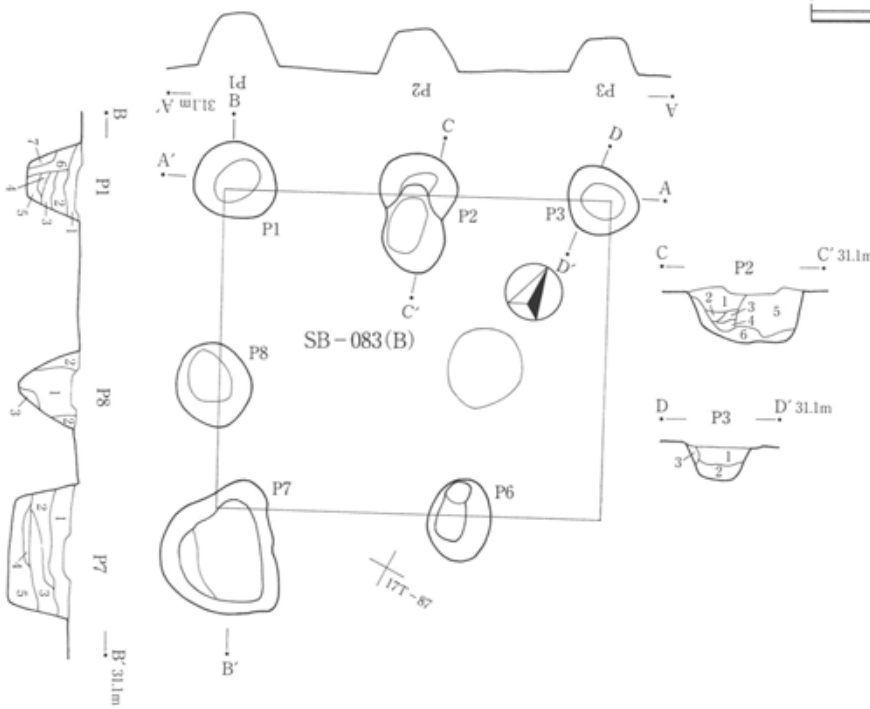


SB－083（A）土層

P1
1. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 褐色土　ローム粒やや多混
4. 黄褐色土　ローム土

P11
1. 褐色土　ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム土

P12
1. 褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　ローム土
3. 褐色土　ローム粒やや多混



SB－083（B）土層

P1
1. 褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　褐色土少混
3. 暗褐色土　ローム粒少混
4. 黄褐色土　褐色土少混
5. 褐色土　暗褐色土・ローム粒少混
6. 褐色土　暗褐色土・ローム粒少混
7. 黄褐色土　ロームブロック

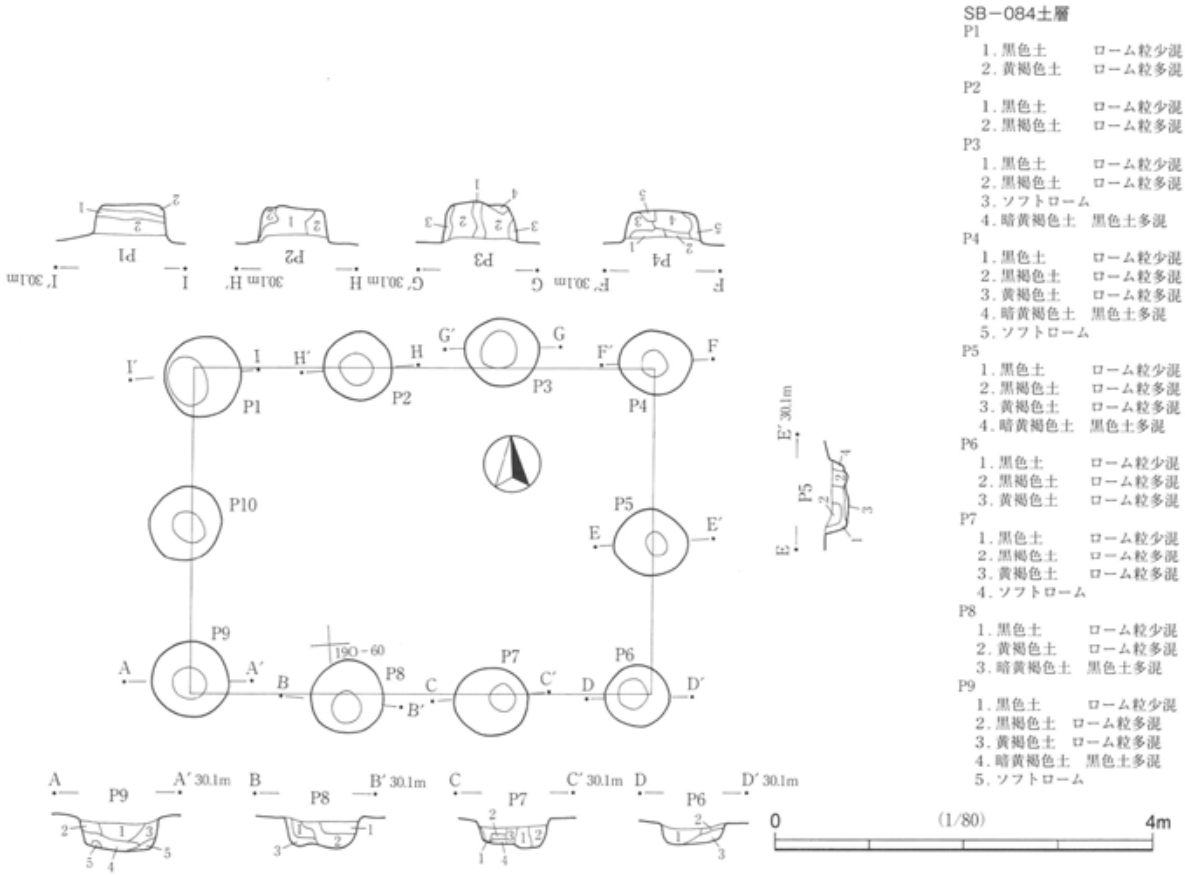
P2
1. 黒褐色土　褐色土少混
2. 暗褐色土　黄褐色土少混
3. 褐色土　ロームブロックやや多混，硬質
4. 暗褐色土　黄褐色土少混
5. 褐色土　黄褐色土・ローム粒少混
6. 黄褐色土　ロームブロック主体，褐色土少混

P3
1. 黒褐色土　褐色土少混
2. 黒褐色土　褐色土・黄褐色土少混
3. 黄褐色土　褐色土少混

P7
1. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
3. 褐色土　ローム粒少混，ロームブロック多混
4. 褐色土　ローム粒少混
5. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒多混
2. 黒褐色土　黄褐色土少混
3. 黄褐色土　褐色土少混

第534図　SB－083(A)・(B)



第535図　SB－084

タリは不明確である。柱穴覆土はローム粒・黒色土が主体に混入しており，すべての柱穴に焼土粒が混入している。遺物は検出されたすべての柱穴覆土内から出土しているが，図示できたものはない。

SB－088（第536図）

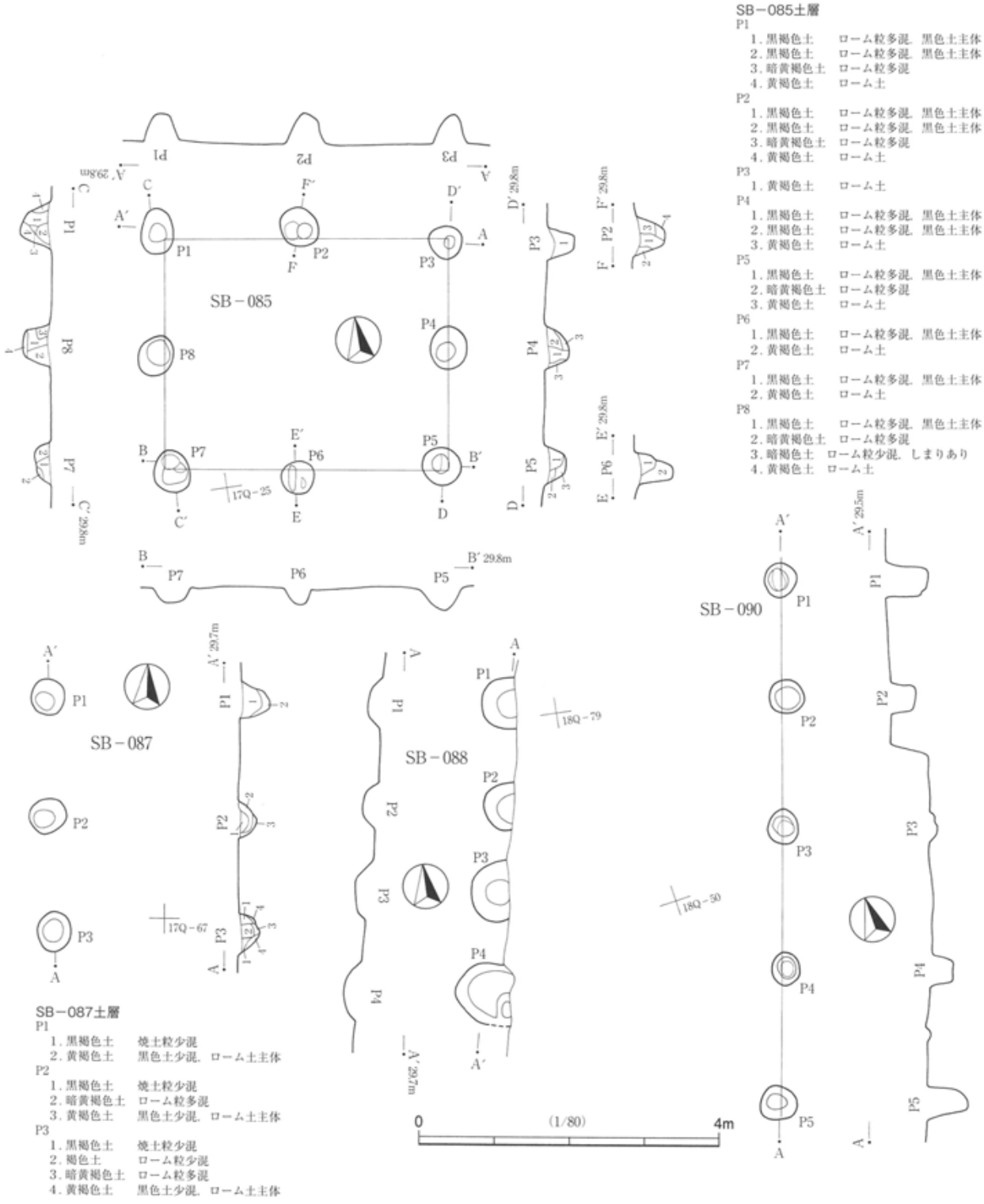
遺跡西部南東寄りの18Q－78区に位置する。本遺構の東側は調査範囲外のため対応する柱穴は未検出で，検出された柱穴の配置は正確に対応する梁行３間，桁行不明の掘立柱建物跡であると思われる。他遺構との重複は不明である。桁行方位はN-15°-Eで，検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約20cmで全体的に浅い。柱穴径は64cm～80cm前後とほぼ同規模である。出土遺物はない。

SB－089（第537図，図版150）

遺跡西部南寄りの17Q－43区に位置する。柱穴の配置は東列中央の柱穴が若干南よりに配されているのを除けば，ほぼ正確に対応する梁行２間×桁行２間の掘立柱建物跡である。SB－086・SI－197とそれぞれ重複する。桁行方位はN－3°－Wで，検出された柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmで全体的に浅くばらつきがある。柱穴径は40cm～80cm前後と全体的に小さくばらつきがある。検出されたすべての柱穴からは柱のアタリが認められる。遺物はＰ１・Ｐ２・Ｐ７・Ｐ８の柱穴覆土内から出土したが，図示できたものはない。

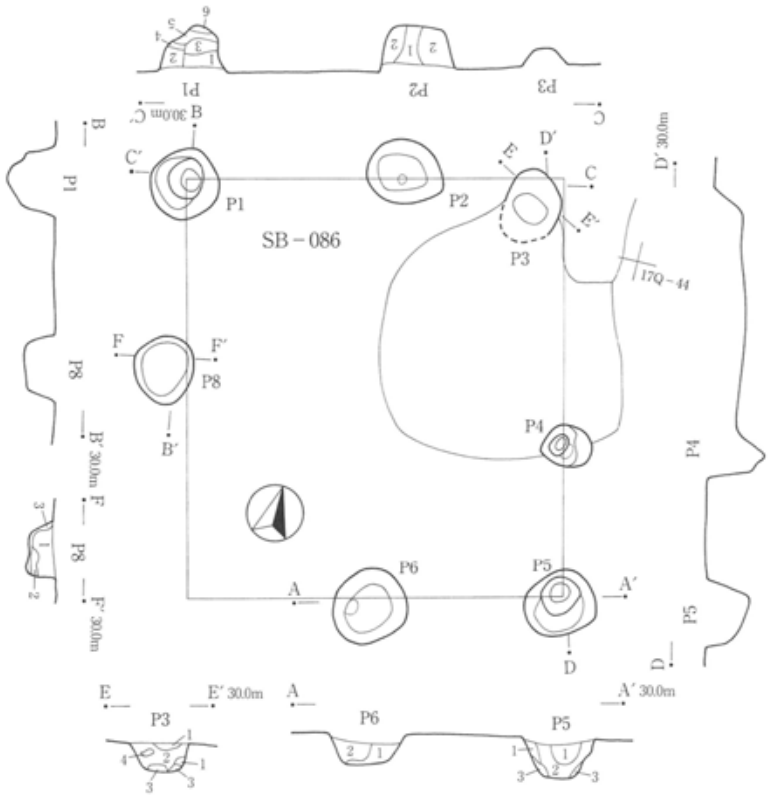
SB－090（第536図）

遺跡西部南東寄りの18Q－40区に位置する。本遺構の周辺は撹乱が著しく対応する柱穴は未検出であるが，検出された柱穴の配置は正確に対応する桁行４間，梁行不明の掘立柱建物跡であると思われる。SI－



第536図　SB－085・087・088・090

195・197とそれぞれ重複し，桁行方位はN-21°-Eと思われる。検出された柱穴のうち重複による破壊を受けていない柱穴深の平均は，遺構確認面から約50cmである。柱穴径は45cm～52cm前後と全体的に小さくばらつきはない。各柱穴とも堀方がしっかりしており，柱のアタリが明確に認められる。遺物はＰ１の柱穴覆土内から出土したが，図示できたものはない。



SB－086土層

P1
1. 暗黄褐色土　ローム粒・焼土粒少混，黒色土主体
2. 黄褐色土　黒色土少混，ローム土主体
3. 灰褐色土　山砂・山砂焼土多混
4. 黒褐色土　ローム粒少混，黒色土主体
5. 黒褐色土　ローム粒少混
6. 黄褐色土　ローム土

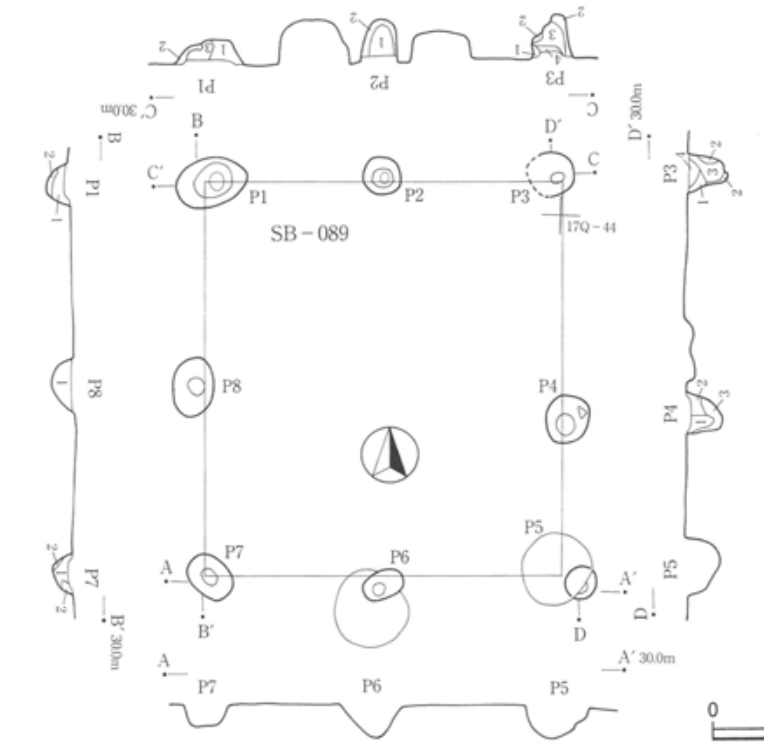
P2
1. 暗黄褐色土　ローム粒・焼土粒少混，黒色土主体
2. 黄褐色土　黒色土少混，ローム土主体

P3
1. 黄褐色土　黒色土少混，ローム土主体
2. 黒褐色土　ローム粒少混，黒色土主体
3. 黄褐色土　ローム土
4. 灰褐色土　山砂・山砂焼土多混

P5
1. 暗黄褐色土　ローム粒・焼土粒少混，黒色土主体
2. 黒褐色土　ローム粒少混，黒色土主体
3. 黄褐色土　ローム土

P6
1. 暗黄褐色土　ローム粒・焼土粒少混，黒色土主体
2. 黒褐色土　ローム粒少混

P8
1. 暗黄褐色土　ローム粒・焼土粒少混，黒色土主体
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　ローム土



SB－089土層

P1
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　黒色土少混，ローム土主体
3. 黒褐色土　ローム粒少混

P2
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混

P3
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　黒色土少混，ローム土主体
3. 黒褐色土　ローム粒少混
4. 黒色土　ローム粒少混

P4
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黒褐色土　ローム粒少混
3. 黄褐色土　黒色土少混，ローム土主体

P7
1. 黒褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　黒色土少混，ローム土主体

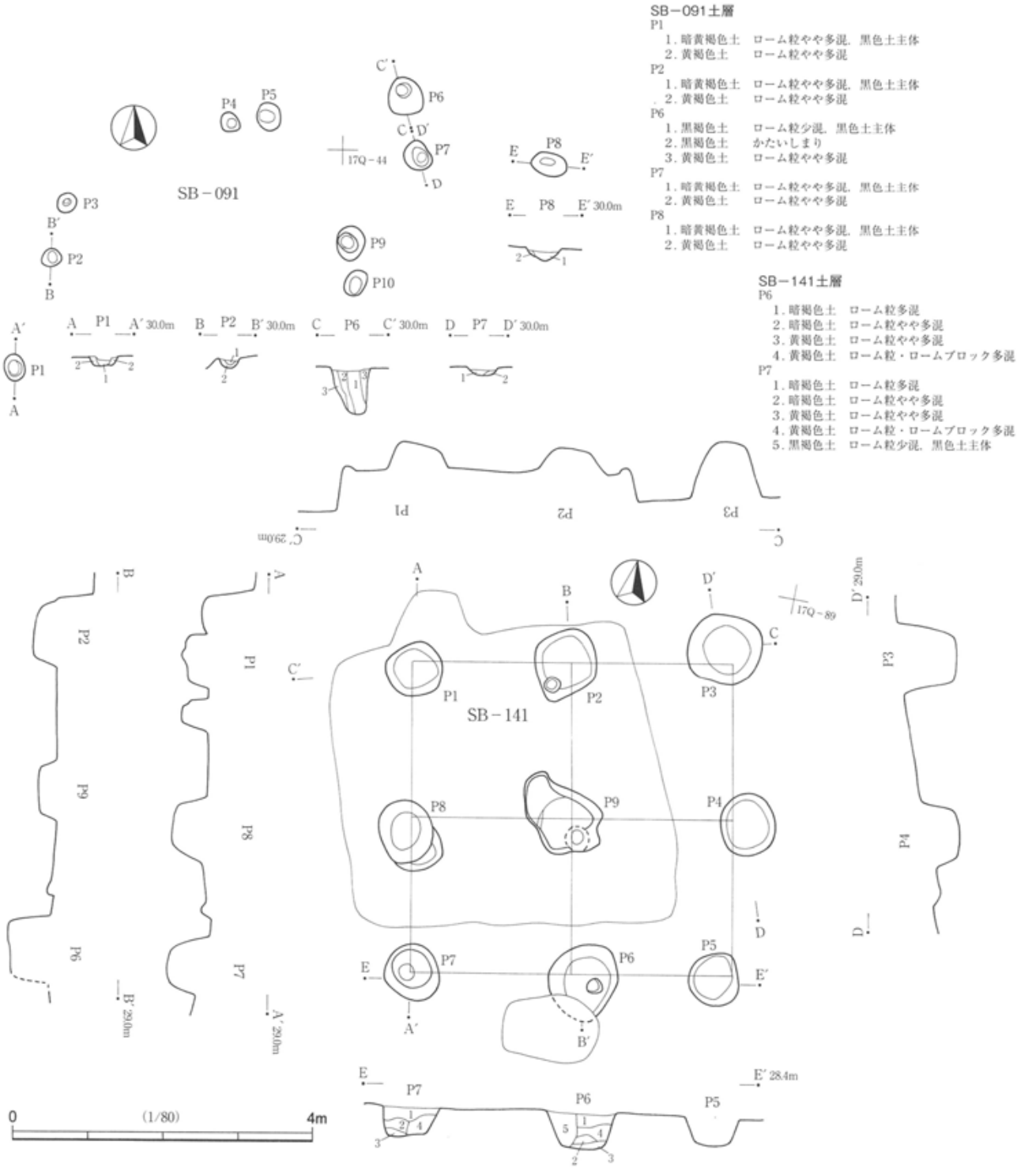
P8
1. 黒褐色土　ローム粒少混

0　(1/80)　4m

第537図　SB－086・089

SB－091（第538図，図版150）

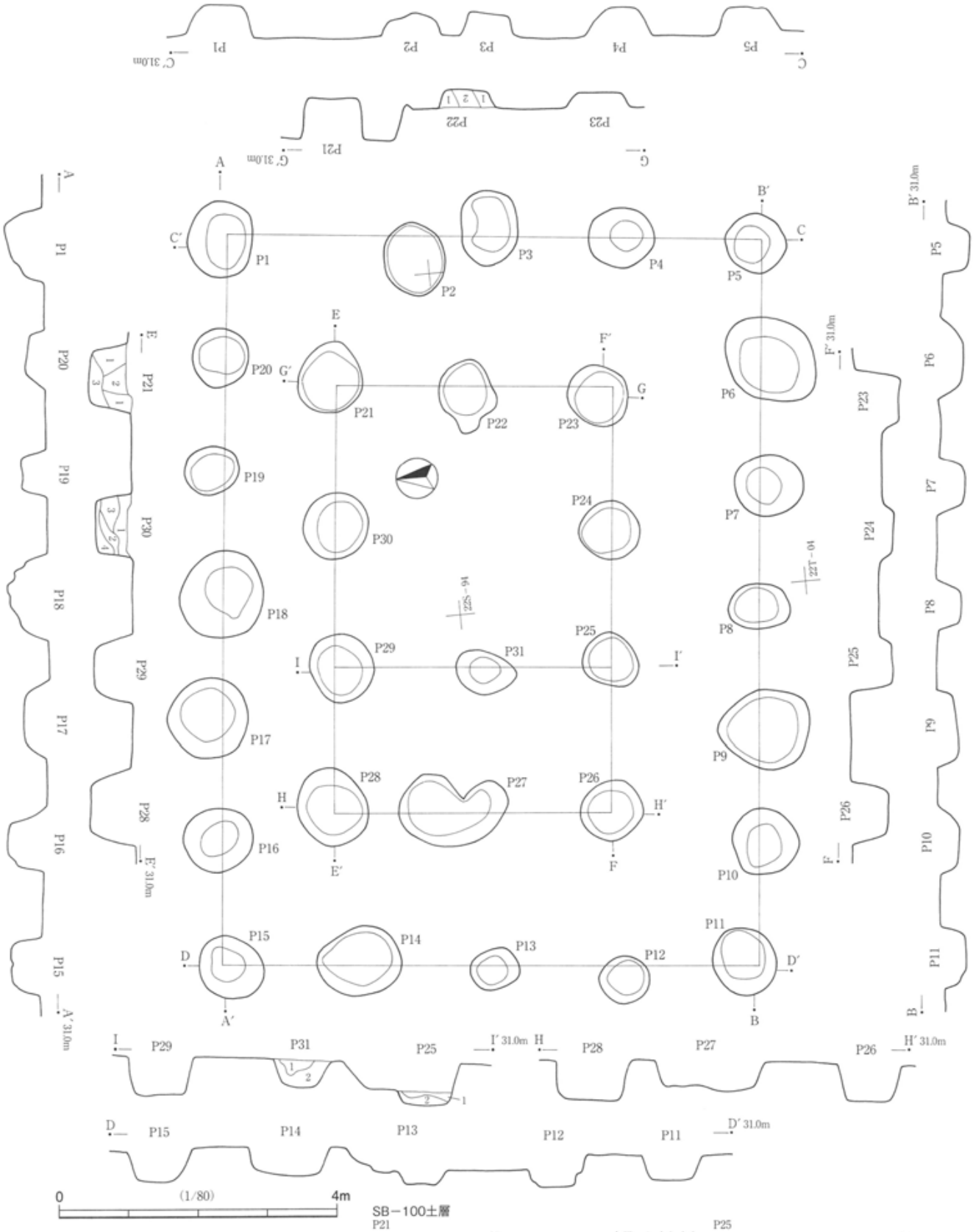
遺跡西部南寄りの17Q－43区に位置する。本遺構は掘立柱建物跡として組めないが，各柱穴ともしっかり掘られており，アタリも明確である。全体的に浅くアタリは硬化している。柱穴覆土はローム粒・黒色土が主体に混入している。遺物はＰ６・Ｐ８の柱穴覆土内から出土したが，図示できたものはない。



第538図　SB－091・141

SB－100（第539図，図版150）

遺跡東部南端の22S－83区に位置し，SB－101の南東側に近接し，SI－300・301・302と重複する。四面に庇が付く全体で桁行６間×梁行４間の掘立柱建物跡で，すべての柱穴の配置はほぼ正確に対応している。身舎部の柱穴Ｐ22～Ｐ25は重複している住居跡SI－300の床面で検出した。この身舎部２間×２間の中央には住居跡SI－300の床面までたっしていない柱穴があった可能性もある。あったとすれば総柱の掘立柱建物跡となるが，いずれにしても確認できなかった。身舎は桁行２間×梁行２間と，桁行３間×梁行



SB－100土層

P21
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．しまりあり
2. 褐色土　ローム粒多混．ロームブロック少混
3. 黄褐色土　褐色土多混．ローム土主体．しまりあり

P22
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．しまりあり
2. 褐色土　ローム粒多混．ロームブロック少混

P25
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 褐色土　ローム粒多混．ロームブロック少混

P30
1. 褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．しまりあり

P31
1. 褐色土　ローム粒多混．ロームブロック少混
2. 黄褐色土　褐色土多混．ローム土主体．しまりあり

第539図　SB－100

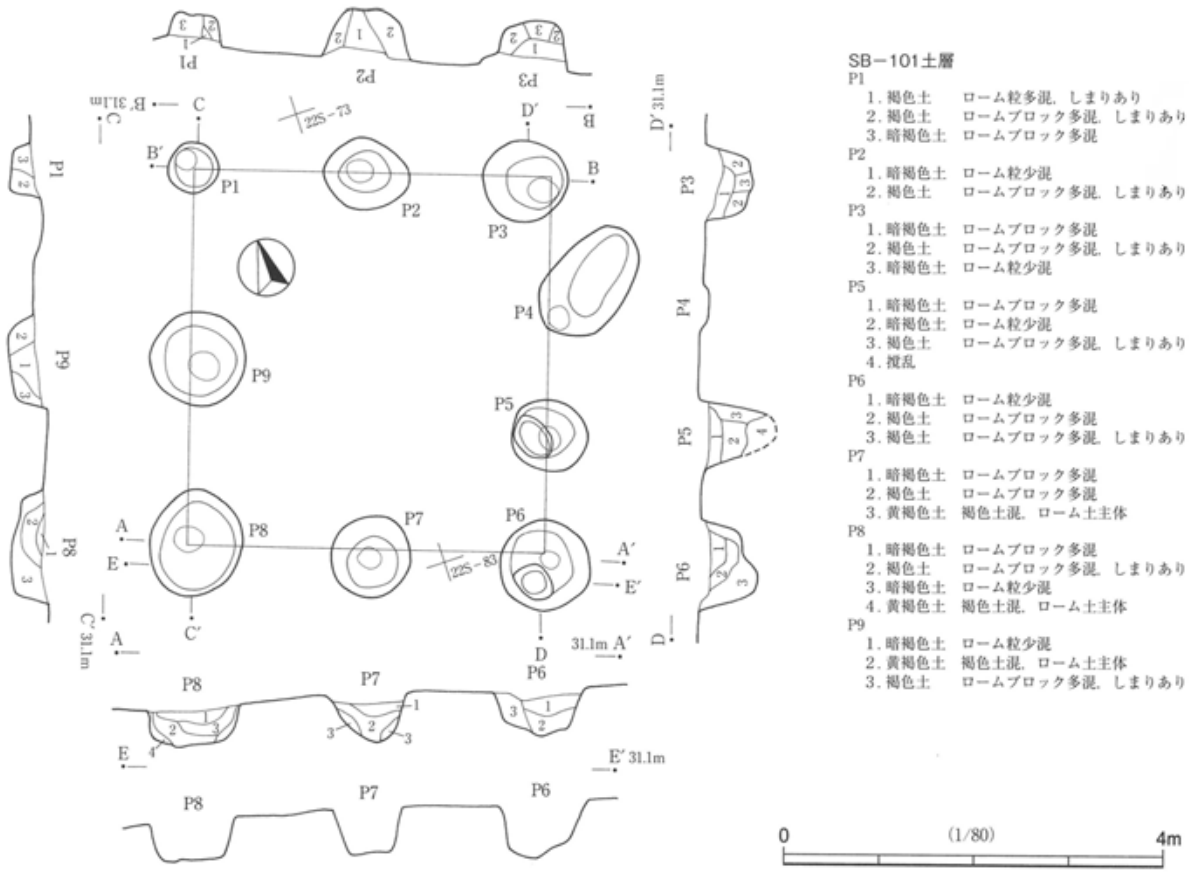
２間の２棟認められる。四面庇の身舎からの長さは北列部で約1.6m，東・西・南列部で約2.2mを測りほぼ同一で，北庇部の方が若干短い。桁行方位はN-85°-Wで，重複による破壊を受けていない柱穴の深さは約60cm前後で大きなばらつきは見られずしっかりしている。径は80cm～148cm前後と大きく，柱穴底面はほとんどのものが平らである。柱穴覆土はローム粒とロームブロックが主体に混入している。本遺構は重複する住居跡SI－300より新しい。遺物はＰ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６～Ｐ８の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－101（第540図，図版150）

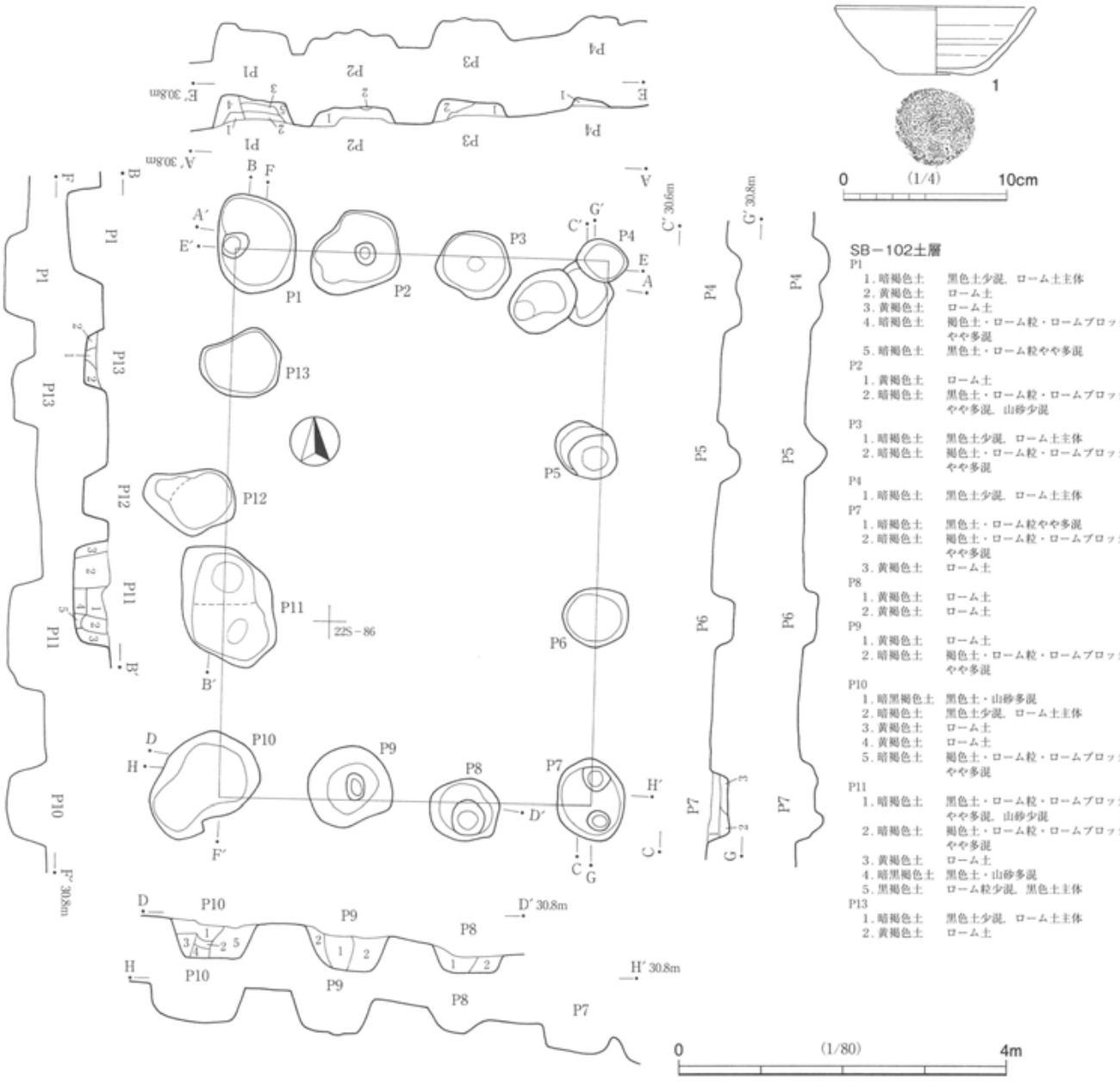
遺跡東部南端の22S－72区に位置する。SB－100の北西側に近接し，他遺構との重複はなく単独である。柱穴の配置は正確に対応する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡であるが，東辺は桁行３間ある。桁行方位はN-20°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約50cmで北側に行くにしたがい浅くなる。柱穴径は52cm～136cm前後であるが，Ｐ１が極端に小さい。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。出土遺物はない。

SB－102（第541図，図版150・300）

遺跡東部南端の22S－75区に位置する。SB－100の北東側に近接し，他遺構との重複はなく単独である。柱穴の配置は若干正確さを欠く桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡であるが，西辺は桁行４間ある。桁行方位はN-2°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約37cmで東側に行くにしたがい浅くなる。柱穴径は64cm～160cm前後で，大きさに極端な差がある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ３・Ｐ４・Ｐ10・Ｐ13の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものは１点のみである。



第540図　SB－101

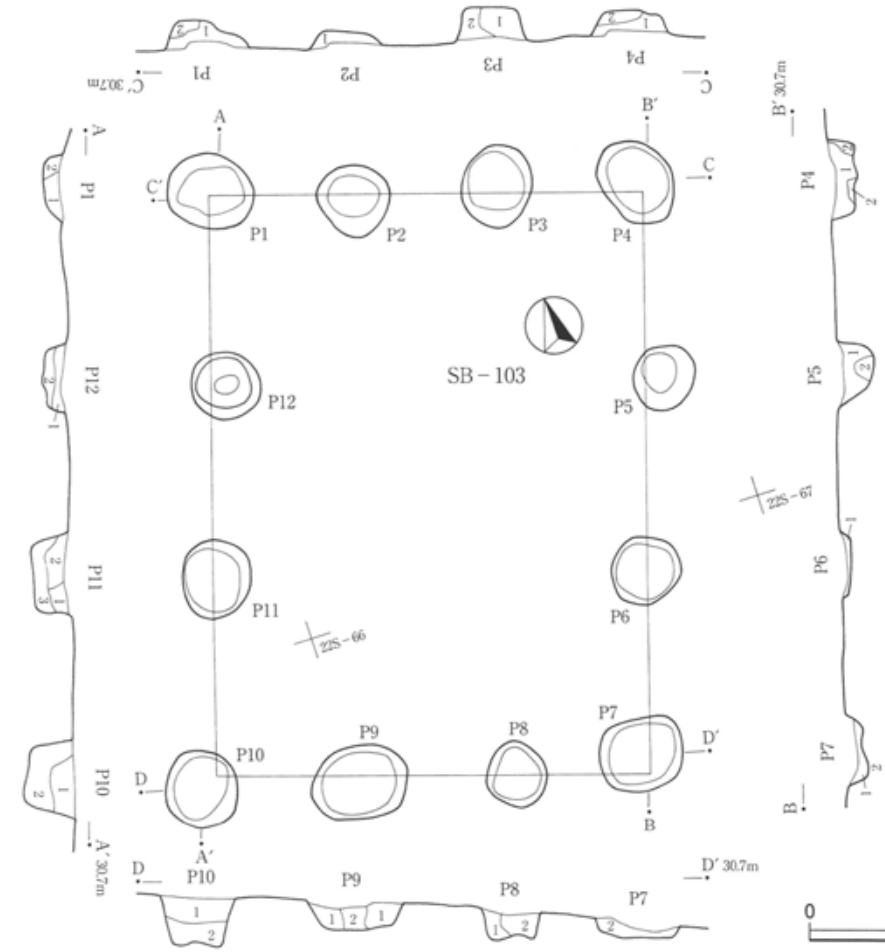


第541図　SB－102

1は土師器の杯でP10の覆土内一括出土である。口径12.1cm・底径4.4cm・器高4.2cmで，色調は内外面ともに橙色を呈し，胎土は赤色スコリア・砂粒が含まれ粗で焼成は良好である。調整は内外面ともに回転ナデが施され，底部外面は無調整で切り離し技法は回転糸切りである。

SB－103（第542図，図版150）

遺跡東部南端の22S－56区に位置する。SB－124の南側に近接し，SB－104と重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行3間×梁行3間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-17°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約36cmで全体的に浅い。柱穴径は70cm～108cm前後で，あまり大きな差はない。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はP1・P2の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。



SB－103土層

P1
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P2
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混

P3
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P4
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P5
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P6
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混

P7
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

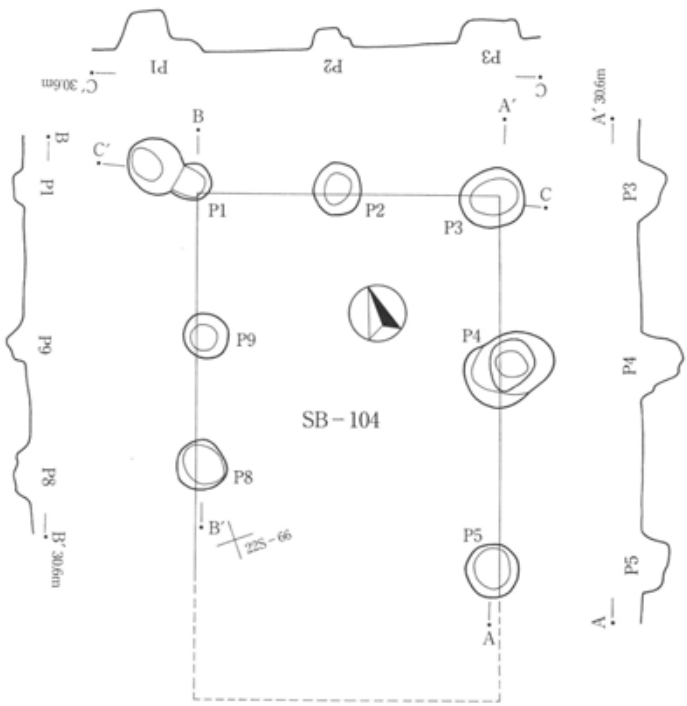
P8
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P9
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P10
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P11
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 黄褐色土　ローム土

P12
1. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混



第542図　SB－103・104

SB－104（第542図，図版150）

遺跡東部南端の22S－56区に位置する。SB－124の南側に近接し，SB－103と重複する。柱穴の配置は正確には対応せず，南列の柱穴は未検出の桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-20°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約28cmで極端に浅い。柱穴径は48cm～96cm前後で，あまり大きな差はない。遺物はＰ１の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－105（第543図，図版151・300・306）

遺跡東部南西寄りの22R－57区に位置する。SB－118の南側に近接し，SI－322・324と重複する。柱穴の配置は正確に対応する桁行５間×梁行３間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-5°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約52cmとほぼ同規模でしっかりした柱穴である。柱穴径も96cm～128cm前後とほぼ同規模で大きく，柱穴底面はすべての柱穴で平らである。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ８～Ｐ12・Ｐ16の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものは３点のみである。

１は土師器の杯でＰ８の覆土内一括出土である。口径10.9cm・底径4.8cm・器高3.5cmで，色調は内外面ともに橙色を呈し，胎土は赤色スコリア・砂粒が含まれ粗で焼成は良好である。調整は内外面ともに回転ナデが施され，底部外面は無調整で切り離し技法は回転糸切りである。

２は土師器の杯で１同様Ｐ８の覆土内一括出土で10点が接合した。口径10.6cm・底径4.8cm・器高3.7cmで，色調は内外面ともに橙色を呈し，胎土は赤色スコリア・砂粒が含まれ粗で焼成は良好である。調整は内外面ともに回転ナデが施され，底部外面は無調整で切り離し技法は回転糸切りである。

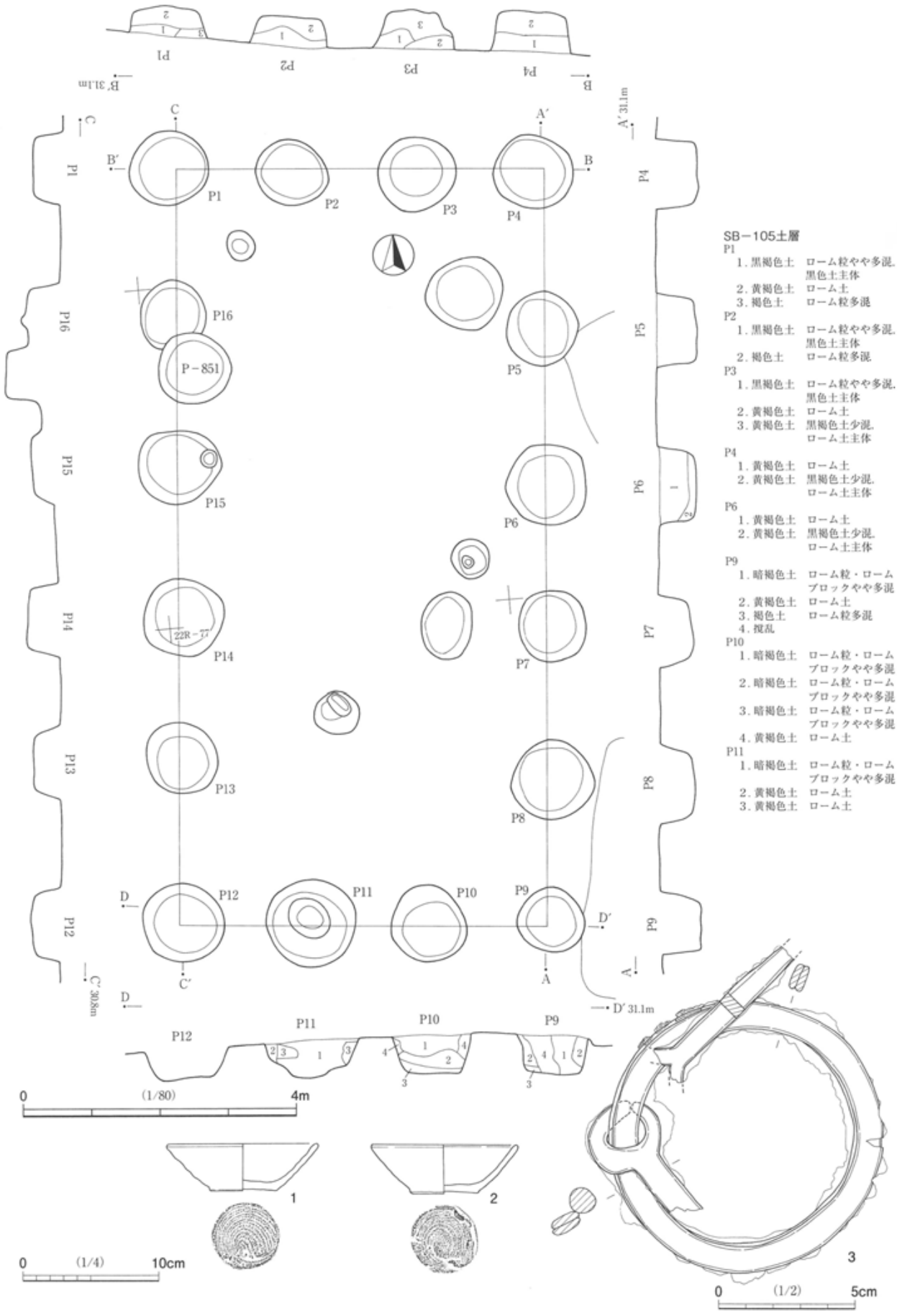
３は鉄製馬具の轡である。Ｐ16の覆土中から出土した。鏡板は平たい環状鉄製品を２枚合わせにして形作られており，幅9.0mm・厚５mm～６mmを測る。鏡板の外径は10cmである。鉄板１枚分の厚さは２mm～３mmで，双方とも同じ厚さである。鏡板には若干の木質部が付着している。喰は鏡板に連結された状態で全長５cmを残し途中で欠損しており，棒状部の幅11.0mm・厚9.0mmを測る。円環部の外径は2.8cmである。引手は連結部と全長6.2cmを残し途中で欠損しており，棒状部の幅8.5mm・厚4.2mmを測る。喰の円環部には，引手の連結部分が残存しているようにも思われるが，錆のために不明瞭である。

SB－106（第544図，図版151）

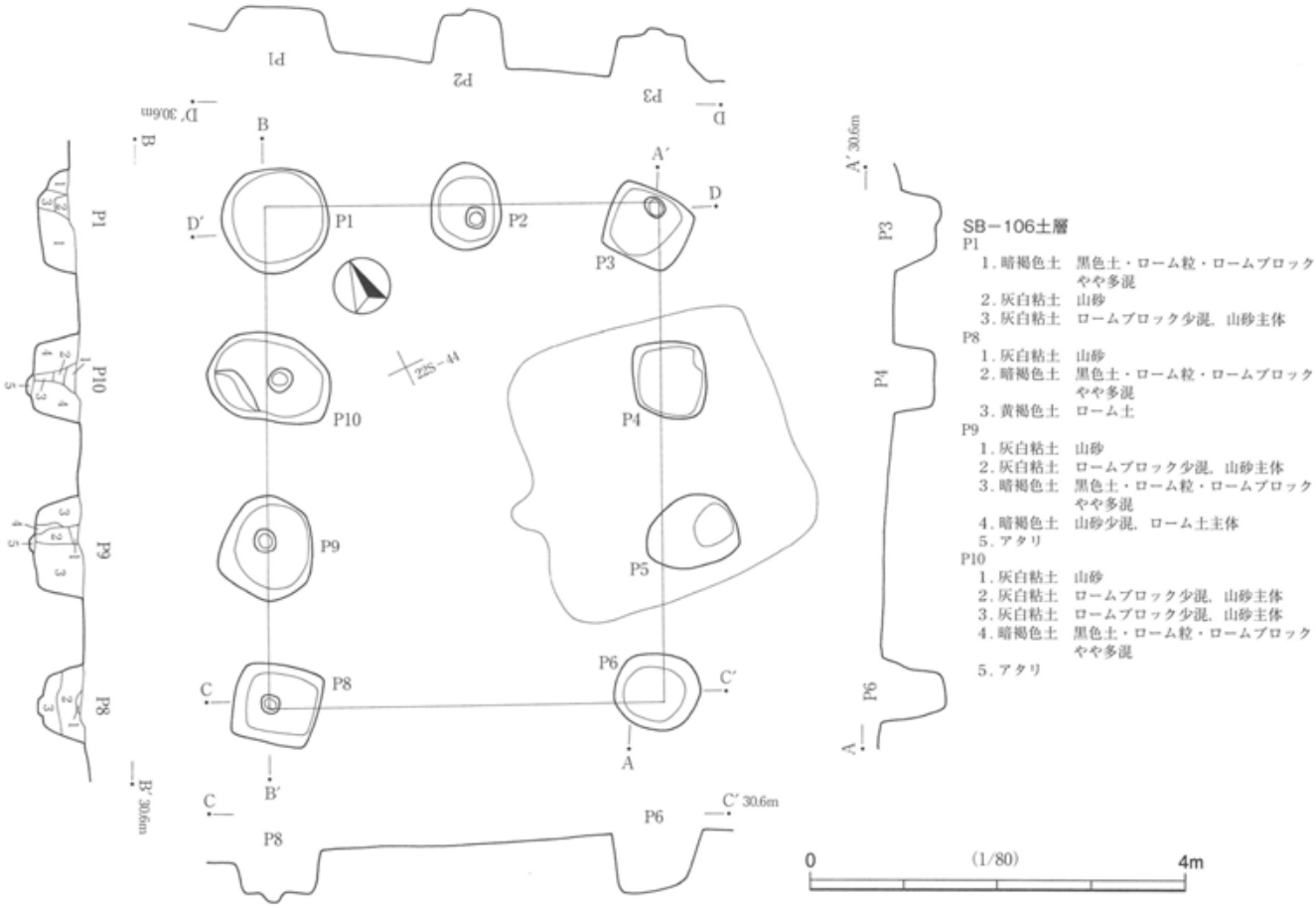
遺跡東部南端の22S－43区に位置する。SB－111の北側に近接し，SI－353と東列中央部分で重複する。柱穴の配置は正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-27°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約58cmであるが，若干のばらつきがある。柱穴径も80cm～130cm前後と，大きなばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロック・山砂が主体に混入している。遺物はＰ１～Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ10の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－107（第545図，図版151）

遺跡東部南端の22S－17区に位置する。SB－110・SB－117の南西側に近接し，他遺構との重複はなく単独である。柱穴の配置は正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-17°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約46cmであるが，若干のばらつきがある。柱穴径は64cm～94cm前後と，あまり大きなばらつきはない。柱穴底面はほとんどが平らである。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ１・Ｐ３・Ｐ７・Ｐ８の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。


SB－105土層
P1
1．黒褐色土　ローム粒やや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土
3．褐色土　ローム粒多混
P2
1．黒褐色土　ローム粒やや多混，黒色土主体
2．褐色土　ローム粒多混
P3
1．黒褐色土　ローム粒やや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土
3．黄褐色土　黒褐色土少混，ローム土主体
P4
1．黄褐色土　ローム土
2．黄褐色土　黒褐色土少混，ローム土主体
P6
1．黄褐色土　ローム土
2．黄褐色土　黒褐色土少混，ローム土主体
P9
1．暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2．黄褐色土　ローム土
3．褐色土　ローム粒多混
4．撹乱
P10
1．暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2．暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3．暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
4．黄褐色土　ローム土
P11
1．暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2．黄褐色土　ローム土
3．黄褐色土　ローム土
P－851
22R－27
A′ 31.1m
B′ 31.1m
C′ 30.8m
D′ 31.1m
0 (1/80) 4m
0 (1/4) 10cm
0 (1/2) 5cm

第543図　SB－105



第544図　SB－106

SB－108（第545図，図版151）

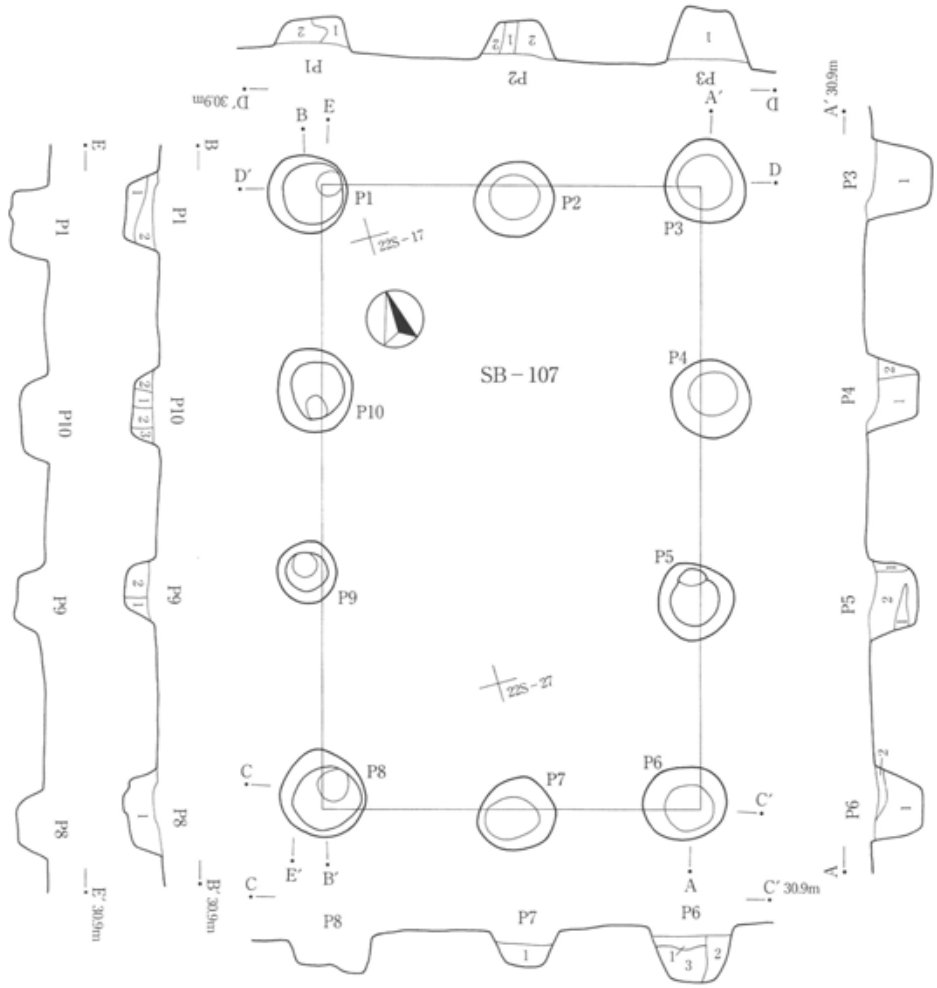
遺跡東部東寄りの23R－00区に位置する。SB－120の南東側に近接し，SB－109と南側半分で重複する。柱穴の配置は正確に対応するが，南西側端部の柱穴は撹乱を受けており形状は不明な桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-13°-Eで，検出された柱穴の柱穴深の平均は遺構確認面から約50cmで，あまりばらつきはない。柱穴径は80cm～100cm前後と，あまり大きなばらつきはない。柱穴底面はほとんどが平らである。柱穴覆土はローム粒・ロームブロック・黒色土が主体に混入している。遺物はＰ１の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－109（第546図，図版151）

遺跡東部東寄りの23R－00区に位置し，SB－108と重複する。柱穴の配置は掘立柱建物跡として組めず，ほぼ直列する６本の柱穴列で構成される遺構で，柵列の可能性がある。検出された柱穴の深は平均して浅く，柱穴径も小さい。柱穴覆土はローム粒・ソフトローム・黒色土が主体に混入している。遺物は柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－110（第547図，図版152）

遺跡東部南西寄りの22R－98区に位置する。SI－362の東側に近接し，SB－117と全面的に重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-8°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約62cmで，あまりばらつきがなくしっかりしている。柱穴径は98cm～144cm前



SB－107土層

P1
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土

P2
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土

P3
1. 黄褐色土　ローム土

P4
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土

P5
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土

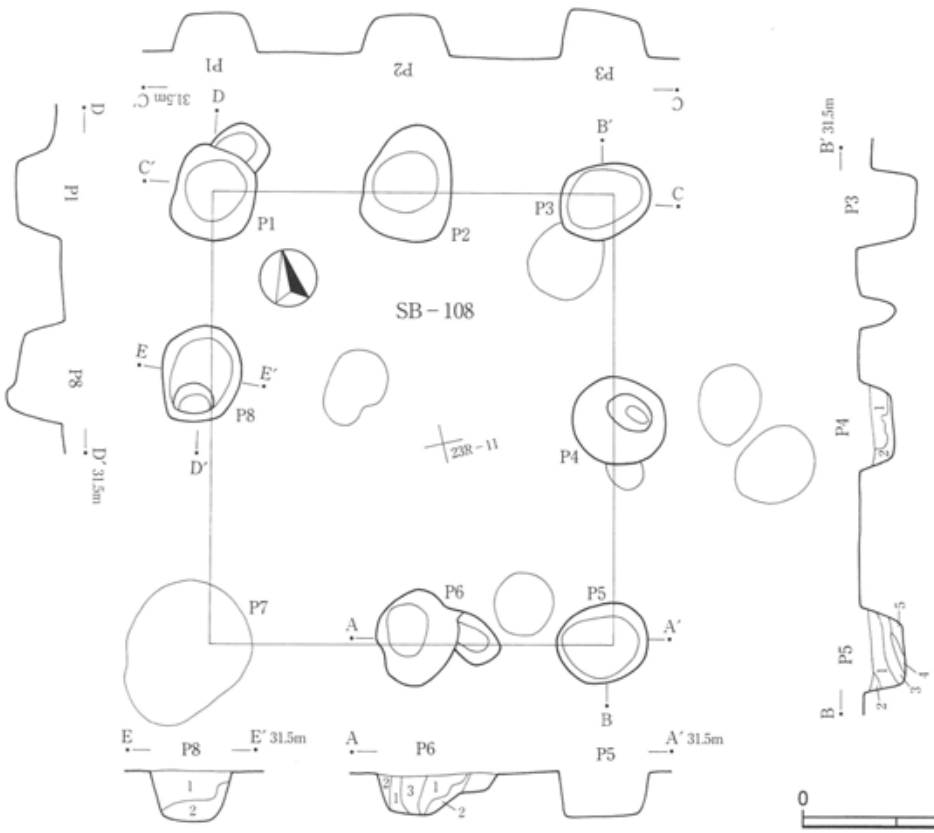
P6
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土
3. 黒褐色土　ロームブロック少混．黒色土主体

P7
1. 黄褐色土　ローム土

P8
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P9
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土

P10
1. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ローム土
3. 黄褐色土　ローム土



SB－108土層

P4
1. 黒褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

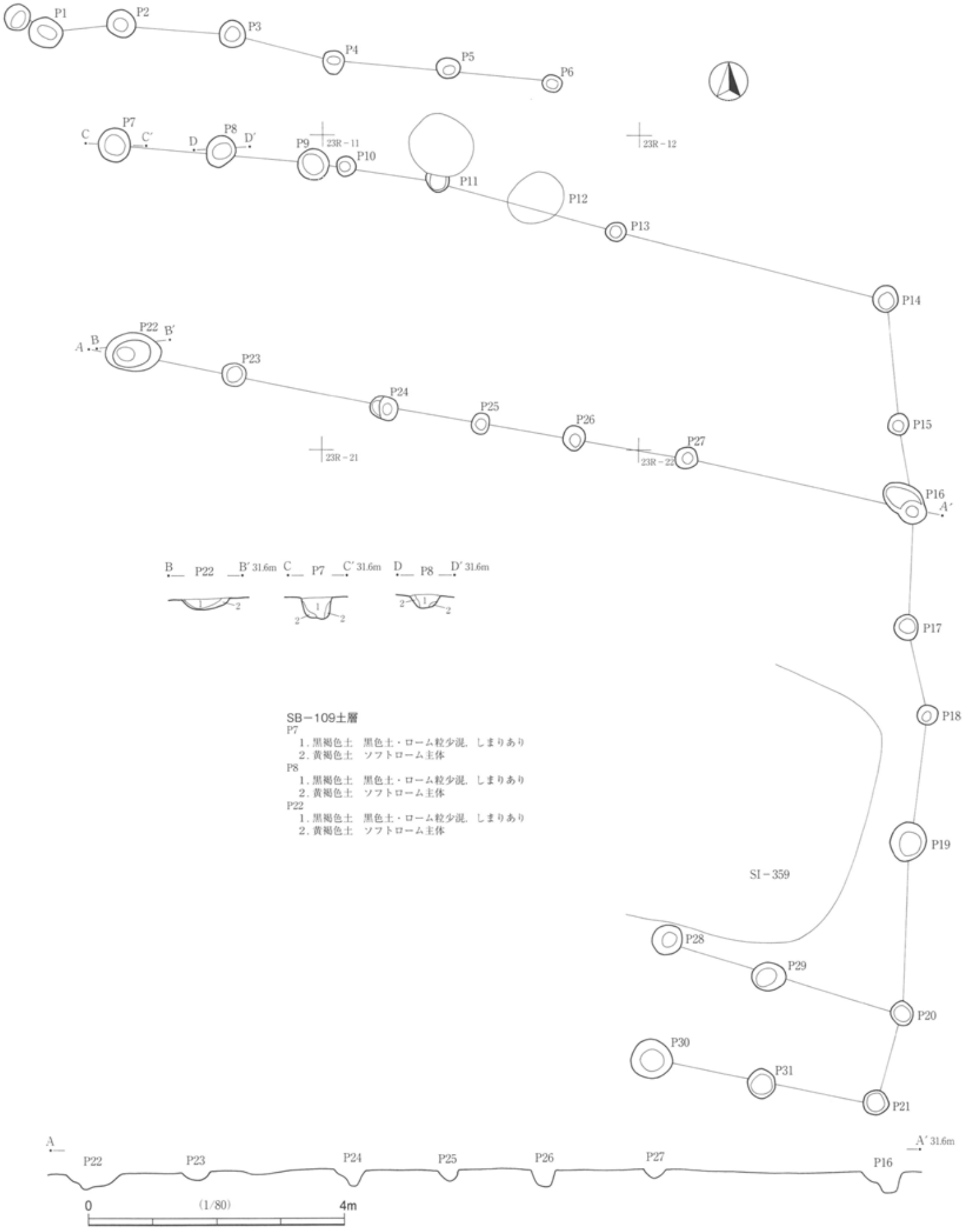
P5
1. 黒褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒多混
3. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
4. 暗黄褐色土　ローム粒やや多混
5. 黄褐色土　ローム粒多混

P6
1. 黒褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混
3. 黄褐色土　ローム粒多混

P8
1. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．黒色土主体
2. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混．黒色土主体

0　(1/80)　4m

第545図　SB－107・108



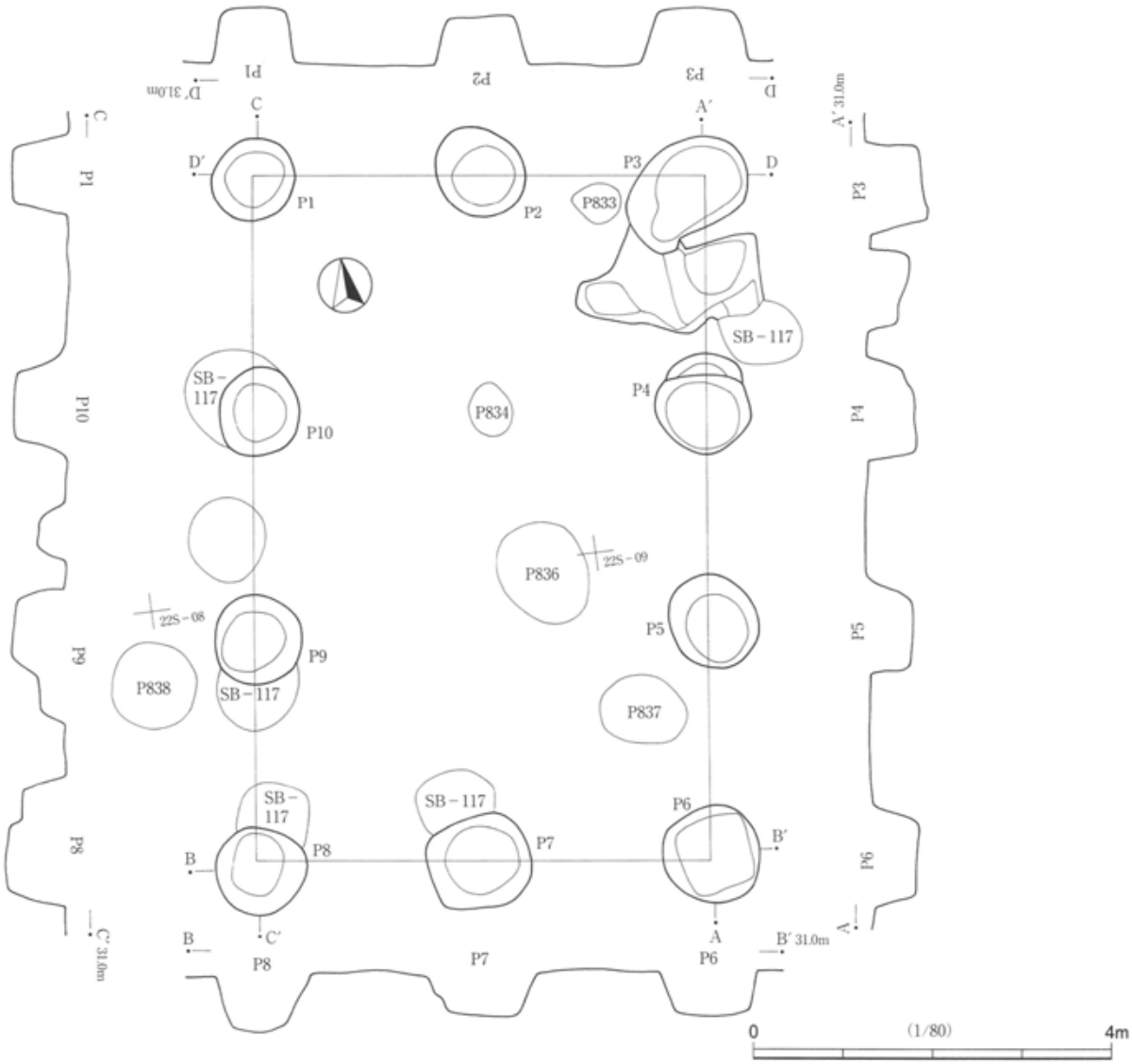
SB－109土層

P7
1．黒褐色土　黒色土・ローム粒少混，しまりあり
2．黄褐色土　ソフトローム主体

P8
1．黒褐色土　黒色土・ローム粒少混，しまりあり
2．黄褐色土　ソフトローム主体

P22
1．黒褐色土　黒色土・ローム粒少混，しまりあり
2．黄褐色土　ソフトローム主体

第546図　SB－109



第547図　SB－110

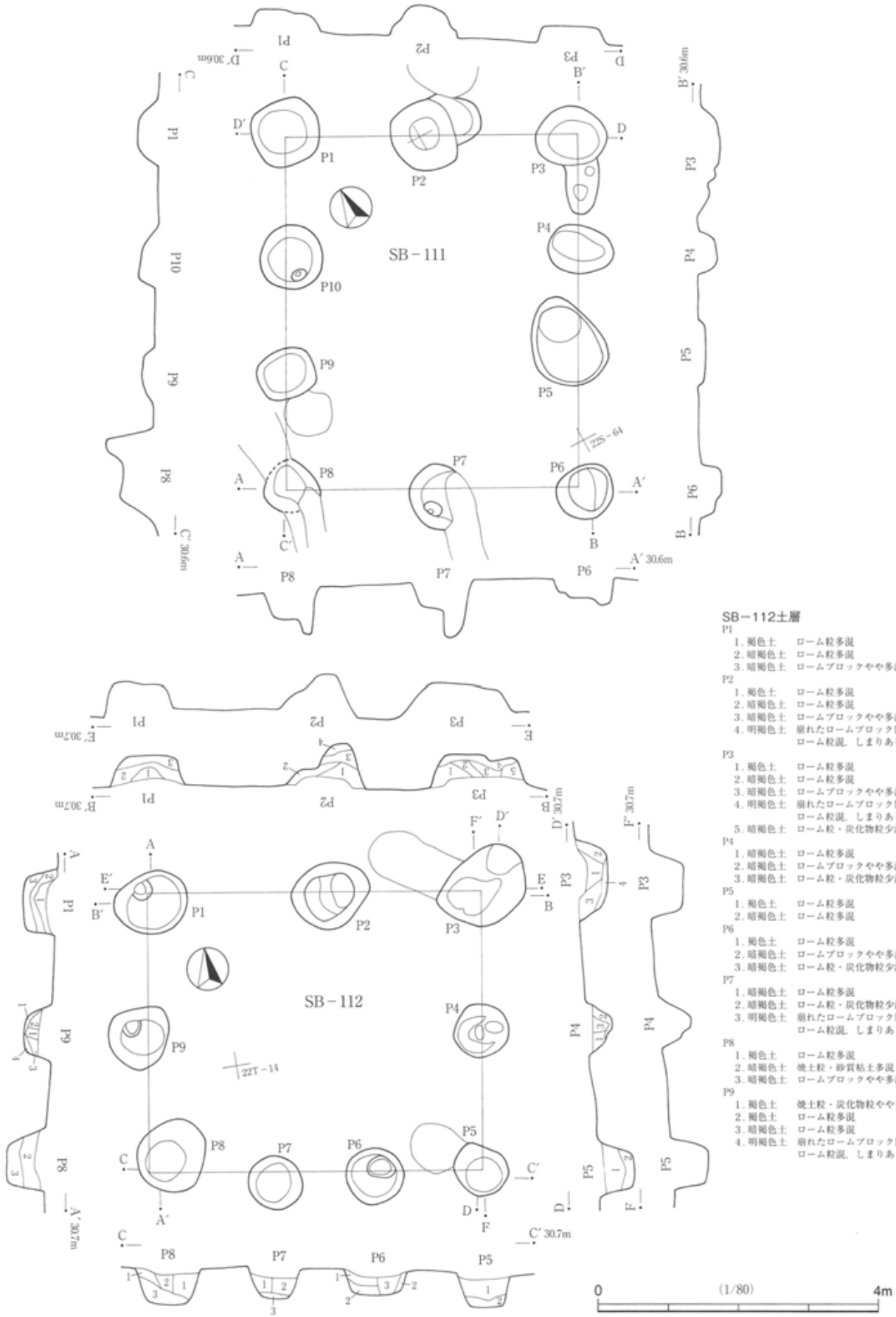
後と，大きくあまりばらつきはなく，柱穴底面はほとんどが平らである。柱穴覆土はローム粒・ロームブロック・黒色土が主体に混入している。遺物はＰ４の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－111（第548図，図版152）

遺跡東部南端の22S－53区に位置し，SB－106の南側に近接する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-27°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約32cmで，若干のばらつきがある。柱穴径は68cm～136cm前後と，大きなばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入しており，焼土粒・炭化物粒を混入するのもある。出土遺物はない。

SB－112（第548図，図版152）

遺跡東部南端斜面部の22T－03区に位置する。SB－100の南側に近接し，SB－113・114と重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であが，北辺の桁行は２間である。桁行方位はN-81°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約53cmで，若干のばらつきがある。柱穴径は76cm～132cm前後と，大きなばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入しており，焼



SB－112土層

P1
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P2
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 明褐色土　崩れたロームブロック間に汚れたローム粒混，しまりあり

P3
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
4. 明褐色土　崩れたロームブロック間に汚れたローム粒混，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒・炭化物粒少混

P4
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒・炭化物粒少混

P5
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒多混

P6
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
3. 暗褐色土　ローム粒・炭化物粒少混

P7
1. 暗褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒・炭化物粒少混
3. 明褐色土　崩れたロームブロック間に汚れたローム粒混，しまりあり

P8
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　焼土粒・砂質粘土多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混

P9
1. 褐色土　焼土粒・炭化物粒やや多混
2. 褐色土　ローム粒多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混
4. 明褐色土　崩れたロームブロック間に汚れたローム粒混，しまりあり

第548図　SB－111・112

土粒・炭化物粒を混入するのもある。遺物はＰ１・Ｐ５・Ｐ８・Ｐ９の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－113（第549図，図版152）

遺跡東部南端斜面部の22T－04区に位置する。SB－100の南側に近接し，SB－112・114と重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-79°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約42cmで，ばらつきはあまりなく全体的に浅い。柱穴径は92cm～128cm前後と，ばらつきはあまりないが全体的に大きい。柱穴覆土はローム粒・ロームブロック・暗褐色土が主体に混入している。遺物はＰ２・Ｐ５の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－114（第549図，図版152）

遺跡東部南端斜面部の22T－04区に位置する。SB－100の南東側に近接し，SB－112・113と重複する。柱穴の配置は北辺と南辺中央の柱穴位置が若干ずれる，桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-65°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約59cmで，大きなばらつきがある。柱穴径は65cm～128cm前後と，ばらつきは大きい。柱穴覆土はローム粒が主体に混入している。遺物はＰ４・Ｐ５の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－115（第550図，図版152）

遺跡東部南端の22S－19区に位置する。SB－110・117の南東側に近接し，SI－318と重複する。柱穴の配置は東辺中央北側の柱穴がSI－318と重複するため未検出であるが，ほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-12°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約35cmで，若干のばらつきがあり全体的に浅い。柱穴径は72cm～100cm前後と，ばらつきは見られずほぼ同一規模である。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ２・Ｐ５～Ｐ９の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－116（第551図，図版153）

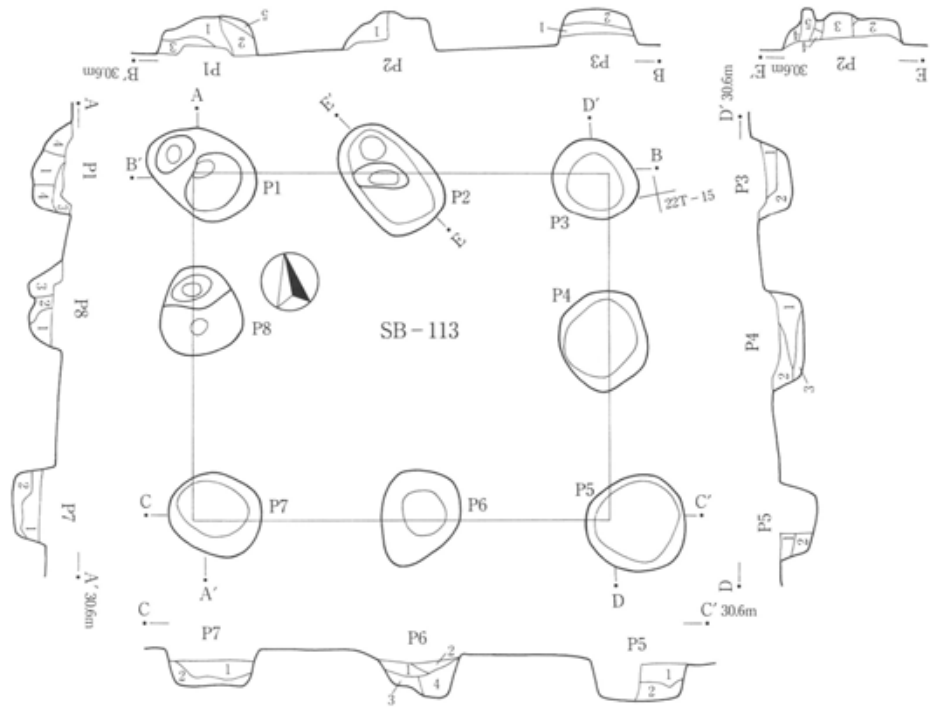
遺跡東部東寄りの23R－50区に位置する。SI－327・328の南側に近接し，他遺構との重複はなく単独である。柱穴の配置は正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-7°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約43cmで，ばらつきはほとんどなく全体的に浅い。柱穴径は80cm～136cm前後と，若干のばらつきが見られる。柱穴底面はほとんどの柱穴で平らである。柱穴覆土はローム粒・ローム土が主体に混入している。遺物はＰ１～Ｐ４・Ｐ７～Ｐ10の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－117（第552図，図版152）

遺跡東部南西寄りの22R－98区に位置する。SB－115の北西側に近接し，SB－110と完全に重複する。柱穴の配置はSB－110と重複する柱穴もあるため完全な形の柱穴は少ないが，正確に対応する桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-90°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約47cmで，若干のばらつきがあり全体的に浅い。柱穴径は80cm～128cm前後と，若干のばらつきが見られる。柱穴底面はほとんどの柱穴で平らである。遺物はＰ１の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－118（第553図，図版153）

遺跡東部南西寄りの22R－36区に位置する。SB－105の北側に近接し，SB－121・122と北東側で重複する。柱穴の配置はＰ３・Ｐ５でSB－122と重複するが，正確に対応する桁行４間×梁行２間の掘立柱建物



SB－113土層

P1
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ロームブロック多混
4. 黄褐色土　暗褐色土やや多混，ローム土主体，しまりあり
5. 黄褐色土　ロームブロック間に暗褐色土少混

P2
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多混
2. 暗褐色土　ロームブロック多含
3. 暗褐色土　しまりなし
4. 黄褐色土　暗褐色土含
5. 黒褐色土　ロームまばらに含む

P3
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 褐色土　ロームブロック多混

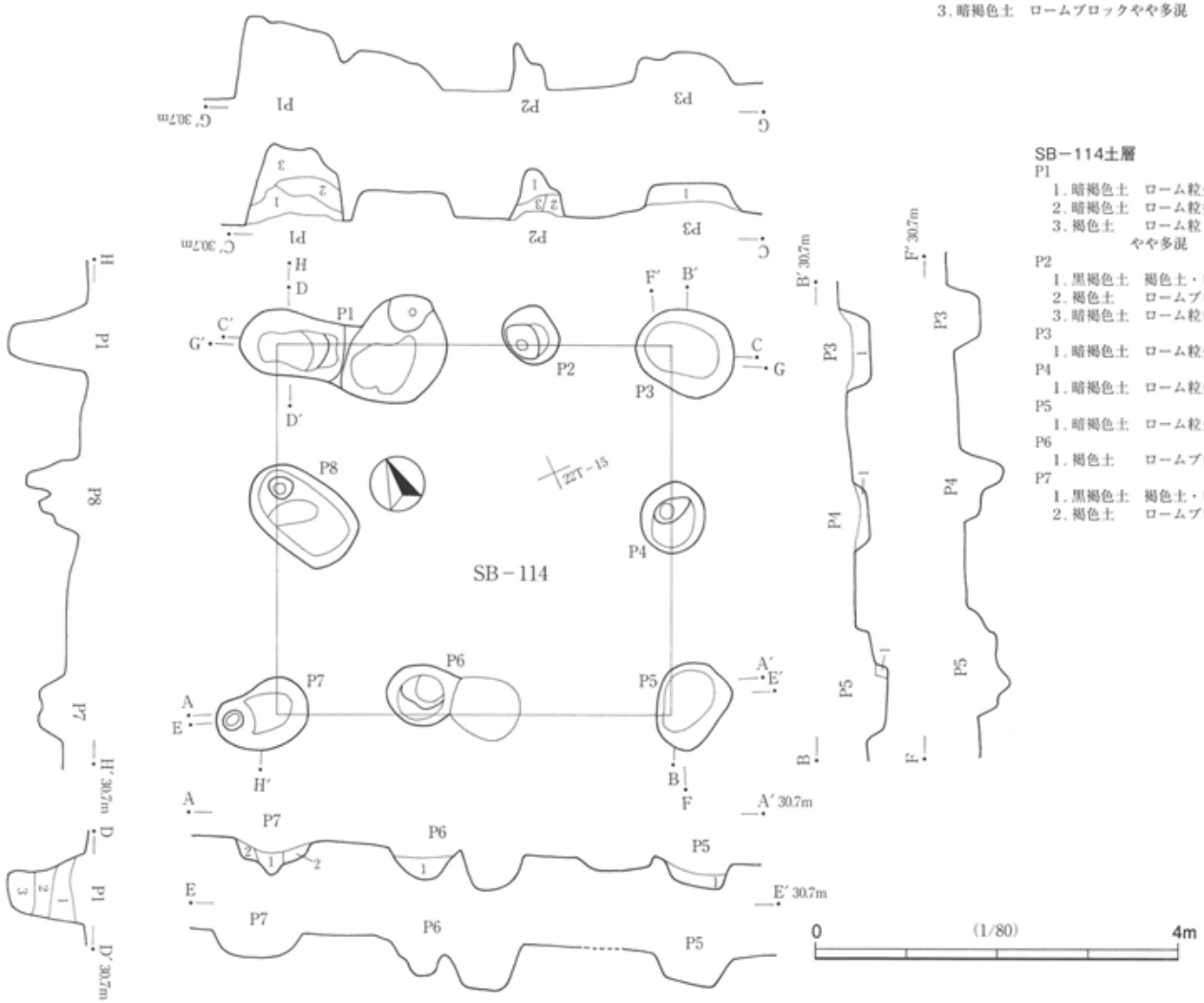
P4
1. 褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ロームブロック多混
3. 黄褐色土　ロームブロック間に暗褐色土少混

P5
1. 褐色土　ロームブロック多混
2. 黄褐色土　ロームブロック間に暗褐色土少混

P6
1. 褐色土　ロームブロック多混
2. 暗褐色土　ロームブロック多混
3. 黄褐色土　ロームブロック間に暗褐色土少混
4. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混

P7
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 褐色土　ロームブロック多混

P8
1. 褐色土　ローム粒多混
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ロームブロックやや多混



SB－114土層

P1
1. 暗褐色土　ローム粒少混
2. 暗褐色土　ローム粒多混
3. 褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混

P2
1. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混
2. 褐色土　ロームブロック多混
3. 暗褐色土　ローム粒多混

P3
1. 暗褐色土　ローム粒少混

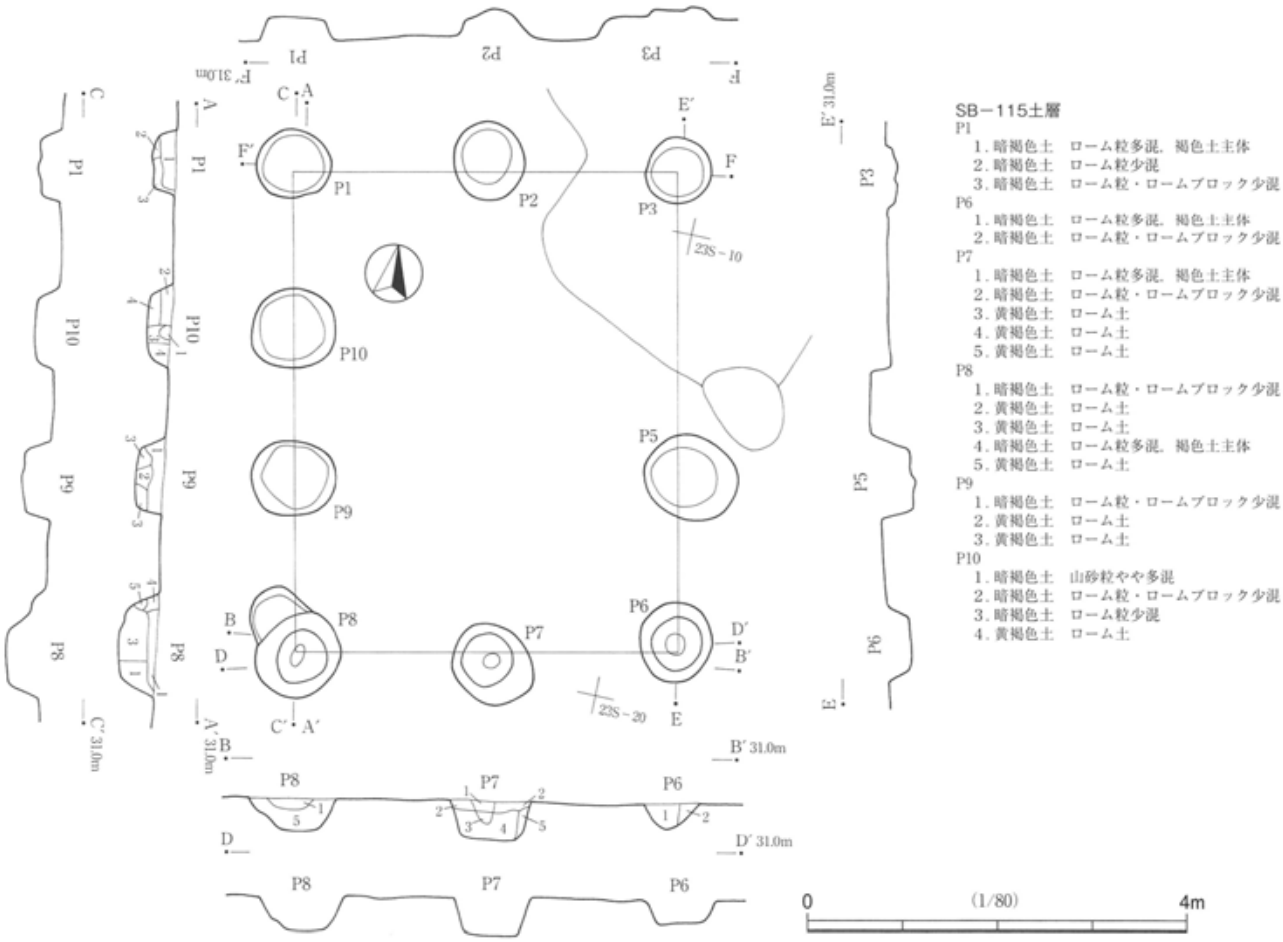
P4
1. 暗褐色土　ローム粒少混

P5
1. 暗褐色土　ローム粒少混

P6
1. 褐色土　ロームブロック多混

P7
1. 黒褐色土　褐色土・ローム粒やや多混
2. 褐色土　ロームブロック多混

第549図　SB－113・114



第550図　SB－115

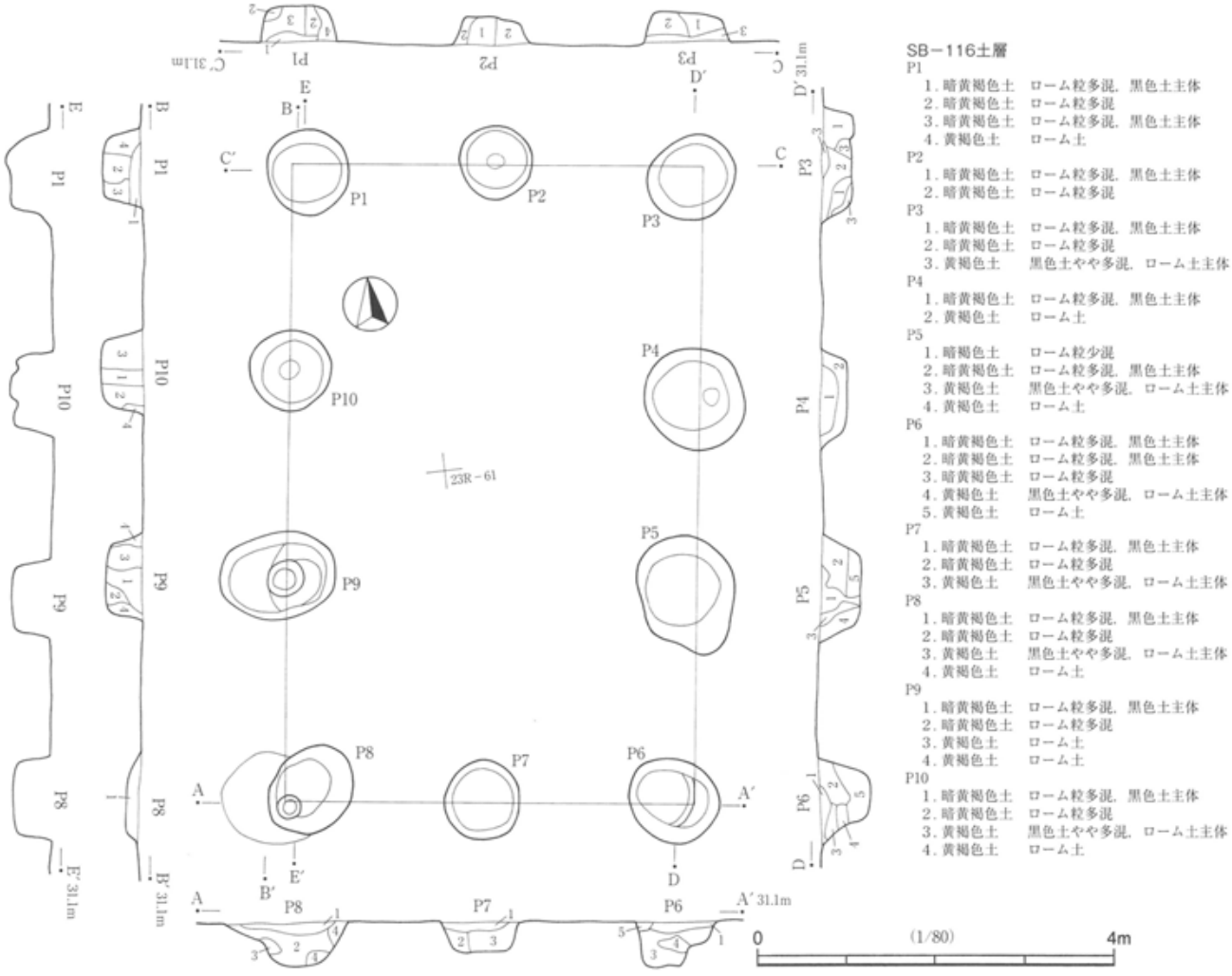
跡である。桁行方位はN-0°で，柱穴深の平均は遺構確認面から約58cmで，若干のばらつきがある。柱穴径は64cm～116cm前後と，若干のばらつきが見られる。柱穴覆土はローム粒・ロームブロック・ローム土が主体に混入している。遺物はＰ１～Ｐ３・Ｐ７～Ｐ９・Ｐ12の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－119（第554図，図版153）

遺跡東部南東端の23S－01区に位置する。SI－350の北東側に近接し，SB－123・SI－315・317とそれぞれ重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行４間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-89°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約46cmで，大きなばらつきがある。柱穴径は60cm～112cm前後と，若干のばらつきが見られる。出土遺物はない。

SB－120（第554図，図版151）

遺跡東部東寄りの23Q－90区に位置する。SI－360の南側に近接し，SB－129と重複する。北列と南列の柱穴は溝状遺構にそれぞれ破壊され形状を留めないものもあるが，桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。本遺構中央部には若干位置のずれた柱穴があり，その柱穴を束柱とするならば総柱の掘立柱建物跡となる可能性もある。桁行方位はN-10°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約46cmで，若干のばらつきがある。柱穴径は44cm～80cm前後と，若干のばらつきが見られる。出土遺物はない。



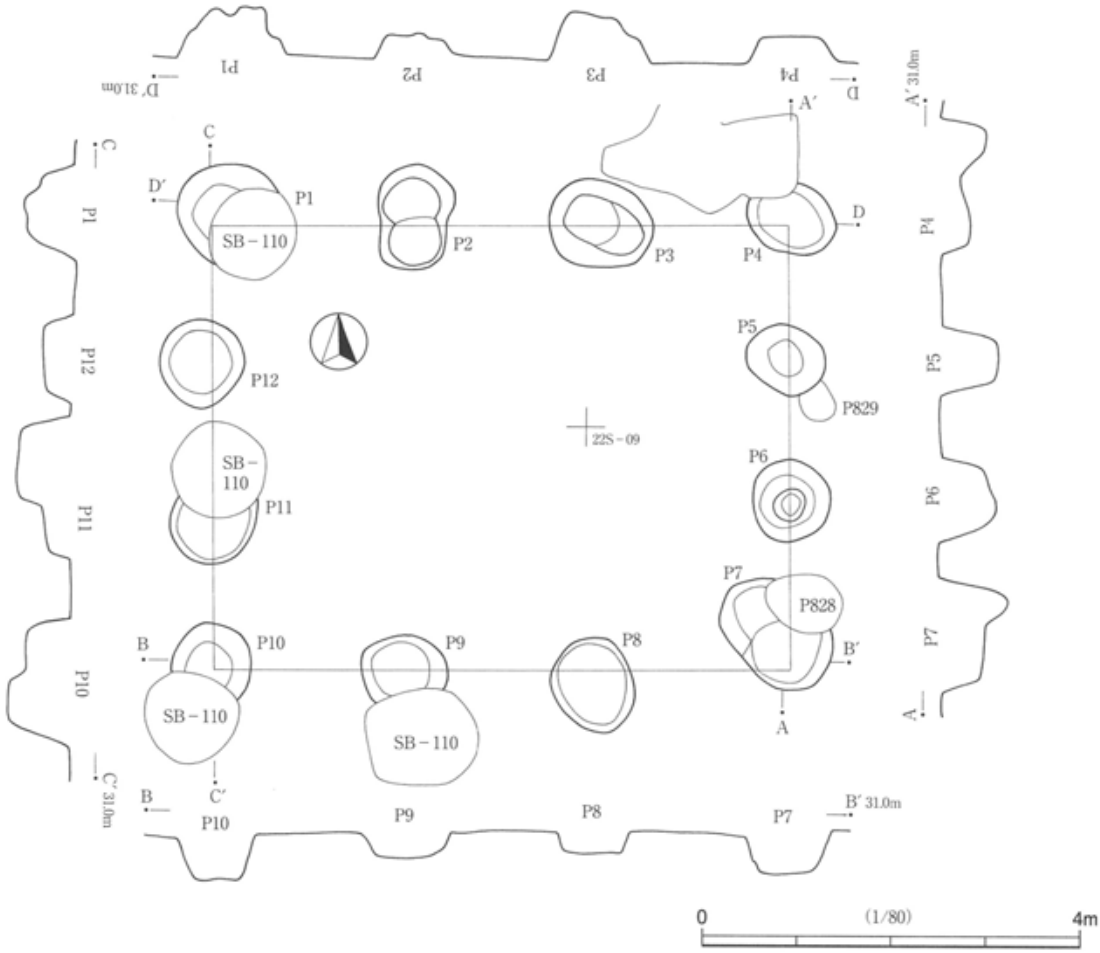
第551図　SB－116

SB－121（第555図，図版153）

遺跡東部南西寄りの22R－37区に位置し，SB－118・122とそれぞれ重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-12°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約42cmで，若干のばらつきがある。柱穴径は60cm～100cm前後と，若干のばらつきが見られる。柱穴覆土は黒色土・ロームブロック・ローム土が主体に混入している。遺物はＰ２・Ｐ10の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－122（第555図，図版153）

遺跡東部南西寄りの22R－37区に位置し，SB－118・121とそれぞれ重複する。柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-80°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約68cmで，ほぼ同一規模でやや深めである。柱穴径は72cm～160cm前後と，大きなばらつきが見られ，特にＰ６は平面形態が楕円形で長軸長160cmを測る。柱穴底面はほとんどの柱穴で平らである。柱穴覆土は黒色土・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ５・Ｐ９の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。



第552図　SB－117

SB－123（第556図，図版153）

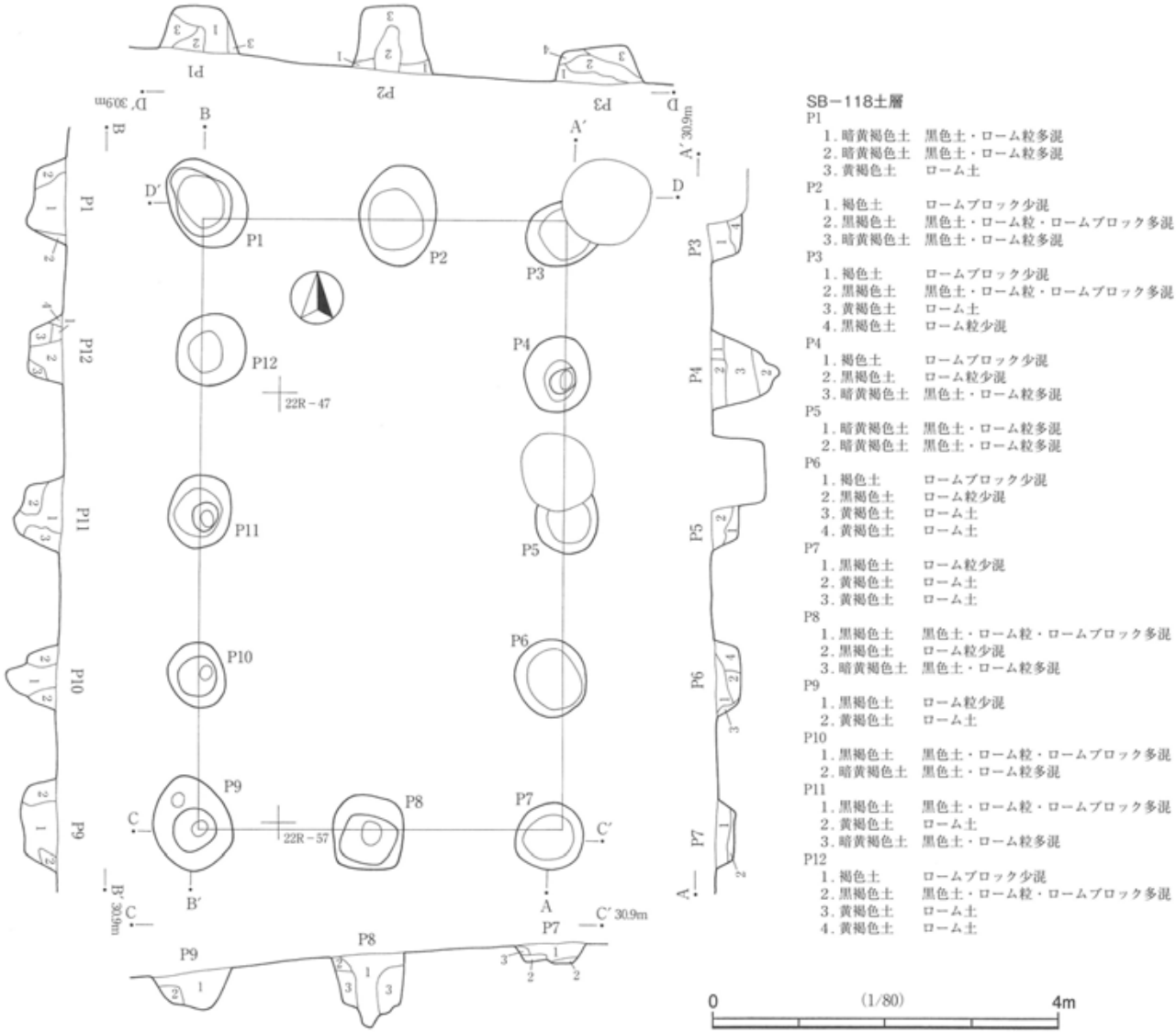
遺跡東部南東端の23S－12区に位置し，SB－119・SI－317とそれぞれ重複する。西列でSI－317の住居跡と重複しているため柱穴１基が未検出であるが，柱穴の配置はほぼ正確に対応する桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-3°-Wで，柱穴深の平均は遺構確認面から約40cmで，大きなばらつきがあり全体的に浅めである。柱穴径は52cm～80cm前後と，ほぼ同一規模で全体的に小さい。柱穴底面はほとんどの柱穴で平らである。柱穴覆土はローム土・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ１の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－124（第557図，図版154）

遺跡東部南東端の22S－36区に位置する。SI－308の西側に近接し，SI－309と重複する。柱穴の配置は正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-14°-Eで，住居跡SI－309と重複するＰ４・Ｐ５を除いた柱穴深の平均は，遺構確認面から約57cmでほぼ同一規模である。柱穴径は76cm～128cm前後と，若干のばらつきがある。全ての柱穴はしっかりと掘られており，柱穴底面はほとんどの柱穴で平らである。柱穴覆土は黒色土・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ１の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－125（第558図，図版154）

遺跡東部南端の22S－61区に位置する。SB－101の西側に近接し，他遺構との重複はなく単独である。柱

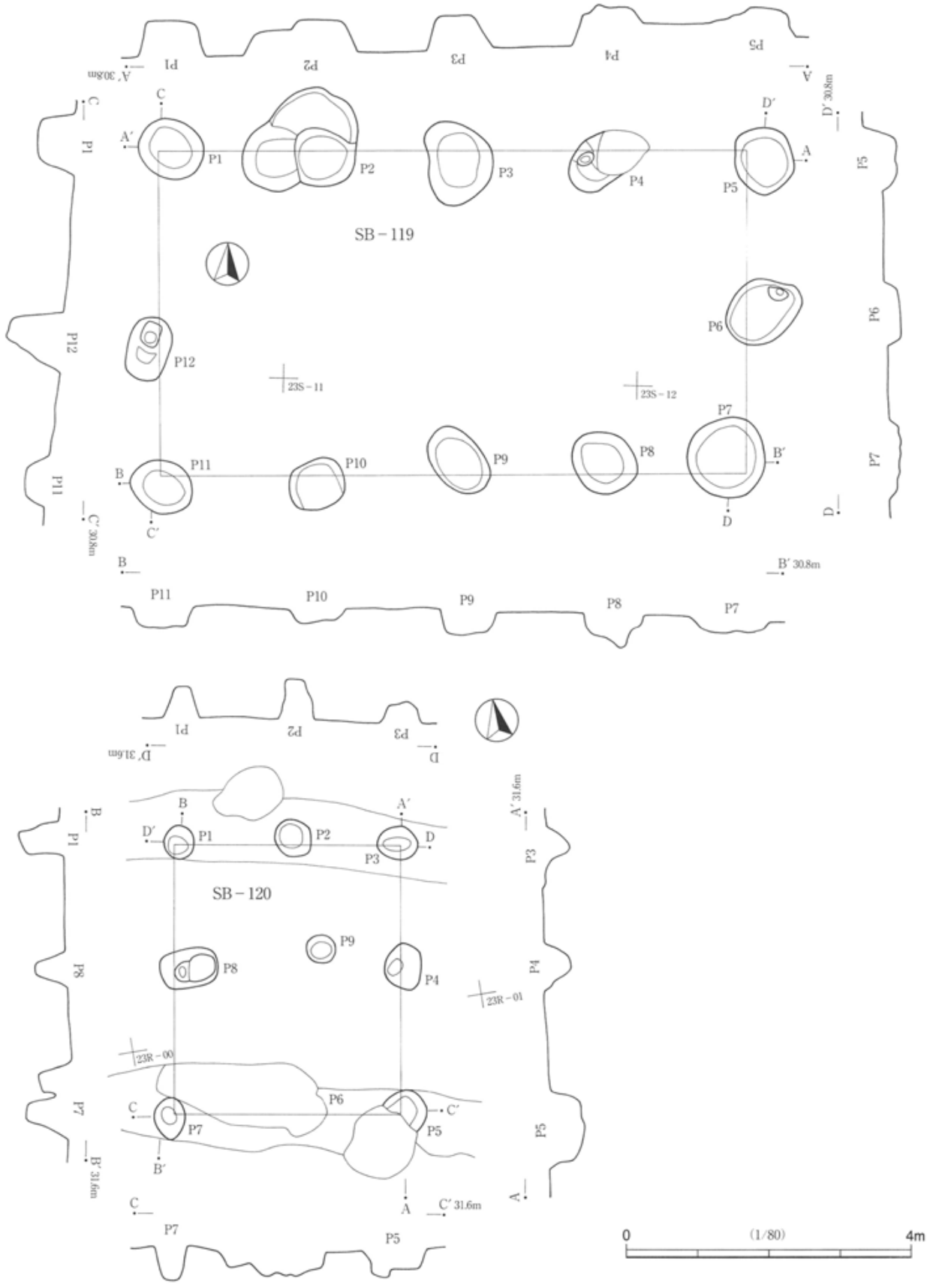


第553図　SB－118

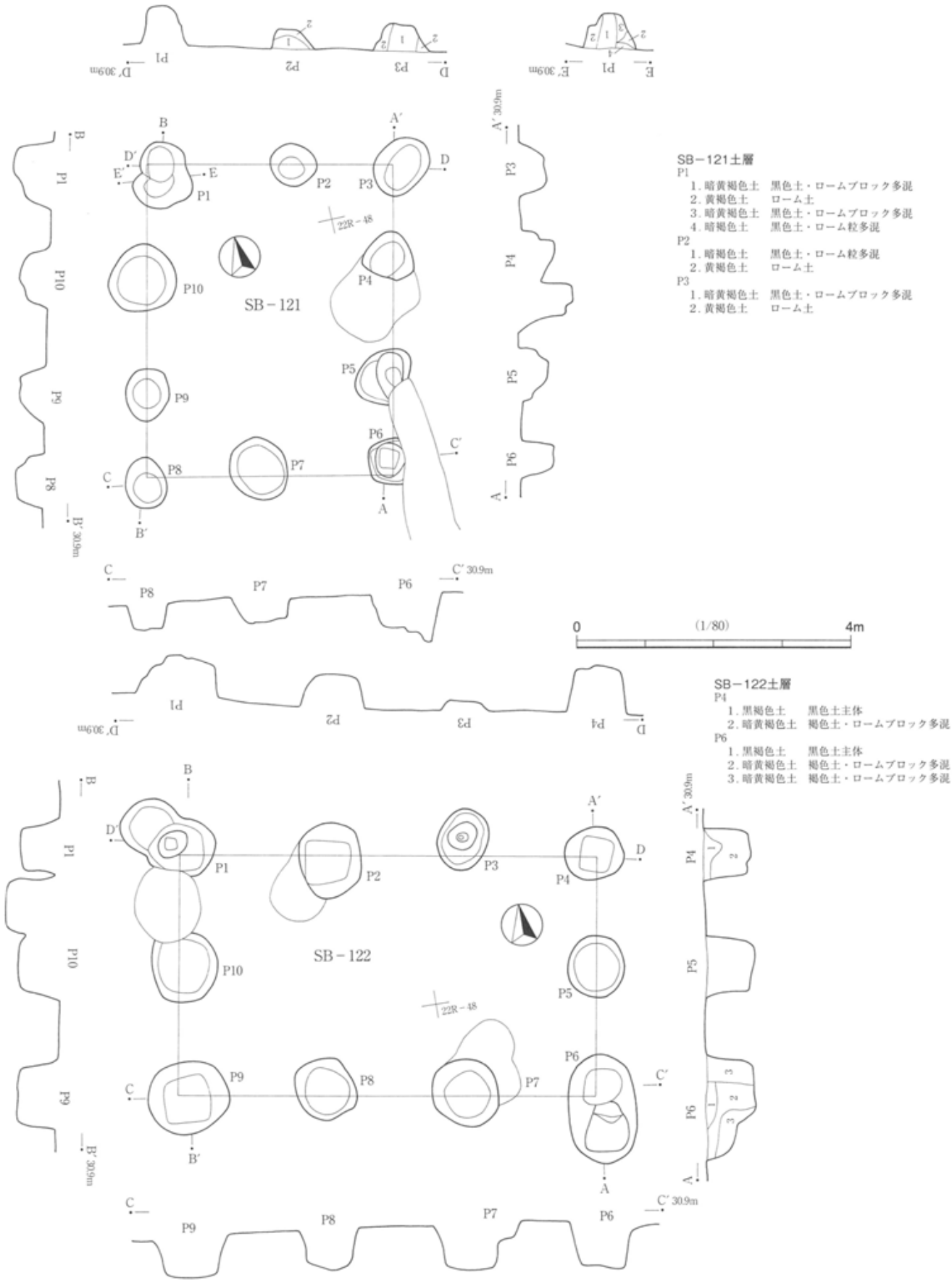
穴の配置は東列で正確に対応するが，全体的に柱穴規模及び形態が大きく異なる。北側に庇を持つ身舎部桁行２間×梁行２間，全体では桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡であると思われる。桁行方位はN-18°-Eで，身舎の西列中央の柱穴は未検出である。庇部の桁行長は約1.6m，梁行長は3.9mを測る。本遺構は西側に傾斜する緩斜面上に構築されている。柱穴覆土はローム粒・黒色土・ロームブロックが主体に混入している。遺物はＰ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ10の柱穴覆土中から出土したが，図示できたものはない。

SB－126（第559図，図版154・300）

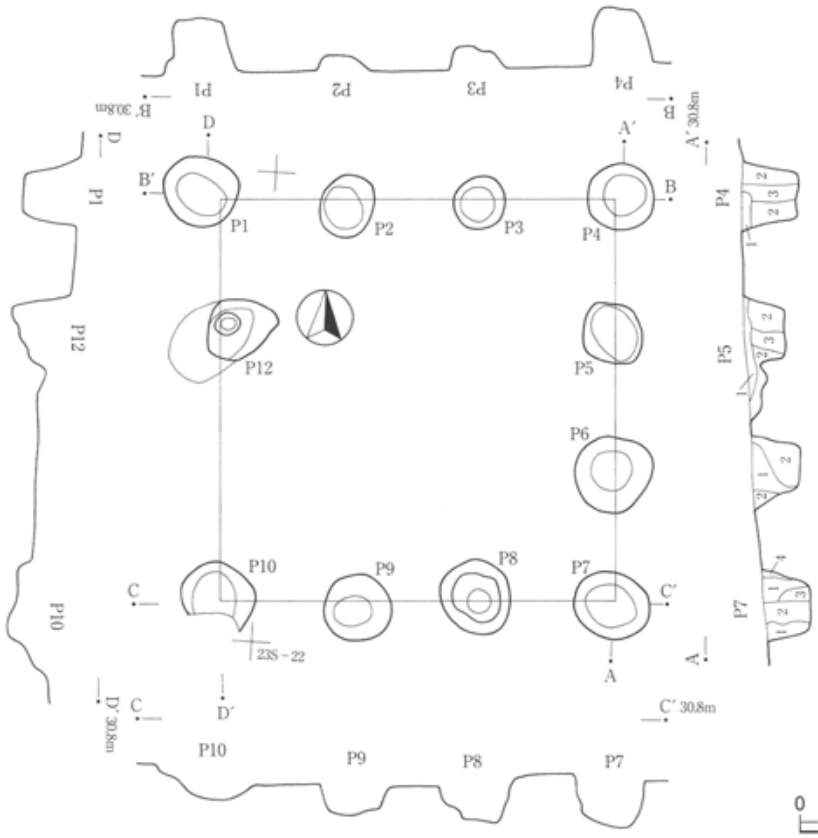
遺跡東部東寄りの23R－84区に位置する。SI－333の南西側・SI－334の南東側にそれぞれ近接し，SI－330と重複する。柱穴の配置は正確に対応する桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-11°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約67cmとほぼ同一規模でしっかりと掘られている。柱穴径は80cm～128cm前後と，若干のばらつきがあるが全体的に大きい。全ての柱穴はしっかりと掘られており，柱穴底面はすべての柱穴で平らである。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物は遺構内精査中の遺構確認面から出土したが，図示できたものは２点のみである。



第554図　SB－119・120



第555図　SB－121・122



SB－123土層

P4
1. 褐色土　黒色土・ローム粒やや多混，ロームブロック少混
2. 黄褐色土　ローム土
3. 黄褐色土　山砂やや多混，ローム土主体

P5
1. 褐色土　黒色土・ローム粒やや多混，ロームブロック少混
2. 黄褐色土　ローム土
3. 黄褐色土　山砂やや多混，ローム土主体

P6
1. 褐色土　黒色土・ローム粒やや多混，ロームブロック少混
2. 黄褐色土　ローム土

P7
1. 黄褐色土　ローム土
2. 黄褐色土　山砂やや多混，ローム土主体
3. 黄褐色土　山砂やや多混，ローム土主体
4. 黄褐色土　ローム土

SB－124土層

P1
1. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ロームブロック多混，褐色土主体
3. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混

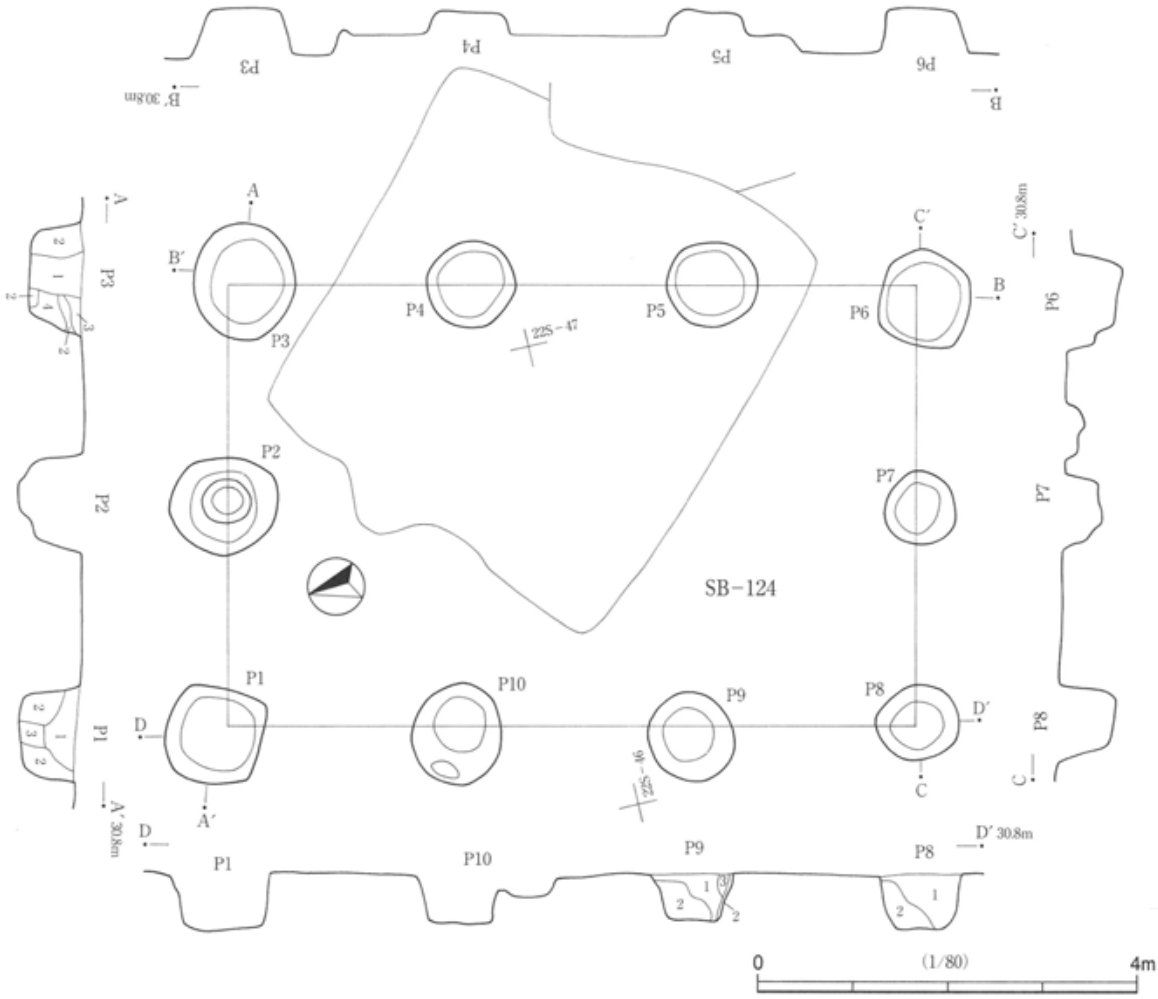
P3
1. 褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
2. 黄褐色土　ロームブロック多混，褐色土主体
3. 暗褐色土　黒色土・ローム粒やや多混
4. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混

P8
1. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ロームブロック多混，褐色土主体

P9
1. 暗褐色土　黒色土・ロームブロックやや多混
2. 黄褐色土　ロームブロック多混，褐色土主体
3. 黄褐色土　ローム土

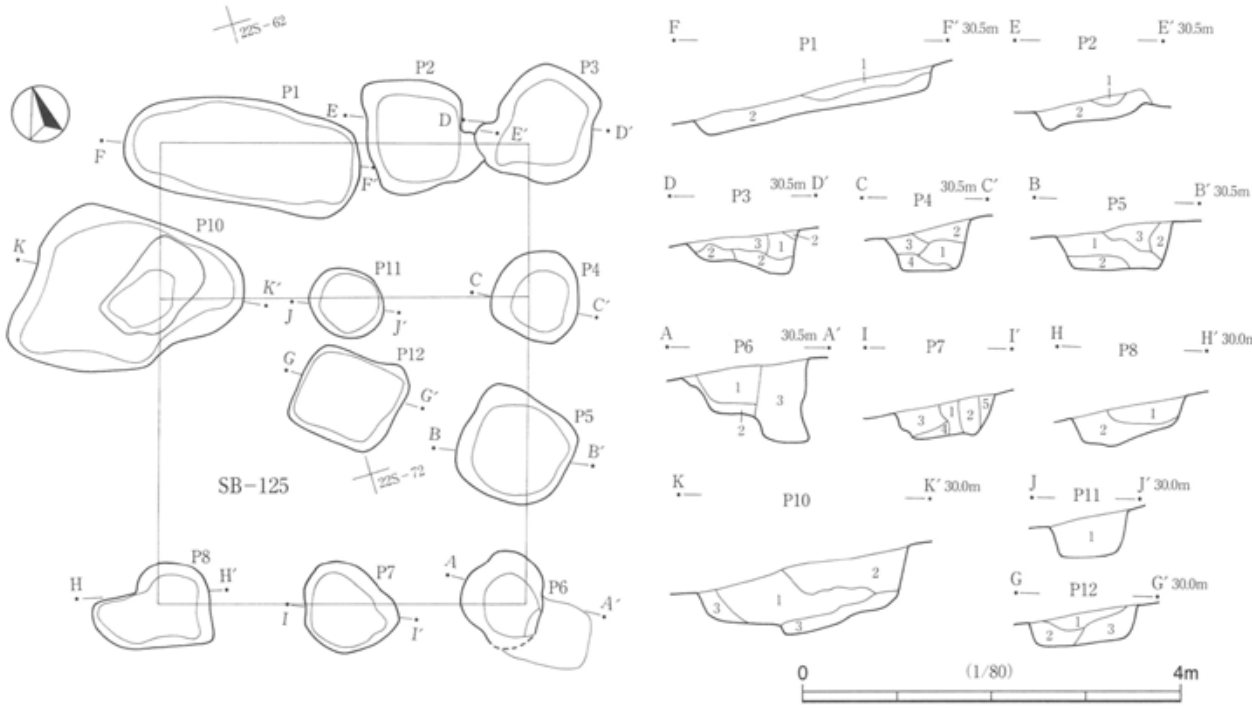
0　(1/80)　4m

第556図　SB－123



0　(1/80)　4m

第557図　SB－124



SB－125土層

P1
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．褐色土　ローム粒少混

P2
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．褐色土　ローム粒少混

P3
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土
3．褐色土　ローム粒少混

P4
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土
3．褐色土　ローム粒少混
4．暗黄褐色土　ロームブロック多混

P5
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土
3．褐色土　ローム粒少混

P6
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土
3．攪乱

P7
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土
3．暗黄褐色土　ロームブロック多混
4．黄褐色土　ローム土
5．攪乱

P8
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．黄褐色土　ローム土

P10
1．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多混，黒色土主体
2．暗黄褐色土　ロームブロック多混
3．黄褐色土　ローム土

P11
1．黄褐色土　ローム土

P12
1．黄褐色土　ローム土
2．黄褐色土　ローム土
3．黄褐色土　ローム土

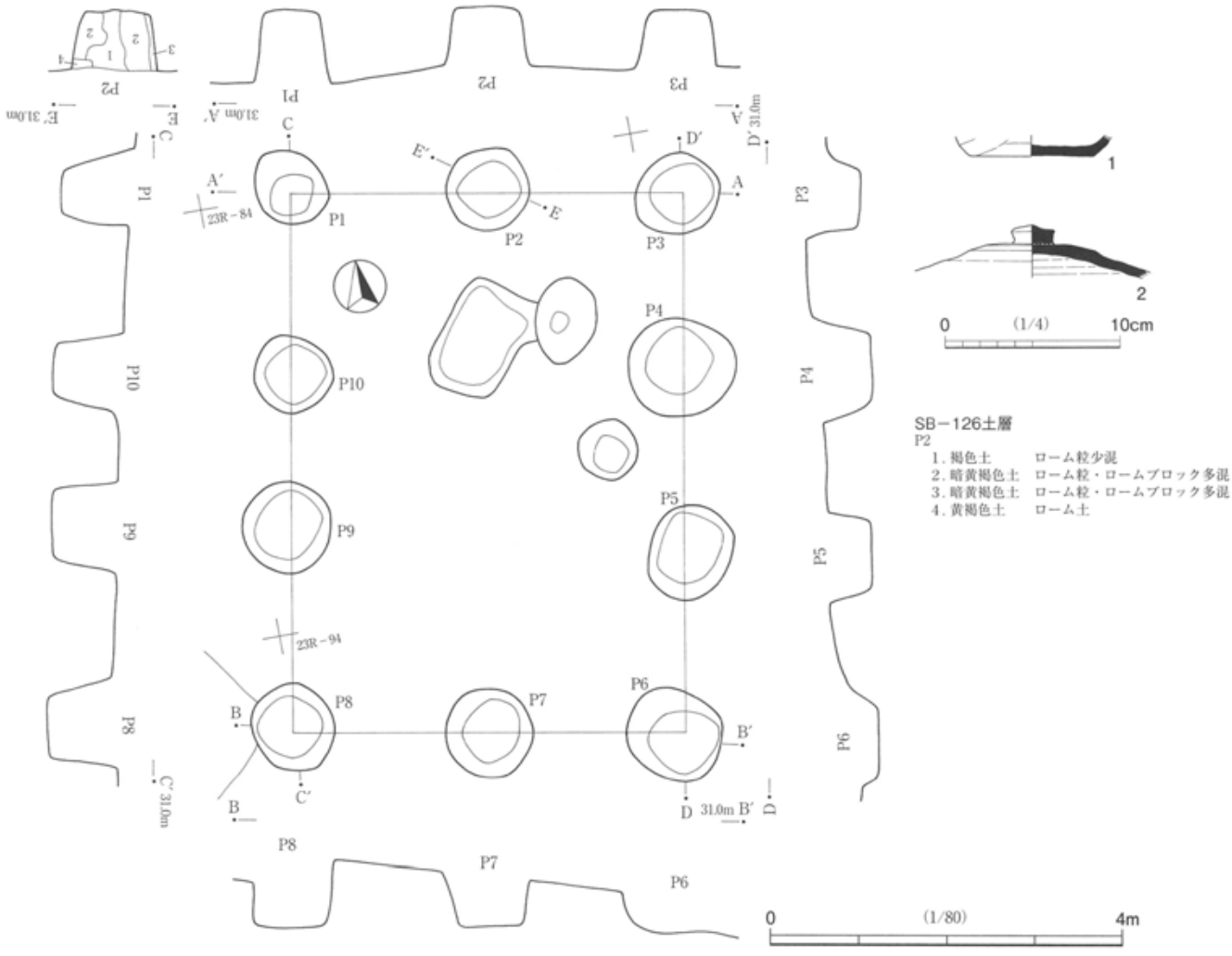
第558図　SB－125

1は須恵器の杯底部片である。底径7.0cmで，色調は内外面ともに灰黄褐色を呈し，胎土は砂粒がやや多く含まれるが密で焼成は良好である。調整は底部外面及びその周縁部に手持ちヘラケズリが施され，切り離し技法は不明である。内面は回転ナデが施されている。底部外面には火襷が認められる。

2は須恵器の蓋で4点が接合したものである。つまみ部の最大径は2.4cm・高さ1.0cmで，色調は内外面ともににぶい黄橙色を呈し，胎土は砂粒・小礫がやや多く含まれるが密で焼成は良好である。調整は内外面ともに回転ナデが施されている。

SB－128（第560図，図版153）

遺跡東部東寄りの23R－43区に位置する。SI－319の北側に近接し，SI－335と重複する。柱穴の配置は，南列でSI－335と重複するため柱穴2基が未検出であるが，ほぼ正確に対応すると思われる。南側に庇を持つ身舎部桁行4間×梁行3間，全体では桁行4間×梁行4間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-79°-Wで，庇部の桁行は4間で長は約8.5m，梁行は1間で長は2.2mを測る。柱穴深の平均は身舎部分で遺構確認面から約57cm，庇部分で約43cmであるが全体的には極めて大きなばらつきがある。柱穴径は全体で72cm～140cm前後と，ばらつきがあるが全体的に大きい。本遺構は東側に傾斜する緩斜面上に構築されてい



第559図　SB－126

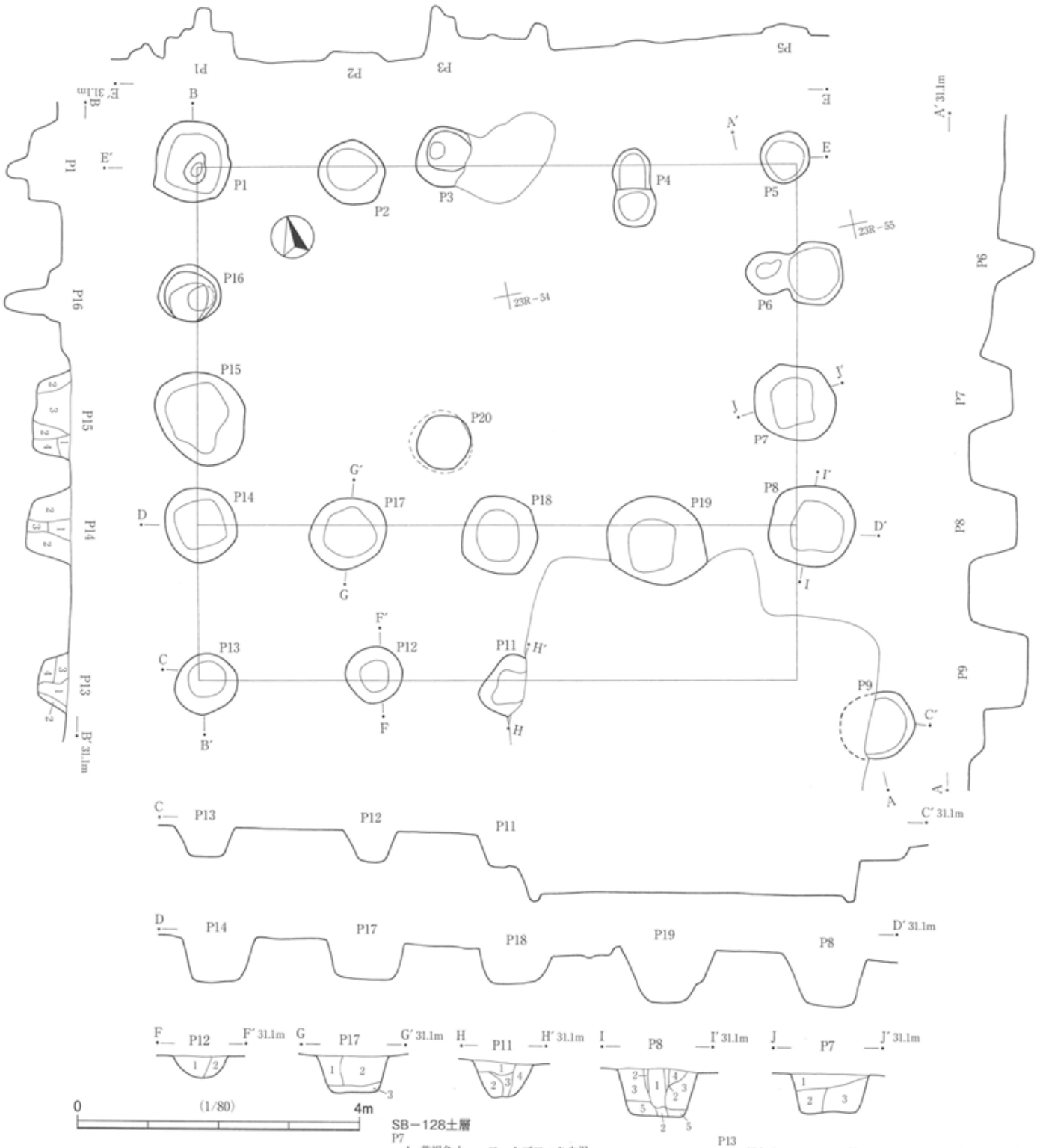
る。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物は遺構内精査中の遺構確認面から出土したが，図示できたものはない。

SB－129（第561図，図版151）

遺跡東部東寄りの23Q－80区に位置する。SI－360の西側・SI－361の東側にそれぞれ近接し，SB－120と重複する。柱穴の配置は正確に対応する桁行２間×梁行１間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-32°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約40cmであるが，極端に大きなばらつきがある。特に東西桁行中央の柱穴深は20cm前後で極めて浅い。柱穴径は60cm～92cm前後と，若干のばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・ロームブロックが主体に混入している。遺物は遺構内精査中の遺構確認面から出土したが，図示できたものはない。

SB－141（第538図）

遺跡西部南寄りの17Q－88区に位置する。SI－209の西側・SI－373の北側にそれぞれ近接し，SI－372と重複する。柱穴の配置は正確に対応する桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。桁行方位はN-80°-Eで，柱穴深の平均は遺構確認面から約65cmであるが，若干のばらつきがある。柱穴径は68cm～100cm前後と，若干のばらつきがある。柱穴覆土はローム粒・黒色土が主体に混入している。出土遺物はない。



SB－128土層

P7
1．黄褐色土　ロームブロック少混
2．黄褐色土　ロームブロック多混
3．暗黄褐色土　ローム粒多混

P8
1．灰褐色土　褐色土やや多混，山砂多混
2．灰褐色土　褐色土やや多混，山砂少混
3．黄褐色土　ロームブロック多混
4．黄褐色土　ロームブロック少混
5．暗黄褐色土　ローム粒多混

P11
1．褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，山砂多混
2．暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3．黒褐色土　黒色土主体
4．黒褐色土　ロームブロック少混，黒色土主体

P12
1．褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
2．黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多混

P13
1．褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，山砂多混
2．褐色土　ローム粒・ロームブロック少混
3．黄褐色土　ローム粒多混
4．暗黄褐色土　ローム粒多混

P14
1．褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，山砂多混
2．暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3．暗黄褐色土　ローム粒多混

P15
1．暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
2．黄褐色土　ローム土
3．黄褐色土　ローム粒多混
4．褐色土　ローム粒・ロームブロック少混

P17
1．暗黄褐色土　ローム粒多混
2．暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
3．暗黄褐色土　ローム粒多混，ロームブロックやや多混

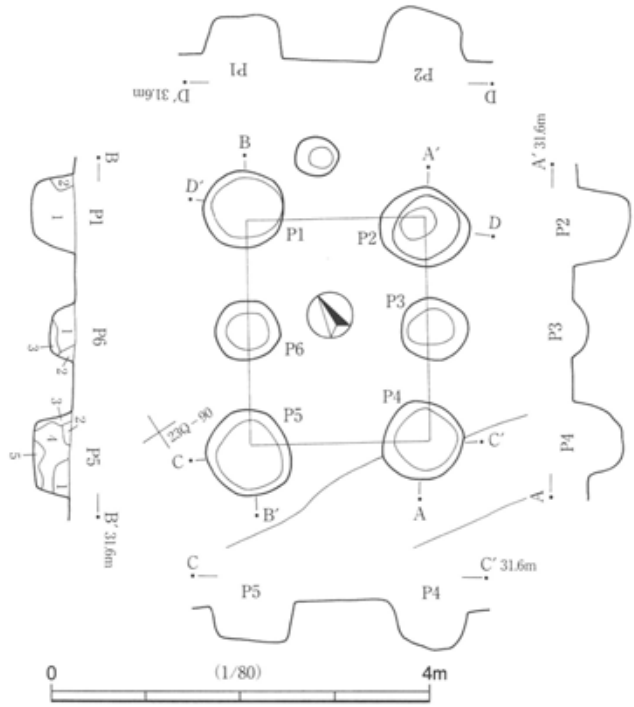
第560図　SB－128

第３節　土坑墓

本遺跡からは，古代の墓坑とみられる有天井土坑が４基みつかった。それらはSK－575・582・583・611で，いずれも遺跡最東端部に位置する。

SK－575（第562図，図版191）

遺跡最東端の25Q－06区に位置する有天井土坑である。SK－611の南西側に近接する。主軸（長軸）方位はN-55°-Wで，掘り込み面は楕円形を呈し，長軸1.28m，短軸0.86mを測る。掘込み面から底面の間には中段があり，底面は長軸1.05m，短軸0.74mである。掘込み面から底面までの深さは1.25mで，底面は水平である。遺物は覆土上面から数点出土しているが，図示できたものはない。



SB－129土層
P1
1．褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
2．黄褐色土　ローム粒多混
P5
1．褐色土　ローム粒多混
2．黒褐色土　黒色土主体
3．黄褐色土　ローム粒多混
4．褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
5．黄褐色土　ローム土
P6
1．褐色土　ローム粒・ロームブロック多混
2．褐色土　ローム粒多混
3．黄褐色土　ローム土

第561図　SB－129

SK－582（第562図，図版191）

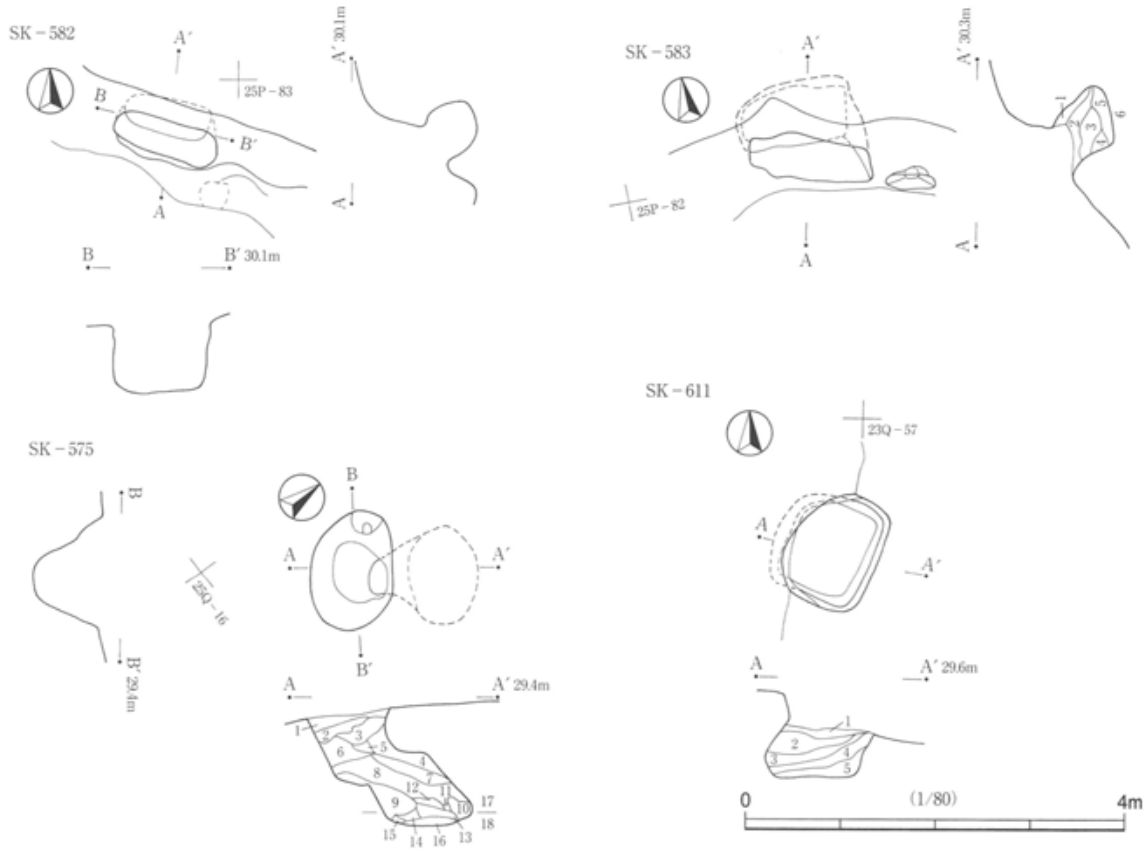
遺跡東端部やや北寄りの25P－82区に位置する有天井土坑である。SK－583の南東側に近接する。主軸（長軸）方位はN-73°-Wで，掘込み面は長楕円形を呈し，長軸1.12m，短軸0.36mを測る。底面は長軸0.90m，短軸0.40mである。掘込み面から底面までの深さは0.65mで，底面は北側奥に向かって傾斜している。遺物は覆土上面から数点出土しているが，図示できたものはない。

SK－583（第562図，図版191）

遺跡東端ぶやや北寄りの25P－72区に位置する有天井土坑である。SK－582の北西側に近接する。主軸（長軸）方位はN-72°-Wで，掘込み面は長方形を呈し，長軸1.31m，短軸0.45mを測る。底面は長軸1.13m，短軸0.62mである。掘込み面から底面までの深さは1.05mで，底面は北側奥に向かって傾斜している。出土遺物はない。

SK－611（第562図）

遺跡最東端の23Q－56区に位置する有天井土坑である。SK－575の北東に近接する。主軸（長軸）方位はN-27°-Eで，掘込み面は隅円方形を呈し，長軸1.25m，短軸0.97mを測る。底面は長軸0.95m，短軸0.80mである。掘込み面から底面までの深さは0.92mで，底面は水平である。遺物は覆土中から数点出土しているが，図示できたものはない。



SK－575土層

1. 褐色土	ロームブロック少含　しまりゆるい
2. 暗褐色土	暗褐色土にローム粒ロームブロック斑に混
3. 暗褐色土	2層に同じ　ロームの混ざり多　しまりゆるい
4. 暗褐色土	ローム粒　ロームブロックごく少混　しまりゆるい
5. 暗褐色土	ローム粒ごく少斑に混　しまりゆるい
6. 暗褐色土	黄褐色土が暗褐色土に斑に混　しまりゆるい
7. 褐色土	ローム粒わずかに混　しまりきわめてゆるい
8. 褐色土＋黄褐色土	褐色土にロームブロック混　しまりゆるい
9. 暗褐色土	暗褐色土主体　ローム粒均等に混
10. 黄褐色土	ローム粒　ロームブロック主体　しまりあり
11. 白黄褐色土	ローム粒に乳白色の粘質土含　しまりゆるい
12. 暗褐色土	9層に似る　ローム粒含　しまりゆるい
13. 暗黄褐色土	ロームブロック多混　しまりゆるい
14. 暗褐色土	9層に似る　ロームブロック　ローム粒少混
15. 暗黄褐色土	ロームブロック多混
16. 暗褐色土	ローム粒，ロームブロック含　しまりあり　粘性あり
17. 乳白色粘質土	乳白色粘質土主体
18. 黄褐色土	ローム

SK－583土層

1. 暗褐色土	暗褐色土，ローム粒，ロームブロック混
2. 褐色土	わずかにローム粒含　しまりきわめてゆるい
3. 褐色土	ロームブロック含　しまりゆるい
4. 褐色土	褐色土主体
5. 暗褐色土	暗褐色土にロームブロック含　しまりややあり
6. 黄褐色土	ハードローム主体

SK－611土層

1. 褐色土	ローム粒，ロームブロック含
2. 暗黄褐色土	ロームブロック多混　もろくくずれる
3. 暗黄褐色土	ロームブロック多混　暗褐色土混
4. 暗褐色土	ロームブロック若干含　しまりあり
5. 暗褐色土	ロームブロック多含　しまりあるがもろい

第562図　有天井土坑

第4節　大型円形土坑

SK－164（第563～565図，図版175・176・301・302）

遺跡南部の21U区で，北東斜面に位置する。平面形はおおむね円形で，深い遺構である。確認面上端の径は4.25m～4.5m，深さは2.8m，底面の径は1.6mである。北西側，0.9mのところにSK－165が位置するが，規模・形態・位置関係から，本遺構と同様の性格のものである。また，本遺構とほとんど接する近さに，方形の土坑であるSK－154が位置するが，新旧関係は不明である。

本遺構の外側周囲の一部はやや低くなっており，当初から掘られていることも考えられる。しかし，確認面に傾斜があるため，当初からのものと断定しがたく，とくに意図されていないとする。壁面はすり鉢状であるが，確認面から1.5m程度のところで傾斜が変わり，その下方はより急な傾斜となる。また，地山は確認面から2.4m，標高26.5m前後のところで，白色粘土混じりの土層に変わる。底面の断面形は「U」字状で，ゆるやかに窪んでいる。しかし，底面中央部に粘土がみられないことから，中央は完全に発掘されていない可能性がある。おそらくは，もう一段窪み，SK－165と同様な形状になると思われる。本遺構

は，現状でSK－165よりやや浅いが，SK－165と同程度の深さとすると，３ｍを若干超える深さとなる。

貝層の堆積が，遺構のほぼ中央部，中位からやや下位にかかる深さのところでみられた。まとまりの大きさは径1.4ｍ程度で，最大の厚さは30cmである。中央部が厚く，南東側は薄い。また，上面の高さも南東側が高くなっている。貝層とともに，多くの土器が出土している。なお，貝類については，同定分析が西野雅人により実施されており，その成果を第６章第１節に掲載した。西野によれば，シオフキガイ・ハマグリ・アサリが組成の主体であり，これらの内湾種は東京湾産の可能性が高いという。また，外洋種のダンベイキサゴが含まれているが，西野は「九十九里方面から運ばれた」可能性を指摘している。

堆積土は上層の５層が黒褐色土である。上位層には炭化物や焼土を含む土層があるが，５層以上は自然堆積層であろう。それ以下の土層は，６ａ層や11層に黒色土の含有が多いが，概してローム粒・ロームブロックが卓越する。しかし，深い遺構であることと，斜面に位置することから，必ずしも人為的堆積とは断定しがたい。11層の上下の10層・12層もやや暗い色調であることから，自然堆積の可能性の方が高いと考える。貝や土器も，中央部がもっとも低い窪みに廃棄されたものであろう。

図示した遺物は24点である。１～４は土師器杯で，１・２はロクロ未使用のもの，３・４はロクロ成形のものである。１は体部と底部の境が明瞭であるが，２は浅い丸底で，境が不明瞭である。１は口縁端部の所々を欠損するが，それ以外は割れのない遺存良好な土器である。内面はかなり黒ずんでいるが，ヘラミガキは施されていない。４は体部の一部を欠き，その部分で割れて接合するが，遺存のよい土器である。３・４の底部外面は回転ヘラケズリが全面に施されているが，わずかに回転糸切り痕がみえる。４の内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。３の内面は黒色でない部分も多いが，ヘラミガキ後黒色処理を施されていると思われる。

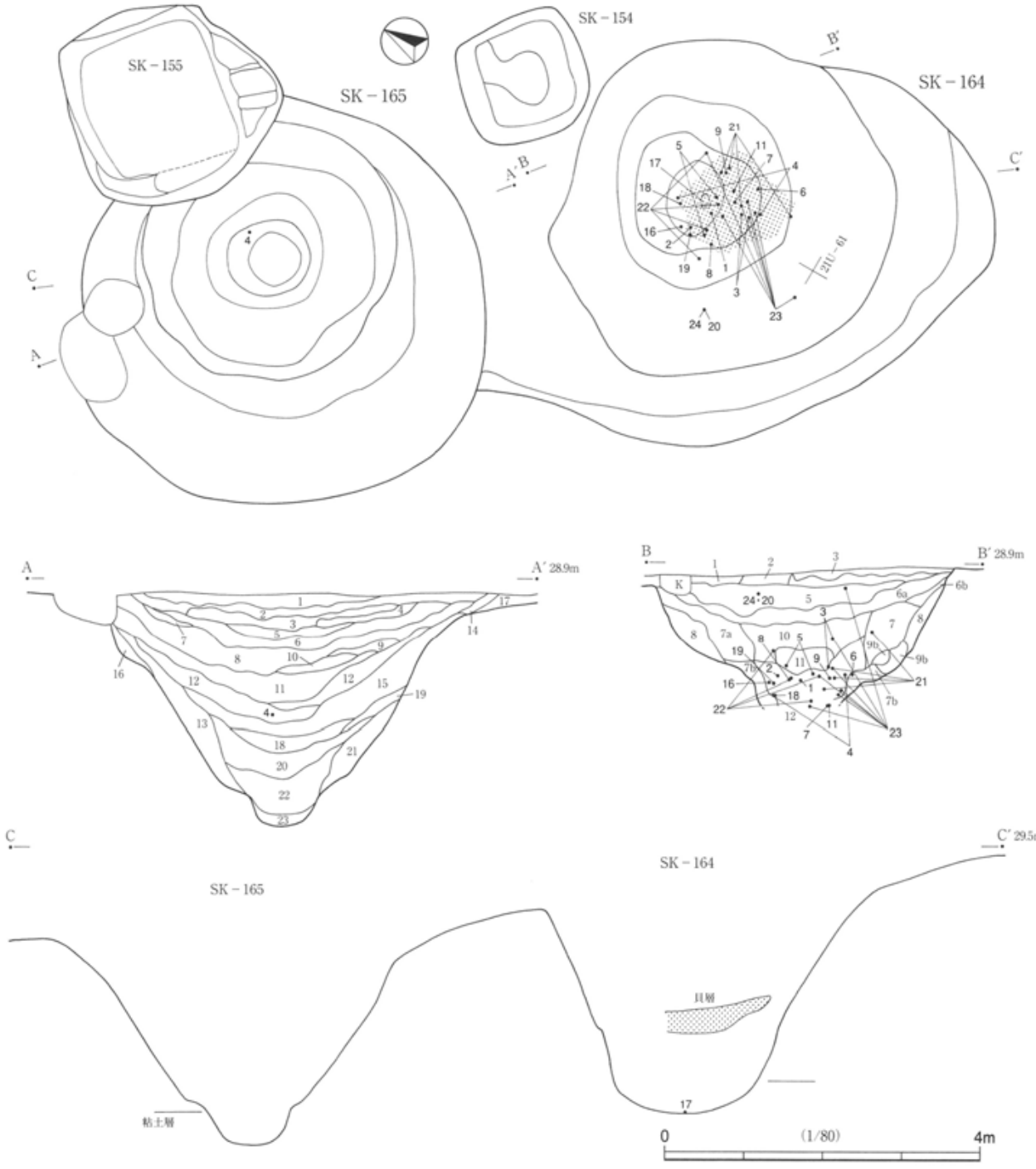
５～12は須恵器杯である。６以外は千葉産である。千葉産の須恵器のうち，７の器面はやや暗い灰色で，一部が褐色味を帯びる。断面内部は褐色である。ほかは概して黒色味の強い色調である。６の色調はやや黄色味を帯びる灰色である。胎土は白色の細粒を若干含むが，白雲母の含有は不明瞭である。しかし，内面の底部と体部の境が凹むことや形態から新治窯産と思われる。６は口縁・体部の一部を半月状に欠くほかは，ひび程度で，割れもなく遺存する個体である。欠損部は打ち欠きされた可能性が考えられる。しかし，他の土器に同様のものがなく，断定しがたい。また，口縁・体部の一部の内外面に，褐色物質が付着しているが，鉄錆かもしれない。

13は新治窯産の須恵器高台付杯である。白雲母の含有が顕著である。14・15は新治窯産の須恵器蓋で，つまみ部分の破片である。ともに白雲母を含む。

16は土師器鉢である。須恵器コップ形土器に似た土器であり，須恵器窯で焼成されたことも考えられるが，色調はにぶい褐色である。質感からも，積極的に須恵器とする根拠に乏しい。底部の一部を欠いて，そこから口縁部までひびが入り，口縁端部をわずかに欠損する。しかし，全体的には，遺存のよい土器である。体部・底部外面は回転ヘラケズリ，内面はヨコナデが施されている。

17は千葉産の須恵器鉢であるが，大型のコップ形土器とした方がよいかもしれない。器壁が厚く，重量感のある作りである。口縁部は16と似た形態である。底部はやや突出した形態であるが，剥落したため，中央に孔が空いている。それ以外には欠損がなく，割れてもいない。胎土は多量の白色粒を含むが，内外面に比較的ていねいなヨコナデが施され，砂粒は沈められている。色調は灰色・暗灰色で，焼成は良好である。

18は千葉産の須恵器甕である。小型品で，ロクロ成形の甕である。胴部外面下位・底部外面は手持ちヘ



SK－165土層

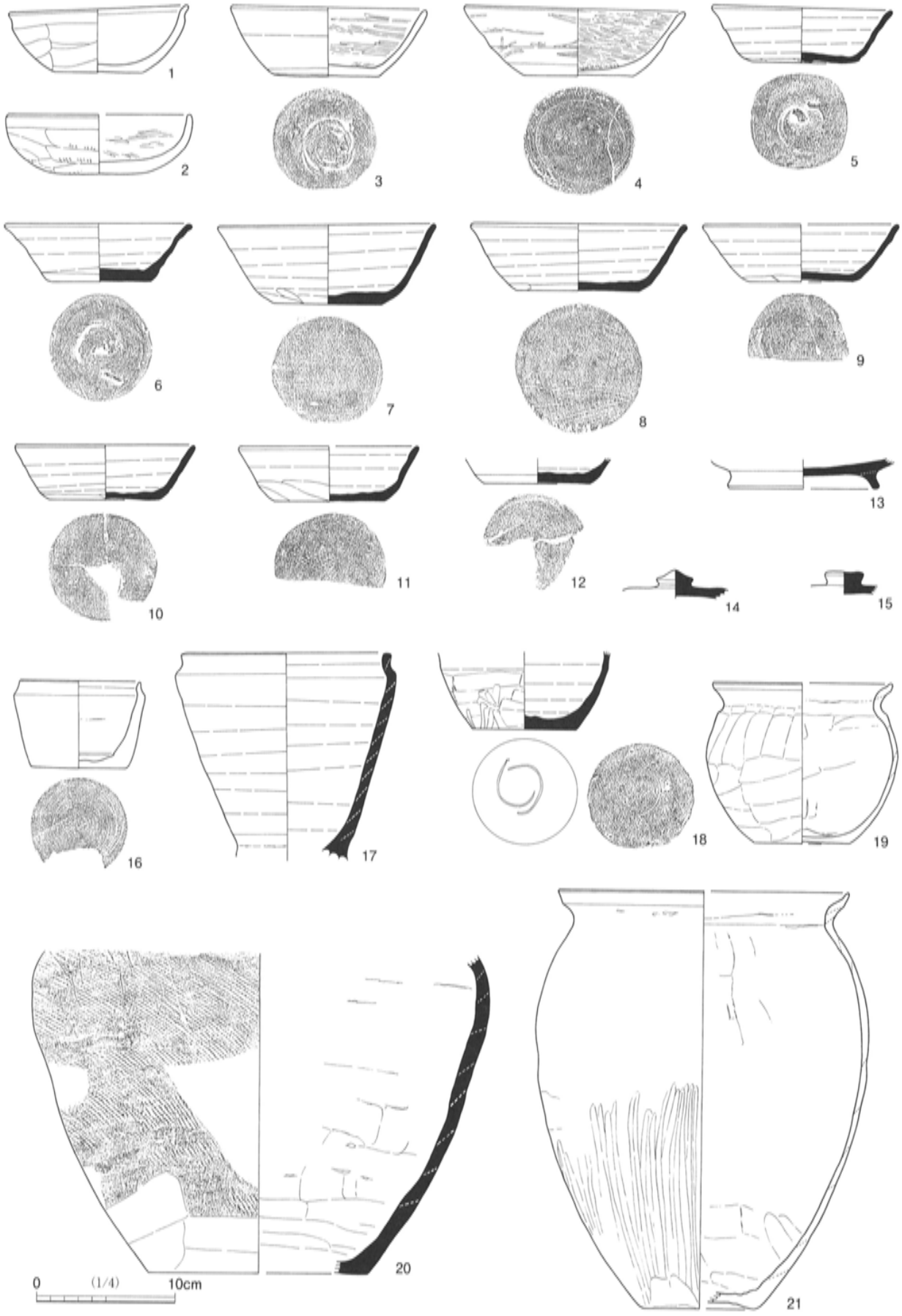
1. 明黒褐色土　ローム粒多
2. 黒色土　黒色土ブロック多
3. 黒褐色土　ローム少量含む
4. 暗赤褐色土　焼土粒ブロック含
5. 黒色土　微量のローム含
6. 黒褐色土　微量のローム粒含　砂質
7. 黒色土　微量のローム粒含
8. 暗黒褐色土　砂質　ローム・ローム粒少
9. 黒色土　砂質　ローム粒多
10. 暗黒褐色土　ローム・ローム粒多　砂質しまりなし
11. 黒色土　ローム粒多　しまりあり
12. 暗黒褐色土　ローム粒多
13. 暗黒褐色土　ローム・ローム粒多
14. 黒色土　ローム・ローム粒少
15. 暗黒褐色土　ローム・ローム粒　黒色土多
16. 黄褐色土　ロームブロック・ローム
17. 黒褐色土　ローム・ローム粒微量
18. 黒褐色土　ローム粒・ローム多
19. 黒褐色土　ローム多
20. 黒褐色土　ロームブロック・ローム多
21. 暗黒褐色土　ローム粒・ローム・黒色土多
22. 暗黒褐色土　ロームブロック・ローム主
23. 黒色土　白色粘土粒多

SK－164土層

1. 赤褐色土　炭片全体に混　粘性弱
2. 褐色土　粘性有　ソフトローム少
3. 明褐色土　ソフトローム
4. 褐色土　焼土混
5. 黒褐色土　ソフトローム混　炭片少混
6a. 褐色土　ソフトロームしみ状
6b. 　ソフトローム多
7a. 黄褐色土　ソフトローム主体
7b. 　ハードローム少
8. 黄褐色土　ハードロームブロック主体
9a. 黄白褐色土　粘性強
9b. 　粘性弱
10. 褐色土　ソフトローム混　ローム粒少混
11. 暗褐色土　黒色粒多　ローム粒多
12. 褐色土　ハードローム粒全体に散在

第563図　SK－164・165（1）

SK－164



第564図　SK－164・165出土遺物（1）

ラケズリが施されている。底部外面の半円の２条線はヘラ書きと思われる。色調は褐灰色で，外面は褐色味が強く，内面は灰色味が強い。胎土は細砂粒・小石を含み，焼成は良好である。

19は土師器甕で，小型品である。色調は概して黒褐色・暗褐色であるが，被熱により，口縁部・胴部の一部は褐色味を帯び，底部外面は淡黄色の色調である。器壁が薄く，ていねいな作りである。

20は新治窯産の須恵器甕である。胎土は長石等の白色粒・小石を多量に含む。

21・22（ａ・ｂ）は常総型の土師器甕である。21は胴部外面上位にヘラの当たり痕がみられるが，あまり明瞭ではない。22は口縁部から底部までの破片があるが，連続して接合しないため，分割した図を作成した。底部外面はともに木葉痕がみられる。胎土はともに白雲母・白色粒の含有が顕著である。

23・24は「房総」型の土師器甕である。23はやや大型，24はやや小型の甕である。23は焼成良好であるが，胴部内面の剥落がいちじるしい。24も焼成良好で，比較的ていねいな作りである。黒斑がみられる。被熱により褐色味が強く，外面は一部ひび割れしている。

図示した遺物のうち，17は中央部で，現状の底面から横位で出土した。先述したように，中央部がもう一段窪むのであれば，底面ではないが，少なくとも最下層出土であり，遺構廃棄の時期にもっとも近い時期の遺物である。なお，底部が意図的な穿孔であれば，祭祀性があるといえるが，断定しがたい。

17とは逆に，20・24は上層出土の遺物であり，平面的にもほかの多くの遺物と離れた位置である。

17・20・24以外の遺物の多くは，平面的には貝層の範囲内およびその近く，層位的には貝層と同じ高さから出土している。21～23はやや散って，上層から出土する破片もあるが，基本的には貝層に伴うと考える。16は倒位で出土した。貝層とそれに伴う土器類のうち，６は祭祀的な土器である可能性もあるが，断定しがたい。堆積土は埋め戻されたものと断定できない。しかし，土器と貝が多量に出土したこと，および遺構の様相から，出土遺物はなんらかの祭祀に伴うものである可能性が考えられる。

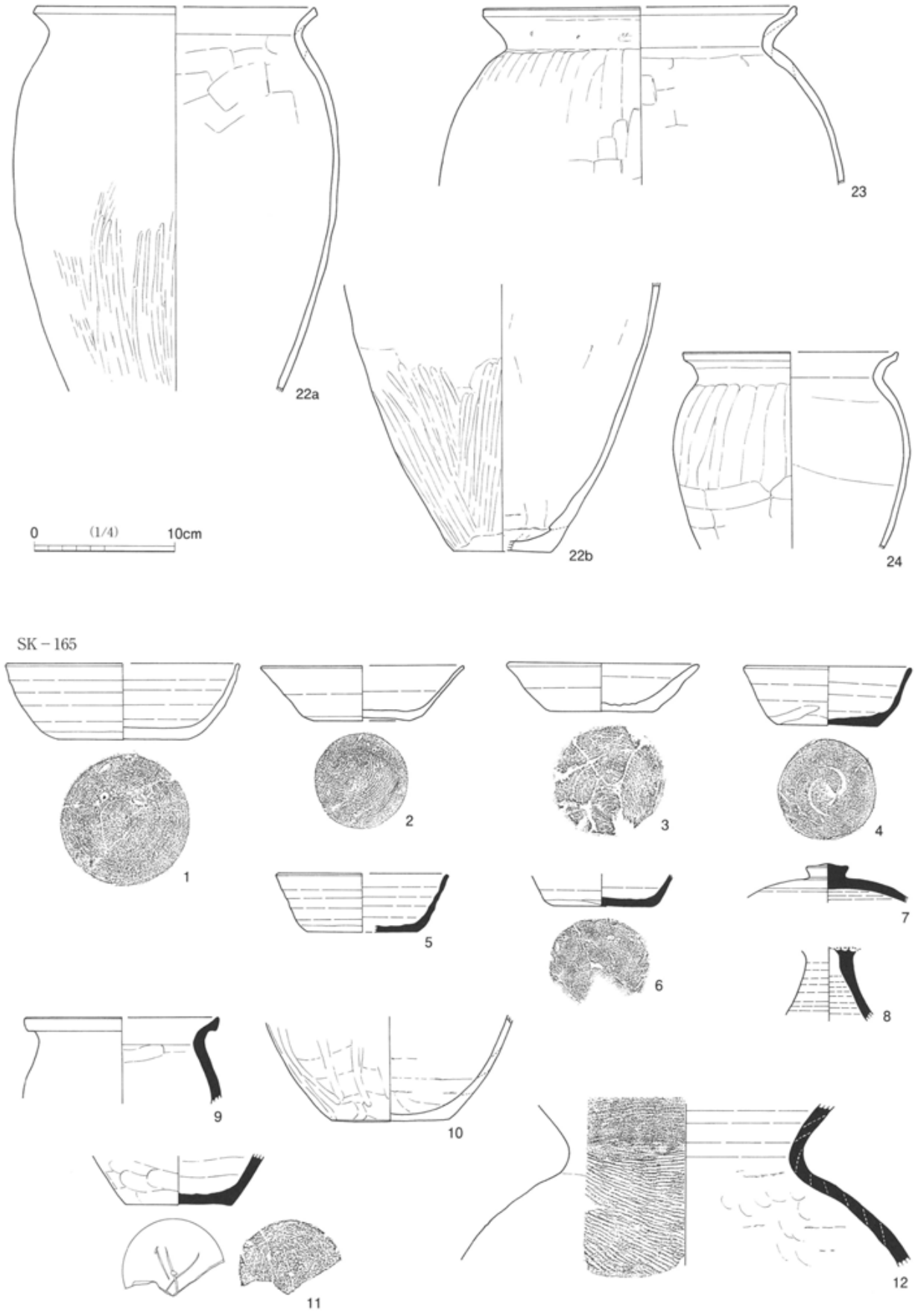
出土遺物の時期はおおむね９世紀前半と思われ，本遺構の廃絶時期を示している。

本遺構およびSK－165は，これまで井戸状遺構といわれてきた遺構であるが，近年では，氷室説が提唱されている[1]。本項では，どちらか一方に断定しないが，性格について若干考えてみる。本遺構は下部で粘土層に達しているが，低地の遺構ではないため，湧水はない。この点は古代においても変わらないと考える。したがって，井戸状遺構とした場合には，恒常的に使用できる井戸ではなく，一時的な貯水か，そうでなければ，祭祀的な遺構ということになる。一方，氷室または何らかの室とした場合には，３ｍの深さがあることから，実用にたえる可能性があると理解できる。低地に近い台地縁の緩斜面に立地することが，性格に関わると思われるが，この場合でも，低地から汲んできた水の溜め井戸と，冬場に採取した氷の保存場所の双方が考えられ，どちらかに決しがたい。

SK－165（第563・565図，図版302）

遺跡南部の21U区で，北東斜面に位置する。平面形は円形で，深い遺構である。確認面上端の径は5.25ｍ，深さは2.8ｍである。本遺構の南西0.9ｍの位置に所在するSK－164は，規模・形態・位置関係から，本遺構と同様の性格のものである。また，北側で方形の土坑であるSK－155と重複し，切られている。そのほか，北東側の上端付近が撹乱を受けている。

本遺構の壁面はすり鉢状で，底部に近くなるにつれて，径は狭まる。底面は二段で，中央が一段深く掘り込まれている。下部の底面径は60cm～70cm，掘込みの上端からの深さは40cmである。上部の底面径は1.5ｍで，壁が急傾斜から緩傾斜に変わるところは，確認面から2.3ｍ～2.4ｍの深さである。この深さは地山



第565図　SK－164・165出土遺物（2）

の土層が灰白色粘土混じりの土層に変わる深さでもある。粘土層に達した時点で，いったん底面が作られたものと思われる。この壁の傾斜変換点から下部の底面までの深さは60cmである。なお，下部の底面は上端の平面形の中心よりも，谷側の北東方向に寄っている。

堆積土は概して上層に黒色土の堆積が多く，下層にローム粒・ロームブロックの堆積が多い。色調的には，11層までは，一部を除いて黒色味が強く，12層以下は黄色味が強くなる。また，上層にいくほど黒色味が強く，下層はロームブロックの含有が顕著である。中位の12層は黒色土の含有がやや多い。土層はレンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

図示した遺物は12点である。1～3はロクロ成形の土師器杯である。1はやや大型の土器で，底部全面に回転ヘラケズリが施されている。二次被熱により，器面の一部が赤黒く変色している。口縁・体部外面に2条の擦痕がある。縦方向に平行するものであるが，その延長上の底部にも小さな擦痕が2か所ある。これらは製作時に付いたものであり，ヘラ書きではないと考える。2は焼成良好であるが，3は厚い作りで，焼成がややあまい。胎土も黒色粒を多く含む。3はやや細かく割れて接合するが，比較的遺存のよい土器である。

4～6は千葉産の須恵器杯である。4は口縁・体部の2/5程度を欠くが，そのほかは割れていない。5・6は遺存が悪い。4の底部外面には，粘土紐を巻き付けて製作した痕跡が，顕著に残っている。

7は新治窯産の須恵器蓋である。つまみ周辺の破片で，胎土は白雲母を含む。

8は千葉産の須恵器高杯（盤）である。脚部の破片で，杯部と脚端部を欠くため，器種は香炉も考えられる。杯部は脚部との接着面で欠損し，底面中央に孔が空いている。器面の色調はやや黄色味を帯びる灰色・暗灰色であるが，断面内部はにぶい褐色である。胎土は白色の細砂粒を含む。

9・11は千葉産の須恵器甕で，小型品である。9は口縁部から胴部上位の小片で，図化した寸法にやや不安がある。色調は外面が褐色・黒褐色，内面が暗黄褐色である。11は胴部下位から底部の破片である。底部外面に交差線のヘラ書きがある。「キ」状であるが，2条の平行的な条線は浅く，とくに片側のものは交差しているかどうか不明瞭である。交差する1条線はやや深く刻まれているが，交差する浅い条線に切られている。色調は外面が黒褐色，内面が暗黄褐色である。9と11は同一個体の可能性があるが，遺存が少ないため，断定しがたい。

10は「房総」型の土師器甕である。胴部下位から底部の破片で，底部外面はヘラケズリが施されている。器壁は比較的薄く，ていねいな作りである。胴部外面の一部に，縦方向のヘラミガキがみられる。また，胴部に黒斑がある。

12は新治窯産の須恵器甕である。横方向の平行タタキが頸部外面にも施されている。部分的な破片のため，図化した大きさに不安がある。胎土は多量の白色粒・小石を含み，白雲母もみられる。

図示した遺物のうち，4は中央やや北寄りの中位から出土した。正位，倒位等の状況は不明である。ほかの遺物については，出土位置が不明である。4については，とくに祭祀的な状況を断定しがたく，また，ほかの遺物も祭祀的な様相をうかがえない。出土遺物は概して廃棄されたか流入したものと思われる。

出土遺物の様相から，本遺構の廃絶時期もSK－164と同じく9世紀前半頃と思われる。しかし，SK－164との新旧関係は不明であり，2基同時に機能したのか，1基ずつ継起的に機能したのかも不明である。

注

1　中山晋　1996「古代日本の「氷室」の実体」『立正史学』第79号

第５節　土坑

奈良・平安時代の土坑としたものは14基である。これらは，奈良・平安時代土器の遺存が良好か，比較的多く出土しているものを主体に，遺構の状況を加味して抽出したものである。竪穴住居跡群の様相からは，この数量を大幅に上回るものと思われる。しかし，確実な根拠に乏しいため，そのほかの土坑は，第５章中・近世そのほかの遺構に掲載した。逆に，本項で掲載した遺構でも，周囲に奈良・平安時代遺構が多く存在するなどの場合では，同時代の遺構であるか不確実なものを含んでいる。遺構の性格については，墓坑（SK－316）や祭祀的な遺構（SK－400）と思われるものがあるが，概して不明瞭である。

SI－333B（第566・567図）

遺跡東部東寄りの23R区，SI－333A内の右前隅側の主柱穴Ｐ２上に位置する。確認面はSI－333Aの床面である。SI－333Aの主柱穴の一つであるＰ２の凹みを利用して掘削された可能性もあるが，とくにＰ２上に位置する必然性はなかったと考える。確認面での径は1.1m～1.2m，底面径は0.95m～1.05mである。深さはSI－333Aの床面からは0.2mであるが，SI－333Aの確認面から計ると，0.7mである。堆積土最下層はローム粒を多く含む暗褐色土である。その上層は焼土塊および山砂を多く含む土層で，SI－333Aの床面よりも上部となる。それより上部の土層はSI－333Aの堆積土と区別しにくいものであり，不明瞭である。下層から焼土塊・山砂を含む層までは埋め戻されたものであり，何らかの祭祀に伴う可能性も考えられる。掘立柱建物柱穴状の遺構であるが，周囲に，確実に組となる柱穴が見つからない。

図示した遺物はロクロ土師器杯１点である（１）。底径は小さく，やや突出している。底部外面の調整は回転糸切り後無調整である。口縁・体部は若干内湾する椀状の器形である。やや細かく割れているが，かなり遺存がよい。淡黄色の色調で，胎土も緻密である。

なお，本遺構の遺構番号は整理段階で付与したものである。重複する竪穴住居跡は調査時にSI－333であるが，SI－333Aとした。しかし，両者の遺物注記はSI－333のままであり，本遺構に１以外の遺物が存在した場合，SI－333Aの遺物と混在している。

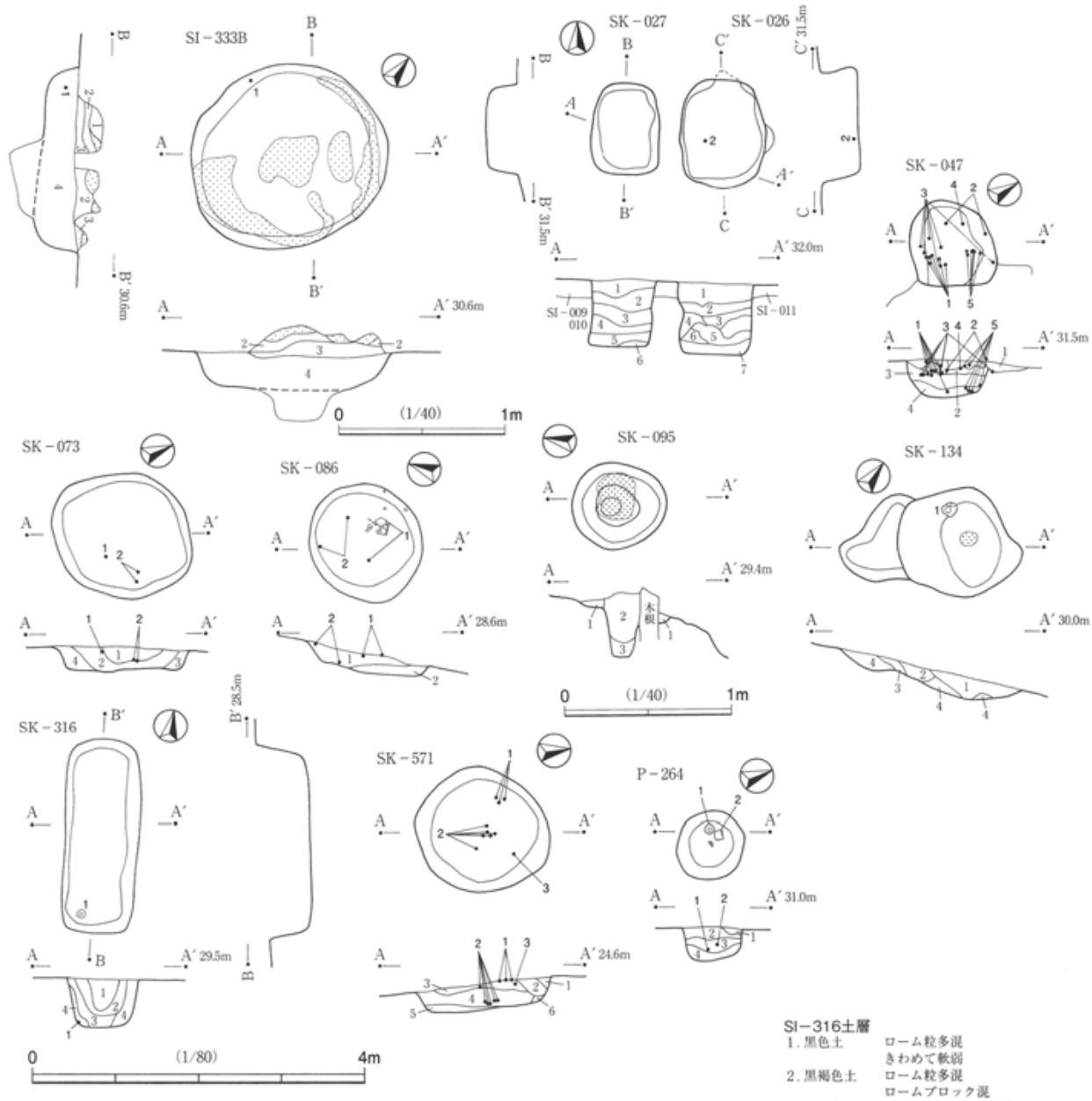
SK－026（第566・567図，図版166・301）

遺跡南部中央の19T区に位置する。平面形は隅の丸い長方形である。確認面での長さは1.3m，幅は1.05m，深さは0.85mである。長辺・短辺の方向が東西南北にぶれがなく添っている。底面は平坦であるが，北辺中央がややえぐれている。その部分以外の壁は垂直に近い傾きである。底面の長さは中央部分で1.3m，幅は0.95mであるが，えぐれている部分が崩落したものとすると，当初の長さはおよそ1.1mである。堆積土については，一部を除いてローム粒・ロームブロックの含有が多い。また，最下層の７層は焼土ブロックを含み，中層の３層でも少量の焼土粒がみられる。埋め戻された状態と思われる。

図示した遺物は２点である。１はロクロ土師器杯で，遺存は少ない。被熱により，赤みが強く，器面の剥落がいちじるしい。２は灰釉陶器椀である。口縁・体部の2/3弱と底部が遺存する。遺存部分の割れは口縁・体部の一部であり，少ない。高台の断面形は三日月状で，底部外面に回転糸切り痕がある。底部はやや厚い円盤状で，高台の突出はその内側からはあまり高くない。施釉は漬け掛けである。

２は中央西寄りの底面から出土した。正位や倒位等の状況は不明である。なお，SK－027から出土した口縁・体部の一部の小破片が接合している。１は出土位置が不明である。そのほか，小片のために図示していないが，北側中央の底面から刀子が出土し，南西の壁際底面から軽石が出土している。

本遺構はSI－010内に作られており，SI－010を切っている。また，本遺構の東側，25cmの至近距離に



SI－333B土層
1. 焼土化した山砂ブロック
2. 褐色土混山砂
3. 褐色土層　焼土粒・山砂粒やや多混
4. 暗褐色土　ローム粒多しまりが無い

SK－026土層
1. 暗褐色土　斑文状にローム混粒子粗
2. 暗褐色土　ロームブロック多含ローム粒含
3. 黒褐色土　ローム粒・小ロームブロック多混　焼土粒少含
4. 黒褐色土　小ロームブロック少混粒子密
5. 暗褐色土　小ロームブロック多混
6. 黒褐色土　第4層に似るロームブロック多
7. 暗褐色土　ロームブロック・焼土ブロック混

SK－027土層
1. 暗褐色土　ロームブロック少含
2. 黒褐色土　粒子密
3. 暗褐色土　小ロームブロック混
4. 褐色土　ロームブロック多混
5. 暗褐色土　3層に似るロームブロック少
6. 褐色土　ロームブロックぎっしりつまる

SK－047土層
1. 黒褐色土　ローム粒少含
2. 黒褐色土　斑文状にローム少混
3. 暗褐色土　斑状にローム少混砂粒含
4. 暗褐色土　ロームブロック少混しまる

SK－073土層
1. 黒褐色土　ローム粒少
2. 暗褐色土　ローム粒　木炭粒焼土粒含
3. 黒褐色土　ローム粒少
4. 明褐色土　ローム粒多

SK－086土層
1. 暗褐色土　ローム粒少含
2. 黒褐色土　炭化材多混

SK－095土層
1. 混貝層
2. 純貝層（キサゴが大半）
3. 黄褐色土　ローム粒多含

SI－134土層
1. 黒色土　ローム少量含
2. 黒色土　ローム粒・ローム多含
3. 黒色土　ローム多含
4. 暗黄褐色土　ローム・ローム粒による

SI－316土層
1. 黒色土　ローム粒多混きわめて軟弱
2. 黒褐色土　ローム粒多混ロームブロック混
3. 黒褐色土　ローム粒少　黒色主体
4. 黄褐色土　ローム多混ロームブロック少混

SK－571土層
1. 黄褐色土　ソフトローム主体
2. 暗黄褐色土　ソフトロームに暗褐色土混しまり弱
3. 暗褐色土　炭化物粒　焼土粒少混しまりやや弱
4. 暗褐色土　暗褐色土主体　しまりやや弱
5. 暗黄褐色土　暗黄褐色土主体かたくしまりあり
6. 暗黄褐色土　ソフトローム

P－264土層
1. 黒褐色土　ローム粒少含
2. 暗褐色土　ローム粒多含　粒子粗焼土粒少含
3. 暗褐色土　ロームブロック少含炭化物粒含
4. 褐色土　ロームブロック多含粒子粗

第566図　奈良・平安時代土坑

SK－027が位置する。規模は本遺構よりもやや小さいが同様の形態で，向きも同じである。SK－027からは小片の遺物しか出土していないが，本遺構と同様の性格であり，時期も同時期であろう。本遺構とSK－027の性格について確実な根拠はないが，土坑墓の可能性があると思われる。

SK－027（第566・567図，図版166）

遺跡南部中央の19T区に位置する。平面形はやや隅の丸い長方形である。確認面での長さは1.1m，幅は0.8m，深さは0.65mである。長辺・短辺の方向は正東西南北の方向である。底面は平坦で，壁は垂直的な傾きである。底面の長さは中央部分で0.95m，幅は0.6mである。堆積土についてロームの含有状態をみると，偏りはあるが，概して中・下層に含有が多く，上層に少ない。掘り上げた土を埋め戻した状況と理解できる。出土遺物は少量の奈良・平安時代土器片である。1はロクロ成形の土師器杯で，小片である。底部調整は回転糸切り後手持ちヘラケズリであり，体部外面下部も手持ちヘラケズリが施されている。1を含め，確実に本遺構に伴う遺物はない。なお，SK－026の2の一部は本遺構から出土したものである。

本遺構はSI－010・SI－011と重複し，それらを切っている。また，本遺構の西側，25cmの至近距離にSK－026が位置するが，本遺構とSK－026は規模が近似し，向きも同じである。出土遺物からは本遺構の時期を特定できないが，遺構の状況からSK－026と同時期であり，性格も同様のものと思われる。

SK－047（第566・567図，図版167・301）

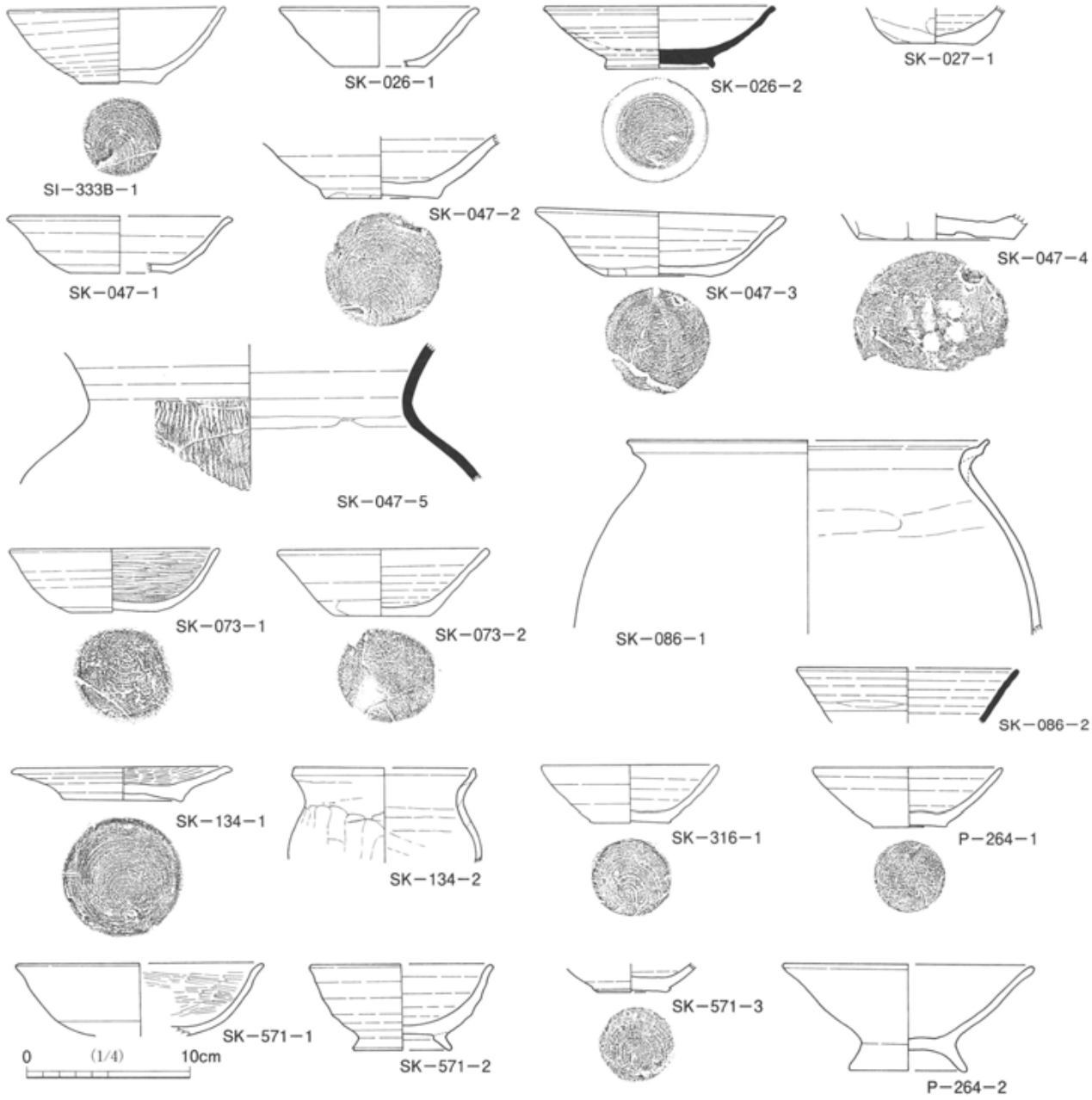
遺跡南部北寄りの19S区に位置する。平面形はやや不整な楕円形である。南東側でSK－048と重複し，長軸方向の片側を損なっている。SK－048との新旧関係は判然としない。現状の長さは1.05m，幅は1m，深さは45cmである。底面はやや凹凸があり，壁との明瞭な境をもたない部分が多い。底面の長さはおよそ0.95m，幅は0.55m～0.7mである。堆積土は黒褐色土・暗褐色土で，ロームの含有は少ない。

上層を主体に，平安時代の土器片が出土している。図示した遺物は5点である。1～3はロクロ成形の土師器杯である。1は70％程度の遺存で，口縁・体部の遺存は良いが，底部の遺存は少ない。口径は13.6cm，器高は3.3cm，底径は推定6.2cmである。器面はやや荒れており，色調は黄褐色，赤褐色である。二次的に火を受けていると思われる。2は底部が遺存するが，体部の遺存は少ない。底径は7cmである。底部は全体に突出し，回転糸切り後無調整の土器である。色調は外面が黄褐色，内面が暗褐色である。外面も所々に黒色部分があり，被熱によるものであろう。3は口縁・体部の1/2程度と底部が遺存している。口径は推定15.3cm，器高は3.6cm～4.2cm，底径は6.4cmである。底部外面は回転糸切り後手持ちヘラケズリが，体部下端も手持ちヘラケズリが施されている。色調は暗褐色，にぶい褐色である。

4はロクロ成形の土師器甕である。底部周辺の破片で，底径は9.4cmである。底部外面は回転糸切り後にナデが施されているが，作りは雑で，凹凸がある。底部中央は凹み，周縁に粘土塊が付着する部分がある。胴部下部外面は横方向の手持ちヘラケズリが施され，底部内面は粗いナデが施されている。色調は外面が暗（赤）褐色，内面が褐色である。

5は千葉産の須恵器甕で，頸部周辺の一部の破片である。器面の色調は内外面とも暗黄灰色であるが，断面内部は褐色である。胴部外面は縦方向の平行タタキが施されている。頸部内面の一部に煤が付着しており，二次的に火を受けている。

以上のように，上層主体であるが，比較的遺存の良い平安時代の土器が出土していることから，本遺構の時期も平安時代とした。遺構の性格ははっきりとしない。



第567図　奈良・平安時代土坑出土遺物

SK−072（第239図，図版168）

遺跡南部南西端斜面部の18U区に位置する。平面形はやや不整な楕円形である。本遺構はSI−064内にあり，その南東隅近くから検出された。SI−064との新旧関係は不明である。SI−064の掘りかたの一部かとも思われるが，深さがありすぎるため，別の遺構としておく。確認面での規模は，長径1.4m，短径1m，深さはSI−064の床面から40cm，確認面からおよそ80cmである。底面は比較的平坦で，長径は1m，短径は0.8mである。

完形の土師器杯（1）が，本遺構の南寄りで，底面より5cm上の高さから，やや斜めの正位で出土した。なお，この土器は接合して完形となるもので，口縁・体部の一部が割れている。この部分はあまり整然とした割れ口ではない。また，この部分からひびが入って，主要部分も2片に分割される。この状態が意図

的であるかどうか断定しがたい。器面は荒れて，外面の1/2弱が強く赤色味を帯び，また，わずかに黒ずむ部分もあることから，火を受けたものと思われる。

なお，本遺構および出土遺物はSI－064とともに図示した。

SK－073（第566・567図，図版169・301）

遺跡南部中央の19T区に位置する。平面形はやや不整な楕円形で，長径は1.8m，短径は1.5m，深さは30cmである。底面は平坦で，長径は1.6m，短径は1.3mである。堆積土は黒褐色土・暗褐色土主体であるが，焼土粒・炭化粒を含む土層がある。東側でSD－012と確認面上では接する程度の状態で重複するが，新旧関係は不明である。

図示した遺物は２点で，１・２ともロクロ成形の土師器杯である。１は推定口径12.9cm，器高3.9cm，底径5.2cmである。底部周辺は遺存するが，口縁部は1/2弱の遺存である。底径が小さく，体部が丸みをもつ椀形の形態で，底部外面中央には，回転糸切り痕がみられる。体部下端，底部外面は回転ヘラケズリが施されていると思われるが，器面が荒れており，やや判然としない。外面の色調は淡褐色である。２は口径13.0cm，器高4.2cm，底径5.8cmである。口縁部を1/3程度欠くが，全体では80％の遺存である。底部外面・体部下位は手持ちヘラケズリが施される。切り離し痕はみえない。色調は内外面とも橙褐色である。１・２とも，底面からは浮いた位置での出土である。

本遺構では，遺構全体から遺物が出土した。出土層位は概して堆積土中であり，１・２とも底面から浮いている。図示しない遺物は土器片が主であるが，数点の鉄滓も含まれている。土器片は数点を除いて平安時代のもので，点数は66点，重さは0.7kgである。内訳はロクロ成形の土師器杯，「房総」型の土師器甕，千葉産の須恵器杯・甕・甑，新治窯産の須恵器甕である。土師器甕の口縁部は内湾している。

SK－086（第566・567図，図版170）

遺跡南部南東寄り斜面の20U区に位置する。平面形はほぼ円形で，径は1.4m～1.5m，深さは20cmである。底面は北側が高く，南側が低い状態で，地面の傾斜に添っている。径は１m～1.1mである。堆積土は暗褐色土・黒褐色土で，下層は炭化材を多く含む。

図示した遺物は２点である。１は常総型の土師器甕で，口縁部から胴部上位の破片である。２は新治窯産の須恵器杯である。遺存は少ない。そのほか，図示しない土器片が若干量出土している。器種の内訳は非ロクロの土師器杯，常総型・武蔵型の土師器甕，新治窯産の須恵器杯・甕，千葉産の須恵器甕である。須恵器は新治窯産が目立つ。

本遺構の出土遺物には，遺存の良いものがなく，確実に奈良・平安時代の遺構としがたいが，当該時期の遺物が比較的多く出土していることから，本項で掲載した。

SK－095（第566図，図版171）

遺跡南部南東端斜面の20V区に位置する。平面形はほぼ円形で，中央が深い柱穴状の土坑である。一部，木根による攪乱を受けている。確認面の規模は上端で１m～1.1m，深さは40cm，中央の深い部分の径は上部で25cmである。遺構内には，貝が厚く堆積している。この貝の同定を行った西野雅人によれば，貝はほとんどが内湾砂底種のイボキサゴであり，そのほかは，わずかにハマグリなどを含むものである。これらは東京湾産の可能性が高いと指摘されている（第６章第１節参照）。また，貝の大きさは，古代であれば標準的であるが，縄文貝塚の貝よりも大きく，内容にも縄文時代とは若干の違いがあるという。底部上の貝層下土層はローム粒を多く含み，しまりがない土層である。

出土遺物は，奈良・平安時代の土器片４点で，小片のため図示していない。内訳は全面赤彩された非ロクロの土師器杯，内外面に赤彩されたロクロ成形？の土師器杯，新治窯産の須恵器杯，常総型の土師器甕である。赤彩の杯は奈良時代のものであり，ほかの２点も同時期の可能性がある。土器片は小片であるが，貝層の時期を示すものと思われる。

SK－134（第566・567図，図版174）

遺跡南部南東寄り緩斜面の20U区に位置する。平面形は不整で，南西側部分は浅く，底面の凹凸がいちじるしいことから，撹乱の可能性がある。この部分を除いた形態は不整な円形である。南西部を含めた長さは2.15m，幅は1.3m，深さは25cmである。底面は南西側が高く，北東側が低い状態であり，地面の傾斜と同様である。南西部以外の部分もやや凹凸がある。底面の幅は１mである。南西側を除く遺構の中央から少量の貝が出土した。貝の種類はシオフキ・アサリ・ハマグリである。堆積上下層はローム粒の含有が多く，上層は少ない。

貝の近くで西やや北側から，ロクロ成形の土師器皿（１）が伏せた状態で出土した。底面からはやや浮いている。口径は13.6cm，器高2.2cm，底径7.3cmである。口縁部が1/4周欠損するほかは遺存している。また，欠損部の反対側の口縁部も1/4割れているが，接合している。底部は全体に突出し，中央部がやや凹んでいるので，高台付皿風の形態である。底部外面には回転糸切り痕があるが，周縁はヨコナデにより消されている。内面はヘラミガキが施されている。色調はにぶい橙褐色で，焼成は良好である。

２は土師器甕で，小型品である。小片で，出土位置は不明である。

SK－316（第566・567図，図版179）

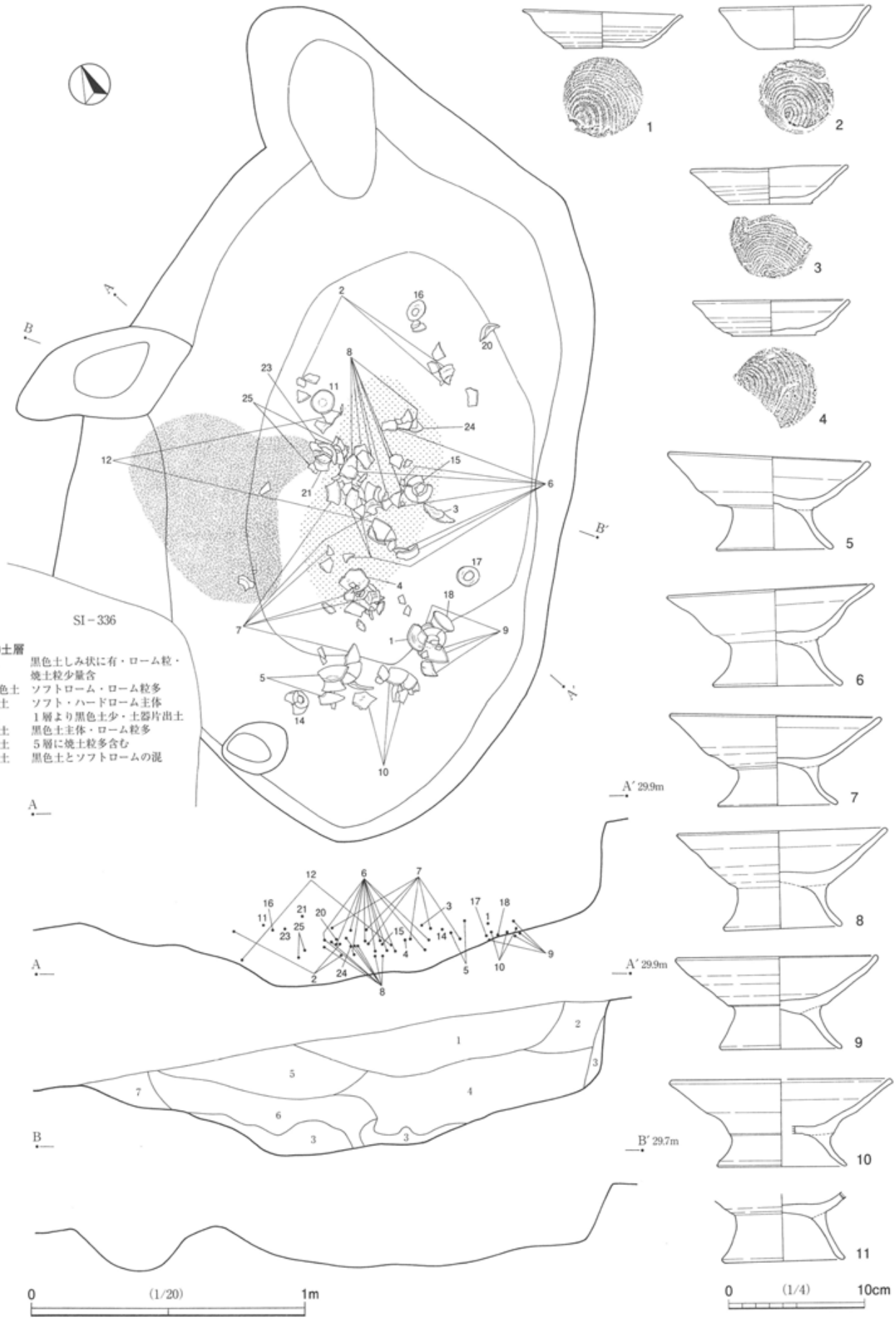
遺跡西部南東寄りの18Q区に位置する。北から南に下る緩斜面に立地する。平面形は長方形で，長さは2.3m，幅は0.9m，確認面からの深さは0.6mである。底面は平坦で，長さは2.1m，幅は0.6mである。壁は垂直に近い傾斜で，直に掘り込まれている。長軸方向は南北の範囲であり，北からみて西に７度傾いている。堆積土は３層にローム粒が少なく黒色土主体であるが，それ以外はローム粒・ロームブロックの含有が多く，埋め戻された状況といえる。

南西隅底面から，ロクロ成形の土師器杯（１）が正位で出土した。２片に割れて接合する土器であるが，完形である。出土時点で分離していないので，当初は割れていなかった可能性がある。口径は10.9cm，器高3.5cm，底径4.7cmである。底部外面の調整は回転糸切り後無調整である。色調は橙褐色で，焼成はややあまい。ほかに少量の土器片が出土しているが，混入と思われ，１以外に図示したものはない。１の時期は10世紀代と思われる。

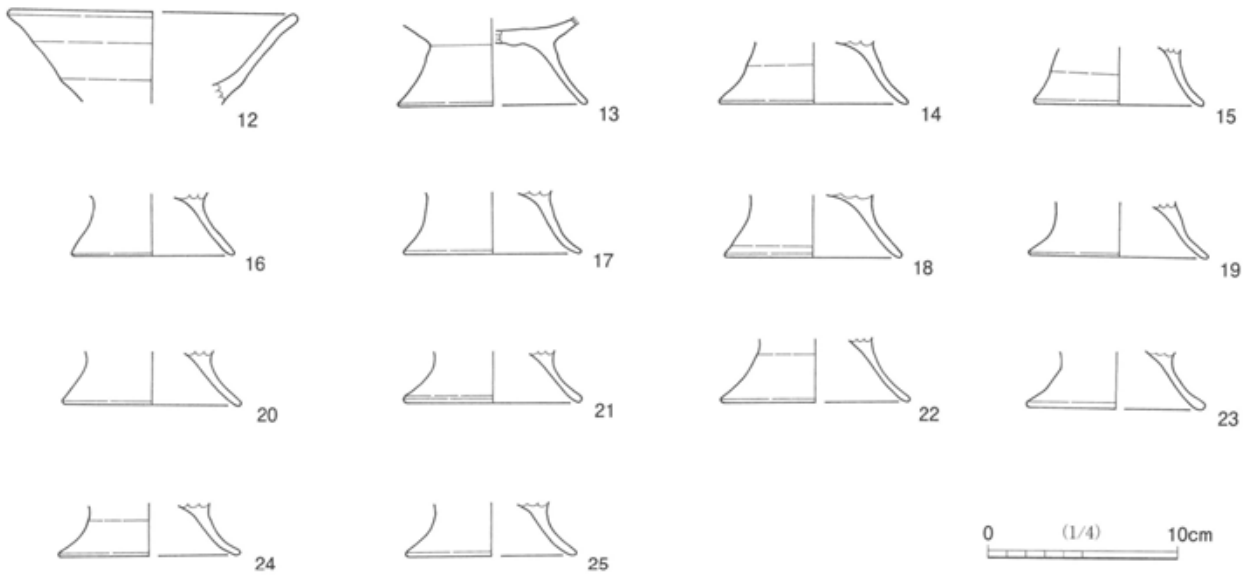
本遺構からは，人骨の出土がないが，遺構・遺物の状態から土坑墓と思われる。

SK－400（第568・569図，図版179・180）

遺跡東部南側の22S区に位置する。平面形はやや長い楕円形で，確認面での長さは2.7m，幅は1.8m，深さは25cm～45cmである。南西側でSI－336と重複し，その部分を損なっているが，本遺構の方が新しい。また，３箇所撹乱を受けている。底面は凹凸が著しく，中央がやや深いが，長軸方向の高さの差はあまり大きくない。底面の長さはおよそ1.5m，幅は１mである。遺構内からは多量の土器・焼土・炭化物が出土した。焼土は下層・底面上から出土し，とくに底面中央部が焼けている。炭化物も中央西側からまとまって出土した。土器は下層からの出土であるが，一部を除いて底面からは若干高い位置での出土である。堆積土上層は焼土粒の含有が少ない。堆積土は，土器が出土する層位までは，埋め戻された状況がうかが



第568図　SK－400（1）



第569図　SK－400（2）

える。しかし，１層はローム粒が少ないことから，完全に埋め戻されたかどうか断定しがたい。

図示した遺物は11点である。１～４はロクロ成形の土師器杯で，やや小振りの浅い杯である。口径値は11cm前後で，近似した寸法の土器群である。３は40％の遺存，ほかは60％～70％の遺存である。底部調整はいずれも回転糸切り離し後無調整で，体部下端に底部の端がはみ出すなど，雑な作りである。とくに２は底部が平らでなく，きちんと据わらない。また，磨耗している１を除く２・３・４は体部外面に水分を多く含んだ時点での粗い調整痕が各所にみられる。１も本来同様であろう。焼成は概してややあまく，粉質の質感である。色調は被熱のためか，やや赤みがあるが，概して淡褐色の勝った色調である。

５～25はロクロ成形の土師器高台付杯で，高台部はいわゆる足高高台である。５～８はかなり遺存がよく，９も比較的遺存がよい。10は全体の1/2弱，12は杯部口縁部周が1/2弱の遺存である。11・13～25は高台部周辺の遺存である。高台部下端部が全周遺存しているものは11・14・15・17・18・19の５点で，16も端部がわずかに欠けるが，高台の遺存は良い。13は高台部の遺存は少ないが，杯部が一部遺存している。20・21は高台下端部周の遺存が3/4以上であるが，22・23はほぼ1/2，24は1/2弱，25は接合しない２片を合わせて1/2強の遺存である。22～25はいずれも別個体である。遺存のよい部分で土器全体の寸法をみると，杯部の口径は15.0cm～15.5cm，器高は中心部で6.5cm～7.2cm，底径は8.6cm～10.0cmである。杯部の高さは中心部で3.6cm～4.1cm，高台部の高さは2.5cm～3.5cmである。杯部は比較的まとまった数値であり，口径が大きいわりにやや浅い器形である。10はやや大きく復元図化している可能性がある。12はやや深い杯部と思われるが，遺存しない高台の状況によっては，やや傾くかもしれない。高台部の大きさは杯部ほどのまとまりはないが，高さは3.1cm程度のところに比較的まとまっている。以上，足高高台付杯群も無台の杯同様，比較的規格性が高いといえよう。焼成・色調も無台の杯と近似している。

本遺構では，図示した遺物が遺物総量のほとんどを占めており，その他の遺物は少ない。出土遺物には甕類が含まれず，すべてが無台・有台の土師器杯である。確認できる総量は，無台の杯４点，有台の杯21点である。遺物は，土坑中央を主としてその周囲から，割れて散乱した状態で出土した。正位・倒位等の状況がおよそわかるものをみると，ほぼ正位のものは１・２・８・９・14・15，ほぼ倒位のものは11・

16・17，横倒れのものは5・18という状況であり，とくにまとまった状況はみられない。

出土遺物については，土器の状況や出土状況，焼土の存在から，火を使用する祭祀行為に伴う遺物と考えられる。遺存のよいものも破損していることから，すべての土器が意図的に破壊され，廃棄されたものであろう。

SK－571（第566・567図，図版190）

遺跡東部端の25R区に位置する。小屋ノ内遺跡調査区の東部端は南北から谷が入って，台地は狭まっているが，本遺構は狭まった部分よりもさらに東側に位置する。地形による遺跡区分のうえからは，小屋ノ内遺跡というよりもその東側の馬場遺跡に関わってくる遺構といえよう。本遺構が立地する地形は北から南に下る緩斜面である。

平面形はおおよそ円形で，径は1.5m～1.6m，深さは30cmである。底面は北側が高く，南側が低いが，凹凸は少ない。底面の径は1.2m～1.3mである。堆積土は暗褐色土主体で，上層は焼土粒・炭化粒をわずかに含む。

図示した遺物は3点である。3点ともロクロ成形の土師器杯であるが，2は高台付杯である。1は小片で底部を欠くが，高台付の可能性があると思われる。2は体部下部が比較的よく遺存するが，口縁部と高台の遺存は少ない。推定口径は11.3cm，器高5.3cm，推定底径6.1cmである。杯部は丸みをもつ椀形で，高台付椀とした方がよいかもしれない。高台は小さく，高さの低いものである。色調はにぶい赤褐色である。1は小片から復元図化したため，図示した大きさに不安がある。これも口縁・体部は丸みをもつ椀形の器形である。内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。器面は荒れている。外面の色調はにぶい橙褐色である。3は底部周辺の破片である。底径は4.7cmである。底部は全体に突出しており，外面の調整は回転糸切り後無調整である。1～3の出土層位をみると，2の破片の多くは下層から出土したが，2の一部と1・3は上層から出土している。以上の土器の時期は10世紀代と思われる。

本遺構の周囲には同様の規模の遺構が存在する。とくにSK－570・SK－572はほとんど接する近さに位置する。また，やや東側に位置するSK－573は半分調査区外にかかっており，同様の遺構がさらに東側に続いていく可能性がある。

P－264（第566・567図，図版194）

遺跡南部北東寄りの20S区に位置する。平面形は円形で，径は0.8m～0.9m，深さは40cmである。底面はやや高低差があり，壁との境はやや丸みをもつ。底面の径は50cm～60cmである。壁は垂直に近い傾斜である。堆積土下層はロームブロックを，上層はローム粒を多く含むが，中層はロームの含有がやや少ない。また，中層は炭化粒を，上層は少量の焼土粒を含む。埋め戻されているかやや断定しがたいが，遺物および遺物出土状況を加味すると，その可能性があると思われる。

図示した遺物は2点である。1はロクロ成形の土師器杯である。完形で，割れもない土器である。口径は11.6cm，器高は3.6cm，底径は4.5cmである。底径の小さい小振りの杯である。底部外面の調整は回転糸切り後無調整である。色調は淡褐色である。2はロクロ成形の土師器高台付杯である。底部は遺存するが，口縁・体部の遺存は1/3弱である。口縁端部の遺存は少ない。口径は推定15.4cm，器高は6.4cm，底径は7.1cmである。高台は小さいもので，やや高さがあるが，足高といえるものではない。底部外面中央には滑らかに移行する。ヨコナデにより薄くなっているが，回転糸切り痕がみられる。杯部のヨコナデはていねいで，ロクロ目の凹凸が消されている。外面は所々に水分を多く含んだ調整のさいに生じるナデの痕跡がみ

られる。色調は褐色で，焼成は良好である。

1は壁寄りで底面から10数cmの高さのところから，伏せた状態で出土した。2は1の隣で，1よりもやや高いところから，正位で出土した。そのほか，図示していない土器片が4点出土している。そのうちの1点はロクロ成形の土師器杯底部片で，底径は5.2cmである。底部外面の調整は回転糸切り後無調整である。体部は丸みをもつ椀形である。上層から出土した。また，1点は新治窯産の須恵器杯小片で，ほかの遺物よりも時期のさかのぼるものである。1とほぼ同じ高さから出土した。ほかの2点の土器も中・下層出土と上層出土に分かれる。

本遺構は，1のあり方から，土器を埋納した遺構で，時期は10世紀代と思われる。具体的な性格については不明瞭であり，土坑墓とするには規模が小さすぎるように思われる。なんらかの祭祀的な遺構かもしれない。

P－851（第570図，図版199・306）

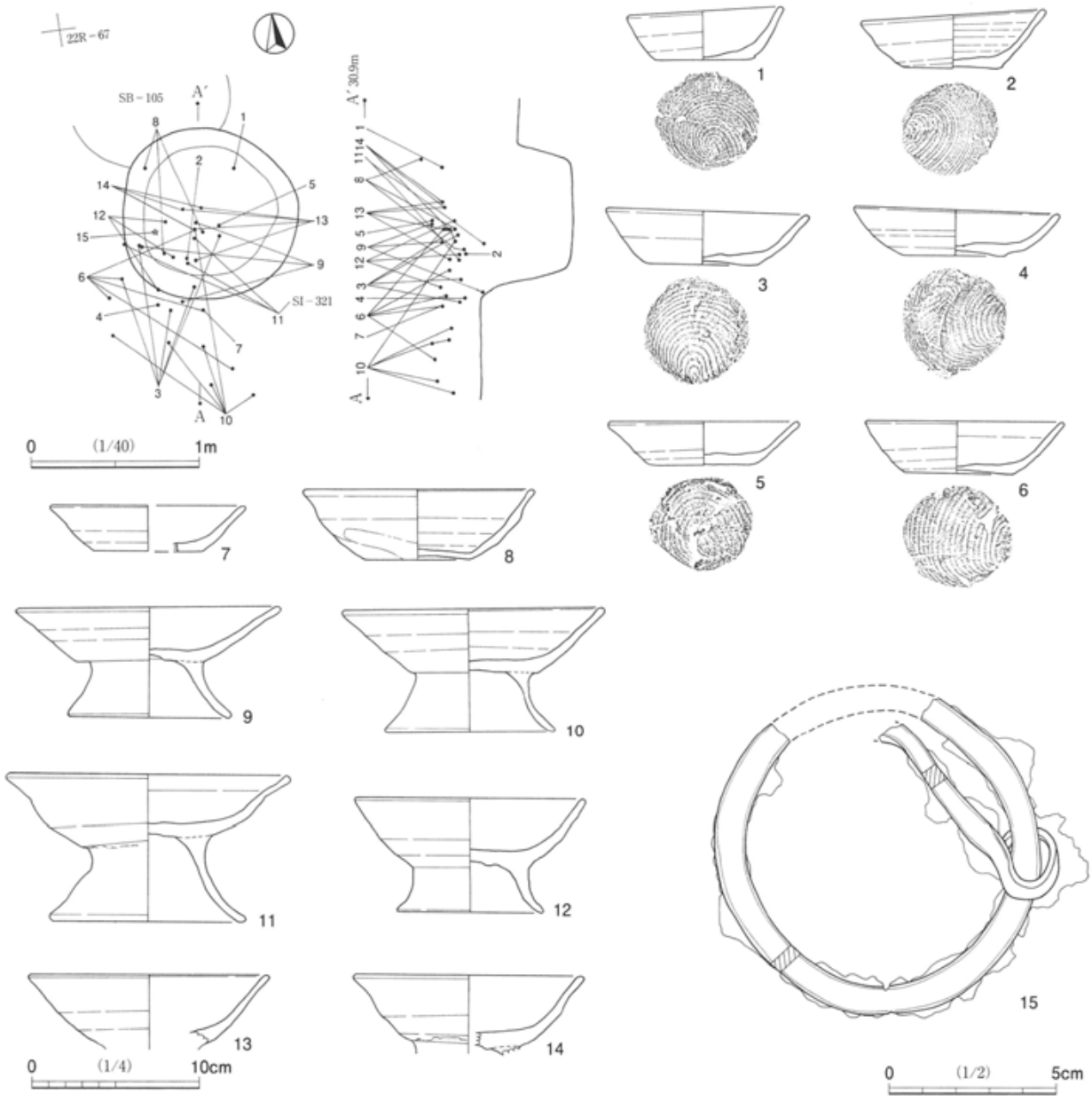
遺跡東部南西寄りの22R区に位置する。円形の形態で，上面径1.05m，底面径0.8m，確認面からの深さ0.8mの規模である。底面は平坦である。堆積土の様相は不明である。土坑内からは多くの遺物が出土しており，15点を図示することができた。そのうちの一部は土坑外から出土しているが，土坑内のものとの接合関係やごく近くに位置すること，および遺物内容から，本土坑出土遺物と扱う。他遺構との重複関係をみると，SI－321を切り，SB－105のP16と重複する。調査時の所見では，本土坑の方がSB－105よりも新しいとしているが，出土遺物からは不明瞭である。

1～8はロクロ土師器杯である。このうち，8は回転糸切り後，一定方向の手持ちヘラケズリが施され，糸切り痕は半分程度消えている。そのほかは回転糸切り後無調整である。4は切り離し痕が数次にわたっている。8は他の土器よりもやや大振りで，底部調整とあわせて，古い様相がうかがえる。1～7は浅く，1をはじめとしてやや小振りの小皿的な器形である。遺存は，7・8が1/2以下であるが，1～6は1/2以上であり，なかでも1・2はかなり遺存がよい。割れ方が意図的かどうか断定しがたい。器面は全体的に荒れているが，焼成温度があまり高くないためかもしれない。

9～14はロクロ土師器高台付杯で，いわゆる足高高台の杯である。13・14は高台部を欠くが，杯部の形態・大きさから，9～12同様の高台が付くと思われる。11はやや大振り，12はやや小振りの土器である。9・10は比較的遺存がよく，とくに9の高台部は全周遺存している。全体的にやや歪んだ作りで，ていねいさに欠けている。その傾向は2・3など無台の杯にもうかがえる。9・10・11の器面は荒れており，無台の杯の多くと似た質感である。9～14の割れ方も意図的か断定しがたい。

15は鉄製馬具の轡である。鏡板は円環で，外径は9.7cmである。幅が9mm，厚さが4mmと平たい作りである。鏡板には喰が連結した状態で遺存している。喰と鏡板は小円環で連結しているが，遺存のよい小円環は引手のものかもしれない。遺存のよい引手側の小円環と遺存の悪い喰側の小円環が連結している可能性があるが，錆のために不明瞭である。遺存のよい小円環の外径は2.3～2.5cmである。なお，小円環部分は錆膨れがいちじるしいが，その一部は皮状の紐製品と思われる。喰の棒状部の長さは3cmまたは4.5cmで，幅は6mm・厚さは5.5mmである。なお，隣接するSB－105のP16からもほぼ同大の鉄製轡が出土しており，15と一体のものかもしれない。ただし，SB－105の轡は鏡板が鉄板2枚合わせであるのに対して，本土坑の轡は1枚である。左右の鏡板で違いがあるのかもしれないが，一体のものか，やや断定しがたい。

以上の遺物のうち，15は出土状況の写真により，土坑の下層から出土したことがわかるが，正確な高さ



第570図　P－851

がわからない。そのため，垂直位置図に位置を図示していない。土器群は，上層および確認面付近の高さから出土している。

本土坑の性格について検討する。平面的な規模は，SB－105の柱穴群と差がないが，深さは若干深い。また，SB－105の柱間間隔にも入ってこない。このため，５間×３間のSB－105建物を構成する柱穴ではない。SB－105に関わるとすれば，何らかの祭祀的な土坑であろう。また，周囲にSB－105の柱筋にのらないピットがいくつかあることから，他の掘立柱建物の柱穴とも思われるが，組み合う柱穴が不明瞭である。他の遺構を考えた場合，馬具が出土していることと，土器群が多量に出土していることから，馬を埋葬した土壙墓が想起される。しかし，馬を埋葬するには小規模すぎることが難点である。人の埋葬かもしれないが，確実な根拠に欠ける。性格の特定は難しく，葬送儀礼を含め，広い意味での祭祀土坑としておく。堆積土の様相は不明であるが，馬具とともに埋め戻され，上層および旧表土上で，土器を使用する祭

祀行為が行われたのではないだろうか。

なお，本土坑出土として図示した遺物は，調査時にSI－321出土遺物として取り上げられており，遺物注記も調査段階のままである。また，図示しない破片についてはSI－321およびSI－321と重複するSI－365出土土器片と混在したままであるが，出土状況から本土坑出土遺物がもっとも多いといえよう。

第６節　遺構外出土遺物

第571図１～28（図版319・323）は瓦塔の破片である。

１～23はSD－021からの出土であり，とくに西側からまとまって出土した。また，27は19Q－22区からの出土であるが，この位置はSD－021の西側である。さらに25はSD－042からの出土であるが，SD－042はSD－021の西方にあって，SD－021に比較的近い位置にある遺構である。

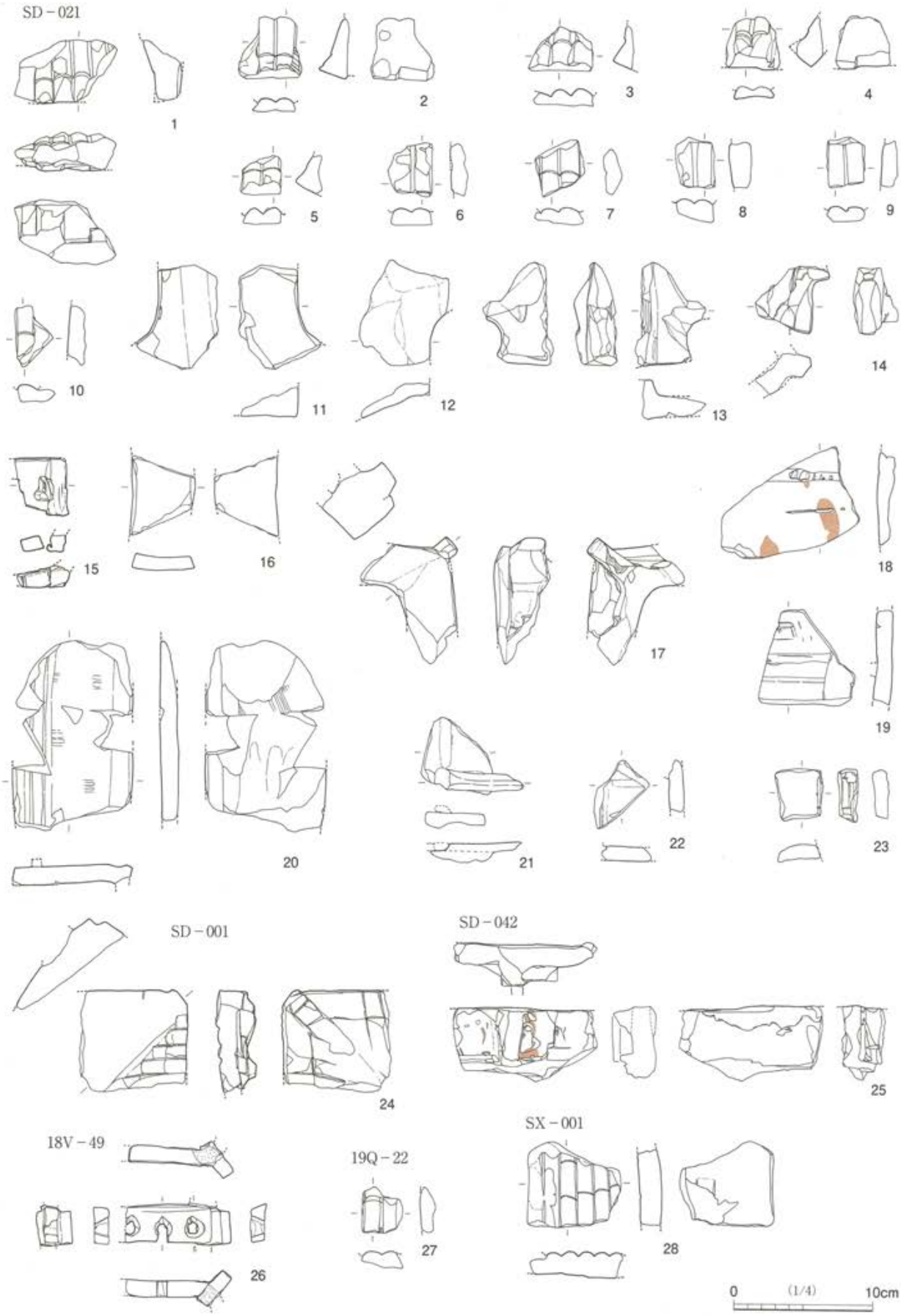
SD－021は近世まで溯ることが確実な道路跡であり，SD－042も同様と思われるので，瓦塔片は混入したものである。周辺の奈良・平安時代遺構をみると，竪穴住居跡SI－115がSD－021と重複している。また，西方にはSI－202等の住居群がみられる。瓦塔片は，本来，上記のような奈良・平安時代遺構に存在したものと考えられる。ところで，この付近の奈良・平安時代の遺構分布をみると，密度はあまり高くない。ただし，SD－021とSI－202等の間にある現道路部分の様相が不明瞭である。この点を考慮する必要があるが，瓦塔は小屋ノ内遺跡西部の集落群の東端付近に設置されたものと考える。あるいは，現道路部分に瓦塔を設置した掘立柱建物が存在したのかもしれない。

１～23・25・27はすべて須恵質の焼成である。色調は淡黄灰色・明灰色であるが，13・17・18・21はほかのものよりもやや褐色味が強く，別個体かもしれない。13等以外のものの焼成はややあまく，粉質の質感である。13ほか３点の焼成も大差はないが，それら以外と比べるとやや良好と思われる。胎土はあまり異ならず，黒色粒・白色粒・褐色粒等の砂粒と若干の小石を含む。白雲母はみられないが，溶解したのかもしれない。産地については，白雲母がみられないため，やや不明瞭であるが，13等以外のものは新治窯産と思われる。13ほか３点はより不明瞭で，千葉産かもしれない。

１～10・27は屋蓋の破片である。瓦は丸瓦のみ表現されている。幅は太く，1.2cm～1.5cmである。高さは２㎜で，やや平たいが，軒先先端は４㎜と高くなり，半円状となる。軒の長さは不明であるが，4.5cm以上である。瓦は幅広工具による押し引きで表現され，継ぎ目は爪先状の沈線である。２は２節目の継ぎ目で割れているように思われるが，不明瞭である。よって多節か単節か不明とする。軒先先端から継ぎ目までの長さは1.3cm～2.1cmである。裏面に垂木のみられるものは，１・２・４の３点である。垂木表現は，貼り付けによらず，本体から削り出されている。幅は太く，２cmである。垂木間隔は1.9cmで，ほぼ垂木幅と同じである。屋蓋は軒先でやや厚みがあるが，２をみると，軒先から４cm程度のところで約５㎜の厚さであり，かなり薄くなる。この部分で破損している破片が多い。

11・12は屋蓋中央部付近の破片である。ともに円孔の一部が遺存する。また，裏面側が遺存するが，屋蓋上部側は遺存していない。円孔の側面はヘラケズリまたは強いヨコナデが施され，平らな面をなしている。厚さは2.5cmで，かなり厚い。円孔はやや楕円形になると思われる。径は不明であるが，かなり大きい。裏面はナデが施され，平滑である。本瓦塔は比較的大型の製品と思われる。軒先先端と円孔の中間が薄いが，これは屋蓋の重量を軽くする工夫であろう。

13は初軸部分と思われるが，どの部位に相当するかわからない。また，14も斗拱粘土帯の一部と思われ



第571図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（1）

るが，どの部分になるかわからない。15は壁付きの斗拱で，隅付近の破片である。図右側と図左側部分が接着している。右側は隅部分から45度突出するが，突出部分は欠損している。突出部分を除いて，屋蓋受けの突帯に接着していたと思われる。壁付きの粘土帯には崩れた三つ葉状の切り抜きがある。また，45度の斗拱に接着していない端部も逆凸帯状に二段切り出されており，あわせて斗を表現している。斗拱の下面には，一部に赤彩がみられる。もともとは全面に施されていたのかもしれない。また，外面の広い面にも赤彩の痕跡がみられる。

16は軸部の破片と思われるが，どの部分かわからない。図の左右は面をなす。幅は4.3cmである。

17は軸の隅部分である。初軸か二軸以上の軸部かわからない。下部が欠損しており，高さは不明である。屋蓋受けの貼り付け粘土帯は幅2.9cm～3.4cm，厚さ８mmである。軸の外側からは1.9cm突出している。隅から延びる斗拱は長さが3.6cm，幅が2.0cm～2.8cm，厚さは1.2cmである。斗拱先端は方形状に突出し，両角は直角的である。下部はかなり崩れているが，二段状である。形骸化しているものの，斗拱の持ち送りを意識している。

18～22は初軸と断定できるか，可能性の高い破片である。18は初軸の壁体と思われる。図示した面が外面であり，赤彩が２か所みられる。赤彩の上部には連続する弱い段状の痕跡がある。柱・長押・台輪等の突帯の剥離痕であろう。外面はミガキ的なナデが施され，滑らかである。裏面は剥離しており，遺存していない。

19は粘土帯の剥がれた痕跡がある。突帯が貼り付けられていた痕跡である。その部分の図上部にもヘラ状工具による切り込みがみられる。裏面はナデが施されている。

20は左図の右側が入口，左側が隅部である。入口側には，端から１cmの間隔を置いて，剥離痕がみられる。この剥離痕は柱の粘土帯が剥がれた痕跡である。剥離痕すなわち柱の幅は８mmである。入口の端から隅部までは8.3cm，柱の端から隅部までは6.2cmである。裏面はヘラナデが施されている。

21も初軸の一部である。貼り付けの粘土帯が遺存しているが，柱・長押・台輪等の突帯である。幅は1.2cm～1.4cmで，厚さは6.5mmである。横断面は上部がやや扁平な山形で，二条の稜をもつ。この粘土帯の途切れる端部分に赤彩が残っていると思われるが，やや断定しがたい。また，この部分に直交する状態で，粘土帯の剥離痕がみられる。初軸の上部にある内法長押であろうか。裏面は剥離している。

22も粘土帯の剥離痕が直角にみられる。裏面はナデが施され，平坦である。

23は判然としないが，斗拱の一部か軸部の屋蓋受けであろうか。図示した中央図以外は欠損している。中央図の側縁はヘラによる切り込みがみられる。他の部材と接着していたのかもしれない。

25は初軸の斗拱部分の破片である。斗拱は壁付きの三斗で，図右側は粘土帯を凸帯状に切り出して表現している。一番上部は，貼り付けの痕跡から１cm弱欠損していることがわかる。15と似た形の切り抜きがあり，切り出し部分と合わせて斗を表現している。図中央は壁体に対して直交に貼り付けられた粘土帯であるが，前部を欠損している。欠損部は持ち送り状に切り出されていると想定される。この突帯から左側部分にも右側と同様の表現をもつ粘土帯があったと思われるが，剥落している。突帯の側面には，ヘラによる横位の沈線がみられる。下端から１cm弱の位置である。大斗を表現したものと思われるが，そうではなく，切り抜きされたことで付いたものかもしれない。斗拱の下部は台輪であるが，欠損がいちじるしい。赤彩がところどころに残っており，斗拱部分に広く施されていたのであろう。

以上，SD－021周辺から出土した瓦塔を記述したが，個体数は２個体と思われる。ひとつは13・17・

18・21で，もう一つはそれ以外のものである。しかし，明らかに異なるといえるほどではなく，１個体の可能性も若干残っている。２個体とみた場合でも，後者の一群の中に13等と同一個体のものが混じっているかもしれない。このように，やや曖昧な点があるが，ここでは，２個体とみて，13等の一群を個体B，それ以外を個体Aとする。

個体Aを池田敏宏氏の類型区分[1]にあてはめると，多武峯類型になる。多武峯類型は瓦塔の中では，古い様相をもつ類型であり，池田氏によって，８世紀代が付与されている。伴出土器がないため，土器編年の支援を得られないが，池田氏の編年観にしたがい，個体Aの歴年代を８世紀中葉～後葉とする。

個体Bについては，屋蓋部の出土がなく，詳細な時期比定はむずかしい。しかし，産地が千葉産であるならば，個体Aよりもやや降る時期のものと思われる。ただし，これについては明確な根拠がないため，可能性の指摘にとどめる。

24はSD－001から出土した屋蓋隅の破片である。上記の瓦塔とは別個体の製品である。出土位置はSD－001の中央部で，仏堂のSB－070等に比較的近い。SD－021ほか出土のものとは，離れている。瓦は丸瓦のみ表現されている。幅はやや太く，１cmである。高さは３mmで，やや彫りが深い。軒の長さは不明であるが，５cm以上である。瓦は幅広工具による押し引きで表現され，継ぎ目は節を設けることで表されている。一列に２か所みられることから多節であることがわかる。軒先先端から１節目までの長さは，隅際を除いて1.5cm，隅際は９mm，１節目から２節目までの長さは1.8cm～2.0cmである。屋蓋上部の遺存は隅棟から片側部分であり，隅棟上部から反対側部分は欠損している。軒裏の垂木表現は，貼り付けによらず，本体から削り出されている。地垂木と飛檐（ひえん）垂木からなる二軒構成である。隅垂木とその両側２辺の端の垂木が遺存している。隅垂木の幅は太く，1.6cmである。辺の垂木はやや細く，1.0cm～1.4cmである。辺の垂木の地垂木部と飛檐垂木部の境はヘラ状工具による沈線が施され，飛檐垂木部は深めにヘラ削りされている。長さは1.8cm，地垂木との境の段差は８mmである。この厚さは地垂木の最大厚でもある。地垂木は中央に向かって薄くなり，消滅する。長さは2.3cmである。辺の垂木と隅垂木間の部分も，境から隅垂木に向かって一直線状に続いて区画されている。軒中央側は厚く，軒先側は薄く削り出されて５mm～６mmの段差をもつ。隅垂木の飛檐垂木部は長さが短く，５mm～７mmである。厚さは３mm，地垂木との段差は６mmである。垂木間からの隅地垂木の厚さは0.9cm～1.0cmである。辺の垂木同様，中央に向かって薄くなり，消えていく。長さはおよそ６cmである。胎土は黒褐色粒・白色粒・小石を含む。白雲母はみられない。焼成はややあまく，紛質の質感である。色調はやや黄色味を帯びた灰色である。新治窯産と思われる。

24は，池田氏の萩ノ原類型に相当すると思われる。この類型の歴年代観については，８世紀後葉から９世紀初頭と設定されている[2]。

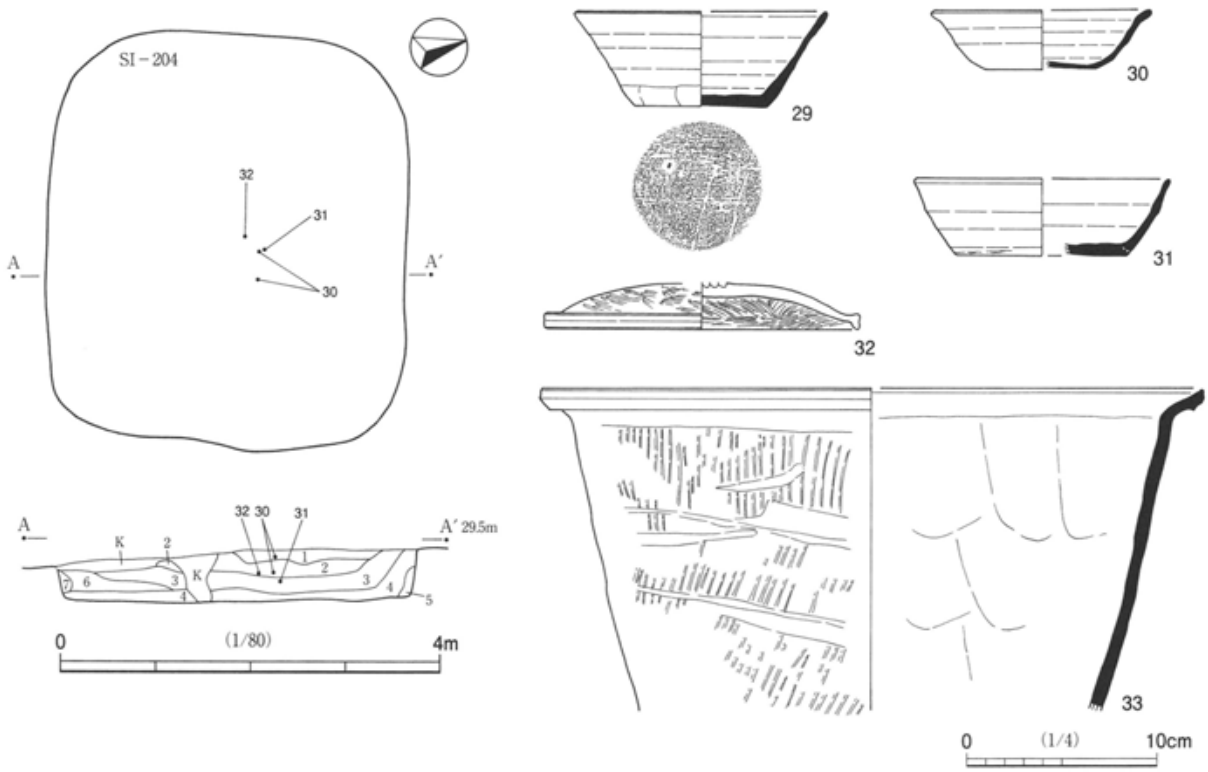
26は18V－49区からの出土である。18V－49区は仏堂関係の建物であるSB－060と重なる地点であり，仏堂に伴う遺物と思われる。斗拱の隅部付近の破片である。裏面は軸の壁体から剥がれた痕跡がうかがえ，壁付きの三斗である。図右側は隅部分から45度突出している。突出部の壁側下端には，剥がれた痕跡がみられることから，下部に大斗が存在したのであろう。また図右の，壁付き粘土帯隅上端（突出部の壁側上端でもある）にも，剥がれた痕跡が高まっており，上方に手先の三斗があったのかもしれない。やや不明瞭であるが，軸部は初軸と思われる。壁付きの粘土帯には，三つ葉状というよりも円の上部が尖った切り抜きがあって，斗を表現している。また，図の左端部にも剥がれた痕跡があることから，そこにも突出する粘土帯が接着し，その左側も遺存する右側と同様の状態と考えられる。松本修自氏によって紹介された

伝ミツサワ出土瓦塔と似ているが，本例の場合，中央の開いた切り抜きが左右の閉じた切り抜きと似ていることから，より形骸化が進んでいるといえよう[3]。外面には薄い褐色部分があるが，焼成の色調か赤彩か判断しがたく，赤彩は施されていないとしておく。色調はやや褐色味を帯びるが，かなり灰色がまさっている。胎土は比較的緻密で，焼成は良好である。千葉産と思われ，24とは別個体である。

28は屋蓋の破片である。古墳SX－001の墳丘下旧表土中から出土した。瓦は丸瓦のみ表現されている。幅は太く，1.2cmである。高さは4㎜で，彫りが深く，瓦の断面は丸みをもつ。瓦は幅広工具による押し引きで表現される。継ぎ目は爪先状の沈線で，多節である。図下部は軒先に近いと思われるが，軒先は欠損している。軒の長さは不明であるが，6cm以上である。節の間が遺存している部分が1か所あり，長さは2.55cmである。1節目から2節目の部分と思われる。軒裏は摩耗がいちじるしく，垂木表現は不明瞭である。しかし，垂木と思われる部分がわずかにうかがえる。幅はおよそ1.4cmで，本体から削り出されたものであろう。胎土は黒褐色粒・白色粒・小石を含む。白雲母はみられない。焼成はあまく，紛質の質感である。色調は明灰色である。新治窯産である。

28は，池田氏の多武峯類型と萩ノ原類型の中間的な様相がうかがえる。8世紀後葉頃に製作された瓦塔と思われる[4]。

第572図29～33は弥生時代の竪穴住居跡SI－204から出土した土器片である。SI－204の中央中層からまとまって出土した。若干の時期差がうかがえることと，全体的には遺存があまりよくないので，奈良・平安時代の遺構に伴うものではないと思われる。29～31は須恵器杯である。29は新治窯産，30・31は千葉産である。29の推定口径は13cm，底径は7.0cm，器高は5.0cmである。30の推定口径は11.4cm，底径は5.8cm，器高は3.1cmである。30・31の色調は黄褐灰色で，31はやや暗い。32は土師器蓋である。2/3の遺存で，口径は16.4cm，器高は2.6cmである。内面は黒色処理が施されている。33は須恵器甑で，千葉産である。色調



第572図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（2）

は黒灰色である。

第573図34～67（図版304）はグリッド出土の土器類である。

34・35・37～58はロクロ土師器杯皿類である。このうち，50は皿の可能性もある。また，小片の42・49も区別がつかないが，ほかは杯である。34の推定口径は14.8cm，底径は8.1cm，器高は4.9cmである。35の推定口径は13.6cm，底径は7.0cm，器高は4.0cmである。34の体部内面には，文様状のヘラミガキが施されている。37の口径は13.1cm，底径は7.2cm，器高は4.4cmである。38の底径は7.1cmである。38・47の内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。52は遺存がよく，口径は12.5cm，底径は5.4cm，器高は4.4cmである。灯明器で，油煙が口縁部外面に付着し，内面もかなり黒ずんでいる。53の推定口径は12.9cm，底径は6.4cm，器高は4.0cmである。54は遺存がよく，口径は12.6cm，底径は4.3cm，器高は3.4cm～4.0cmである。55の推定口径は13.6cm，底径は6.1cm，器高は4.0cmである。

39～51・56は文字・記号をもつ土器である。文字・記号は49を除いて墨書である。文字種をみていくと，39は欠損部にかかるが，これで単独の文字ならば「因」と思われる。50は「丈」である。41も「丈」の可能性があるが，欠損部にかかるため，やや断定しがたい。43は「大」と思われる。46は「廿万」，56は「与」である。45・48は「主」，「王」，「壬」と思われるが「住」，「任」の旁の可能性がある。断定しがたいため，文字種は不明とする。他の墨書は判読できない。49は現状で１条線のヘラ書きである。文字・記号のある部位をみると，体部外面は39～48，底部内面が49・50，底部外面が51・56である。体部外面の墨書で正位のものは39・41・42・43・45・46・48，横位と思われるものは44，不明が40・47である。

57・58は孔をもつ土器である。57は底部から体部下部にかけての破片と思われる。孔は焼成前の穿孔で，底部と体部の境に１か所，底部中央寄りに１か所，計２か所が遺存している。穿孔の様相には，香炉蓋の雰囲気もあるが，香炉蓋とすると，つまみに近い位置に孔があることになるので，考えにくい。やや不確実であるが，杯に穿孔されたものと考える。なお，土器の様相から，他にも穿孔があると思われる。孔径は１cmである。58の孔は底部のほぼ中央にあり，焼成後に施されたものである。孔径は３mmであるが，底部内面側が７mm，外面側が4.5mmで，広がっている。底径は4.8cmである。回転糸切り離し後無調整で，全体にやや突出している。体部はやや丸みをもつと思われる。

36は新治窯産の須恵器杯である。淡灰色の小石・砂粒を含むが，白雲母はあまりみられない。色調は淡黄灰色，暗黄灰色である。口径は13.8cm，底径は7.9cm，器高は4.2cmである。

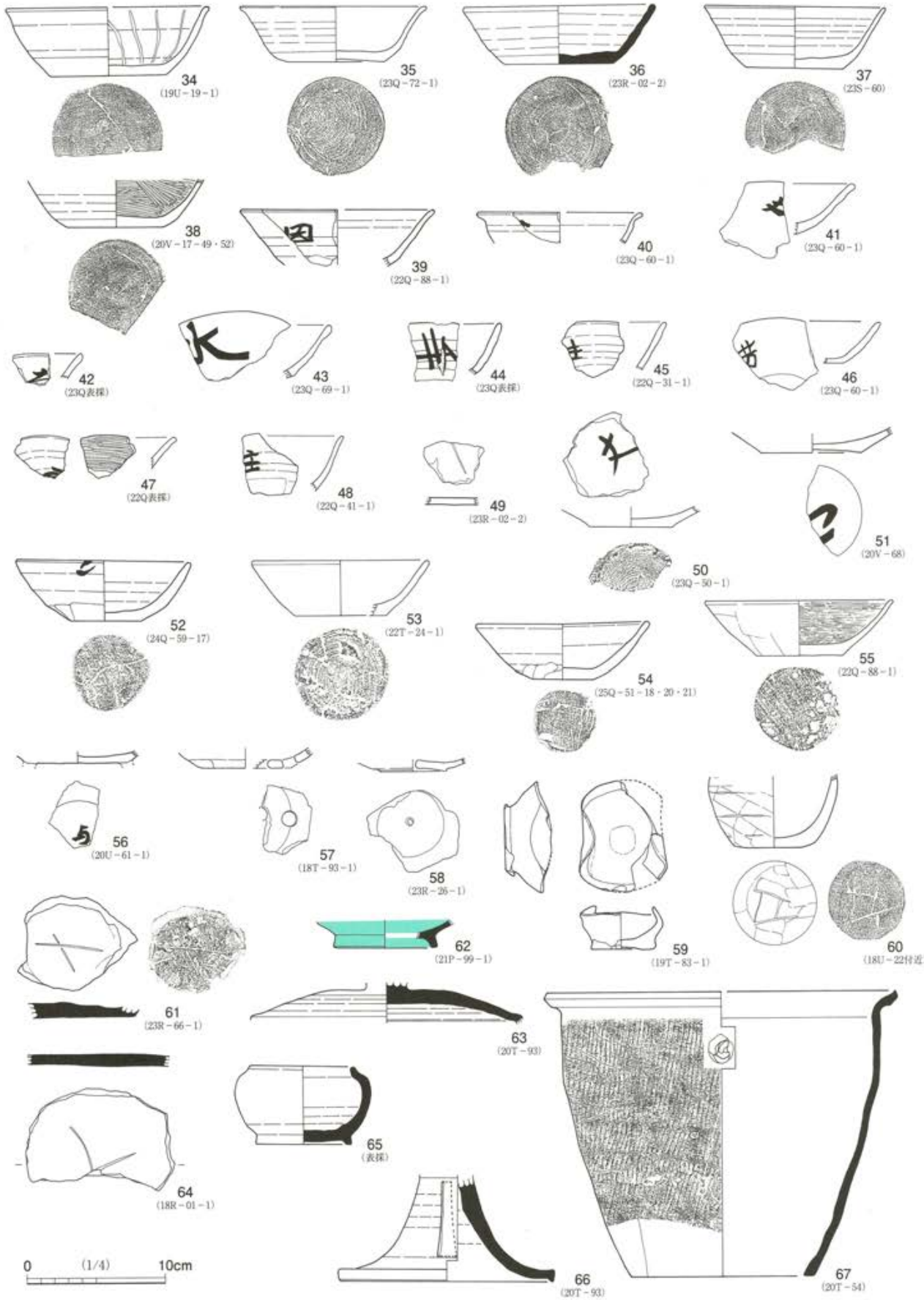
59は耳皿である。色調は褐色であるが，底部および体部の一部がかなり黒ずんでいる。ざらつく質感から須恵器とも思われるが，黒ずむ部分は黒斑の可能性もあるので，土師器としておく。比較的遺存がよく，折り曲げられた耳部は，片側が遺存し，反対側は半分の遺存である。底部は突出し，あまりていねいな調整ではない。一部に回転糸切り痕がみえる。

60は土師器甕で，小型品である。底部周辺の破片で，底部外面には２条線のヘラ書きがある。ヘラ書きは「ハ」状の形である。

61・64は須恵器甕の底部片で，ともに，「×（＋）」のヘラ書きがみられる。61は底部内面，64は底部外面に施される。ともに千葉産の須恵器である。

62は緑釉陶器椀である。暗灰色の素地の上に灰緑色の釉が全面に掛かっている。胎土は緻密で，若干の白色粒がみられる。高台径は推定7.5cmである。

63は新治窯産の須恵器蓋である。推定口径は19.7cmである。つまみ頂部は欠損する。大小の白色粒・小



第573図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（3）

石を多量に含む。色調はわずかに黄色味を帯びる灰色である。

65は新治窯産の須恵器短頸壺で，小型品である。口縁端部をかなり欠くものの，全体に遺存がよい。口径は7.6cm，高台径は6.9cm，器高は5.7cmである。色調は灰色，暗灰色で，やや黄色味を帯びる部分もある。胎土は白雲母を多く含み，焼成はややあまい。

66は新治窯産の須恵器高杯（または高盤）で，脚部の破片である。長方形一段の透かし孔をもつ。透かし孔は4か所と思われるが，孔を境に割れており，脚部の1/4弱の遺存である。色調は黄色味を帯びた灰色で，焼成は良好である。胎土は白色粒と少量の白雲母を含む。

67は千葉産の須恵器甑である。把手が1か所遺存するが，接着面が不整な円形で，上部も崩れている。色調は黄褐色で，焼成良好である。

第574図68～101・第575図102～108（図版305）は，奈良・平安時代ではない遺構か，奈良・平安時代か不確実な遺構から出土した土器類である。なお，出土遺構は挿図中に記載した。

68～70は非ロクロの土師器杯である。68の口径は12.4cm，器高は4.9cmである。69の口径は13.2cm，器高は3.4cmである。70の推定口径は12.8cmである。68は9割程度の遺存である。

71～73・75～82はロクロ土師器杯である。71の推定口径は14.6cm，推定底径は9.6cm，器高は3.9cmである。72の口径は12.0cm，底径は5.6cm，器高は4.5cmである。73の推定口径は12.6cm，底径は5.8cm，器高は3.8cmである。75の推定口径は13.4cm，推定底径は8.6cm，器高は3.8cmである。76の推定口径は14.9cm，底径は7.6cm，器高は4.3cmである。77の底径は7.6cmである。78の底径は6.0cmである。79の口径は11.0cm，底径は4.3cm，器高は3.5cmである。80の口径は11.3cm，底径は4.2cm，器高は3.4cmである。81の口径は10.9cm，底径は4.7cm，器高は3.9cmである。82の底径は5.9cmである。以上のうち，79・80は完形である。また，81は2/3程度の遺存である。その他には，とくに良好な遺存のものはない。

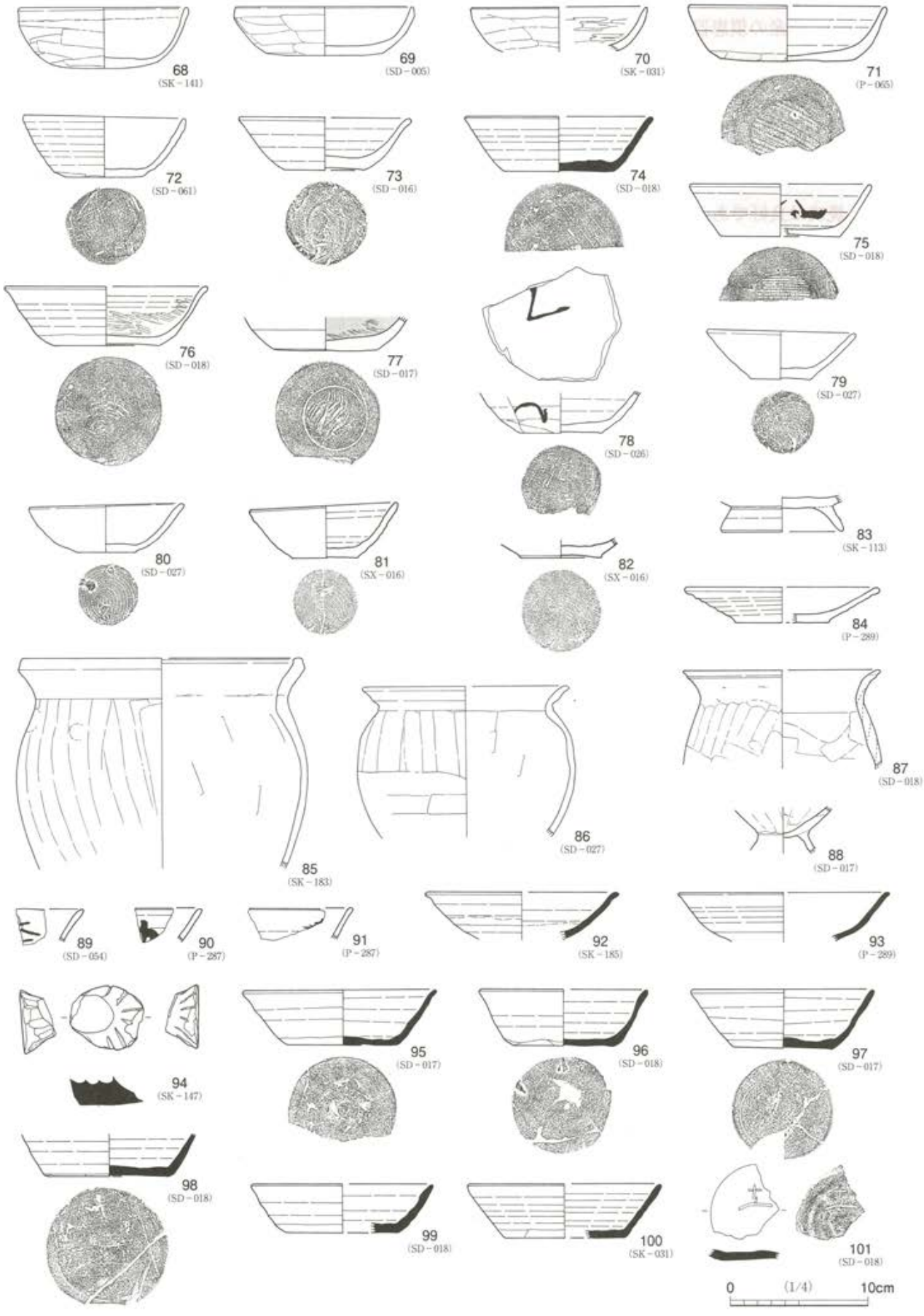
78は墨書が体部外面と底部内面の2か所にある。ともに欠損部にかかっていることもあって判読できない。体部外面の墨書は横位と思われる。75は内外面に赤彩が施される。71も外面に赤彩が施されていると思われるが，被熱と器面の荒れのため不明瞭である。内面には赤彩痕がみられないが，当初からの有無は不明とする。77の内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。底部を切り離す糸切り技法の痕跡をみると，71・75は静止糸切りである。72・78は手持ちヘラケズリが施されて，糸切り痕がまったく消えているが，回転糸切りであろう。その他の土器には，回転糸切り痕がみられる。このうち，76・77は回転ヘラケズリによって，かなり消されている。それ以外の73・79～82は回転糸切り後無調整である。

なお，完形の79・80はSD－027から出土し，比較的遺存のよい81がSD－027に近いSX－016から出土している。これらの土器は，形態・技法から同一時期のものと思われる。SD－027およびSX－016の周囲には平安時代の竪穴住居跡が密集していることから，これらの土器も本来は竪穴住居跡または同時代の土坑のものであり，混入したものと思われる。

74は須恵器杯である。推定口径は13.7cm，底径は8.2cm，器高は4.0cmである。色調はにぶい褐色で，口縁端部が黒ずんでいる。胎土は白色粒・褐色粒・黒色粒・雲母末を含む。焼成は良好である。色調はやや褐色味が強いが，底部内面の体部際が凹む器形や胎土から新治窯産と思われる。

83はロクロ土師器高台付杯の高台部である。杯部は欠損しているが，丸みをもつ椀状になると思われる。高台部径は8.9cmである。杯部内面はヘラミガキが施されている。胎土は白雲母を含む。

84はロクロ土師器皿である。推定口径は14.2cm，推定底径は6.8cm，器高は2.6cmである。底部はやや突



第574図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（4）

出し，製作技法は回転糸切り後無調整である。

85～87は「房総」型の土師器甕である。85の推定口径は21.0cm，86の口径は15.1cm，87の推定口径は14.3cmである。85の口縁端部はやや内湾し，器壁は厚い。86はやや小型の甕で，焼成は良好である。

88は台付きの土器であるが，器種がやや不明瞭である。手捏土器と同等の土器かもしれないが，小型の土師器台付甕としておく。時期もやや不明瞭だが，奈良・平安時代の可能性がもっとも高いと思われる。胴部外面はヘラケズリ，内面はヘラナデが施されている。内面はヘラの当たり痕が顕著である。底部の器壁は非常に薄く，台部も小径である。色調は褐色で，砂粒を含み，焼成は良好である。

89～91はロクロ土師器杯で，墨書のある小破片である。墨書はいずれも体部外面にあり，89・90は正位に書かれ，91も正位と思われる。いずれも判読できない。

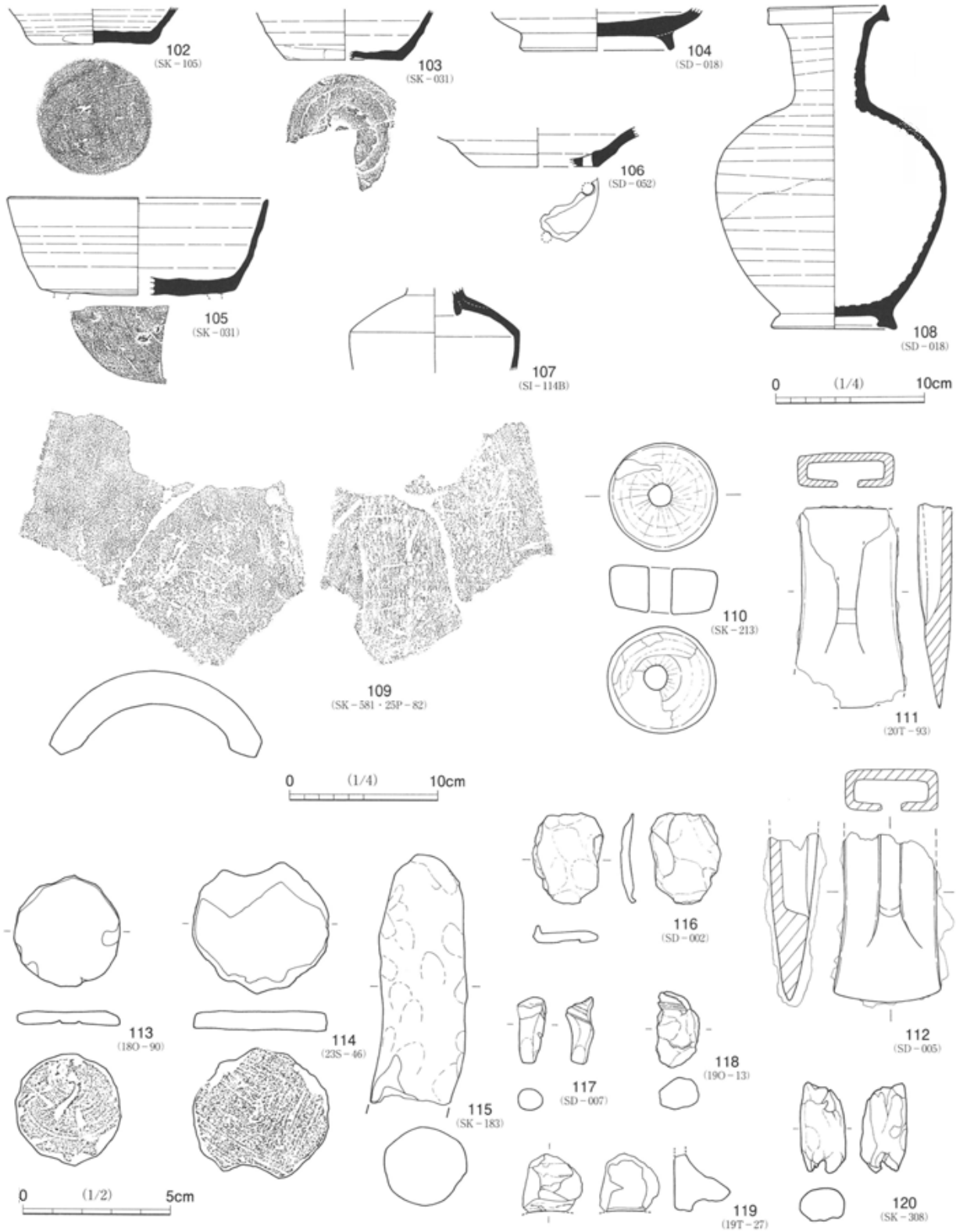
92・93は灰釉陶器椀である。92は小片のため，復元形に不安がある。体部はもう少し丸みをもつと思われる。93は口縁部の1/4強の遺存で，推定口径は15.5cmである。92は内外面の口縁・体部に暗緑色の釉が掛かっている。胎土はともに淡黄色の粒子・小石を含む。色調は灰色であるが，92は93よりもやや黄色味が強い。焼成はともに良好である。

94は灰釉陶器火舎の獣脚で，爪先部分の破片である。爪先部分は隣りあうどうしがやや平行的な6条の線が刻まれて，五本指が表現されている。かかと部分はヘラケズリによって，面取りされている。細かいがやや粗い調整である。爪先部分は灰緑色の釉が掛かっているが，かかと側および足裏部分には，釉は掛かっていない。胎土は黒色粒を含む。足裏には小石もみられるが，比較的緻密な胎土である。焼成は良好で，堅緻である。

95～103・105は須恵器杯である。千葉産のものは95～97・101，新治窯産のものは98～100・102・103である。105は大型の杯で，新治窯産と思われるが，やや判然としない。101は底部の破片で，内面に「土」のヘラ書きがある。「土」は縦棒が曲がっており，点付きの「土」を意図したものである。95の口径は14.0cm，底径は8.0cm，器高は4.0cmである。96の推定口径は12.4cm，底径は7.3cm，器高は4.1cmである。97の口径は13.5cm，底径は7.3cm，器高は4.3cmである。98の底径は8.9cmである。99の推定口径は13.3cm，推定底径は8.1cm，器高は3.6cmである。100の推定口径は14.2cm，推定底径は8.7cm，器高は4.0cmである。102の底径は7.9cmである。103の推定底径は7.8cmである。105の推定口径は17.8cm，推定底径は13.3cm，器高は6.6cmである。95～97・101の色調は黒色・黒褐色である。98・99の色調は黄色味を帯びた灰色，100・103の色調は黄色味を帯びた暗灰色，102の色調はやや褐色味を帯びた暗灰色である。103もやや褐色味を帯びている。98・100・103は白雲母を多く含むが，99・102にはあまりみられない。102は白色粒を多く含む。105は淡黄色粒・黒色粒を含むが，白雲母はみられない。南比企窯産とも思われるが，白色針状物がみられない。色調は外面が暗灰色，内面が黄色味を帯びた灰色である。胎土内部の気泡により，底部内面に膨れ上がった部分がある。口縁・体部の器面は滑らかで，焼成は良好である。

104は転用硯である。須恵器高台付盤の高台部周辺の破片が転用されたものであり，口縁・体部はぐるりと欠損している。体部の割れ口の一部は整った円弧をなし，割れ口は調整されたことがわかる。底部内面は擦られて滑らかであり，ロクロ目がかなり消えている。色調はやや黄色味を帯びた灰色である。白色粒・小石を多く含む。

106は千葉産の須恵器である。底部または天井部に穿孔があり，特殊な性格の土器である。皿形の器形としたが，香炉蓋かもしれない。しかし，孔が体部側に寄っていることと小片であるために，判然としな



第575図　奈良・平安時代遺構外出土遺物（5）

い。器面は荒れているが，明瞭な被熱痕跡はうかがえず，油煙の付着もみられない。ここでは，底部に穿孔されたものとして図示した。小片であるが，孔は２か所遺存している。２孔と想定される中心との角度は80度である。この80度を360度で割り返すと4.5となる。孔は四孔か五孔であるが，どちらか一方に断定

しがたい。推定底径は8.2cm，孔径は7㎜である。底部は回転ヘラ切り後，回転ヘラケズリが施されている。内面はロクロナデ，ナデ調整である。穿孔は外面側から内面側になされている。胎土は白色粒を多く含む。色調は，外面が暗黄灰色，内面が黄灰色である。断面内部はやや褐色味を帯びる。焼成はややあまく，器面はざらついている。

107・108は須恵器長頸壷である。107は胴部上部の一部破片で，頸部下部がわずかに遺存する。肩部に明瞭な稜をもつ。外面の稜から上部には，灰黄緑色の釉がほぼ全面にかかっている。釉は光沢をもたず，稜から下部にはみられない。頸部と胴部の境の内面には，接合のさいに生じた器壁の盛り上がりが周回している。胎土は黒色・白色の細粒のほかに，やや粒径の大きな白色粒を少量含む。色調はやや暗い灰色で，焼成は堅緻である。猿投窯等の東海産の須恵器と思われる。

108は口縁端部の2/3を欠くが，そのほかは破損のない遺存良好な個体である。口径は8.2cm，高台部径は8.5cm，器高は22.5cm，胴部最大径は15.8cm，口頸部の長さは6.6cmである。回転糸切り痕が底部外面中央にみられる。灰緑色の自然釉が口頸部内面と口頸部外面の一部から胴部外面上位および高台部外面一部に掛かっている。とくに口頸部外面が顕著で，光沢をもつ。釉が掛かっている部分以外の色調は暗赤色，断面内部の色調は黄色味を帯びた灰色である。胎土は淡黄色の粒子・小石を多く含む。焼成は良好で，堅緻である。猿投窯等の東海産の須恵器と思われる。

第575図109～120は土製品・石製品・鉄製品である。

109は丸瓦である。上部と下部を欠損するが，側面は中央付近の両端部まで遺存する。この部分の幅は14.5cm，高さは5.9cm，中央の厚さは2.1cmである。凹面には切り離し痕と布目痕がみられるが，ナデおよび表面の荒れにより，布目痕はやや不明瞭である。須恵質であるがややあまい焼成であり，表面がざらついている。色調はやや暗い灰色である。胎土は白色粒を含む。小石もみられるが，顕著ではない。

110（図版314）は滑石製の紡錘車である。径は3.7cm，厚さは1.5cm，孔径は8㎜，重さは36.43ｇである。色調は灰黒色である。

111・112（図版307）は鉄製品で，袋状鉄斧である。ともにやや小型の製品である。111は刃部の一部を，112は基部を欠損する。111の柄の装着部分は鉄板が直角に折り返されている。

113・114（図版321）は土製円板である。ともにロクロ土師器底部を加工したものである。113は径3.5cm前後，114は径4.6cm前後である。重さは，113が6.84ｇ，114が16.65ｇである。114の大きくえぐれている部分は欠損したものである。不整ではあるが，本来はより円に近いものである。もともとの土器をみると，113の底部調整は回転糸切り後無調整である。器壁が薄く，小振りの土器と思われる。色調は淡褐色である。114の底部は手持ちヘラケズリが施され，糸切り痕は消されている。114も回転糸切りと思われる。色調は赤褐色である。

115（図版318）は太い棒状の土製品である。手捏ねの製品で，土師質の焼成である。表面は指頭による凹凸がある。片側の端がすぼまって終わっているが，反対側は欠損している。遺存する長さは8.4cm，中央の径は2.7cmである。重さは81.07ｇである。色調は淡褐色で，焼成は良好である。胎土は白色粒・褐色粒を含む。性格は不明で，奈良・平安時代の遺物であるかも不明である。一部に赤彩痕と思われるところもあるが，不明瞭である。古墳時代の埴輪とも思われるが，断定しがたい。

116～120（図版320・321）も性格不明の土製品である。116・118・119は不整な形状である。117は棒状，118もやや長い形態である。120は管玉または棗玉を意識しているのかもしれないが，断定しがたい。117

も管玉の模倣かもしれないが，120以上に不明瞭である。また，時期的にも判然としないが，本遺跡における奈良・平安時代の遺物量の多さから，本項に掲載した。116の長さは3.0cm，幅は2.3cm，厚さは５㎜，重さは3.14ｇである。117の長さは2.2cm，径は８㎜，重さは1.59ｇである。118の長さは2.5cm，幅は1.3cm，厚さは1.0cm，重さは3.41ｇである。119の長さ・幅は2.0cm，厚さは0.5cm～1.9cm，重さは36.57ｇである。120の長さは3.0cm，幅は1.5cm，厚さは1.1cm，重さは4.37ｇである。色調は116・120が淡褐色・暗淡褐色，117が赤褐色，118は褐色・黒褐色，119は褐色である。焼成は，120がややあまいが，そのほかは良好である。

注

1　池田敏宏　1999「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討－関東地方瓦塔屋蓋部編年の検証作業を中心に－」『研究紀要』第７号　㈶栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2　注１に同じ。

3　松本修自　1983「小さな建築－瓦塔の一考察－」『文化財論叢』　奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集刊行会

4　注１に同じ。

第５章　中・近世およびその他の遺構・遺物

第１節　概要

本節では，中・近世の遺構・遺物に加えて，時期不明の遺構も掲載している。これらのなかには，奈良・平安時代の掘立柱建物の一部など，中・近世以外の遺構も含まれるとみられる。中・近世以外の遺構・遺物については，強弱の差はあるが何らかの根拠をあげることのできるものを前章までに掲載し，不確実なものを本章に掲載した。

本章で扱う遺構の種別は溝状遺構，道路状遺構，土坑列，台地整形区画遺構，建物遺構，井戸状遺構，土坑墓，地下式坑，土坑である。このうち，台地整形区画遺構は，作り出した平坦面の中に，建物遺構や土坑，溝状遺構などを含む場合がある。同様に，建物遺構に関連して，井戸状遺構や土坑などが営まれる場合がある。土坑の多くは性格不明の遺構であるが，柱穴や墓坑を含んでいると考えられる。遺構の種別毎の数量は以下のとおりである。

・道路状遺構・溝状遺構…56条，台地整形区画遺構…５か所，・建物遺構…２棟，

・井戸状遺構…６基，土坑墓…２基，・地下式坑…３基，土坑…389基，小穴…855基

以上の遺構の時期を概観すると，土坑墓のなかに中世遺構がある。建物遺構は，中世遺構の可能性があるものと，近世に属するものがある。また，道路状遺構のなかには，現代から近世まで溯るものがある。中世以前どこまで溯るかは不明である。台地整形区画遺構も近世を主体とする時期のものと思われる。土坑の多くは時期不明である。

本節では溝状遺構・道路状遺構，台地整形区画遺構，建物遺構およびその関連遺構については，地区を分割して報告することとした。その理由のひとつは，東部の遺構群のように大きく地区でとらえる必要があること，もうひとつは，同一遺構または関連の強い遺構に，別番号の付く場合があることである。たとえば，SD－054とSD－053・SX－031の一部・SD－003は連続する遺構であり，SD－017とSD－018も同様である。

遺構種別略号から異なっている場合があることから，これまでのような遺構番号順の記載では，混乱する恐れがある。新たに遺構番号を付けることも一案であるが，遺物の注記や遺物台帳を付け替えることが困難なことから，原則として調査時の遺構番号を踏襲した。

本書の記載にあたっては，これまでも大まかに東部，南部，中央部，西部の４地区を示してきたが，ここでは，東部，南部，中央部・西部の３地区に分割して記述を進める（第576図～第578図）。この区分は目安程度のものであり，南部を主とする分割図中に一部中央部の遺構を含んでいる。また，本章の東部には，21N・210区など平成12年度から平成15年度の調査区を含めない。土坑については，大量に存在することから，原則として個別の図を省略し，全体を細分した縮尺1/200図面に掲載した（第620図～第668図の平面図）。なお，次節における個別遺構の記載については，土坑以外のものは地区毎に述べるが，土坑については，一括して記述する。

以下，３分割した地区毎に，遺構の種別と遺構番号を記載する。なお，同一遺構または関連性が非常に強いと思われる遺構は中黒（・）を付けて記載する。また，土坑については，ここでは分割図の番号のみ

を記載したが，分割図から漏れているものについては遺構番号を記載した。個々の土坑については，別に位置を示す一覧表を，土坑の項で掲載した。また，縄文時代の遺構や近・現代の炭焼窯については，ここでの掲載が不要と考えるが，一部が分割図中に入っている。

① 南部地区

・土坑墓

SK－017　SK－018

・地下式坑

SK－071

・溝状遺構・道路状遺構

SD－002・SD－023・SD－024　SD－013　SD－001　SD－012，SD－014，SD－016，SD－026　SD－015　SD－027・SX－016　SD－017・SD－018　SD－025

・土坑

SI－023，SX－003，SX－006，以下の土坑位置分割図中のSK・P…①，②，③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨，⑩，⑪，⑬，⑭，⑮，⑯，⑰，⑱，⑲

② 中央部・西部地区

・溝状遺構・道路状遺構，土坑列，台地整形遺構，および関連遺構

SD－022（南部の分割図に図示）　SD－028・SD－071・SD－072，SD－029　SD－034　SD－035（分割図から漏れ）　SD－038　SD－037　SD－036，SD－031，SD－032　SD－030，SD－033　SD－020　SD－021・SD－040・SD－079・SX－015　SD－019　SX－019　SK－109　SD－042　SD－058　SX－024　SD－059　SK－451他の土坑列　SD－041　SD－057　SD－055・SD－080・SD－081　SD－060　SD－061　SD－062　SD－056　SX－025　SD－063

・井戸状遺構

SK－411　SK－412

・土坑

SK－109，SX－002，SK－310，P－700，以下の土坑位置分割図中のSK・P…⑫，⑱，⑲，⑳，㉑，㉒，㉓，㉔，㉕，㉖，㉗，㉘，㉙

③ 東部地区

・建物遺構および関連遺構

SX－010・SX－011・SX－012　SX－020

・井戸状遺構

SK－054，SK－266，SK－267　SK－588

・地下式坑

SK－060A　SK－068

・溝状遺構・道路状遺構，土坑列および関連遺構

SD－004，SK－057，SK－058　SX－015　SX－014　SD－009，SD－010　SD－005　SD－006　SD－007　SD－008　SD－011　SD－050　SD－051　SD－052　SD－003　SD－054・SD－053　SX－023

・台地整形区画遺構および関連遺構

SX－030（旧SX－026） SX－013 SX－029 SX－022 SX－031（旧SX－027） SX－032（旧SX－028），SD－064，SK－582，SK－583他

・土坑

SK－055，SK－056，SK－066，P－326，P－327，P－328，以下の土坑位置分割図中のSK・P…㉚，㉛，㉜，㉝，㉞，㉟，㊱，㊲，㊳，㊴，㊵

遺構番号については，上記のSX－030・SX－031・SX－032を除いて，付け替えていない。ただし，遺物の注記は調査時の遺構番号のままである。なお，SX－026・SX－027・SX－028は整理段階で縄文時代の遺物集中地点に付与したものである。

次に，各地区の概要を述べる。

① 南部地区（第576図）

中世遺構としては，中央に土坑墓SK－017，SK－018がある。また，中央やや西寄りに位置する地下式坑SK－071も中世遺構の可能性があると思われる。

台地の中央や縁辺にいくつかの溝状・道路状遺構がみられるが，多くが近世から現代まで続く道路跡である。なお，地区北寄りに位置するSD－002は正方形に近い形であり，その性格が問題となる遺構であるが，時期的には新しい遺構と思われる。

土坑・ピットの数量は非常に多いが，SD－012の西側には空白地帯がある。また，南縁辺部もやや希薄であるが，南方の谷に向かって地形が下るため，小規模な遺構は流失したことも考えられる。西側の北寄り部分も希薄であるが，この部分は土坑以外の遺構の分布も少ない。土坑・ピットは南部地区東西の掘立柱建物跡・竪穴住居跡群の周囲に多く分布する。これらの中には，組むことのできなかった掘立柱建物跡や柵列の柱穴などが含まれていると思われる。また，中央に平安時代の土坑墓とみられる遺構がある（SK－026，SK－027）ことから，ほかにも同時代の土坑墓の存在が考えられる。時期については大部分が不明であるが，奈良・平安時代のものの方が多いのかもしれない。

② 中央部・西部地区（第577図）

東西方向に走行する溝状・道路状遺構が多い。SD－021，SD－040，SD－079は連続する一つの遺構であり，小屋ノ内遺跡を東西に貫く道路跡である。現道路が至近の位置にほぼ並行して存在する。中央部のSD－020はSD－021と平行しており，道路跡と考えられる。また，西部中央寄りに位置するSD－042は南北に走行する遺構であるが，SD－021・SD－040に直角に取り付く道路跡であろう。また，SD－020の北に位置するSD－030・SD－033，SD－031，SD－032も東西の道路に取り付く道路跡の可能性がある。さらに，その北西側に位置するSD－036はSD－031と似ているため，SD－031から直角的に曲がる道路跡と思われる。SD－036の北側，西部地区北側にもSD－037，SD－038の溝状遺構がある。

東西に貫く道路跡は調査区西端近くでSD－055と接続する。SD－055は東西道路と交わる南北方向の道路跡である。南側でSD－055と交わるSD－061，SD－062も台地の縁を走行する道路状遺構と思われる。逆「コ」字状の特異な平面形をもつSX－025は，SD－055の中央で重複し，切られている。性格は判然としない。SX－025を切るSD－063は距離が短いため，道路跡か不明である。

西部地区南側に位置するSD－041，SD－057，SD－058，SD－059は南に下る斜面を東西方向に走行する溝状遺構である。SD－057は西側でSD－055に接近するが，重複しない。しかし，発掘調査では確認で

第576図　中近世遺構・南部地区

第577図　中近世遺構中央部・西部地区

きないとした方が正しいかもしれない。

中央部南寄りに位置するSX－019は，発掘された平面形が逆「コ」字状である。東側が範囲外のため，方形となることも考えられる。規模は小さいが，SD－002と類似する遺構の可能性もあると思われる。SX－019の北側には，東西に走行する溝状遺構であるSD－019がある。また，SX－019の南東方，南部寄りのところには，SD－022がある。並行する２条の溝状遺構で，竪穴住居跡・掘立柱建物跡とは重複しない。

西部地区の北側には，整理段階でSX－028の遺構番号を付与した縄文時代の遺物集中範囲がある。この中には，同時代の遺構SK－305，SK－306，SK－308およびP－1001～P－1186（P－1057を除く）がある。北端部を除く台地平坦部には，弥生時代～奈良・平安時代の竪穴住居跡が分布している。分布は濃密ではなく，SD－036の南側は，遺構の空白地域が広がっている。

西部地区南側斜面には，多くの土坑が分布する。そのうちの一部は，南北に一列に並んで，SD－059に接するため，土坑群とSD－059は何らかの関連をもつのかもしれない。

斜面の土坑の分布状況とは対照的に，台地平坦部には土坑の分布が少ない。なお，西端の北側には，井戸跡のSK－411，SK－412がある。

③　東部地区（第578図）

東部地区の遺構群はおおむね南北に延びる台地上に位置する。調査区中央東寄りに位置するSX－020は建物遺構と思われるが，出土遺物の様相から，中世遺構の可能性がある。

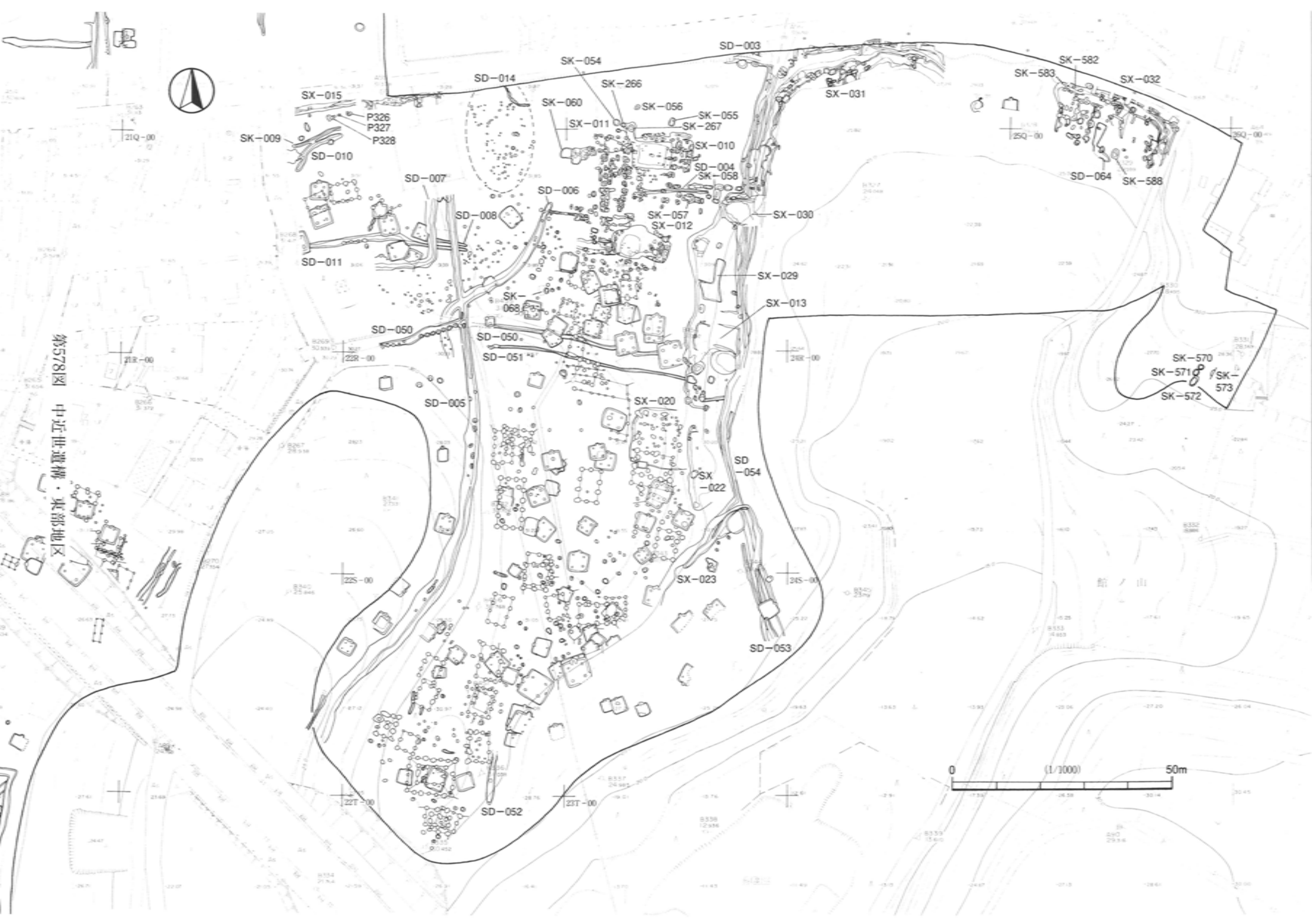
調査区北端の台地平坦部には，近世の建物遺構であるSX－010・SX－011および建物関連遺構が所在する。建物遺構は建て替え等により複雑な様相をみせており，遺構内に竪穴状遺構もみられる。SX－011の南に位置するSX－012は，一部が建物遺構の可能性があるが，一部は粘土貼土坑群等であり，建物遺構とは異なる遺構を含んでいる。建物遺構の周辺には，井戸や道路状遺構がある。また，建物遺構の北は現道路との間に遺構の空白地域がある。なお，現道路の北は調査範囲外であるが，台地平坦部が広がっている。

調査区北端には，小屋ノ内遺跡を東西に貫く道路跡の一部がみられる。西部・中央のSD－021等から続くもので，西からSX－015，間を置いてSD－003，SX－031の北側部分へと続く。調査区内ではやや不明瞭であるが，SX－032の北側にも道路が存在すると考えられる。SX－032の東方は遺跡外であるが，道路は続いて行く。

調査区の台地東西両縁には，南北に走行する道路跡がある。西側は主としてSD－005，東側は主として，SD－054・SD－053である。西側の道路状遺構・溝状遺構は，その北側が谷頭で台地が広くなることもあって，複雑な状態である。SD－006はSX－010等の西から南西に延びて，SD－005と斜めに交わる。SD－008，SD－011は谷頭の北側を東西に走行する遺構である。SD－011は西に延びて，中央部のSD－019に接続するかもしれないが，その間の調査区外面積が広いため，断定しがたい。SD－007は北側でSD－008，SD－011と直交，SD－005と並行するが，南側は直に曲がってSD－011と並行する。

東側道路のSD－054はSD－003・SX－031の東西道路と直交し，北方の現道路に接続すると思われる。また，SD－053は調査区中央南寄りで，南側の谷に降りていく。SD－054とSD－053の間には，SX－023があり，南西方向に若干延びていく。調査区南端近くには，SD－052が所在する。

SD－054の北側から南寄りにかけての西方は，台地整形区画遺構および区画内遺構であるSX－030，SX－013，SX－029，SX－022がある。



第578図　中近世遺構・東部地区

SX－010等の南東側には，東西に走行するSD－004がある。SD－004はSX－010等と重複する部分もあるが，ある時期の建物遺構に関連する道路跡で，SD－054に接続していたと思われる。なお，SD－004の南北には，平行して列状となる土坑群がある。やや深い遺構群である。

SD－050，SD－051は調査区中央部を東西に走行する溝状・道路状遺構である。その両端はほぼ東西両縁の南北道路・台地整形区画遺構に達しており，東部地区の台地を南北に区分している。

谷奥に位置するSX－031は斜面を整形区画した遺構でもあり，比較的平坦な面が広がっている。この状況はその東方のSX－032でも同様である。SX－032には建物遺構や井戸があり，SX－031には便槽と思われる常滑の埋甕がある。また，両者には，大小様々な土坑群等もみられる。SX－031とSD－054の間には階段遺構もみられる。

その他の遺構では，SX－010等の周辺に所在する土坑群のほか，地下式坑SK－060AがSX－010の東方に位置する。また，そこからやや南に離れたところにも，地下式坑SK－068が所在する。

そのほか，土坑・ピットは東部地区に多く存在する。しかし，東部地区が奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡の濃密な分布地域であることから，南部地区と同様に，組むことのできない柱穴など，奈良・平安時代の遺構も多く存在すると思われる。

なお，SX－010等から東方のピット群および溝状遺構がSX－014として調査されている。このうち，ピット群については南方に位置するピット群と区別しがたく，遺構のまとまりとしては疑問である。

第２節　遺構・遺物

１　南部地区

（１）　土坑墓

SK－017（第579・669・671・674図，図版166・324・325）

南部中央の19T区に位置する。形態はやや丸みをもつ長方形である。確認面での形は楕円形状であるが，底面は直線的な部分がある。なお，平面形は隅丸を呈し，とくに底面は長方形状である。長辺の向きはほぼ東西方向である。上端の長さは2.5m，幅は1.95m，底面の長さは２m，幅は1.25m，確認面からの深さは50cmである。底面は平坦で，壁との境は明瞭であるが，短辺西壁側はやや丸みをもって立ち上がる。壁は直立的であるが，両長辺上部がやや緩やかな傾斜となり，広がる。堆積土上層はロームブロックを多量に含み，下層もローム粒・ロームブロックをやや多く含む。埋め戻された土層である。焼土・炭化物はみられない。人骨は検出されなかった。

本遺構の北１mのところに，土坑墓SK－018が所在するが，時期的に近い遺構と思われる。また，本遺構は，古墳時代円墳の周溝と思われるSX－005内に位置する。そのほか，本遺構の周囲には，奈良・平安時代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡が密に分布している。

遺物（第669・671・674図，図版324・325）

第671図１・２は板碑片である（遺構図は石１・石２）。１は石墨片岩製で，下総型の板碑である。厚さは2.9cmである。色調は暗青灰色，淡灰色，灰褐色が入り交じり，銀色の光沢がある。２は点紋緑泥片岩製で，武蔵型の板碑である。厚さは現状で１cmであるが，石材は剥がれており，当初より薄くなっている。色調は灰緑色であるが，片面はやや褐色味を帯びている。１・２とも銘・文様はみられない。第674図１は銭貨で，天聖元寶である（遺構図は銭１）。直径は2.3cm，重量は1.68ｇである。初鋳年は1,023年である。

石１・２は堆積土中層から，銭１は底面から出土した。陶磁器片は破片で，上層出土である。遺存が悪いのは，出土状況によることも考えられる。板碑片および陶磁器片は，本遺構またはSK－018に伴うものといえよう。

第669図および図版325の１は古瀬戸擂鉢の体部から底部片である。摺目は体部内面及び底部内面に施されている。底部外面には糸切り痕が残されている。古瀬戸後期（15世紀代）のものである。２・３は土師質の杯で，15世紀代のものである。２は体部が直線的に開き，口縁部がやや外傾するものである。底部外面には糸切り痕が残されている。３は体部から底部で，非常に厚手の作りのものである。底部外面には糸切り痕が残されている。

SK－018（第579・669・671・672図，図版166・324・325）

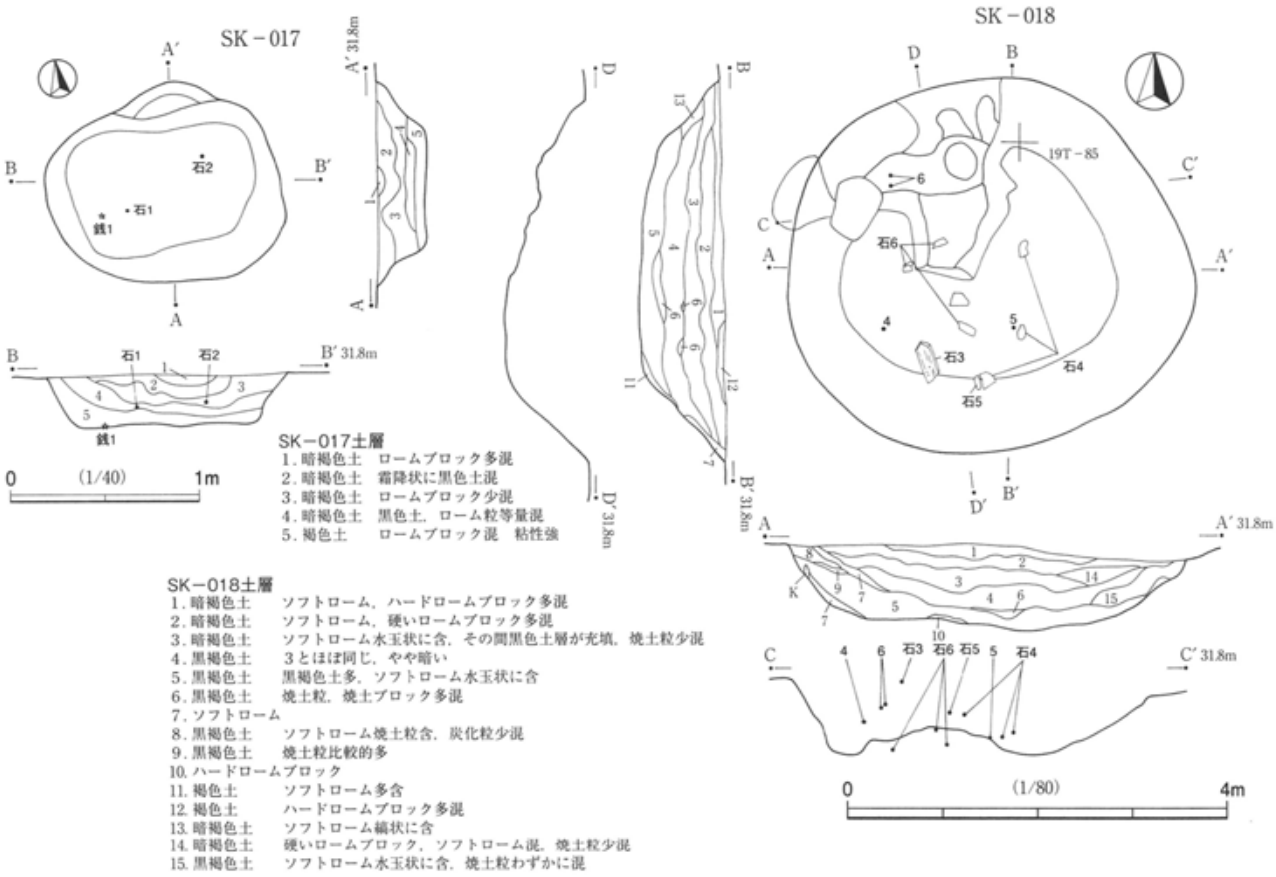
南部中央の19T区に位置する。形態は円形であるが，東西方向がわずかに長い。上端の径は４m～4.3m，確認面からの深さは0.9m，底面の径は2.55m～2.95mである。底面中心のやや東寄りから北側にかけて，階段状の掘り残し部分がある。底面はその部分を除いて中心が低く，壁際は高まっている。底面から壁には滑らかに移行し，壁は斜めに立ち上がる。階段は二段であり，平面形は不整な長方形状の形態である。底面からみて一段目は，底面からの高さが21cm，二段目の高さは，一段目から14cm，底面からは35cmである。二段目の深さは，確認面から50cmである。階段基部の幅は，底面中心側で60cm，壁面側はやや不明瞭であるが1.1m以上であろう。階段上部の幅は，一段目で50cm，二段目はやや不明瞭であるが，70cm程度であろう。階段部の南側の底面には，最大長さ2.95m，最大幅1.05mのスペースがある。

堆積土は概してローム粒・ロームブロックの含有が多いが，とくに上層は多量に含み，一部中層にもローム主体の土層がみられる（７層）。また，全体的にしまりのない土層である。以上の様相から，本遺構の堆積土は埋め戻された土層といえる。さらに，底面中央から20cm～40cm上部で，焼土粒・焼土ブロック主体の土層がみられる（６層）。焼土の分布は，径約50cm，厚さは８cm程度である。６層以外にも焼土粒・炭化粒を含む土層が多い。

本遺構からは人骨の出土がないが，その内容により土坑墓と考えられる。堆積土に焼土が含まれているが，底面・壁には焼けた様相がみられず，火葬施設とするには，根拠が弱い。火葬施設関連の土坑墓かもしれない。しかし，階段部分の南側には，土葬に十分な空間があり，その場合，焼土は葬祭時や追善供養のときに，火が焚かれたことによって生じたものであろう。

遺物（第669・671・672図，図版324・325）

出土遺物には，中世の板碑片，土師質の土器片があり，本遺構に伴うものである。その他に，古墳時代から奈良・平安時代の土器片があるが，周囲からの混入品である。板碑は中央からやや南寄りにかけて出土した。出土層位は下層から上層におよぶが，もっとも大型の破片は上層からの出土である。土器は底面および中層から出土した。第671・672図３～６は板碑で，いずれも破片である（遺構図は石３～石６）。３は緑泥片岩製，５・６は点紋緑泥片岩製で，武蔵型の板碑である。４は石墨片岩製で，下総型の板碑である。３は，この中では大形の破片である。厚さは2.3cm，遺存する長さは中央で39cm，幅は20cmである。図示した左側の面のやや上部に文様がみられる。石材の剥離のために不鮮明であるが，種子の一部と思われる。色調は淡灰緑色で，やや褐色味を帯びる部分がある。４の厚さは2.2cmである。石材の表面は剥落していると思われる。SK－017の石１と同一固体の可能性がある。５の厚さは1.8cm，６の厚さは2.7cmである。色調は灰緑色で，やや褐色味を帯びる部分がある。また，６は淡黄色粒を多く含む。５・６と



第579図　SK－017・018

SK－017の石２は同一固体の可能性がある。現状では，４～６に文様・銘文等はみられない。

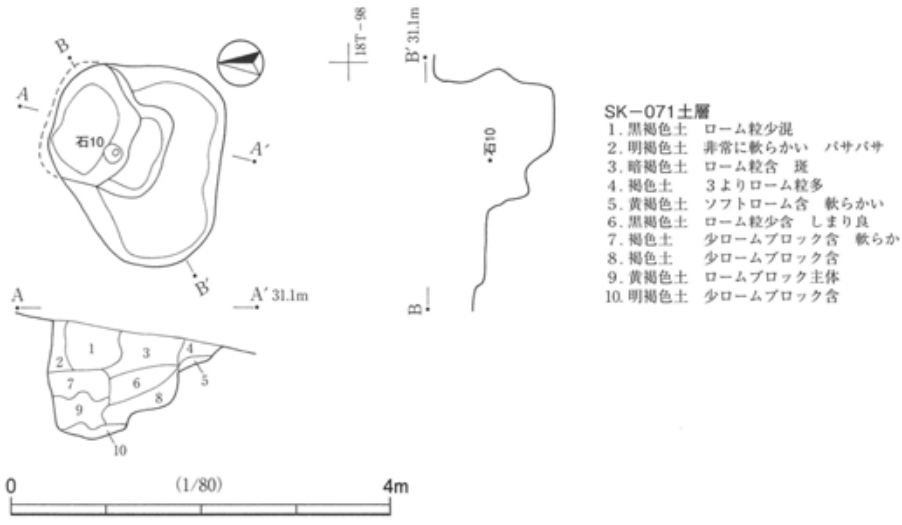
第669図および図版325の４～６は土師質の杯で，15世紀代のものである。いずれも口縁部まで遺存しないが，SK－017の２の杯と同様に直線的に開くものと考えられる。４は５・６に比べて深い器形になると思われる。いずれも底部外面には糸切り痕が残されている。

（２）　地下式坑

SK－071（第580・673図，図版169・324）

南部中央やや西寄りの18T区に位置し，北東から南西に下る緩斜面に立地する。底面の深い方を主室，浅い方を出入口部とするが，出入口部と主室の間に，その間の深さの部分がある。この部分については，かなり深さがあるので主室の一部とみられなくもないが，便宜的に出入口部後室とし，浅い部分を出入口部前室とする。出入口部前室の平面形は丸みをもつ長方形で，かなり幅が広い。出入口部後室も丸みをもつ長方形，主室は不整な楕円形である。

出入口部から主室の奥壁中央に至る線を主軸とすると，主軸方位はN-22°-Eである。なお，出入口部前室の長軸（主軸からみて幅）は主軸に対してやや曲がっている。主軸長は1.9mであるが，出入口部前室の幅は2.15mで，より長い。出入口部前室底面の奥行きは50cm，幅は1.9m，出入口部後室の上端幅は１m，底面の幅は0.8m，奥行きは30cm，主室の上端幅は1.3m，底面の幅は0.9m，奥行きは50cmである。なお，奥壁は主室北側の上端から10cm程度えぐれている。奥壁と出入口部後室の壁は直立的であるが，主室から



第580図　SK－071

出入口部後室に立ち上がる壁は，若干傾斜している。確認面からの深さは，出入口部前室が10cm～20cm，出入口部後室が75cmで，主室は北側上端から1.3mである。出入口部前室と出入口部後室の底面の差は45cm，出入口部後室と主室の差は30cmである。主室の底面はやや凹凸があるが，傾斜はない。出入口部の底面は，前室・後室とも凹凸は少ないが，東から西に若干下っている。

堆積土は下層にロームブロック主体の土層があるが（9層），埋められた土層である。北側の壁を崩して埋めたと思われるが，掘り上げた土を埋め戻した可能性も考えたい。中・下層はローム小ブロックを含む褐色土であり，埋め戻しの土層と思われる。上層は黒褐色土・暗褐色土主体であり，自然堆積の可能性もあるが，掘り上げた土を上から戻せば，上層は黒色土主体となる。

主室の位置であるが，上層から，五輪塔の一部が出土している（第673図10）。下から2番目の塔身（水輪）と思われる。最大径は19cm，遺存する高さは12.6cmである。軒（火輪）と接する部分がやや窪んでいる。石材は安山岩である。そのほかに図示はしなかったが，カワラケの破片が出土している。

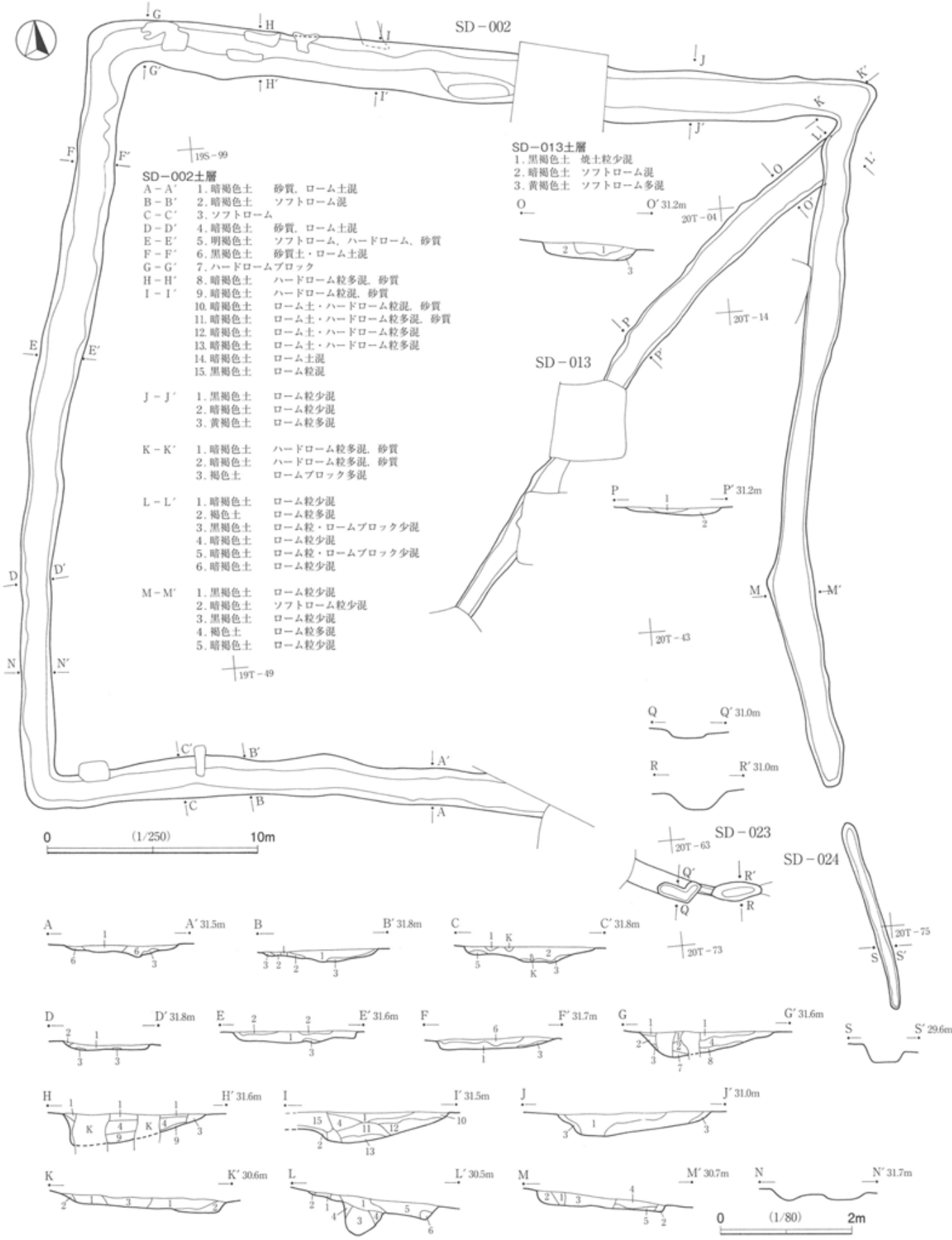
本遺構は，土坑墓の可能性があると考えられる。なお，形態から地下式坑としたが，天井部が存在したかどうかは判然としない。

（3）　溝状遺構・道路状遺構

SD－002・SD－023・SD－024（第581図，図版155・313・325）

南部北東寄りの19S・19T・20S・20T区に位置し，溝状の掘り込みがほぼ正方形にまわる遺構である。規模は，確認面上端外側で36.5m～38m，内側で32m～34mで，大規模な遺構である。北側は遺存がよく，北辺の溝の幅は2.5m，深さは45cmである。遺存は南側にいくにつれて悪くなり，幅は狭く，浅くなる。溝の底面は外側で深いが，内側は浅く，内側の立ち上がりは，底面と壁の境が不明瞭な部分が多い。東西辺の方向は南から北に向かってみると，N-11°-Eである。立地する地形をみると，西辺側は平坦であるが，東辺寄りは東に下る緩やかな斜面となる。

南辺の東寄りには，SI－034が所在する。SD－002は東辺，北辺，西辺からまわって南辺がSI－034にぶつかるところまでで，本遺構の大部分を占める。SI－034の東側にはSD－023がある。この遺構はやや南側に位置するが，南辺の一部と思われる。また，SD－024は東辺の南側の延長方向に位置する。東辺との間には途切れた部分があり，方形の形態からはみ出すが，走行方向から東辺の一部と思われる。以上，SD－002・SD－023・SD－024は本遺構を構成する一体の遺構と思われる。SD－024まで含めた東側の溝



第581図　SD－002・013・023・024

の長さは44mである。東辺側は中央南寄りで外側にやや開く。南辺も中央でやや内側に入り，東端でやや外側に開く。南東隅周辺に本来的に途切れた部分があるかどうかは判断が難しいが，東側が緩斜面になることと，溝が浅いことから，途切れていなかった可能性を高く考えておきたい。なお，方形溝の内側にはSD－013も所在する。断面形態が異なるため，本遺構とは別の遺構としておきたい。北東隅に接する点が気になるが，偶然であろう。堆積土は暗褐色土・黒褐色土主体で，下層は概してローム粒・ロームブロックを多く含む。自然堆積と思われる。

方形溝は奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡および円墳SX－007と重複し，これらの遺構を切っている。その内部にも弥生時代～奈良・平安時代の竪穴住居跡が存在するが，本遺構以前のものであろう。そのほかに土坑・ピットが30基程度あるが，本遺構に関わる状況はうかがえない。以上，方形溝の内側には，本遺構に関わる遺構の存在がみられない。しかし，方形溝が整然とした形態であることから，考古学的証拠を残さないものの，溝内側は外側とは区画された何らかの空間であったと考える。

本遺構の時期・性格について，出土遺物からは判然としないが，近世の溝状遺構と思われるSD－001と関連する遺構であるならば，同様に近世遺構と思われる。

遺物（図版325）

7は土師質のカマド敷輪の小片である。図示したもの以外では，焙烙の小片が1点出土している。

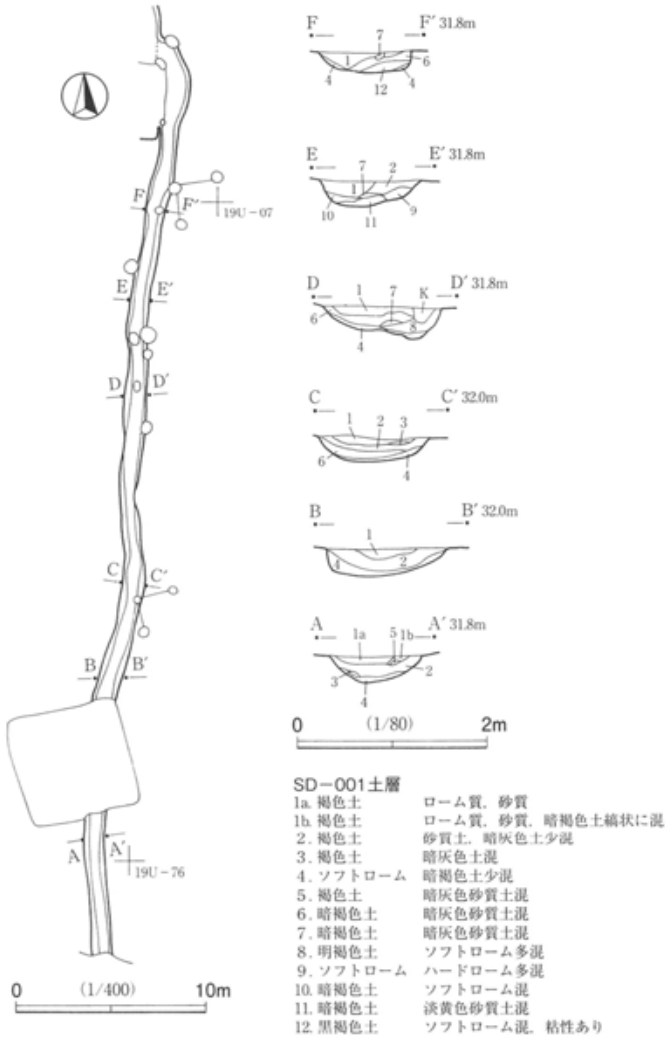
SD－013（第581図，図版155）

南部北東寄りの20T区に位置する溝状遺構である。長さは28m，幅は1m～1.6m，深さは20cmである。底面の幅は0.7m～1.2mで，比較的幅が広く，平坦である。北東から南西方向に走行し，北東側はSD－002の北東隅に接して止まっているが，底面の形態が異なることから，別々の遺構と思われる。SD－002の外側に続く可能性があるが，浅いこと，緩斜面となること，調査区外に近いことにより，判然としない。斜面際を北東に延びてSD－022に接続することが考えられるが，かなり距離があるため，可能性の指摘にとどめる。南西側はSI－033と重複する。SI－033と接してからその先は確認されなかった。また，SI－072・SI－073・SI－074やいくつかの土坑と重複する。竪穴住居跡との新旧関係は不明であるが，おそらくは本遺構が切っていると思われる。堆積土は暗褐色土・黒褐色土主体で，少量の焼土粒を含む。浅いためやや判然としないが，自然堆積と思われる。

SD－001（第582・673図）

南部中央から南寄りの19T・19U区に位置する溝状遺構である。長さは51m，幅は0.8m～1.3m，深さは25cmである。底面中央は比較的平坦であるが，壁への立ち上がりは丸みをもつ部分が多い。南北方向に走行するが，やや東に振れている。SD－002西辺の延長上に位置することから，SD－002と関連するか，一体の遺構の可能性がある。SD－002南西隅との間は15m程度空いている。遺構全体図をみると，SD－002からは途切れているように思われるが，竪穴住居跡や掘立柱建物跡群が存在することから，その間の距離はもっと少なかったかもしれない。断面形態をみると，B－B′・E－E′はSD－002とやや似ているが，ほかは不明瞭である。

本遺構のもっとも南側は，古墳時代前期の竪穴住居跡であるSX－004を切っている。ちょうど，SX－004のところで平成元・2年度調査区と平成3・4年度調査区に分かれているが，本遺構は南側の平成3・4年度調査区では，調査されていない。遺構の状態から南側に続くと思われるが，この部分は南方の谷に向かって緩やかに下っていく地形のため，底面まで浅く，確認が難しい状況であったと思われる。本遺構



第582図　SD－001

周辺は竪穴住居跡や掘立柱建物跡の分布密度が高く，SX－004以外にも多くの遺構と重複しており，本遺構が切っていると思われる。堆積土は褐色土・暗褐色土で，やや砂質である。下層はローム粒を多く含む。主として，下層から若干量の火山灰が出土している。暗灰色の色調で，宝永の火山灰と思われる。このことから，本遺構の時期は近世と考えられる。

遺物（第669・673図，図版325）

第673図９は板碑片である。石墨片岩製で，下総型の板碑である。厚さは1.7cmである。色調は暗青灰色，淡灰色，灰褐色が入り交じり，銀色の光沢がある。本遺構は中世の土坑墓SK－017，SK－018に近いところを走行しており，板碑片はどちらかから混入したものであろう。

第669図および図版325の８は土師質の杯の体部下半から底部片である。底部外面に糸切り痕，内面に渦巻き状の工具痕が残されている。15世紀代のものである。

SD－012，SD－014，SD－016，SD－026（第583図，図版155・156・157・323・325）

SD－012・SD－016は現代まで使われている道路と重なり，接続する道路状遺構である。SD－014はSD－012と接続する溝状遺構であるが，これも道路跡であろう。また，SD－026はSD－016と接続しており，道路状遺構と思われる。以上の遺構はその位置関係からまとめて記述する。SD－012・SD－016は下層・床面上に江戸時代の宝永年間に堆積した富士山の火山灰が堆積している。時期は現代から宝永年間まで溯るが，それ以前はどこまで溯るか不明である。

SD－012は本遺跡の中央を北北東から南に縦断する道路の一部である。溝状の掘込みは19S・19T・19U区に位置し，南部地区中央を南北に縦断している。溝状部分の長さは89m，幅は1.5m～４m，深さは最深部で70cmである。溝状部分の北部には円墳SX－001があり，その西側周溝で重複している。この周溝部分で暗褐色土の硬化面が高まって，溝状の掘込みは消えている。しかし，現代まで使われていたSX－001の北東側の道路と接続し，さらに北方に続いて，本遺跡を貫く東西道路に接続している。なお，SX－001の周溝西側では，SD－012の延長上に10数基の土坑・ピットがあるが，そのうちの一部は一直線上に並んでおり，SD－012と関係するものかもしれない。SX－001南側の台地平坦面の溝状部分は，概して浅く，遺存の良い部分で20cm程度の深さである。底面は比較的幅が広く，凹凸はあるが，大きくみれば平坦であ

る。

SD－012の南側は南西に下る緩斜面となる。南西側からは谷が入っているが，南端で南西側に曲がっている。そこから先の南西側斜面は調査区外であるが，谷に向かって降りていくものであろう。この南端部はもっとも幅が広く，深さもある。底面は低い西側にやや下っているが，斜面を削って比較的平坦な道路面を作り出している。

SD－014は南部南寄りの19U区に位置し，SD－012の中央南寄りの西側で，SD－012に斜めに接続する。土層観察の所見では，SD－014がSD－012を切っている。発掘した長さは９ｍであるが，調査区外の南西側斜面を下り，南西の谷に向かう道の一部である。確認面の幅は1.2ｍ～1.7ｍ，深さは20cm～30cm，底面の幅は１ｍ前後である。

SD－016は南部西側で，18T区主体に位置する。SD－012の中央やや北寄りの西側で，SD－012にやや直角に近い角度で接続する。SD－016も次第に南西方向に向きをとり，南西側斜面を下っていく。この道路は調査区外の斜面で，向きを西に変え，西方の谷に出ていく。調査した長さは81ｍ，上端の幅は0.8ｍ～1.9ｍ，深さは20cm，底面の幅は0.5ｍ～1.5ｍである。底面中央は硬化している。SD－012と接続する部分で，土坑SK－089と重複するが，SD－016が切っている。SK－089の平面形は隅丸方形であるが，底面は上面形よりも整然とした方形である。中央の長さが2.4ｍ，幅が2.1ｍ，深さは0.8ｍである。SK－089はSD－016内にほぼ収まるため，SD－016・SD－012と関係する遺構であろうか。しかし，やや深い遺構であり，SD－016はSK－089堆積土上部に作られている。SK－089の堆積土は黒褐色土主体で，若干のローム粒・ロームブロックを含む。堅くしまっているが，SD－016下に位置したためであろう。

SD－026は南部南西端の17U区に位置する。SD－016の南端近くに接続し，西側に延びる遺構である。台地の平坦部から斜面にかかる肩部に立地し，北側を削って，比較的平坦な面を作り出している。南側は斜面のため，壁がなく，溝状とならない。長さは13ｍで，そこから先は確認されなかった。幅は削られた上端から3.4ｍ，底部の平坦面は2.6ｍ～３ｍである。平坦面と北側上端の高さの差は0.6ｍである。平坦面にはおよそ20基のピット・土坑がある。平坦面の南側には，近・現代の炭焼き窯SK－185がある。SD－026は，SD－016からSK－185に至る道と思われ，多数のピット・土坑は炭焼き作業に関係する痕跡であろう。

SD－012・SD－014・SD－016・SD－026は現代から近世まで溯る道路（跡）である。なお，SD－012の西側には，古代集落の空白部分があるが，東側で掘立柱建物跡と重複していることから，偶然の結果であり，古代まで溯るものとは思えない。

遺物

SD－012（図版325）

９は焙烙の口縁部から体部片で，19世紀代のものである。図示したもの以外の破片は，陶器碗１点，焙烙１点，土師質の焜炉の内部施設１点が出土した。

SD－016（図版325）

10は瓦質の深鉢形土器の口縁部片である。外面に凸帯が２条みられる。器表面は黒色を呈する。

SD－015（第583・674図，図版156・313）

18T・18U区に位置する。南西側斜面上部を斜面に対して比較的平行に走行する溝状遺構である。長さは26ｍ，幅は0.6ｍ～1.6ｍ，深さは遺存のよいところで30cmである。緩斜面に立地するため，底面は北側

SD－012土層

A－A′　1．暗褐色土　ロームブロック多混
　　2．暗褐色土　ローム粒・木炭粒・焼土粒少混
　　3．暗褐色土　ローム粒少混
　　4．暗褐色土　ローム粒少混
　　5．暗褐色土　ローム粒少混，しまりなし
　　6．褐色土　ソフトローム混
　　7．暗褐色土　ローム粒少混

B－B′　1．暗褐色土　しまりあり
　　2．黄褐色土　ローム粒多混，しまりなし
　　3．暗褐色土　ソフトローム少混
　　4．暗褐色土　3層よりやや明るい

C－C′　1．暗褐色土　しまりあり
E－E′　2．褐色土　ローム粒子少混
F－F′　3．暗褐色土　ロームブロック混，硬質

D－D′　1．暗褐色土　しまりあり
　　2．黄褐色土　ローム粒多混，しまりなし
　　3．黒褐色土　ソフトローム混

G－G′　1．暗褐色土　ソフトローム混
H－H′　2．黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
　　3．暗褐色土　ローム粒少混
　　4．灰色土　宝永富士火山灰層
　　5．暗褐色土　ローム粒少混
　　6．黄褐色土　ソフトローム層

SD－016土層

I－I′　1．暗褐色土　ソフトローム少混
J－J′　2．暗褐色土　ローム粒少混
　　3．黄褐色土　ソフトローム多混
　　4．暗褐色土　ロームブロック混

K－K′　1．暗褐色土　ローム粒少混
　　2．黒褐色土　ローム粒少混
　　3．暗褐色土　ロームブロック少混

SX－016土層

1．赤褐色　焼土
2．黒褐色土　ソフトロームまだらに含
3．暗褐色土　ローム粒を多量に含
4．黄褐色土　ローム粒を多量に含
5．黒褐色土　2より黒味をおびている
6．暗褐色土　しまり弱
7．黒褐色土　しまり弱
8．暗褐色土　ロームブロック若干含

SD－015土層

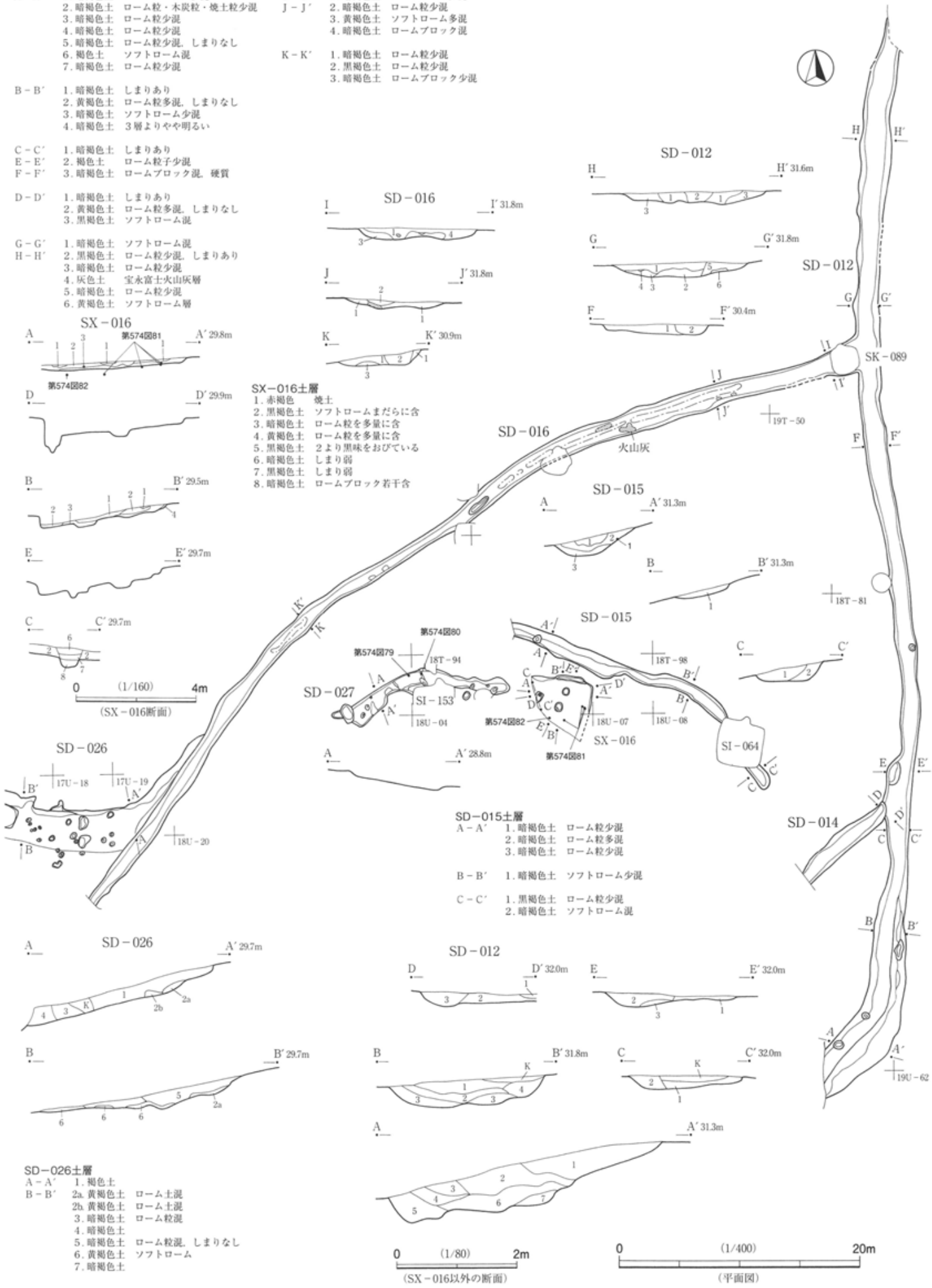
A－A′　1．暗褐色土　ローム粒少混
　　2．暗褐色土　ローム粒多混
　　3．暗褐色土　ローム粒少混

B－B′　1．暗褐色土　ソフトローム少混

C－C′　1．黒褐色土　ローム粒少混
　　2．暗褐色土　ソフトローム混

SD－026土層

A－A′　1．褐色土
B－B′　2a．黄褐色土　ローム土混
　　2b．黄褐色土　ローム土混
　　3．暗褐色土　ローム粒混
　　4．暗褐色土
　　5．暗褐色土　ローム粒混，しまりなし
　　6．黄褐色土　ソフトローム
　　7．暗褐色土



第583図　SD－012・014・015・016・026・027・SX－016

が高く，南側が低い。幅は0.4m～0.9mである。北北西から東南東方向に走行するが，東側は斜面に添って南東方向に曲がっている。硬化面はみられない。東側でSI－064と重複し，本遺構が切っている。西側はSI－127・SI－128の近くで消えている。堆積土は暗褐色土・黒褐色土主体で，自然堆積と思われる。

第674図16は銅製品である。製品の用途については判然としない。非常に薄い作りで，左側に図示した凸面側が表面，右側に図示したやや窪んだ側が裏面と思われる。表面の長軸中央に，２条の平行線が刻まれている。長い方を横向きにして図示したが，片側が欠損している。幅は1.3cm～1.6cm，現状の長さは2.7cm，重さは1.7ｇである。

SD－027・SX－016（第583図，図版162・325）

SD－027・SX－016は18T・18U区に位置し，南に下る斜面に立地する。SD－027とSX－016は，前者が平成５年度調査区，後者が平成３・４年度調査区に位置する。本遺構は，調査年度が異なるが，関連する遺構と思われる。SD－015同様，斜面に対して比較的平行に走行する溝状遺構である。調査年度が異なったため，調査した部分に若干の齟齬が生じたが，一連の遺構と思われる。走行方向は，東側がおむね東西方向であるが，西側は南西方向に曲がっている。

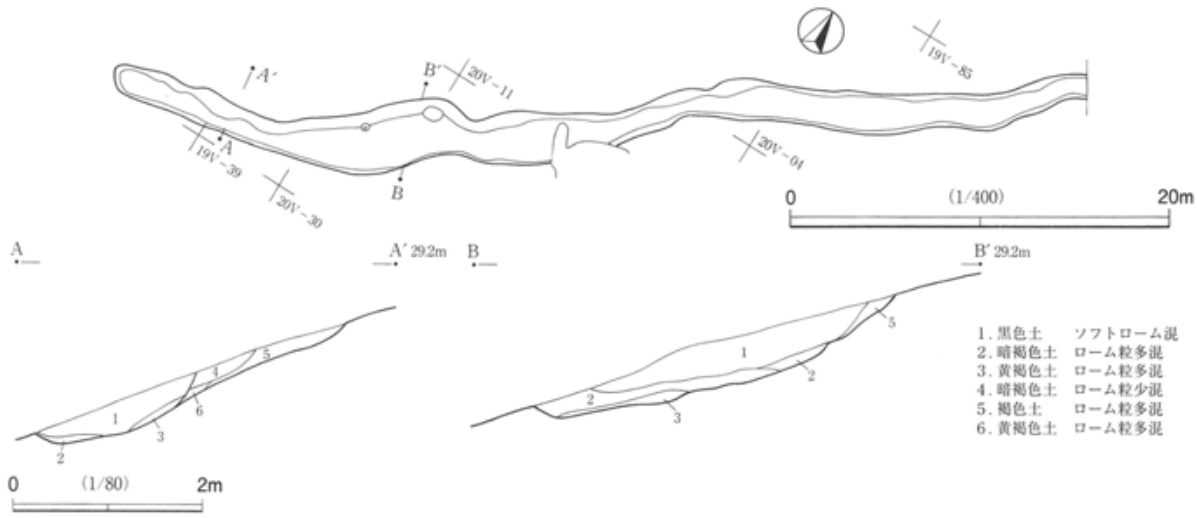
SD－027部分の長さは15.5mであるが，SX－016を合わせると，22.5mである。上端の幅は遺存のよい部分で1.8m，底面の幅は1.6mである。確認面から底面までの掘込みは浅く，底面も北から南に下っている。北側上端から底面中央までの深さは，25cm前後である。底面よりも南側の確認面上端の方が低く，明瞭な溝状にならない部分がある。底面はやや凹凸があり，いくつかの土坑・ピットと重複している。また，SD－027部分の中央部南側で，SI－153と重複するが，本遺構が切っている。堆積土はローム粒を多く含む暗褐色土・黒褐色土で，上層には焼土層もみられる。

遺物（図版325）

11は益子産陶器行平の口縁部から体部片である。体部外面に回転施文具による文様が施される。体部外面は錆釉，内面は柿釉が施される。口縁部は露胎である。

SD－017・SD－018（第584図，図版156）

南部南端斜面で，中央から東寄りの19V・20U・20V区に位置する。斜面の傾斜にほぼ平行して，東北東から西南西に走行する溝状遺構である。調査期間に間があったことにより，異なる遺構番号を付してし



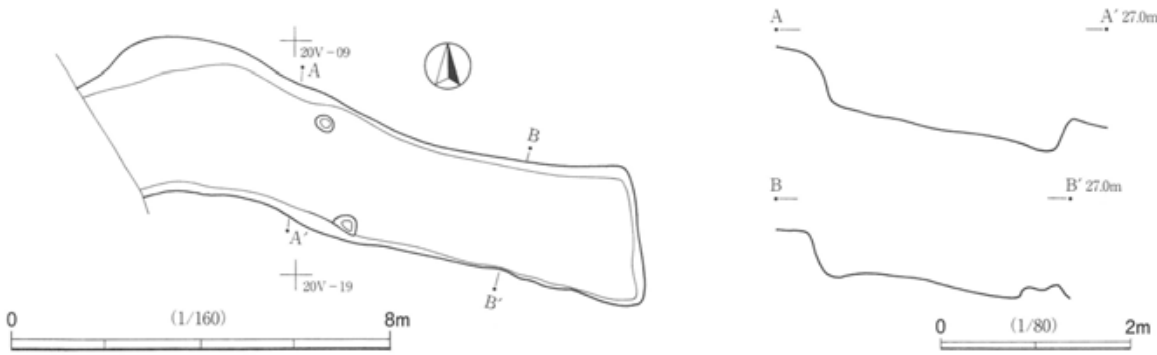
第584図　SD－017・018

まったが，同一の遺構である。およそ東半分がSD－017，西半分がSD－018の範囲である。長さは53m，幅は1.3m～3.5m，深さは遺存のよいところで0.5mである。北側壁上端と南側壁上端の高さの差は，最大で1.25mである。底面も北から南に下っているが，幅は0.6m～2.5mである。西端と東端の高さの差は2.3mである。斜面に位置するが，西端の地形はかなり傾斜が緩くなっている。中央部でSI－082，西寄りのところでSI－109と重複し，本遺構が切っている。その他に，いくつかの土坑・ピットと重複するが，新旧関係は不明である。堆積土は黒色土を主体とし，自然堆積と思われる。

出土遺物は奈良・平安時代のものが多く，古墳時代の土器や勾玉も若干みられる。しかし，本遺構の時期については，平安時代の竪穴住居跡を切っていることから，平安時代よりも新しい時期のものである。古代の遺物は周囲に多く所在する竪穴住居跡や掘立柱建物跡から流入したものと考えられる。また，獣骨が１点出土している。若齢のイノシシまたはブタと思われる大腿骨である。

SD－025（第585図，図版157）

南部南東端斜面の20V・21V区に位置する。緩斜面にほぼ平行して東西に走行する溝状遺構である。長さは11.5m，幅は2.4m～3.3m，深さは遺存のよいところで45cm，底面の幅は２m～2.6mである。底面は北から南に下っているが，地形の傾斜と比べれば緩やかで，比較的平坦な部分もある。斜面に位置するため，底面の多くは粘土層が露出している。ピットが２か所あるが，本遺構に伴うものとは思えない。西端でSK－167と重複するが，新旧関係は不明である。本遺構はSK－167に接して止まっており，そこから西方にはみられない。また，西寄り北側でSI－133と重複し，本遺構が切っている。



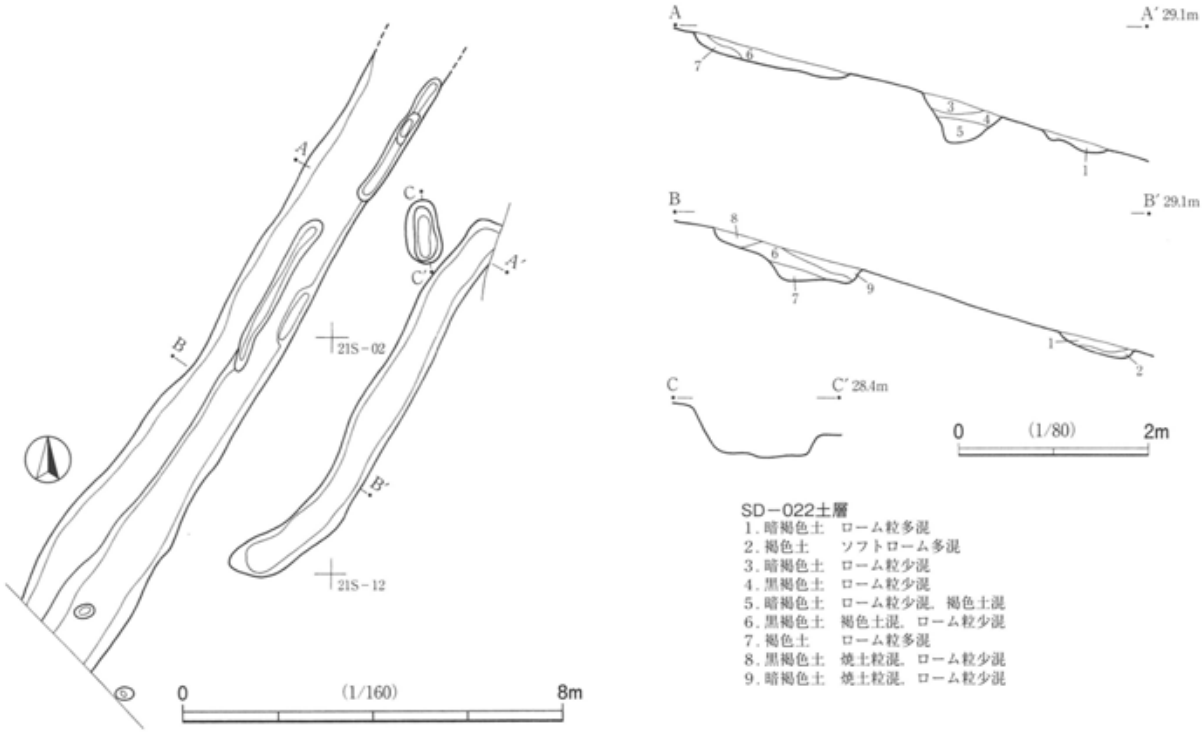
第585図　SD－025

2　中央部・西部地区

（1）　溝状遺構・道路状遺構，土坑列，台地整形遺構および関連遺構

SD－022（第586図，図版157）

中央部南東寄りの21R・21S区に位置し，東から西に下る緩斜面に立地する。北北東から南南西に方向をとる２条の溝状遺構が，約２mの距離を置いて平行に走行する遺構であるが，両側に側溝をもつ道路跡と思われる。調査した長さは15mであるが，南北両側の調査区外に続いていく遺構である。幅は左右の溝の外側の端から端までで4.5mである。左右の溝間は一部で，中央が若干高まっている。やや判然としないが，若干硬化しているように思われる。北を上にみて，左側の溝の上端幅は1.5m～2.3m，底面の幅は1.2mである。底面の状況は一様でなく，一部が溝状に深くなっている。中央部と内壁側に溝状部分があるところがもっとも遺存がよいが，その部分で深さをみると，中央の溝状部分の西側が30cm，溝の深さは西側



第586図　SD－022

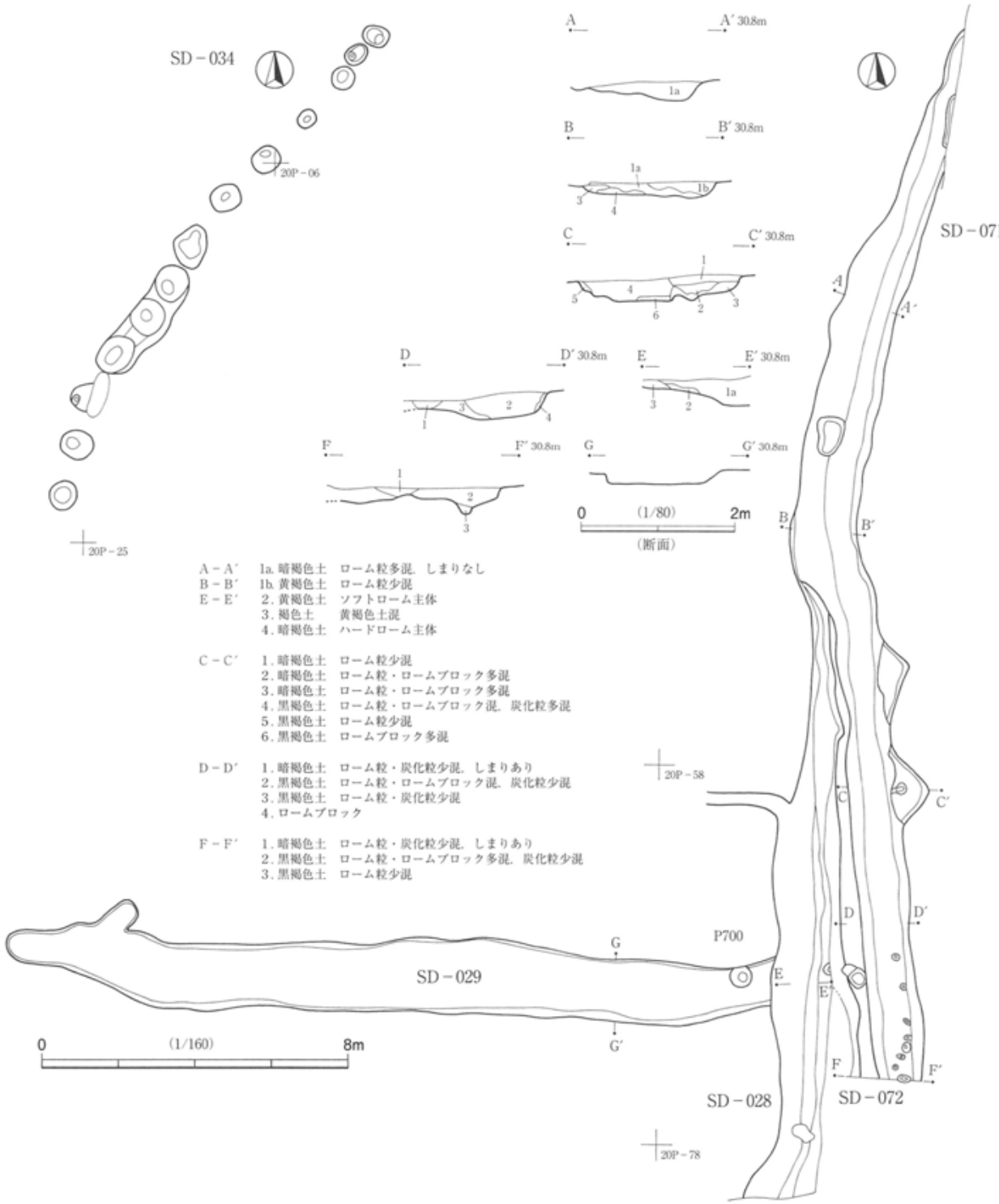
底面から30cmである。そこから南側は整然とした状態ではなく，内側（東側）の壁の立ち上がりが不明瞭で，道路面と思われる部分との差がなくなってくる。また，西側の底面は南端では壁状になってくる。右側の溝は長さが9.2m，上端幅が1m，底面の幅が0.7m，深さは15cmである。南側では掘込みがみられなくなり，左側の溝の変化に対応している。左右の溝間から，ピットが1か所見つかったが，両溝間が道路面とすると，本遺構に伴うものとは思われない。

SD－028・SD－071・SD－072，SD－029（第587図，図版157・325）

SD－028・SD－071・SD－072は中央部北寄りの20P区に位置する道路状遺構である。調査が複数年度にまたがったことや，複雑な形状から，異なった遺構番号が付いているが，同一遺構である。また，平成14年度調査のSD－070とも接続しており，SD－070の南側から直線的な形態をなす遺構である。ほぼ南北に走行する道路跡で，SD－070の南側部分を含めた長さは36m，深さは遺存のよいところで35cmである。幅は南側部分で3.8m，中央部分で1.6mである。南側部分がもっとも幅が広いが，この部分は道路を作り直していると思われ，中央部分の幅が本来の幅であろう。底面の幅は，中央部で0.7mである。壁は東側には急角度で立ち上がるが，西側は揺るやかに立ち上がる。底面は凹凸が著しい。堆積土は一部に硬質な土層がみられる。

SD－029は，SD－028・SD－071・SD－072の南寄り部分の西側に位置し，SD－028にほぼ直角に接続する。東西方向に直線的に走行する溝状遺構で，長さは20m，上端の幅は1.6m，底面の幅は1.4mである。確認面から底面までは浅く，15cmである。底面はほぼ平坦である。硬化面はみられないが，位置関係からSD－028等につながる道路跡と思われる。

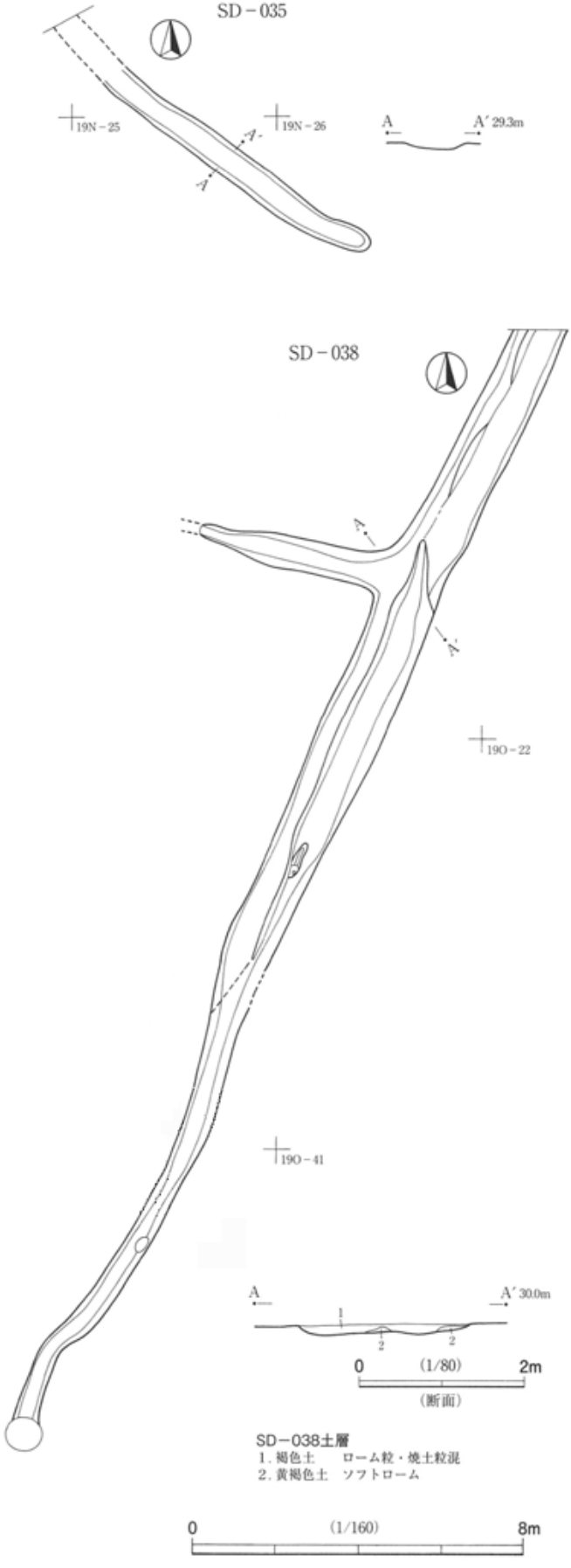
SD－028・SD－071・SD－072の道路跡は北側で東西方向の道路とのT字路をなす。東西道路の西側はSD－070の西側部分であり，東側部分はSD－068である。SD－068の東方・南方はさらに何条かの溝状遺



第587図　SD－028・029・034・071・072

構がある。

SD－028・SD－071・SD－072は奈良・平安時代の竪穴住居跡と重複していないが，竪穴住居跡群は非常に近い位置にある。SD－070・SD－068が掘立柱建物跡と重複することから，SD－028・SD－071・SD－072も奈良・平安時代よりも下る時期のものであろう。



第588図　SD－035・038

遺物　SD－028（図版325）

12・13は瀬戸・美濃産陶器である。12は輪禿皿の口縁部から体部破片である。内外面とも灰釉が施される。18世紀後半のものである。13は桟付きの灯明皿の受皿である。全面に錆釉が施されるが，体部外面下方から底部外面は拭い取られている。体部外面には直接重ね焼きした釉着痕がみられる。19世紀中葉のものである。図示したもの以外の破片は，陶器皿１点・徳利１点・香炉２点が出土している。

SD－034（第587図）

中央部北寄りの20P区に位置する土坑列である。小屋ノ内遺跡の中央部は北から谷が入っているが，本遺構はその谷に下る緩斜面に立地する。地形は東やや南側から西やや北側に下り，本遺構は地形の傾斜に平行する。土坑の両端間の長さは15mである。列はおよそ北北東から南南西に走行するが，南側ではやや南向きとなる。土坑の数は13基で，一部が連接している。各土坑の規模は，小さいもので0.5m×0.3m，大きいもので1.2m×0.9mである。深さは浅いもので16cm，深いもので63cm，平均値は33cmである。６基と，ほぼ半数の土坑の底面が硬化している。

SD－035（第588図）

西部北東端の19N区に位置する溝状遺構である。立地する地形は比較的平坦であるが，わずかに南から北西方向，北東方向に下る緩斜面となる。北西から南東に走行し，北西側斜面に直交する方向に向いている。長さは7.5m，幅は0.8mである。確認面から底面までは８cm程度で，非常に浅い。底面の幅は0.5mで，比較的平坦である。

SD－038（第588図）

西部北東寄りの18O・19O区に位置する溝状遺構である。南北方向に走行するものと，その北寄りで西方に分岐するものを合わせてSD－

038とした。南北方向のものは，北北東から南南西に走行し，形状から２条が重複していると思われる。西側が東側を切っており，一部の作り替えが考えられる。長さは30m，幅は２条が重複している北側が1.5mである。南側は遺存が悪く，0.7mである。確認面から底面までは浅く，10cmである。底面の幅は北側では，現状で１m程度であるが，作り替えを考慮すると，0.6m程度と思われる。西側に分岐するものは，長さが4.8m，深さが10cm，幅は上端で0.8m，底面で0.4mである。南北方向の溝に直角に近い角度で接続するが，遺存が悪い。

SD－037（第589図）

西部北寄りの17O・18O区に位置する溝状遺構である。東やや北から西やや南に走行するが，東側はやや向きを変えて，ほぼ東方向となる。立地する地形は東側は比較的平坦であるが，西側は南側から北側に下る緩斜面となる。調査した長さは57mであるが，北西側は調査範囲外となり，その先に続いていく。確認面での幅は1.3m～1.5m，底面の幅は0.5m～１m，深さは18cmである。底面は平坦である。東端部はSD－038に７mの距離まで接近するが，そこで途切れている。

SD－036，SD－031，SD－032（第589・590図，図版158）

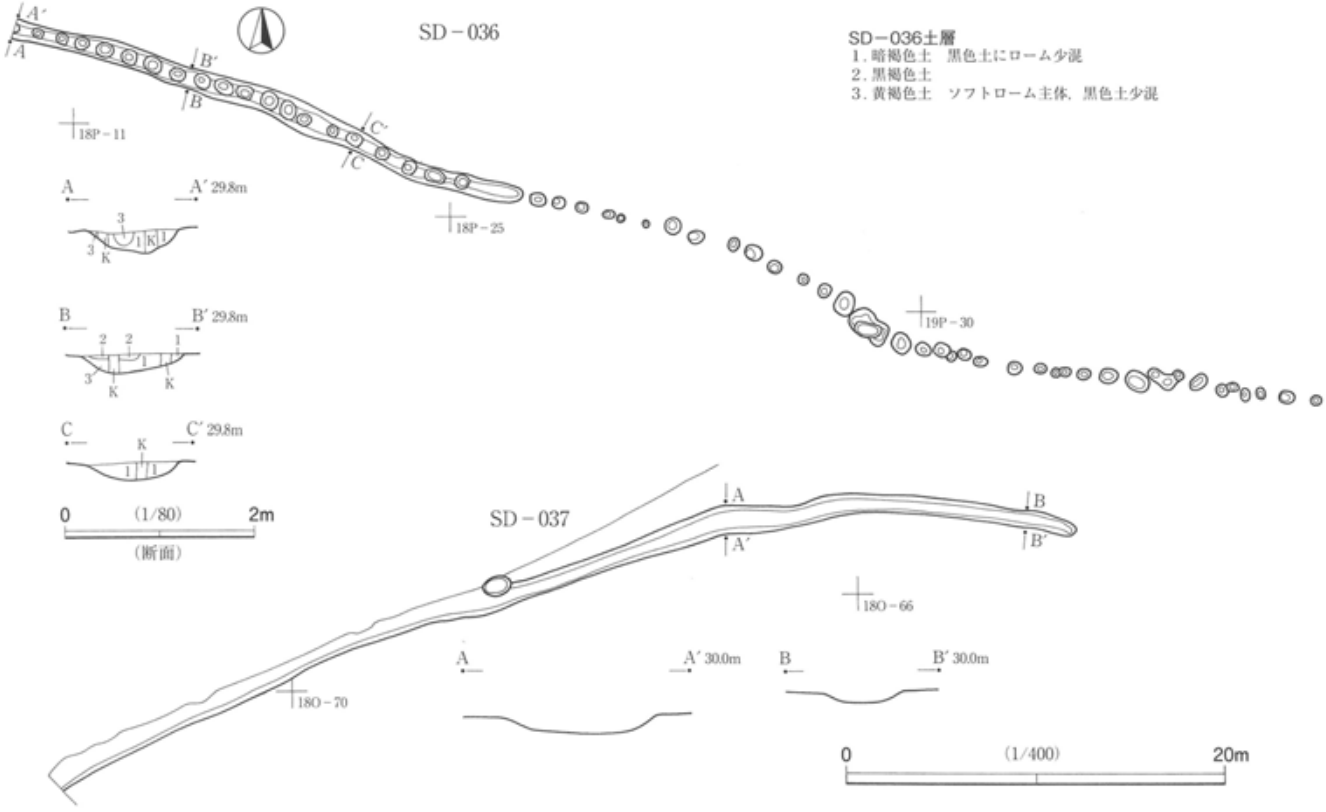
SD－036は西部中央・東寄りから中央部にかけての18P・19P区に位置する。西やや北から東やや南に走行する溝状遺構である。底面には浅いピットが並んでいる。中央から東側は溝状とならないが，浅いために溝状部分が確認面まで達していないためであり，本来は西側同様，溝状になっていたとみられる。調査した長さは73mで，西方に続いていくが，現道路をはさんだ西部西寄りの調査区では見つかっていない。上端の幅は1.5m，底面の幅は0.8m，ピット間底面までの深さは20cm，ピット底部までの深さは40cmである。遺存のよい部分でピットの大きさをみると，１m×0.9mである。ピット間の底面からは概して浅く，もっとも深いもので20cmである。遺存の良い部分でのピット間の距離は20cm～40cm程度であるが，連接していたり，かなり離れている場合もある。上層に宝永の火山灰がみられることから，近世の遺構と思われる。

SD－031は中央部西端のの19P区に位置し，南北方向に走行する溝状遺構である。遺構の様相からSD－036と同様の遺構であり，SD－036と接続する可能性が高い。また，SD－031の南端部はSD－032と接続しているが，SD－032も同様の遺構と思われる。SD－031の北側は南から北に下る緩斜面に立地するため，上部の溝部分や一部のピットが失われているが，いくつかのピットが遺存している。ピットの北端から南端部分までの長さは29mである。幅や深さはSD－036と同様であるが，一部に50cmを超える深さのピットがある。堆積土中に宝永の火山灰が含まれることも同様である。SD－036の東端とSD－031の間は約８mの空白があるが，緩斜面で遺存が悪いためであり，本来はSD－031にほぼ直角に接続すると思われる。遺物は，図示はしなかったが肥前産磁器染付碗の破片が１点出土している。

SD－032はSD－031から西に直角に曲がる遺構である。小屋ノ内遺跡を東西に貫く現道路際の遺構のため，調査できたのは一部分である。長さは９mで，深さは0.5m～0.6m，幅は不明である。堆積土中の宝永火山灰の有無も不明である。SD－031南側は浅いが，SD－032はかなり深さがあり，この点では相違がある。西方に続くが，西部西側の調査区では，接続すると思われる遺構が見つかっていない。

SD－030，SD－033（第590図，図版158）

SD－030・SD－033は中央部西端の19P区に位置する溝状遺構である。SD－030はほぼ「L」字形の平面形である。北からみると，南北方向に走行する遺構が南端で東に向きを変え，東西方向に走行するが，途



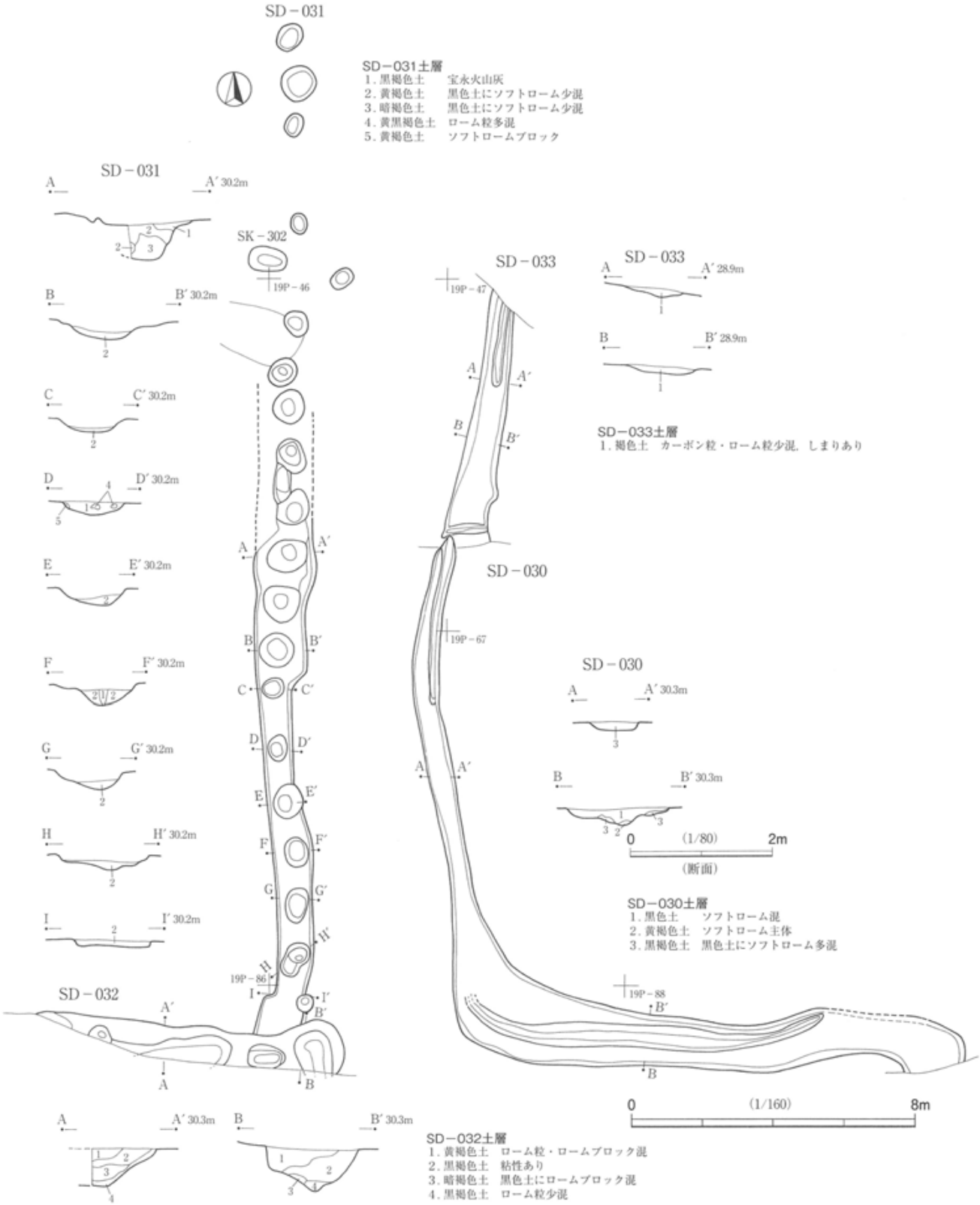
第589図　SD－036・037

中で南に向かう様相をみせている。そのところで調査区外となり，南側に続くが，現道路を越えた南側の調査区では，続く遺構が見つかっていない。SD－033はSD－030の北に位置する。SD－030とは底面の様相が異なるため，別遺構として調査されたが，SD－030からほぼ直線的に続く遺構であり，何らかの関連があると思われる。

SD－030の長さは，南北部分が14mであるが，SD－033を合わせると21mである。東西部分は14mで，延べの距離は27mである。上端の幅は，南北部分が0.7m，東西部分が1.4mである。底面は東西部分の中央が一段深く，確認面から25cmの深さである。また，北側にも細く溝状に深い部分があり，20cm弱のところがある。底面の幅は東西部分の中央で1.2mである。底面は細かい凹凸が著しく，小さなピットが無数に続くようである。堆積土は黒色土主体で，自然堆積と思われる。宝永の火山灰はみられない。

SD－033は北に下る斜面に立地する。調査された長さは6.5mで，上端の幅は0.7m～1.1m，底面の幅は0.5m～0.95mである。底面は西側から東側に傾斜しており，深さは10cm～15cmである。また，北側中央部で，細く溝状に深くなる部分があるが，周囲の底面からの深さは5cm～6cmである。細かい凹凸はみられない。SD－030との間には小さな段差があるが，地境の小道によるものである。SD－033は確認面からは浅いが，SD－033際のSD－030は深く，幅にも違いがある。しかし，底面中央が一段深くなる点は共通している。細部に相違があるので，同様の性格の遺構であるが，時期差があるものと思われる。遺物は図示しなかったが，陶器皿の破片が1点出土している。

SD－030の南北方向部分およびSD－033はSD－031と平行し，両者の距離は3.5m～4mである。ほぼ平行することから，両者には関連があると思われる。しかし，SD－030に宝永の火山灰がみられないこと



第590図　SD－030・031・032・033

と，遺構の様相が異なることから，時期差があるのかもしれない。これらの遺構は道路跡の可能性があると推測できるが，底面や堆積土の硬化はみられない。

SD－020（第591図）

中央部西寄りの19Q区に位置する溝状遺構で，おおむね東西方向に走行している。調査した長さは40mで，西方の現道路部分に続く遺構である。しかし，西部西側では，継続する遺構が検出されていない。東側は遺存が悪く，調査区内で消滅する。上端の幅は1.4m，底面の幅は1.1mである。確認面から底面までの深さは非常に浅く，7cmである。南側にSD－021がほぼ平行した状態で位置し，その間の距離はおよそ4m前後である。

SD－021・SD－040・SD－079・SX－015（第591図，図版157・158・163・313・325）

本遺構は，遺跡の西部・中央部・東部をほぼ東西に貫く道路跡である。調査地点・調査年度が異なるため，異なった遺構番号が付されているが，同一の遺構である。SX－015は東部に位置するが，ここでまとめて記述する。ただし，図面は別に掲載した。同様に西部西端のSD－079も別の頁に掲載した。なお，東部地区東端のSD－003およびSX－031の北側部分もSX－015から続く道路跡である。SX－031の東方にあるSX－032では，道路跡が見つかっていないが，その北方に続くと思われる。SX－031は道路跡に加えて斜面を整形した遺構も含むことから，東部東端の遺構群については，図面，文章とも別に記述する。

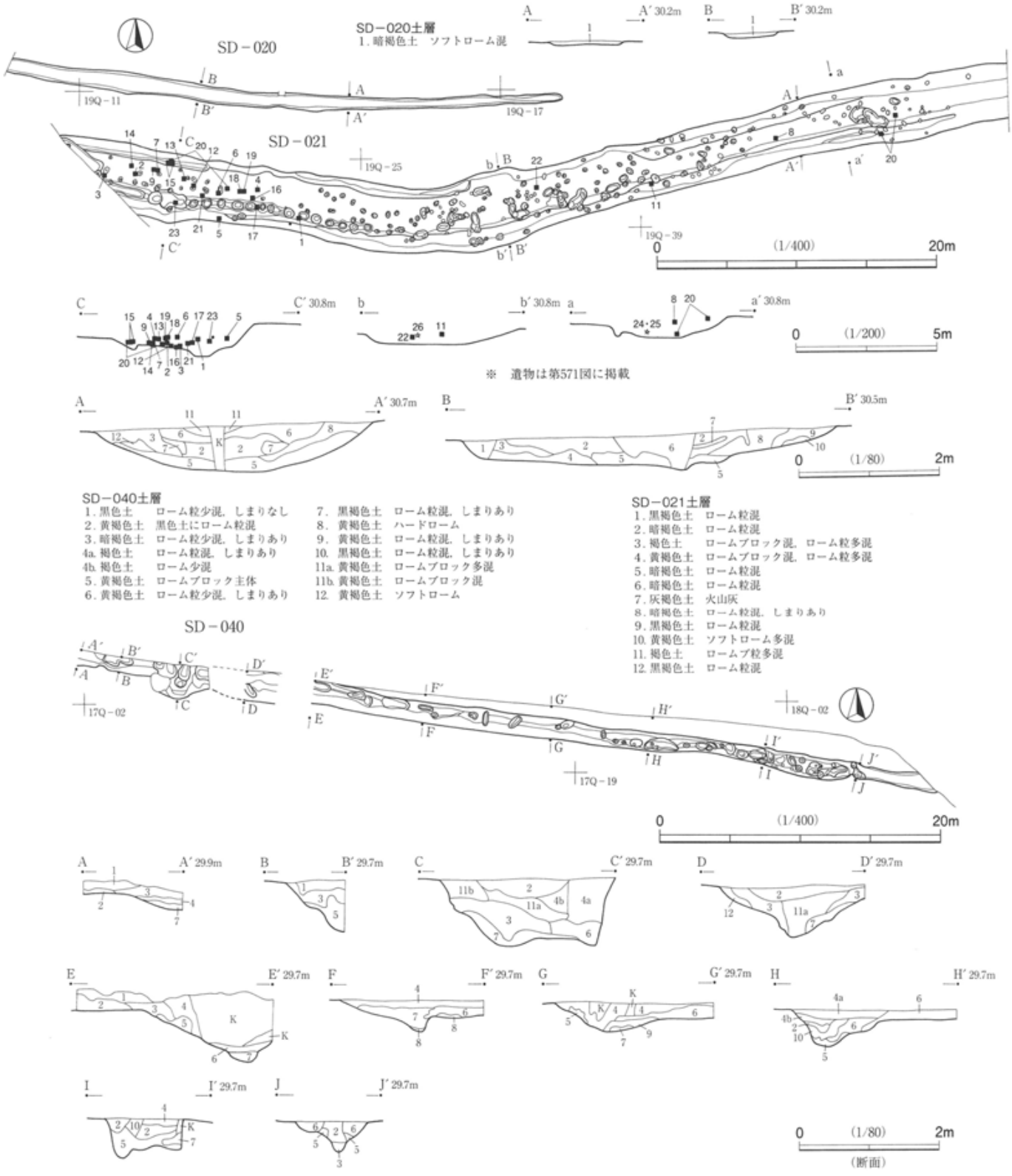
SD－079からSX－015までの長さはほぼ300mである。さらに，SD－003およびSX－031，SX－032の北側部分まで続くとすると，およそ470mである。SD－079の西側は調査区の制約のため，やや判然としないが，南北方向に走行するSD－055に接続すると思われる。その部分の遺構はSD－080・SD－081である。幅や深さについては，調査区の制約のないSD－021部分でみると，上端の幅はおよそ4m～4.5m，深さは40cm～70cm，底面の幅は2.5m～3.3mである。なお，SD－040はやや深く，1mに達するところがある。底面は全体に硬化している。また，多数のピットがあり，SD－021の底面南縁は列をなして並んでいる。SD－040・SD－079はSD－021の南側部分を発掘したもので，SD－021の北側部分に相当する部分は調査区外となる。SX－015内のピットは整然とした状態でないが，同様の状況である。堆積土は硬化している部分が多い。上・中層には宝永の火山灰層と思われる土層があり，本遺構が少なくとも近世から使用されていたことが理解できる。堆積土中にはローム粒・ロームブロックを多く含む土層があり，かなり粒径の大きなロームブロックもみられる。道路の補修・修繕に伴って，掘削や埋め戻しが行われたのであろう。

遺物　SD－021（第674図，図版325）

第674図9・10は銭貨で，銅銭である。9は元豊通寶で，初鋳年は1078年である。10も元豊通寶と思われるが，磨滅のためやや判然としない。直径は，9が2.4cm，10が2.6cmである。重量は，9が2.55g，10が2.96gである。

図版325の14は瀬戸・美濃産陶器の香炉もしくは火入の体部下端から高台部の破片である。体部は丸みをもって立ち上がる。遺存部分は全面露胎であるが，部分的に灰釉の付着がみられる。底部外面には墨書が施されており，「クリ原」と判読できる。外面全体には煤の付着が認められる。18世紀代のものであろう。15は焙烙である。平底で口縁端部が角張ったものである。内耳が貼り付けられた部分の外面は張り出している。胎土中に長石・雲母を多量に含む。17世紀後半から18世紀前半のものである。16・17は同一個体の瓦質の浅鉢形土器である。体部外面には3条の沈線が巡り，上2条の沈線で区画された間に飛鉋による文様が施される。底部は平底で，三足と思われる足が付される。体部内面には火熱を受けた痕跡はみられない。

そのほか，SD－021からは，5点の骨片が出土している。そのうちの2点はウマの大腿骨と思われるが，

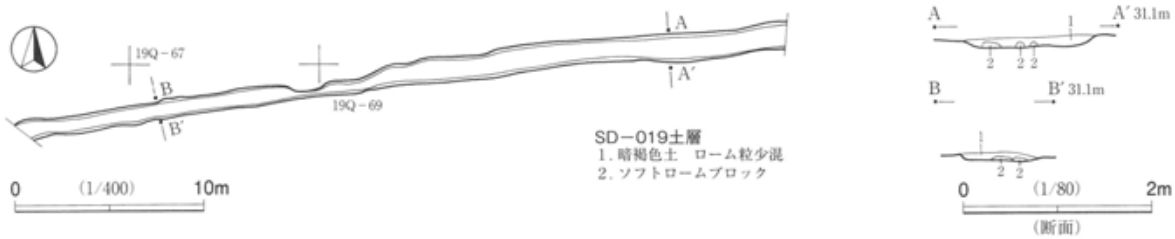


第591図　SD－020・021・040

ほかの３点は遺存が悪く不明である。

SD－019（第592図，図版156・325）

中央部西寄り・中央の19Q・20Q区に位置する溝状遺構で，おおむね東西方向に走行している。調査し



第592図　SD－019

た長さは41mである。東西両方向に続くが，西方は現道路部分，東側は調査区外である。上端の幅は遺存の良いところで1.6m，底面の幅は1.2mである。確認面から底面までの深さは非常に浅く，10cmである。底面は平坦で，硬化していない。本遺構の東方は，東部地区で見つかったSD－011に続くかもしれないが，その間がかなり空白となるため断定しがたい。西方もSD－041等西部地区南西側で検出された遺構に継続する可能性もある。本遺構の東側部分の南方にはSX－019があり，SX－019の北側部分は本遺構と平行している。その間の距離は４m前後である。

SX－019（第593図，図版16）

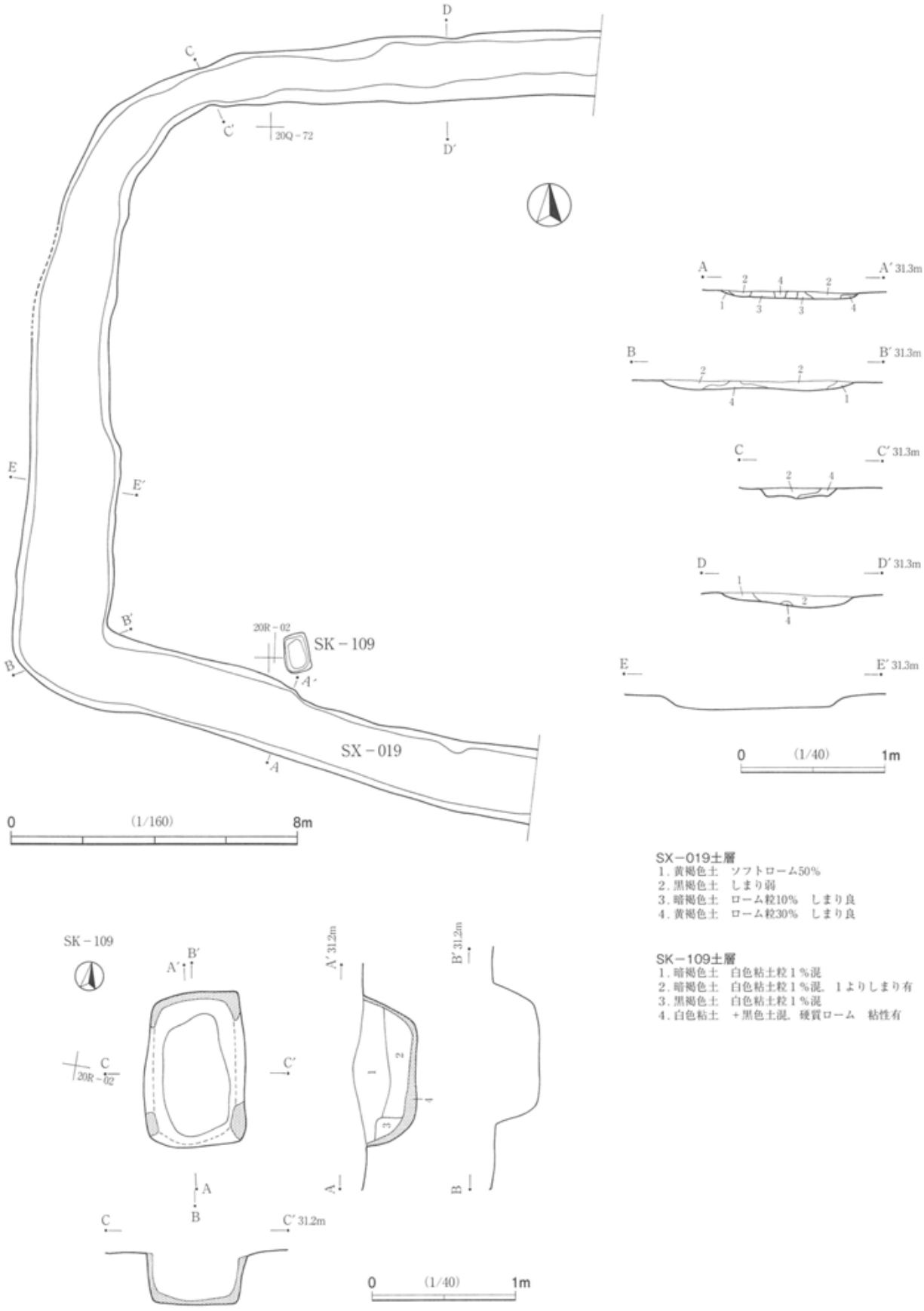
遺跡中央部の20Q区に位置する溝状の遺構であるが，東側が調査区域外のため全貌は明らかにできなかった。このため本跡の性格については不明な点が多い。方墳として捉えるには周溝の状態からしてやや無理がある。若干開き気味の逆「コ」の字状に展開しているため，区画を目的とする溝とも考えられる。溝幅は最大で約2.8m・最小で約1.1m，深さは確認面から約0.2m～0.3mで浅い。

区画内表土層中及び溝覆土内から100点以上の奈良・平安時代土器片が出土したが，この時代に限り図示できるような形状を保持しているものはない。

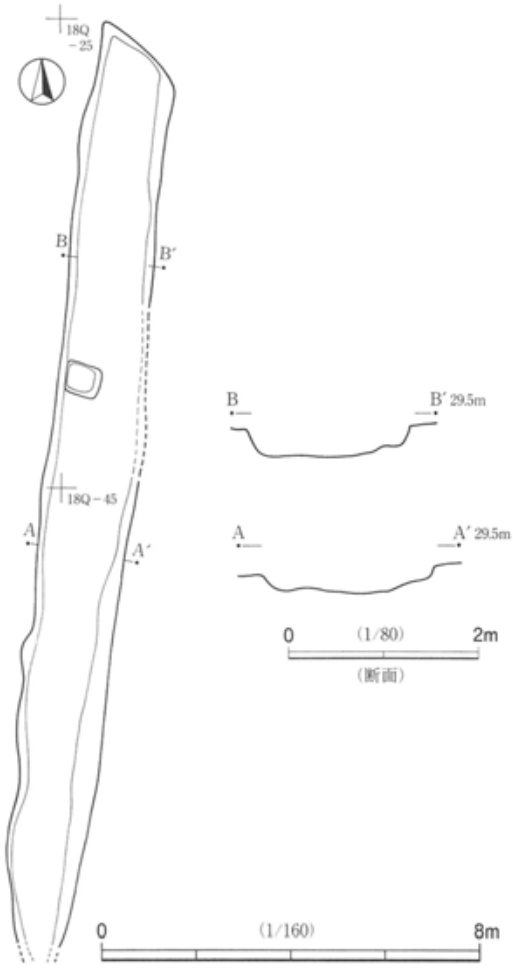
遺物（図版325）

18は土師質の小皿である。体部の立ち上がりが短く，逆台形状の全体に扁平な器形である。体部外面には糸切り痕が残されている。15世紀代のものである。19～22は肥前産陶器で，17世紀後半から18世紀前半のもである。19は丸形の碗である。内面に白化粧土による刷毛目文様が施された後，内外面とも透明釉が施釉される。20は腰部で折れて体部から口縁部にかけて直線的に開く碗である。内外面とも白化粧土の打刷毛目文様が施された後に透明釉が施釉される。21は京焼風の筒形の火入である。体部外面に透明釉が施される。底部外面には「柴」の印銘が押されている。22は皿の口縁部から体部片である。口縁部から内面には緑釉が施され，体部下端を除き透明釉が重ね掛けされる。23は瀬戸・美濃産陶器丸碗の口縁部から体部破片である。内外面とも灰釉が施される。18世紀後半のものである。24は志戸呂産陶器灯明皿の受皿である。桟部は１か所半円形に刳り貫かれている。体部外面下半から底部はヘラ削りされる。口縁部内面から底部内面に錆釉が施される。桟部内面から底部内面及び外面にはタール状の油煙が付着する。19世紀代のものである。25・26は肥前産磁器である。25は白磁紅猪口の体部から高台部片で，18世紀末から19世紀中葉のものである。26は染付仏飯器の口縁部から体部片である。体部外面に格子文が描かれる。18世紀末から19世紀前半のものである。27は焙烙の口縁部から体部片である。口縁端部は矩形を呈し，内側に張り出す。図示したもの以外の破片は，陶器碗２点・皿１点・灯明皿１点・火入１点，磁器碗２点・皿１点，焙烙４点が出土している。

その他，イノシシの臼歯と思われる動物の歯が２点出土している。



第593図　SX－019・SK－109



第594図　SD－042

SK－109（第593図，図版172）

SX－019の溝状の遺構で区画される内側南部に位置する。底面から壁面全面にやや厚めの白色粘土が敷き詰められる，いわゆる粘土貼土坑である。平面形は長方形を呈し，長軸約1.1m・短軸約0.7m，深さ約0.4mを測る。主軸方位はN-0°-Wである。遺物は覆土内から数点出土したが，図示できたものはない。

SD－042（第594図，図版159・325）

西部南東寄りの18Q区に位置する溝状遺構で，ほぼ南北方向に走行している。調査した長さは20mである。北方は現道路部分に続き，SD－040に直角に接続すると思われる。その北方にある西部中央の調査区では，続きの遺構が発見されていない。南方は北から南に下る緩やかな斜面となり，本遺構は消滅している。上端の幅は遺存の良いところで1.8m，底面の幅は1.3mである。確認面から底面までの深さは30cmである。底面は比較的平坦であるが，やや凹凸がある。強く硬化はしていないが，やや硬質である。

西部地区の南方は南から延びる谷が西から東に向かっているが，本遺構はSD－040・SD－021から南の谷に下る小道と思われた。

遺物（図版325）

28は瀬戸・美濃産陶器瓶掛の胴部の耳付近の破片である。型押し成形された獅子頭を象った耳を胴部に貼り付けている。外面は緑釉，内面には錆釉が施される。19世紀前半のものである。

SD－058（第595図）

西部南寄りの17Q区に位置する溝状遺構である。北から南に下る斜面の上部に位置し，東西方向に走行している。SI－372上部を切っているが，非常に浅い遺構であり，想定されるラインのみを図示した。調査した長さは5mで，SI－372の両側は不明である。幅は0.5m～0.6mと想定されるが，底面幅・深さの数値は不明である。

SX－024（第595図）

西部南寄りの17Q区に位置する台地整形遺構である。北側の平坦面から南に下る斜面のもっとも上部に立地し，傾斜は緩やかな地点である。北側を削平して，平坦な面を作り出している。本遺構の性格は，重複した竪穴住居跡の一部か，溝状遺構の一部とも考えられたが，判然としない。またカマドの痕跡がないので，それ以前の竪穴住居跡とも考えられるが，出土した約50点の土器片はすべて奈良・平安時代のものである。それらも，周囲の竪穴住居跡からの混入であろう。

削平した範囲の形態は不整であるが，北側はかなり直線的で，ほぼ東西方向の向きである。東西方向の長さは11.8m，南北方向の長さは3.6mである。南側は壁が存在しない。北側の上端から底面までの深さは

20cmである。底面は凹凸があるが，比較的平坦である。遺構内にはSK－439の他に，いくつかの土坑・ピットがあるが，本遺構に関係するものか不明である。

SD－059（第595図）

西部南寄りの17Q区に位置する溝状遺構である。北から南に下る斜面に位置し，おおむね東西方向に走行する。長さは20mで，東端はSK－451と接して終息している。また，西端はSI－375と重複し，そこで途切れている。SI－375との新旧関係は判然としないが，本遺構が切っていると思われる。西やや北にはSD－058が，西やや南にはSD－041がある。本遺構はその方向からSD－041に接続するかもしれないが，両遺構の状況からは断定しがたい。幅は30cm～85cm，深さは数cm～50cmであり，かなり差がある。東側は段差をもって深くなるところが２か所あり，幅も広くなる。それに比べ，中央から西側は幅が狭くて浅い。中央でSK－445と重複するが，新旧関係は不明である。SK－451は南北に連なる土坑列の一つである。

本遺構はSK－451に接する部分で30cm程度の深さがあるにもかかわらず，その西方には認められないため，この土坑列となんらかの関連があるものと思われる。土坑列が土坑墓群であるとすると，本遺構は土坑墓群に至る道路とも考えられる。

SD－041（第595図，図版158）

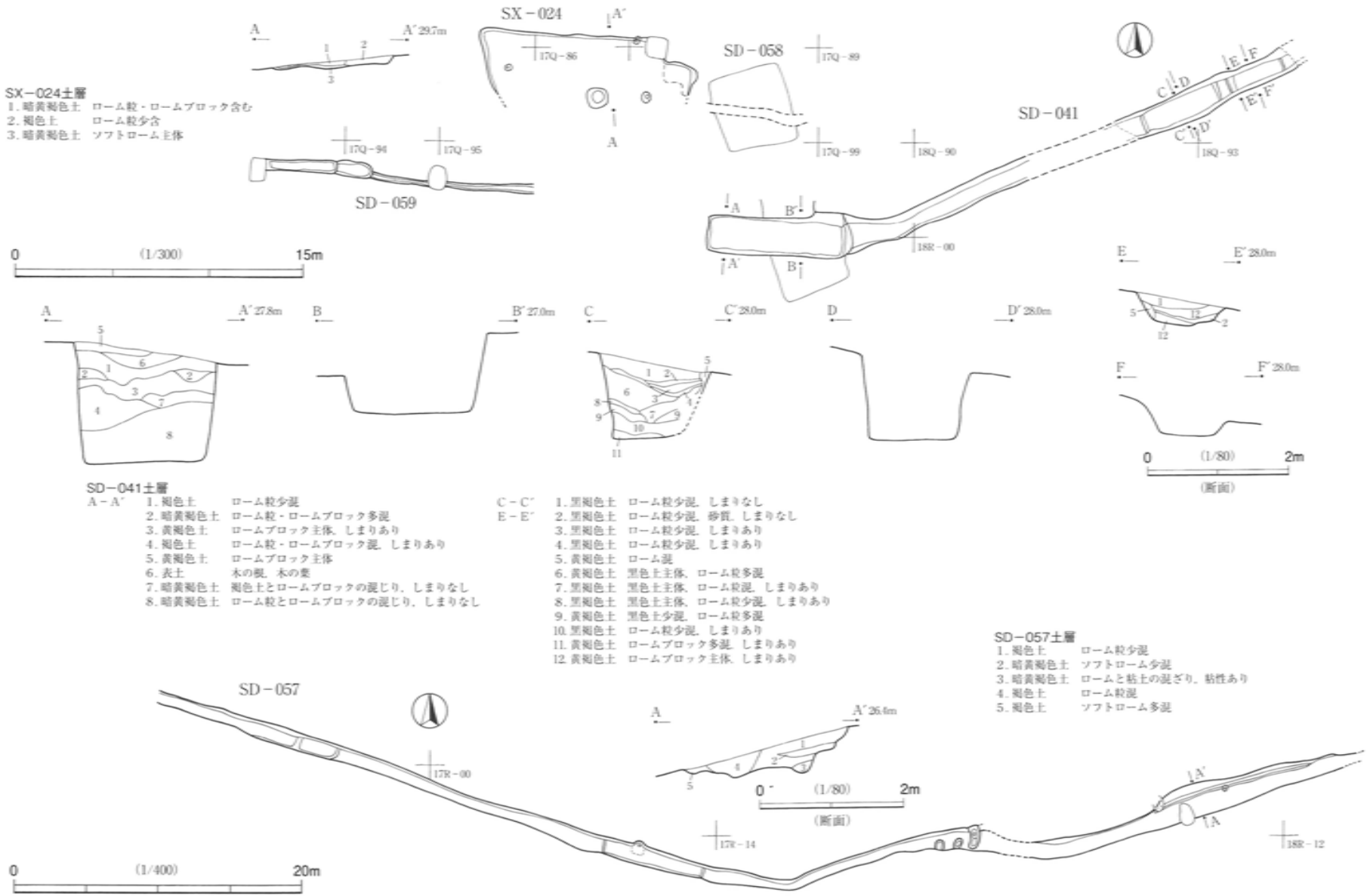
西部南側斜面東寄りの17Q・18Q区に位置する溝状遺構である。北東方向からやや南西に向きをとり，斜面の傾きに対してやや斜めに走行している。西端では東西方向へと変化し，斜面の傾きに平行する。長さは33mである。なお，中央からやや東寄りに若干の空白があるが，調査次の違いによる安全対策のために生じたものである。西端部および東寄りの部分には，他の底面よりもかなり深く掘り込まれた部分がある。西端部の堆積土は，多くが埋め戻されたものと考えられた。また，調査当初から上部が窪んでいた。このことから，本遺構はかなり新しい時期のものといえる。上端の幅は1.2m～２m，底面の幅は0.6m～1.6m，深さは浅い部分が30cm～40cmであるが，東寄りの深い部分に接する東脇が10cm高まっている。深い部分は，東寄り部分の深さが1.2m，底面の長さは4.2m，西端部の深さは1.7m，底面の長さは7.1mである。

本遺構は東端で曲がってSD－042に接続する可能性もあるが，両遺構の位置関係からは断定しがたい。また，底面の様相から考えるとは，本遺構が道路跡として存在したものか，他の性格を有していたものか即断はできない。西端の掘り込み部が機能しているとすれば，道路と考えることが妥当となろう。いずれにしろ西端の長方形を呈した掘込みが本遺構を性格づけるものと考えられる。

SD－057（第595図）

西部南側斜面を東西に走行する道路状遺構である。斜面の中腹から上部に位置し，斜面の傾きに対しておおむね平行に走行している。長さは88mで，東西両端は調査区内で途切れて，確認できない。しかし，その走行方向から，東端は中央部から西やや南側の谷に下る現道路に接続すると思われる。この現道路は，SD－040・SD－021に直角に接続すると思われる道路である。また，西方もSD－055への接続が考えられるが，SD－055との間は18mの空間が生じている。

本遺構は，斜面を削平して作られたものと思われる。北側には壁があるが，南側にはほとんどみられない。全体の幅は，遺存のよいところで2.4m，底面の幅は1.8mである。底面は凹凸があるが，おおきくみれば，平坦である。一部はやや硬化している。いくつかの土坑と重複しており，そのうちのSK－435は本遺構を切っている。しかし，ほかの土坑との新旧関係は不明である。なお，中央西寄りの一部が現代のご



第595図　SD－041・057・058・059・SX－024

み穴によって，破壊されている。遺構の状況から，使用されていたと思われる時期が，どの程度まで溯るのかは判然としない。

SD－055・SD－080・SD－081（第596図，図版160・325）

SD－055は西部西側を南北方向に走行する道路跡である。堆積土中に宝永の火山灰層を含むことから，近世に使用されていた道路と思われるが，期間がどれ位溯るかは不明である。調査した北端から南端までの長さは126mであるが，北側は調査区外の北方の谷に，同様に南側も南方の谷に降りて，続くものと考えられる。南側は斜面にかかっている部分が多く，斜面に対してほぼ直に走行する。中央から北寄りは比較的平坦な台地上に立地するが，北端部側は緩斜面となり，斜面に対して斜めに走行する。SD－055は中央で本遺跡を東西に貫く現道路や道路遺構と交差する。その部分の遺構はSD－080・SD－081であり，そこから東方のSD－079等の東西道路につながる。また，本遺構の南側部分でも，道路状遺構SD－061，SD－062があり，SD－055と交差している。SD－061・SD－062と同時に機能した時期があるのか，新旧関係があるのかは不明である。

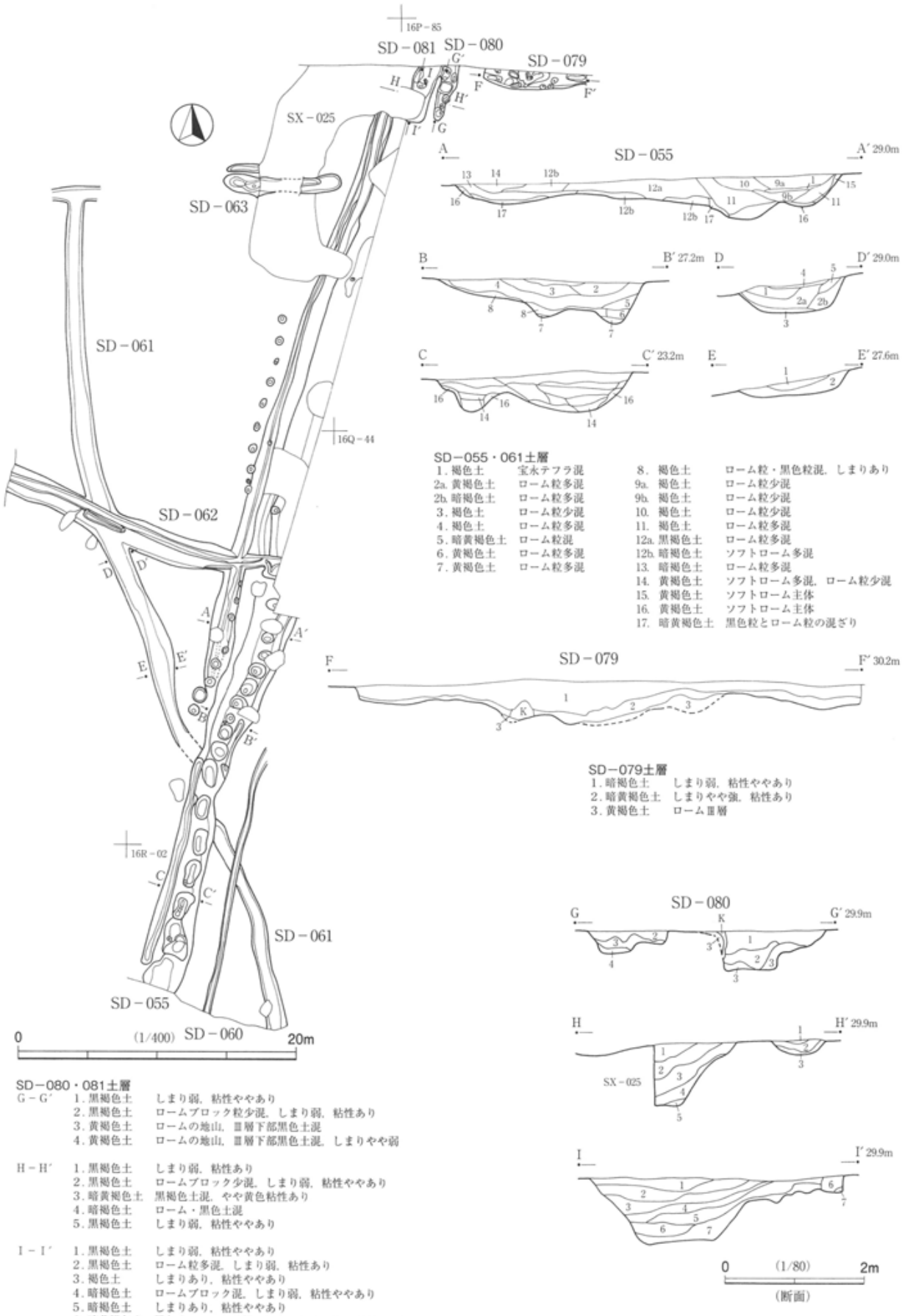
SD－055の走行方向については，より正しく記述すると，北北東から南南西の方向に近い。上端の幅は1.9m～5.9m，深さは20cm～60cmであるが，中央から北寄りの東側は調査区外のため，幅の数値等が不明である。底面の形態は複雑で，断面の中央には平坦面があるが，西壁際は凹状に窪んでいる。この溝は一部で途切れ，また，不明瞭な部分があるが，北端から南端までみられる。平坦面は，平面の北側から中央にかけて続くが，中央南寄りでは幅が狭くなり，南側ではみられなくなる。平坦面は全面的に硬化している。中央から南側にかけての遺構内には土坑列がみられる。この土坑列は中央では平坦面の東側に位置するようになる。中央以北の東側が調査区外であるが，さらに続くものと思われる。各土坑の規模は，南側では大きいが，中央寄りでは小規模となる。中央寄りでは，やや斜面の傾斜が緩やかとなるためかもしれない。また，中央から南よりの西側にも，小穴列がみられる。この小穴列は，中央では西壁外であるが，南寄りでは凹状の溝と重複し，溝を切っている。小穴列は南端部側には続かず，北側もSX－025の南で止まっている。SX－025内にも土坑列があるが，規模・位置から同一のものではない。ただし，時期が同時であれば，何らかの関連性があるかもしれない。小穴の規模は南寄りでは，やや大きくなる。底面は硬化しており，一部に方形の形態のものがある。

以上のように，SD－055の様相は複雑である。道路維持のために補修が考えられるので，道路面も若干の変化があったものと思われる。底面の幅は，やや南寄りのもっとも幅の広いところでみると５mであるが，中央の平坦面は２mである。平坦面の幅は中央以北の方が広いと思われる。

堆積土の状態も複雑である。下層の13層と底面上の17層はとくに硬化した土層である。13層上面は踏み固められて新たな道路面となったものである。宝永の火山灰は中層・上層にみられる。凹状の溝については，堆積土が硬化した部分があることから，埋没した後，道路となった部分があることがわかる。

しかし，遺構の形状からは，凹状の溝のすべてが道路となったのではなく，平坦な面の水はけをよくする排水路としての機能も考えられる。土坑列の性格は把握できないが，道路の造成・維持に関わるものであろうか。小穴列は，一部の形態が方形で，角柱を立てたと思われるものがあり，柵列が考えられる。

SD－080・SD－081はSD－055から東のSD－079に曲がる部分の道路跡の一部である。北側は現在の東西道路に面し，調査区外である。SD－081の西はSD－055であるが，ちょうどSX－025が位置するため，SD－055から続く様相が不明瞭である。SD－080・SD－081内はともにピットが多く，SD－079と同様の



SD－055・061土層

1. 褐色土	宝永テフラ混	8. 褐色土	ローム粒・黒色粒混，しまりあり
2a. 黄褐色土	ローム粒多混	9a. 褐色土	ローム粒少混
2b. 暗褐色土	ローム粒多混	9b. 褐色土	ローム粒少混
3. 褐色土	ローム粒少混	10. 褐色土	ローム粒少混
4. 褐色土	ローム粒多混	11. 褐色土	ローム粒多混
5. 暗黄褐色土	ローム粒混	12a. 黒褐色土	ローム粒多混
6. 黄褐色土	ローム粒多混	12b. 暗褐色土	ソフトローム多混
7. 黄褐色土	ローム粒多混	13. 暗褐色土	ローム粒多混
		14. 黄褐色土	ソフトローム多混，ローム粒少混
		15. 黄褐色土	ソフトローム主体
		16. 黄褐色土	ソフトローム主体
		17. 暗黄褐色土	黒色粒とローム粒の混ざり

SD－079土層

1. 暗褐色土　しまり弱，粘性ややあり
2. 暗黄褐色土　しまりやや強，粘性あり
3. 黄褐色土　ローム Ⅲ 層

SD－080・081土層

G－G′	1. 黒褐色土	しまり弱，粘性ややあり
	2. 黒褐色土	ロームブロック粒少混，しまり弱，粘性あり
	3. 黄褐色土	ロームの地山，Ⅲ層下部黒色土混
	4. 黄褐色土	ロームの地山，Ⅲ層下部黒色土混，しまりやや弱
H－H′	1. 黒褐色土	しまり弱，粘性あり
	2. 黒褐色土	ロームブロック少混，しまり弱，粘性ややあり
	3. 暗黄褐色土	黒褐色土混，やや黄色粘性あり
	4. 暗褐色土	ローム・黒色土混
	5. 黒褐色土	しまり弱，粘性ややあり
I－I′	1. 黒褐色土	しまり弱，粘性ややあり
	2. 黒褐色土	ローム粒多混，しまり弱，粘性あり
	3. 褐色土	しまりあり，粘性ややあり
	4. 暗褐色土	ロームブロック混，しまり弱，粘性ややあり
	5. 暗褐色土	しまりあり，粘性ややあり
	6. 暗黄褐色土	黒色土・ローム土混，しまりややあり，粘性ややあり
	7. 暗黄褐色土	黒褐色土少混，しまり・粘性ややあり

第596図　SD－055・060・061・062・063・079・080・081

様相である。

遺物　SD－055（図版325）

29は瀬戸・美濃産陶器鉄絵皿の底部から高台部片である。底部内面に二重圏線と蘭竹文が描かれている。高台部の断面形は逆三角形状である。全面に長石釉が施される。17世紀前半から中葉のものである。

SD－060（第596図）

西部南西端斜面の16Q・16R区に位置する溝状遺構である。SD－055の東側をSD－055に平行して，南北方向に走行する。長さは20m，幅は0.5m，深さは25cmである。直に掘り込まれており，根切りの溝と思われる。

SD－061（第596図，図版160）

西部西端の16P・16Q・16R区に位置する道路状遺構である。北側は台地平坦面に立地するが，中央から南側は南に下る斜面へと続く。長さは62m，上端の幅は0.8m～1.8m，深さは40cm，底面の幅は0.6m～1.2mである。底面は比較的硬質であるが，強い硬化はみられない。北側はほぼ南北方向に走行するが，中央から南側はで南南東方向に走行する。北端は東西に走行する道路状遺構と「T」字状に接続する。その西側は調査区外となる。東側は様相が不鮮明である。南側でSD－055，中央でSD－062と交差する。同時に機能したか，新旧関係が存在するか確認できなかった。また，南端でSK－536と重複している。北端の東壁部分で，近世～明治期の人骨が出土したが，調査区外の北側が墓地となっている状況と関連するものである。

SD－062（第596図，図版160）

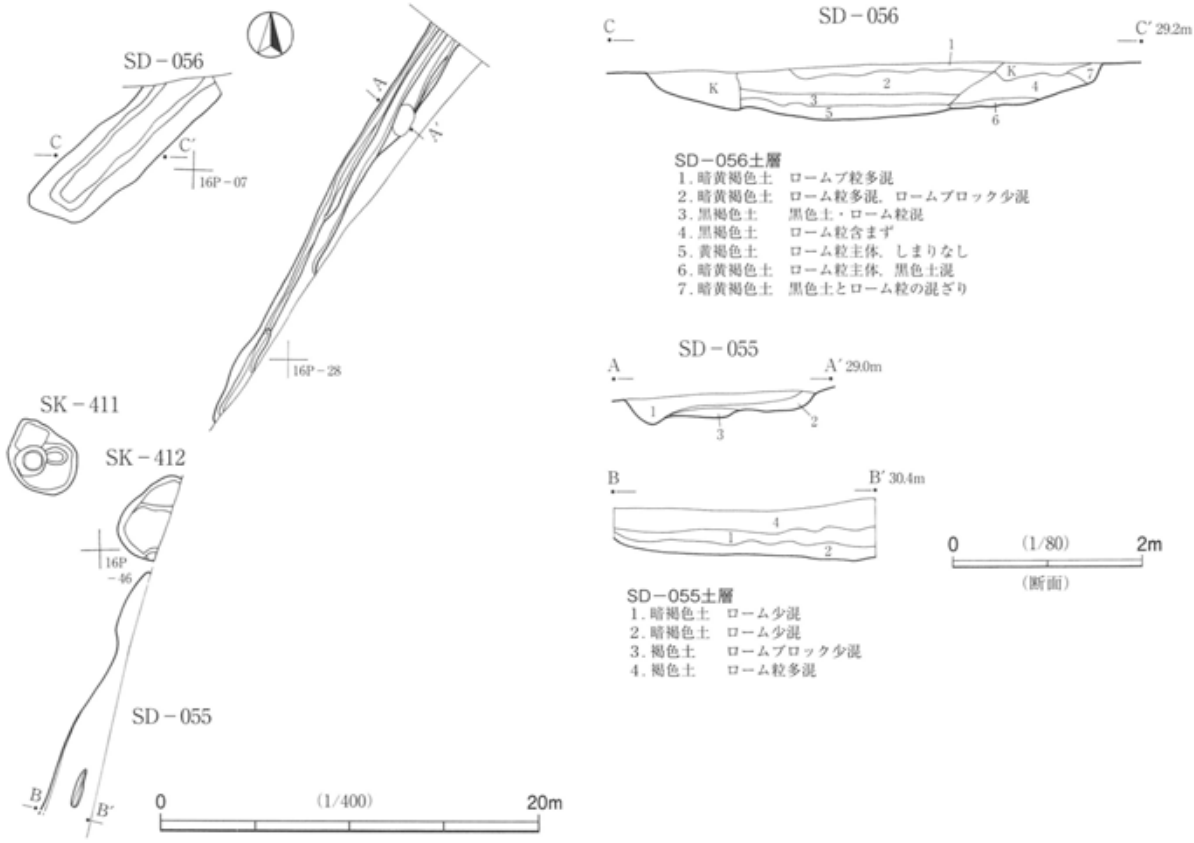
西部西端の15Q・16Q区に位置する道路状遺構である。南に下る斜面上部に立地し，傾斜に対して平行に走行する。走行方向は南東から北西である。東西両端とも調査区外に続くが，東側は調査区外を越えたその東方の調査区では続きが確認されていない。調査した長さは20.5m，上端の幅は2.2m，深さは15cm～85cm，底面の幅は1.2mである。底面は北側に断面が凹状の溝がある。その南側の底面はほぼ平坦な部分と，溝に向かって下る部分がある。南側底面から北側の溝底面までの深さは10cm～20cmである。斜面に位置するので，北壁上端から溝底面まではかなり深い。南側底面は強く硬化していないが，所々で硬質である。東側はSD－055，やや西寄りでSD－061と交差している。同時に機能したか，新旧関係があったのかは確認できなかった。

SD－056（第597図）

西部北西端の16O・16P区に位置する溝状遺構である。北東から南西方向をとり，ほぼ南から北に下る緩斜面に対して斜めに走行する。調査した長さは10mで，北側は調査区外に続く。上端の幅は3.3m，底面の幅は1m前後である。深さは，もっとも遺存のよい南側部分で80cmであり，やや深い遺構である。北側は斜面のため，確認面からは浅くなっていく。壁の上部は緩やかな傾斜であるが，下部はやや急である。底面はほぼ平坦で，やや硬質な面がある。本遺構はSD－055の西側9m前後のところにあり，SD－055とは平行的な位置関係である。底面はやや硬化していると思われる部分もあるが，南側に続かないため，道路跡とは断定できない。

SX－025（第598図，図版163・325）

西部西端の16P・16Q区に位置する。北からみて逆「コ」の字状を呈する溝状遺構である。東側はSD－055と重複し，切られていると思われる。また，西辺中央でSD－063と重複する。新旧関係は不明であるが，

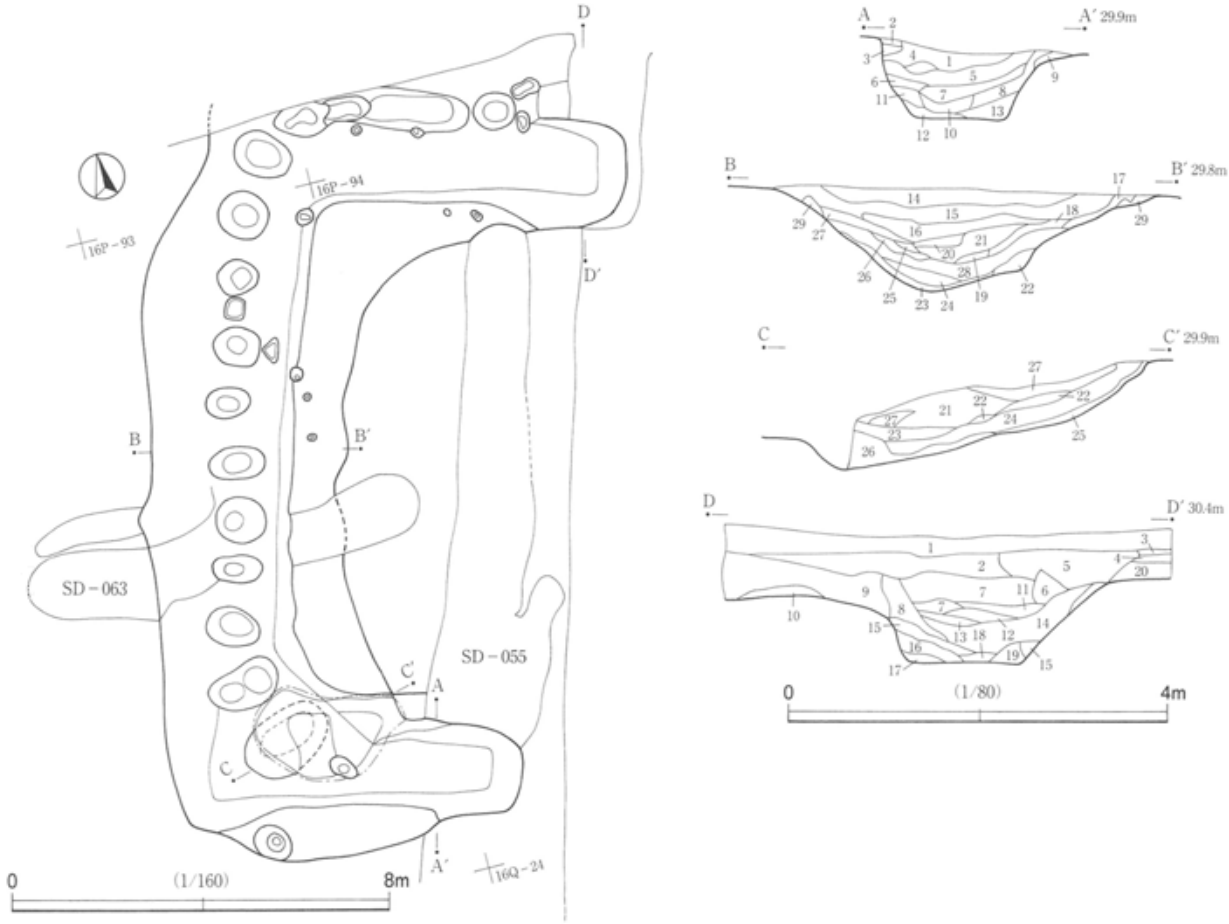


第597図　SD－055・056・SK－411・412

本遺構が切られていると思われる。溝の内側に遺構があるかどうかは，SD－055と重複する影響もあって，はっきりとしない。

北側も調査区外となるため，溝の上端が出ていないが，西辺の上端の長さは17m～18mと思われる。南辺の上端の長さは7.4m，底面の長さは６m，北辺の上端の長さは9.5m，底面の長さはおよそ7.5mである。また，溝の内側の規模は，北辺と南辺の下端間で12mである。溝の幅は，西辺中央の上端で３m，底面の幅は１m～1.2mである。溝内には土坑群があって，列状をなしている。土坑列は溝の形態とほぼ相似形をなすが，南辺の東寄りには存在しない。土坑列の北西隅から南西隅までの長さは13.2mである。溝の各辺は直線的で，土坑列の西辺・北辺も直線的である。西辺の方位はN-18°-Eで，ほぼ北北東から南南西に振れる。確認面から土坑のないところまでの深さは0.5m～１mである。確認面の低い北側で数値が低いが，底面の高さは，むしろ北側がやや低く，南側がやや高い。各土坑については，溝内側の上端が底面の平坦面に位置するが，外側の上端は壁の下部にかかっている。底面平坦面からの深さは７cm～47cmで，平均は23cmである。20cm台の深さのものが多く，ばらつきは少ない。壁内側は，下部が底面から急角度で立ち上がるが，稜をもって傾斜が変わり，そこから上部はやや緩やかな傾斜となる。壁外側は稜をもたずに斜めに立ち上がるが，土坑からはやや急傾斜となる。

堆積土はロームの含有の程度等により，細かく分けられるが，中層・上層に黒色味の強い層がレンズ状に厚く堆積することから，自然堆積と思われる。南側上層では，ローム粒・ロームブロックが広く堆積しており，SD－055またはSD－063の掘削に伴う排土と思われる。なお，宝永の火山灰層については，確認していない。SD－063の堆積土には，宝永の火山灰が含まれることから，本遺構はSD－063に切られてい



SX－025土層

A－A′　B－B′

1. 暗黄褐色土　褐色土にローム粒多含
2. 黄褐色土　ローム主体　周溝にロームが流れ込む
3. 暗褐色土　ロームブロック少含
4. 黒褐色土　ローム粒少含　しまり良
5. 黒褐色土　ローム粒含
6. 暗褐色土　ローム，ローム粒少含
7. 暗黄褐色土　ソフトローム多混
8. 黒褐色土　5層よりローム粒少
9. 暗黄褐色土　ローム粒，ローム多含
10. 褐色土　ローム少含
11. 褐色土　ロームブロック少含
12. 暗黄褐色土　ローム粒，ローム，ロームブロック多含
13. 暗黄褐色土　黒色土，ローム粒，ロームブロック多含，しまり弱
14. 褐色土　ローム少含
15. 褐色土　14層よりローム粒多含
16. 暗黄褐色土　ローム粒多含
17. 暗黄褐色土　ソフトローム少含
18. 暗褐色土　ローム粒含
19. 暗黄褐色土　ローム粒多
20. 暗黄褐色土　16層より黄色強
21. 黄褐色土　ローム粒多含　最も黄色い
22. 褐色土　ローム粒多含
23. 黄褐色土　ローム粒，ロームブロック含
24. 暗褐色土　28層より黒色弱
25. 暗褐色土　ローム粒ごく少含
26. 暗褐色土　25層よりローム粒少
27. 暗褐色土　黒色強く　ローム粒ほとんど含まず
28. 暗褐色土　黒色強く　ローム粒多混
29. 黄褐色土　ソフトローム主体

C－C′　D－D′

1. 表土　耕作土
2. 黒褐色土　ローム粒多混
3. 黒褐色土　ローム粒ごく少混
4. 暗黄褐色土　ローム少ブロック含
5. 撹乱　ローム粒ロームブロック多含
6. 撹乱　ローム粒ロームブロック多含
7. 黒褐色土　黒色土にローム粒多含　しまり強　硬化面が横すじ状に入る
8. 暗褐色土　黒色土多　ローム大ブロック少含　しまり良
9. 暗褐色土　ローム粒少含　部分的に硬質部入る
10. 黄褐色土　9層にロームブロック多含
11. 黒褐色土　ローム粒多含　しまり強　硬質
12. 黒褐色土　11層よりローム粒少　暗色で硬質部あり
13. 暗黄褐色土　ローム粒多含　しまり良　硬質部あり
14. 黒褐色土　ローム粒少含　しまりあり
15. 黄褐色土　ローム粒，ロームブロック主体
16. 暗黄褐色土　黒色土主体　ローム粒，ロームブロック多混
17. 暗黄褐色土　16層より黒色少
18. 黒褐色土　黒色土にローム混　しまり弱
19. 黒褐色土　18層よりローム粒多　しまり弱
20. 黒褐色土　ローム粒含まず　墳丘部の覆土の残りの可能性有
21. 褐色土　ロームブロック，黒色土，ローム粒の混ざり
22. 暗褐色土　ロームと黒色土の混
23. 黒褐色土　黒色土にローム粒多混
24. 黒褐色土　23層よりローム粒多
25. 黄褐色土　ロームブロック大多混
26. 暗黄褐色土　ローム粒多
27. 黄褐色土　ロームブロック主体

第598図　SX－025

ると思われる。

遺物（図版325）

30～33は肥前産磁器で，18世紀末から19世紀前半のものである。30・31は同一個体の染付深皿の口縁部から体部片で，輪花形に型打ち成形されたものである。30の口縁部には焼継ぎがなされている。内面は捻文で区画された文様帯の中に稲妻文・斜格子文・青海波文，外面には唐草文が描かれる。32は染付皿の底部から高台部片である。内面に牡丹唐草文が描かれる。33は青磁の袴腰形香炉の体部片である。体部下方は露胎である。34は瀬戸・美濃産磁器小杯である。高台部は幅の広い蛇の目高台である。体部内外面に霊

芝花文，体部外面下端に二重圏線，高台部外面に圏線が描かれる。30～34は18世紀末から19世紀中葉のものである。図示したもの以外の破片は，陶器瓶類の破片１点，磁器皿４点・碗３点・鉢１点が出土している。

その他，ウマの臼歯が数点出土している。

SD－063（第596図）

西部西端の16Q区に位置する。細長い形態の遺構で，長軸は東西方向をとる。長さは8.6m，上端の幅は1.5m，深さは60cm～75cm，底面の長さは7.9m，幅は0.6m～1.1mである。SX－025と重複し，本遺構が切っていると思われる。SX－025とは中央で直交する状況で重複しており，中央部の様相が不明瞭である。底面西側は，ピット状に窪み，凹凸が著しい。西側からはウマと思われる獣骨と歯が出土している。本遺構は馬の埋葬遺構の可能性があるが，骨の出土量が少ないため断定することは避けたい。堆積土中層に宝永の火山灰がみられることから，本遺構の時期は近世と思われる。

（２）　井戸状遺構

SK－411，SK－412（第599・674図，図版180・309・325・326）

西部西端の16P区に位置する。２基が接近した位置に所在するため，まとめて記述する。SK－411は西側，SK－412はSK－411の南東にあり，両者間の距離は2.7mである。SK－412は，東半分以上が調査区外であり，井戸本体は調査区外に位置する。なお，SK－412は調査区外で道路状遺構SD－055と重複すると思われる。

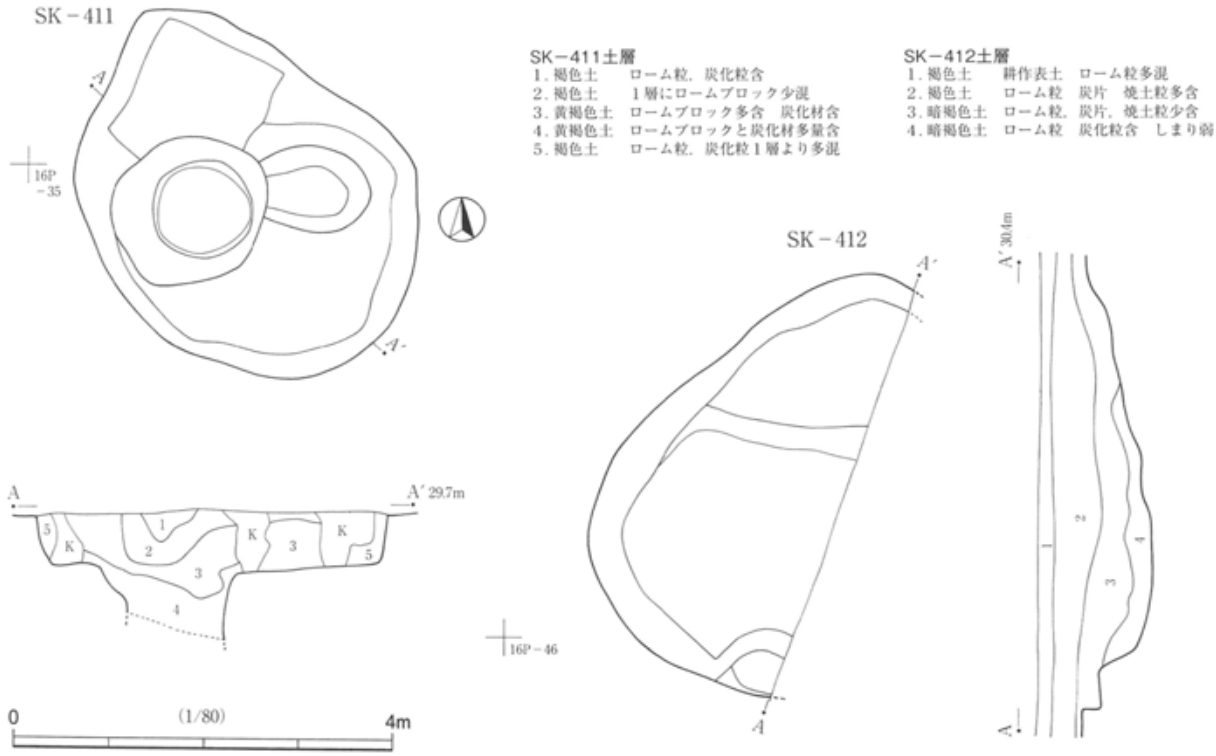
SK－411の井戸本体の平面形は円形で，円筒状に掘り込まれている。掘込みは深くなることが予想されたため，安全対策上，確認面から1.4mの深さで発掘を中止した。円筒状部分の径は１m前後で，上端はやや広がっている。井戸本体の周囲も掘り込まれている。この部分の底面は平坦で，確認面からの深さは50cm～60cmである。井戸本体を湧水地点に達する深さまで掘り込むために，周囲を広げたものであろう。この掘込みの平面形もおおむね円形であるが，北側は近現代と思われる炭焼き窯に切られている。掘り込みは井戸本体の東および南側に広がるが，北側は不明瞭である。周囲の掘込みの径は3.5mである。井戸本体の壁は凹凸のない滑らかな面である。堆積土はローム粒・ロームブロックの含有が多く，井戸が廃棄されてから，一気に埋め戻されたものと思われる。

SK－412は井戸本体周囲の掘込み部分のみの調査である。掘込みの平面形は不整な楕円形と思われる。上端の長さは4.7mである。底面は平坦でなく，北東側から南西側に下っている。南西側部分はやや平坦な面が広がり，井戸本体が近くにあると思われる。底面の長さは4.2m，深さは南西側で1.2mである。堆積土をみると，２・３層はローム粒が少なく，表土から３層までは自然堆積と思われる。４層はローム粒の含有が多く，４層以下，井戸本体については埋め戻されたものと思われる。

SK－411，SK－412が継起的に作られたものか，同時存在か判然としないが，やや離れて位置するので，同時存在も考慮に入れておきたい。

遺物　SK－411（図版325）

35は京都・信楽産陶器灯明皿の口縁部から体部片である。内面は透明釉が施され，トチン痕がみられる。口縁部外面には油煙が付着する。36は焙烙の口縁部付近の破片である。口縁端部が丸みをもって仕上げられるものである。



第599図　SK－411・412

遺物　SK－412（第674図，図版309・325・326）

37は瀬戸・美濃産陶器角皿もしくは向付の体部から高台部片である。型打ち成形によるもので，体部外面の一方に鉄絵が描かれる。高台部畳付を除いて長石釉が施されており，貫入が著しい。38は堺産陶器擂鉢で，19世紀前半のものである。39～42は肥前産磁器である。39・40は同一個体の青磁染付鉢である。40は焼継ぎがなされている。口縁部は鍔状に外方に張り出し，口縁端部上面は平坦である。高台部は蛇ノ目凹形高台で，高台部内面から底部外面は凹部を除いて露胎である。体部外面は唐草文と下端に二重圏線，口縁端部には墨弾き技法により，略された四方襷文が描かれる。体部内面は青磁釉が施され，底部内面には圏線内に線描きによる花文が描かれる。19世紀前半のものである。41は染付蓋付鉢の口縁部から体部破片で，やや外傾しながら直線的に開く。口縁部内面は露胎である。42は白磁合子の身である。口縁端部及び底部外面は露胎である。43～49は瀬戸・美濃産磁器で，19世紀中葉から後半のものである。染付の呉須は43を除いて青みが強い瑠璃釉である。43～45は染付端反碗で，43は体部外面に三重の縦線で区切られた中に牡丹文，口縁部内面に二重圏線で区画された中に網目文が描かれ，底部内面には圏線内に崩れた「寿」銘が記される。呉須はかすれたような薄い発色である。高台部畳付は釉剥ぎがなされる。44は体部外面に線描きによる花文，口縁部内面は二重圏線内に崩れた格子文が描かれ，底部内面には圏線内に崩れた「寿」銘が記される。45は体部から高台部片で，焼継ぎされている。体部外面には縦縞文と重ね梅文が描かれる。体部外面下端および高台部外面には圏線，底部内面には圏線内に崩れた草花文が描かれる。46は丸形の染付碗で，体部外面に藤文が描かれ，口縁端部にも呉須が縁塗りされる。47・48は染付小杯である。47は口縁部外面と体部下端に圏線，体部外面に草花文が描かれる。48は体部下方が面取り成形がなされ，口縁部外面に圏線，底部外面の高台部の付け根に二重圏線，体部外面に稲文が描かれる。底部外面中央には方形枠に「角福」銘が記される。49は摺絵染付皿である。19世紀後半のものである。50・51は同一個体の土師

質焙烙の口縁部から体部破片である。体部外面下方には１条の沈線が巡る。19世紀前半のものである。図示したもの以外の破片は，陶器瓶類１点，19世紀後半以降のものと思われる底部内面に型打ちによる陰刻文様が施された磁器染付皿１点が出土している。

第674図15は鉄製品の釘である。釘尻が遺存するが，頭部は欠損している。鋭角的に曲がっている。直線状にした場合の長さは9.5cmである。重さは10.5ｇである。

３　東部地区

（１）　建物遺構および関連遺構

SX－010・SX－011・SX－012（第600～602・674図，図版161・162・313・326～328）

調査区内では，北側の23Q区に位置する。近世の建物遺構および関連する遺構群である。この遺構群に対しては，調査時にSX－010・SX－011・SX－012と三つの遺構番号が付与されている。各々の範囲を第602図に示したが，個々が完全に独立した遺構になるとは思われず，とくにSX－010とSX－011は明確に分離しがたい。SX－010・SX－011は主として建物遺構であり，SX－012も柱穴の可能性がある土坑・ピットを含むが不明瞭である。また，SX－012の東側には粘土貼土坑群が分布しており，建物遺構とは異なる遺構を含んでいる。なお，粘土貼土坑はSX－010・SX－011内にも分布している。以上のように，SX－010・SX－011・SX－012は，異なる性格の遺構が混在しているが，位置的な関係から，ここでまとめて記述する。なお，本遺構と記述した場合，SX－010・SX－011・SX－012のすべてを指すこととする。SX－010の範囲内および周辺には，溝状遺構SD－004や井戸状遺構SK－054・SK－266・SX－267が所在する。これらは建物遺構に関係するものである。また，SK－057，SK－059が東側に位置するが，SK－059はSX－010を構成するピットの一つである。SK－057は不明瞭だが，その位置からSX－010に関連する遺構の可能性がある。

本遺構は，本遺跡東側の台地平坦面上に位置する。北から北西方は台地平坦面が広がっているが，南方はやや細長い台地となり，東方は南から谷が延びてきている。本遺構の東側はその谷に向かって，東南方向にわずかに下っている。

〈建物遺構Ａ・Ｂ －SX－010・SX－011主要部分ほか－〉

建物の柱は掘立柱と思われるが，柱の一部や，時期によってはすべてが，礎石建ちであるかもしれない。柱穴と思われる土坑・ピットの様相は複雑で，何回か建て替えられたと思われる。また，複数の建物が存在したことも考えられ，建物の規模・構成等を明確に把握することが難しい。しかし，柱穴は列状になるところが何か所もあり，ある程度の様相をうかがうことができる。なお，柱穴群の分布範囲内には，長方形の竪穴状遺構もみられ，ピット群との位置関係から，建物に関連する施設，または建物内の施設と思われる。

列状の柱穴群は南北方向のものが多く，西側と東側では，柱筋の方位にやや違いがある。西側のものはN-4°-Eで，正南北に近い。一方，東側のものはN-11°-Eで，西側のものよりもやや東に振れている。これらが組み合って一つの建物になるのかもしれないが，歪みがありすぎると思われ，異なる向きの建物が，大きく二通り存在し，時期差をもつと考える。ここでは，前者を建物Ａ，後者を建物Ｂとする。

建物Ｂについては，第602図のように，一部を長方形に囲んでみたが，建物Ａは東側に同様の方向をもつ柱穴列がなく，大きな建物を復元することが難しい。建物Ｂの囲い込み部分も，西辺は不明瞭で，可能

性の指摘程度にとどめる。また，このような形の建物が認められるとしても，何回か建て替えられたうちの１棟である。そこで，便宜的に個々の柱穴列に名称を付けて，記述を進める。建物ＡはⅠ～Ⅵ，建物Ｂは①～⑨とし，第602図に示した。

建物Ａの柱穴列Ⅰ～Ⅲは本遺構全体の柱穴群のうち，西側にある南北列で，個々の柱穴は比較的規模の大きいもので構成されている。Ⅰ・Ⅱの長さはSX－012分まで含めると19m，含めないと16.5mである。SX－011分とSX－012分の間はやや空間が認められるため，SX－012の北側まで続くかどうか断定しがたい。ⅡはⅠのすぐ東隣にあり，Ⅰ・Ⅱの新旧関係は不明であるが，ほぼ同様の位置に建て替えたものであろう。縁側の関係も考えられるが，深さがかなりあるので，その可能性は低い。Ⅰの西隣にも，一部で南北に並ぶピット群がみられる。Ⅲの長さは16.5mである。南方のSX－012部分は，東西方向に長いピットとなるため，そこまで続かないと思われる。Ⅰ～Ⅲの北側にあるいくつかのピットは，小規模でやや浅い。それらは主要な建物の主柱穴ではないと思われる。それらを除いて，柱穴の深さをみると，Ⅰ・Ⅱ列は55cm～85cmで，平均はほぼ70cmである。Ⅲ列は60cm平均で，ほぼ同じ深さに掘り込まれている。Ⅰ・Ⅱ列とⅢ列の差は少ない。Ⅳは中央にある南北列で，多くの小規模なピットで構成される。基本的に建物Ａに伴う柱穴群と思われるが，やや数が多く，幅があるため，建物Ｂの柱穴も含まれる可能性がある。深さは16cm～56cmで，平均は27cmである。Ⅴは建物Ａの北辺を構成する柱穴列の可能性がある。長さは21mであるが，西端部分は建物の主柱穴ではないと思われる。この部分を除くと18.5mである。しかし，この北辺に見合う東辺・南辺がないため，建物Ａがこれだけの規模になるか，疑問である。一部は竪穴状遺構に関係するピット群かもしれない。深さは23cm～80cmで，ややばらつきがあるが，50cm～60cmのものが多い。平均は50cmである。Ⅴの北にあるⅥの方向も，Ⅴ同様，Ⅰ～Ⅳとほぼ直交する。長さは3.6mで，小規模なピットで構成されている。深さの平均は24cmで，ばらつきは少ない。主柱穴ではなく，廂部分であろうか。Ⅴと関連するピット群と思われる。Ⅰ・Ⅲの柱間間隔はおおむね1.8mとなり，１間である。Ⅵは0.9mで，半間である。Ⅳについては，ピットが多いため判然としない。

建物Ｂの柱穴列については，長方形に囲んだ推定１棟分からみていく。東西に長い建物跡で，北辺（①）の長さは13.5m，または16.5mである。やや不明瞭な部分があるが，竪穴状遺構の中にみられるピット群から，この位置に復元した。竪穴状遺構との新旧関係は不明である。確認面からの深さは55cm～80cm程度であり，平均は70cm強である。西辺（②）は建物Ａの柱穴群中に位置するため，もっとも不明瞭であるが，図示した位置に存在する可能性があると思われる。長さは9.5mである。南辺（③）は西側がやや不明瞭であるが，南方に空白部分が多く，図示した位置に存在すると考える。東辺については，柱穴列④・⑤の一部，または⑧の一部が相当する。⑧は中央にピットがみられないが，撹乱等により失われたり，撹乱土中に掘り込んだことが考えられる。④の北東隅にあたるピットが竪穴状遺構内のピットに近いことから，④・⑤より，むしろ⑧の方が可能性が高いかもしれない。①～⑧はSX－010東側にある南北の柱穴列であるが，列は長方形建物の北に続いている。⑤が④に重複して東隣にあることからも，建物Ａと合わせて，本遺構内では何回も建て替えがあったことがうかがえる。④・⑧の長さは13.5m，⑤の長さもほぼ同様で13mである。④・⑤の深さは50cm～１m強で，平均は70cm強である。⑧も④・⑤と近似する深さで，55cm～80cmである。平均は60cmであるが，北半部の柱穴が南端よりも深い。⑥・⑦は南側の一部でピットがみられない。この部分が本来は存在したとすると，長さはともに10.5mであるが，当初からなかったとすると，ともに６mである。小規模なピットで，深さの平均もともに40cm前後である。ばらつきも少ない。④・⑤・

⑧の柱間間隔もⅠ・Ⅲ同様，おおむね1.8mである。⑥は1.5m程度で，やや短い。

ピット内の堆積土は，比較的多量のローム粒・ロームブロックを含む土層である。建て替えも複数回に及ぶので，概して埋め戻されたものと思われる。SX－010北西部分の堆積土下・中層には，焼土のやや厚い堆積がみられる。焼土は平面的にも，北西部を主として，竪穴状遺構Aの南東部など，東側にもみられる。建物の建て替えまたは廃棄に際して，片付けた廃材等の焼却が行われたか，あるいは火災があったものと思われる。

〈竪穴状遺構A －SX－010－〉

東西方向に長い長方形プランの遺構である。規模は，長辺上端が8.5m，短辺上端が6m，長辺底面は6m，短辺底面が4.5m，深さは60cmである。底面は壁際から中央に向かって，緩やかに窪んでいる。壁も斜めに立ち上がり，急角度ではないが，底面との境は比較的明瞭である。堆積土については，下層からかなり上層までローム粒・ロームブロックを多く含む土層がみられる。その土層下にロームより黒色土が卓越する層もあるが，最上層を除いては，基本的に埋め戻されたものである。

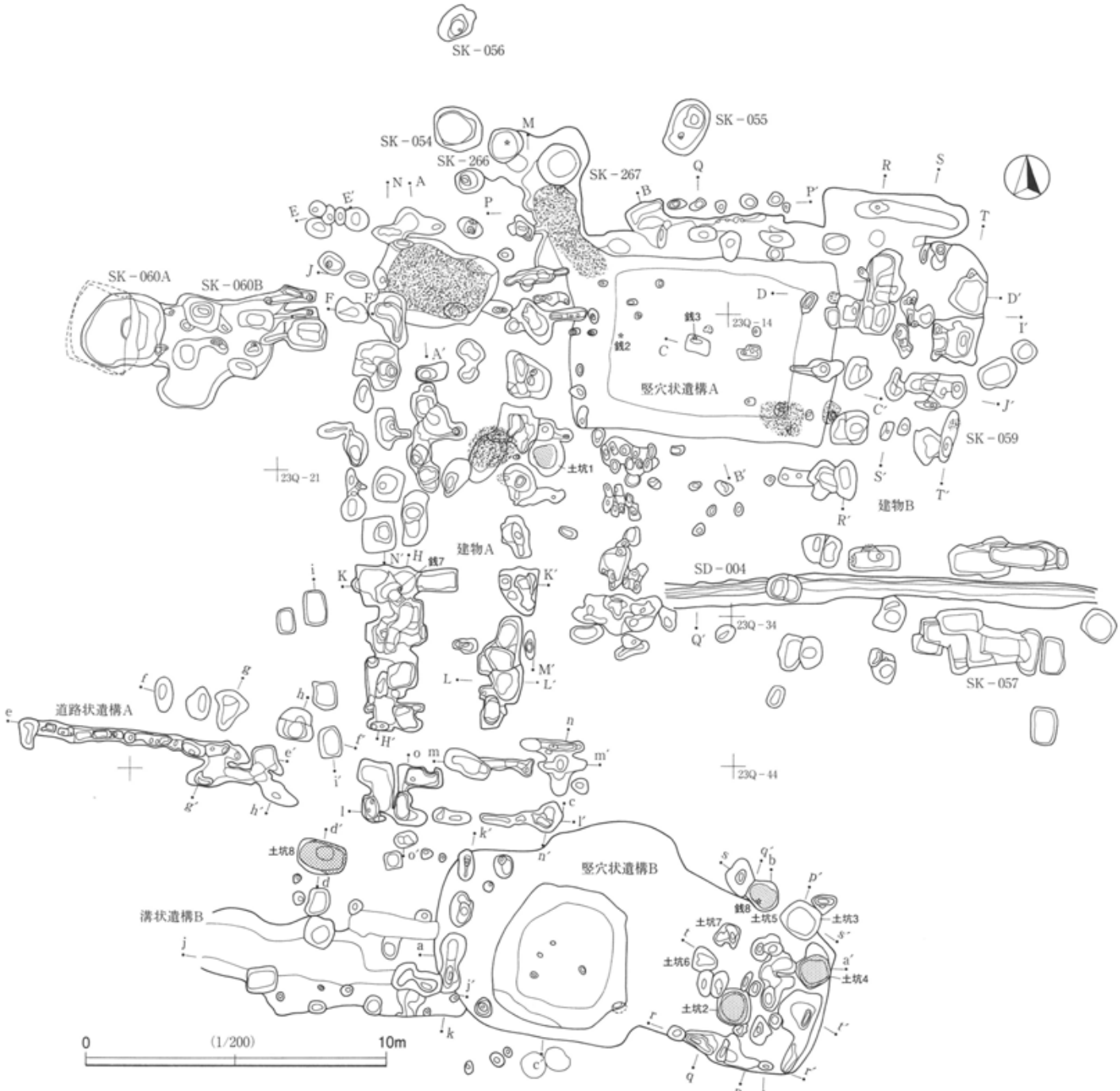
建物遺構Bの柱穴と重複しているので，Bとは時期差があると考える。一方，長辺の向きが建物Aの柱穴列Ⅴ・Ⅵと平行し，短辺が建物Aの柱穴列Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと平行している。具体的な性格は判然としないが，ある時期の建物遺構Aに関わる施設と思われる。建物遺構Bとの新旧関係は不明であるが，Bの方が新しいとすると，その時点で整地されたものであり，また，竪穴状遺構Aの方が新しいとすると，竪穴状遺構Aの廃棄に伴い，整地された状態といえよう。その場合，建物遺構Aの廃絶段階であることも考えられる。なお，南東隅部の底面・壁面が火を受けて赤色化しているが，建物遺構Aの焼却または火災と連動することを示していると考える。

〈溝状（道路状）遺構A・B，土坑・ピット －SX－012西側部分－〉

SX－012の西端側には，完全に溝状となっているところがあり，東西方向に走行している。この溝状部分の西端はSD－006と接している。硬化面の記録はないが，建物遺構と西側道路を結ぶ道路跡と思われる（道路状遺構A）。深さは30cm強程度のところが多い。溝状部分の北にも，いくつかのピットがあり，平行して並んでいる。深さは50cm～70cmである。溝状部分とともに，道路を構成する遺構とも思われるが，かなり深いため断定しがたい。道路に規制されているが，別遺構の可能性の方が高いと考える。ピット群の様相から，溝状部分はその東方，SX－011とSX－012中央の竪穴状遺構間まで続くと思われる。この部分の道路状遺構は2列となり，時期差があるかもしれない。また，ある時期の建物遺構の柱穴が重複していると思われる。この部分のピット・土坑の深さは10cm台から50cm台まであり，幅がある。

SX－012西南部分には別の溝状部分がある（溝状遺構B）。東西に走行し，北側の道路状遺構と並行する。その内部，周囲には大小のピット・土坑がみられ，その一つでやや長いものが，SK－061である。また，中央の竪穴状遺構に接している。それらと溝状部分の新旧関係は不明である。溝状部分の上端幅は2.2m～3m，底面はやや不明瞭な部分があるが，幅は1.2m程度である。深さは18cm～26cmである。西端の図示は省いたが，西方には続かないようである。

SX－012の西側部分の土坑・ピットには，建物遺構の柱穴があると思われるが，上記の道路状遺構・溝状遺構と重複していることもあって，不明瞭である。その北側部分は，SX－011から続く建物遺構の可能性がある。しかし，SX－011とSX－012間はわずかに空間が認められるため，建物が続かないことも考えられる。土坑・ピットのうち，中央寄りの3基程度が，南北に一列に並んでいる。中央のピットの深さは



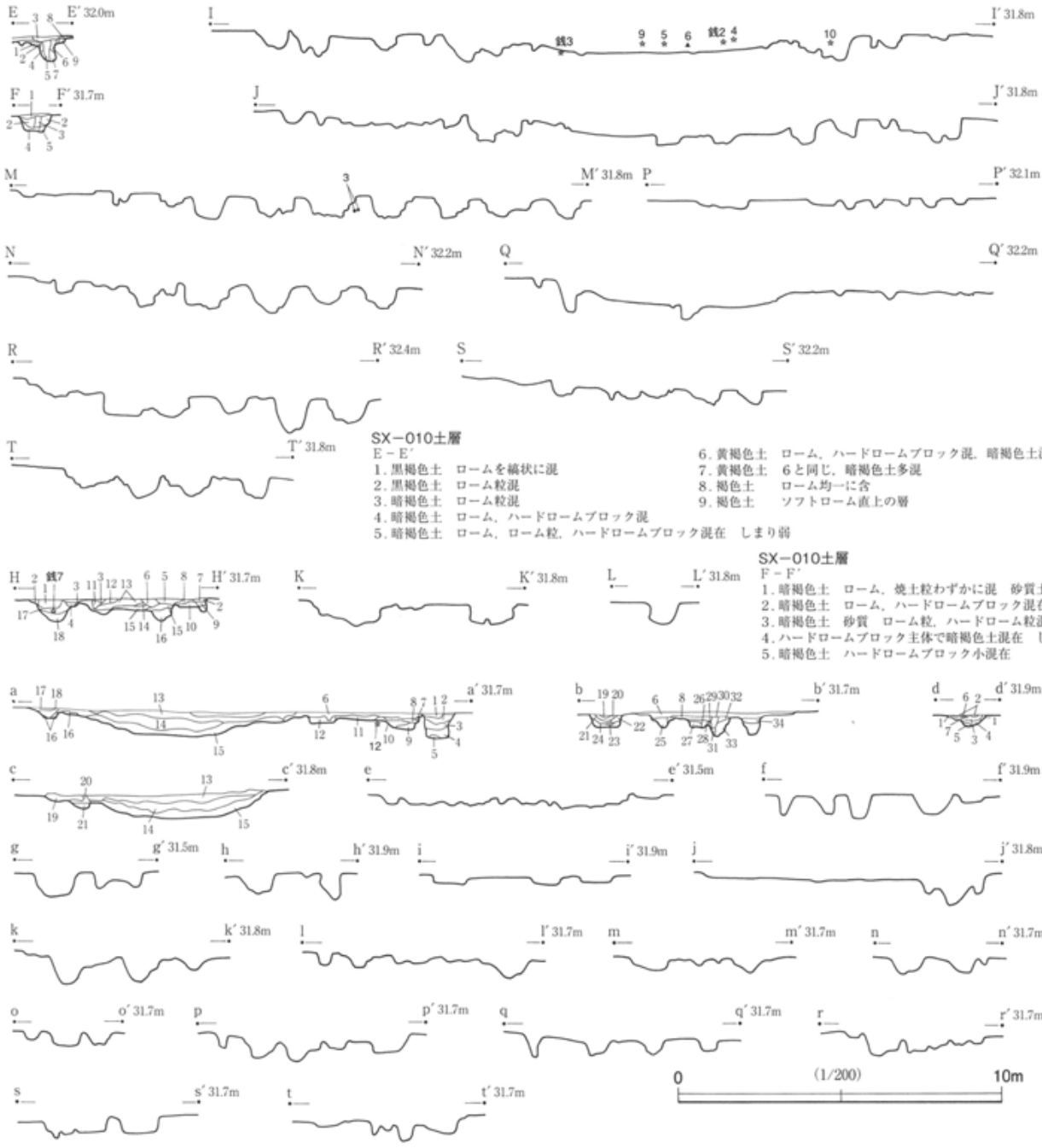
SX－010土層

A－A′
1. 黒褐色土　ローム粒混
2. 黒褐色土　ソフトローム混
3. 暗褐色土　ローム粒わずかに混
4. 暗褐色土　ローム粒，焼土粒多
5. 暗褐色土　ハードローム粒横縞状に混　しまりなし
6. 褐色土　ハードロームブロック多混
7. 暗褐色土　ハードロームブロック多混
8. 暗褐色土　ハードロームブロック多混　しまり弱
9. 青灰色粘土　暗褐色土混，雲母混
10. 黒褐色土　焼土粒，上記粘質土混
11. 黒褐色土　ハードロームブロック，焼土ブロック混
12. 青灰色粘土　焼土ブロック，ハードブロック混
13. 暗褐色土　しまり強，焼土ブロック多混
14. 暗褐色土　焼土粒，ローム粒少混
15. ハードローム　被熱赤変
16. 黒褐色土　ローム粒少混
17. 暗褐色土　焼土ブロック多含　焼土粒，ローム粒混
18. 暗褐色土　ローム土混
19. 暗褐色土　ハードロームブロック多混
20. 暗褐色土　ローム粒，焼土粒少混
21. 暗褐色土　焼土粒均一に混

B－B′　C－C′
1. 黒褐色土　ハードロームブロック，ローム粒混　炭化物わずかに混
2. 黒褐色土　1より暗い　炭化物，ハードロームブロック混在
3. 暗褐色土　大きいハードロームブロック混　2との境しまり強　光沢有り
4. 暗褐色土　ハードローム粒，ブロック多混
5. 暗褐色土　大きいハードロームブロック少混　ハードローム粒混
6. 黒褐色土　ハードローム粒混
7. 暗褐色土　ハードロームブロックを縞状に混
8. 黒褐色土　ハードローム粒混　宝永火山灰少混
9. 暗褐色土　ローム粒，ハードローム粒水玉状に多混
10. 暗褐色土　ローム土均一に多混
11. 暗褐色土　ハードロームブロック多混
12. 暗褐色土　ハードローム粒水玉状に混，しまり良
13. 暗褐色土　ハードロームブロック混，しまり良
14. 暗褐色土　部分的にハードロームブロック混，しまり良
15. 暗褐色土　ハードロームブロック多混
16. 黒褐色土　ローム土，ハードロームブロック混，しまり良
17. 黒褐色土　砂質土，ハードローム粒多混
18. 黒褐色土　ハードロームブロックを水平に縞状に含
19. 黒褐色土　ローム粒わずかに含　しまり弱　砂質

D－D′
1. 黒褐色土　ハードロームブロック混
2. 黒褐色土　ハードロームブロックを水玉状に含
3. 黒褐色土　ハードロームブロックわずかに混
4. 暗褐色土　ハードロームブロック多含　黒褐色土混
5. 暗褐色土　ハードロームブロック多含
6. 暗褐色土　ハードロームブロック多含
7. 黒褐色土　ハードロームブロック多混
8. 暗褐色土　ハードロームブロック主体
9. 暗褐色土　ハードロームブロック主体
10. 黒褐色土　ハードロームブロックを水玉状に含
11. 黒色土　ローム粒，焼土粒含
12. 黒褐色土　ハードローム粒混
13. 黒褐色土　ハードローム粒混

第600図　SX－010・011・012（1）



SX−010土層
E－E′
1. 黒褐色土　ロームを縞状に混
2. 黒褐色土　ローム粒混
3. 暗褐色土　ローム粒混
4. 暗褐色土　ローム，ハードロームブロック混
5. 暗褐色土　ローム，ローム粒，ハードロームブロック混在　しまり弱
6. 黄褐色土　ローム，ハードロームブロック混，暗褐色土混
7. 黄褐色土　6と同じ，暗褐色土多混
8. 褐色土　ローム均一に含
9. 褐色土　ソフトローム直上の層

SX−010土層
F－F′
1. 暗褐色土　ローム，焼土粒わずかに混　砂質土
2. 暗褐色土　ローム，ハードロームブロック混在　しまり良
3. 暗褐色土　砂質　ローム粒，ハードローム粒混在　しまり弱
4. ハードロームブロック主体で暗褐色土混在　しまり良
5. 暗褐色土　ハードロームブロック小混在

SX−011土層
H－H′
1. 黒色土　しまりあり　粘性なし　ローム粒，焼土含
2. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ローム多含
3. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ローム粒含
4. 褐色土　しまりややなし　粘性なし　ソフトローム含
5. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック含
6. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック多含
7. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック含，焼土少含
8. 黒褐色土　しまりあり　粘性あり　ロームブロック若干含
9. 黒褐色土　しまり弱　粘性あり　ローム粒含
10. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック若干含
11. 黒褐色土　しまり弱　粘性なし　やや砂質
12. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック含
13. 黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック若干含
14. 黒褐色土　しまり弱　粘性あり
15. 黒褐色土　しまり弱　粘性あり　ロームブロック含
16. 褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック含
17. 褐色土　しまり弱　粘性なし　ロームブロック含
18. 褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック含

SX−012土層
a－a′　b－b′　c－c′
1. 暗褐色土　砂質　ローム粒わずかに混
2. 黒褐色土　砂質　ローム粒わずかに混
3. 黒色土　砂質　ローム粒わずかに混
4. 黒色土　やや粘性あり　灰色粘土ブロックわずかに混
5. 黒色土　ハードロームブロック混
6. 暗褐色土　ローム粒わずかに混
7. ソフトローム　ハードロームブロック混
8. 黒褐色土　ハードロームブロック　灰白色粘土ブロック混
9. 黒色土　灰白色粘土多混，ハードローム混
10. 暗褐色土　ハードロームブロック多混，焼土，炭化物混
11. 暗褐色土　砂質土　ローム粒混
12. 暗褐色土　ソフトローム多　ハードロームブロック混
13. 暗褐色土　ハードロームブロック混　炭化物少混　砂質
14. 黒褐色土　ハードロームブロック混　炭化物少混　砂質
15. 黒褐色土　ハードロームブロック多混
16. 黒色土　ソフトローム，ハードロームブロック多混
17. 暗褐色土　砂質　ローム粒混
18. 暗褐色土　ハードロームブロック縞状に混　ローム粒多混
19. 黒褐色土　ハードロームブロック，ハードローム粒，ローム混
20. 暗褐色土　ローム土，ハードローム混
21. 明褐色土　ローム多混　ハードロームブロックわずかに混
22. 明褐色土　ハードロームブロック多混
23. 暗褐色土　灰白色粘土多混
24. 暗褐色土　ハードロームブロック大中，ハードローム粒多混
25. 暗褐色土　ハードロームブロック小多混
26. 暗褐色土　ハードロームブロック中小，ロームを水玉状に含
27. 黒褐色土　ハードロームブロック含　しまり弱
28. 黒褐色土　ハードローム粒わずかに混
29. ハードロームブロック
30. 黒褐色土　ローム粒，ハードロームブロックわずかに混
31. 黒褐色土　砂質　しまり弱
32. 暗褐色土　ハードロームブロックわずかに混
33. 黒褐色土　しまり弱　ハードローム粒混
34. 暗褐色土　ハードロームブロック多混　32とほぼ同じ

d－d′
1. ソフトローム
2. 暗灰褐色土　灰白色粘土＋灰褐色砂質土＋暗褐色土
3. 灰色砂質土　灰白色粘土混
4. 黒褐色土　ハードロームブロック混
5. 暗褐色土　灰色砂質土少混
6. 暗褐色土　灰色砂質土少混
7. 暗褐色土　灰色砂質土縞状に混

第601図　SX－010・011・012（2）

0.9m，南北のピットの深さはともに40cmである。その方向と北側の道路状遺構が直交しており，建物の柱筋の一部かもしれない。その他のピットは小規模なものが多く，深さは10cm代から40cm代と概して浅い。柱筋は不明瞭であり，建物遺構の存在については，可能性の指摘にとどめる。

〈竪穴状遺構B －SX－012中央部分－〉

23Q－52グリッド周辺に位置する。平面形は丸みをもつ不整な方形で，南北方向が東西方向よりもやや長い。上端の長さは4.8m，幅は4.3m，底面の長さは3.5m，幅は3.1m，中央部の深さは0.7mである。壁の傾斜は緩やかであるが，底面との境は比較的明瞭である。底面は比較的平坦であるが，やや東側に下り，壁際にやや高いところがある。SX－010内の竪穴状遺構とは，規模が異なるが，底面・壁の様相が類似する。底面内にいくつかの小ピットがあるが，浅く不規則であり，とくに意図されたものではない。堆積土は，上層が暗褐色土，中層が黒褐色土，下層はロームブロックを多く含む黒褐色土である。また，上・中層は少量の炭化粒を含む。下層にロームが多いが，上・中層は自然堆積と思われる。

竪穴状遺構Bの周囲は若干窪んでいる。その範囲内のうち，東方には，若干の遺構空白地帯を置いて，土坑・粘土貼土坑群がある。

〈粘土貼土坑および粘土貼土坑を含む土坑群－SX－012東側部分ほか－〉

SX－010およびSX－012内には，掘りかたの底面・壁に灰白色・淡黄色の粘土を貼り付けた粘土貼土坑がみられる。このうち，掘りかたが比較的整ったものについては，土坑1，土坑2のように番号を付けて，以下に記述する。

SX－012の東側部分には，粘土貼土坑を含む土坑群が密集して分布する。群中の土坑は密集しているため，様相が複雑である。粘土貼りの比較的整った形態のものの他に，小規模なものや不整なものもあり，それらが重複している。図の土坑・ピット間部分にもやや凹んでいるところがあり，図示していないところにも，いくつかの遺構が存在する。こうした状況のため遺構総数を正確に把握しがたい。小規模なものは，整った形態の土坑間にみられ，また，不整な形態で底面に広い平坦面をもたない土坑は，東・南の周縁に位置する。これらの中には，整った土坑が重複した結果のものもあると思われるが，それだけではなく，粘土貼土坑と異なる性格のものもある。ただし，関連をもつものであろう。なお，掘立柱建物跡SB－052と重複しているが，本遺構の方が新しい。重複の影響はあまり大きくない。粘土が顕著に遺存している土坑は3基であるが，一部に薄く遺存しているものや，堆積土中に若干の粘土が含まれるものもある。本来はより多くの土坑に，粘土が貼られていたと思われる。

比較的整った土坑をみると，掘りかたの形態は楕円形，または隅丸の長方形であるが，粘土を貼った内側の平面形は，楕円形，円形である。土坑2の掘りかたは，上端の長さが1.25m，幅1.15m，深さは50cmである。粘土貼りの壁内側は長径が0.95m，短径0.75mである。土坑3の掘りかたは，上端の長さが1.3m，幅1.2m，深さは55cmである。底面の長さは0.95m，幅は0.8mである。土坑4の掘りかたは，上端の長さが1.1m，幅1m，深さは40cmである。粘土貼りの壁内側は径0.8mである。土坑5は，上端の長さが1.1m，幅1m，深さは40cmである。底面の長さは0.95m，幅は0.75mである。土坑3には，粘土の貼り付けや堆積がみられないが，その他の様相から粘土貼土坑と同様のものであろう。以上の土坑の掘りかた底面は平坦で，壁は直立的に立ち上がる。貼り付けられた粘土は崩れていたり，ほぼ底面しか遺存していない場合もあるが，遺存の良い土坑4の様相から，掘りかた同様，底面が平坦で，壁は直立的といえよう。その他にも，平坦な底面と思われる箇所が3か所あるので，粘土貼土坑と同様のものは，この密集部分に7基程

度存在したものと思われる。

土坑４の下層からは骨，擂鉢片，砥石が出土している。骨は上層からも出土しているが，あまり量は多くない。骨片は土坑３からも出土している。土坑４の堆積土は黒色土主体で，ローム粒が少ない。土坑４が土坑墓であるならば，堆積土は埋め戻されているのだろうが，土層断面の状態からは断定しがたい。むしろ，土坑４の西隣の土坑が，下層にロームブロックを主体とする上層が堆積しており，人為的堆積の可能性がある。土坑５も比較的多量のロームを含むが，土坑２にはあまり含まれない。土坑３はロームを含むが，あまり多量ではないようである。また，土坑３は宝永の火山灰が若干量堆積していた。以上のように，SX－012の東側の土坑群の堆積土については，すべてが埋め戻されているか断定しがたい。

SX－012東側の土坑群は，土坑が集中しているにもかかわらず，周囲には遺構が分布していない。西側の竪穴状遺構Ｂとの間は若干の空白部分であるが，北から東は広く空いており，南側も他時代の遺構を除けば，同様である。土地の使用に規制があった結果と考えられる。堆積土が人為的か判然としないが，骨が出土しているので，水を溜めた遺構というよりは，土坑墓群の可能性を高く考える。

SX－012の西側土坑群の中にも，灰白色粘土を充填しているものが１基ある（土坑８）。形態は東西に長い楕円形で，一部角張っている。やや規模が大きい土坑で，上端の長さは1.65m，幅は1.1m，深さは19cm～35cmである。底面は中央が深く，周囲が浅い。浅い部分の長さは1.35m，幅は90cm，深い部分は平面楕円形で長径は60cm，短径は50cmである。深い部分はロームブロックを含む黒褐色土が堆積し，灰白色粘土は，その上部に堆積している。粘土上の堆積土はわずかなので，自然堆積か，埋め戻されたものか判然としない。

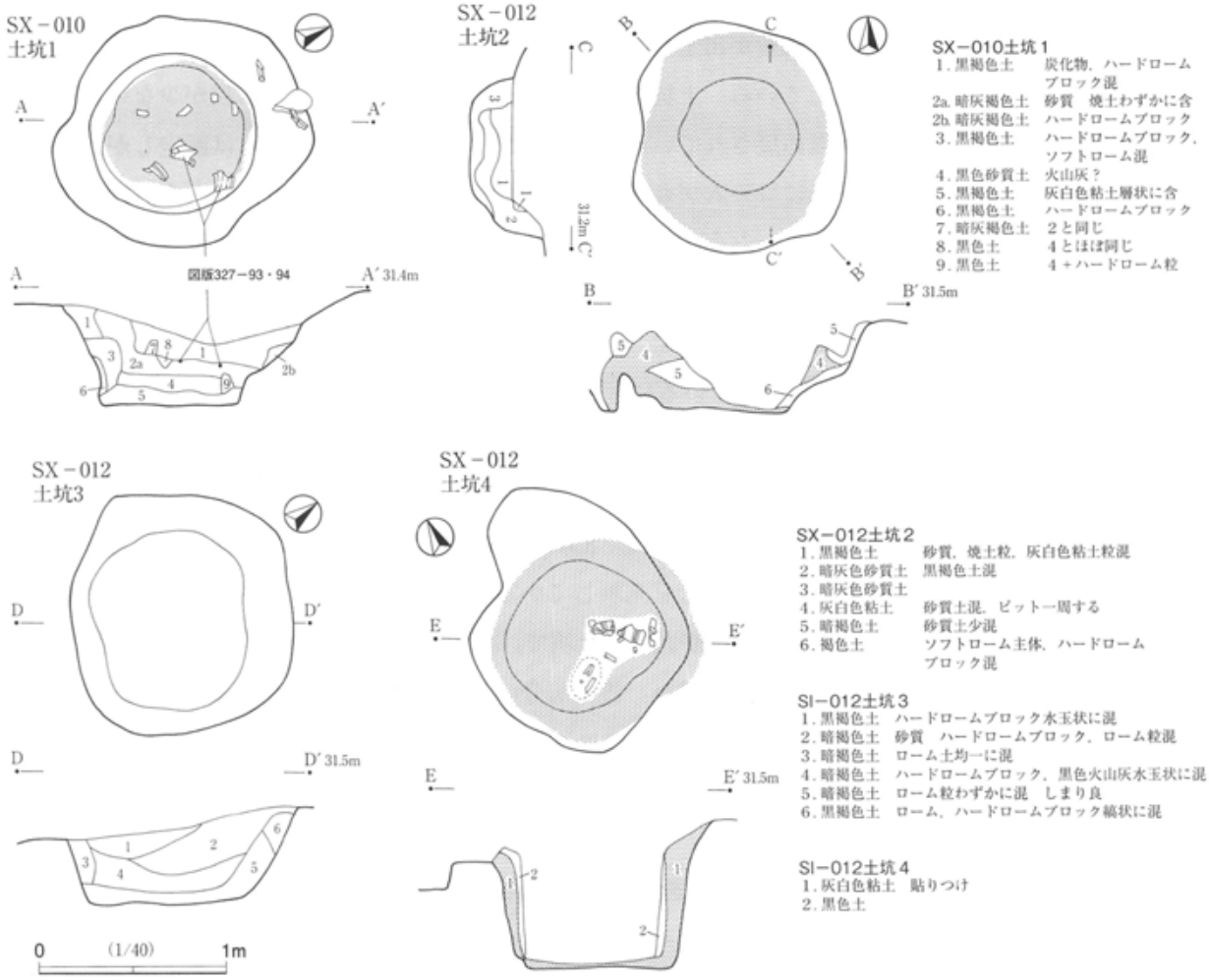
土坑１はSX－010内の西側中央に位置し，柱穴列Ⅲの中央の柱穴に接している。新旧関係は不明であるが，柱穴に関係する建物とは別時期のものといえよう。形態は円形であるが，上面形はやや長く，底面はほぼ円形である。上端の規模は1.35m×1.25m，底面の径は75cm，深さは55cmである。底面は平坦で，壁との境は明瞭である。壁は底面から15cmほどの高さまでは直に立ち上がり，そこから斜めに立ち上がる。急なところとやや緩やかなところがあり，上端の長さの差となっている。灰白色粘土は堆積土最下層に含まれている。最下層全体の色調は暗く，黒色土の含有が多い。その上部は，宝永の火山灰を含むと思われる土層である。堆積土は概して黒褐色土主体であるが，若干のローム粒・ロームブロックを含む。中・下層から，擂鉢片が出土している。

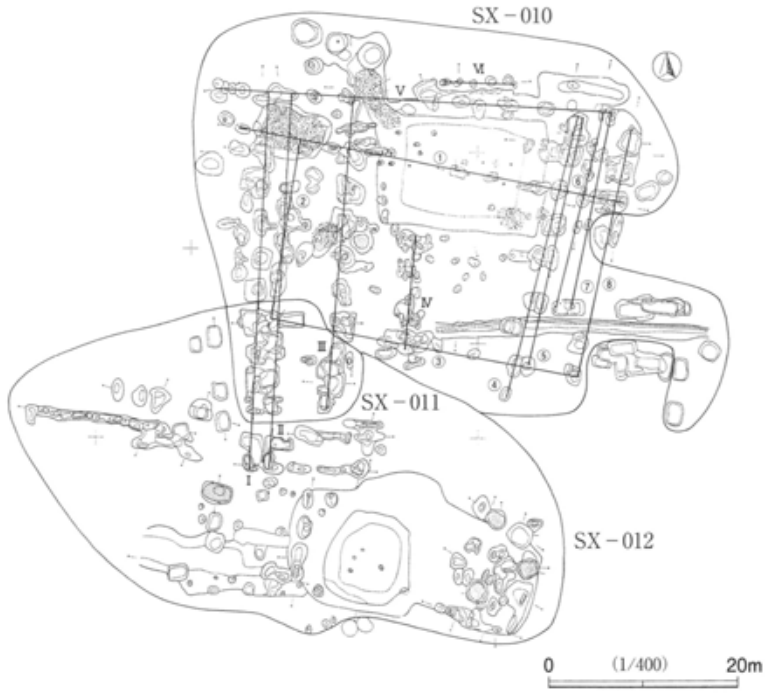
土坑１・土坑８は土坑内に粘土をもつことから，SX－012東側の土坑群と同様の遺構と思われる。土坑８は東側の土坑群から西約12m，土坑１は北やや西寄り14.5mのところに位置する。各々周囲に同様の遺構があるものの，判然としない。密集しないことは確実であり，この点でSX－012東側の土坑群と異なっている。同時期のものであれば，離れて位置することに意味があったのであろう。

遺物（第669・674図，図版326～328・335）

陶磁器は多量に出土しているため，調査時の遺構別に記述し，陶磁器以外の銭貨等については，少量のため，まとめて記述する。

第674図２～８は銭貨で，いずれも銅銭である（銭２～銭８とする）。銭４・銭７は寛永通寶である。銭４は新寛永銭である。銭７は磨滅のため，古寛永銭か新寛永銭か不明である。２は「元」または「天」で始まる銭貨と思われる。また，銭５は下の文字が「開」または「通」と思われる。いずれも北宋銭等の渡来銭と思われるが，銭種を特定しがたい。銭３・銭６・銭８は文字がみえず，銭種は不明である。銭２・





第602図　SX－010・011・012（3）

銭３は磨滅が著しく，銭６は錆に覆われている。また，銭５は上部が欠損する。直径は，銭２が2.25cm，銭３が2.3cm，銭４が2.2cm，銭５が2.43cm，銭６が2.55cm，銭７が2.3cm，銭８が2.4cmである。重量は，銭２が1.17ｇ，銭３が1.80ｇ，銭４が2.23ｇ，銭５が1.53ｇ，銭６が3.85ｇ，銭７が2.52ｇ，銭８が3.20ｇである。出土地点は，銭２～銭６がSX－010，銭７がSX－011，銭８がSX－012である。このうち，銭２・銭３は竪穴状遺構Ａから，銭８は土坑５からの出土である。

SX－012の土坑３・土坑４から出土した骨は小片のため，人骨か獣骨か断定しがたい。

SX－010（第669図，図版326～328）

52～65は肥前産陶器である。52～58は碗で，17世紀後半から18世紀前半のものである。52は撥形の高台部をもつ呉器手と称される碗である。口縁部はわずかに外反する。高台部畳付を除いて透明釉，体部下半から底部外面にかけて白化粧土が重ね掛けされる。53～55は，いずれも口縁部から体部下端を除いて緑釉，内面は透明釉が施される。56～58は白化粧土の刷毛目文様を施した碗である。56は口縁部から底部片で，底部内面は蛇の目状に釉剥ぎがなされており，重ね焼きの痕跡がみられる。58は体部から高台部片である。底部内面への刷毛塗りはなされていない。59・60は皿である。59は口縁部片である。体部との境に稜を形成し，折縁状に外折する。端部は上方に弱くつまみ出される。内外面とも透明釉が施される。17世紀前半から中葉のものである。60は口縁部から体部の破片で，緩やかに湾曲しながら口縁部に至るものである。内面は緑釉，外面には口縁部から体部中位に透明釉が施される。17世紀後半のものである。61は鉢の底部付近の破片である内面に白化粧土の刷毛目文様を施した後，内外面に透明釉を施される。内面は蛇の目状に釉剥ぎがなされている。62～65は火入で，同一個体と考えられるものである。口縁部は鍔状に張り出し，腰部から体部は内折し，直立するものである。口縁部上面には１条の沈線を有する。体部外面は白化粧土の波状の刷毛目文様が施され，口縁部から体部外面に緑釉が掛けられる。腰部から下方は高台部畳付から底部外面を除いて錆釉が刷毛塗りされる。17世紀後半のものである。66～82・89～98は瀬戸・美濃産陶器である。66は古瀬戸平碗の口縁部から体部破片である。口縁部と体部の境に稜を有し，直線的に開くものである。体部上部から内面に灰釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。67は丸碗で高台部周辺を除いて灰釉が施される。17世紀後半のものである。68は御室茶碗の口縁部から体部片である。体部外面に呉須絵が描かれ，内外面とも灰釉が施される。18世紀前半のものである。69は腰錆碗の口縁部から体部片である。体部外面は３条の沈線が巡る。体部外面上方から体部内面は灰釉，体部外面下方は鉄釉に掛け分けされる。18世紀中葉から後半のものである。70は鎧湯呑碗の体部下端の破片である。外面は回転施文具による列点状の文様が施される。外面は灰釉，内面には鉄釉が施される。71は丸皿である。口縁部が外反するもので，高台部は削り出しによる。全面に長石釉が施されるが，底部外面の釉は拭い取られる。底部内面には三叉トチン痕がみられる。18世紀中葉のものである。72は摺絵皿である。体部下方は丸みを持ち，口縁部は直線的に開く。高台部は貼り付けによるもので，畳付は丸みを帯びたものである。底部内面には型紙摺りによる草花文の鉄絵が施され，体部外面中位から内面に灰釉が施される。18世紀中葉のものである。73は菊皿の口縁部片である。口縁部はヘラ状工具により成形され，体部外面には縦方向の刻線が施される。内外面とも灰釉が施される。74は浅形の黄瀬戸鉢の体部下端から底部片である。体部下端は丸みをもって立ち上がる。高台部は貼り付けによるもので，断面形は逆台形状である。底部内面には櫛描きによる同心円文と菊花の押印文が押される。内外面とも黄瀬戸釉が施されるが，底部外面は拭い取られる。内面には緑釉が部分的に流し掛けられ，方形のトチン痕が１か所みられる。17世紀中葉か

ら後半のものである。75・76は筒形の香炉で，18世紀前半のものである。75は体部から底部片で，外面に櫛描きによる沈線が施される。体部外面には黄釉が施される。76は口縁部から体部片で，口縁端部の断面形は三角形状で，内側に張り出すものである。口縁部から外面にかけて灰釉が施される。77は片口の底部片である。高台部は削り込み高台で，底部内面を除いて灰釉が施される。18世紀後半のものである。78は肩衝形の徳利の頸部から胴部片で，胴部はほぼ直立するものである。外面及び頸部内面に柿釉が施される。18世紀前半のものである。79は銭甕の体部片である。やや開きながら立ち上がるもので，体部下端を除いて柿釉が施される。80は壺の胴部から底部片である。底部は平底で胴部はほぼ直立する。胴部下端は面取り成形される。底部はヘラケズリが施される。内外面とも錆釉が施されるが，底部周辺は拭い取られる。81は汁次の取手である。全面に黄釉が施される。82は灯明皿である。体部外面下半から底部はヘラケズリが施されており，削り込み高台が作出されている。体部中位から内面にかけて濃緑色の灰釉が施される。17世紀中葉から後半のものである。89～98は擂鉢である。89は口縁部付近の破片で，端部がやや尖るものである。全面に鉄釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期から大窯第１段階第１小期（15世紀中葉から後半）のものである。90は口縁端部を内側に折り返し，玉縁状になるものである。内外面とも柿釉が施される。91・92は口縁部から体部の破片で，丸みを帯びた受け口状の口縁帯を有する。内面の口縁部と体部の境の稜は弱いものである。いずれも内外面とも柿釉が施される。90～92は17世紀後半のものである。93・94は同一個体で，受け口状の口縁帯を有する。口縁端部外面には弱い沈線が施される。内面の体部との境には明確な段が形成される。体部外面はヘラケズリ，底部外面は糸切り未調整である。摺目は，体部内面は17本１単位，底部内面周縁は同心円状，中央は放射状に施される。全面に柿釉が施されるが，底部外面周辺は拭い取られる。17世紀末から18世紀前半のものである。95・96は口縁部の縁帯はわずかに垂下するもので，95は口縁端部内面に弱い沈線が施される。内面の口縁部と体部の境の段は弱いものである。体部外面はヘラケズリ，内面の摺目は，95は17本１単位，96は９本１単位である。95は柿釉，96は錆釉が内外面に施釉される。いずれも18世紀前半のものである。97・98は口縁部から体部の破片で，口縁帯は折り返しによるものではなく，ヨコナデによって作出されたものである。口縁端部はやや肥厚し，内面は明確な段が形成される。98には口縁帯外面下方に１条の沈線が施される。いずれも内外面に錆釉が施される。98は口縁端部が擦れており，砥石に転用されたものとみられる。18世紀中葉のものである。83～86は志戸呂産陶器灯明皿で，18世紀前半から中葉のものである。83は体部中位から内面に錆釉が施される。内面に油煙の付着がみられる。84は薄手で扁平なものである。体部は丸みをもって立ち上がる。口縁部から内面は錆釉が施される。口縁部には油煙の付着がみられる。85・86は桟付きの受皿の破片である。いずれも体部中位から内面は錆釉が施される。99～119は肥前産磁器である。99～106は染付碗で，104は小形の丸形碗である。外面の主文様は，99は網目文，100は網目に露文，101は花文，102は山水文，103は牡丹唐草文，104は雨降り文，105は松竹梅文，106は輪宝繋文である。100・101は体部下方に圏線，高台部外面に二重圏線が描かれる。105は方形枠内に「渦福」銘が底部外面中央に記される。106は底部内面周縁に二重圏線が描かれる。99～103は17世紀中葉から後半，104は18世紀前半，105・106は18世紀後半のものである。107は青磁碗の体部から高台部片で，18世紀後半のものである。108～112は染付小杯である。108～111は同一意匠のもので，口縁部が外反する端反形のもので，高台部畳付には砂の釉着が認められる。108・109は同一個体である可能性が高い。体部外面は鶴丸文，底部内面には二重圏線内に花文が描かれる。底部外面には「大明」銘が記される。17世紀中葉のものである。112は丸形のもので，線描きによる草花文が描かれる。19世紀前半

から中葉のものである。113～116は染付皿で，17世紀中葉のものである。113・114は同一意匠の皿である。口縁端部には縁錆と呼ばれる鉄釉が施される。高台部は断面逆台形状で，幅が広い蛇の目高台である。畳付には砂の釉着がみられる。体部内面は崩れた松皮菱文，底部内面は圏線内に山水文が描かれる。115は型打ち成形による染付菊皿である。底部内面には菊花文が描かれる。高台部は蛇の目高台で，畳付には砂の釉着がみられる。116は染付手塩皿で，底部内面は花文が描かれる。高台部は蛇の目高台で，畳付は釉剥ぎがなされる。117は色絵染付油壺である。体部外面に縞文および連子文が赤絵の具で上絵付けされる。17世紀後半のものである。118・119はセットになると思われる蓋付きの青磁壺である。118の蓋は扁平な器形で，つまみは欠損している。身受けは環状で，高さ約0.5cmを測る。上面以外は露胎である。119の壺は頸部が直立し，肩の張りはなく，胴部はやや縦長である。口縁端部から頸部内面は露胎である。17世紀中葉のものである。120は瀬戸・美濃産磁器染付端反碗の口縁部で，口縁部外面に圏線，体部外面に格子文，口縁部内面には掻き落とし技法による連弧文が描かれる。19世紀中葉のものである。121はカワラケである。体部が直線的に開く逆台形状の器形を呈する。底部外面は糸切り痕が残されている。18世紀後半から19世紀代のものである。122～126は焙烙である。122～125は口縁部が矩形，底部は平底のもので，17世紀中葉から18世紀前半のものである。122は口縁端部外面も張り出し，体部と底部の境に貼り付けの際に生じた筋が２条みられる。122・125は内耳を貼り付けた部分が外側に張り出す。126は口縁端部が丸く仕上げられるもので，18世紀中葉から後半のものである。127は土師質の焜炉の口縁部片で，外面には１条の沈線が施される。図示したもの以外の破片は，陶器碗60点・皿29点鉢１点・擂鉢24点・徳利10点・瓶類８点・香炉３点・灯明皿２点・火鉢１点・器種不明２点，磁器碗85点・皿９点・瓶類１点，焙烙267点が出土した。

SX－011（図版328）

128・129は京都・信楽産陶器である。128は碗の底部片である。体部から底部外面に灰釉が施される。18世紀前半のものである。129は灯明皿である。内面は透明釉が施される。口縁部には油煙が付着する。130は瀬戸・美濃産陶器筒形香炉の体部から底部片である。体部外面に灰釉が施される。18世紀前半のものである。131は肥前産陶器土瓶の胴部片である。外面は白化粧土が厚く掛けられている。内面は胴部上方に灰釉が施される。19世紀前半のものである。132は肥前産磁器小杯の体部片で，口縁部が端反形のものである。外面に網目文が描かれる。17世紀中葉から後半のものである。図示したもの以外の破片は，陶器碗３点・皿３点・瓶類３点・香炉１点，磁器碗１点・皿３点・香炉１点が出土している。

SX－012（図版328）

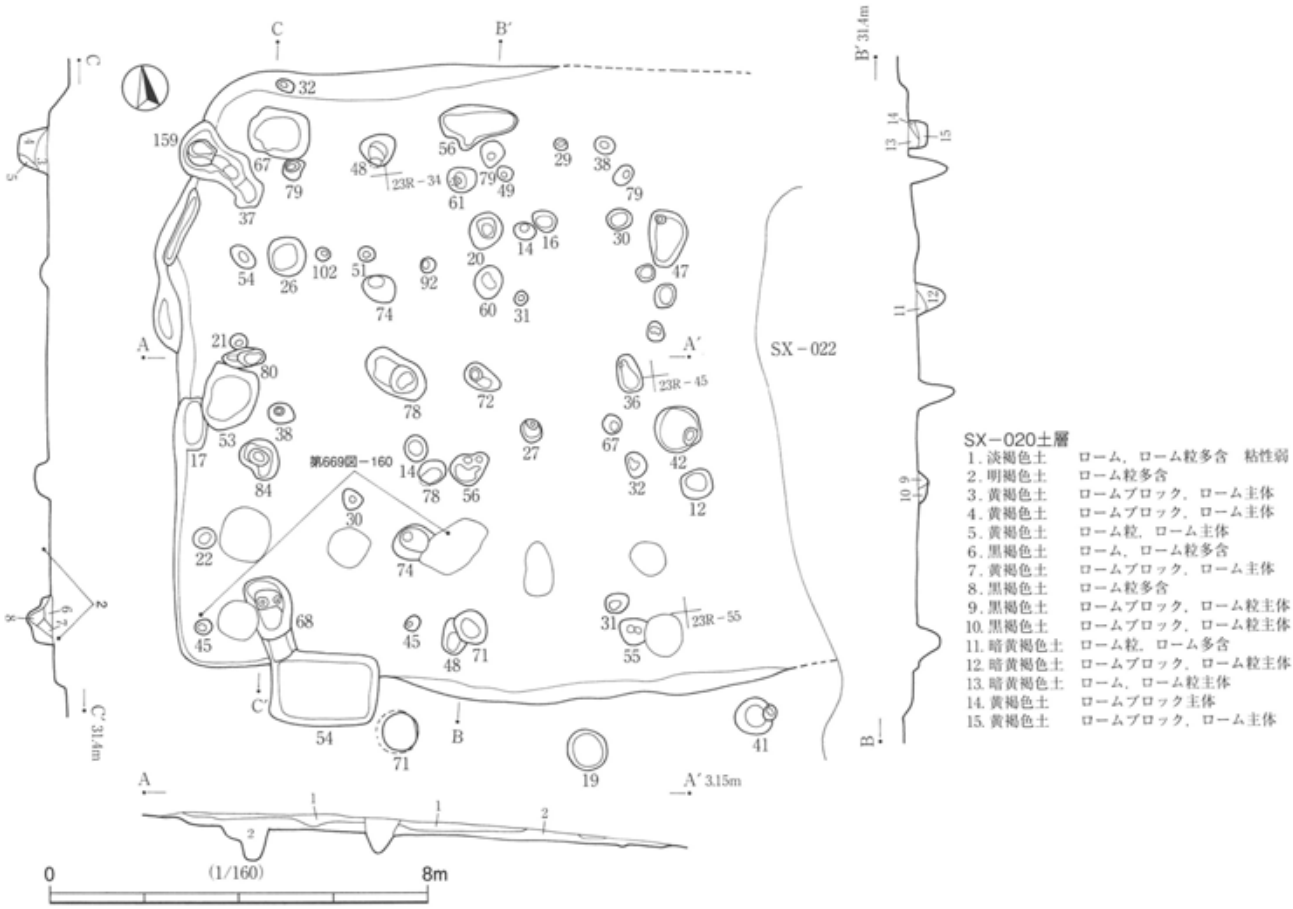
133～138は肥前産陶器である。133～136は碗で，17世紀末から18世紀前半のものである。133・134は外面は体部下端から底部を除いて緑釉，内面には透明釉が施されるものである。134は高台部の高さが約1.1cmで，やや撥形を呈する。135は京焼風の丸碗の口縁部片で，内外面とも透明釉が施される。136は内外面に白化粧土による刷毛目文様が施される碗の口縁部である。137は皿の口縁部片で，口縁端部が外反するものである。外面は白化粧土の刷毛目文様が施され，内外面とも透明釉が施される。138は京焼風の火入の体部から高台部片である。高台部は蛇の目高台で，底部外面中央に兜巾を有するものである。体部外面に透明釉が施される。17世紀中葉から後半のものである。139～147は瀬戸・美濃産陶器である。139は丸碗の体部片で，内外面に灰釉が施される。140は腰錆碗の口縁部片で，外面下端に沈線が１条みられる。内外面とも灰釉が施される。18世紀後半のものである。141は輪禿皿の口縁部から体部片である。体部外

面下方を除いて灰釉が施される。口縁部内面には重ね焼きの際の釉着痕がみられる。17世紀後半のものである。142は筒形の香炉の体部から底部片で，体部外面は半菊文が丸ノミ彫りされ，底部には足が付される。体部外面に灰釉が施される。18世紀前半のものである。143は肩衝小壷の体部片である。体部外面下端を除いて柿釉が施される。17世紀末から18世紀前半のものである。144～147は擂鉢で，144～146は口縁部から体部の破片である。144は角張った受け口状の口縁帯をもつものである。内面の口縁帯と体部の境の稜は明瞭である。内外面とも柿釉が施される。18世紀後半のものである。145・146は同一個体の破片である。口縁部と体部の境にヨコナデによる凹みが施され，内面は丸みを帯びた凸帯状の段が形成される。口縁部外面の下方には１条の沈線が施され，折り返し状に作出されている。口縁端部はやや肥厚する。内面の摺目は13本１単位である。内外面とも錆釉が施される。18世紀中葉のものである。147は体部から底部の破片である。体部外面は上方までヘラケズリが施される。底部外面は糸切り未調整である。内面の摺目は，体部は10～11本１単位で，底部内面は同心円状に施される。148～155は肥前産磁器である。148～151は染付碗である。148は口縁部下に二重圏線が描かれる。149は外面に条線文と丸文が描かれたものである。148は体部から高台部片で，体部外面下端および底部外面に，高台部外面に二重圏線が描かれる。151は外面に手描きによる蘭文とコンニャク印判による若葉文が施される。148・149は17世紀中葉から後半，150は17世紀末から18世紀前半，151は18世紀前半のものである。152は染付菊皿で，SX010から出土したもの（115）と同一意匠のものである。153・154は染付小杯である。口縁部はいずれも端反形で，153はSX010出土のもの（108～111）と同一意匠のものである。155は染付仏飯器の体部片である。体部外面及び脚部の付け根に圏線が施される。18世紀末から19世紀前半のものである。156～158は焙烙で，18世紀前半のものである。157は口縁部から体部片で，口縁端部は内側に張り出す。156は内耳付近の破片で，底部は平底である。口縁端部は角張っており，わずかに内側に張り出す。158は体部から底部片で，底部は平底である。外面の体部と底部の境は明確な稜が形成される。図示したもの以外の破片は，陶器碗13点・皿３点・鉢２点・瓶類10点・擂鉢８点・灯明皿１点，磁器碗11点・皿３点が出土している。

SX－020（第603図，図版163・329）

東部東寄りの23R区に位置する。建物跡を含む遺構と思われるが，不明瞭な点もある。やや浅く掘り込まれた範囲内に，柱穴と思われるピットが多数ある遺構である。遺構はほぼ台地平坦面に立地するが，東側にわずかに下っている。掘り込みは東側に壁が存在しないが，ピットの様相を合わせると，ほぼ方形に区画，整地されたものといえよう。東側に壁がないのは，当初から無かったものと思われるが，至近にある台地整形区画遺構SX－022やSX－013に削られたり，影響を受けたことも考えられる。本遺構は比較的平坦なところに位置するが，地表面を若干削って，より平坦な面を求めたものであろう。方形区画は台地整形の一種であり，SX－022，SX－013と同時期の可能性が考えられる。

方形区画の規模は，西辺の長さが12.6m，深さ30cmである。南辺は南西隅から13mで壁が消滅するが，西辺とほぼ同じ長さである。北壁の遺存は７mと短い。西辺の方位は，N-8°-Eである。区画内には多数のピットがあるが，そのうちの一部は奈良・平安時代の掘立柱建物跡の柱穴である。台地上には奈良・平安時代の集落もあるため，他のピットにも同様のものが含まれている可能性がある。しかし，本遺構自体は，方形区画の規模や周囲の遺構との関係，出土遺物から近世以降の時期と思われる。区画内のピットもその様相から，区画と同時期のものの方が多いと思われる。ピット群を除く底面の状態は，南北方向がほぼ平坦，東西方向は西から東に下っている。東側はわずかに損なわれている。



第603図　SX－020

区画内のピットの多くは，建物の柱穴と思われる。しかし，その位置関係は奈良・平安時代の掘立柱建物跡と比べるとかなり不明瞭である。その理由としては，奈良・平安時代の柱穴が混在する他に，建て替えがあったこと，柱穴が小規模で，柱の下に置かれた礎石や，土間あるいは作業場の存在等，様々に考えられる。ピット群は，中央の南北や北側東西などで，柱筋が通ると思われる部分もあるが，建物を明確にすることが難しい。したがって，規模や柱間等は判然としないが，最大規模で，南北10.5m，東西９m程度と思われる。そして実際には，この規模を下回る単独建物，または複数の建物の組み合わせ，それらの建て替えなどが考えられる。各ピットについては，断面形を図示していないものが多いので，センチ単位で深さを図中に記載した。なお，北西隅付近に，SX－013bに類似する土坑がある。この土坑は柱穴ではなく，性格もSX－013b等と同様であろう。また，南壁西寄りで，長方形のやや大型遺構と重複するが，これは炭焼窯である。堆積土はローム粒・ロームブロックの含有が多いが，台地の縁寄りで浅いことから，埋め戻されているか断定しがたい。

遺物（第669図，図版329）

159は古瀬戸縁釉小皿の口縁部から体部片である。口縁部から体部内面上方に灰釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。160は古瀬戸天目茶碗の口縁部から体部片である。口縁部はやや外傾しながら開く。体部下方から内面に鉄釉が施される。古瀬戸後Ⅲ期（14世紀前半）のものである。161は常滑産陶器片口鉢である。口縁端部は外側及び内側に張り出す。口縁端面には沈線が１条巡る。体部外面は，下方はヘラによる掻き上げ，上方は指頭による押圧痕がみられる。外面口縁部下には重ね焼

きの際の釉着痕がみられる。底部外面は無調整である。常滑編年９型式期（15世紀前半）のものである。図示したもの以外の破片は，陶器瓶類１点が出土した。

（２） 井戸状遺構

SK－054，SK－266，SK－267（第604図，図版168）

SK－054，SK－266，SK－267は東部調査区内北側の23P・23Q区に位置する。SX－010の北にあって，建物に伴う遺構である。３基は接近して並んでいるので，ここでまとめて記述する。西側のものがSK－054，中央のものがSK－266，東側のものがSK－267で，SX－010・SX－011の西側柱穴列から，1.5m～２m北に所在する。SK－054とSK－266の間は30cm弱，SK－054とSK－267の間は２m強，SK－266とSK－267の間は70cm弱である。

３基の平面形は，おおよそ円形であるが，SK－054の上端はやや楕円となる。上端の径は，SK－054が1.5m～1.7m，SK－266が1.05m，SK－267が1.3m～1.4mである。３基とも非常に深い遺構であり，安全対策上，途中で人力による発掘を中止している。しかし，SK－054，SK－266については，重機を使用して断面観察を実施しており，3.2m～3.7m程度の深さであることが確認された。以下その概略を記述する。

３基の壁は直立的であるが，上端から下方に向かってややすぼまっている。SK－054の下部の径は１m～1.1m，SK－266の下部の径は70cm～80cm，SK－267の下部の径は80cmである。壁面は滑らかである。重機による断面観察の結果，確認面から3.2mの深さで灰白色粘土層に至り，水が湧出した。台地平坦部上であるが，地下水位がかなり高い位置にあった。なお，地下水位については，遺構・地層の様相から変動は少ないと思われる。SK－266の底部は，円筒状の壁からそのまま直に下がり，やや丸みをもつことが確認された。SK－054は3.7mの深さまで掘り下げたが，湧水により，下部の壁が崩壊し，底面の状態まで確認することはできなかった。

SK－054・SK－266の堆積土はすべて黒褐色土主体の土層であり，SK－267も同様であった。いずれも自然堆積と思われる。なお，詳細な記録はSK－054のみであり，それも安全対策上，上部にとどまる。

以上３基の井戸については，継起的に作られたものか，同時存在か判然としない。ただし，SK－054とSK－266は非常に接近した位置にあるので，同時存在の可能性は少ない。

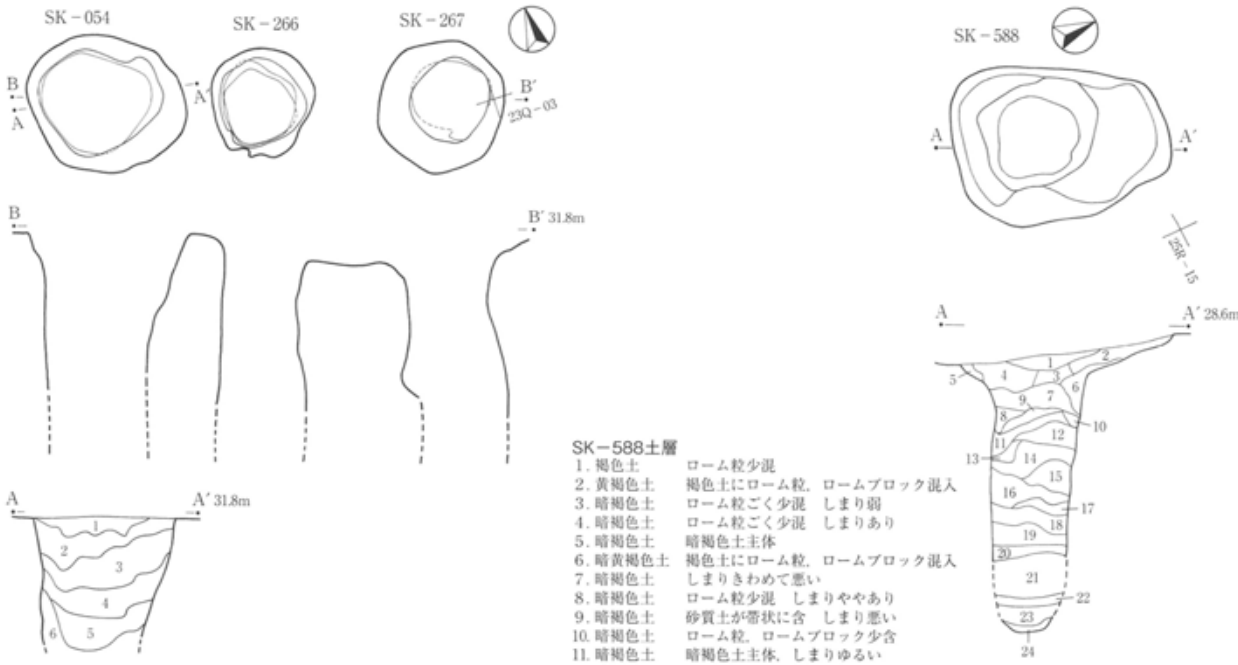
SK－588（第604図，図版192・329）

東部東端の25Q区で，整形区画遺構SX－032内に位置する。やや不整な筒状の形態で，壁の横断面形は直線的で角張る部分と，丸みを帯びる部分がある。上端はやや広がっており，確認面の平面形は不整な楕円形である。筒状部分の径は85cm前後，確認面からの深さは2.9m，上端の長さは2.3m，幅は1.65mである。筒状部分の壁はほぼ直立するが，わずかに上部で広がり，下部ですぼまる。確認面から約２mの深さで灰白色の粘土層に達し，水が湧出した。堆積土では20層と21層の境であり，安全対策上，その部分で人力での発掘を中止した。そこから下部は重機を使用して，断面観察を行った。なお，21層部分の壁は，崩落して抉れている。

堆積土の最下層は灰白色粘土主体であり，その上部の下・中層も粘土の包含がみられる。また，ローム粒・ロームブロックを多く含む土層もあるが，概して暗褐色土主体であり，自然堆積と思われる。

遺物（図版329）

162～164は瀬戸・美濃産陶器である。162は擂鉢の体部片である。外面はロクロ目が顕著である。内外



SK－054土層
1. 暗褐色土　ハードロームブロック水玉状含　炭化物灰白色粘土少
2. 暗褐色土　1に比べしまり良好
3. 黒褐色土　1と同じ，粘性ありしまり有り灰白色粘土ブロック状混
4. 黒褐色土　3とほぼ同じ
5. 黒褐色土　ハードロームブロック少混
6. 黒褐色土　少ハードロームブロック主体，ハードローム粒多しまり悪い

SK－588土層
1. 褐色土　ローム粒少混
2. 黄褐色土　褐色土にローム粒，ロームブロック混入
3. 暗褐色土　ローム粒ごく少混　しまり弱
4. 暗褐色土　ローム粒ごく少混　しまりあり
5. 暗褐色土　暗褐色土主体
6. 暗黄褐色土　褐色土にローム粒，ロームブロック混入
7. 暗褐色土　しまりきわめて悪い
8. 暗褐色土　ローム粒少混　しまりややあり
9. 暗褐色土　砂質土が帯状に含　しまり悪い
10. 暗褐色土　ローム粒，ロームブロック少含
11. 暗褐色土　暗褐色土主体，しまりゆるい
12. 暗褐色土　ローム粒，砂少混　しまり弱
13. 暗褐色土　暗褐色土主体　しまり弱
14. 暗褐色土　ローム粒　ロームブロック含　ややしまりあり
15. 暗黄褐色土　暗褐色土にローム粒，ロームブロック多混　しまりややあり
16. 暗褐色土　ローム粒少混　しまりややゆるい
17. 暗褐色土　ロームブロック　乳白色の粘土ブロック含　しまりあり
18. 暗褐色土　ロームブロック含
19. 暗褐色土　ロームブロック18層より少　乳白色の粘土やや多
20. 暗褐色土　乳白色の粘土少含　しまりあり
21. 暗褐色土　ローム粒，ロームブロック含
22. 黄褐色土　粘土質
23. 青灰色粘土　粘土質
24. 暗褐色土　21層と同じ

第604図　井戸状遺構

面とも錆釉が施される。163は半球形の碗の体部から高台部片である。体部下端から高台部を除いて灰釉が施される。18世紀後半のものである。164は腰錆碗の体部下端から高台部の破片である。外面は鉄釉，内面は灰釉が施される。図示したもの以外の破片は瀬戸・美濃産陶器火入1点，焙烙1点が出土している。

（3）　地下式坑

SK－060A（第605図，図版168・329）

東部調査区内では，北側の22Q・23Q区に位置する。主室は南北に長い長方形で，出入口部は東側長辺に付く。出入口部も奥行きの短い長方形の形態である。主室の奥側（西側）長辺は，中央で若干丸みをもち，南側短辺との間が鈍角をなす。出入口部は上部で広がり，隅は丸みをもつ。主軸方位はN-80°-Wである。主軸長は3.1m，出入口部の上端幅は2.3m，奥行きは0.85m，出入口部底面の幅は1.3m，奥行きは30cm，主室底面の幅は2.6m，奥行きは1.9mである。出入口部底面の深さは1.05m，主室底面の深さは2.25mである。主室底面はほぼ平坦であるが，底面の出入口側中央が一段高まっている。これは，出入口部底面と主室底面の高さの差が1.2mと，かなり大きいためであろう。出入口部底面とこの段上との差は70cm，段上と主室底面との差は50cmである。段基底部の規模は，幅が75cm，奥行きが30cmである。底面に突出している段と，出入口部底面の間の壁にも段状の部分があり，出入口側の壁は階段状になっている。壁の角度はおよそ50°で，かなり強い傾斜である。壁は出入口側以外は，底面から直立か，やや抉って丸みをも

ちながら，立ち上がる。北側の壁は，底面から約1.1mでオーバーハングするので，このくらいの高さから，天井部が造られたのであろう。天井部は，中央から南北にかけてかなり崩落しているとみられる。

奥壁際中央でシカの後頭骨と思われる獣骨が出土した。また，北西隅では，擂鉢と貝ブロックが出土した。擂鉢は体部下部から底部の破片で，下層の15層から正位で出土した。獣骨は10層から出土し，貝は獣骨よりもやや高く，12層上部から出土した。

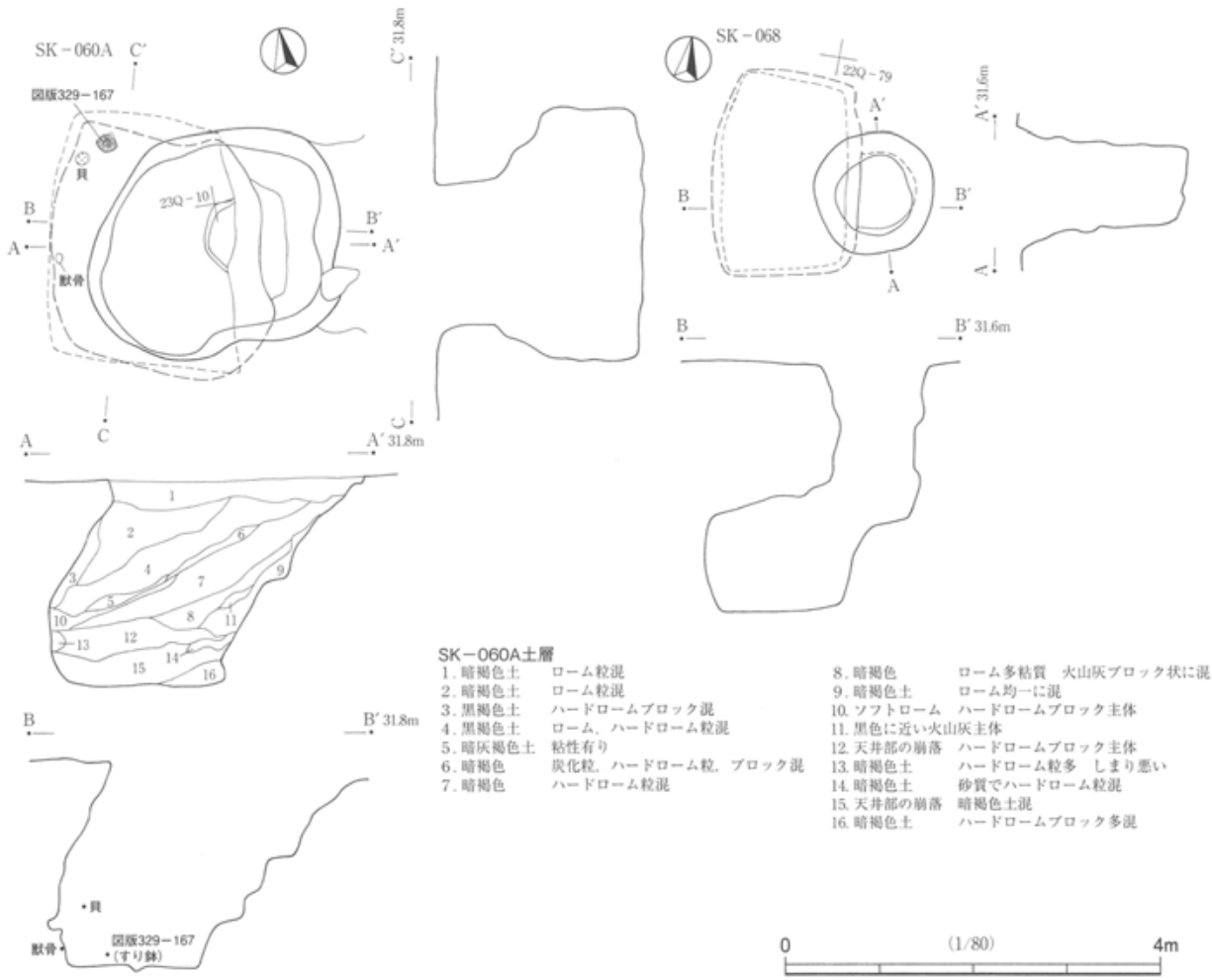
堆積土をみると，下層はハードロームブロック主体の土層であり，天井部が崩落したものである。それに対し，中・上層は出入口側から斜めに堆積しており，大きな崩落の後に，出入口部から流入した堆積状況を示すものである。なお，11層は宝永の火山灰と思われる。

出土した骨が獣骨であるため，本遺構が土坑墓かどうか不明である。しかし，出土遺物が少ないため，貯蔵穴とも断定しがたく，双方の可能性を残しておきたい。

本遺構の東側には不整な土坑群があり，一つながりで続いている。調査では，本遺構とそれらを含めてSK－060とした。本遺構と土坑群は関連性をもつことも考えられるが，断定しがたい。そのため，本遺構部分のみをSK－060Aと振り，独立した遺構として扱った。なお，SK－060土坑群の東には接近して建物遺構SX－010がある。土坑群や本遺構が建物遺構に関係する遺構であることも考えられる。

遺物（図版329）

165～167は瀬戸・美濃産陶器で，18世紀代のものである。165は丸碗の体部下端の破片である。体部外



第605図　地下式坑

面下方を除いて灰釉が施される。166は半球形の湯呑碗の口縁部から体部片である。内外面とも灰釉が施される。167は擂鉢の体部下方から底部片である。体部外面はヘラケズリ，底部外面は糸切り痕が残されている。摺目は体部内面及び底部内面に施され，９本１単位である。内外面とも錆釉が施される。168は砲弾形を呈する志戸呂産陶器の由右衛門徳利である。体部外面中位から底部にヘラケズリが施される。17世紀末から18世紀前半のものである。169は肥前産磁器染付皿で，体部が緩やかに開くものである。体部外面は折れ松葉文，底部内面は蝶とススキ文が描かれ，底部外面中央には「大明」銘が記されている。高台部は高さ約1.0cmを測り，畳付は釉剥ぎがなされている。17世紀中葉から後半のものである。170は焙烙の口縁部から体部片である。口縁端部は矩形で，やや内側に張り出す。18世紀前半のものである。図示したもの以外の破片は，陶器碗１点・徳利２点，磁器瓶類１点，焙烙１点が出土した。

SK－068（第605図，図版168）

東部調査区内北側の22Q区に位置する。平面形は，出入口部が円形，主室が長方形である。出入口部は主室の東側長辺のやや南寄りに付く。主室は南北に長い長方形であるが，東辺が西辺より短く，若干台形的な形態である。また，奥側の西辺はやや弧状に突出するが，南北の短辺には直角的，鋭角的に曲がる。主軸方位はN-94°-W，主軸長は2.35mである。出入口部は上端の径が1.3m，深さは1.7mであるが，主室は1.3m程度の深さから掘り込まれている。出入口部底面は，現状で東側に30cm程度の奥行きをもつ。主室底面の幅は2.1m，奥行きは1.45mである。壁はやや抉れており，主室の最大規模は数cm～10数cm程度，底面よりも広い。主室底面から天井部までの高さは１m～1.35m，主室底面の深さは2.65m，天井部の深さは1.25m～1.7mである。天井部は全面的に剥離している。

遺物については，時期や性格を決定できるものの出土がなかった。堆積土については，断面を図示していないが，最下層はハードロームブロック主体，下層はロームブロックと黒色土の混合土，中・上層は黒色土主体の土層であった。なお，堆積土最上部にハードロームがのっているが，天井部が崩落したものである。この崩落土と現天井との間に５cm程度の空間がある。また，堆積土は全体に硬くしまっている。このような状態から，主室内の堆積土は埋め戻されたものと考えられる。

（４）　溝状遺構・道路状遺構，土坑列および関連遺構

SD－004，SK－057，SK－058（第606図，図版155・329）

SD－004，SK－057，SK－058は東部北側東寄りの23Q区に位置する。SD－004は東西に走行する溝状遺構と土坑列を合わせたものである。土坑列は溝状遺構の北で，ほぼ接する近さに位置する。溝状遺構の南にも東西にやや長い土坑群があり，SK－057の遺構番号が振られている。その周囲にはいくつかの土坑が分布する。また，溝状遺構の東にはやや大型の土坑であるSK－058が位置する。これらの遺構も溝状遺構・土坑列と関わる遺構と思われる。

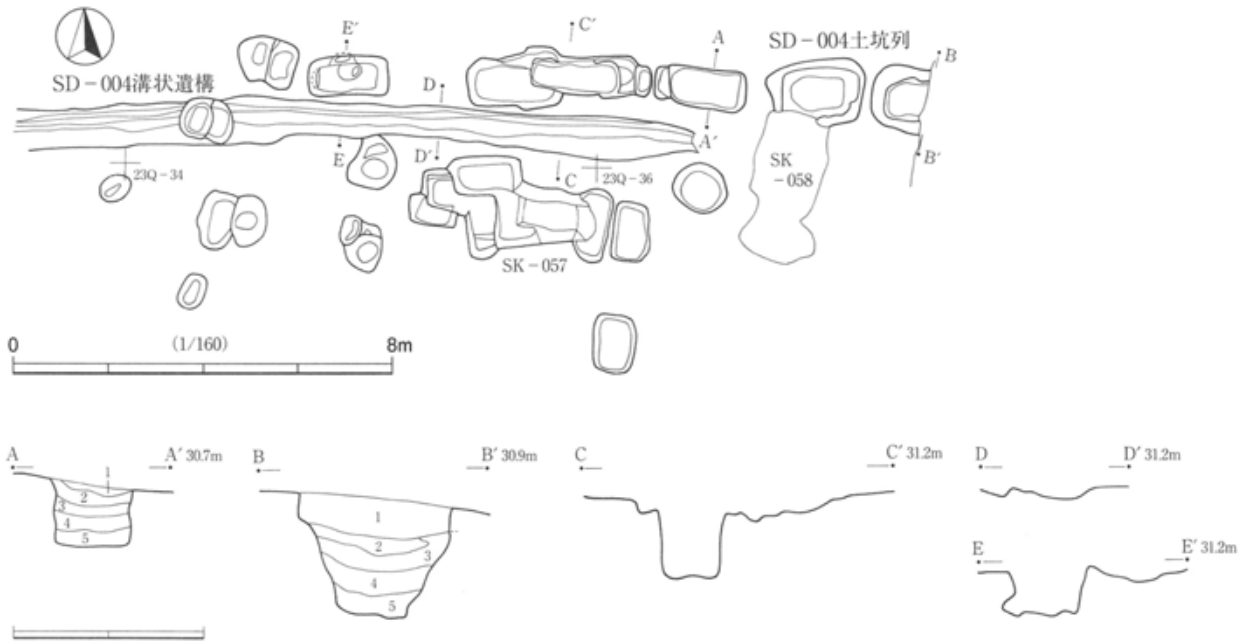
溝状遺構は全面硬化しており，道路跡であろう。SX－010と重複しているが，新旧関係は不明である。しかし，SX－010建物遺構A・竪穴状遺構Aと平行することから，これらの建物と同時期と思われる。東端はSK－058の手前で途切れているが，地形が東に下る緩斜面となってくるためであり，その上部を横切って，SD－054に接続すると思われる。西側については，SX－010・SX－011の西側柱穴列の手前で途切れている。浅い遺構のため，その上部を横切ってSD－006に接続するかもしれない。調査した長さは14.5m，上端幅は遺存のよい部分で１m，深さは15cmである。この道路跡は，建物遺構と東部東端の南北

道路を結ぶ道路と思われる。

土坑列を構成する土坑の数は，重複を考慮すると10基程度である。土坑の形態は，おおむね長方形で，一部がつながっている。長方形土坑の規模をまとめると，上端の長さは1.6m～２m，幅は0.7m～1.4m，深さは50cm～1.2m，底面は長さが1.1m～1.8m，幅は50cm～70cmである。東寄りの土坑は上端が大きく，深さもあるが，底面の長さは逆にやや短い。底面は凹凸があるが，比較的広い。壁は概して直に立ち上がるが，東寄りの土坑はやや傾斜している。堆積土の記録は東端の土坑と西寄りの土坑でとられている。東端の土坑は下層が黒褐色土主体，中層がローム粒・ロームブロックを多く含む。西寄りの土坑は黒褐色土主体であるが，中・下層にローム粒・ロームブロックを多く含む層がある。東端の土坑は埋め戻されたことも考えられるが，斜面に近いため，やや断定しがたい。また，西寄りの土坑も判然としない。

SK－057は，その形態から主として８基～９基の長方形土坑が連続したものと思われる。底面から，個々の土坑をみると，長軸が東西方向のものと南北方向のものがみられる。東端の土坑はわずかに離れて南北に長軸をとる。群としてみると，東西方向に連結しており，その方向は溝状遺構・土坑列の方向に近い。深さは30cm～１mであるが，50cm台・60cm台のものが多い。堆積土をみると，上・中層はローム粒・ロームブロックを多く含み，埋め戻された可能性がある。しまりが弱い土層が多い点で，土坑列中の土坑・SK－058と共通性がある。

SK－058は土坑列東端から２番目の土坑と重複するが，新旧関係は不明である。形態は長方形で，南側は他の土坑と重複していると思われる。上端の長さは2.2m，幅が1.5m，深さは70cmである。規模がやや大きく，底面の幅は狭いが，土坑列群の土坑と大きな隔たりはないと思われる。長軸方向と土坑列の方向がなす角度は比較的直角に近い。堆積土は黒褐色土・暗褐色土である。中・上層にローム粒・ローム



SD－004土層

A－A′
1. 黒褐色土　しまり・粘性なし，ローム粒混
2. 黒褐色土　しまりなし，粘性あり，ローム粒混
3. 黒褐色土　しまりなし，粘性あり，ローム粒混
4. 黒褐色土　しまりあり，粘性なし，ローム粒子・ロームブロック多混
5. 黒褐色土　しまり・粘性なし，ローム粒子・ロームブロック多混

B－B′
1. 黒褐色土　しまりあり，粘性なし，ローム粒子・炭化物・焼土少混
2. 黒褐色土　ソフトローム多混
3. 黒褐色土　しまり・粘性なし，ローム粒子多混
4. 黒褐色土　しまりあり，粘性なし，ローム粒子・ロームブロック少混
5. 黒褐色土　しまりなし，粘性なし，ローム粒少混

第606図　SD－004

ブロックを多く含む点で，土坑列東端の土坑と似ている。また，しまりが弱い点でも，土坑列中の土坑・SK－057と共通点がある。

以上，SK－057・SK－058は土坑列の土坑と共通点が多い。性格については判然としないが，同様のものと思われる。土坑列とSK－057は道路跡と重複していないため，両者が作られた時点で，道路が存在していたのであろう。

遺物

SD－004（図版329）

171は肥前産陶器碗の口縁部から体部片である。内外面とも白化粧土の刷毛目文様が施される。17世紀末から18世紀前半のものである。172は肥前産磁器染付碗の底部付近の破片である。体部外面下端・高台部・底部内面に圏線が描かれる。17世紀末から18世紀前半のものである。図示したもの以外の破片は，陶器碗１点，磁器碗１点，焙烙１点が出土した。

SK－057（図版329）

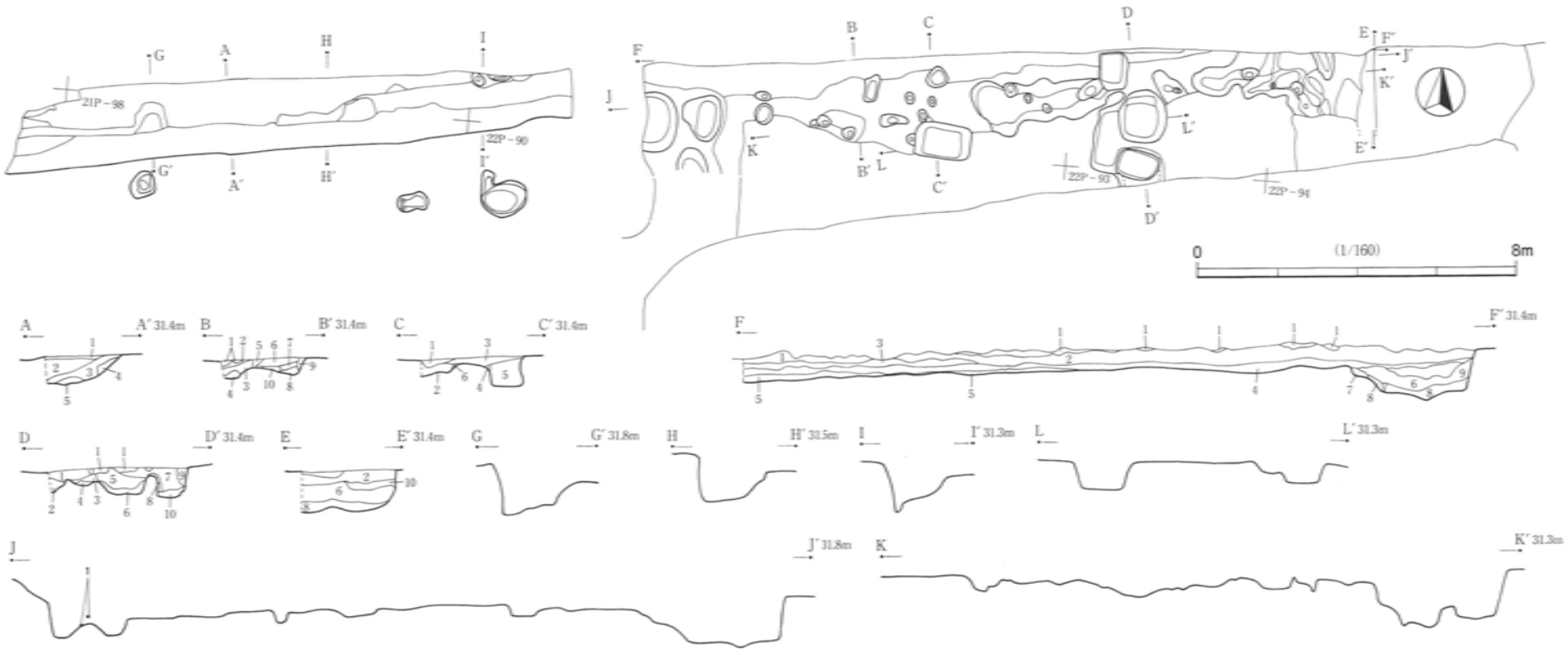
173は肥前産陶器皿の口縁部付近の破片である。外面は口縁部から体部上方に透明釉，内面には緑釉が施される。17世紀末から18世紀中葉のものである。174・175は瀬戸・美濃産陶器である。174は壺の肩部付近の破片である。外面は鉄釉，内面は錆釉が施される。175は片口の口縁部片である。口縁端部上面は平坦で，内側に張り出す。内外面とも灰釉が施される。18世紀後半のものである。

SX－015（第607図，図版329）

21P・22P区に位置する。東部調査区内では北側西寄りから，中央部にかけて位置する。本遺構は，本遺跡を東西に貫く道路跡の一部で，SD－021等から続く遺構である。遺構の記述はSD－021等とともにおこったので，ここでは詳細な記述は省略する。

遺物（第669図，図版329）

176・177は常滑産陶器である。176は壺の体部下端から底部片である。体部外面および底部はヘラケズリ，体部内面はヨコナデ，底部内面はナデが施される。体部外面には自然釉が付着している。177は甕の体部下端から底部片である。体部外面は横方向のナデが施される。178～180は肥前産陶器である。178は碗の底部から高台部片である。高台部は撥形に開き，底部外面の中央が突出する兜巾高台である。体部外面は緑釉，内面は透明釉が施される。179は皿の口縁部片で，口縁部が外反するものである。178・179は17世紀中葉から後半のものである。180は土瓶の胴部片である。18世紀後半から19世紀前半のものである。外面は白化粧土を施した後，上方に緑釉が重ね掛けされる。内面は上方に透明釉が施される。181～183は瀬戸・美濃産陶器である。181は鉄絵皿の底部片である。内外面とも長石釉が施され，内面に蘭竹文が描かれる。17世紀代のものである。182は腰錆碗の口縁部から体部片である。外面下方に沈線が５条施される。外面上方及び内面は灰釉，外面下方は錆釉に掛け分けされている。18世紀後半のものである。183は擂鉢の体部下端から底部片である。割れ口は全面擦れており，砥石に転用されたものと思われる。体部内面の摺目は13～14本１単位である。底部外面は糸切り未調整である。内外面とも錆釉が施される。184は志戸呂産陶器灯明皿の受皿で，桟部は欠損する。内外面とも錆釉が施される。18世紀前半のものである。185は相馬産陶器行平の蓋の口縁部付近の破片である。外面は飛鉋による文様が施され，その上下に同心円状に錆釉が施される。内面は口縁部を除いて柿釉が施される。186は堺産陶器擂鉢の口縁部片で，18世紀後半のものである。187～191は肥前産磁器である。187は染付碗の体部から高台部片である。高台部がやや



第607図　SX－015

SX－015土層

A－A′
1. 暗褐色土　ハードローム粒混　焼土粒少混
2. 暗褐色土　砂質でハードローム粒混
3. 黒褐色土　ローム水玉状に混　ハードロームブロック混　暗褐色土縞状に混
4. 黒褐色土　暗褐色土を水玉状に多混
5. 黒色土　ハードロームブロック多混

B－B′
1. 暗褐色土　しまり良
2. 暗褐色土　ハードローム粒多混
3. 暗褐色土　ハードローム粒、焼土粒を水玉状に混
4. 暗褐色土　ハードローム粒わずかに混　しまり弱
5. 暗褐色土　ハードロームブロック混
6. 暗褐色土　ハードローム粒わずかに混
7. 黒褐色土　ハードロームブロック小わずかに混
8. 黒褐色土　ハードロームブロック中を水玉状に混　砂質　しまりやや弱
9. 黒褐色土　ソフトローム粒わずかに混
10. 暗褐色土　ソフトローム、ハードローム粒わずかに混

C－C′
1. 黒褐色土　ソフトローム粒　焼土粒混　しまり良
2. 黒褐色土　1よりやや暗い
3. 褐色土　ハードローム粒混
4. 褐色土　ソフトローム、ハードローム粒混
5. 褐色土　ハードロームブロック非常に多混　黒色土、ソフトローム混
6. ソフトローム

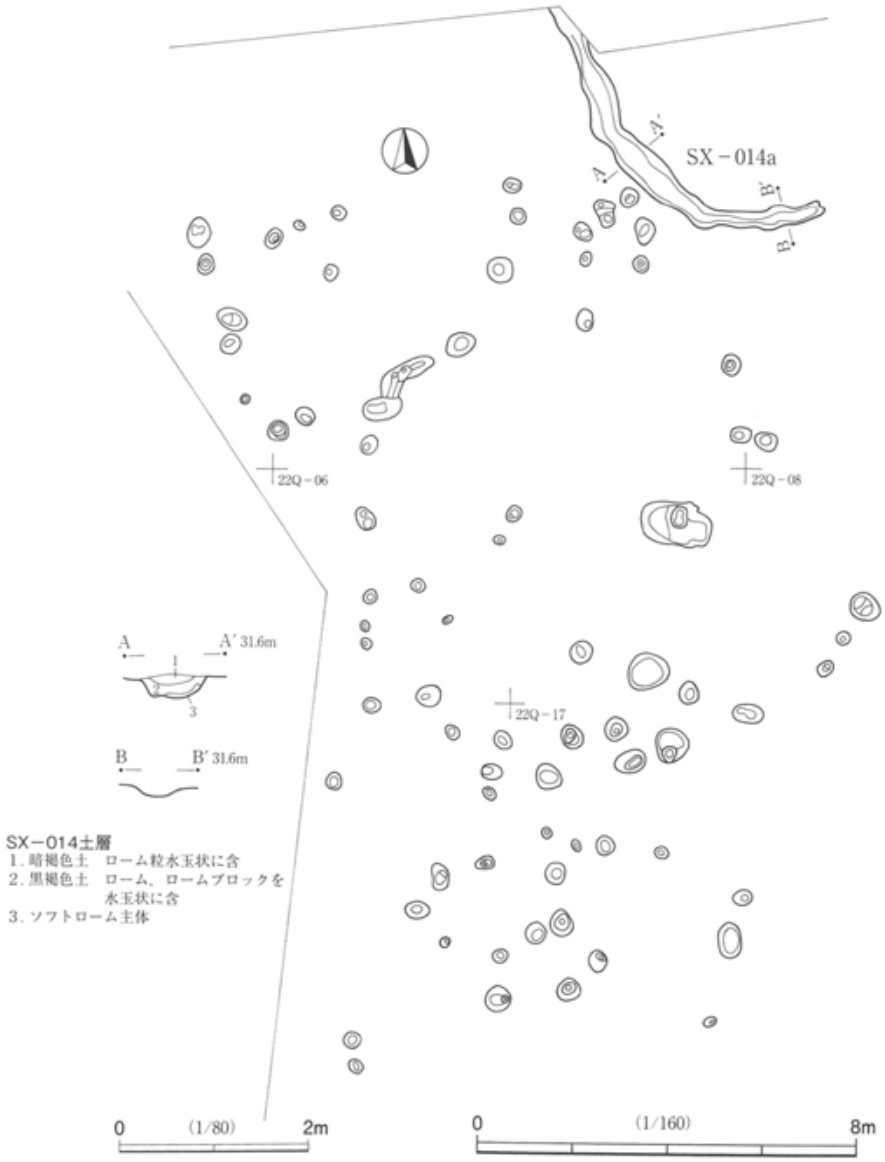
D－D′
1. 黒褐色土　ハードローム粒、焼土粒混、しまり良
2. 黒褐色土　焼土粒わずかに混、しまり良
3. 黒褐色土　ハードローム粒わずかに混、しまり良
4. 褐色土　ハードロームブロック多混
5. 褐色土　ハードロームブロック大多含　ソフトローム混
6. 褐色土　5より暗い　内容同じ
7. 暗褐色土　ハードロームブロック大混入
8. 暗褐色土　7とほぼ同じ　やや明るい
9. 黒褐色土　ハードロームブロック中混入　しまり弱
10. 黒褐色土　ハードロームブロック中混入　しまり弱　9より暗い

E－E′・F－F′
1. 暗褐色土　ハードローム粒、焼土粒混　炭化物わずかに混
2. 暗赤褐色土　ハードローム粒、焼土粒、炭化物混
3. 赤褐色土　ハードローム粒、焼土粒、炭化物混
4. 暗褐色土　ハードローム粒、焼土粒、炭化物混
5. 黒褐色土　ハードロームブロック多混
6. 暗褐色土　ハードロームブロック、ローム少混
7. 暗褐色土　ハードロームブロック、ローム多混
8. 暗褐色土　ハードローム粒わずかに混
9. 暗褐色土　ハードロームブロック混
10. 暗褐色土　ハードロームブロックわずかに混　しまり良

外側に開くものである。外面は体部下端と高台部は圏線が描かれ，底部内面には圏線内にコンニャク印判による五弁花文が施される。188は染付筒形碗の体部から高台部片である。体部外面に菊花と地文に格子文，底部外面及び体部内面下端に圏線，高台部付け根に二重圏線が描かれる。187・188は18世紀後半のものである。189は染付手塩皿の体部から高台部片である。型打ち成形されたもので，口縁部は波状になるものと思われる。底部内面には山水文が描かれる。高台部畳付は釉剥ぎがなされる。19世紀前半から中葉のものである。190は合子で，体部外面に３条の横縞文が描かれる。底部外面及び口縁部から内面体部上方は露胎である。191は白磁の紅皿の口縁部から体部片である。外面に蛸唐草文を型押し成形したものである。底部周辺は露胎である。189～191は19世紀前半から19世紀中葉のものである。図示したもの以外の破片は，陶器碗６点・徳利２点・瓶類５点・擂鉢１点・香炉１点，磁器碗10点・皿３点が出土している。

SX－014（第608図，図版162・329）

東部調査区内北側で，やや西寄りの22P・22Q区に位置する。SX－014は溝状遺構とその南側にあるピット群を含めたものである。溝状遺構とピット群は別種の遺構であるので，遺構の把握に問題がある。さらに，ピット群自体はその南方にも広く分布しており，図示したピット群とは，明瞭に分離できない。遺構の把握には二重に問題があるが，溝状遺構を含むことから，ここで記述する。なお，溝状遺構についてはSX－014aとし，ピット群についてはSX－014ピット群としておく。



第608図　SX－014

SX－014aは北から南東，南東から東方向に弧を描いて曲がる溝状遺構である。北端は調査区外に続く。東端は撹乱を受けているが，撹乱の東方には続かず，調査区内で途切れている。調査区内での形態は，ほぼ1/4円である。調査した長さは８m，上端の幅は遺存のよい部分で70cm，底面の幅は45cm，深さは25cmである。底面はやや凹凸がある。写真をみた限りでは，あまり強く硬化していないように思われる。堆積土は暗褐色土・黒褐色土主体で，自然堆積と思われる。

SX－014ピット群の深さは10

cm～80cmで，かなり幅がある。20cm台，30cm台，40cm台のものが多いが，一定の傾向はみられない。

遺物（図版329）

192は瀬戸・美濃産陶器の半球形の碗の口縁部から体部片である。内外面とも灰釉が施される。18世紀後半のものである。

SD－009，SD－010（第609図，図版311・329）

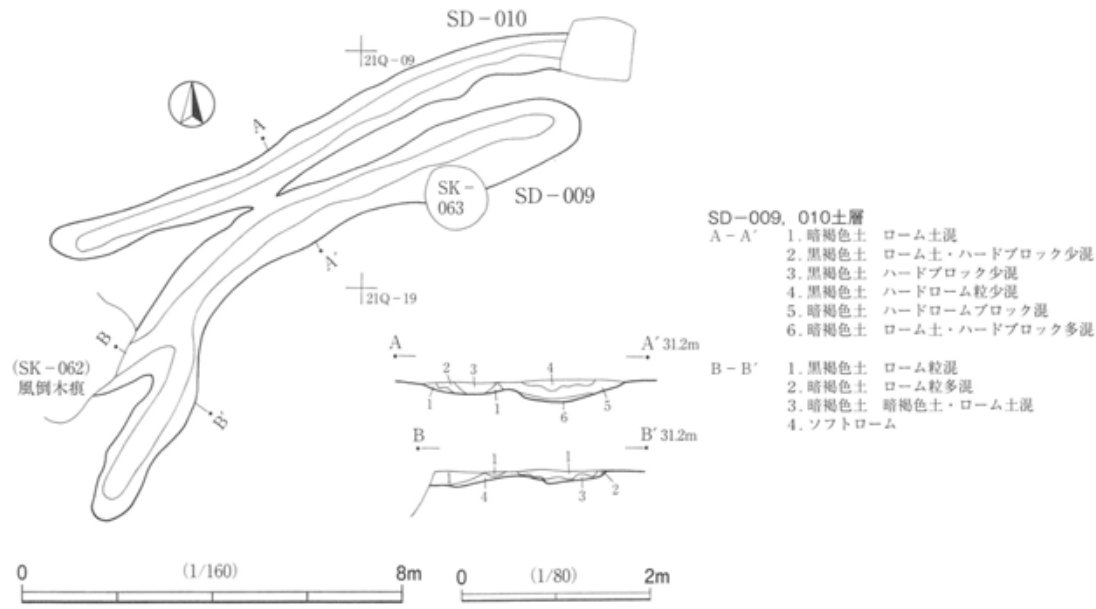
東部西寄りの21Q区に位置する。２条の溝状遺構で，北側がSD－010，南側がSD－009である。しかし，西端を除く部分は，中央部が高まった一体の遺構と思われる。西端は三条に分かれた形状で，やや複雑である。SD－009，SD－010は東北東から西南西の方向をとるが，SD－009西端の１条はかなり南に向いている。長さは，SD－010が12m，SD－009が14mである。SD－010の東端は撹乱を受けて，そこから東方では確認できない。西側は調査区外で，SD－009，SD－010とも，その手前で立ち上がっているが，調査区外に続く可能性もあると思われる。幅は，SD－010が0.6m，SD－009が0.9m～1.4mである。双方を合わせた幅は，西側を除いて２m～３mである。深さは，SD－010が10cm，SD－009が30cmである。中間部分の深さは，SD－010北側の上端から数cm，SD－009南側の上端から10数cmである。SD－009，SD－010が一体とみられる部分の底面幅は1.4m～２mである。SD－009は東寄りでSK－063，西端でSK－062と重複するが，新旧関係は不明である。なお，SK－062は風倒木痕と思われる。

遺物　SD009（図版329）

193は肥前産磁器染付碗の口縁部付近の破片である。外面は蘭文が描かれる。17世紀後半から18世紀前半のものである。

SD－005（第610・611図，図版155・313・329）

東部西側斜面を南北方向に走行する道路跡である。東部地区の西側は南から谷が入っているが，比較的緩やかな斜面である。本遺構の北側は台地平坦面に位置するが，中央北寄りから南側は緩斜面を下って行く。南方は調査区外であるが，谷部平坦面に至ると思われる。北方は送電塔のために不明であるが，その北方にある現道路に接続する可能性がある。この北方の道路は稲荷塚遺跡の所在する台地西側斜面下を取



第609図　SD－009・010

り巻く道路である。本遺構は，本遺跡東部を南北に貫く２条の道路の西側道路であろう。

調査した長さは133mである。幅は，北側から中央にかけては1.5m～2.5m前後であるが，南側は斜面を削る部分が多くなるので，南端が最大幅となり，5.4mである。底面の幅は，北側で1.5mであるが，中央では広くなり，南端では3.5mである。深さは30cm～50cmである。北側は溝状であるが，中央から南側にかけての西壁は，低くなり，消滅していく。硬化面は北側で，３面を認めることができた。堆積土中には，宝永の火山灰層がみられる。道路の使用が近世に溯ることが確認できた。平面中央の底面では，深さ10cm～45cmのピットが数か所みられる。また，南側の底面でも深さ10cm位の溝状部分，深さ50cm～60cmのピットがある。

北側でSD－008，SD－011と交差し，SD－007の北側が並行している。また，そのやや南でSD－006，SD－050と交差する。本遺構が切った状況で図示しているが，同時に機能した時期があることも考えられる。

遺物（第669図，図版329）

194・195は瀬戸・美濃産陶器である。194は古瀬戸擂鉢の口縁部付近の破片である。直線的に開き，口縁部内側に凸帯が巡る。内外面とも錆釉が施される。後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。195は丸皿である。体部から口縁部にかけて丸みをもって立ち上がる。高台部は削り出し高台である。底部内面を除いて長石釉が施される。17世紀中葉のものである。

そのほかの遺物としては，ウマの臼歯と下顎骨が出土した。

SD－006（第610図，図版329）

東部北側，西寄りの22Q区に位置する溝状遺構である。北東から南西に走行するが，南端では南方向になると思われる。南側は北から南に下る緩斜面となり，様相が不明瞭である。北端，南端とも調査区内で確認できなくなる。調査した長さは44m，上端の幅は遺存のよい部分で2.5m，深さは45cmである。底面から壁へは，やや丸みをもって立ち上がる。底面の幅は1.5m程度である。底面には，とくに硬化した面がみられない。堆積土に宝永の火山灰の含有は確認されていない。南側でSD－005と交差し，SD－050とも交差する。本遺構には，とくに硬化した面がみられないが，その位置をみると，建物遺構SX－010等から主要な道路であるSD－005に至り，横切る道路と思われる。

遺物（図版329）

196・197は瀬戸・美濃産陶器である。196は皿の底部から高台部片で，高台部の断面形は角張ったものである。内面に長石釉が施される。197は筒形の香炉の体部下端から底部片である。底部周縁はヘラケズリにより，斜めに成形される。体部はほぼ直立する。体部外面に灰釉が施される以外は露胎である。17世紀後半から18世紀前半のものであある。

SD－007（第610図，図版329）

東部北側，西寄りの22Q区に位置する溝状遺構である。北からみて，南に走行する溝が，ほぼ直角に西に曲がる遺構である。北方は送電塔のために不明であるが，SD－005同様，その北方にある現道路に接続する可能性が考えられる。西方も調査区外に続く。調査した長さは26mで，北側が14m，西側が12mである。上端の幅は２m，深さは55cm，底面の幅は0.4m～0.8mである。底面は壁への立ち上がりが，やや不明瞭な部分がある。堆積土中には，宝永の火山灰層がみられる。南北に走行する部分は，SD－008，SD－011と直交する状態で交差し，SD－005に並行する。また，東西に走行する部分はSD－011に並行す

る。本遺構には，とくに硬化した面がみられないが，SD－005との位置関係等から道路跡と思われる。宝永の火山灰の含有から，時期は近世に溯ることは確実である。

遺物（第669図，図版329）

198は古瀬戸縁釉小皿の体部片で，丸みをもって立ち上がるものである。内外面とも上方に灰釉が漬け掛けされる。古瀬戸後Ⅱ期（14世紀末から15世紀前半）のものである。199は肥前産陶器皿の口縁部から体部片である。体部は扁平で，体部と口縁部の境に稜を有し，口縁部は折縁状となるものである。内外面とも透明釉が施される。17世紀代のものである。図示したもの以外の破片は，陶器碗１点，磁器碗２点・皿１点が出土している。

SD－008（第610図）

東部北側，西寄りの22Q区に位置する溝状遺構である。ほぼ東西に走行するが，他遺構の重複と，浅いために遺存が悪い。本遺構の南側には，SD－011がほぼ平行に走行している。また，SD－005，SD－007とは，ほぼ直交している。SD－007から西方には，SI－052やSI－054が存在することもあって，本遺構は確認できない。西側はSD－011に吸収されたことも考えられるが，判然としない。東端は調査区内で途切れているが，SD－011も同様の状態で途切れている。調査した長さは7.3m，上端の幅は0.6m～0.8m，深さは10cm～20cmである。硬化面は確認できないが，道路跡と思われる。

SD－011（第610図）

東部から中央部にかかる21Q・22Q区に位置する溝状遺構である。おおむね東西に走行する遺構である。東側の北には，本遺構と並行するSD－008がある。西方は調査区外に続く。東端は調査区内で途切れるが，SD－008とほぼ同様の状態である。また，SD－005，SD－007とは，ほぼ直交している。調査した長さは36m，上端の幅は0.7m～1.8m，深さは20cm～30cmである。硬化面は確認できないが，道路跡と思われる。

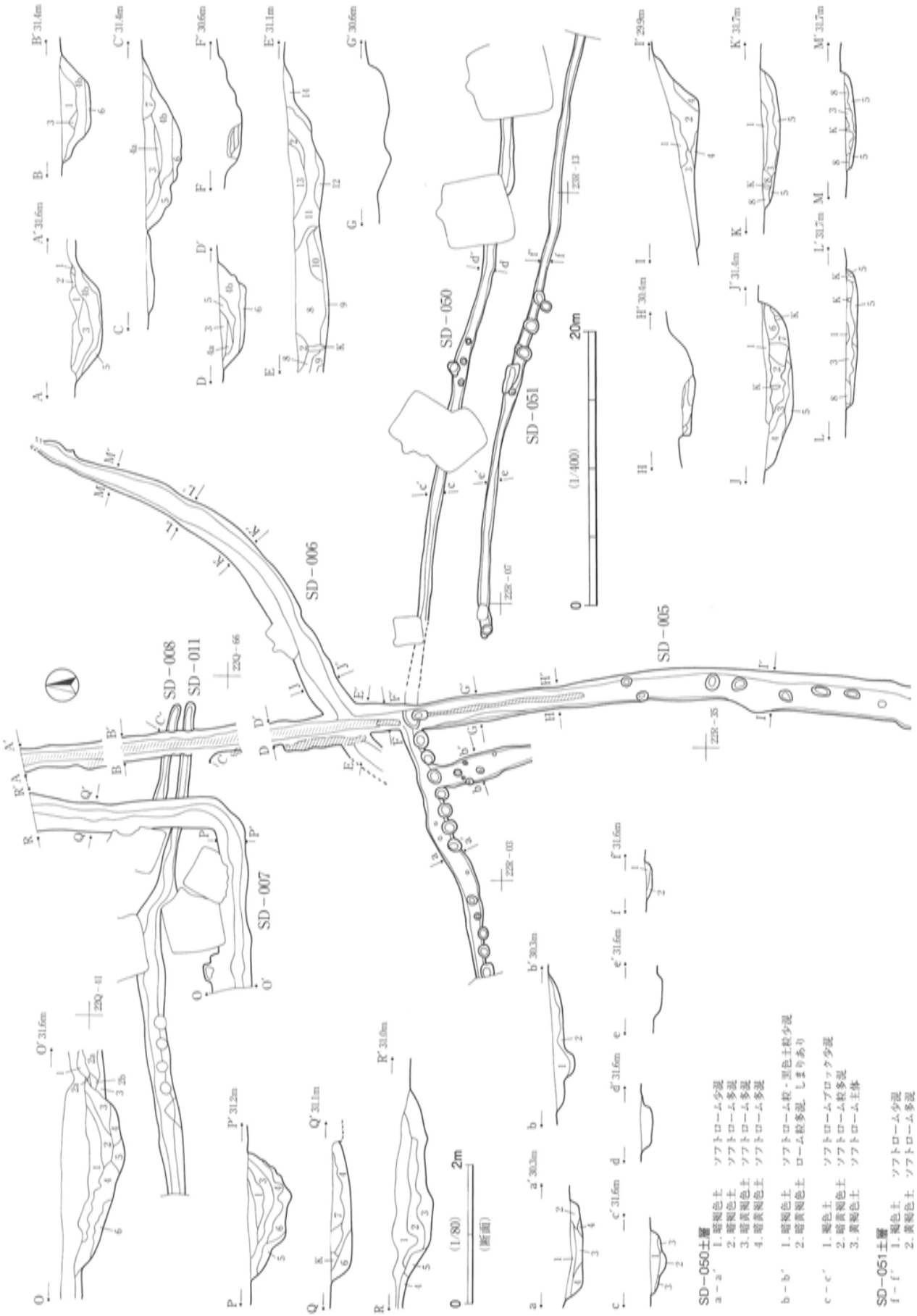
SD－050（第610図，図版159・329）

東部中央北寄りをほぼ東西に横断する溝状遺構である。西側は緩斜面の上部に立地するが，地形の傾斜はかなり緩やかである。西方の調査区外に続いていく。東側はSI－358を切って，その東側の台地整形遺構SX－013に達している。調査した長さは71mである。西寄りの一部，SD－005とSI－366の間が削平されて確認できないが，本来は存在したものであろう。上端の幅は0.8m～1.6m，深さは10cm～20cm，底面の幅は0.5m～1.2mである。西側の南壁部分には，土坑が列をなして並んでいる。土坑の上端は溝南壁の上端よりも外に出ているものが多い。規模の小さいものを除いて，土坑の深さを南外側の高さからみると，20cm～70cmで，平均は34cmである。30cm前後の深さのものが多い。堆積土はしまりがなく，底面も硬化していない。

西側でSD－005，SD－006とほぼ直交して交差する。また，南には，ほぼ平行に走行するSD－051がある。台地平坦面では，多くの竪穴住居跡・掘立柱建物跡を切っている。本遺構は，西側の道路SD－005と，東側の道路SD－054等を結ぶ道路跡と思われるが，硬化面がみられないことから，境の溝であるかもしれない。

遺物（図版329）

200は瀬戸・美濃産陶器菓子鉢の口縁部片である。口縁部の断面形は矩形で，端部を指で押さえることによって輪花を作り出している。内外面とも上野釉が施される。201は瀬戸・美濃産染付磁器端反碗の口



第610図　SD－005（1）・006・007・008・011・050・051

縁部から体部片である。体部外面に丸文，口縁部外面及び内面には圏線が描かれる。200・201は19世紀中葉のものである。図示したもの以外の破片は，磁器碗１点が出土している。

SD－051（第610図）

東部中央北寄りをほぼ東西に横断する溝状遺構である。SD－050の南をほぼ平行に走行する。ただし，西端はSD－005に達しないで，その手前で途切れている。東端はSX－013に達している。長さは45m，上端の幅は遺存の良い部分で0.9m，深さも20cm強が最大値で，浅い部分が多い。底面は硬化していない。西端でSK－402と重複するが，本遺構が切っている。本遺構の性格は，道路跡も考えられるが，硬化面がみられないことから，境の溝かもしれない。

SD－052（第611図）

東部南端の22S・22T区に位置する溝状遺構である。台地先端の縁で，西から南東にやや緩やかに下ったところに立地する。しかし，本遺構の南東方はかなり急な斜面となって谷に至る。ほぼ南北に走行し，北側は調査区内で確認できなくなる。また，南側は幅が狭くなるため，調査区外の斜面に続くか不明である。長さは12m，上端幅は遺存のよいところで1.7m，底面の幅は1.6m，深さは15cmである。底面はとくに強く硬化していないが，ハードローム層中で，硬質である。遺構内には，深さ20cm～40cmのピットがあるが，本遺構に伴うものとは思われない。顕著な硬化面がないが，本遺構は道路跡と思われる。

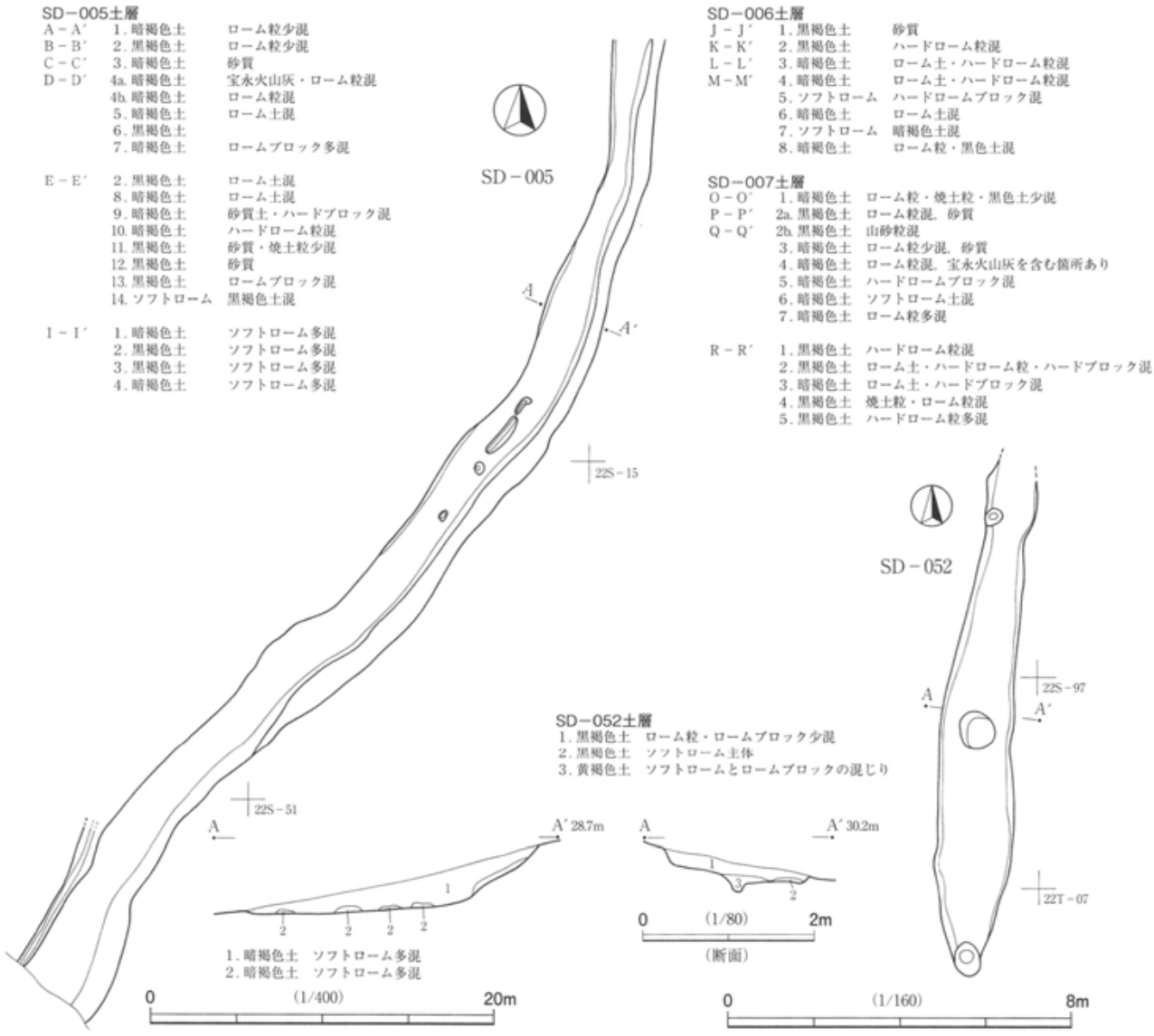
SD－003（第612図，図版155）

東部東寄りの23P区に位置する。東西方向に走行する道路跡である。南東方向は南に下る斜面であるが，比較的平坦な地点に位置する。調査区の制約のために，ごく一部の調査にとどまるが，南壁側には断面逆台形の溝状部分があり，その北側にはやや山なりであるが，比較的平坦な面がある。溝状部分の堆積土は黒褐色土主体で堅くしまっており，上面が硬化している。その北側部分とともに道路として使用されたものである。この様相はSD－021の一部やSD－040と同様であり，本遺構が本遺跡を東西に貫く道路跡の一部であることがわかる。この道路跡の調査で，本遺構ともっとも近い部分はSX－015であるが，その間の距離は65mである。さらに，この道路跡は，本遺構の東方では，SX－031の北側からSX－032の北側に続くものであろう。また，すぐ東方の調査区外部分で，南北に走行する道路跡であるSD－054・SD－053と直交すると思われる。

本遺構の南壁側には，２基の土坑がある。このうち，東側のものはその上面に硬化範囲が及んでいることから，本遺構に伴うか，古いものである。西側のもの（SK－053）は，溝状部分よりも15cm強深く，その上面には硬化範囲が及んでいない。しかし，やや外側に出ているので，本遺構に関係する遺構かどうか不明とする。

SD－054・SD－053（第612・614・674図，図版159・329・330）

東部東側斜面を南北方向に走行する道路跡である。北側から中央南寄り部分までがSD－054，南寄り部分がSD－053で，異なった遺構番号が付いているが，同一遺構である。なお，SD－054とSD－053の境部分にSX－023があるが，SX－023の一部はSD－054・SD－053から南西方向に向かう道路と思われる。SD－054は調査区北端部分で，東西道路SD－003と直角に接続する。さらに，その北方は調査区外の現道路に接続すると思われる。この道路は北方に進んで，稲荷塚遺跡の所在する台地中央を南北に貫き，北方の谷に降りていく。SD－053は南方の調査区外斜面に続くが，斜面を横切って南東方向の谷に至ると思われる。なお，SX－023の道路部分は，調査区内で確認できなくなる。SD－054・SD－053は，SD－005と



第611図　SD－005（2）・052

ともに本遺跡東部を南北に貫く２条の道路であるが，その東側道路の一部である。

SD－054は斜面上部を，ほぼ斜面に平行して南北に走行する。SD－054・SD－053の調査した長さは，およそ130mである。上端の幅は1.5m～４m，地山面までの深さは30cm～70cmである。SD－054部分の地形は西から東にかなり下り，とくに北側東寄り部分は台地整形遺構SX－031に続いていく。一方，SD－053部分は斜面を横切る方向になるので，北から南に下るが，東西の差は少ない。本遺構には，硬化面が何枚もあり，硬化層も多くみられる。硬化層は下層から上層までみられ，堆積土が踏み固められて新たな道路面となったことがわかる。堆積土の様相も複雑で，一部に埋め戻された土層がある。また，堆積土中に宝永の火山灰を含む土層が認められる。以上のように，道路の使用が長期にわたるため，形態は複雑であり，かなり幅広の部分がある。SD－054北側東端に，階段遺構がある（第613図）。これは，SX－031とSD－054やSX－010等を結ぶものと思われる。階段部分は，周囲が暗褐色土であるのに対して，黄褐色土であり，ローム等を使用して構築したものと思われる。

SD－054の北側やや中央寄りのところで，SX－030と重複するが，新旧関係は不明瞭である。一時期

SX－030と同時に機能したかもしれないが，SX－030が機能しなくなった後も，道路は継続して使用されたものと考えられる。また，SX－030の南，SD－054中央から南寄りの西方には，SX－029，SX－013，SX－022等の台地縁を整形して平坦部を作り出した遺構群があるが，これらも，本遺構と関係が深い遺構と思われる。

遺物

SD－054（第669・674図，図版329・330・335）

第674図11は銭貨で，元符通寶である。直径は2.3cm，重量は2.17ｇである。初鋳年は1,098年である。

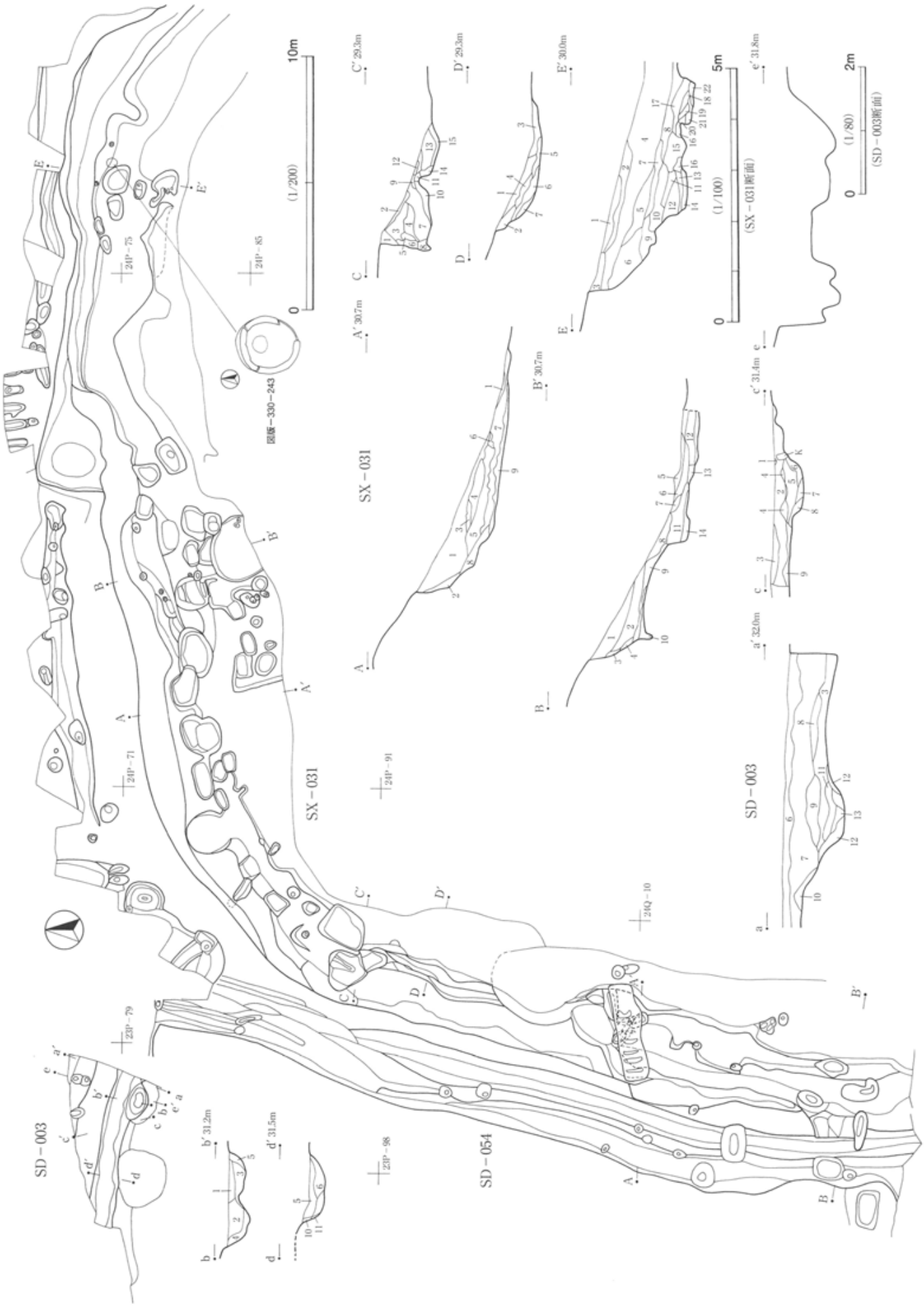
第674図および図版329の202～208は瀬戸・美濃産陶器である。202～204は古瀬戸縁釉小皿の口縁部から体部片である。202は体部内外面上方は灰釉を漬け掛け，体部内面下方には薄くハケ塗りされる。後Ⅱ期（14世紀末から15世紀前半）のものである。203・204は同一個体と思われるもので，口縁部内外面に灰釉がハケ塗りされる。後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。205は古瀬戸折縁深皿もしくは直縁大皿の体部中位の破片である。内外面とも上方は灰釉を漬け掛け，内面下方には薄くハケ塗りされる。後Ⅲ期（15世紀前半）のものである。206は古瀬戸擂鉢の体部から底部の破片である。摺目は体部内面に７本１単位で施され，底部内面は施されない。底部外面は糸切り痕が残されている。内外面とも錆釉が施される。後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。207は灯明皿の受皿である。桟部は１か所Ｕ字形にカットされている。全面に錆釉が施されるが，体部外面下方から底部外面は拭い取られる。19世紀中葉から後半のものである。208は花瓶の口縁部から体部片である。体部は直立し，口縁部は内側に折り返される。体部外面には如意頭形の耳が付される。口縁部から体部外面にかけて灰釉，体部内面に飴釉が施される。209・210は常滑産陶器である。209は片口鉢の口縁部から体部片で，口縁端部は内側及び外側ともに張り出す。外面口縁部下には重ね焼き痕がみられる。10型式（15世紀中葉から後半）のものである。210は甕の胴部下端から底部の破片である。胴部外面はヘラによるナデが施される。211～214は肥前産陶器である。211・212は同一個体の碗である。体部下端にはヘラケズリが施される。体部下端を除いて透明釉が施される。17世紀後半のものである。213・214は皿の底部から高台部片である。213の高台部は角張った輪高台である。外面は体部下端に長石釉，内面には緑釉が施され，内面は蛇の目状に釉剥ぎがなされる。214は内外面とも長石釉が施され，内面は蛇の目状に釉剥ぎがなされる。213・214は17世紀末から18世紀前半のものである。215はカワラケで，体部が直線的に開く逆台形状を呈する。底部外面は糸切り痕が残されている。内面には油煙痕がみられる。216は焙烙の口縁部から底部の破片である。口縁部は矩形で，端部は外側及び内側ともにやや張り出す。底部は平底である。胎土中には雲母・長石を多く含む。17世紀末から18世紀前半のものである。図示したもの以外の破片は，陶器瓶類２点・擂鉢１点，焙烙２点が出土した。

SD－053（第670図，図版330）

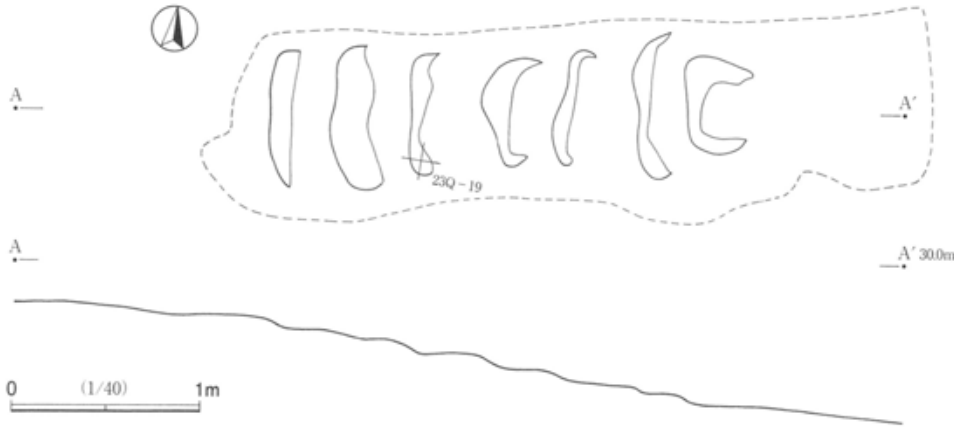
217は古瀬戸折縁深皿の口縁部付近の破片である。口縁部内面に凸帯が巡る。内外面とも灰釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。218は肥前産磁器色絵碗の体部片で，体部外面に多彩の山水文が描かれる。図示したもの以外の破片は，陶器碗１点・皿３点が出土した。

SX－023（第614図，図版330）

東部南東端の23R・23S区に位置する。台地の縁で，北西から南東に緩やかに下る地点に立地する。SD－054とSD－053の境に楕円形の大型土坑があり，また，この部分から南西に溝状遺構が延びている。この両者と周囲のピット・土坑を合わせてSX－023として調査した。大型土坑の上にはSD－053の硬化面



第612図　SD－003・054（1）・SX－031



第613図　SX－031階段遺構

SD－003土層

a－a′　b－b′

1. 黒褐色土　ハードロームブロック混，しまりあり
2. 黒褐色土　暗褐色土・ハードローム粒混
3. 暗褐色土　ハードロームブロック混，しまりあり
4. 暗褐色土　ソフトローム混
5. 暗褐色土　ハードロームブロック多混，しまりあり
6. 現表土　黒褐色でローム粒混
7. 黒褐色土　ハードローム粒混，炭化物少混
8. 黒褐色土　ハードローム粒混，炭化物少混，しまりなし
9. 黒褐色土　やや砂質，ローム粒混
10. ハードローム黒褐色土混
11. 黒褐色土　ハードロームブロック混，しまりあり
12. ハードローム黒褐色土混
13. 黒褐色土　ハードローム粒混

c－c′　d－d′

1. 黒褐色土　灰白色粘土粒多混
2. 黒褐色土　ハードローム粒混
3. 黒褐色土　褐色土混
4. 黒褐色土　褐色土混
5. 暗褐色土　ハードロームブロック多混，しまりあり
6. 暗褐色土　ハードロームブロック・ソフトローム多混
7. 暗褐色土　ローム粒混
8. 黒色土　やや砂質，ローム粒混
9. 暗褐色土　ローム土混，粘性ややあり

SD－054土層

A－A′

1. 暗褐色土　ローム粒混，しまりあり
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりなし
4. 暗褐色土　しまりなし
5. 暗褐色土　しまりあり
6. 暗褐色土　火山灰多混
7. 暗褐色土　ローム粒少混
8. 暗黄褐色土　ローム粒多混
9. 黒褐色土　ローム粒少混，しまりあり
10. 暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
11. 暗黄褐色土　ローム粒多混
12. 暗黄褐色土　ローム粒多混
13. 暗褐色土　ローム粒，焼土粒少混，しまりあり
14. 暗褐色土　ローム粒・山砂混，しまりあり
15. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック混，しまりあり
16. 暗黄褐色土　ローム粒多混，しまりあり
17. 暗褐色土　ローム粒少混
18. 暗黄褐色土　ローム粒と褐色土の混じり，しまりあり
19. 暗褐色土　ローム粒少混
20. 暗黄褐色土　ローム多混

B－B′

1. 暗黄褐色土　ローム粒多混
2. 暗褐色土　ローム粒少混
3. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，火山灰混
4. 黄褐色土　ローム粒主体，しまりあり
5. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック混，しまりあり
6. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
7. 淡暗褐色土　ローム粒多混，しまりあり
8. 暗褐色土　ロームブロック混，しまりあり
9. 暗褐色土　しまりなし
10. 暗褐色土　しまりなし
11. 黄褐色土　ロームと褐色土の混じり
12. 褐色土　しまりあり
13. 黄褐色土　ロームブロック主体
14. 黄褐色土　暗褐色土多混
15. 黄褐色土　ロームブロック主体
16. 暗黄褐色土　ロームブロック混，しまりあり
17. 暗褐色土　ローム粒少混
18. 暗褐色土　ローム粒混，しまりあり
19. 暗褐色土　ロームブロック多混，しまりあり
20. 暗褐色土　ローム粒混，しまりあり
21. 暗褐色土　ローム粒混，しまりあり
22. 暗褐色土　ローム粒混，しまりあり
23. 黄褐色土　ソフトローム主体
24. 暗黄褐色土　ソフトローム・暗褐色土混，しまりあり
25. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりあり
26. 暗褐色土　ローム粒混，しまりあり
27. 暗褐色土　乳白色粘土混，しまりあり
28. 暗黄褐色土　暗褐色土・ローム混，しまりあり
29. 暗黄褐色土　ロームブロック混，しまりあり

C－C′

1. 暗褐色土　ローム粒少混，しまりなし
2. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりなし
3. 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりあり
4. 暗褐色土　しまりあり
5. 暗褐色土　乳白色粘土混，しまりあり
6. 明黄褐色土　ローム主体，褐色土少混，しまりあり
7. 明褐色土　ローム粒・ロームブロック混，しまりなし
8. 暗褐色土　しまりあり
9. 明褐色土　褐色土とロームブロック混じり
10. 暗褐色土　ローム粒混
11. 黒褐色土　ローム粒混，しまりなし
12. 褐色土　ローム粒・ロームブロック多混，しまりなし
13. 黄褐色土　ローム・ロームブロック主体，褐色土混

D－D′

1. 暗褐色土　しまりなし
2. 黒褐色土　褐色土混，しまりなし
3. 暗褐色土　ローム少混
4. 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少混，しまりなし
5. 黄褐色土　ローム主体，暗褐色土混，しまりあり
6. 黄褐色土　ローム主体

SX－031土層

A－A′

1. 黒褐色土　焼土粒，炭化物少混　しまりやや弱
2. 黒褐色土　1層に似るがローム粒若干含
3. 黄褐色土　ローム含　しまり弱
4. 黄褐色土　3層よりローム多含　しまり弱
5. 褐色土　褐色土，ローム粒，ロームブロック混　しまりややあり
6. 黒褐色土　ローム粒若干混　しまりきわめて混　木の根？
7. 暗黄褐色土　褐色土にローム粒，ロームブロック多混
しまりきわめて弱，焼土ブロック1点あり
8. 暗黄褐色土　7層に似るがロームブロック含
9. 暗黄褐色土　ロームブロック多含

B－B′

1. 黒褐色土　焼土粒，炭化物若干混　しまりやや弱
2. 黒褐色土　1層に似るがローム粒若干含　しまりやや弱
3. 黄褐色土　褐色土がロームブロックの間に入る　しまりきわめて弱
4. 黒褐色土　2層に似るが黒褐色土主体　しまり弱
5. 暗黄褐色土　ローム粒，ロームブロック主体　しまり弱
6. 黒褐色土　ローム，焼土粒含　しまり弱
7. （黒）褐色土　6層より黒がうすい　ローム含　しまり弱
8. 暗黄褐色土　ローム，ロームブロック含
9. 黄褐色土　ローム粒，ロームブロック主体　しまりややあり
10. 黄褐色土　ロームからなる　褐色土若干含
11. 暗黄褐色土　8にきわめて似る　ローム粒，ロームブロック含
12. 暗黄褐色土　8・11層に似る　ローム，ロームブロック含
13. 淡暗褐色土　ローム粒含
14. 暗黄褐色土　8・11・12層に似るがやや黄が強い

C－C′

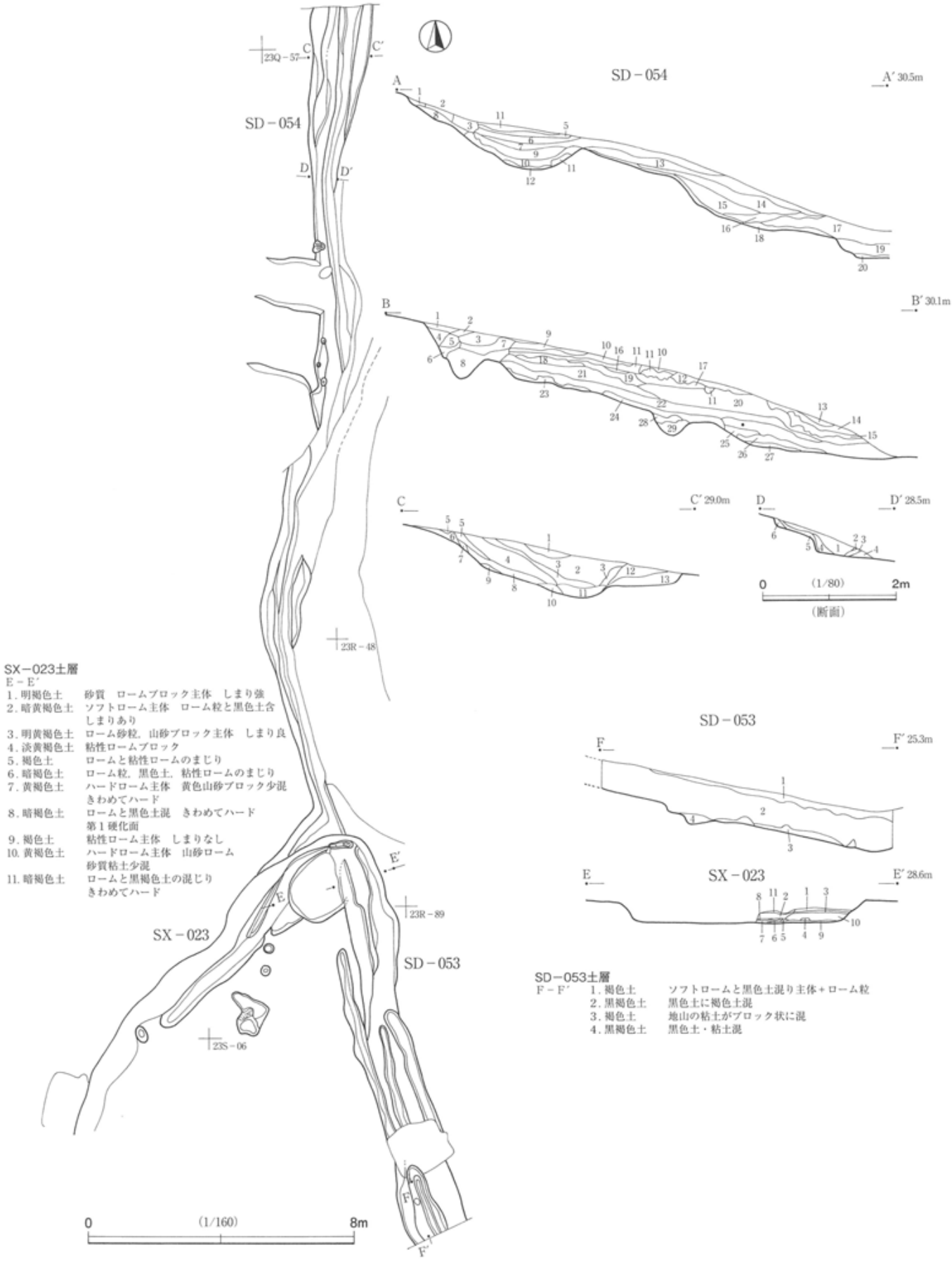
1. 黄褐色土　ローム主体
2. 暗黄褐色土　ローム粒わずかに混　しまりあり
3. 黄褐色土　褐色土がまだらに混　ロームブロック含　しまり強
4. 暗褐色土　ローム粒，ロームブロックやや多含　しまり弱
5. 黄褐色土　すきまに褐色土が混
6. 暗褐色土　ローム粒，ロームブロック極少含
7. 褐色土　ローム粒，ロームブロック6層より少含
8. 黄褐色土　すきまに褐色土が入るしまりなし
9. 暗褐色土　ロームブロックわずかに含　しまり弱
10. 暗褐色土　ロームブロック含　しまり弱
11. 暗褐色土　10層に似るがブロックの大きさ小
12. 暗褐色土　7・11層に似るがブロックの大きさが大
13. 暗黄褐色土　12層よりローム多含
14. 黄褐色土　ロームブロック主体　すきまに褐色土が入る
15. 暗黄褐色土　ロームブロック多含　チョコレート色の粘土混

D－D′

1. 暗黄褐色土　ローム粒，ロームブロック多混
2. 黄褐色土　ローム粒，ロームブロック主体
すき間にローム粒，褐色土粒が入る
3. 暗褐色土　ロームブロックをわずかに含
4. 暗褐色土　ロームブロック含　最も暗い
5. 暗褐色土　ローム粒，ロームブロック含
6. 暗褐色土　ローム粒含
7. 黄褐色土　ローム粒，大小のロームブロック主体　すき間に褐色土混

E－E′

1. 暗褐色土　ロームブロック所々に含　しまりあり　上部は硬化面
2. 暗褐色土　ロームブロック，焼土粒，焼土ブロック含　しまり弱
3. 褐色土　ロームブロックと褐色土混　しまり弱
4. 暗褐色土　旧表土か？　しまり弱　竹根多
5. 暗褐色土　4層に似る　ロームブロックわずかに含　しまりきわめて弱
6. 暗褐色土　暗褐色土，褐色土混　ロームブロック混　しまりきわめて弱
7. 暗褐色土　5層に似る　暗褐色土主体　しまり弱
8. 暗褐色土　ローム粒わずかに混　しまりややあり
9. 暗黄褐色土　ロームブロック主体　しまりややあり　上からの崩落か？
10. 暗褐色土　ロームブロック若干含　しまりややあり
11. 暗褐色土　ロームブロック多含　しまりあり
12. 暗黄褐色土　11層よりローム多混　しまり強
13. 暗褐色土　乳白色の粘土が帯状に含　しまり強
14. 暗褐色土　ロームブロック含　しまり強
15. 暗褐色土　ロームブロック含　10層に似る
16. 乳黄褐色土　粘土質で粘り有り　地山
17. 暗褐色土　ローム粒，乳白色の粘土ブロック含
18. 暗黄褐色土　ローム粒多含　乳白色の粘土混
19. 暗褐色土　ローム粒若干混
20. 暗褐色土　乳白色粘土混ローム粒少混
21. 暗褐色土　ローム粒若干含
22. 暗褐色土　ローム粒，ロームブロック若干含



第614図　SD－053・054・SX－023

があり，道路跡よりも古い遺構であることがわかる。これに対し，溝状遺構はSD－054から延びている。溝状遺構と大型土坑の新旧関係は不明であるが，上記の様相から大型土坑の方が古いように思われる。溝状遺構の使用頻度が少なかったため，大型土坑上に痕跡を残さなかったのではないだろうか。

大型土坑の規模については，長さが不明瞭であるが，6.7m程度と思われる。上端の幅は4.3m，底面幅は4m，深さは0.7mである。底面は平坦である。東側堆積土中に，SD－053の硬化面が2面みられる。下面は土坑底面から5cm～10数cmの高さであり，上面は土坑底面から35cm～40cm程度の高さにある。

溝状遺構北西壁の上部は，SD－054から続いてやや大きく削られている。溝部分はSD－054から20mで確認できなくなるが，北西壁上部は，そのまま南西方に続いていく。この壁は溝の南西端から9.5m続いてSI－331と接するが，その先は確認できない。上端の幅は，北西壁上端から3m前後，底面の幅は1mである。溝底面の深さは南東側からみて10cm前後である。硬化面が明瞭でないが，溝状遺構は台地東縁の南北道路から南西に延びる道路跡と思われる。

溝状部分の南東に小ピット3基と，不整な形態の土坑1基がある。ピットの深さは北から11cm，31cm，36cmである。土坑は中央に焼土範囲がみられる。底面は10cm～45cmの深さで，高さの差がある。

遺物（図版330）

219・220は瀬戸・美濃産陶器で，いずれも17世紀後半のものである。219は輪禿皿の口縁部から体部片で，体部は直線的に開く。体部外面中位から内面は灰釉が施される。220は丸皿の口縁部付近の破片である。内外面とも長石釉が施される。図示したもの以外の破片は，15世紀代の東海系鍔釜が1点，陶器碗が1点出土している。

（5） 台地整形区画遺構および関連遺構

SX－030（第615図，図版165・309・313・330）

東部北東端で，23Q区に位置する竪穴状遺構である。調査時の遺構番号はSX－026であり，遺物注記等はそのままである。西から東に緩やかに下る斜面上部に立地する。遺構の多くが調査されているが，東側に保存樹木が存在したため，東端の様相が不明である。道路遺構SD－054が本遺構の南北にあり，重複していると思われるが，切り合いが判然としない。しかし，堆積土上層が硬質のため，廃棄された後は，SD－054が本遺構の上を通っていたと思われる。ただし，本遺構が機能していたときの状況は不明である。また，北側でいくつかの土坑と重複し，南方には台地整形遺構SX－013やSX－029がある。SX－029はSX－013内の遺構であり，本遺構も具体的な性格を特定しがたいが，SX－013と関連する遺構と思われる。

以上のような状況のため，平面形態がやや不整であるが，基本的には，楕円形または隅丸方形と思われる。上端の長さは不明瞭であるが，8m強と思われる。上端の幅も他遺構との重複のため，判然としないが，壁が本来直線的ならば，5.2m程度である。底面の長さは7m強と思われ，幅は4.6mである。深さは1.3mである。底面は平坦で，ハードローム層中に掘り込まれているため硬質である。中央東寄りに炭化物の集中する範囲があり，一部はとくに集中している。堆積土はロームの含有が多いが，台地縁に立地する遺構のため，埋め戻されているか断定しがたい。若干量の出土遺物があるが，本遺構に伴うものか明確ではない。骨が出土しているが，少量であり，埋葬された。

遺物（第670図，図版330）

221・222は同一個体の古瀬戸縁釉小皿の口縁部から体部片である。体部は直線的に開き，口縁部から体部内面上方に灰釉が漬け掛けされる。後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。223は古瀬戸片口鉢の体部破片で，外面はロクロ目が顕著である。内外面とも無釉で，器表面の色調は赤褐色である。胎土中には長石を含む。後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。224は肥前産磁器白磁小杯である。体部外面を貝殻状に型押し成形したものである。高台部付近から底部内面は露胎である。17世紀前半から中葉のものである。225は焙烙の口縁部から体部片である。口縁端部は角張っており，やや内側に張り出す。内耳の付された部分の外面はやや外側に張り出す。18世紀前半のものである。

SX－013（第615図，図版164・330）

東部東寄りの23Q・23R区に位置する台地整形区画遺構である。台地平坦面が東側に下り始める縁を削って比較的平坦な面を作り出し，その中に，大小の土坑がみられる。削平された台地の長さはおよそ50mである。幅は不明瞭であるが，SD－054の西端までとすると，10m前後である。深さは0.5m～1.9mで，かなり差がある。区画壁は大部分が西側にあり，急傾斜である。壁の方向は，北側では北東方向で，SX－013の北側を巻いて東方の斜面に至る。中央北寄りから南側は南北方向であるが，南端で東側にほぼ直角に曲がる。底面壁際の標高は，北端で29.2m，中央北寄りで29.7m，中央南寄りで30m，南端で29.7mである。北側がやや低いが，中央から南側はあまり大きな差がない。

底面内には，北から南まで様々な形態・規模の土坑やピットがある。南側には地下式坑に似た形態の土坑（SX－013a，SX－013b，SX－013c）が３基近接した位置にある。これらについては次に述べる。また，３基以外の土坑・ピットのうち，中央でSX－029とした不整形の土坑についても後述する。南側では，楕円形の大型土坑がある。上端の長さ6.3m，幅5.4m，底面の長さ5.2m，幅3.7m，区画内底面からの深さは0.7mである。土坑底面は西から東にややドるが，比較的平坦である。その他の土坑・ピットは，区画内底面からの深さを図中に記載したが，長さ・幅の数値については，記述を省略する。

堆積土は何層にも分かれ，ローム粒・ロームブロックを多く含む層もみられるが，基本的には自然堆積と思われる。堆積土中に，宝永の火山灰を含む層がみられた。

SX－013a，SX－013b，SX－013c

SX－013a，SX－013b，SX－013cは地下式坑に似た平面形態の土坑である。地下式坑に準じて，底面の深い方を主室，浅い方を出入口部として記述する。SX－013a，SX－013cは区画内底面からあまり深くないので，西壁際を除いて，主室全体を覆う天井部は存在しないと思われる。SX－013bはかなり深いが，区画内底面内に作られており，やはり掘り残された天井部は存在しないと思われる。

SX－013aはSX－013内南端近くで，西壁際に位置する。主室は長方形プランで，長辺の東辺側に出入口部が付く。出入口上端から奥壁上部までの長さは2.3m，出入口部上端から主室掘り込み上端までの長さは2.25mである。出入口部底面の深さは区画内底面から45cm，主室底面の深さは区画内底面から55cm，西壁上端から1.7mである。主室底面と出入口底面の差は少ない。出入口部の幅は主室側の上端で1.05mである。主室底面の奥行きは1.25m，主室の上端幅は1.8m，底面幅は1.55mである。なお，写真からは主室底面奥の北側が，西壁を抉っている状況がうかがえる。

SX－013bはSX－013内南端近くで，壁から離れて位置する。出入口部と主室の間に中間の深さの部分がある。この部分については，主室の一部とも考えられるが，出入口部として扱い，浅い部分を出入口部

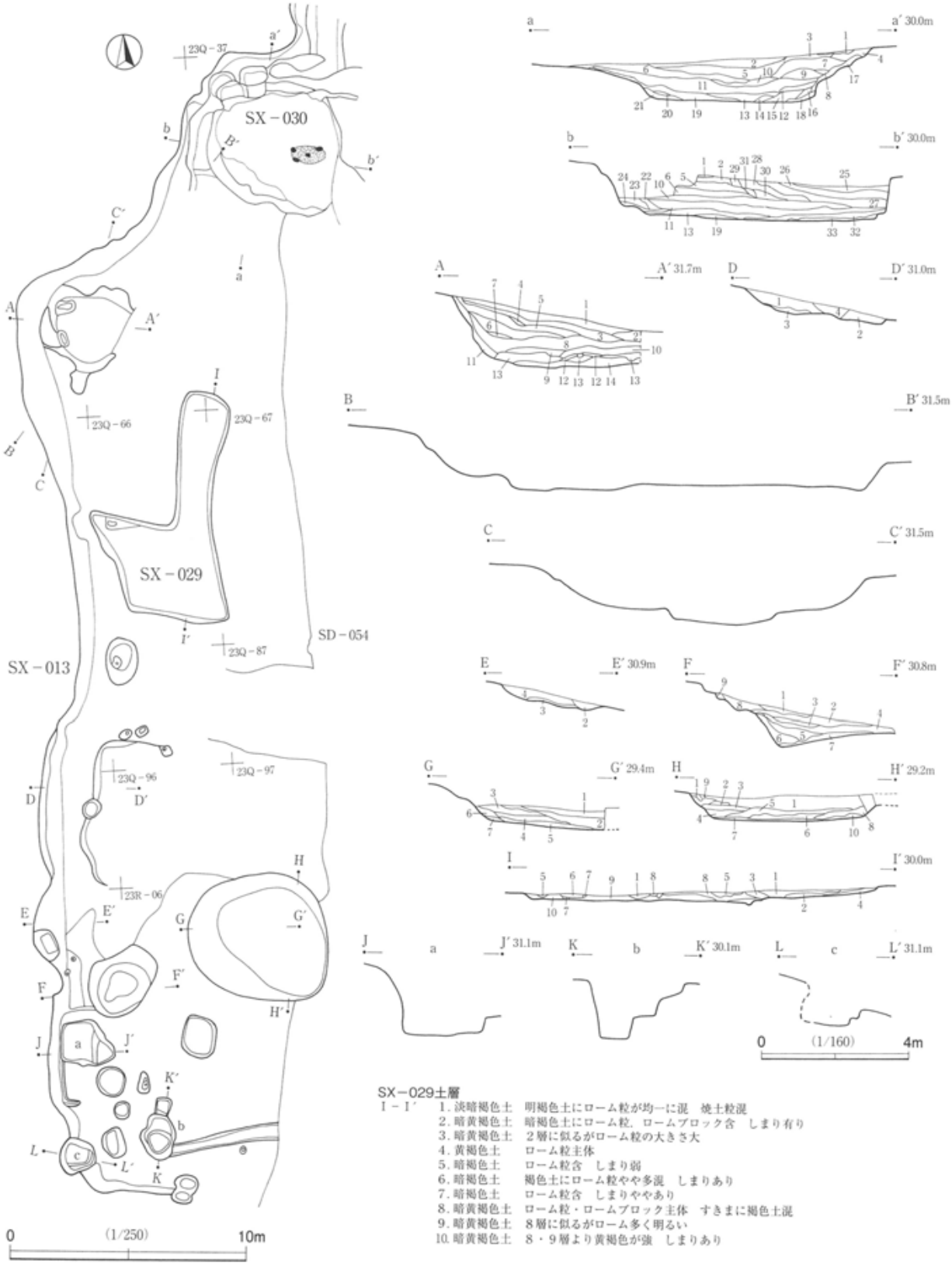
前室，中間部分を出入口部後室として記述する。全体の長さは2.6m，出入口部上端から主室上端までの長さは2.6mである。区画内底面からの深さは，出入口部前室底面が30cm，出入口部後室底面が0.9m，主室底面が1.55mである。おのおのの深さの差は，ともに60cm程度である。出入口部前室の奥行きは0.7m，幅は0.6m，前室から後室までの奥行きは1.35m，後室の幅は1.2m，主室の上端幅は1.45m，底面幅は0.9m，底面長は0.8mである。主室は，底面の出入口部後室側がやや直線的であるが，その他は丸みがあり，やや不整な部分もある。

SX－013cはSX－013内南端で，西壁を掘り込んで作られている。主室奥は西壁上端より奥に入り込んでいる状況にあるが，平面図では省略した。断面形態は高さの記録から起こしたものであるが，奥壁については，破線による推定線を示した。西壁はもう少し抉られているかもしれないが，判然としない。出入口部と主室は明瞭な境がなく，上面形は不整な形態であるが，主室底面は不整な長方形プランである。南西側に奥行きの短い出入口部が付く。全体の長さはやや不明瞭であるが，1.6m～1.7m程度と思われる。出入口部東側の上端から主室掘り込み上端までの長さは1.45m，出入口部底面の深さは区画内底面から25cm，主室底面の深さは区画内底面から45cm，西壁上端から1.15mである。主室底面と出入口底面の差は25cmである。出入口部の奥行きは東側からみて20cmである。主室底面の幅は0.5m～0.8mで，奥行きは1m強と思われる。

以上3基の土坑の堆積土は，自然堆積か埋め戻されているか判然としない。遺構の状況をみると，SX－013bは主室底面に至るまで2段の掘込みをもち，SX－013a，SX－013cは区画内底面から主室底面までそれほど深くはない。このことから，3基の土坑の性格については，土坑墓よりも何らかの貯蔵施設，すなわち室の可能性の方が高いと考える。

遺物（第670図，図版330）

226・227は同一個体の古瀬戸擂鉢の口縁部から体部片である。体部は直線的に開き，口縁部内面には凸帯が巡る。内面の摺目は7本1単位である。内外面とも錆釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。228は京焼風の肥前産陶器碗の体部から高台部片である。高台部周辺から底部外面を除いて透明釉が施される。17世紀末から18世紀初頭のものである。229～235は瀬戸・美濃産陶器である。229は湯呑碗の底部周辺の破片である。外面は露胎，内面には灰釉が施される。230は丸皿の口縁部付近の破片である。内外面とも長石釉が施される。231は銭甕部の破片である。外面上方には鉄釉，内面は錆釉が施される。232は袴腰形の香炉である。口縁端部は平坦で，内側に張り出す。体部外面のロクロ目は顕著で，下端は強く張り出す。底部外面はヘラケズリが施され，三足と思われる扁平な足が付される。口縁部から体部外面は飴釉，内面には錆釉が施される。17世紀末のものである。233は筒形の片口の体部下端から高台部片である。高台部は削り出し高台である。体部外面は柿釉が施され，下端には重ね焼きの際の釉着痕がみられる。17世紀後半のものである。234・235は擂鉢である。234は口縁部から体部片で，体部から外折し，短く立ち上がる口縁帯が形成されるものである。遺存部分で確認できる摺目は7本1単位である。内外面とも錆釉が施される。17世紀後半から18世紀初頭のものである。235は体部から底部片である。体部外面はヘラケズリが施される。底部外面は糸切り痕が残されている。摺目は体部は11本1単位，底部は同心円状に施される。内外面とも錆釉が施される。236は堺産擂鉢の体部片である。237～239は肥前産磁器である。237は青磁碗で，高台部から底部は露胎である。17世紀中葉のものである。238は青磁染付筒形碗の口縁部から体部片で，外面は青磁釉が施され，口縁部内面に四方襷文が描かれる。18世紀中葉



SX－029土層

I－I′
1. 淡暗褐色土　明褐色土にローム粒が均一に混　焼土粒混
2. 暗黄褐色土　暗褐色土にローム粒，ロームブロック含　しまり有り
3. 暗黄褐色土　2層に似るがローム粒の大きさ大
4. 黄褐色土　ローム粒主体
5. 暗褐色土　ローム粒含　しまり弱
6. 暗褐色土　褐色土にローム粒やや多混　しまりあり
7. 暗褐色土　ローム粒含　しまりややあり
8. 暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロック主体　すきまに褐色土混
9. 暗黄褐色土　8層に似るがローム多く明るい
10. 暗黄褐色土　8・9層より黄褐色が強　しまりあり

第615図　SX－013・029・030

SX－030土層

a－a′　b－b′

1．黄褐色土　ロームブロック主体　硬くしまっている
2．暗褐色土　ローム粒，ロームブロック若干含　しまりややあり　火山灰粒含
3．暗黄褐色土　暗褐色土にローム粒，ロームブロック多混　しまりあり
4．暗黄褐色土　3層に似るがローム粒，ロームブロック多混　しまりあり
5．暗褐色土　2層に似るローム粒，ロームブロック少混
6．黒褐色土　ローム粒含　しまりあり
7．暗褐色土　ローム粒，ロームブロック多含　炭化物含　しまりややあり
8．暗黄褐色土　3層に似る　暗褐色土にローム粒，ロームブロック多混　しまりややあり
9．暗褐色土　ローム粒，ロームブロックわずかに含　しまりややあり
10．暗褐色土　ローム粒，ロームブロック含　しまりあり
11．暗黄褐色土　ローム粒，ロームブロック多混　しまりややあり
12．暗黄褐色土　11層に似るが暗褐色土多含　しまりややなし
13．黒褐色土　ローム粒，ロームブロック多含　しまりあり
14．暗褐色土　13層よりローム粒，ロームブロック多含
15．黄褐色土　ローム粒，ロームブロック主体　褐色土がすきまに入る　しまり弱
16．褐色土　ロームブロック多含　もろくくずれる
17．黄褐色土　ローム主体　かたくしまりあり　掘りすぎ？
18．褐色土　褐色土ブロック，褐色土粒主体　しまり弱
19．暗黄褐色土　ローム粒，ロームブロック含　しまりあり
20．暗褐色土　ローム粒，ロームブロック中に黒褐色土混
21．黄褐色土　ローム主体　わずかに褐色土混
22．暗褐色土　黒褐色土にローム粒，ロームブロック混
23．黄褐色土　ローム主体　ロームブロック大小混
24．黄褐色土　ローム主体　もろくくずれる
25．褐色土　ローム粒わずかに含　しまり弱
26．褐色土　ローム粒含　ロームブロック所々に含　しまりややあり
27．褐色土　ローム粒わずかに含　しまりややあり
28．褐色土　ローム粒，ロームブロックやや多含　しまり弱
29．黄褐色土　ローム粒，ロームブロック主体　暗褐色土，黒褐色土混，しまりやや弱
30．褐色土　28層に似るがロームブロック多混　しまり弱　炭化物あり
31．褐色土　ローム粒，ロームブロックわずかに含　しまり弱
32．暗褐色土　ローム粒わずかに含　しまりあり
33．暗黄褐色土　ローム，褐色土がまだらに混

SX－013土層

A－A′

1．黒褐色土　しまりややあり　粘性なし　焼土，炭化物若干，ローム粒含
2．黒褐色土　しまりややあり　粘性なし　焼土若干含　1より明
3．黒色土　しまりややなし　粘性あり
4．黒褐色土　しまりややなし　粘性あり　ロームブロック含
5．黒褐色土　しまりややなし　粘性あり　ローム粒若干含
6．黒褐色土　しまりなし　粘性あり　ロームブロック含
7．褐色土　しまりなし　粘性あり　黒い砂多
8．褐色土　しまりなし　粘性なし　ローム粒，ロームブロック多含
9．褐色土　しまりなし　粘性なし　ローム粒多
10．黒褐色土　しまりややなし　粘性あり　ローム粒，ロームブロック若干含
11．褐色土　しまりあり　粘性なし　ローム多含
12．黒褐色土　しまりあり　粘性なし　ローム粒，ロームブロック若干含
13．黒色土　しまりあり　西側にいくにつれ粘性強まる
14．褐色土　しまりあり　粘性なし　ロームブロック，ローム粒　焼土含

D－D′　E－E′

1．褐色土　ローム粒少含　宝永火山灰しみ状にはいる
2．褐色土　ローム粒多含
3．黄褐色土　ソフトローム，ロームブロックのまじり
4．褐色土　ロームブロック多混　攪乱か？

F－F′

1．褐色土　表土
2．暗褐色土　ローム粒全体に含
3．暗褐色土　微細なローム粒を全体に含
4．褐色土　ローム小ブロック多含
5．黒褐色土　ローム粒まばらに混
6．黄褐色土　大小のロームブロック間に褐色土有
7．暗褐色土　ローム微細多含
8．黄褐色土　茶色味が強いローム主体　褐色土混
9．黄褐色土　ロームブロック主体　褐色土少混

G－G′

1．黒褐色土　ローム粒，ロームブロック多含
2．黒褐色土　ロームブロック多含
3．暗褐色土　ローム粒，ロームブロック多含
4．黒褐色土　砂質でローム粒多含
5．暗褐色土　ローム，ローム粒多含
6．黒褐色土　ローム粒少含
7．黄褐色土　ローム，黄色粘土

H－H′

1．褐色土　ローム粒多混　しまりなし
2．褐色土　1層よりソフトローム多含
3．暗褐色土　1層に黒色土を含
4．暗黄褐色土　1層よりソフトロームとローム粒多含
5．暗褐色土　1層よりローム粒少含　ソフト
6．暗褐色土　5層より黄が多　ローム粒多
7．暗褐色土　6層にロームブロック多含　水分多
8．暗黄褐色土　ソフトローム，ローム粒，褐色土のまじり
9．黄褐色土　ソフトローム主体　ローム粒含
10．黄褐色土　ソフトローム主体　ローム粒，ロームブロック

から後半のものである。239は染付筒形碗の底部から高台部片である。底部の外面高台部との境には圏線が描かれる。240は焙烙の内耳部分の破片である。底部は丸底になると思われる。18世紀後半のものである。図示したもの以外の破片は，陶器擂鉢1点，磁器碗1点が出土した。

SX－029（第615図）

台地整形区画遺構SX－013内の遺構で，中央に位置する掘込みである。不整な形態で，北側がやや溝状である。また，西端は西壁に接している。長さは9.6m，最大幅は4.8m，区画内底面からの深さはおおむね30cm～40cmである。底面は比較的平坦であるが，南側はやや高くなる。壁の傾斜はかなり緩やかで，底面との境が明瞭でない部分もある。堆積土は，ローム粒・ロームブロックの含有が多い。

SX－022（第616図，図版163・308・331）

東部東寄りの23R区に位置する台地整形区画遺構である。SX－013と同様の遺構で，その南方に位置する。SX－013との間に，およそ4mの長さで整形されない部分がある。整形された長さは約20mで，西壁の方向はほぼ南北方向である。東側に下っていくため，幅は不明瞭であるが，区画内底面の比較的平坦な部分をみると，西壁上端から4m～5m，底面部分だけでは3m～4mである。西壁上端から，区画内底面までの深さは北側で50cm，中央で70cm，南側で1mである。壁は斜めに立ち上がり，SX－013ほど急傾斜ではない。底面壁際の標高は，29.4m～29.5mで，南側がわずかに低いが，差は少ない。

底面内には，地下式坑に似た形態の土坑が2基ある。位置は，1基（SX－022a）が中央やや南寄り，

もう1基（SX－022b）が南端である。いずれも壁際に位置し，壁の一部を横から掘り込んで作っている。また，北端付近の壁際にも3基の土坑（SX－022c，SX－022d，SX－022e）があり，これらも中央以南の土坑と近似する性格のものと思われる。その他，ピットが3基あり，底面からの深さを図中に記載した。

SX－022a，SX－022b，SX－022c，SX－022d，SX－022e

SX－022a，SX－022bはSX－013a等と同様の地下式坑に似た平面形態の土坑である。

SX－022aはSX－022内中央やや南寄りで，西壁際に位置する。主室は長方形プランであるが，長辺の西辺北側は丸みをもつ。東辺側に出入口部が付く。出入口部上端から主室底面奥までの長さは2.1m，出入口部上端から主室掘込み上端までの長さは0.7m，出入口部底面の深さは区画内底面から25cm，主室底面の深さは区画内底面から0.8m，区画西壁上端から1.65mである。主室底面と出入口底面の差は55cmである。出入口部の幅は中央で0.95mである。主室底面の奥行きは1.4m，主室の上端幅は1.85m，底面幅は1.45mである。主室底面奥側壁は区画の西壁を若干えぐっている。

SX－022bはSX－022内南端で，区画の西壁際に位置する。主室は長方形プランで，長辺の東辺側に出入口部が付く。出入口部上端から主室底面奥までの長さは1.95m，出入口部上端から主室掘込み上端までの長さは0.7m，出入口部底面の深さは区画内底面から30cm，主室底面の深さは区画内底面から0.85m，区画西壁上端から2.05mである。主室底面と出入口底面の差は55cmである。出入口部の幅は中央で1.1mである。主室底面の奥行きは1.15m，主室の底面幅は奥で1.5mである。主室は区画の西壁に掘り込まれ，奥だけでなく，南北の両短辺側もややオーバーハングしており，若干袋状となっている。

SX－022cはSX－022内北端に位置し，北壁から突き出る状態で掘り込まれている。SX－022a，SX－022bと比べると，平面形態が整ったものではなく，底面が区画内底面より高い点でも異なるが，奥が手前よりも深い点と，区画の壁際に位置する点では似ている。北壁際のやや深い部分は，およそ長径1.2m，短径0.75mの楕円形を呈するが，西側は区画壁との区別が不明瞭である。深さは，区画壁上端から30cmであるが，区画内底面からは逆に20cmの高さである。また，手前の部分から10cm低いだけで，差は少ない。手前の部分は区画内底面から30cmの高さである。手前から奥までの長さは1.5mである。

SX－022d，SX－022eはSX－022内北端寄りの区画壁を掘り込んで作られている。ともに，方形プランで，dの規模は一辺60cm，底面は一辺40cm，eの規模は東西85cm×南北75cm，底面は一辺55cmである。深さは，ともに区画内底面との差が少ない。dは逆に数cm高く，eは5cmの深さである。区画壁上端からの深さは，dが60cm，eが70cmである。

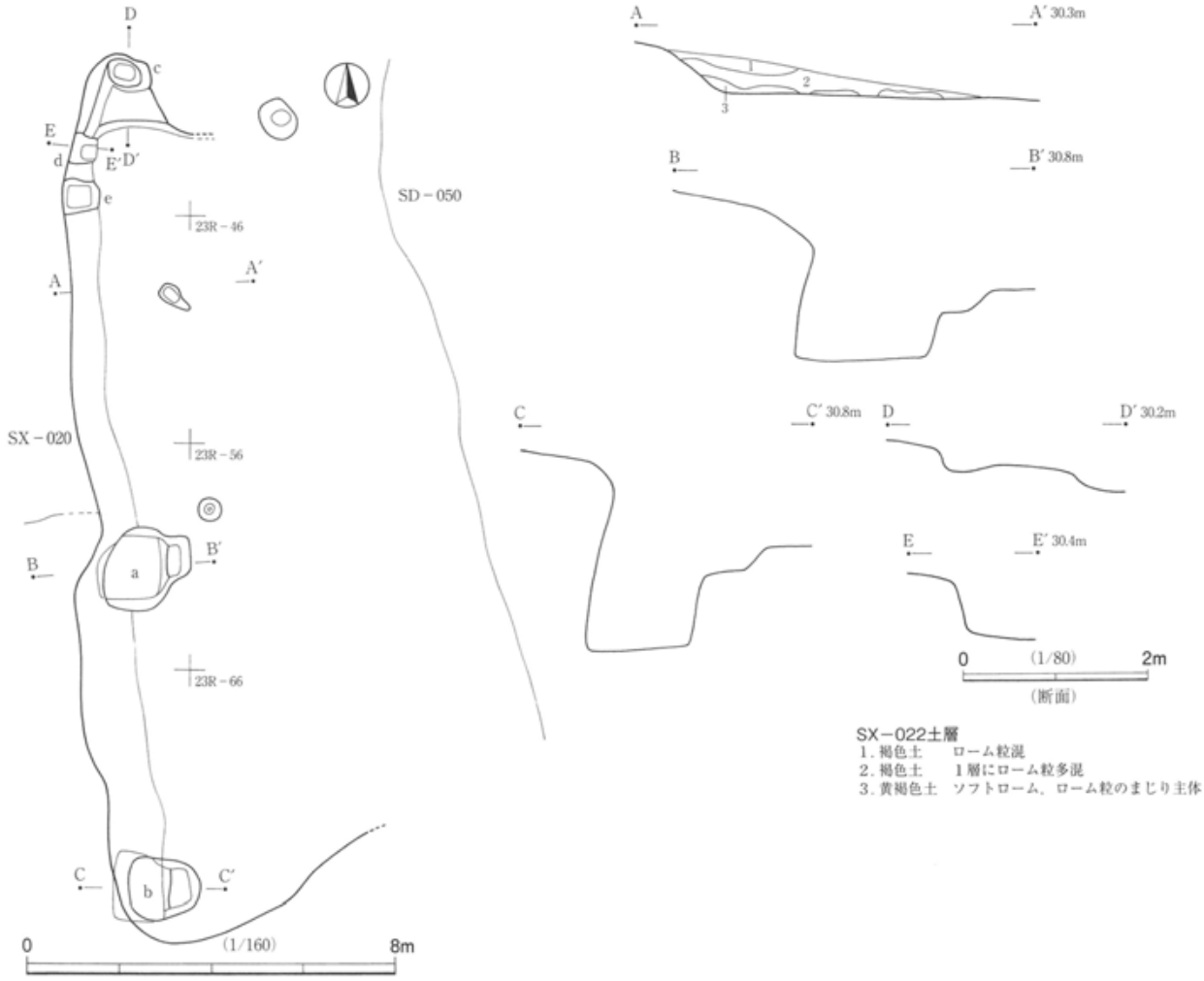
SX－022a，SX－022bの性格は室と思われる。また，c，d，eも小規模な室であろう。

遺物（第670図，図版331）

241は古瀬戸折縁深皿もしくは直縁大皿の口縁部から体部片である。体部は直線的に開き，口縁部内面には受け状の小凸帯が一巡する。内面下方を除いて灰釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。242は常滑産片口鉢の体部片である。外面には指頭による押圧痕がみられる。

SX－031（旧SX－027）（第612・613図，図版165・330・331）

東部東端の23P・23Q・24P区に位置する。SX－031として調査した遺構は，道路跡と斜面の整形区画遺構および区画内遺構群に分かれる。なお，調査時の遺構番号はSX－027であり，遺物注記はこの番号のままである。立地する場所は，台地の縁から斜面にかかる部分であり，道路部分から北側が台地平坦面である。整形区画遺構は南方に下る斜面に位置するが，谷部からみると，北西端付近の斜面に位置する。台



第616図　SX－022

地平坦部に近い斜面は比較的緩傾斜であり，台地側を削ることによって，よりなだらかな面を作り出したものである。上からみた平面形は「L」字形であり，大きく曲がった部分付近を調査したものである。なお，東方に25m離れて本遺構と類似する遺構であるSX－032が位置するが，本遺構とSX－032の間には，同様の遺構が存在しない。

本遺構の道路部分は，SD－021等の本遺跡を東西に貫く道路跡の一部である。遺構平面図の北側が相当する部分であり，SD－003，SD－054から続くものである。遺構平面図の西方・西南方にはSD－054があり，北西方向にはSD－003がある。SD－054と，SD－003および本遺構の道路部分は，ちょうど本遺構が大きく曲がる部分の北西の調査区外で交差し，北方の現道路に接続すると思われる。本遺構の道路跡は，SX－032の北側部分に続くものと思われるが，本遺構から東方では検出されていない。

道路跡は，西側で幅２ｍ前後の平坦面をもつ。東側では幅が狭くなり，その北側はさらに段状に高まるようであるが，調査区外に近いため，様相が不明瞭である。平坦面の北には深さ30cm程度の溝状部分があるが，道路跡の一部と思われる。溝内やその周辺にはピット群がみられる。道路跡は東端で南東に曲がるが，その東方の様相は不明である。道路北側の端はほぼ調査区外に位置すると思われる。北端や東側は，調査区の制約のために，様相がやや不明瞭である。なお，調査した長さは約37ｍである。

整形区画遺構は調査区外の南方および東方に続いていく。SX－032の様相から，かなり幅広の平坦面が作り出されたことが考えられる。しかし，現状ではやや急な斜面となるため遺存せず，調査した部分以外の様相は不明である。また，西側はSD－054に隣接して並走している。SD－054東方の調査区外の地形が，やや緩傾斜であることから，かなり南方まで続いていく可能性が考えられる。しかし，SX－030以南約20mの地点では発見されていない。

北側の区画壁は北西の曲がるところから，およそ35m続いて終わっている。西側部分は曲がるところからおよそ26mの長さである。北側の道路面と区画底面の高さの差は，1.5m～2.6mである。傾斜の強い部分は段をもって整形しており，調査区外に３段，４段と続くのであろう。区画壁は東端でやや南側に向かっており，地形の状況に合わせたものであろう。区画内には多数の土坑・ピットがあり，規模・形態は多様である。調査区内では，区画壁際に多く位置する傾向があるが，北側中央は壁際から続いて密度が濃く，北側東端近くにもやや集中する箇所がある。北側東端部からは，常滑産の甕（図版330）が胴部上位以下が埋まった状態で出土し，その様相から便漕と思われる。

整形区画遺構の堆積土は，ローム粒・ロームブロックを多く含む土層もあるが，斜面に立地する影響が考えられ，基本的には自然堆積と思われる。ただし，断面A－A′の３層以下はロームが主体であり，埋め戻された可能性がある。中・下層の一部は何らかの必要性により，埋め戻されたり，整地されたことが考えられる。

整形区画内の土地利用について検討してみたい。東方のSX－032では，建物遺構が見つかり，整形区画内に居住家屋または何らかの作業小屋が存在することがわかった。本遺構部分にも建物遺構が存在するかもしれないが，不明瞭である。便漕の存在を考慮すると畑地の存在も考えられる。とくに本遺構とSX－032の間は奈良・平安時代の竪穴住居跡が位置するなど，よりなだらかな地形である。確かな証拠はないが，畑地の利用が想定される。また，土坑の中には室が存在すると思われる。

遺物（図版330・331）

243は常滑産甕である。口縁部は鍔状に折り返され，内面には１条の沈線が施される。体部外面はハケ状工具によるヘラナデが施された後，ナデが加えられる。体部内面にはナデが施され，粘土紐の巻き上げ痕が顕著にみられる。内面には有機物が付着しており，便漕として用いられたことを示している。18世紀代のものである。244～247は瀬戸・美濃産陶器である。244・245は同一個体の灯明皿で，体部外面中位から底部外面はヘラケズリが施される。底部は平底で，やや上げ底状である。口縁部から内面は灰釉が施される。口縁端部外面にはタール状の油煙の付着がみられる。19世紀中葉のものである。246は蓋で，笠部はほぼ平坦で，口縁部が環状に付される。口縁部の断面形は矩形で，端部はやや内側に張り出す。内面を除いて灰釉が施される。247は徳利で，貧乏徳利と呼ばれるものである。口縁部と体部下端がわずかに欠損している以外はほぼ完形である。底部は上げ底状で，外面の周縁はわずかに下方に突出しており，高台を意識して作られたものと思われる。頸部内面から体部外面下位にかけて灰釉が施される。248・249は益子産陶器で，19世紀後半のものである。248は皿である。本資料では欠損しているが高台を有するものである。口縁部は玉縁状である。内面に笹文の鉄絵が描かれ，内外面とも灰釉が施される。249は片口である。内外面とも飴釉が施され，口縁部から体部外面に糠白釉が掛けられる。250～252は焙烙で，同一個体のものである。内耳は３か所遺存する。口縁部は丸みを帯びたもので，外面には稜が形成される。体部下方から底部は型押し成形であり，底部は緩やかな丸底となると考えられる。253・254は瀬戸・美濃産磁器

で，19世紀後半のものである。254は染付蓋で，つまみは欠損している。口縁部内面は釉剥ぎがなされている。笠部外面には圏線および萩文が描かれる。253は丸形の染付碗の口縁部付近の破片である。体部外面は笹文が描かれる。口縁端部は呉須が縁塗りされている。255は肥前産磁器色絵染付碗の体部から底部片で，多彩の文様が描かれる。

SX－032（旧SX－028），**SD－064**，**SK－582**，**SK－583**，**SK－588他**（第617図，図版165・331）

東部東端の25P・25Q区に位置する。調査時の遺構番号はSX－028であり，遺物注記はこの番号のままである。本遺構は斜面の整形区画および区画内の遺構群を合わせたものである。区画内の溝状遺構にSD－064，土坑の多くにSK－574等の遺構番号が付けられているが，SX－032に含まれる遺構である。

本遺跡東部主要部および稲荷塚遺跡の所在する台地と東方の馬場遺跡の間は，南北から谷が入り込んで，台地平坦面の幅が狭くなっている。本遺構はその台地平坦面東寄りの南側緩傾斜面に立地する。本遺構の整形区画の様相をみると，北の台地側を削り，削った土砂を南の斜面側に盛って，広い平坦面を作り出している。西方に25m離れてSX－031が位置する。

整形区画遺構および区画内の遺構群はほぼ調査区内の範囲で完結している。区画内の遺構が分布する範囲はかなり平坦であるが，その南方はやや急斜面となることから，失われた遺構は少ないと思われる。区画された北壁の長さは30mである。西壁は北西隅から５mの長さで消える。かなり丸みをもつが，壁の方向は北壁から直角的である。東壁は北東隅からおよそ10mで消える。北東隅底面がやや丸みをもつが，壁の方向は北壁と直角をなす。北東隅付近の壁から東壁は段を有して立ち上がっている。東壁の東には北の東西道路から南方の谷に下る現道路があるが，壁の高さがそれほど高くないので，底面と区画外との間は一段である。現道路は整形区画遺構が機能しているときに存在していたかもしれない。区画内底面の規模は，長さが26m，最大幅が約14mである。区画壁の高さはおよそ0.8m～2.3mである。急傾斜の部分と，ややなだらかに立ち上がる部分がある。また，段状になっている部分は低い。区画内底面は壁際から南側に下っている。SD－064南側上端と北壁中央壁際が最大幅であるが，その間の高さの差は1.4mで，これも最大値である。

区画内西寄りには，建物遺構と思われるものがある。規模・構造が判然としないが，建物に関わる部分を最大にみると，長さが4.2m，幅が3.7mである。しかし，この場合，北西隅にはピットが見当たらず，また，南側のものは，柱穴と土坑の区別が難しい。ピット間は布掘り状につながっている部分がある。ピットの深さは，浅いもので10数cm，深いもので90cm近いが，布掘り状のものや列状のものは，50cm～80cmの間のものが多い。しかし，最大にみた場合でも西辺は中央を除いて浅いため，建物を構成する掘りかたか，疑問を残す。強いていえば，西側は廂に相当するかもしれない。長辺の方位はN-17°-Eである。建物遺構と思われる部分およびその北方からは，確認面上で，若干の焼土・炭化物が出土した。建物の廃棄に伴って，焼却された可能性が考えられる。

井戸跡であるSK－588は，区画内南端中央に位置する。推定建物遺構南東端から東６mの地点である。SK－588の西には，接近してSD－064・SK－587があり，東にも小ピット２基が存在する。しかし，周囲には遺構が少なく，とくに北側では空間が認められる。水汲みの作業場所を想定できよう。なお，詳細については，井戸状遺構の項で先述した。

推定建物遺構の北東や東にも，一列に並ぶ土坑群や，ピットが連結して溝状になった遺構がある。これらは柵列であろうか。北壁際中央にあるSK－600やその南にあるSK－577は，深さがおおむね50cm弱～60

cm代であり，推定建物遺構の主要ピットと同等である。それらの東にも南北方向に連結したピット群があるが，こちらは約20cmの深さであり，やや浅い。SK－600からは銭貨が20枚まとまって出土した。多くが寛永通寶であるが，一部錆びにより結合していた。

SD－064は推定建物遺構の南東に接近して位置する。「く」の字状の平面形態で，北側は推定建物遺構の東辺南半に平行な位置関係である。東辺の布掘り状部分からSD－064西端までは1.5m，柱穴掘りかたからの距離は最短で60cmである。南側は南東に曲がり，やや不整な形態である。曲がる部分はやや細く，内側はほぼ直角である。延べの長さは10.4m，上端幅は0.9m～2.1m，深さは34cmである。底面と上端の規模の差は少ない。北端と南端の高さの差は上端面・底面とも0.8mで，北側から南側に下っている。東西もやや差があり，東側の方が深い。底面北寄りに長楕円形のピットがある。底面での長さは0.9m，幅は0.5m，底面からの深さは35cmである。SK－587と重複するが，新旧関係は確認できなかった。

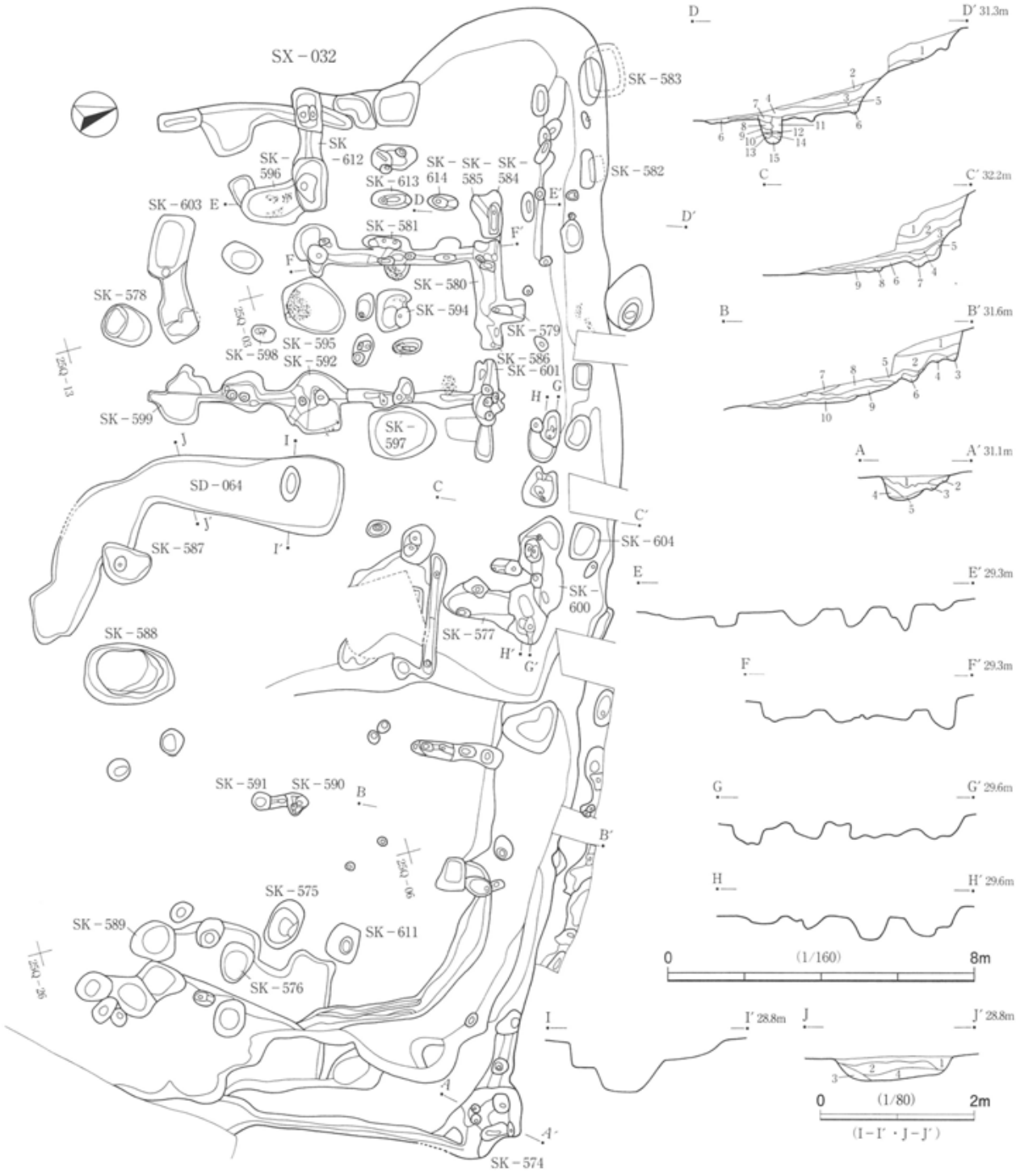
北壁西端には，壁を掘り込んだ半地下式の土坑が２基（SK－582，SK－583）ある。SK－582は，開口部の長さが1.05m，底面の長さが0.7m，幅が40cm，深さが開口部上側から0.7mである。SK－583は，開口部の長さが1.2m，底面の長さが1．1m，幅が0.7m，深さが開口部上側から0.7mである。その他のピット・土坑は壁際や壁中，区画内底面の東側，東端に分布し，東端部では，やや集中している。深さは比較的浅いものが多いが，一部に深いものがある。土坑のうち，SD－064の東にあるSK－587は平面形が大きく，深さは35cmである。またSD－064の北西にあるSK－597もやや規模が大きく，深さは54cmである。

整形区画の南側は，区画以前も比較的緩やかな傾斜であり，粘質土上に暗褐色土層が傾斜に沿って堆積している。その上部にローム粒・ロームブロックを主体とする土層が，確認できる範囲で最大1.1mの厚さでみられる。これは，区画壁を削り出したさいに生じた土であり，斜面側に盛って，より平坦面の範囲を広げたことがわかる。なお，その後の区画内堆積土については，基本的にSX－031と同様であろう。

本遺構とSX－031およびその中間地点について，再度検討してみる。中間地点は，区画壁がなく，土坑等も分布しないので，本遺構とSX－031にはあまり関わりがないとする見方もできよう。本遺構の西側に区画壁が存在することも，その点を強める根拠かもしれない。しかし，本遺構の西側には推定建物遺構が存在する。西壁は，平坦な地形を求めて，よりていねいに整地された結果であり，土地区分について，あまり考慮しなくてよいのかもしれない。また，中間地点は，奈良・平安時代の竪穴住居跡が存在するなど，当初からなだらかな地形であるため，斜面の整形があまりされていない可能性がある。ただし，奈良・平安時代の遺構については，本遺構およびSX－031の範囲に存在した可能性があるので，その存在を整形されない根拠とするには，弱いかもしれない。本遺構からSX－031までの土地利用が一連のものであるならば，中間地点は，先述したように，畑地の利用が想定される。

遺物　SD－064（図版331）

256は瀬戸・美濃産陶器鉄絵湯呑碗の口縁部付近の破片である。外面に鉄絵が描かれ，内外面とも灰釉が施される。257はカワラケである。体部下端は丸みを帯び，直線的に開く。底部外面には糸切り痕が残されている。18世紀後半のものである。



第617図　SX－032・SD－064・SK－582・583・588他

4　土坑

比較的小規模な掘込みであるが，性格が判然としないものを土坑として報告する。土坑は，出土遺物がないか，僅少なために，時期的にも不明瞭なものが多い。中・近世のものだけではなく，分布密度の高い奈良・平安時代の掘立柱建物の柱穴をかなり含むと思われる。

本項で報告する土坑（小穴を含む）の数量はおよそ1200基である。多量に存在することから，平面図については個別の提示ではなく，遺跡全体を細分して，分割図中に掲載した（第619図～668図）。分割図の

SX－032

A－A′

1．暗褐色土　ローム粒わずかに含　火山灰まだらに混　しまりやや弱
2．暗褐色土　ローム粒わずかに含　ロームブロックわずかに混　しまりややあり
3．暗褐色土　ローム粒，ロームブロック混２層より多　しまり強い
4．暗褐色土　３層に似るがしまりやや弱
5．暗黄褐色土　ローム粒，ロームブロック多含　しまり強

D－D′

1．褐色土　表土　竹根多　しまり弱
2．黄褐色土　ロームブロック，ローム粒主体　褐色土混　硬い
3．褐色土　ロームブロック，ローム粒含　非常に硬い
4．暗褐色土　ロームブロックわずかに含　硬くしまりあり
5．褐色土　褐色土主体　しまり弱
6．褐色土　ロームブロックわずかに含　しまり強
7．褐色土　ロームブロック若干含　しまり強
8．暗褐色土　褐色土粒，ロームブロック混　しまりあり
9．褐色土　ロームブロックわずかに含　しまりきわめて弱
10．暗褐色土　暗褐色土主体　しまりきわめて弱
11．黄褐色土　ロームブロック主体　褐色土がすき間に入る　しまり強
12．暗褐色土　暗褐色土主体　しまり弱
13．褐色土　ロームブロック，ローム粒わずかに含
白黄色の粘土ブロック混　しまり弱
14．黄褐色土　ロームブロック多含　しまりあり
15．黄褐色土　ロームブロック主体　乳白色粘土混　しまりあり

B－B′

1．暗褐色土　ローム粒含，しまり弱
2．暗褐色土　ローム粒含，ロームブロックわずかに含　しまりあり
3．黄褐色土　暗褐色土主体
4．黄褐色土　ロームブロック主体　すき間に褐色土混　しまりあり
5．暗褐色土　ローム粒，ロームブロック，暗褐色土混　しまりややあり
6．暗黄褐色土　３層と同じ
7．暗黄褐色土　５層に似る
8．暗褐色土　ローム粒，ロームブロックわずかに含　しまりやや弱
9．褐色土　ローム粒わずかに混　しまりやや弱
10．褐色土　ローム粒，ロームブロック多含　しまりややあり　焼土粒少含

C－C′

1．褐色土　表土　竹根多　しまり弱
2．褐色土　ローム粒わずかに含　しまりやや弱
3．淡暗褐色土　ローム粒，ロームブロックわずかに含　しまりやや弱
4．暗褐色土　暗褐色土主体　しまりややあり
5．褐色土　ローム粒，ロームブロックやや含　しまりややあり
6．淡暗褐色土　ローム粒，ロームブロックやや含　しまりあり
7．黄褐色土　ハードローム主体　掘りすぎ？
8．暗褐色土　ロームブロックわずかに含　しまりやや弱
9．黄褐色土　褐色土とロームブロック，ローム粒多含　しまり強

SD－064

J－J′

1．暗褐色土　褐色土・焼土粒少混
2．褐色土　褐色土のブロック多混，しまりあり
3．褐色土　暗褐色土少混，しまりなし
4．褐色土　暗褐色土少混，しまりなし

枚数は40枚，縮尺は1/200である。なお，土坑の分布密度が希薄なところについては，分割図を作成していない。そのため，若干の土坑が，分割図中から漏れている。ところで，分割図中の遺構には，前項までに報告した奈良・平安時代等のものが含まれている。これは，図の作成作業が，遺構時期の検討よりも先行したためであり，これらの遺構も図から削除していない。分割図に図示した個々の土坑については，深さを図中に記載した。これは，断面図については，すべての土坑を図示することができないためである。

土坑の遺構番号は，ほとんどがSKかPで始まるものである。これらの遺構については，その位置図を示す一覧表を作成した（第４表）。本報告書での個々の土坑の記録は，原則として，この一覧表と分割図での提示をもって代えることとする。しかし，一部の遺構については，特異な形態等の理由により，例外として個別に記載する。また，西部地区南斜面の土坑群は地域的にまとまっていること，同じ性格のものを多く含むと思われることから，本項で若干の記述を行う。なお，本項では遺構と遺物を分離して掲載する。

（１）　遺構

SI－023（第618図）

遺跡南部南寄りの19U区に位置する。2.7m×2.3mの長方形をなし，深さは0.15mである。底面は平坦である。長軸方向はほぼ北西－南東の傾きである。出土遺物はない。北側で，縄文時代の陥穴と思われるSK－023と重複し，切っている。

本遺構は竪穴住居跡として調査されているが，カマドがなく，竪穴住居跡である根拠はない。周囲には奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡，時期不明の土坑が所在するが，その中では，北西に所在するSK－021と規模・形態が近い（土坑の位置図⑤参照）。そのため，本遺構も性格および詳細な時期が不明な土坑の一つとして扱った。なお，遺構番号は調査時のままである。

SX－002（第618図，図版161）

中央部南西寄りの19R区に位置する。主要部分の平面形はほぼ正方形で，北辺中央が突出している。四隅はわずかに丸味をもつ。形態から奈良・平安時代竪穴住居跡の可能性があるが，カマド構築材の山砂がみられないこと，出土遺物がないこと，非常に小規模であることから，本項で扱う。なお，遺構の名称としては，竪穴状遺構の方が妥当かもしれない。

第4表　SK・P位置図番号一覧

（位置図番号数字については，第619図～第668図および本文中では丸数字。本表では数字のみ）

SK	位置	SK	位置	SK	位置	SK	位置	SK	位置	SK	位置
1	9	57	第578図	113	20	169	欠番	225	11, 13, 14	311	27
2	19	58	37	114	20	170	14	226	11, 13, 14	312	27
3	欠番	59	37	115	20	171	10, 第123図	227	11, 13, 14	313	27
4	19	60	36	116	20	172	11	228	11, 14	314	27
5	19	61	37	117	20	173	11	229	11, 14	315	27
6	19	62	欠番	118	20	174	11	230	11, 13, 14	316	26, 27
7	19	63	35	119	20	175	11	231	14	317	28
8	19	64	なし	120	20	176	11	232	14	318	28
9	19	65	36	121	20	177	11	233	14	319～399	欠番
10	19	66	なし(炉穴)	122	20	178	11	234	14	400	30
11	19	67	35	123	20	179	11	235	14	401	33
12	19	68	36	124	20	180	11	236	14	402	33, 36
13	19	69	35	125	20	181	11	237	14	403	30
14	19	70	35	126	7, 8	182	11	238	14	404	30
15	5	71	4, 10	127	7, 8	183	13	239	欠番	405	30
16	4	72	4, 10	128	7, 8	184	11, 13	240	13, 14	406	30
17	4, 5, 9	73	4, 9, 10	129	7, 8	185	11, 13	241	13, 14	407	31, 33
18	4, 5, 9	74	4, 10	130	3, 6	186	欠番	242	14	408	31
19	4	75	4, 10	131	6	187	14	243	欠番	409	31
20	4, 9	76	欠番	132	6	188	欠番	244	14	410	33
21	5	77	7	133	6	189	14	245	14	411	29
22	5	78	7	134	6	190	14	246	欠番	412	29
23	5	79	7, 8	135	6	191	11	247	14	413	26
24	4	80	7, 8	136	6	192	13, 14	248	欠番	414	26
25	5	81	1, 10	137	6	193	13, 14	249	欠番	415	26
26	9	82	4, 10	138	6	194	欠番	250	欠番	416	26
27	9	83	1	139	6	195	14	251	13, 14	417	26
28	5	84	2	140	6	196	13	252	13	418	26
29	5	85	2	141	6	197	欠番	253	13	419	26, 27
30	5	86	2, 3	142	6, 7	198	欠番	254	13, 14	420	26, 27
31	5	87	2	143	6, 7	199	欠番	255	13, 14	421	26, 27
32	2, 5	88	2	144	6, 7	200	16	256	13, 14	422	26
33	5, 8	89	9, 10	145	6, 7	201	16	257	13, 14	423	25
34	5, 8	90	2	146	3, 6	202	16	258	欠番	424	26
35	4, 9	91	4, 10	147	3, 6	203	13	259	14	425	25, 26
36	5	92	2	148	3, 6	204	13, 14	260	11, 13	426	26, 27
37	8	93	2	149	3	205	13	261	欠番	427	25, 26
38	9	94	2	150	3	206	欠番	262	13, 14	428	25, 26
39	8, 35	95	2	151	6, 7	207	11	263	11	429	25, 26
40	9	96	2	152	欠番	208	13	264	13	430	25, 26
41	9	97	15	153	6	209	13	265	16	431	26
42	8, 9	98	9, 10	154	3	210	13	266	第604図	432	27
43	9	99	11	155	3	211	6, 13	267	第604図	433	26
44	8	100	11	156	3, 6	212	6, 13	268	14	434	26
45	8	101	10	157	6	213	6, 13	269～299	欠番	435	26
46	8	102	11, 15	158	欠番	214	6, 13	300	21	436	26
47	16	103	11	159	3	215	6, 13	301	21	437	26
48	16	104	11	160	欠番	216	6, 13	302	21	438	欠番
49	16	105	11, 15	161	7, 8	217	11, 13	303	21	439	26
50	5	106	11, 15	162	7, 8	218	11, 13, 14	304	22	440	欠番
51	17	107	20	163	7, 8	219	11, 13, 14	305	22	441	26
52	17	108	20	164	3	220	11, 13, 14	306	22, 第23図	442	26
53	39	109	20	165	3	221	11, 13, 14	307	12	443	26
54	第604図	110	20	166	3	222	13, 14	308	22, 第24図	444	26
55	第25図	111	20	167	3	223	11, 13, 14	309	12, 第122図	445	26
56	第578図	112	20	168	欠番	224	11, 13, 14	310	第577図	446	26

SK	位置	SK	位置	SK	位置	P	位置	P	位置	P	位置
447	25,26	516	24,25	573	38	1	19	81	2,5	138	5,6
448	25	517	24	574	40	2	19	82	2	139	6
449	25	518	24	575	40	3	19	83	2,5	140	5
450	25	519	欠番	576	40	4	19	84	2,5	141	5
451	25	520	24	577	40	5	19	85	2,5	142	5
452	25	521	24	578	40	6	19	86	2,5	143	5
453	25	522	24	579	40	7	19	87	2,5	144	5
454	25	523	24	580	40	8	19	88	2,5	145	5
455	25	524	24	581	40	9	19	89	2,5	146	5
456	25	525	24	582	40	10	19	90	5	147	5
457	25	526	24	583	40	11	19	91	5	148	5
458	25	527	24	584	40	12	19	92	5	149	5
459	25	528	24	585	40	13	19	93	5	150～153	欠番
460	25	529	24	586	40	14	19	94	5	154	5,8,9
461	25	530	24	587	40	15	19	95	5	155	8,9
462	25	531	24	588	40	16	19	96	5	156	欠番
463～465	欠番	532	24	589	40	17	19	97	5	157	5
466	25	533	24	590	40	18	19	98	5	158	5
467	25	534	24	591	40	19	19	99	5	159	5
468～478	欠番	535	24	592	40	20	19	100	5	160	5
479	25	536	欠番	593	40	21	19	101	5	161	5
480	欠番	537	欠番	594	40	22	19	102	5	162	5
481	25	538	24	595	40	23	19	103	5	163	5
482	25	539	24	596	40	24	19	104	5	164	5
483	25	540	24	597	40	25	19	105	5	165	5
484	25	541	24	598	40	26	19	106	5,6	166	5
485	25	542	24	599	40	27	17,19	107	5,6	167	5
486	25	543	24	600	40	28	17,19	108	5,6	168	5
487	24,25	544	24	601	40	29	19	109	5,6	169	5
488	24	545	24	602	40	30	19	110	5,6	170	5
489	24	546	25	603	40	31	19	111	5,6	171	5
490	24	547	25	604	40	32	19	112	5,6	172	5
491	25	548	25	605	39	33	19	113	6	173	5
492	25	549	25	606	39	34～57	欠番	114	6	174	5
493	25	550	25	607	39	58	4,5	115	6	175	5
494	欠番	551	25	608	39	59	4,5	116	6	176	5
495	25	552	欠番	609	39	60	4,5	117	5,6	177	5
496	25	553	27	610	39	61	5	118	5,6	178	5,8,9
497	25	554	欠番	611	37,40	62	2	119	5	179	5,8,9
498	欠番	555	25	612	40	63	欠番	120	6	180	5,8,9
499	25	556	24	613	40	64	2,5,6	121	6	181	5,9
500	25	557	24	614	40	65	2,6	122	6	182	5,9
501	24	558	24	615	なし	66	欠番	123	6	183	5,9
502	24	559	24	616	欠番	67	2,5	124	6	184	5,9
503	24	560	24			68	2,6	125	6	185	8
504	25	561	24			69	2,6	126	6	186	8
505	25	562	25			70	2,5,6	127	6	187	8
506	24	563	25			71	2,5,6	128	6	188	5
507	24	564	25			72	2,5,6	129	6	189	5
508	欠番	565	24			73	2,5	130	6	190	4,5
509	24	566	24			74	2,5	131	6	191	4,5
510	24	567	37			75	2,5	132	5	192	4,5
511	25	568	37			76	2,5	133	5	193	4
512	欠番	569	37			77	2,5	134	5	194	4,9
513	25	570	38			78	2,5	135	6	195	4,9
514	25	571	38			79	2,5	136	6	196	4,9
515	25	572	38			80	2,5,6	137	5,6	197	4

P	位置	P	位置	P	位置	P	位置	P	位置	P	位置
198	8	255	16	318	37	375	36	432	36	489	7,8
199	8,9	256	16	319	37	376	36	433	36	490	7,8
200	8	257	16	320	37	377	35	434	36	491	7,8
201	8	258	16	321	37	378	35	435	36	492	7,8
202	8	259	16	322	35,36	379	35	436	36	493	7,8
203	8	260	16	323	35,36	380	35	437	36	494	7
204	8	261	16	324	35,36	381	36	438	36	495	7
205	8	262	16	325	35,36	382	35,36	439	36	496	1
206	8	263	17	326	第607図	383	36	440	36	497	1
207	5,8	264	4,17	327	第607図	384	35,36	441	36	498	1
208	5,8	265	6	328	欠番	385	36	442	36	499	1
209	8	266～268	欠番	329	35	386	35,36	443	36	500	1
210	4,8	269	4	330	35	387	35,36	444	36	501	1
211	5,6,7,8	270	4	331	35	388	欠番	445	36	502	1
212	5,6,7,8	271		332	35	389	36	446	36	503	1
213	5,6,7,8	272		333	35	390	36	447	36	504	1
214	6,7,8	273	4	334	35	391	36	448	36	505	欠番
215	6,7,8	274		335	35	392	36	449	36	506	欠番
216	6,7,8	275	4,9	336	35	393	36	450	36	507	1
217	欠番	276	4	337	35	394	36	451	36	508	1
218	6	277	4,9	338	35	395	36	452	36	509	1
219	6	278	欠番	339	35	396	36	453	36	510	1
220	6	279	37	340	36	397	36	454	36	511	1
221	6	280	37	341	35,36	398	36	455	36	512	2
222	6	281	37	342	35,36	399	36	456	36	513	2,3
223	6,7	282	37	343	35,36	400	36	457	36	514	2,3
224	9	283	37	344	35,36	401	36	458	36	515	2,3
225	9	284	37	345	36	402	36	459	36	516	2,3
226	9	285	欠番	346	35,36	403	36	460	37	517	2,3
227	9	286	36,37	347	35,36	404	36	461	36,37	518	2,3
228	9	287	36,37	348	35,36	405	36	462	35	519	2,3
229	9	288	36,37	349	35,36	406	36	463	35	520	2,3
230	9	289	36	350	36	407	36	464	35	521	10
231	9	290	37	351	36	408	36	465	35	522	15
232	9	291	37	352	35,36	409	36	466	35	523	15
233	9	292	37	353	35,36	410	35,36	467	欠番	524	15
234	9	293	37	354	35,36	411	36	468	36	525	11
235	8,9	294	37	355	35,36	412	36	469	36	526	11
236	8,9	295	37	356	35,36	413	36	470	36	527	11
237	8,9	296	37	357	35,36	414	36	471	36	528	11
238	8,9	297	37	358	35,36	415	36	472	36	529	11
239	8,9	298	36	359	35,36	416	36	473	36	530	11
240	欠番	299	36	360	35,36	417	36	474	36	531	10,15
241	8,9	300	37	361	35,36	418	36	475	36	532	10,15
242	8,9	301	37	362	35,36	419	36	476	36	533	15
243	8	302	欠番	363	36	420	36	477	36	534	15
244	8,9	303	37	364	36	421	36	478	35	535	15
245	8,9	304	37	365	36	422	36	479	35	536	15
246	8	305	36	366	36	423	36	480	35	537	11
247	9	306～310	欠番	367	36	424	36	481	4,11	538	11
248	9	311	37	368	36	425	36	482	欠番	539	11
249	9	312	37	369	36	426	36	483	7	540	11
250	9,16	313	37	370	36,37	427	36	484	7,8	541	11
251	9,16	314	37	371	36	428	36	485	7,8	542	11
252	9,16	315	37	372	36	429	36	486	7,8	543	10,11,15
253	16	316	37	373	36	430	36	487	7,8	544	10,15
254	16	317	37	374	36	431	36	488	7,8	545	11

P	位置	P	位置	P	位置	P	位置	P	位置	P	位置
546	11	603	17	691	3	748	30	805	31	862	33
547	11	604	20	692	3	749	30	806	欠番	863	33
548	11	605	20	693	13	750	30	807	31	864	33,37
549	11	606	20	694	11	751	30	808	31	865	33,37
550	11	607	20	695	11	752	30	809	30,31	866	33,37
551	10,15	608	17	696	11	753	30	810	31	867	33
552	10	609	17	697	11	754	30	811	31	868	33
553	11	610	3,6	698	11	755	30	812	31	869	33,36
554	11	611	3,6	699	11	756	欠番	813	31	870	32
555	1,2	612	3,6	700	第577図	757	30	814	31	871	31,32
556	1,2	613	3,6	701	30	758	欠番	815	31	872	31,32
557	1,2	614	3,6	702	30	759	欠番	816	31	873	31,32,33
558	11	615	6	703	30	760	30,34	817	31	874	31,32,33
559	11	616	3,6	704	30	761	30,34	818	30,31	875	31,32,33
560	11	617	6	705	30	762	30,34	819	31	876	31,32,33
561	11	618	6	706	30	763	欠番	820	30,31	877	31,32,33
562	10,11	619	6	707	30	764	欠番	821	31	877	31,32,33
563	11	620	16	708	30	765	34	822	31	878	31,33
564	11	621	16	709	30	766	34	823	31,33	879	31,32,33
565	11,14,15	622	16	710	30	767	34	824	31,33	880	33
566	11	623	16	711	30	768	30,31	825	31	881	31
567	11,15	624	16	712	欠番	769	30,31	826	31	882	31
568	欠番	625	16	713	欠番	770	30,31	827	31	883	31
569	欠番	626	16	714	30	771	31	828	31,33	884	31
570	11	627	16	715	30	772	30,31	829	31,33	885	31
571	11	628	16	716	30	773	30,31	830	31,33	886	31
572	11,15	629	16	717	30	774	30,31	831	31,33	887～892	欠番
573	11,15	630	16	718	30,31	775	30,31	832	33	893	32
574	11,15	631	16	719	30,31	776	30,31	833	31,33	894	32
575	11,15	632	6	720	30,31	777	欠番	834	31,33	895	32
576	15	633	11	721	30	778	31	835	31,33	896	32
577	14	634	37	722	31	779	31	836	31,33	897	32
578	14	635	37	723	30	780	31	837	31,33	898	32
579	14	636～667	欠番	724	30	781	31	838	31,33	899	32
580	17	668	11,13	725	30	782	31	839	31,33	900	欠番
581	17	669	欠番	726	30	783	31	840	33	901	32
582	17	670	11,13	727	欠番	784	31	841	33	902	32
583	10	671	11,13	728	30	785	31	842	33	903	32
584	17	672	11,13	729	30	786	31	843	33	904	32
585	17	673	11,13	730	30	787	31	844	33	905	32
586	17	674	11,13	731	30	788	30,31	845	33	906	32,33
587	20	675	11,13	732	欠番	789	31	846	33	907	32,33
588	20	676	14	733	30	790	31	847	33	908	32,33
589	17	677	13,14	734	欠番	791	31	848	33	909	32
590	17	678	13	735	30	792	31	849	33	910	32
591	17	679	13	736	30	793	31	850	33	911	32,33
592	17	680	欠番	737	30	794	31	851	33	912	32,33
593	20	681	13	738	30	795	31	852	33	913	32,33
594	17	682	13	739	30	796	31	853	33,34	914	32
595	17	683	13	740	30	797	31	854	33	915	33
596	17	684	13	741	30	798	31	855	33	916	33
597	17	685	13	742	30,31	799	31	856	33	917	33
598	17	686	13,14	743	31	800	31	857	33	918	33
599	20	687	13	744	30,31	801	31	858	33	919	31
600	20	688	13,14	745	30,31	802	31	859	33	920	31
601	17	689	13,14	746	30	803	31	860	33	921	欠番
602	17	690	14	747	30	804	31	861	33	922	30

P	位置	P	位置	P	位置	P	位置	P	位置	P	位置
923	30	964	25	1035	22	1074	22, 23	1113	22, 23	1152	23
924	欠番	965	25	1036	22	1075	22, 23	1114	22, 23	1153	23
925	欠番	966	25	1037	22	1076	22, 23	1115	22, 23	1154	23
926	32	967	25	1038	22	1077	22, 23	1116	22, 23	1155	23
927	32	968～1000	欠番	1039	22	1078	22	1117	22, 23	1156	23
928	欠番	1001	22	1040	22	1079	22, 23	1118	22, 23	1157	23
929	33	1002	22	1041	22	1080	22, 23	1119	22, 23	1158	23
930	33	1003	22	1042	22	1081	22, 23	1120	22, 23	1159	23
931	33	1004	22	1043	22	1082	22, 23	1121	22, 23	1160	23
932	36	1005	22	1044	22	1083	22, 23	1122	22, 23	1161	23
933	33, 36	1006	22	1045	22	1084	22, 23	1123	22, 23	1162	23
934	33, 37	1007	22	1046	22	1085	23	1124	22, 23	1163	23
935	33, 37	1008	22	1047	22	1086	22, 23	1125	22, 23	1164	23
936	33	1009	22	1048	22	1087	22, 23	1126	22, 23	1165	23
937	33, 37	1010	22	1049	22	1088	22, 23	1127	22, 23	1166	23
938	33, 37	1011	22	1050	22	1089	22, 23	1128	22, 23	1167	23
939	33, 37	1012	22	1051	22	1090	22, 23	1129	22, 23	1168	23
940	33, 37	1013	22	1052	22	1091	22, 23	1130	22, 23	1169	23
941	33, 37	1014	22	1053	22	1092	22, 23	1131	22, 23	1170	23
942	32, 33	1015	22	1054	22	1093	22, 23	1132	22, 23	1171	23
943～945	欠番	1016	22	1055	22	1094	22, 23	1133	22, 23	1172	23
946	32, 33	1017	22	1056	22	1095	22, 23	1134	22, 23	1173	23
947	32, 33	1018	22	1057	欠番	1096	22, 23	1135	22, 23	1174	23
948	32	1019	22	1058	22	1097	22, 23	1136	22, 23	1175	23
949	32	1020	22	1059	22	1098	22, 23	1137	22, 23	1176	23
950	33	1021	22	1060	22	1099	22, 23	1138	22, 23	1177	22
951	33	1022	22	1061	22	1100	22, 23	1139	23	1178	22
952	33	1023	22	1062	22	1101	23	1140	22, 23	1179	22
953	31	1024	22	1063	22, 23	1102	23	1141	23	1180	22
954	26	1025	22	1064	22, 23	1103	23	1142	23	1181	22
955	26	1026	22	1065	22, 23	1104	23	1143	23	1182	22
956	26	1027	22	1066	22, 23	1105	23	1144	23	1183	22
957	25	1028	22	1067	22	1106	23	1145	23	1184	22
958	25	1029	22	1068	22, 23	1107	23	1146	23	1185	22, 23
959	25	1030	22	1069	22, 23	1108	23	1147	23	1186	23
960	25	1031	22	1070	22	1109	23	1148	23		
961	25	1032	22	1071	22, 23	1110	23	1149	23		
962	25	1033	22	1072	22, 23	1111	22, 23	1150	23		
963	25	1034	22	1073	22, 23	1112	22, 23	1151	23		

突出部を除く規模は，南北方向が1.65m，東西方向が1.7m，深さは20cmである。底面（床面？）の規模は1.55m四方である。南辺から突出部のある北辺に向かう方向を主軸方向とすると，N-4°-Eで，各辺はほぼ東西南北に沿っている。突出部の長さは60cm，幅は35cmである。底面は比較的平坦であるが，突出部はやや高まっている。突出部底面も平坦である。底面はソフトローム層とハードローム層の境にあるが，やや硬化しているように思われる。堆積土中のロームブロックは，上層に多く，下層に少ない。

本遺構の東方，至近の位置にSB－001，北方にSI－001等，奈良・平安時代の遺構が所在する。また，周囲には小ピット・土坑も多くみられる。

SX－003（第618図，図版161）

南部北寄りの19S区に位置する。円形の周溝状遺構の中に，方形の竪穴状遺構をもつ遺構である。両者は別遺構の疑いもあるが，方形竪穴が円形周溝の内側に収まること，周囲に他遺構の分布が少ないことから，一体の遺構と思われる。円形周溝の規模は，外径が3.3m～3.4m，内径が2.3m，深さは8cm～15cm，周溝幅はおおむね50cmである。方形竪穴の規模は，上端で南北方向が1.75m，東西方向が1.6m，底面が南北1.45m，東西1.3mで，南北にやや長い。深さは30cmである。竪穴長軸方向はN-9°-Eで，北から東にやや傾いている。円形周溝の南側中央部分には，周溝幅が内外に突出し，底面も両脇より低い部分がある。深さは20cmである。他遺構の重複も考えられるが，本遺構の一部としておく。周溝の底面は比較的平坦である。方形竪穴の底面はやや凹凸がある。壁へは直立的に立ち上がるが，一部に丸味をもつ部分がある。

方形竪穴の堆積土をみると，上・中層にロームブロックを多く含む土層（4層）がやや厚く堆積しているので，埋め戻されたものと思われる。周溝部分の堆積土は，自然堆積か人為的堆積か判然としない。

出土遺物には千葉産須恵器甑等，奈良・平安時代の土器片が数点あるが，混入品と思われ，本遺構の時期については，確定しがたい。周囲に古墳時代の円墳があるが，本遺構を円墳とするには，規模が小さすぎると思われる。そのため，性格についても，判然としない。

SX－006（第618図，図版161）

南部中央の19T区に位置する。弧状を呈する溝状遺構である。延べの長さは3.4m，幅は遺存のよい部分で60cmである。深さは10数cmで，非常に浅い。中央西壁で深さ30cmの小ピットと重複している。堆積土は若干のローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土である。出土遺物は奈良・平安時代の土師器甕片1点のみで，混入品と思われる。

弧状の形態から，本遺構の性格については，古墳時代の円墳が想起される。しかし，遺存が少なく，断定しがたい。近くに溝状遺構SD－002があることから，溝状遺構の一部かもしれない。

西部地区南斜面の土坑群（第650図～第653図，図版178～190・331）

西部地区南斜面には，類似する形態・規模の土坑がまとまって所在する。これらの土坑群は，第650図土坑㉔，第651図土坑㉕，第652図土坑㉖，第653図土坑㉗に図示したものであり，グリッドでは16Q・16R・17Q・18Q・18R区に位置する。

個々の土坑の形態は長方形を基本とし，隅が丸味をもつものもある。また，円形でやや小規模のものもある。さらに，著しく小規模なものがあるが，SK－493内に小ピットがあることから，長方形土坑に関連する可能性がある。このような小規模なものを含むすべての土坑が，同じ性格であるかどうかは，断定しがたい。しかし，そのあり方から，土坑の多くは同様の性格をもつと考えられる。

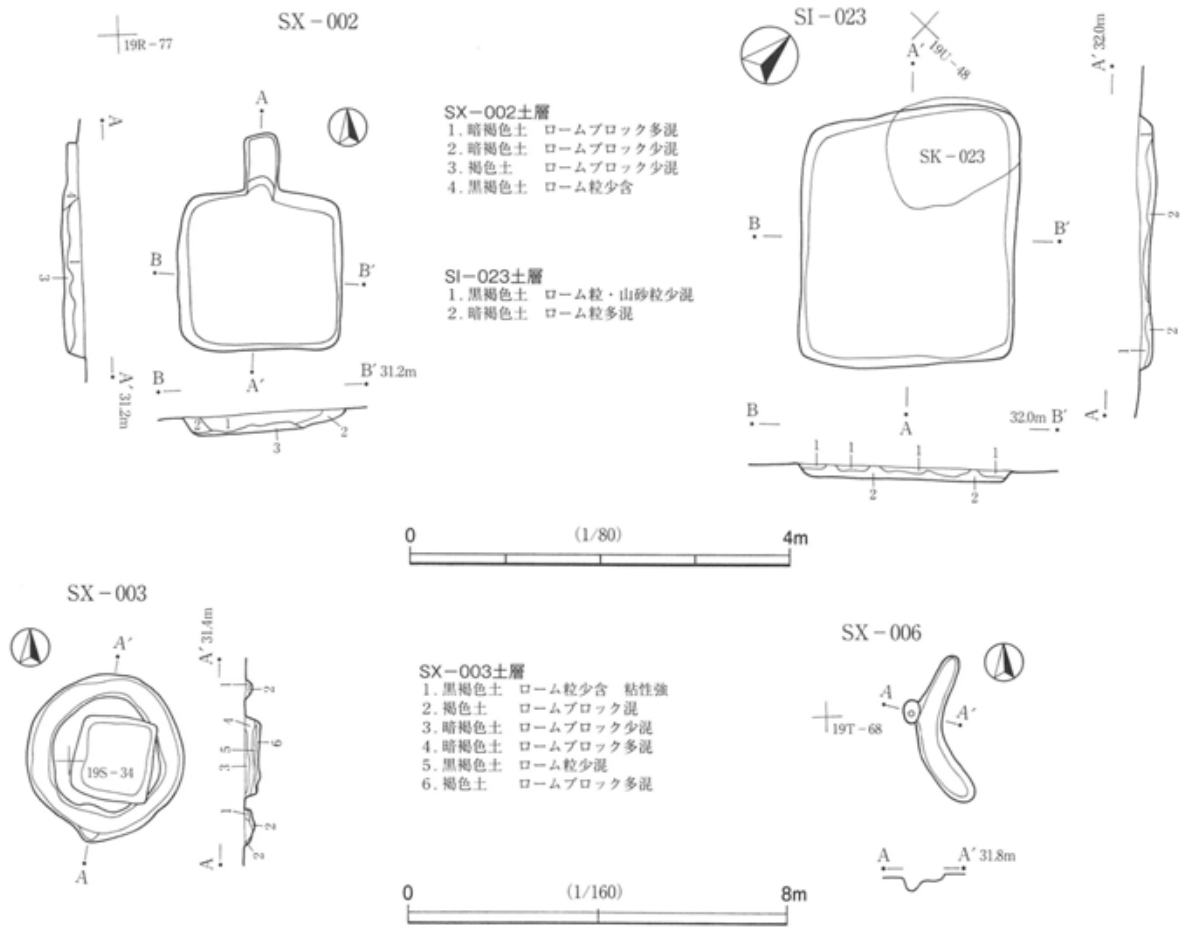
第650図から第653図に示した土坑の数量は，小規模なものを含めて約160基である。このうち，比較的

しっかりした長方形土坑の平均的な規模をみると，長さは1.2m，幅は80cm，深さは65cm程度である。長さの数値はややばらつきがあるが，幅の数値は比較的差が少ない。深さについては，長さ以上にばらつきがあり，遺構の規模や位置する地点の表土の厚さを考慮する必要がある。1mを越えるものも若干みられ，全体的には，規模のわりに比較的深い遺構群といえよう。

土坑群全体のうち，中央やや北側の土坑群（SK－451ほか）は南北方向の列状をなしている。また，西端の道路跡SD－055内にも土坑列（SK－560ほか）があるが，こちらは道路に関係する遺構群とも思われ，他の土坑群と同様のものか断定しがたい。ほかの土坑の分布は，比較的密であるが，とくに規則的な位置関係はみられない。

中央の土坑列は，一部二列になっている。東側の列は一直線状で，列が長いが，西側の列は短い。また，SK－452は長軸が列と直交的であり，西側の列はやや不整である。東列のやや北側に位置するSK－451は，東側でSD－059と重複するが，新旧関係は不明である。SD－059はSK－451の西方にみられないので，両者は関連する可能性がある。土坑列の南側に位置するSK－564はSD－057と重複するが，新旧関係は不明である。SK－564の南方にはSK－537があり，土坑列はここまで続くように思われるが，その間にあるSD－057およびSI－377のために，不明瞭である。土坑列の長さは，北端のSK－546からSK－564までで16m，SK－537まで加えると21mである。

土層断面の記録は，一部の土坑にとどまるが，まとめて記述すると，土層はおおむね次の6層を基本とする。上から1層は黒褐色土，2層は山砂を多く含む黄褐色土，3層は山砂を主体とする明黄褐色土，4



第618図　SX－002・003・006・SI－023

層は山砂を含む褐色土，５層はローム粒・ロームブロックを主体とする黄褐色土，６層はローム粒を含む褐色土である。そして，山砂・ローム粒・黒色土の混じり具合によって，以上の中間層など，様々な土層がみられる。各土坑の堆積土は，黒褐色土を主体とするものもあるが，２層～６層を主体とするものの方が多い。また，黒褐色土が卓越する場合でも，一部に山砂やローム粒・ロームブロックを多く含む土層が堆積する場合が多い。さらに，堆積土は全体的にしまりがきわめて弱い。以上の状況から，土坑群は基本的に埋め戻されていると思われる。なお，SK－544では上層に宝永の火山灰が堆積しており，土坑群の時期を示唆するものと思われる。ただし，この遺構はSD－055内の遺構である。

SK－515からは骨粉と思われるものが出土したが，ほかの土坑からは，人骨の出土がなかった。そのほかの出土遺物は，少量の奈良・平安時代土器片であり，六道銭や陶磁器等は全く出土していない。しかし，土坑の規模・形態，堆積土の様相，少数例ではあるが人骨らしいものの出土や宝永火山灰層の堆積から，土坑群の多くは中・近世の土坑墓と思われる。なお，SD－059は南北の土坑墓列群に至る道路跡の可能性が考えられる。

（２） 遺物

SK107（図版331）

258はカワラケである。体部から口縁部は直線的に開き，内面底部と体部との境は凹みが一巡する。底部は糸切り痕が残されている。18世紀後半のものである。

SK461（図版331）

259は焙烙の口縁部から体部片である。扁平で，体部下方が丸みをもって開く。19世紀代のものである。

SK553（図版331）

260は瀬戸・美濃産磁器染付端反碗の体部下半から高台部片で，体部外面に松葉文，体部外面下端に二重圏線，高台部外面及び底部外面に圏線が描かれる。19世紀代のものである。

SK570（図版331）

261はカワラケの口縁部から体部破片である。

SK576（図版331）

262は瀬戸・美濃産陶器輪禿皿である。口縁部は体部から外折し，端部は角張っている。高台部畳付は丸みをもって仕上げられている。体部下端から高台部を除いて灰釉が施されるが，底部内面の周縁は円形に拭い取られており，重ね焼きの際の釉着痕がみられる。18世紀後半のものである。

SK579（図版331）

263は肥前産磁器染付碗の口縁部から体部片で，薄手の作りである。外面の文様はコンニャク印判による。18世紀前半のものである。

SK581（図版331）

264は瀬戸・美濃産陶器筒形香炉の口縁部から底部片で，口縁部は内傾しやや内側に張り出す。体部外面には呉須絵が描かれ，口縁部から体部外面は灰釉が施される。18世紀前半のものである。265はカワラケの口縁部から底部片である。扁平な皿形で，体部は直線的に開く。底部外面には糸切り痕が残されている。口縁部には油煙が付着しており，灯明皿として使用されたものである。18世紀代のものである。266・267は同一個体と思われる焙烙の口縁部から体部の破片で，267は内耳部分の破片である。体部から

口縁部は比較的直線的に開き，口縁端部は丸みをもって仕上げられる。外面口縁部と体部との境に稜を有し，体部外面には型押し成形の際の圧痕がみられる。18世紀後半のものである。図示したもの以外の破片は，陶器碗１点・瓶類１点，磁器碗１点，焙烙33点が出土した。

SK586（図版331）

268は瀬戸・美濃産陶器丸碗の体部下方から高台部である。体部下端から底部及び高台部を除いて灰釉が施される。内面及び割れ口には酸化鉄（ベンガラ）が付着しており，紅皿として使用されたものとみられる。17世紀後半から18世紀前半のものである。

SK597（第670図，図版331）

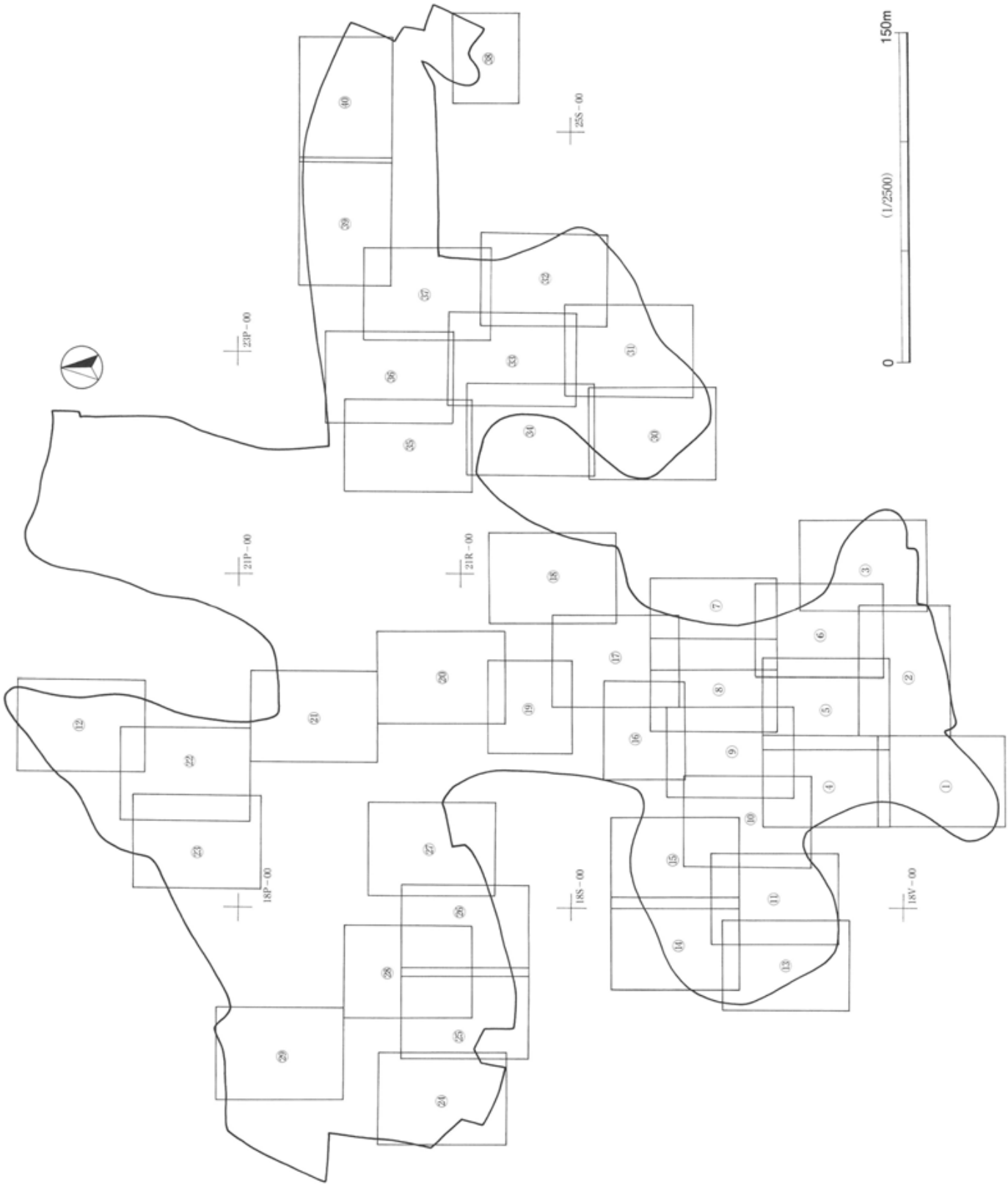
269は常滑産陶器甕の口縁部から頸部の破片で，口縁帯は欠損する。縁帯へ折り返す部分の割れ口の幅が狭いことから，口縁帯は下方に長く垂下するものと考えられる。８型式（14世紀後半）のものである。270は焙烙の口縁部から体部片である。体部から口縁部は直線的に開く。体部外面は型押し成形の際に残された圧痕がみられる。18世紀後半のものである。

SK604（図版331・332）

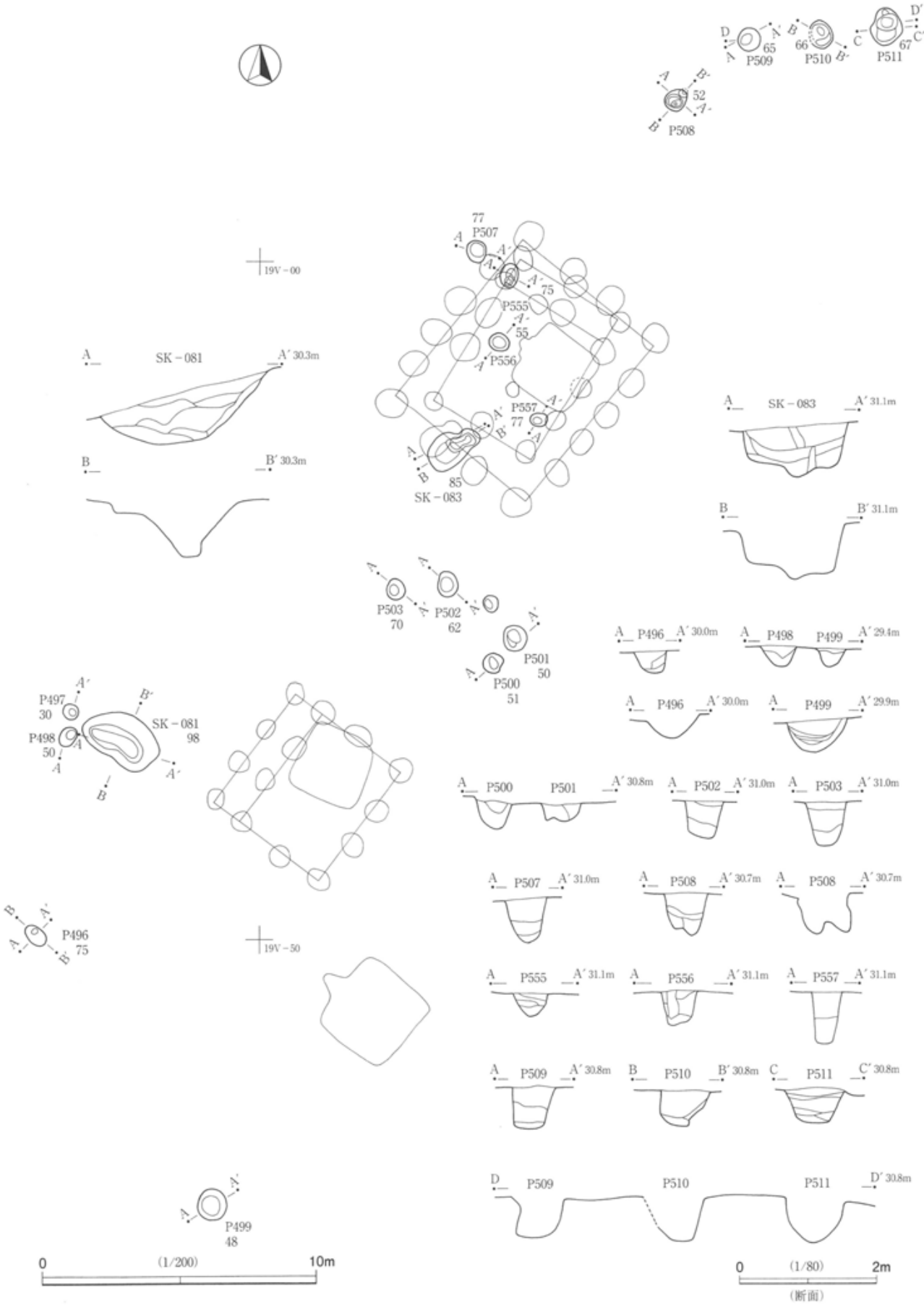
271は瀬戸・美濃産陶器腰錆碗の体部下方から高台部片である。外面は高台部畳付を除いて錆釉，内面は灰釉が施される。18世紀後半のものである。

SK612（図版331）

272は志戸呂産陶器灯明皿である。底部外面は糸切り痕が残されている。底部外面を除いて錆釉が施される。18世紀後半のものである。図示したもの以外の破片は，焙烙１点が出土している。



第619図　土坑位置分割枠全体図


P509
65
P510
66
P511
67
P508
52
77
P507
75
P555
55
P556
P557
77
85
SK－083
19V－00
SK－081
30.3m
SK－083
31.1m
P503
70
P502
62
P501
50
P500
51
P496
30.0m
P498
P499
29.4m
P497
30
SK－081
98
P500
P501
30.8m
P502
31.0m
P503
31.0m
P507
31.0m
P508
30.7m
P496
75
19V－50
P555
31.1m
P556
31.1m
P557
31.1m
P509
30.8m
P510
30.8m
P511
30.8m
P499
48
P509
P510
P511
30.8m
0
(1/200)
10m
0
(1/80)
2m
(断面)

第620図　土坑①

SK-032
SK-080
SK-082
SK-084
SK-085
SK-086
SK-087
SK-088
SK-091
SK-093
SK-094
SK-095
SK-096
SK-357
20V-00
0
(1/200)
10m

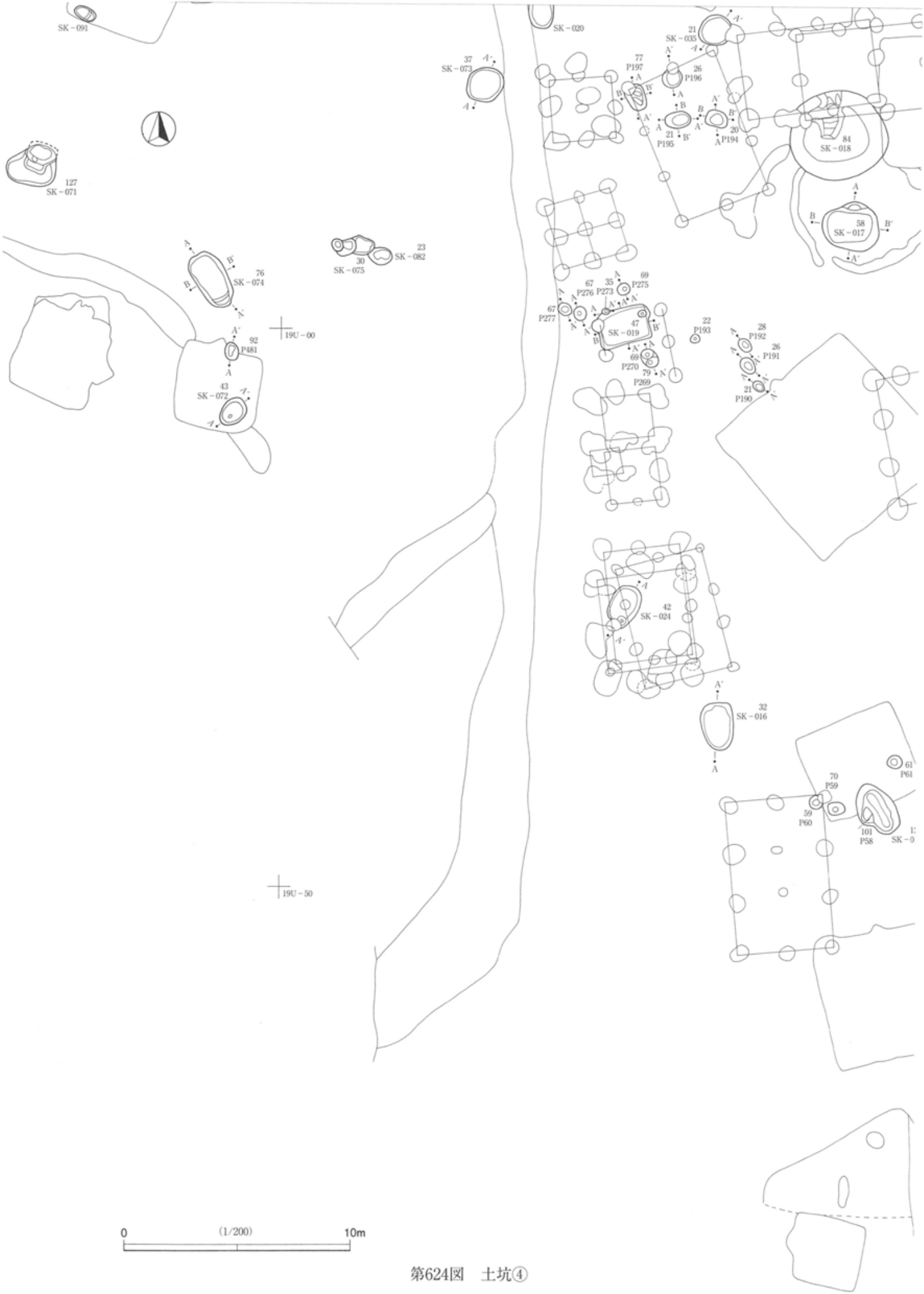
第621図　土坑②

A SK－032 A′ 31.4m
A SK－084 A′ 31.0m
A SK－085 A′ 30.4m
B SK－032 B′ 31.4m
A SK－086 A′ 28.7m
A SK－088 A′ 28.8m
B SK－085 B′ 30.3m
A SK－090 A′ 30.7m
SK－092
A A′ 27.9m
A SK－093 A′ 28.7m
A SK－095 A′ 29.5m
A SK－096 A′ 29.0m
A SK－094 A′ 29.0m
B SK－096 SK－094 B′ 29.0m
A P62 A′ 31.2m
A P64 A′ 31.3m
A P65 A′ 31.0m
A P67 A′ 31.3m
A P68 A′ 31.1m
A P70 P69 A′ 31.2m
A P71 A′ 31.1m
A P72 A′ 31.4m
A P73 A′ 31.4m
A P74 A′ 31.3m
A P82 A′ 31.5m
A P75 A′ 31.4m
A P76 A′ 31.5m
A P77 A′ 31.5m
A P78 A′ 31.5m
A P79 A′ 31.5m
A P83 A′ 31.4m
P517
A A′ 26.9m
A P84 P85 P86 A′ 31.4m
A P87 A′ 31.5m
A P89 A′ 31.3m
P513
A A′ 26.9m
A P512 A′ 31.3m
B P512 B′ 31.3m
A P514 A′ 26.7m
A P515 A′ 29.0m
P518
A A′ 27.0m
P519
A A′ 27.0m
A P557 A′ 31.1m
A P516 A′ 26.9m
A P520 A′ 27.0m
0 (1/80) 2m

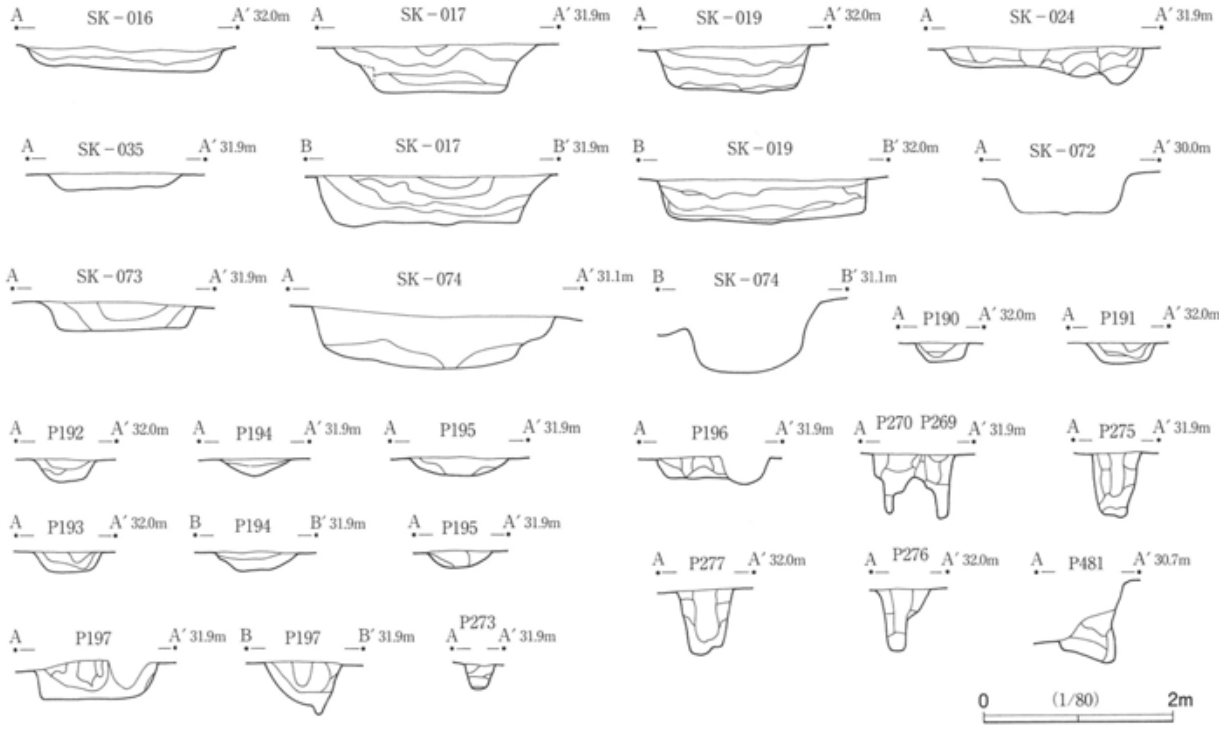
第622図　土坑②断面

40
P616
29
P610
53
P615
55
SK－159
59
P611
30
SK－130
39
P614
45
SK－149
96
SK－155
79
349
SK－165
79
SK－154
30
P613
55
P612
93
SK－146
18
SK－147
344
SK－164
48
SK－156
64
SK－148
SK－130
SK－150
SK－146
SK－156
SK－147
SK－148
SK－159
0
(1/80)
2m
43
SK－086
49
SK－150
26
P519
37
P518
47
P515
20
P513
32
P692
50
P691
45
P517
61
P516
39
P514
45
P520
126
SK－166
136
SK－167
21V－00
0
(1/200)
10m

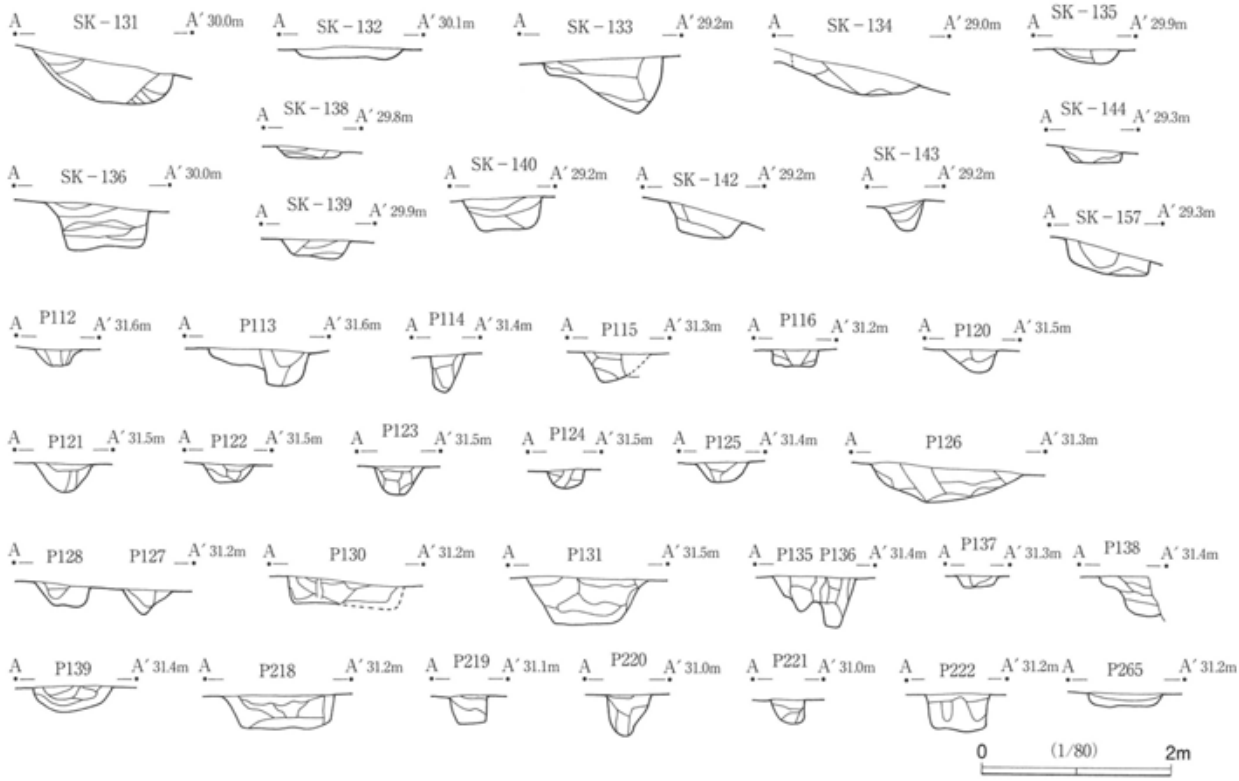
第623図　土坑③


SK－091
SK－020
37
SK－073
21
SK－035
77
P197
26
P196
21
P195
20
P194
84
SK－018
127
SK－071
58
SK－017
23
SK－082
30
SK－075
76
SK－074
19U－00
92
P481
43
SK－072
67
P277
67
P276
35
P273
69
P275
47
SK－019
22
P193
28
P192
26
P191
69
P270
79
P269
21
P190
42
SK－024
32
SK－016
61
P61
70
P59
59
P60
101
P58
19U－50
0
(1/200)
10m

第624図　土坑④



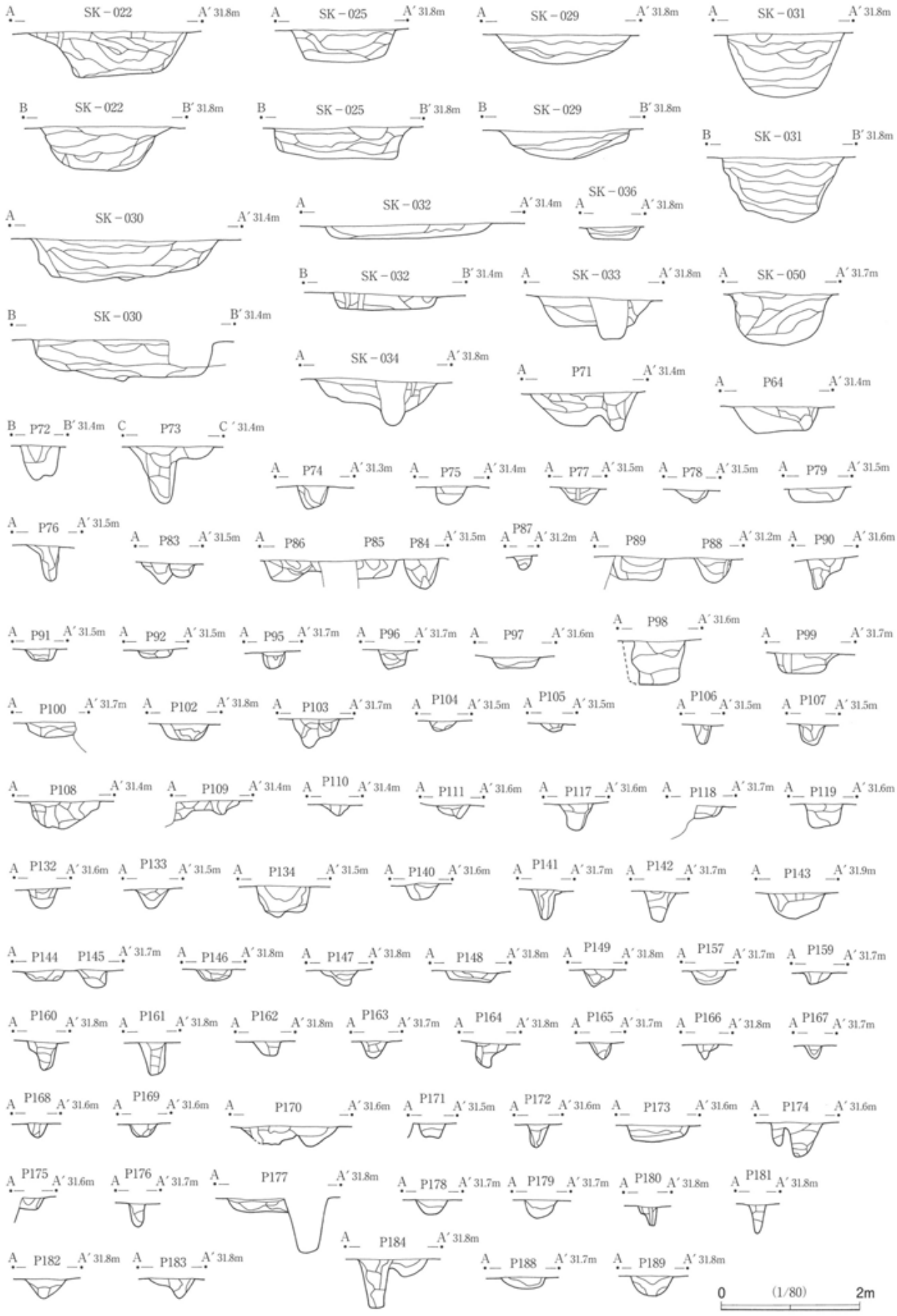
第625図　土坑④断面



第626図　土坑⑥断面

SK－018
SK－017
SK－034
SK－033
SK－030
SK－036
SK－050
SK－029
SK－025
SK－022
SK－031
SK－021
SK－023
SK－015
SK－032
20U－00
20U－50
0
(1/200)
10m

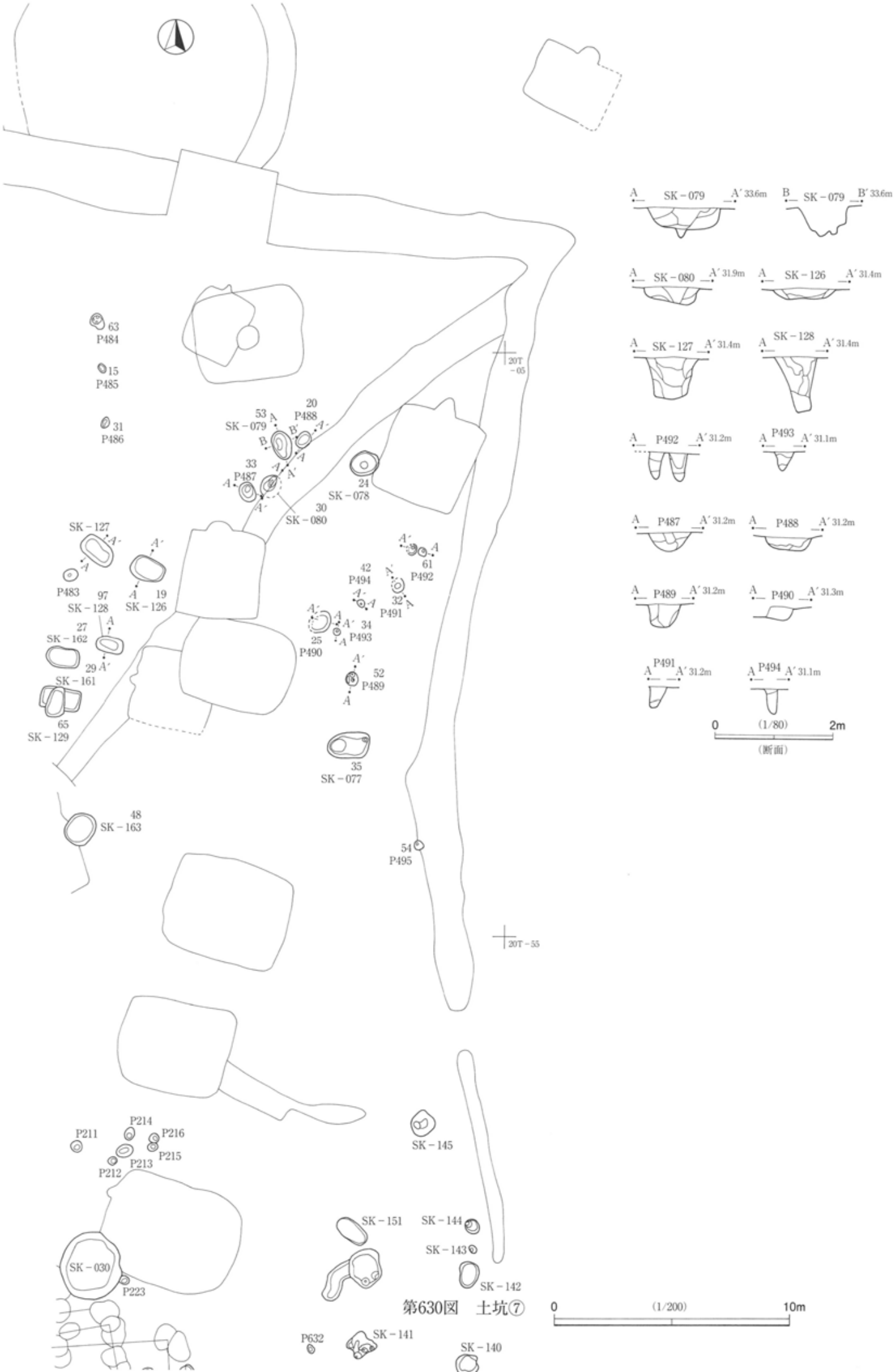
第627図　土坑⑤


SK－022
SK－025
SK－029
SK－031
SK－030
SK－032
SK－036
SK－033
SK－050
SK－034
P71
P64
P72
P73
P74
P75
P77
P78
P79
P76
P83
P86
P85
P84
P87
P89
P88
P90
P91
P92
P95
P96
P97
P98
P99
P100
P102
P103
P104
P105
P106
P107
P108
P109
P110
P111
P117
P118
P119
P132
P133
P134
P140
P141
P142
P143
P144
P145
P146
P147
P148
P149
P157
P159
P160
P161
P162
P163
P164
P165
P166
P167
P168
P169
P170
P171
P172
P173
P174
P175
P176
P177
P178
P179
P180
P181
P182
P183
P184
P188
P189
0
(1/80)
2m

第628図　土坑⑤断面

P214
P211
P216
P215
P212
P213
SK－030
P223
52
SK－145
49
SK－151
37
SK－144
42
SK－143
81
SK－153
51
SK－142
40
P632
79
SK－141
48
SK－140
P265
P222
52
P219
42
P221
45
P220
45
P218
58
SK－139
76
SK－157
24
P618
62
SK－137
33
SK－138
20U－05
P131
87
SK－136
34
P619
30
P130
49
SK－135
29
P617
35
P129
73
SK－134
25
P125
30
P121
20
P124
76
SK－133
P119
31
P120
32
P123
52
P127
52
P126
27
P128
24
P122
P117
35
SK－132
72
SK－131
P118
P139
25
P116
P106
P107
P138
57
P136
P135
70
P109
P111
P108
P110
P137
P112
42
P113
44
P114
P616
P615
SK－159
P610
37
P115
20U－55
P611
SK－130
P614
P81
P80
P68
P612
P72
P71
P70
P69
P65
SK－146
SK－147
P64
0
(1/200)
10m
SK－156

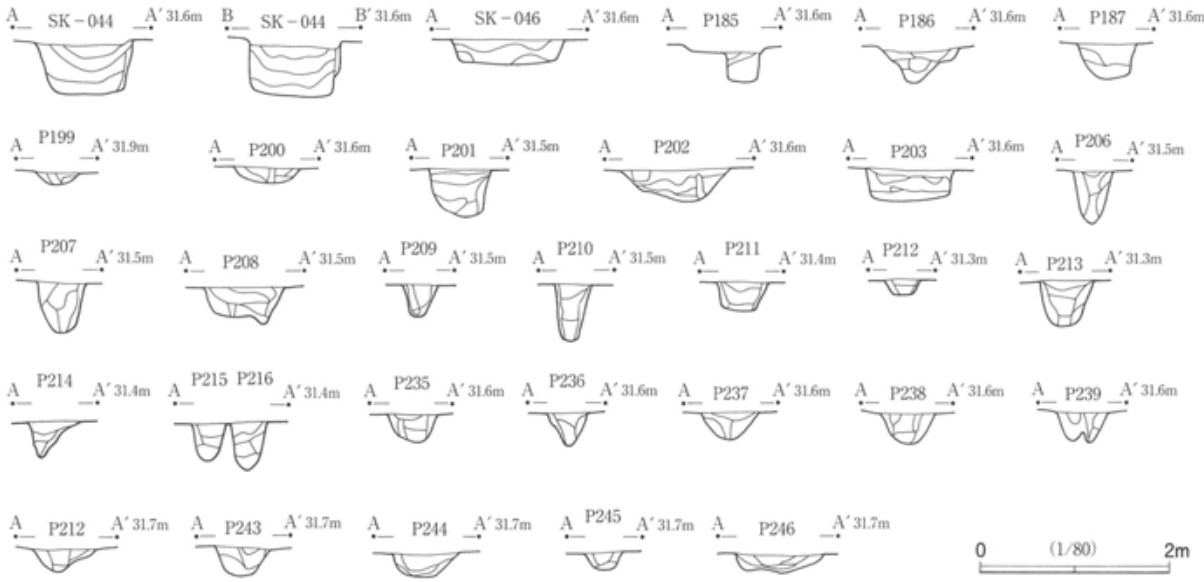
第629図　土坑⑥


SK－079
A′ 33.6m
B′ 33.6m
SK－080
A′ 31.9m
SK－126
A′ 31.4m
SK－127
A′ 31.4m
SK－128
A′ 31.4m
P492
A′ 31.2m
P493
A′ 31.1m
P487
A′ 31.2m
P488
A′ 31.2m
P489
A′ 31.2m
P490
A′ 31.3m
P491
A′ 31.2m
P494
A′ 31.1m
0
(1/80)
2m
(断面)
63
P484
15
P485
31
P486
53
SK－079
20
P488
33
P487
30
SK－080
24
SK－078
20T
－05
SK－127
P483
97
SK－128
19
SK－126
27
SK－162
29
SK－161
65
SK－129
42
P494
61
P492
32
P491
34
P493
25
P490
52
P489
35
SK－077
48
SK－163
54
P495
20T－55
P211
P214
P216
P215
P212
P213
SK－145
SK－151
SK－144
SK－143
SK－030
P223
SK－142
P632
SK－141
SK－140
0
(1/200)
10m

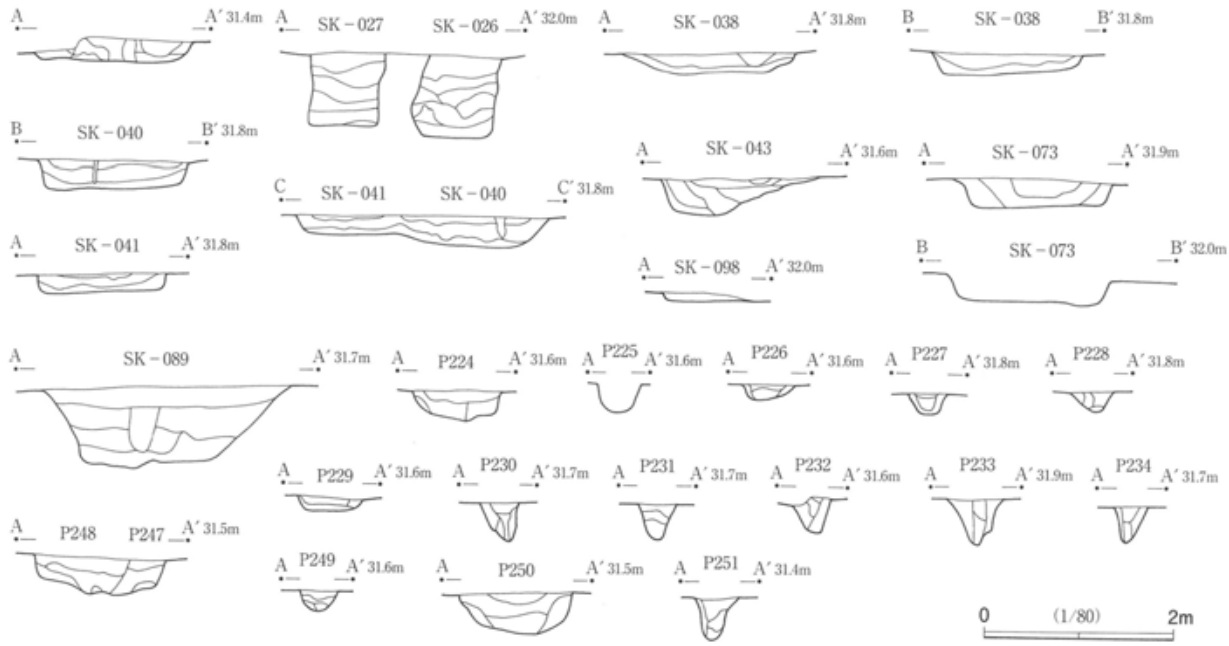
第630図　土坑⑦

20T－00
20T－50
SK－046
SK－045
SK－044
SK－042
SK－039
SK－037
SK－034
SK－033
SK－079
SK－080
SK－127
SK－126
SK－128
SK－162
SK－161
SK－129
SK－163
P484
P485
P486
P487
P488
P483
P490
P493
P246
P244
P245
P241
P242
P243
P236
P238
P239
P237
P235
P199
P200
P202
P187
P186
P185
P201
P203
P198
P204
P205
P206
P207
P208
P209
P210
P211
P212
P213
P214
P215
P216
P154
P180
P179
P178
P181
P223
P632
0
(1/200)
10m

第631図　土坑⑧



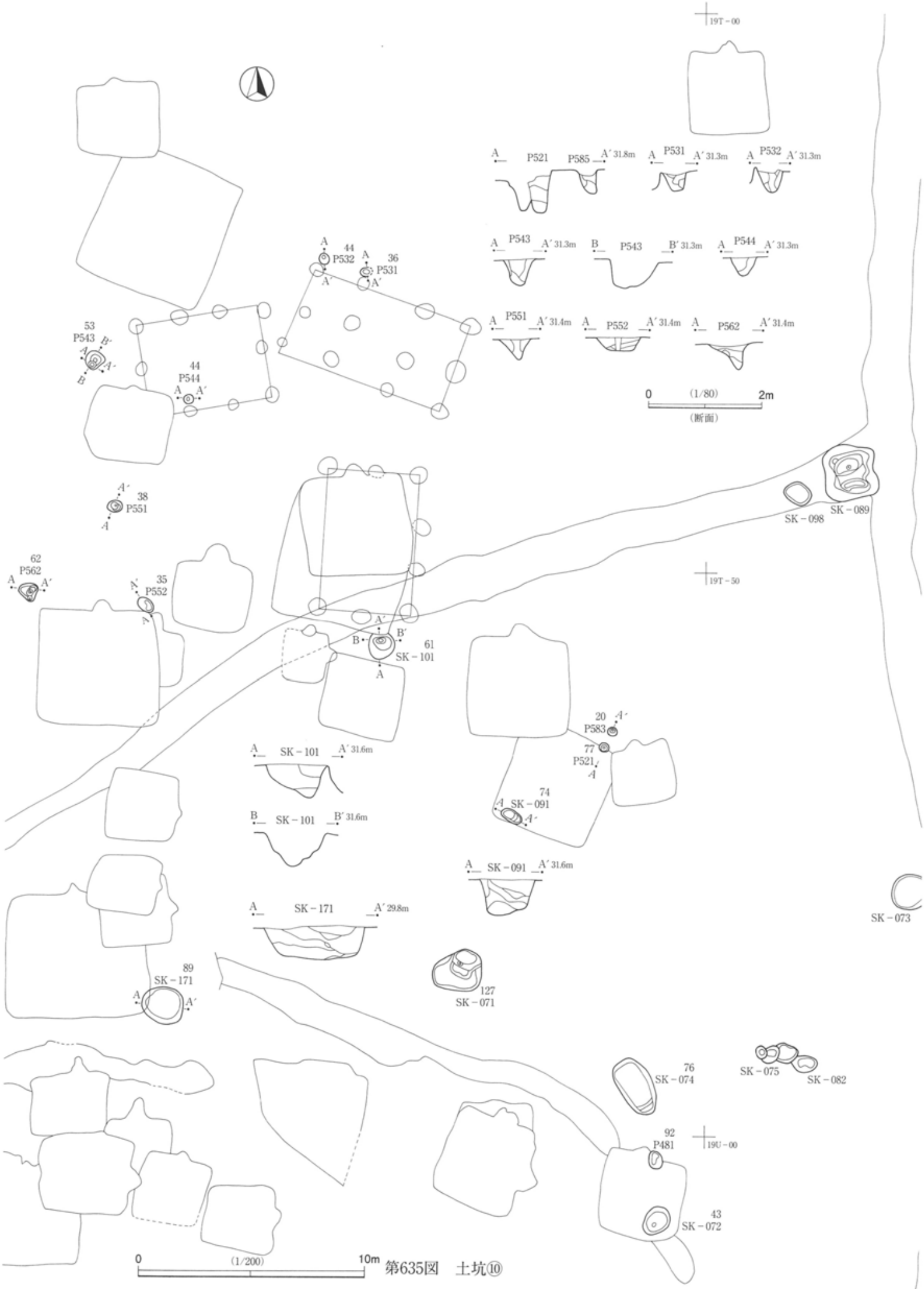
第632図　土坑⑧断面



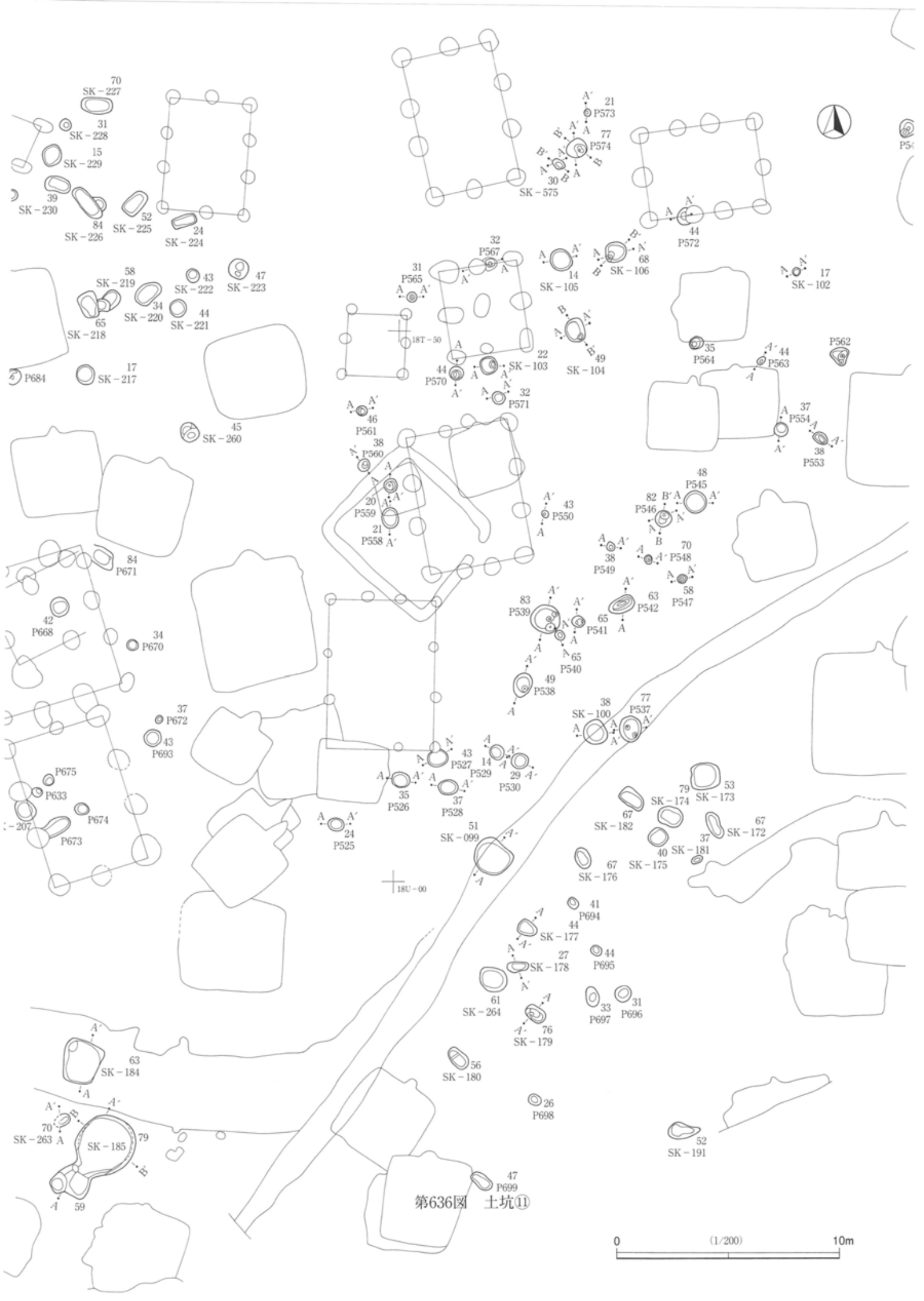
第633図　土坑⑨断面

19
P255
46
P252
59
P248
23
P249
46
P250
47
P247
44
P251
SK－001
19T－00
35
P224
30
P225
46
SK－043
17
P229
P236
P238
P239
P237
37
P234
P235
21
P226
35
P230
SK－042
40
P231
43
P232
22
P228
24
P227
54
P233
41
SK－040
22
SK－041
P241
P244
P242
16
SK－098
103
SK－089
34
SK－038
19T－50
54
P217
65
SK－027
84
SK－026
24
SK－020
SK－035
P155
P196
P199
P195
P194
SK－018
P154
P180
SK－073
SK－017
P181
0
(1/200)
10m
SK－075
SK－082
P275
P277
P276

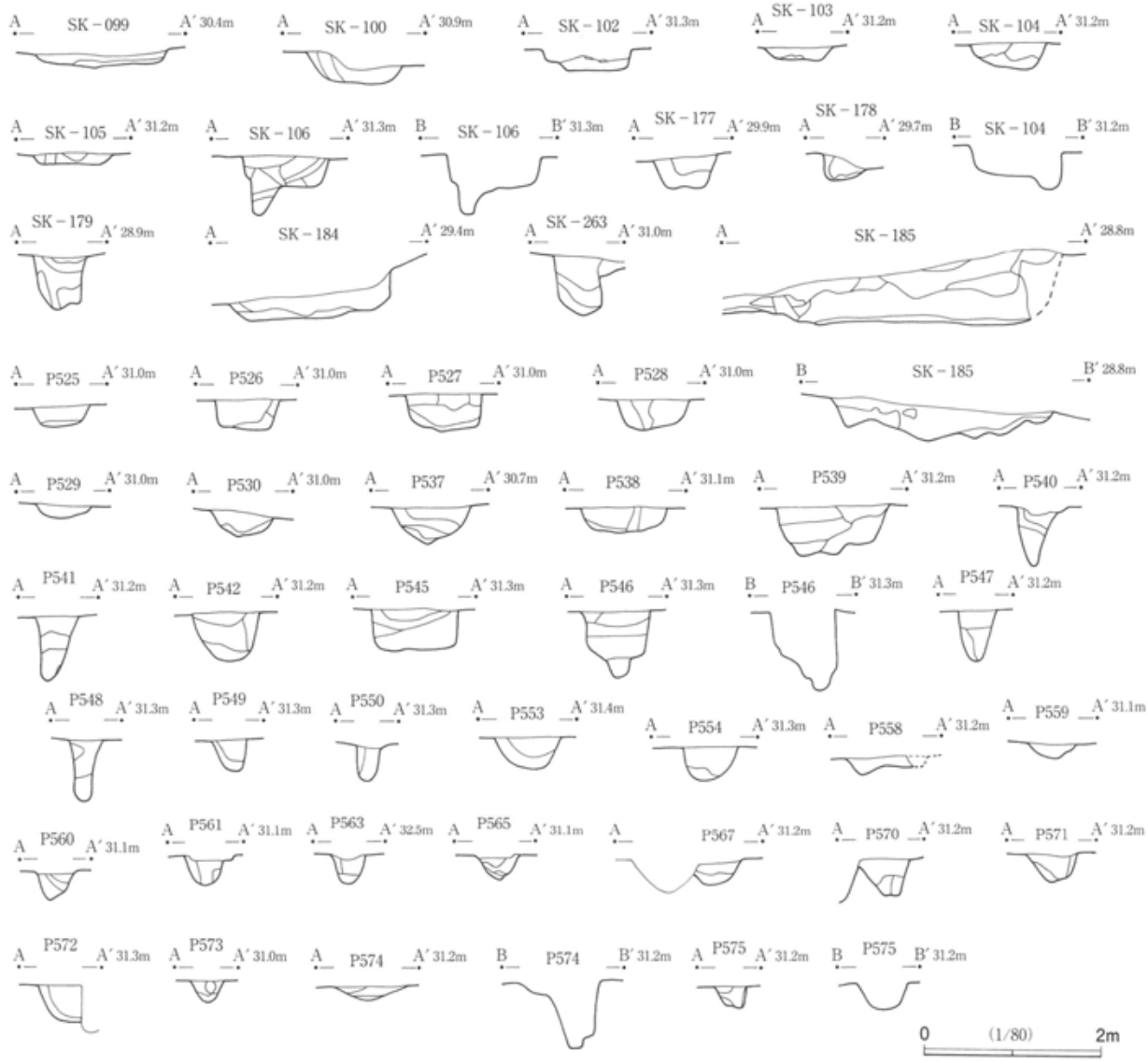
第634図　土坑⑨


19T－00
A P521 P585 A′ 31.8m
A P531 A′ 31.3m
A P532 A′ 31.3m
A P543 A′ 31.3m
B P543 B′ 31.3m
A P544 A′ 31.3m
A P551 A′ 31.4m
A P552 A′ 31.4m
A P562 A′ 31.4m
0 (1/80) 2m
(断面)
44 P532
36 P531
53 P543
44 P544
38 P551
62 P562
35 P552
61 SK－101
SK－098
SK－089
19T－50
20 P583
77 P521
74 SK－091
A SK－101 A′ 31.6m
B SK－101 B′ 31.6m
A SK－091 A′ 31.6m
A SK－171 A′ 29.8m
89 SK－171
127 SK－071
SK－073
76 SK－074
SK－075
SK－082
92 P481
19U－00
43 SK－072
0 (1/200) 10m

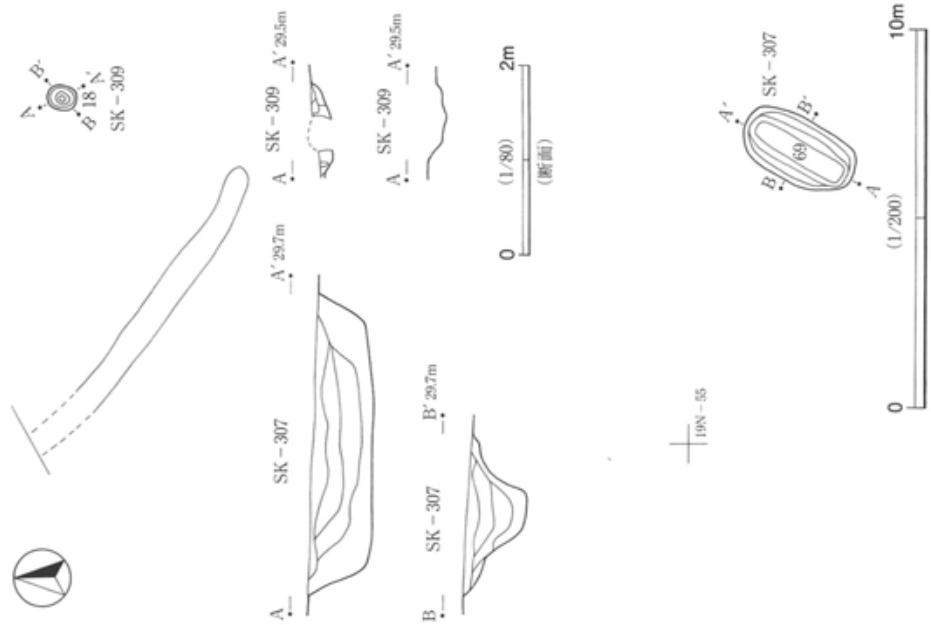
第635図　土坑⑩


70 SK－227
31 SK－228
15 SK－229
39 SK－230
84 SK－226
52 SK－225
24 SK－224
58 SK－219
43 SK－222
47 SK－223
34 SK－220
44 SK－221
65 SK－218
17 SK－217
P684
45 SK－260
21 P573
77 P574
30 SK－575
44 P572
32 P567
31 P565
14 SK－105
68 SK－106
17 SK－102
18T－50
22 SK－103
44 P570
32 P571
49 SK－104
35 P564
44 P563
P562
46 P561
38 P560
20 P559
21 P558
37 P554
38 P553
48 P545
82 P546
43 P550
38 P549
70 P548
58 P547
63 P542
83 P539
65 P541
65 P540
49 P538
84 P671
42 P668
34 P670
37 P672
43 P693
P675
P633
P674
P673
38 SK－100
77 P537
43 P527
14 P529
29 P530
35 P526
37 P528
24 P525
51 SK－099
18U－00
79 SK－174
53 SK－173
67 SK－182
67 SK－172
37 SK－181
40 SK－175
67 SK－176
41 P694
44 SK－177
27 SK－178
44 P695
61 SK－264
33 P697
31 P696
76 SK－179
63 SK－184
56 SK－180
26 P698
70 SK－263
79 SK－185
59
52 SK－191
47 P699
0 (1/200) 10m

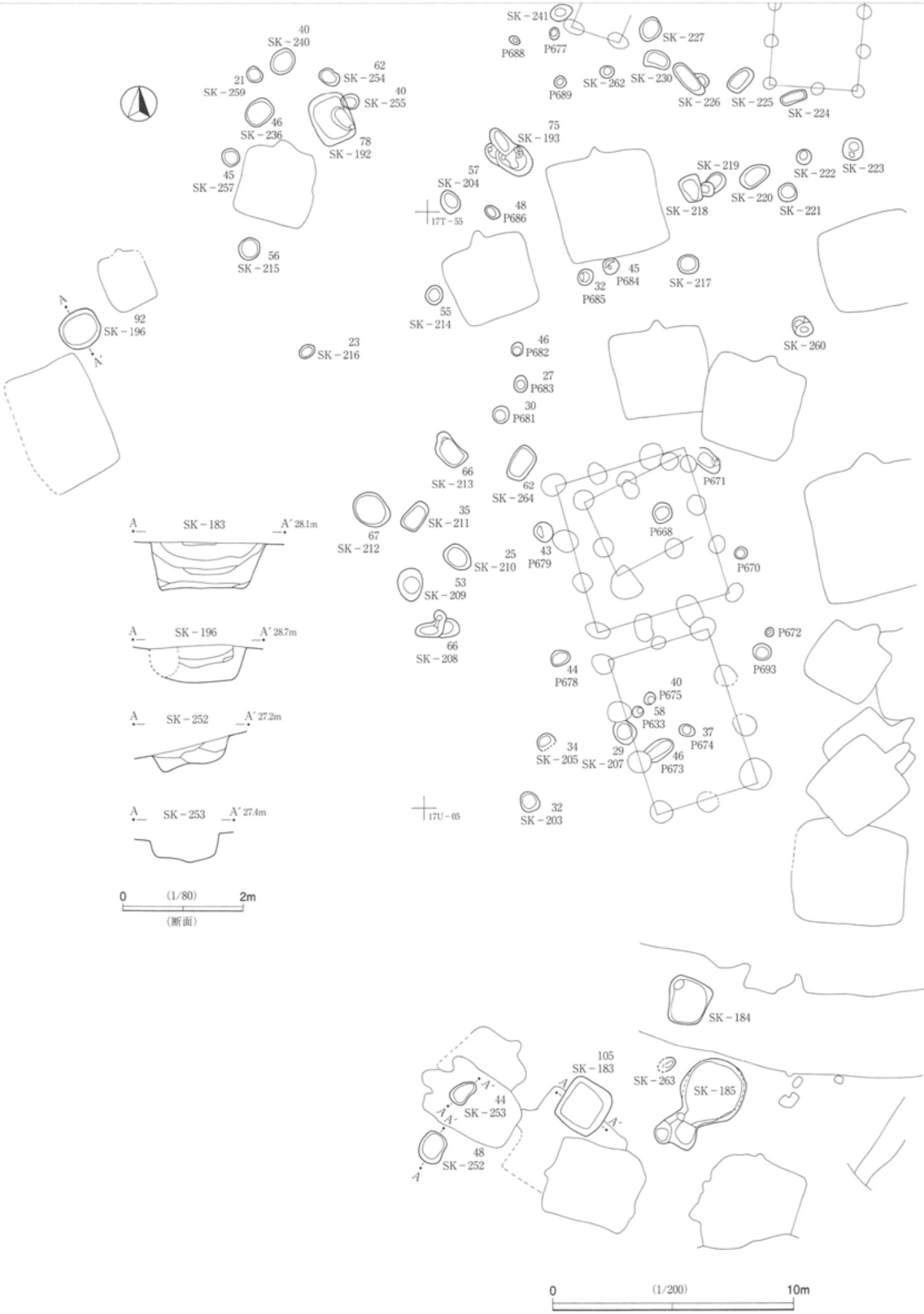
第636図　土坑⑪



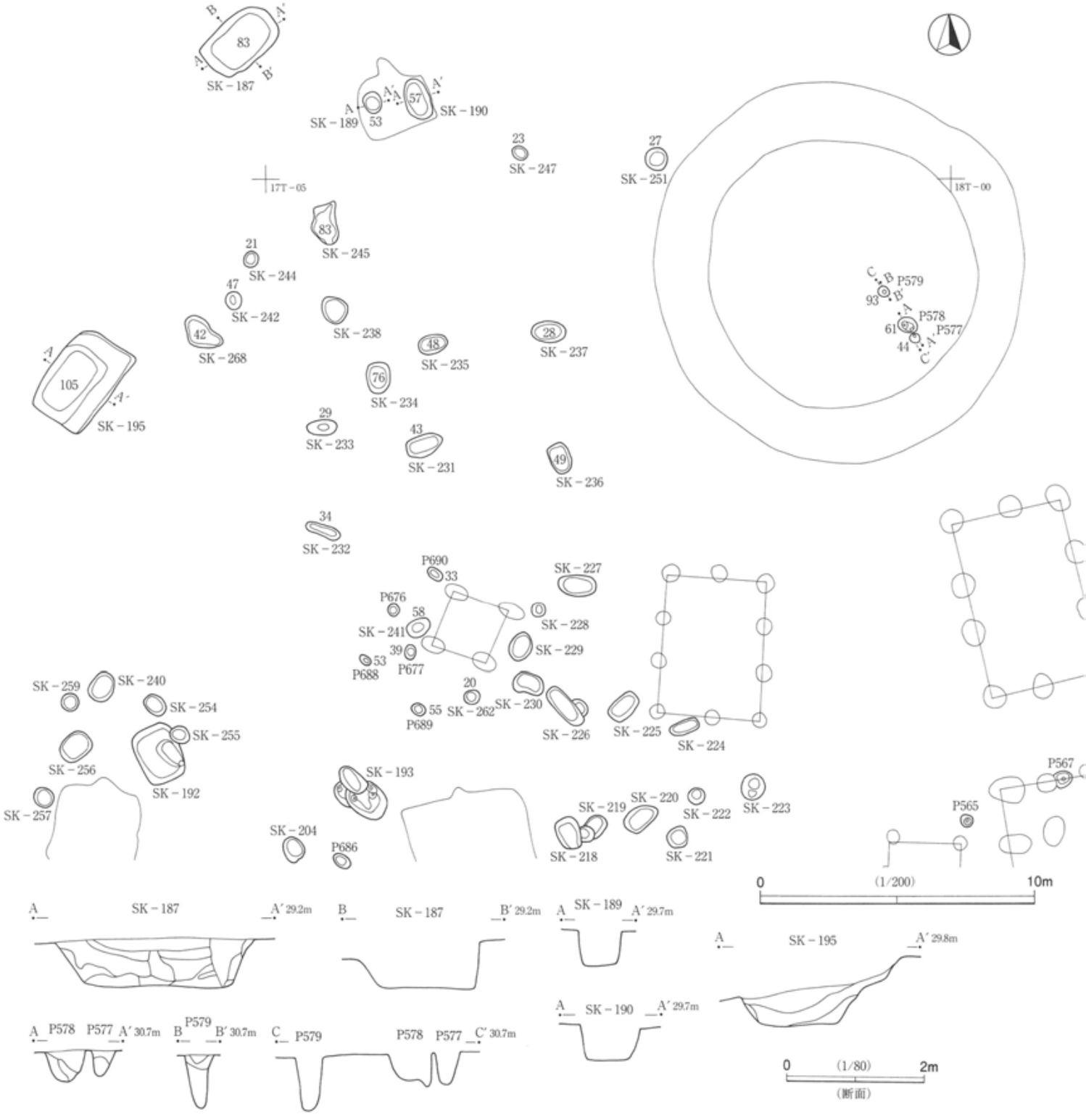
第637図　土坑⑪断面



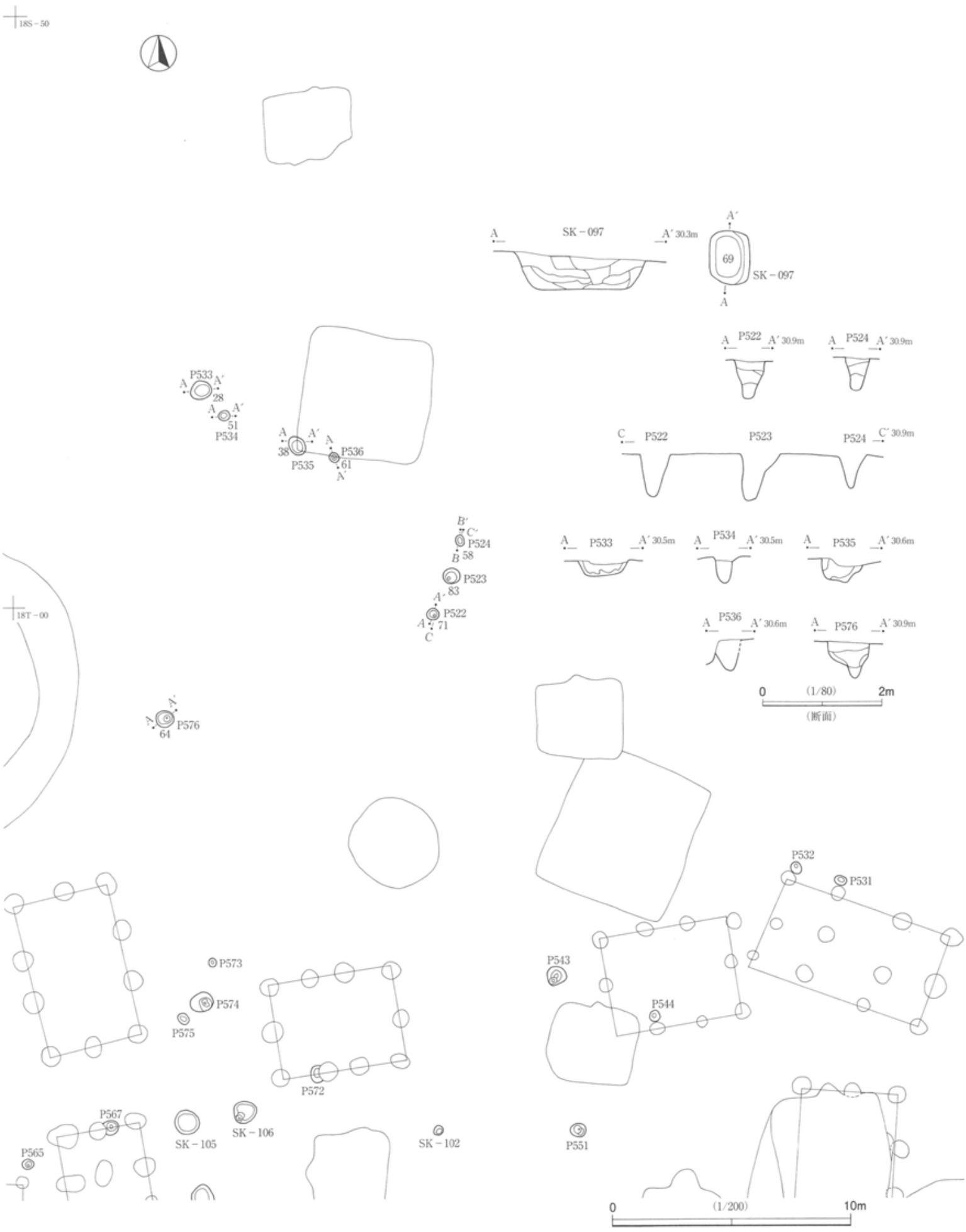
第638図　土坑⑫


SK－241
40
SK－240
P688
P677
SK－227
62
SK－254
21
SK－259
40
SK－255
P689
SK－262
SK－230
SK－226
SK－225
SK－224
46
SK－236
78
SK－192
75
SK－193
45
SK－257
57
SK－204
SK－219
SK－222
SK－223
SK－220
SK－221
SK－218
48
P686
17T－55
56
SK－215
45
P684
32
P685
SK－217
55
SK－214
92
SK－196
23
SK－216
46
P682
SK－260
27
P683
30
P681
66
SK－213
62
SK－264
P671
35
SK－211
67
SK－212
P668
43
P679
25
SK－210
P670
53
SK－209
66
SK－208
P672
44
P678
P693
40
P675
58
P633
37
P674
34
SK－205
29
SK－207
46
P673
32
SK－203
17U－05
A
SK－183
A′ 28.1m
A
SK－196
A′ 28.7m
A
SK－252
A′ 27.2m
A
SK－253
A′ 27.4m
0
(1/80)
2m
(断面)
SK－184
105
SK－183
SK－263
SK－185
44
SK－253
48
SK－252
0
(1/200)
10m

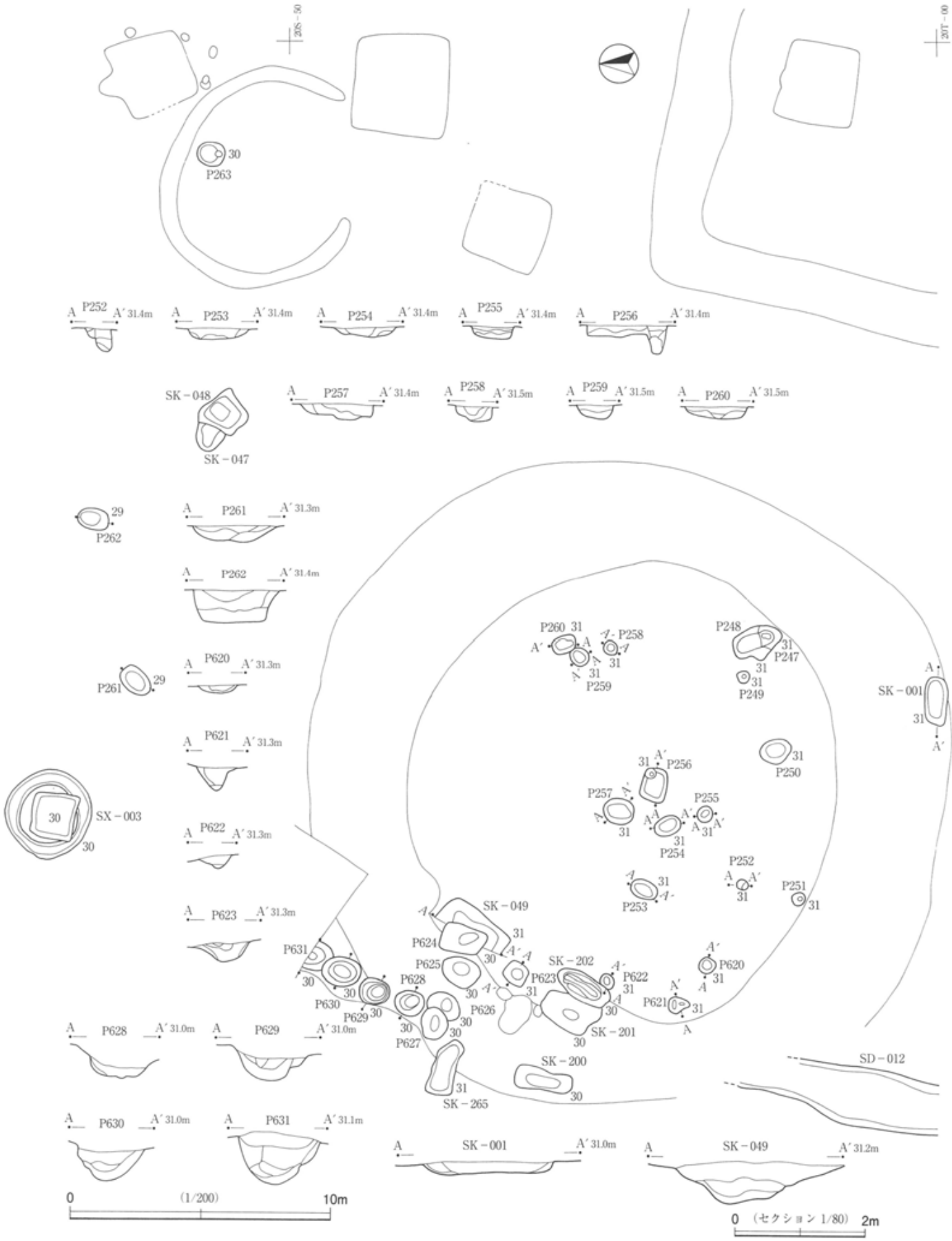
第639図　土坑⑬


SK－187
SK－189
SK－190
SK－247
SK－251
17T－05
18T－00
SK－245
SK－244
SK－242
SK－238
SK－268
SK－235
SK－237
SK－195
SK－234
SK－233
SK－231
SK－236
SK－232
P579
P578
P577
P690
SK－227
P676
SK－241
SK－228
SK－229
P688
P677
SK－259
SK－240
SK－254
SK－255
SK－256
SK－257
SK－192
SK－262
SK－230
P689
SK－226
SK－225
SK－224
SK－193
SK－204
P686
SK－219
SK－220
SK－222
SK－223
SK－218
SK－221
P567
P565
0
(1/200)
10m
SK－187
29.2m
SK－189
29.7m
SK－195
29.8m
P578
P577
30.7m
P579
30.7m
SK－190
29.7m
0
(1/80)
2m
(断面)

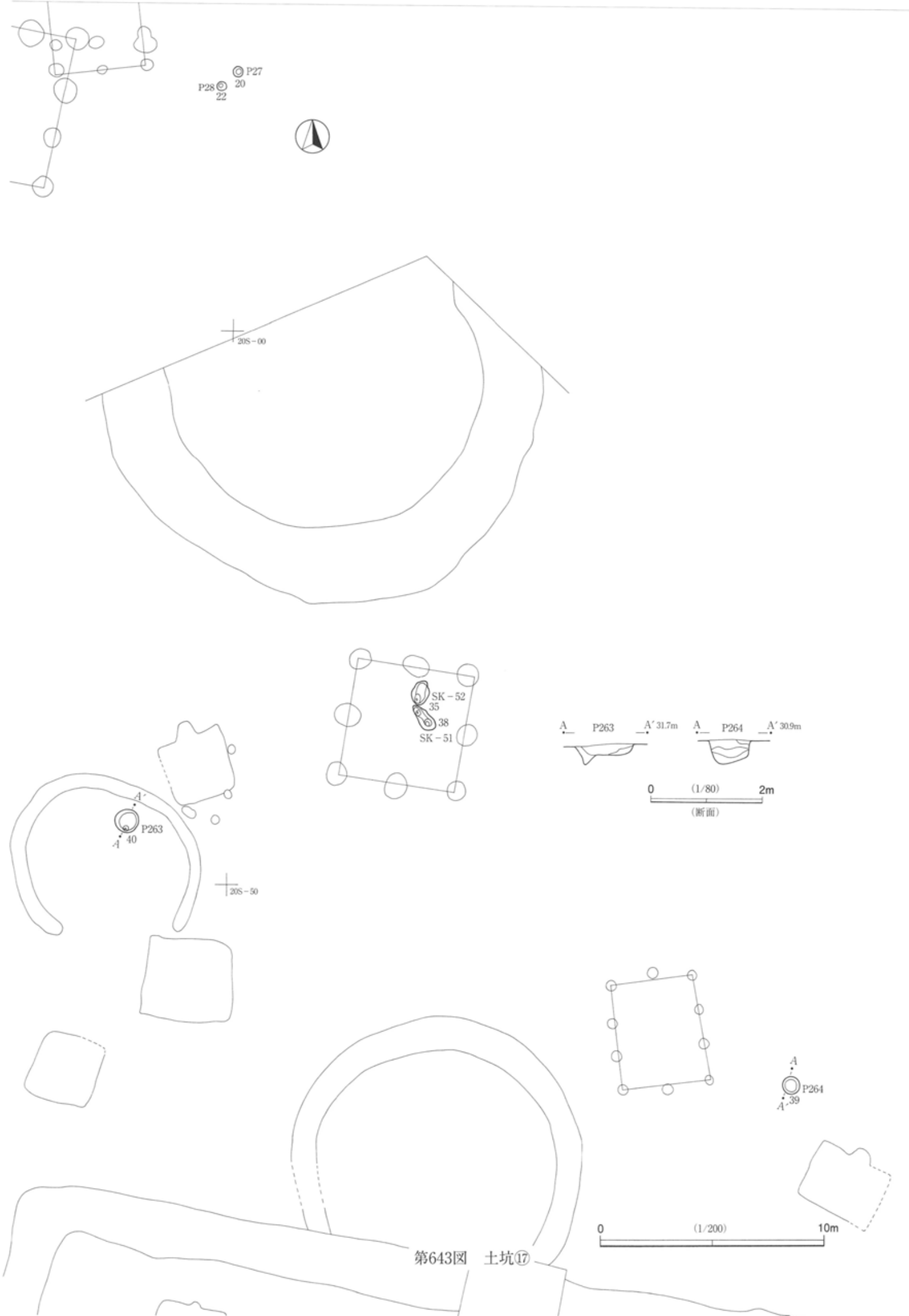
第640図　土坑⑭


18S－50
18T－00
SK－097
A
A′ 30.3m
69
SK－097
P522
A′ 30.9m
P524
A′ 30.9m
P533
28
P534
51
P535
38
P536
61
C
P522
P523
P524
C′ 30.9m
P524
58
P523
83
P522
71
P533
A′ 30.5m
P534
A′ 30.5m
P535
A′ 30.6m
P536
A′ 30.6m
P576
A′ 30.9m
0
(1/80)
2m
(断面)
P576
64
P532
P531
P573
P574
P575
P543
P544
P572
P567
SK－105
SK－106
SK－102
P551
P565
0
(1/200)
10m

第641図　土坑⑮


20S－50
20T－00
30
P263
A P252 A′ 31.4m
A P253 A′ 31.4m
A P254 A′ 31.4m
A P255 A′ 31.4m
A P256 A′ 31.4m
SK－048
SK－047
A P257 A′ 31.4m
A P258 A′ 31.5m
A P259 A′ 31.5m
A P260 A′ 31.5m
29
P262
A P261 A′ 31.3m
A P262 A′ 31.4m
P261
29
A P620 A′ 31.3m
A P621 A′ 31.3m
SX－003
30
30
A P622 A′ 31.3m
A P623 A′ 31.3m
P260 31
P258
31
P259
P248
31
P247
31
P249
SK－001
31
P250
P256
P257
P255
P254
P252
P253
P251
SK－049
P624
P625
P631
P630
P629
P628
P627
P626
P623
SK－202
P622
P620
P621
SK－201
SK－200
SK－265
SD－012
A P628 A′ 31.0m
A P629 A′ 31.0m
A P630 A′ 31.0m
A P631 A′ 31.1m
A SK－001 A′ 31.0m
A SK－049 A′ 31.2m
0 (1/200) 10m
0 (セクション 1/80) 2m

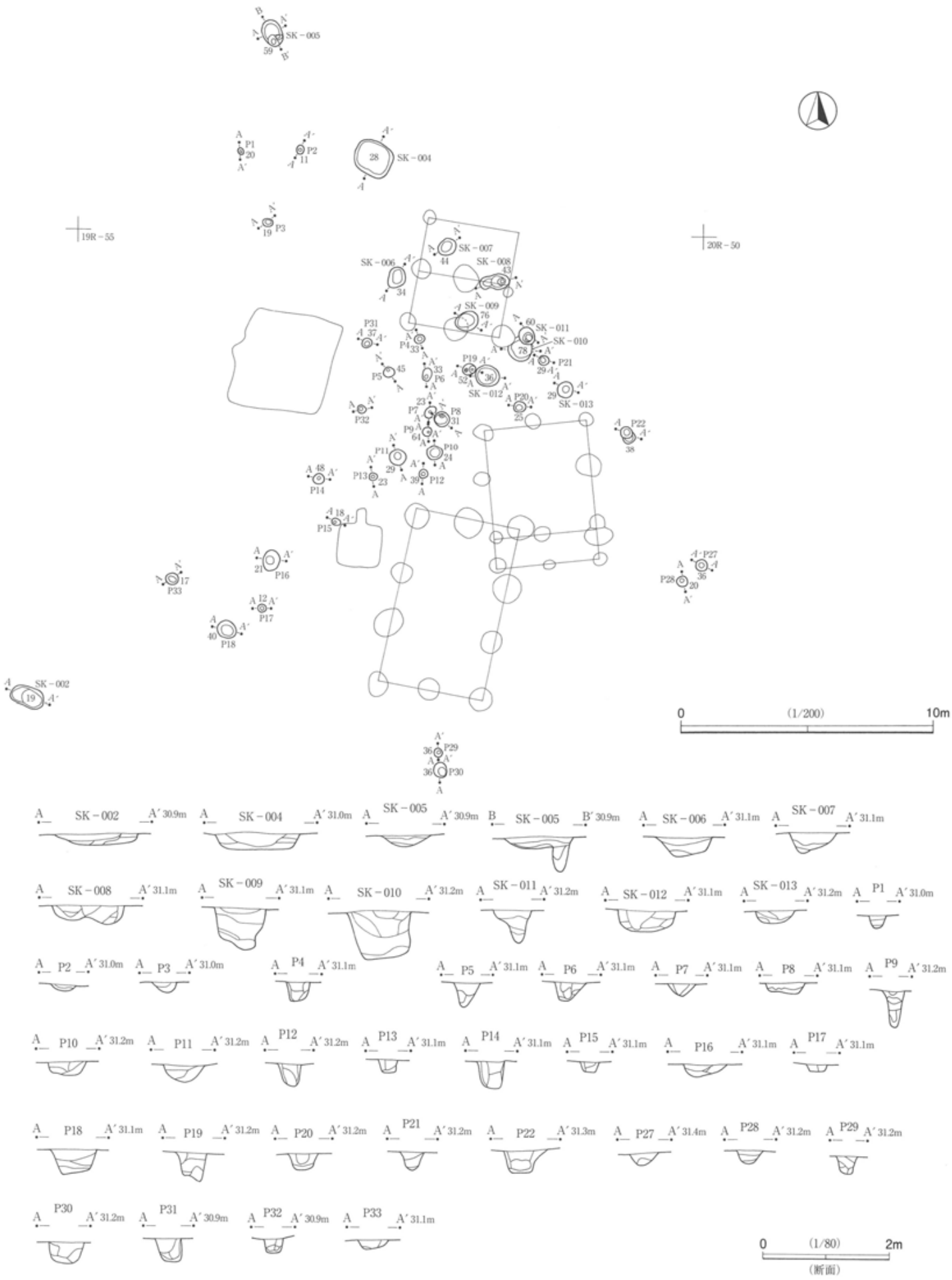
第642図　土坑⑯


P27
20
P28
22
20S－00
SK－52
35
38
SK－51
A
P263
A′ 31.7m
A
P264
A′ 30.9m
0
(1/80)
2m
(断面)
A′
P263
A
40
20S－50
A
P264
A′ 39
0
(1/200)
10m

第643図　土坑⑰

P582
51
P585
42
P586
28
27
P584
25
P609
P608
51
35
42
P580
P581
15
P601
27
P590
19
P589
57
P591
P592
52
P598
50
P597
30
P594
34
26
P596
20
P602
26
P595
54
P603
21S-00
P580
P581
31.1m
P582
31.0m
P584
31.0m
P585
31.0m
P586
31.0m
P589
30.9m
P590
30.9m
P591
30.9m
P592
30.9m
P594
30.6m
P595
30.6m
P596
30.6m
P597
30.6m
P598
30.7m
P601
30.9m
P602
30.4m
P603
30.4m
P608
31.0m
P609
31.0m
P608
P609
31.0m
0
(1/80)
2m
(断面)
0
(1/200)
10m

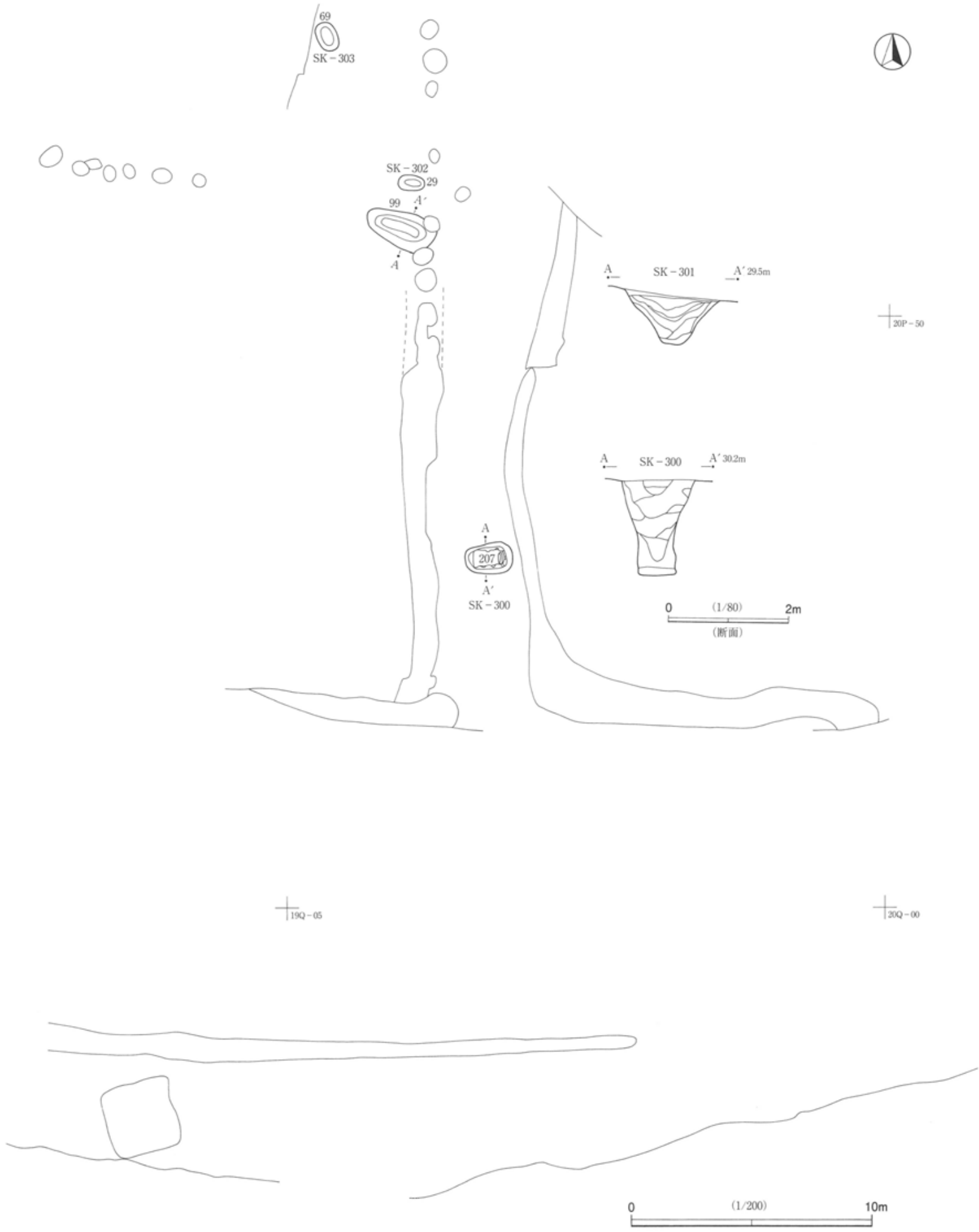
第644図　土坑⑱


SK－005
SK－004
SK－007
SK－006
SK－008
SK－009
SK－011
SK－010
SK－012
SK－013
SK－002
19R－55
20R－50
0 (1/200) 10m
SK－002 A′30.9m
SK－004 A′31.0m
SK－005 A′30.9m
SK－005 B′30.9m
SK－006 A′31.1m
SK－007 A′31.1m
SK－008 A′31.1m
SK－009 A′31.1m
SK－010 A′31.2m
SK－011 A′31.2m
SK－012 A′31.1m
SK－013 A′31.2m
P1 A′31.0m
P2 A′31.0m
P3 A′31.0m
P4 A′31.1m
P5 A′31.1m
P6 A′31.1m
P7 A′31.1m
P8 A′31.1m
P9 A′31.2m
P10 A′31.2m
P11 A′31.2m
P12 A′31.2m
P13 A′31.1m
P14 A′31.1m
P15 A′31.1m
P16 A′31.1m
P17 A′31.1m
P18 A′31.1m
P19 A′31.2m
P20 A′31.2m
P21 A′31.2m
P22 A′31.3m
P27 A′31.4m
P28 A′31.2m
P29 A′31.2m
P30 A′31.2m
P31 A′30.9m
P32 A′30.9m
P33 A′31.1m
0 (1/80) 2m
(断面)

第645図　土坑⑲

P587
P588
P593
P599
P600
P604
P605
P606
P607
SK－124
SK－123
SK－121
SK－125
SK－111
SK－112
SK－120
SK－119
SK－107
SK－108
SK－118
SK－117
SK－116
SK－109
SK－110
SK－122
SK－115
SK－113
SK－114
20Q－50
20R－00
0 (1/80) 2m
(断面)
0 (1/200) 10m

第646図　土坑⑳


69
SK－303
SK－302
29
99
A′
A
SK－301
A
A′ 29.5m
20P－50
SK－300
A
A′ 30.2m
A
207
A′
SK－300
0
(1/80)
2m
(断面)
19Q－05
20Q－00
0
(1/200)
10m

第647図　土坑㉑

19O－00
19O－50
SK－308
SK－306
SK－305
SK－304
SK－304 A A′ 30.0m
SK－305 A A′ 30.0m
SK－306 A A′ 30.0m
SK－306 B B′ 30.0m
SK－308 A A′ 29.9m
0 (1/80) 2m
(断面)
0 (1/200) 10m

第648図　土坑㉒

P1063
P1064
P1065
P1066
P1068
P1140
P1139
P1138
P1137
P1076
P1073
P1072
P1069
P1010
P1077
P1074
P1136
P1135
P1076
P1075
P1071
P1105
P1106
P1084
P1079
P1082
P1083
P1101
P1104
P1099
P1080
P1081
P1087
P1085
P1103
P1088
P1086
P1100
P1098
P1102
P1097
P1093
P1091
P1092
P1089
P1095
P1096
P1134
P1094
P1111
P1090
P1133
P1110
P1112
P1113
P1123
P1122
P1121
P1131
P1132
P1114
P1115
P1130
P1120
P1116
P1119
P1117
P1118
P1124
P1125
P1128
P1126
P1127
P1129
P1185
18O－53
46
P1148
17
P1147
36
P1150
25
P1146
21
P1149
25
P1143
56
26
P1141
P1142
32
P1144
30
P1186
60
P1169
31
P1161
P1155
21
P1154
17
P1152
53
47
P1151
26
P1145
23
P1170
31
P1172
32
P1171
34
P1168
23
P1162
43
P1156
28
P1153
40
P1157
49
P1163
32
P1164
49
P1160
33
P1158
40
P1159
40
P1176
34
P1175
19
P1173
49
P1167
35
P1166
18
P1165
17
P1174
18P－03
0
(1/200)
10m

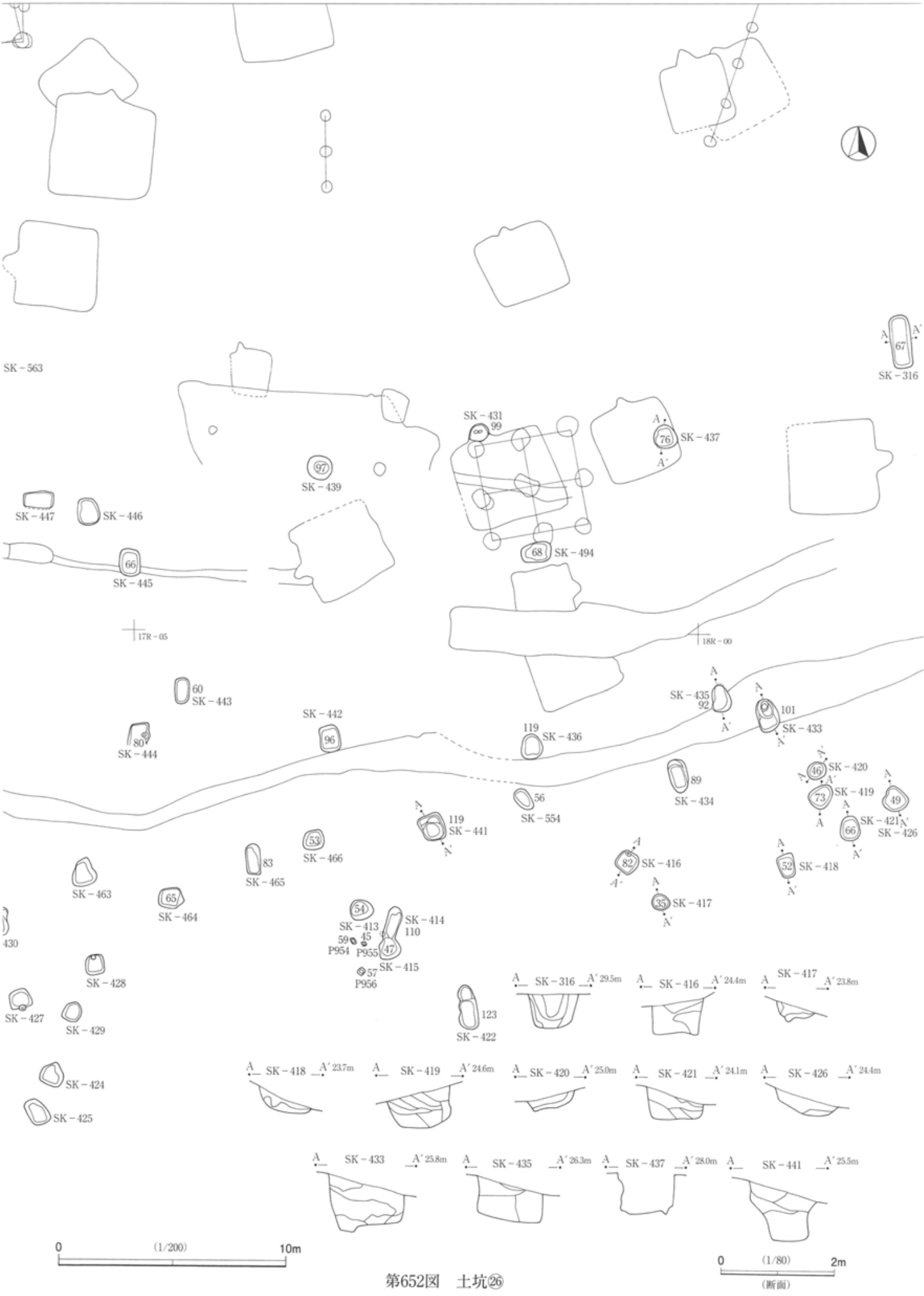
第649図　土坑㉓

41
SK－509
75
SK－510
48
SK－506
84
SK－507
50
SK－503
91
SK－502
37
SK－501
56
SK－540
71
SK－539
59
SK－541
77
SK－538
127
SK－560
91
SK－559
72
SK－558
56
SK－557
101
SK－556
16R－00
63
SK－552
234
SK－544
SK－545
73
106
SK－543
95
SK－542
104
SK－520
109
71
SK－517
55
SK－516
SK－518
16
SK－515
72
SK－488
SK－522
63
31
SK－521
118
SK－490
16R－05
46
SK－487
57
SK－489
111
SK－565
53
SK－566
44
SK－523
SK－524
SK－526
85
71
SK－525
45
SK－527
95
SK－561
41
SK－528
22
SK－529
30
SK－534
19
SK－535
54
SK－533
SK－530
76
32
SK－531
33
SK－532
0
(1/200)
10m

第650図　土坑㉔

17Q－50
60
SK－505
47
SK－504
39
SK－563
SK－516
28
SK－513
SK－515
89
SK－546
81
SK－449
66
SK－448
58
SK－547
41
SK－447
71
SK－514
39
SK－485
47
SK－484
74
SK－483
56
SK－451
38
SK－452
49
SK－453
SK－487
SK－482
63
47
SK－481
17R－00
58
44
SK－455
SK－454
39
SK－512
38
SK－548
60
SK－549
SK－461
77
33
SK－500
SK－456
76
50
SK－457
58
SK－486
106
SK－497
SK－459
SK－550
41
98
45
SK－458
34
SK－519
72
SK－496
23
SK－551
79
SK－460
100
SK－564
42
SK－495
100
SK－499
72
SK－462
SK－493
61
P966
96
A
SK－450
A′ 23.7m
102
SK－562
80
49
30
P967
SK－511
30
P964
SK－537
33
SK－491
A′
44
P957
P958
P960
69
42
43
P961
101
SK－476
41
P965
111
SK－430
23
SK－555
49
P959
40
24
P963
A
SK－475
34
P962
79
SK－468
47
SK－477
74
SK－427
40
SK－478
32
SK－479
56
SK－474
58
SK－423
88
SK－492
53
SK－473
65
SK－469
55
SK－467
76
67
SK－425
70
SK－472
62
SK－471
57
SK－470
17R－50
0
(1/80)
2m
(断面)
0
(1/200)
10m

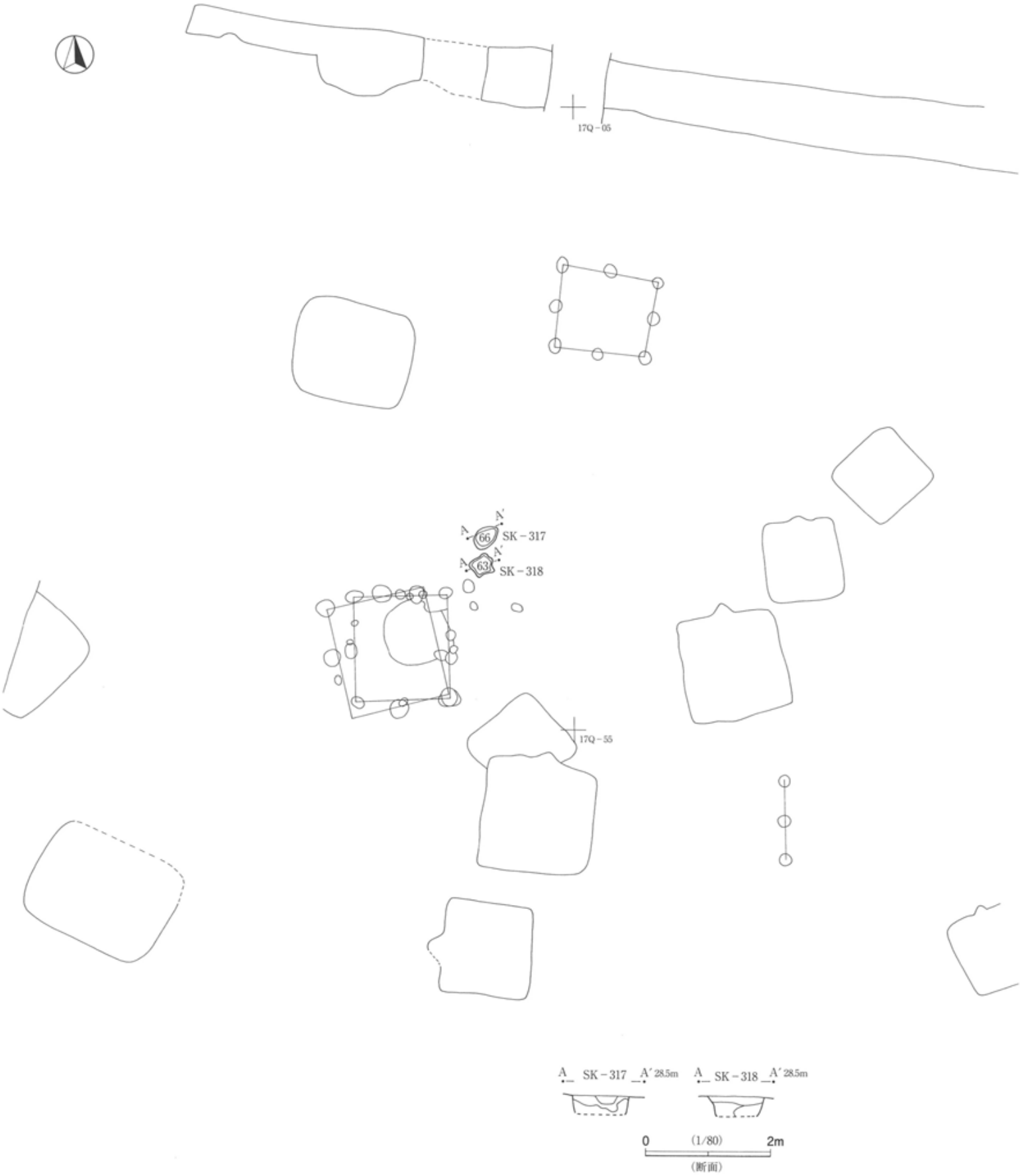
第651図　土坑㉕


SK－563
SK－316
67
SK－431
99
76
SK－437
97
SK－439
SK－447
SK－446
68
SK－494
66
SK－445
17R－05
18R－00
60
SK－443
SK－442
96
80
SK－444
119
SK－436
SK－435
92
101
SK－433
89
SK－434
56
SK－554
46
SK－420
73
SK－419
49
66
SK－421
SK－426
119
SK－441
53
SK－466
83
SK－465
82
SK－416
52
SK－418
35
SK－417
SK－463
65
SK－464
54
SK－413
59
45
P954
P955
47
SK－414
110
SK－415
57
P956
430
SK－428
SK－427
SK－429
123
SK－422
SK－424
SK－425
SK－316 29.5m
SK－416 24.4m
SK－417 23.8m
SK－418 23.7m
SK－419 24.6m
SK－420 25.0m
SK－421 24.1m
SK－426 24.4m
SK－433 25.8m
SK－435 26.3m
SK－437 28.0m
SK－441 25.5m
0 (1/200) 10m
0 (1/80) 2m
(断面)

第652図　土坑㉖

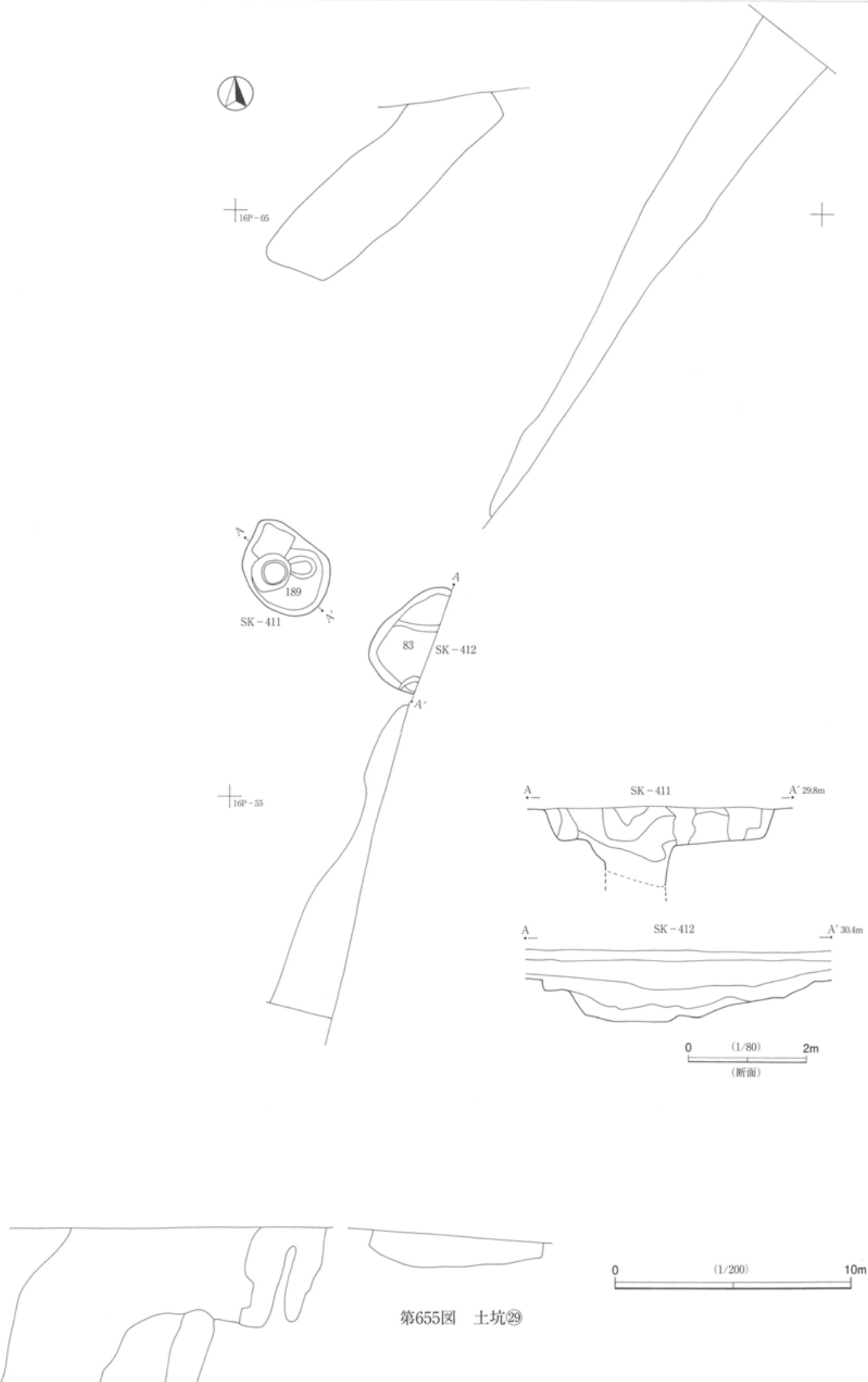
18Q－55
SK－316
42
SK－314
SK－313
35
SK－312
27
SK－311
71
SK－315
67
SK－553
18R－05
60
SK－432
SK－420
SK－419
SK－426
SK－421
SK－311 29.0m
SK－312 29.0m
SK－313 28.7m
SK－314 28.7m
SK－315 28.1m
SK－432 24.9m
0 (1/80) 2m
(断面)
0 (1/200) 10m

第653図　土坑㉗



0 (1/200) 10m

第654図　土坑㉘


16P－05
A
A′
189
SK－411
A
83
SK－412
A′
16P－55
A
SK－411
A′ 29.8m
A
SK－412
A′ 30.4m
0
(1/80)
2m
(断面)
0
(1/200)
10m

第655図　土坑㉙

SK－400
SK－405
SK－404
SK－403
SK－406
22S－50
22S－55
22T－00
0 (1/80) 2m
(断面)
0 (1/200) 10m

第656図　土坑㉚

SK－407
SK－408
SK－409
23S－00
23S－50
23T－00
A
A′ 30.8m
B
B′ 30.8m
A′ 30.7m
0
(1/80)
2m
(断面)
0
(1/200)
10m

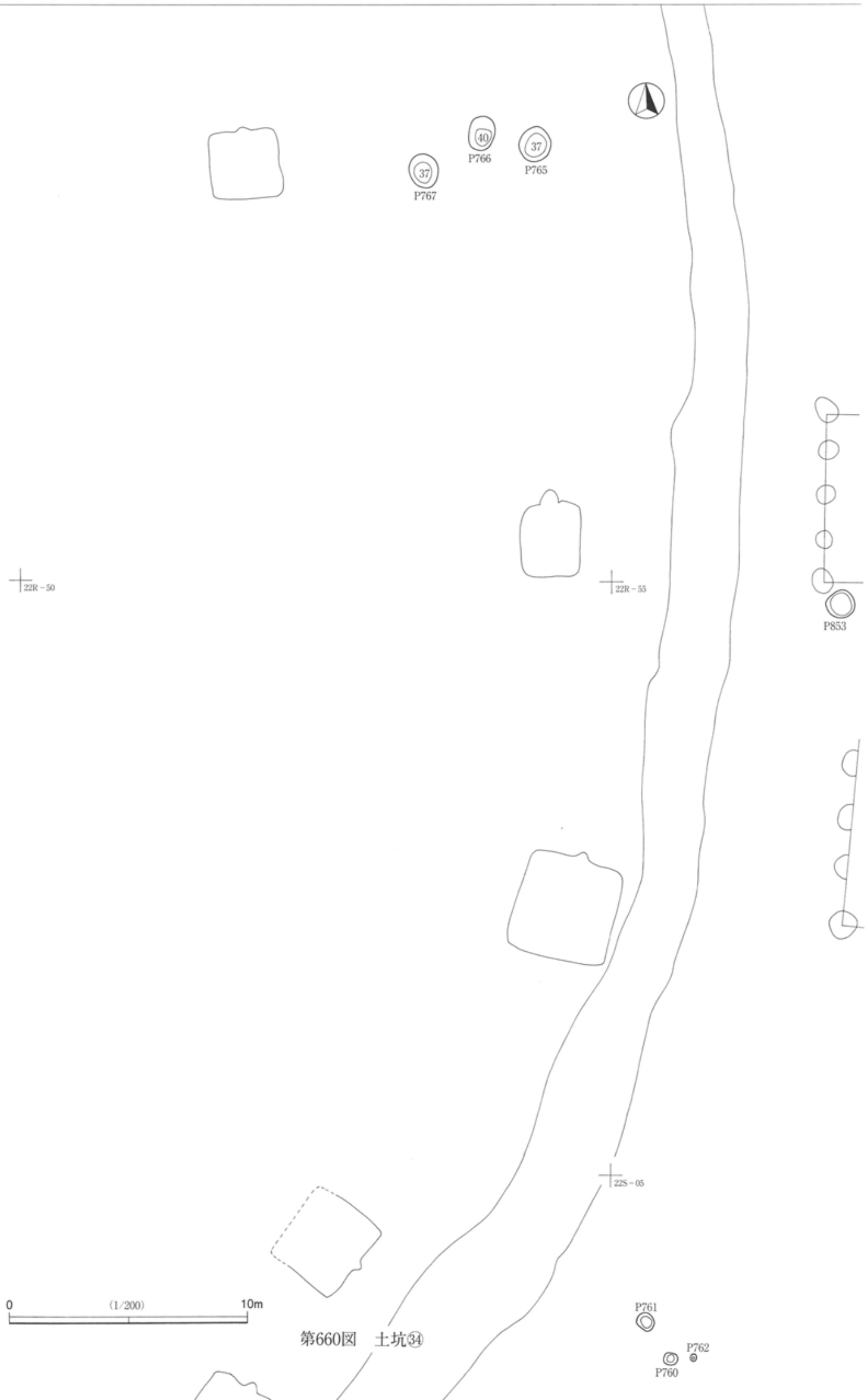
第657図　土坑㉛

第658図　土坑㉜

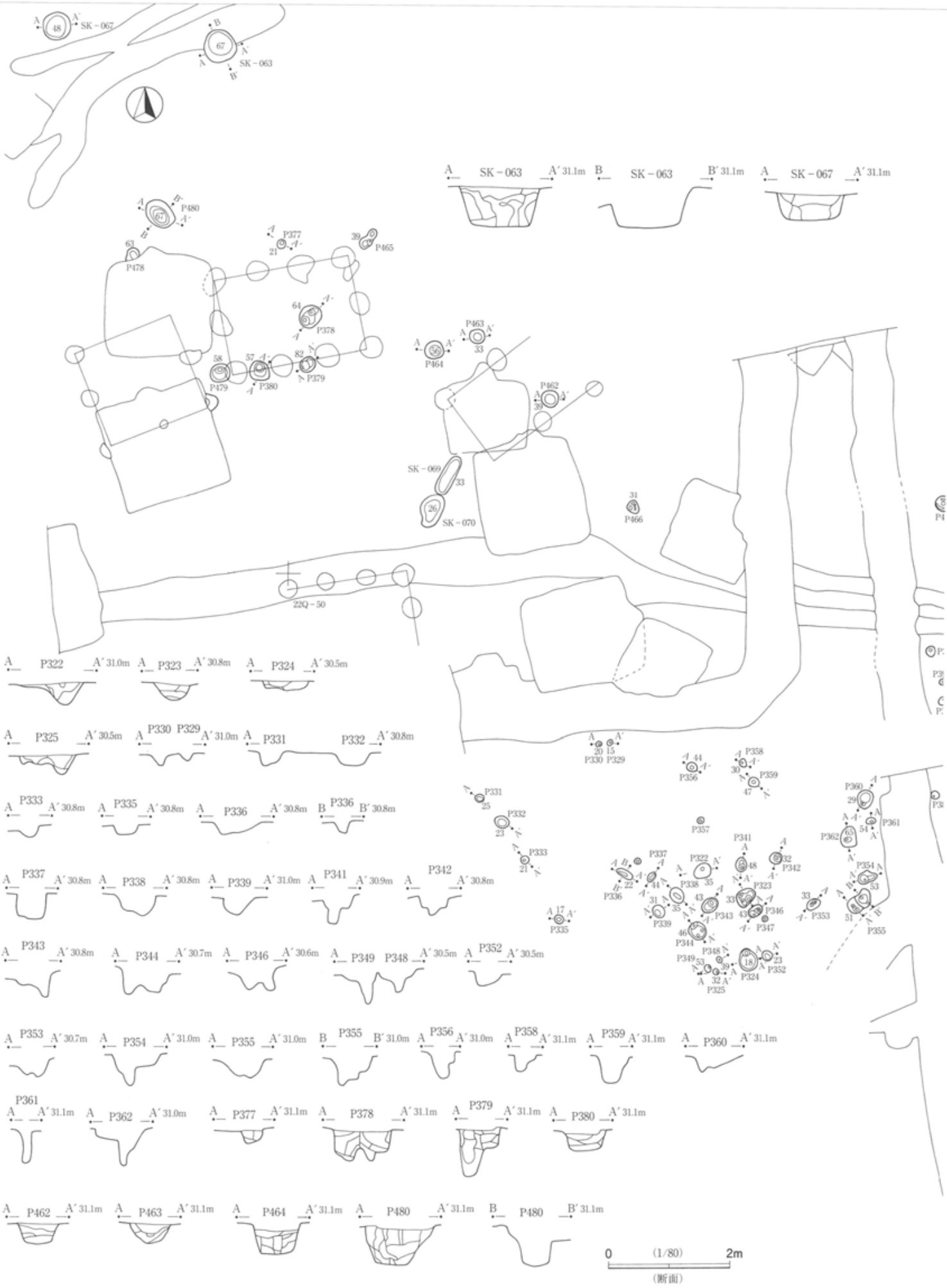
0　(1/200)　10m

SK－402
SK－410
SK－401
SK－407
SK－408
0 (1/80) 2m
(断面)
0 (1/200) 10m
23R－50
23S－00

第659図　土坑㉝


40
P766
37
P765
37
P767
22R－50
22R－55
P853
22S－05
0
(1/200)
10m
P761
P762
P760

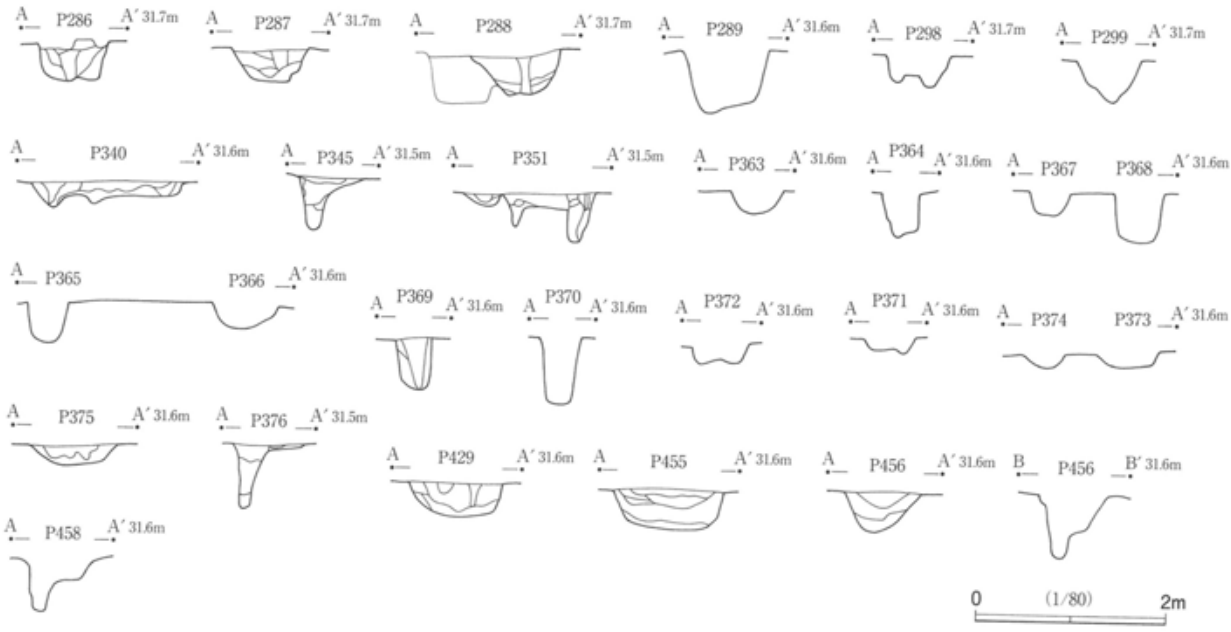
第660図　土坑㉞


SK－063
SK－067
SK－069
SK－070
22Q－50
P322
P323
P324
P325
P329
P330
P331
P332
P333
P335
P336
P337
P338
P339
P341
P342
P343
P344
P346
P347
P348
P349
P352
P353
P354
P355
P356
P357
P358
P359
P360
P361
P362
P377
P378
P379
P380
P462
P463
P464
P465
P466
P478
P479
P480
0 (1/200) 10m
0 (1/80) 2m
(断面)

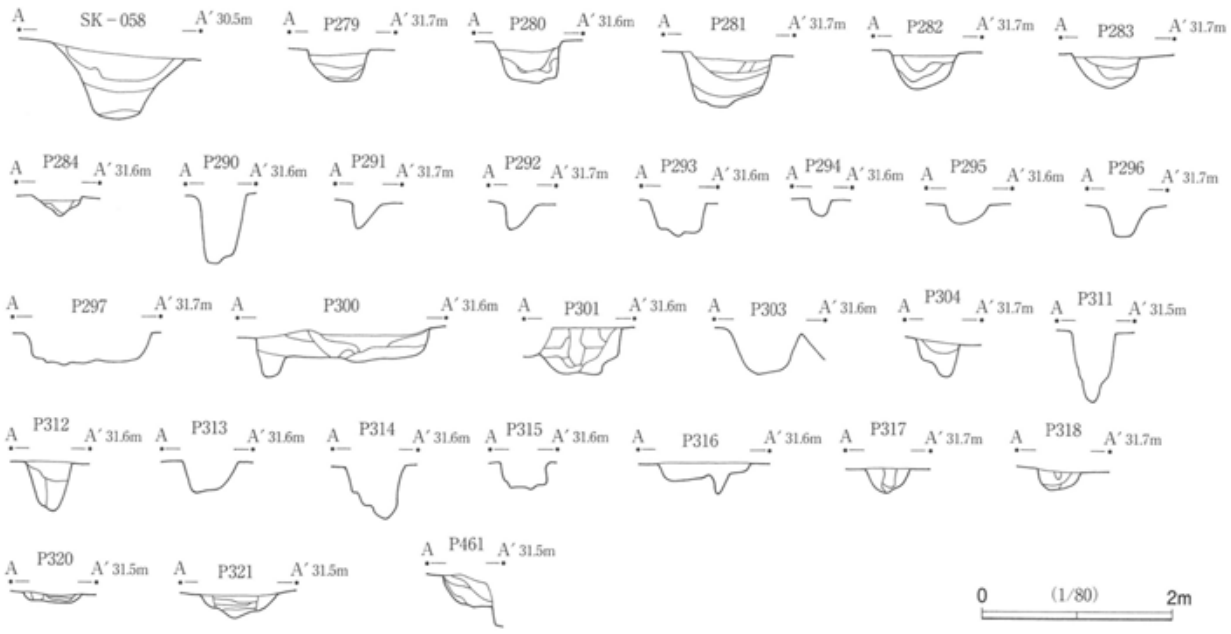
第661図　土坑㉟

23Q－00
23Q－50
SK－060A
SK－060B
SK－065
SK－068
SK－402
P868
P933
0
(1/200)
10m

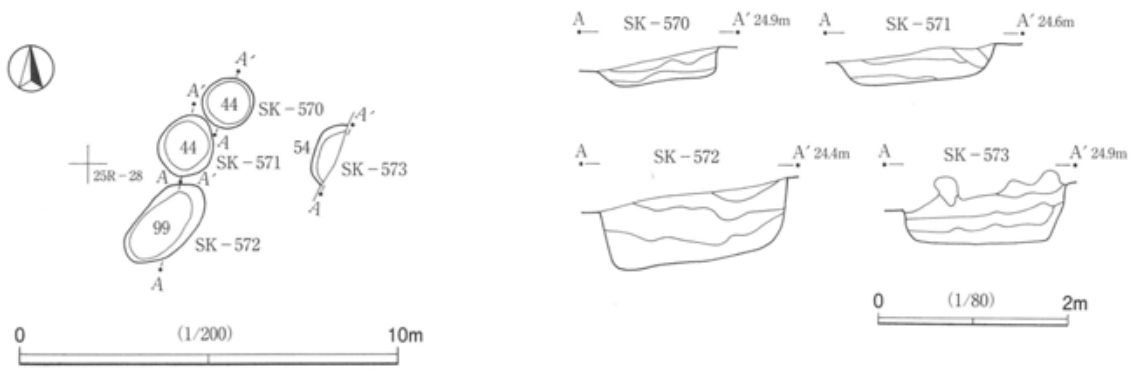
第662図　土坑㊱



第663図　土坑㊱断面



第664図　土坑㊲断面



第665図　土坑㊳

SK－059
67
SK－058
85
SK－061
118
23Q－55
88
SK－611
SK－568
SK－569
SK－567
23R－05
P297
P286
P288
P296
P291
P303
P280
P318
P279
P283
P292
P293
P290
P301
P281
P282
P313
P294
P284
P300
P304
P317
P312
P295
P314
P315
P316
P319
P634
P635
P311
P320
P321
P461
P460
P935
P937
P938
P939
P940
P941
P864
0
(1/200)
10m

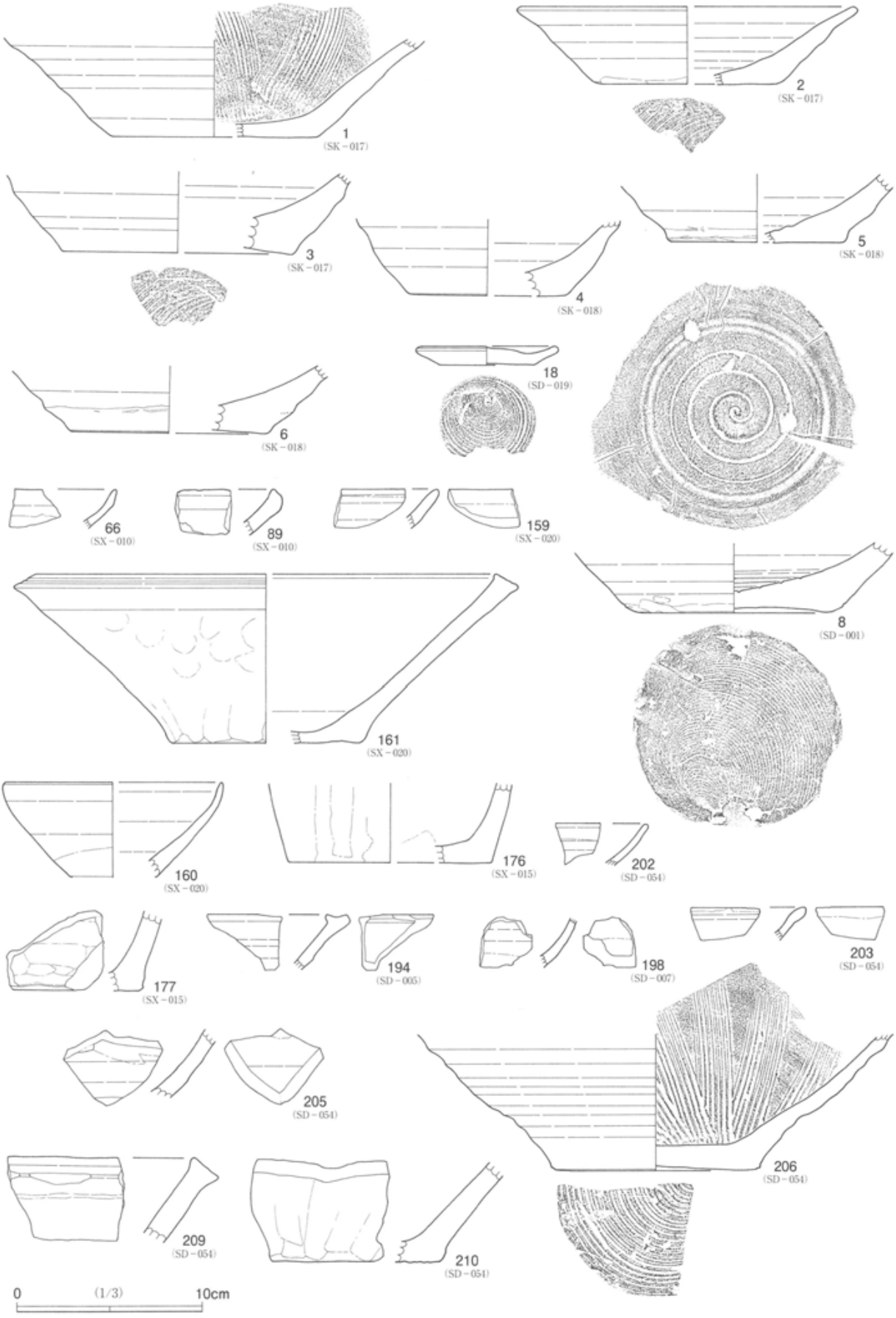
第666図　土坑㊲

24Q-00
24Q-05
SK-053
SK-605
SK-606
SK-607
SK-608
SK-609
SK-610
A
A'
31.6m
29.6m
29.2m
30.1m
29.1m
28.5m
29.4m
0
2m
(1/80)
(断面)
0
10m
(1/200)
90
77
63
50
59

第667図　土坑㊴

SK-583
SK-582
SK-604
SK-584
SK-579
SK-585
SK-586
SK-600
SK-614
SK-601
SK-581
SK-580
SK-602
SK-594
SK-613
SK-577
SK-612
SK-597
SK-592
SK-596
SK-595
SK-598
SK-599
SK-603
SK-578
SK-618
SK-587
SK-588
SK-611
SK-590
SK-591
SK-575
SK-576
SK-589
SK-574
25Q-00
25Q-05
0 (1/200) 10m
SK-576 A′29.4m
SK-577 A′29.3m
SK-578 A′28.5m
SK-579 B′28.9m
SK-580 A′28.9m
SK-581 A′28.9m
SK-587 A′28.4m
SK-589 B′29.2m
SK-584 SK-580 SK-579 SK-586 C′29.0m
SK-591 SK-590 A′29.3m
SK-591 B′29.3m
SK-592 A′28.7m
SK-592 B′28.7m
SK-594 A′28.8m
SK-594 B′28.8m
SK-595 A′28.8m
SK-596 A′28.7m
SK-597 A′28.8m
SK-597 B′28.8m
SK-598 A′28.7m
SK-599 SK-592 C′28.7m
SK-600 A′
SK-601 A′28.9m
SK-602 A′29.2m
SK-603 A′31.5m
SK-612 A′28.7m
SK-614 SK-613 A′28.8m
0 (1/80) 2m
(断面)

第668図 土坑⑩



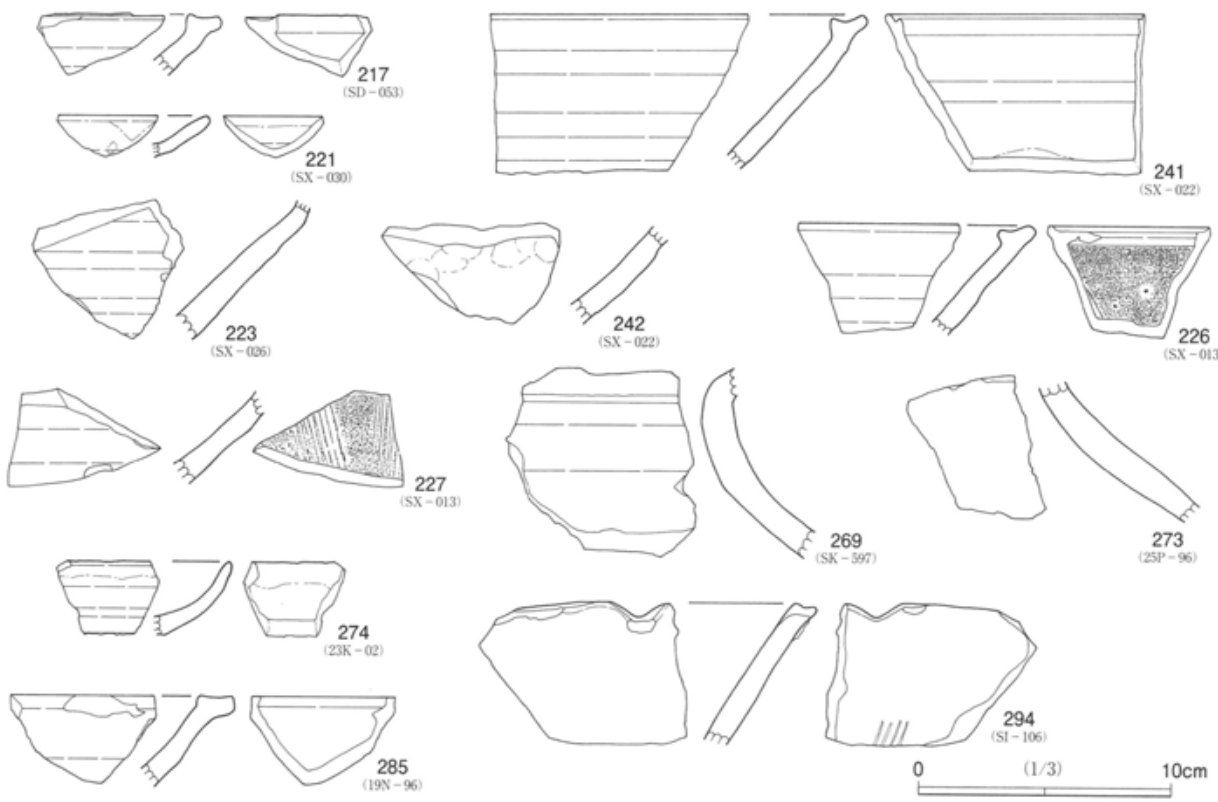
第669図　中近世土器・陶磁器（1）

5　遺構外出土陶磁器およびその他の遺物（第670・673・674図，図版331～335）

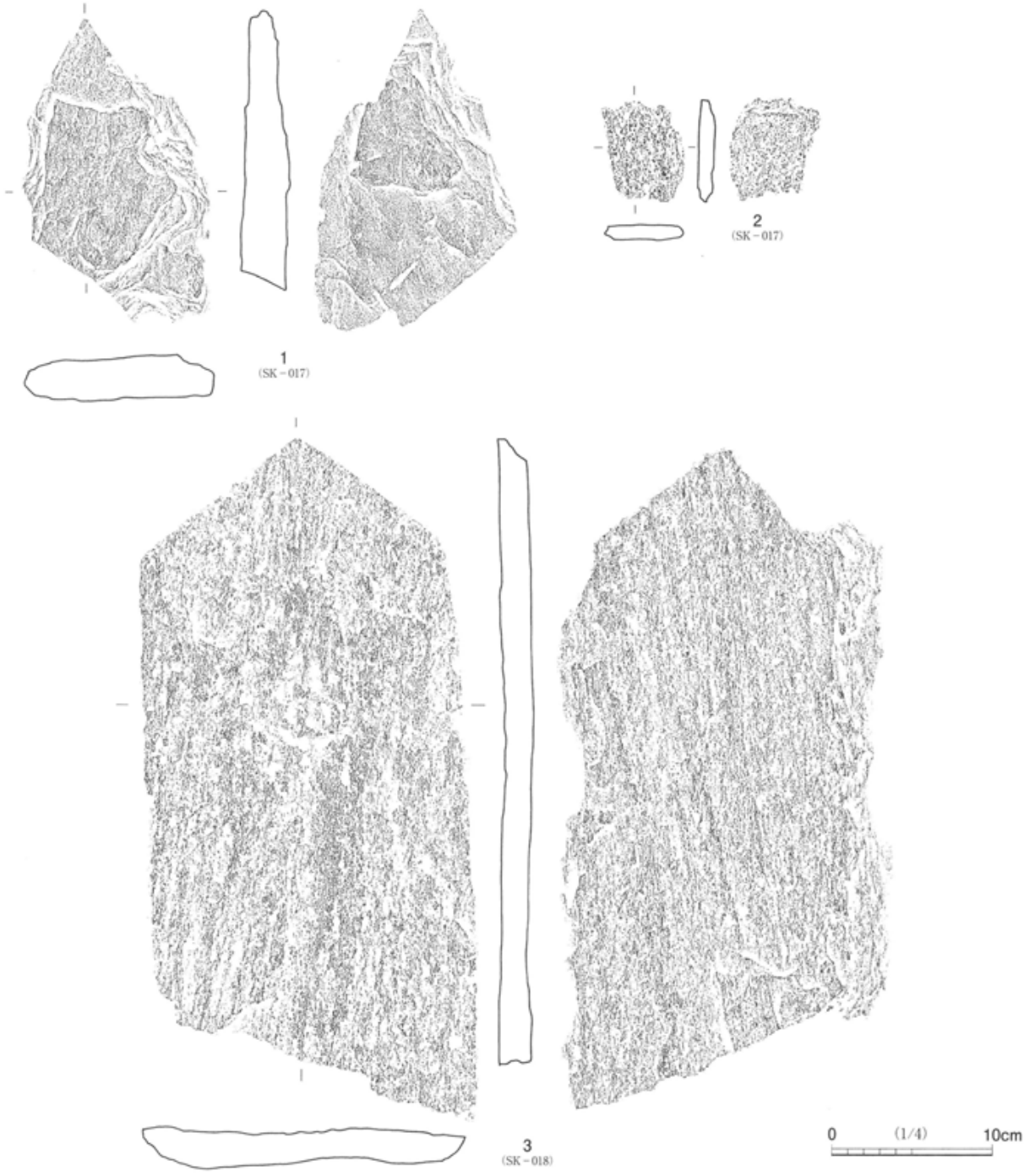
遺構外出土陶磁器については，遺存状態が良好なものものや遺構出土資料にはみられなかった器種について記述する。

273は常滑産甕の頸部片である。274～285は瀬戸・美濃産陶器である。274は古瀬戸縁釉小皿の口縁部から体部片で，有高台のものである。口縁部に灰釉が施される。後Ⅳ期（15世紀中葉から後半）のものである。275は丸碗の底部から高台部片である。全体に厚手の作りで，底部外面中央が突出する兜巾を有する。体部外面及び内面に灰釉が施される。17世紀後半のものである。276はせんじ碗で，体部下方は丸みをもって立ち上がり，体部外面中央に稜が入り，上方は直立する。高台部の断面形は矩形である。高台部畳付を除いて灰釉が施されるが，わずかに底部及び高台部の割れ口付近に鉄釉が施されており，左右に掛け分けされたものである。18世紀後半のものである。277・278は摺絵皿である。体部下方は丸みをもって立ち上がり，体部上方から口縁部は，278は直立し，277は外傾しながら立ち上がる。高台部はいずれも貼り付けによる輪高台である。底部内面には，277は草花文，278は型紙摺による花文の鉄絵が描かれる。いずれも体部下端から底部外面及び高台部を除いて灰釉が施される。18世紀中葉のものである。279は馬の目皿の口縁部片である。口縁端部は矩形である。内外面に長石釉が施され，内面に鉄絵の渦巻文が施される。19世紀前半のものである。280は鬢盥の体部片で，外面に型紙摺による菊水文の鉄絵が描かれ，内外面とも長石釉が施される。17世紀後半から18世紀前半のものである。281は袴腰形の香炉の体部から底部片である。体部下端に張り出しを有する。高台部は削り出しによる。体部外面に灰釉が施される。17世紀後半のものである。282は香合の身と思われる口縁部から体部片で，口縁部と体部との境に蓋受けの段を有する。口縁部は直立する。内外面とも柿釉が施されるが，口縁部外面及び蓋受けの部分は拭い取られる。283は仏花瓶の体部から底部片である。底部外面には糸切り痕がみられる。体部上方及び内面は灰釉，体部外面下方には鉄釉が施される。底部外面は露胎である。18世紀代のものである。284は壺の胴部下方の破片で，外面下端にはヘラケズリによる稜を有する。内外面とも錆釉が施される。285は擂鉢の口縁部から体部の破片である。口縁部は外方に折り返され，端部は角張る。内面には凸帯が一巡する。内外面とも錆釉が施される。17世紀前半のものである。286～289は京都・信楽産陶器で，18世紀後半から19世紀初頭のものである。286は半球形の湯呑碗である。外面に鉄絵が描かれ，内外面とも灰釉が施される。287は小杉碗の口縁部から底部破片である。体部外面に鉄絵が描かれ，底部外面を除いて長石釉が施される。18世紀後半のものである。288は口縁部が外反する端反形の碗の口縁部から体部である。体部下端を除いて灰釉が施され，貫入が顕著である。19世紀前半のものである。289は小形の碗である。口縁部が外反し，高台部は撥形に開く。体部外面下端から高台部を除いて灰釉が施される。290・291は肥前産陶器である。290は皿の体部から高台部の破片で，体部から口縁部が外折するものである。体部下端から高台部を除いて透明釉が施され，底部内面は蛇の目状に釉剥ぎがなされる。18世紀前半のものである。291・292は土瓶の口縁部から体部片である。外面頸部から体部下方に緑釉が施される。体部下方の露胎部分には煤の付着がみられる。19世紀代のものである。293は相馬産陶器の徳利の胴部片である。肩部外面に稜を有し，それより上方は貼り付けによる。体部外面上方は飛鉋による文様，その下に沈線が施される。外面は鉄釉が施される。19世紀代のものである。294は土師質の片口鉢の口縁部から体部片である。口縁端部に沈線が巡る。片口部は指で押さえることによって成形されている。内面の摺目は４本１単位である。15世紀代のものである。295は焙烙である。体部は緩やかに開き，口縁部はほぼ矩形である。遺存部分には内耳が２か所貼り付け

られている。体部と底部の境に稜を有し，底部は平底である。胎土中には雲母を多量に含む。18世紀前半のものである。296は瓦質の焜炉の口縁部から体部片である。体部外面は回転施文具による文様が施される。口縁部は内側に鍔状に折り返され，遺存部分では１か所端部に突起を有する。内面の口縁部と体部との境には幅約2.5cmの鍔を有し，口縁部の断面形はコの字状を呈する。19世紀代のものである。297～312は肥前産磁器である。297～300は染付碗である。297は深めの器形の碗で，体部外面は遠山文，体部下端及び高台部内面の付け根に圏線，高台部外面に二重圏線が描かれる。17世紀中葉から後半のものである。298は体部外面に梅樹文，体部下端に圏線，高台部外面に二重圏線が描かれる。底部外面には圏線内に銘款が描かれる。17世紀後半のものである。299は体部外面に草花文と圏線，高台部外面に二重圏線，高台部内面の付け根に圏線が描かれる。17世紀末から18世紀前半のものである。300は小振りで比較的厚手のくらわんか碗と呼ばれるものである。体部外面にコンニャク印判による井桁と蔦の葉の組み合わせ文，体部下端に圏線，高台部外面に二重圏線が描かれる。18世紀前半のものである。301は染付広東碗で，外面に燕子花文，口縁部内面に二重圏線，体部内面下端に圏線が描かれ，底部内面に銘款が記される。18世紀末から19世紀前半のものである。302は染付筒形碗である。体部外面に菊花散らし文，底部外面に圏線，内面は口縁部に二重圏線，体部と底部の境に圏線，底部内面中央に崩れた五弁花文が描かれる。18世紀末から19世紀前半のものである。303は色絵紅猪口の体部から高台部である。体部外面に鋸歯文，二重圏線が赤色の上絵付がなされる。内面には酸化鉄（ベンガラ）の付着がみられる。17世紀後半のものである。304～308は染付皿である。304はSX－010から出土した皿（113・114）と同意匠のものである。305～307は同一個体の小皿の破片で，いずれの破片にも焼継ぎが認められるものである。外面は体部に唐草文，体部下端から高台部にかけて二重圏線，体部内面に菊唐草文，底部内面は二重圏線が描かれ，底部外面には

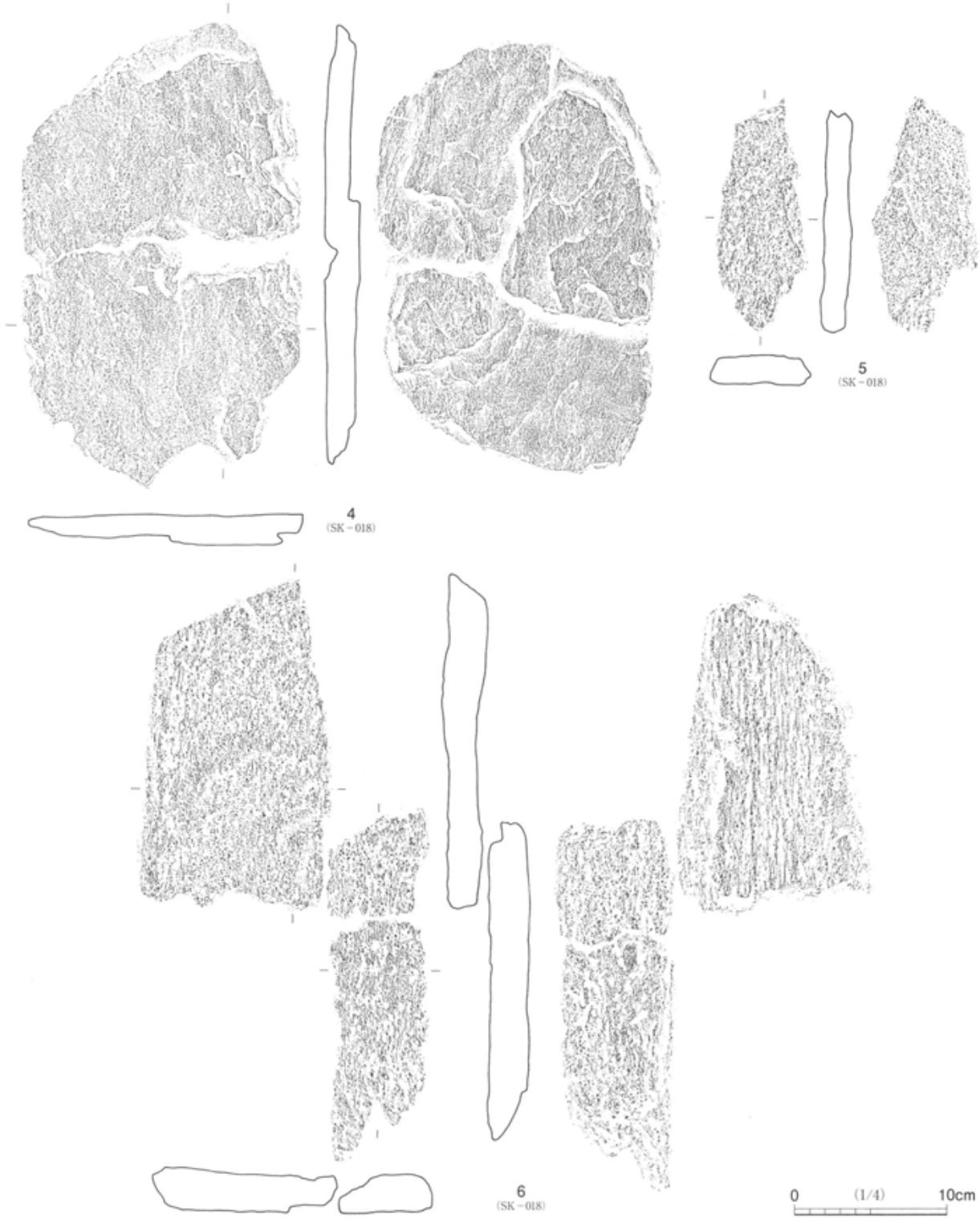


第670図　中近世土器・陶磁器（2）



第671図　中近世石製品（1）

圏線内に崩れた「大明年製」銘の「大」の字がみられる。器表面は黒色及び茶色の微粒子の付着が顕著である。18世紀前半のものである。308は白磁皿である。体部は直線的に開き，口縁部はやや直立する。高台部は断面三角形状で，畳付は平坦である。高台部周辺を除いて施釉されるが，底部内面は蛇の目状に釉剥ぎがなされる。18世紀前半のものである。309は染付深皿の口縁部から体部片である。口縁部は折り返しにより玉縁状に成形される。体部外面は唐草文，口縁部内面は圏線が描かれる。19世紀前半のものである。310・311は同一個体の染付瓶の口縁部から頸部及び胴部の破片である。外面は口縁部から胴部上方に蛸唐草文，圏線で画された胴部下方に連子文が描かれる。頸部内面から胴部内面は露胎である。19世紀



第672図　中近世石製品（2）

前半のものである。312は袴腰形の染付香炉の口縁部から体部片である。口縁部は折り返しによって鍔状を呈する。体部外面には山水文が描かれる。体部内面は露胎である。19世紀代のものである。313～316は瀬戸・美濃産染付磁器である。染付の呉須はいずれも青みが強い瑠璃釉で，19世紀中葉のものである。313～315は染付碗である。313は体部下方が丸みを帯び，上方は直線的に開くものである。外面は，口縁

部下および体部下端の圏線に区画された中に牡丹文，高台部付け根及び高台部に圏線，内面には，口縁部には圏線に区画された中に列点文，体部下端に圏線，底部中央に簡略化された草花文が描かれる。314は半球形の碗で，外面は，体部に二重圏線に区画された中に縦縞文，高台部に圏線，内面は，口縁部に圏線に区画された中に連弧文，体部下端に圏線，底部中央に昆虫文が描かれる。315は端反碗で，外面には口縁部下と体部下端の圏線に区画された中に竹文，高台部付け根及び高台部に圏線，内面には口縁部に圏線に区画された中に崩れた格子文，体部下端に圏線が描かれ，底部中央に「寿」銘が記される。316は端反形の染付小杯で，高台部は蛇の目高台である。内外面とも霊芝花文が描かれる。体部外面下端には二重圏線，高台部外面に圏線，口縁端部にも呉須が縁塗りされる。

次に，前項までに記述しなかった陶磁器以外の遺物について述べる。

第673図７・８は板碑片である。ともに石墨片岩製で，下総型の板碑である。７の厚さは2.4cm，８の厚さは1.8cmである。色調は暗青灰色，淡灰色，灰褐色が入り交じり，銀色の光沢がある。７は文様がみられる。文様の上部は主尊種子の下方部分である。文様の下部は連座で，蓮弁の一部が遺存している。８には，文様・銘文がみられない。７・８は近・現代の炭焼窯SK－185からの出土であり，煤が付着している。とくに７は顕著である。焚き口の閉塞等に使用されたものと思われる。

第674図12は銭貨で，寛永通寶である。直径は2.25cm，重量は2.78ｇである。新寛永銭である。SK－108からの出土である。第674図13は銭貨で，永楽通寶である。左側半分を欠損する。直径は2.5cm，重量は1.84ｇである。初鋳年は1,408年である。SI－166からの出土である。

銭貨については，鉄銭が，SI－082から１点，SI－174から１点出土している。錆によって，いずれも銭種が不明である。SI－082出土のものは，直径2.5cm，重量は2.45ｇである。SI－174出土のものも同程度の大きさと思われるが，割れて数片となったため，判然としない。なお，ともに図示していない。

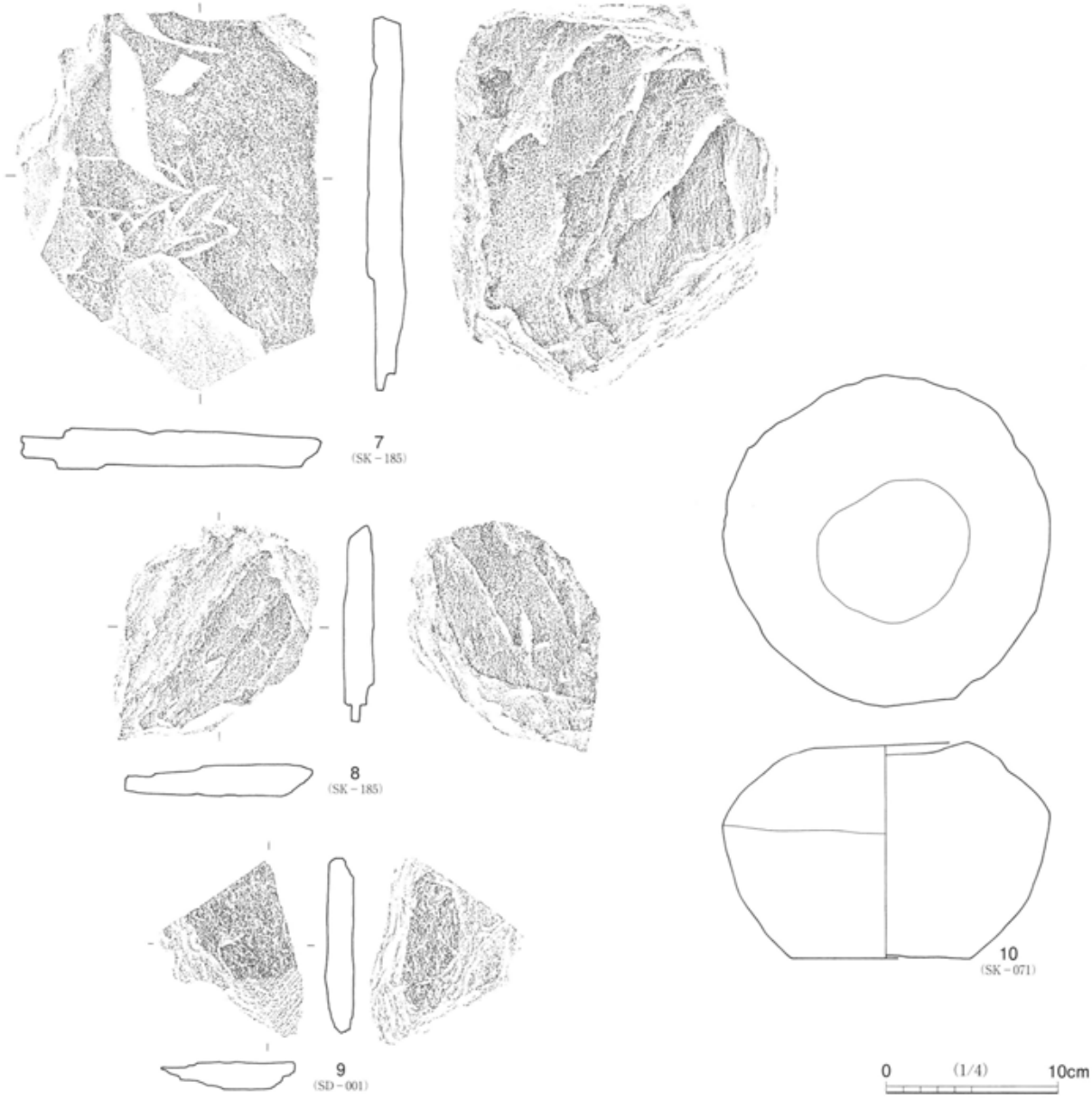
第674図14（図版313）は鉄製品で，大型の刀子である。切先側と茎尻側を欠く。刃関の切り込みは深く，刃部の根もとは幅が広い。遺存する長さは12.5cmで，刃部は10cm，茎は2.5cmである。刃部幅は1.65cm～2.9cm，茎幅は1.3cm～1.85cm，背側の厚さは４㎜前後，重さは45.8ｇである。なお，本項で扱ったが，奈良・平安時代の製品であることも考えられる。

以下に記述するものは，写真図版の掲載のみであり，実測図については省略した。

写真図版333の上段は大型の管状土錘である。19点を掲載した。長さは５cm～６cm，外径最大径は3.5cm前後，孔径はおおむね1.5cm強である。厚さは中央でおよそ１cmである。土師質で，色調は褐色・淡褐色である。胎土は，褐色粒・黒色粒・淡黄褐色土を多く含むものと，砂粒の密なものがある。焼成はおおむね良好であるが，ややあまいものも若干含まれており，その中には器壁内部が暗褐色を呈するものがある。SX－010・SX－012から多く出土している。また，23Q－41・23Q－42グリッドはSX－012が位置する地点である。

写真図版333の下段のうち，上２段は泥面子等，近現代の土製品である。SK－592出土のものは狐をかたどった土製品で，底面中央には貫通しない孔がみられる。同様に，SX－010出土のものの底面にも，未貫通の孔がある。孔は中央から片側に寄った位置である。

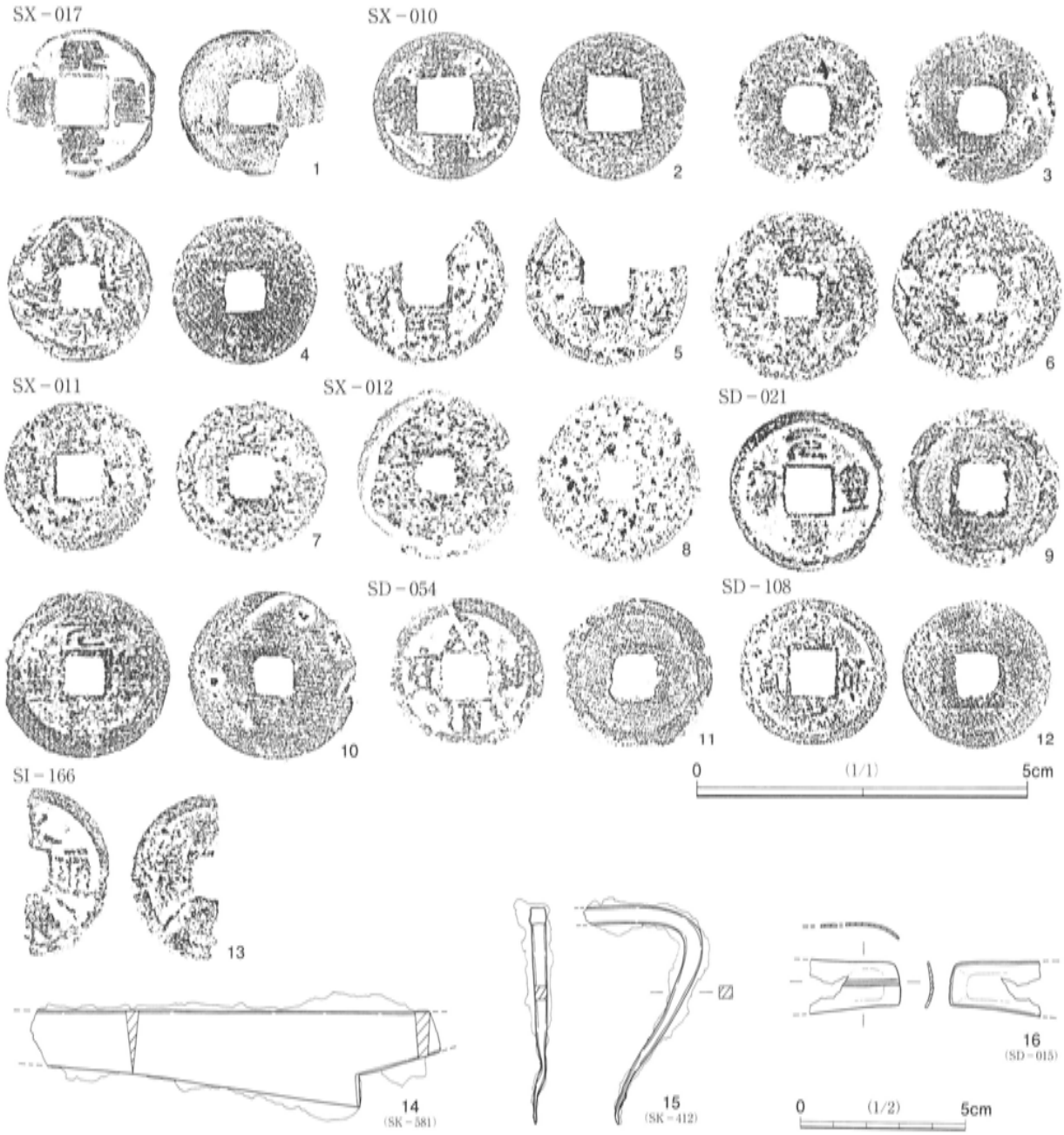
写真図版333下段の下１段は円板状，棒状の土製品である。22Q－07・19T－47出土のものは中央に孔をもつ，単孔の円板である。後者はあまり整った形ではない。19P－05・19P－03出土のものは碁石状の土製品である。これも後者はやや歪んでいる。SX－023出土のものは屈折した棒状，20P－65出土のもの



第673図　中近世石製品（3）

はまっすぐな棒状の土製品で，どちらも中実の製品である。下１段のものの中には，奈良・平安時代のものが含まれているかもしれない。

写真図版334・335は，335の最下段を除いて，砥石等の石製品である。時期は中・近世以降を主として，奈良・平安時代のものを若干含むと思われる。なお，335石製品のもっとも左下に掲載した25R－16出土のものは縄文時代の磨石の可能性がある。掲載した石製品のうち，334のもっとも左下にあるSX－010出土のものは硯，その隣のSX－013出土のものは石臼の破片である。その他はすべて砥石と思われる。



第674図　中近世銭貨・金属製品

第6章　分　　析

第1節　貝サンプルの分析

小屋ノ内遺跡において検出された貝層は，縄文時代早期後葉の土坑2基，奈良・平安時代の柱穴，土坑，井戸状土坑各1基のいずれも遺構内貝層5か所である。採取されたサンプルは，9.52㎜・4㎜・2㎜・1㎜メッシュの試験フルイによる水洗分離を経て，選別・集計・計測を行った。貝類の集計は4㎜以上を対象とした。計測はパソコンに接続したデジタルノギスを使って行い，Microsoft Excelの分析ツールを使ってヒストグラムを作成している。分析は西野雅人が担当した。微細資料の選び出しは1㎜までを対象とし，微小貝と炭化種子を検出したが同定分析は未了である。動物骨は検出されなかった。なお，このほかに現地で単独で採取された貝殻についても第5表に示した。

第5表　貝サンプル一覧

サンプル名	時　期	遺　構	方法	カット数	採取量	備　　考
SK-112	縄文早期	土坑	I	1	−	全量一括採取
SK-166	縄文早期	土坑	I	1	15	全量一括採取
SK-095	奈良	柱穴	I	1	10.6	全量一括採取
SK-134	平安	土坑	I	1	0.8	全量一括採取
SK-164	平安	大型円形土坑	C	13	151.2	50×50㎝コラムサンプル

現地採取の貝

サンプル名	時　期	遺　構	遺　物　No.	備　　考
SI-060	平安	住居	30	アワビ類片1点
SK-060A	近世	地下式壙	81	ハマグリ1点
SX-012	近世	屋敷跡	589，629，632，633	アカニシ片数点

第6表　貝類種名一覧

腹足綱	原始腹足目	ニシキウズガイ科	イボキサゴ	*Umbonium (Suchium) moniliferum*
			ダンベイキサゴ	*Umbonium (Suchium) giganteum*
	中腹足目	ウミニナ科	ウミニナ科種不明	Potamididae gen. & sp. Indet.
		タマガイ科	ツメタガイ	*Glassaulax didyma*
	新腹足目	アクキガイ科	アカニシ	*Rapana venosa*
		ムシロガイ科	アラムシロガイ	*Reticunassa festiva*
		エゾバイ科	バイ	*Balylonia japonica*
二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	ハイガイ	*Tegillarca granosa*
			サルボウガイ	*Scapharca subcrenata*
		ナミマガシワガイ科	ナミマガシワガイ	*Anomia chinensis*
	ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	*Crassostrea gigas*
	マルスダレガイ目	バカガイ科	シオフキガイ	*Mactra quadrangularis*
			バカガイ	*Mactra chinensis*
		ニッコウガイ科	サビシラトリガイ	*Macoma contabulata*
			ユウシオガイ	*Moerella rutila*
		マテガイ科	マテガイ	*Solen strictus*
		フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	*Trapezium liratum*
		マルスダレガイ科	カガミガイ	*Phacosoma japonicum*
			アサリ	*Ruditapes philippinarum*
			ハマグリ	*Meretrix lusoria*
			オキシジミ	*Cyclina sinensis*
		オオノガイ科	オオノガイ	*Mya arenaria oonogai*
	計	15科	22種	

1　貝層とサンプルの概要

SK－112（第18図）　縄文早期後葉の土坑に，径25cm厚さ10cmほどの小さな混土貝層ブロックを形成していた。貝層付近を中心に条痕文土器の小片が多数伴っている。口縁部片もみられるが特徴に乏しく，詳しい時期は不明である。現地で４㎜メッシュのフルイをかけてあったので，採取量は不明であり，微細資料は存在したとしても流出してしまったものと考えられる。

SK－166（第18図）　縄文早期の土坑に，54×45cm，厚さ20cmほどの混土貝層ブロックを形成していた。土坑底面から40cm以上浮いているが，底面から15cmほどの部分にもごくわずかに貝殻が入っていた。掘り込みは不整形であり，伴出土器は条痕文土器小片１点のみであるため，遺構の性格は不明確だが，ハイガイを含む貝種組成からみて縄文早期の貝層とみて誤りのないところである。２単位のサンプルを採取していたが，区分が不明のため１カットとして扱う。

SK－095（第566図）　径20cm深さ40cmの柱穴状の穴にイボキサゴが充填されていた。遺構の時期と性格は不明確であるが，土師器・須恵器破片４点の時期は比較的まとまっている。新治産須恵器杯，常総甕口縁，赤彩杯を含んでおり，奈良時代ころの資料である。概ねこの時期の貝層と推定される。サンプルは全量を一括採取したものである。

SK－134（第566図）　径１．３ｍほどの土坑に，20×15cm，厚さ10cmほどの小さな貝層を形成していた。９世紀後半の土師器皿と平安時代の小形甕を伴っており，貝層の時期を示すものであろう。サンプルは全量を一括採取したものである。

SK－164（第563図）　大型円形土坑の覆土最上層に径１．２ｍ，厚さ40cmほどの貝層を形成していた。大量の土師器・須恵器を伴っており，貝層の時期は平安時代初頭と推定される。貝層は均一で分層できない。一括して廃棄したか，またはすでに混じりあったものを廃棄したものとみられる。サンプルは，貝層の中心に50cm角の定点を設けて厚さ５cmのコラムサンプルを13カット採取した。ただし，水洗前のサンプル量は，定量採取したはずのcut４以下であっても差が大きすぎてあてにならない。貝類の計測個体はcut４以下の偶数番号のみ抽出した。なお，コラムサンプル以外の貝層も全量採取されており，整理箱16箱あった。これについては４㎜の乾フルイによって人工遺物を回収した後廃棄した。

2　貝種組成と計測値

全体で15科22種以上の貝類を検出した（第６表）。時期ごとに内容は大きく異なっているので，時代別に記載したが，図表はまとめて示している。貝類の同定結果と他の検出物を第７表に，主な貝種組成は第８表と第675図に，計測値は第９表に示す。

(1)　縄文早期

貝種組成　湾奥泥底干潟種のハイガイ・マガキ・オキシジミと，内湾砂底種のハマグリ・アサリが存在し，前者が主体を占める。SK－112ではオキシジミが半分を占め，ハイガイ・ウミニナ科も多い。SK－166はハイガイが半分を占め，マガキ・ハマグリ・オキシジミも多い。湾奥泥底干潟種と内湾砂底種の両方が混じるのは，この時期の貝層として普通であり，現在の印旛沼付近に存在した内湾奥部の泥がちな干潟で採取されたものとみられる。主体種以外も同様の場所で採取可能な種類のみである。サビシラトリガイは湾奥干潟の代表種であり，この時期の自然貝層から普通に産出するにも関わらず，貝塚出土例は少ない。マガキの多いSK－166のウミニナ科７点はマガキが付着したことによって運び込まれたと考えられ

第7表　貝類同定結果

種　　名	縄文 SK－112	縄文 SK－166	奈良 SK－095	平安 SK－134	平安 SK－164 合計	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
イボキサゴ			3257	0	22	1	3	3	3	2	4	2		2	2			
ダンベイキサゴ					58			2	3	1	1	5	3	11	18	8	4	2
ウミニナ科	11	7			1									1				
ツメタガイ					1									0	1			
アラムシロガイ			5		2			1	1									
バイ		1			1			1										
ハイガイ	25	535			0													
サルボウガイ		2	1		31		2		4	3	3	2	7	3	7			
ナミマガシワ		1			1				1									
マガキ	3	166			0													
シオフキガイ	3	2	2	1	1797	26	112	109	271	182	170	230	165	189	287	35	7	14
バカガイ					6						6				0			
サビシラトリガイ	3				0													
ユウシオガイ		1			0													
マテガイ		6			55	1	5	2	7	4	1	10	6	6	12	1		
ウネナシトマヤガイ		2			0													
カガミガイ					19	2	0	1	4	1	3	2	0	4	1	1		
アサリ		59		3	425	5	23	26	60	39	37	48	41	59	71	4		12
ハマグリ	26	124	29	1	1753	24	106	152	286	135	152	168	155	170	333	50	17	5
オキシジミ	63	123			9		1		1	0	2		1	1	1	1		1
オオノガイ		6			33	1	2	2	5	1	4	2	3	4	9	0	0	
合　　計	134	1035	3294	5	4214	60	254	299	646	368	383	469	381	450	742	100	28	34
水洗前体積(リットル)																		
微小貝		○	△	△		△	○	○	○	○		◎	○	○	◎		△	△
炭化種子			1					7	6				8					
土器片		1								3	1		2	2	5	5		
その他	フジツボ 1.6g	石片1																

第8表　貝種組成

縄文早期

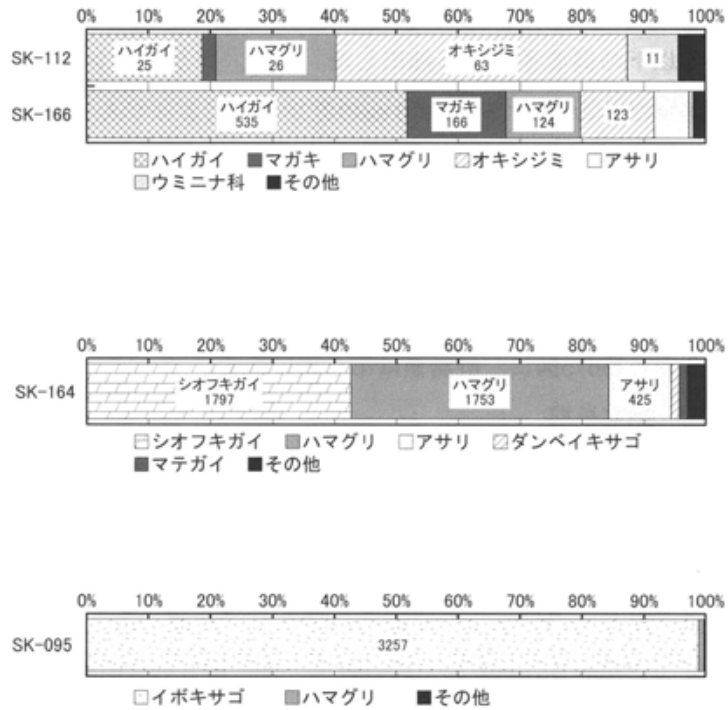
種　　名	SK－112	%	SK－166	%
ハイガイ	25	18.7%	535	51.7%
マガキ	3	2.2%	166	16.0%
ハマグリ	26	19.4%	124	12.0%
オキシジミ	63	47.0%	123	11.9%
アサリ		0.0%	59	5.7%
ウミニナ科	11	8.2%	7	0.7%
その他	6	4.5%	21	2.0%
合　　計	134	100.0%	1035	100.0%

奈良

種　　名	SK－164	%
シオフキガイ	1797	42.6%
ハマグリ	1753	41.6%
アサリ	425	10.1%
ダンベイキサゴ	58	1.4%
マテガイ	55	1.3%
その他	126	3.0%
合　　計	4214	100.0%

平安

種　　名	SK－095	%
イボキサゴ	3257	98.9%
ハマグリ	29	0.9%
その他	8	0.2%
合　　計	3294	100.0%



第675図　貝種組成

る。これに対して，SK－112ではウミニナ科がマガキを上回り，しかも比較的大きな個体であり，食用に採取された可能性が高いと考える。この点はあとで詳しく述べたい。

計測値分布　計測可能個体の多い二枚貝について殻長を計測した。アサリ・ハマグリが30㎜前後，オキシジミは30㎜弱である。ハイガイは25～26㎜ともう少し小さい。印旛沼水系の早期後葉のデータとして標準的と思われる。どの種においてもSK－112とSK－166の大きさの分布はよく似ており，時期や漁場が同一であったか，またはよく似た漁場で採取された可能性がある。

(2)　奈良・平安時代

貝種組成　3つのサンプルに共通して内湾砂底種が主体である。平安時代のSK－134は試料数が少なすぎるので以下では分析対象外とする。奈良時代のSK－095はイボキサゴがほとんどである。東京湾沿岸地

第9表　貝類計測値分布

イボキサゴ殻径

㎜	SK-095
-10.0	
-11.0	
-12.0	
-13.0	
-14.0	
-15.0	
-16.0	4
-17.0	38
-18.0	71
-19.0	67
-20.0	15
-21.0	5
-22.0	
-23.0	
-24.0	
-25.0	
試料数	200
平均	17.84
標準偏差	0.99

アサリ殻長

㎜	SK-166	SK-164
- 5.0		
-10.0		
-15.0		
-20.0		
-25.0	1	
-30.0	11	31
-35.0	9	70
-40.0	4	79
-45.0	4	75
-50.0		29
-55.0		13
-60.0		5
-65.0		
-70.0		
-75.0		
-80.0		
試料数	29	302
平均	32.36	38.62
標準偏差	5.55	6.58

ハマグリ殻長

㎜	SK-112	SK-166	SK-164
- 5.0			
-10.0			
-15.0			
-20.0		2	
-25.0		7	2
-30.0	2	25	21
-35.0		13	89
-40.0	6	6	102
-45.0	2	2	100
-50.0		2	103
-55.0			85
-60.0			72
-65.0			55
-70.0			36
-75.0			10
-80.0			2
試料数	10	57	677
平均	36.66	29.94	46.96
標準偏差	4.64	6.21	11.22

シオフキガイ殻長

㎜	SK-164
- 5.0	
-10.0	
-15.0	
-20.0	
-25.0	
-30.0	7
-35.0	54
-40.0	127
-45.0	281
-50.0	200
-55.0	29
-60.0	
-65.0	
-70.0	
-75.0	
-80.0	
試料数	698
平均	42.46
標準偏差	4.82

マガキ殻高

㎜	SK-166
- 5.0	
-10.0	
-15.0	1
-20.0	3
-25.0	4
-30.0	20
-35.0	17
-40.0	10
-45.0	12
-50.0	15
-55.0	3
-60.0	
-65.0	2
-70.0	2
-75.0	
-80.0	
-85.0	1
試料数	90
平均	37.01
標準偏差	11.85

オキシジミ殻長

㎜	SK-112	SK-166
- 5.0		
-10.0		
-15.0		
-20.0	2	1
-25.0	11	11
-30.0	4	16
-35.0	7	22
-40.0	5	7
-45.0		
-50.0		
-55.0		
-60.0		
-65.0		
-70.0		
-75.0		
-80.0		
試料数	29	57
平均	27.34	29.63
標準偏差	6.09	4.94

ハイガイ殻長

㎜	SK-112	SK-166
- 5.0		
-10.0		
-15.0		
-20.0	5	13
-25.0	6	65
-30.0	17	90
-35.0	2	28
-40.0		3
-45.0		1
-50.0		
-55.0		
-60.0		
-65.0		
-70.0		
-75.0		
-80.0		
試料数	30	200
平均	25.39	26.13
標準偏差	3.91	4.17

ダンベイキサゴ殻径

㎜	SK-164
- 5.0	
-10.0	
-15.0	
-20.0	
-25.0	4
-30.0	10
-35.0	4
-40.0	
-45.0	
-50.0	
-55.0	
-60.0	
-65.0	
-70.0	
-75.0	
-80.0	
試料数	18
平均	28.05
標準偏差	3.14

域では縄文中期から近世に至るまでイボキサゴが盛んに採取されたが，イボキサゴ主体層にはウミニナ科とアラムシロガイが一定量混じるのが常である。これらはザルやカゴ等によるイボキサゴ漁に伴って混獲されたものと解釈されている。これに対して，当サンプルではアラムシロが５個のみで明らかに少ない。採取法が異なる可能性と，採取から流通までの過程で混獲種が取り除かれた可能性が考えられる。SK－164はカットごとの差が認められず，合計でみるとシオフキガイとハマグリが約40％ずつで，アサリも多い。このほかにダンベイキサゴ，マテガイ，サルボウガイ，イボキサゴ，カガミガイも食用に採取されたものであろう。このうち，ダンベイキサゴ以外はシオフキ・ハマグリと同じ漁場で採取しうる。ダンベイキサゴのみは外洋種であり，注目される。

計測値分布　SK－095のイボキサゴ，SK－164のアサリ・ハマグリ・シオフキガイは，縄文時代の貝塚から出土した貝に比べるとずっと大きいが，古代のデータとしては標準的である。貝の採取量や頻度が少なかったことを示すものであろう。外洋種のダンベイキサゴは粒ぞろいといえる。

3　その他の所見

(1)　早期後葉の貝層

印旛沼低地の海岸線変遷史に関してはデータが少なく不明な点が多い。したがって，遺跡が漁場からどの程度離れていたのかは不明である。印旛沼低地周辺は早期後葉の貝塚が多いことで知られており（西野 2005），鹿島川谷水系には新畑遺跡，後口遺跡，当遺跡が存在する。当遺跡はこのうち最も谷奥にあたり，印旛沼水系全体でも最奥の例となるだろう。

(2)　マガキの付着痕

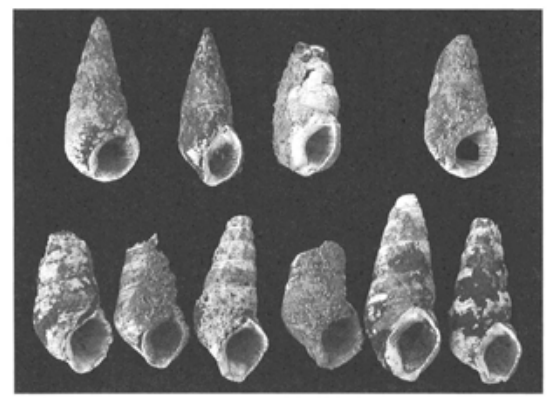
SK－166のマガキについて，左殻殻頂付近の付着痕を観察したところ（第10表），マガキ同士で付着していたと推定される個体が最も多かった。次いで多い「棒状のもの」はおそらく植物の茎や根であろう。葦などの生える塩性湿地において植物やウミニナ類に付着しながら徐々にマガキ同士で付着してカキ礁を形成しつつあるような状態を想定できる。

第10表　マガキの付着痕

	SK－166
A：付着痕なし，マガキに付着	24点
C：貝殻に付着	6点
D：棒状のものに付着	12点

(3)　ウミニナ類の食痕

SK－112のウミニナ科（類）は少ないながらも食用に持ち込まれたものと推定した。種はウミニナ４点，イボウミニナ６点，ヘナタリガイ？１点で，このうち９点について殻口長を計測し，殻高の復原値を求めた。「殻高＝殻口長×2.57」（西野 1999）により算出した平均殻高は26.7㎜である。食用として充分なサイズであり，小さな個体は混じっていない。ちなみに，マガキが付着したために遺跡に持ち込まれたていて非食用であるSK－166では，（計測個体は３点にすぎないが）平均は22.1㎜で，１個は20㎜を下回る。また，両者の殻の遺存状態をみると，SK－166では



第676図　SK－112のウミニナ

両端に欠損が見られるのに対して，SK－112では残りの悪いものを除くと10点中８点で殻頂部のみが欠損している（前述のように微細資料は回収されておらず，殻頂部破片が存在したかどうか確認できなかった）。このような状態は，「殻頂部切断－吸出し法」と呼ばれるウミニナ類特有の身の取り出し方を想起させる（西野 1999）。この習慣・技術は縄文時代に散見し，弥生時代以降は県内でもよく見られるほか，現在でも西日本や韓国に存在する。時代・地域の系統関係は追及されていないが，今回の資料により，縄文早期後葉に遡る可能性を指摘しておく。

(4) 奈良・平安時代の海産物の流通

当遺跡から出土した貝類の量は決して多くはないが，漁場から遠く離れた地に運ばれているものであり，海産物の生産・流通史を考える上で貴重な資料といえる。中心となる東京湾産とみられる内湾種では，混獲種が取り除かれた可能性を指摘した。価値を高めるために行われた可能性がある。一方，粒ぞろいのダンベイキサゴは九十九里方面から，さらに遠く運ばれたものとみられる。下のように，東京湾岸では古代の検出例が増えつつあり，６世紀後半くらいから流通経路が存在した可能性がある。印旛沼水系では各時代を通じて外洋種の出土例は少なく，今のところ流通経路を想定するのは難しい。

高沢遺跡119号住居跡	奈良	8点	（関口他 1989）
草刈遺跡Ｃ区237号	奈良	1点	（整理中）
ムコアラク遺跡DW11	奈良	1点	（西野 2005b）
神明社裏遺跡255号井戸状土坑	平安	254点	（未報告）
御塚台遺跡192号溝	平安	1点	（西野 2003）
小金沢古墳群107号土坑	古墳時代以降	176点	（西野 2005b）

文献

関口達彦他　1989『千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－』

田坂　浩　1979「DW11出土の貝類遺体について」『千葉東南部ニュータウン８－千葉市ムコアラク遺跡他－』

西野雅人　1999「ウミニナの身を取り出す２つの方法」研究連絡誌50，千葉県文化財センター

西野雅人　2003「古代の遺構から出土した貝類」『千葉東南部ニュータウン26』　第５部　御塚台遺跡

西野雅人　2005「縄文早期後葉の印旛沼周辺貝塚群」『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書４－八千代市間見穴遺跡群(2)－』

西野雅人　2005b「貝サンプルの分析結果」『千葉東南部ニュータウン32－千葉市小金沢古墳群２－』

第２節　土サンプル・火山灰・動植物遺体の分析

１　資料の概要と整理の方法

(1) 土サンプル検出資料

当遺跡の発掘調査では，古墳時代から近世までの遺構や土器の内部に入った土が数多く採取された。発掘時に目に付いた微細な資料の遺漏を少なくする目的で採取されたものである。今回抽出対象としたのは，炭化植物遺体と，火山灰である。ただし，炭化材小片は対象外とした。定量的・系統的な採取ではないため，選別・抽出した資料のみを保管し，残留物や対象資料が検出できなかったサンプルについては廃棄した。土器片等は通常の出土資料に戻した。なお，SI－084の小鍛冶・石製品製作に関わる土サンプルについては第３章に記載した。資料の回収は，まず乾燥状態で内容を見て採取の目的を検討した。炭化

植物遺体の回収を目的としたサンプルについては，フロテーション法による浮遊物の回収と，1㎜と0.5㎜の試験フルイによる水洗選別を行った。その結果，古墳時代から平安時代の遺構6か所で炭化材以外の植物遺体を検出した。一方，火山灰は，現地で「火山灰か，または砂鉄」とみて採取されたものが多い。SX－010のみは，ほぼ火山灰のみが大量に採取されたが，そのほかは土の中に混じっている状態であったので，以下の方法でなるべく土を取り除いた。まず，1㎜メッシュの乾燥フルイから落ちた細粒のみを水の入ったポリ袋に入れて攪拌し，上澄みを棄てる作業を繰り返した。残ったものを乾燥した。ただし作業後に，当センター福田誠氏より，この方法では軽石等が流出してしまうため，相応しくないとの指摘を受けた。このような作業を実施したのは，SI－003の試料が例えば貞観スコリア（AD864）などの古代の降下火山灰の可能性が高く，貴重な資料となると考えたからである。しかし，結果として近世に由来する可能性が高いと判断するに至った。

(2) 現地採取の炭化植物遺体・動物遺体

現地で採集された炭化植物遺体のうち，炭化材は，各遺構で比較的大きめのものを抽出し，一覧に記録して保管した。その工程で掲載した木製容器が見つかっているほか，加工痕等は認められないが，出土状況から住居の建築部材としてよい資料が複数存在した。炭化種子等はクリーニングと補強を行い，一覧を作成したが，専門家による分析鑑定は実施できていない。大半はモモの核と呼ばれる部分であり，狭い範囲に集中していることがわかったため，別に分析を行うことにした。動物遺体もすべて現地で取り上げられたものであり，貝サンプル，土サンプルからは検出できなかった。

2　火山灰

いずれも宝永スコリア（AD1707降下）とみられる。SI－003は古代の竪穴住居跡覆土中から検出したものとされ，土層断面の図やカラー写真をみても攪乱等の痕跡が認められなかった。出土位置は第132図平面図の土器キャプション「4」の付近であり，A－A′断面の1層と4層の境界付近である。しかしながら，この位置には他にも数か所で火山灰を検出している近世の溝（SD－001）が通っている。周辺の記録から，火山灰出土層位はSD－001の推定底面よりやや下のレベルから出土したように見えるものの，SD－001に伴うと考えるのが無難と判断した。

3　動植物遺体

(1) 炭化植物遺体（第11表，第677図）

10遺構から出土した30点の現地採集資料と，6遺構の土サンプルから検出した各1点があり，古墳後期～奈良・平安時代を中心とする。専門的な同定を実施していないが，第11表と第677図の写真（約2倍）によって概要を報告しておく。1～16はモモの核，17～19は堅果状の種実で，他にムギ類，コメがみられる。注目されるのはSI－004，013，014等の住居跡内からまとまって出土した炭化モモ核である。出土状況を検討したところ，何らかの祭祀・儀礼に関わるものと推定されたので，くわしい検討を行った。その結果は第3節に記載する。なお，表に示した計測値によると，モモ核の平均的なサイズは長さ：19.2㎜±3.6㎜（試料数18），幅：15.7㎜±2.8㎜（試料数17）であった。大きさにかなりのばらつきがある。写真のように全体や皺の形状も個体差が大きい印象である。

第11表　炭化植物遺体

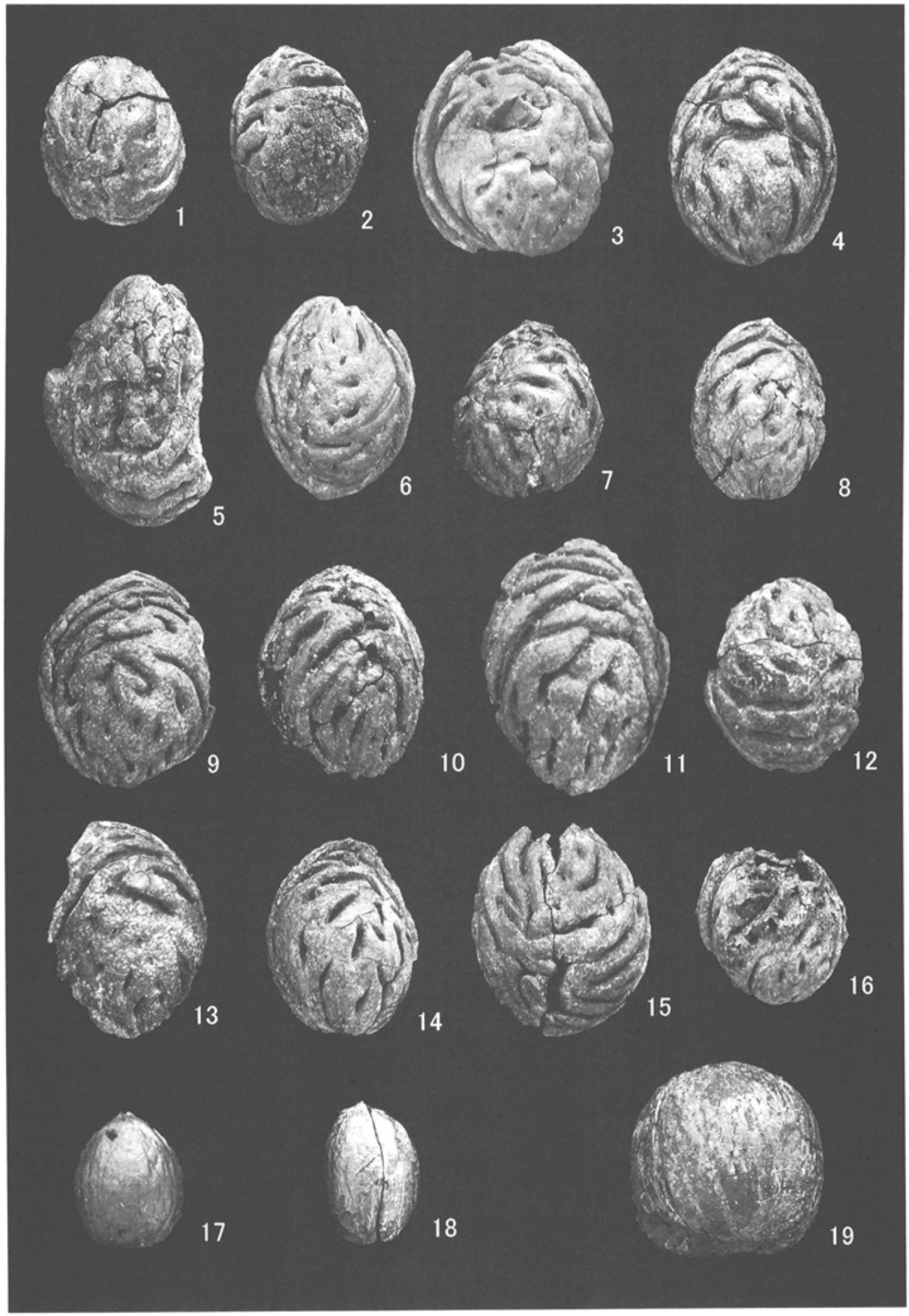
A.現地採集資料

№は第677図写真の個体番号

№	遺構	注記	種名	長軸長	短軸長	遺存度	備考
	SI-002	1点		奈良平安	8C中	住居跡	
	SI-002	0691	モモ	−	−	1/2	
	SI-004	4点		奈良平安	8C前〜中	住居跡	北東隅，覆土最上層にまとまる
	SI-004	0496	モモ	−	−	1/3	
	SI-004	0792	モモ	−	−	1/4	
1	SI-004	0797	モモ	17.0	14.5	完存	
2	SI-004	0871	モモ	17.8	14.4	完存	
	SI-013	14点		奈良平安	8C中	住居跡	南東隅，覆土中層にまとまる
	SI-013	0093	モモ	−	−	細片化	
4	SI-013	0094	モモ	21.8	16.6	完存	
5	SI-013	0100	モモ	25.1	−	2/3	
6	SI-013	0101	モモ	20.3	15.8	完存	
7	SI-013	0102	モモ	17.8	15.0	一部欠	
8	SI-013	0103	モモ	18.5	13.7	完存	
9	SI-013	0104	モモ	21.4	18.0	完存	
	SI-013	0105	モモ	−	−	小片	
10	SI-013	0106	モモ	21.1	16.6	完存	
	SI-013	0107	モモ	−	−	小片	
11	SI-013	0109	モモ	24.7	17.0	3/4	
12	SI-013	0268	モモ	19.5	16.0	完存	
13	SI-013	0320	モモ	22.4	−	1/2	
	SI-013	0378	モモ	−	−	1/3	
	SI-014	5点		奈良平安	8C後	住居跡	南西隅，覆土上層にまとまる
	SI-014	0121	モモ	−	−	小片	
	SI-014	0134	モモ	−	−	1/3	
	SI-014	0136	モモ	−	−	1/3	
14	SI-014	0151	モモ	19.1	14.8	完存	
15	SI-014	0152	モモ	-	18.8	1/2	
	SI-027	1点		弥生	弥生後期	住居跡	
19	SI-027	0014	不明	18.2	19.3	完存	球状の種実
	SI-035	1点		奈良平安	9C中	住居跡	
	SI-035	0025	ムギ類？	4.7	3.0	完存	
	SI-083	1点		奈良平安	8C後	住居跡	
3	SI-083	0101	モモ	20.9	20.2	完存	
	SI-098	1点		奈良平安	9C中〜後	住居跡	
	SI-098	0001	堅果類？	12.5	−	1/3	ドングリ状の種実
	SI-144	1点		奈良平安	8C前〜後	住居跡	
16	SI-144	0101	モモ	−	15.3		
	SI-360	1点		奈良平安	9C前〜中	住居跡	
	SI-360	0093	堅果類？	−	−	小片	ドングリ状の種実
	SD-038	1点		近世	−	溝	
17	SD-038	0015	堅果類？	12.9	10.6	完存	ドングリ状の種実
	SX-012	1点		近世	−	屋敷跡	
18	SX-012	0580	堅果類？	14.0	9.6	完存	ドングリ状の種実

B.サンプル検出資料

遺構	注記	種名	時期1	時期2	遺構	備考
SI-013	0511	不明1	奈・平	8C中	住居	土サンプル，カマド東側貼床中
SI-017	0414，0415	不明1	古墳後	7C前〜中	住居	土サンプル，土器内。 覆土上層に8C前葉の土器だまり
SI-026	0002		古墳後	6C後〜7C前	住居	土サンプル，土器内
SI-076	−	コメ？2	古墳後	7C後	住居	土サンプル，Ⅰ〜Ⅳ層別
SK-095	−		奈良		柱穴	貝サンプル
SK-164	−	コメ他6	奈・平	9C前半	井戸状土坑	cut 3，4，8，10，12より検出



第677図　炭化植物写真（約２倍）

(2) 動物遺体（第12表）

近世の遺構からウマの歯牙と哺乳類の骨片が出土している。いずれも遺存の悪いものであり，残りやすい部位のみが形を残したものであろう。SX－019は方形周溝状遺構から出土したもので，イノシシの遊離した臼歯１点である。ごく断片的な資料であり，簡単な観察結果のみを示した。

第12表　動物遺体

遺構名	骨の種類	時　代	遺　構	注　記　No.	備　考
SK-060A	獣/骨片	近世	地下式壙	80	
SD-005	ウマ/歯	近世	道路状遺構	5，7-11，13-15	
SD-005	獣/骨片	近世	道路状遺構	12	
SD-018	獣/骨片	近世	溝	2	
SD-021	獣/骨片	近世	道路状遺構	74，264，267，268	
SX-012	獣/四肢	近世	粘土貼土坑	633，636，642	
SX-012	獣/歯	近世	粘土貼土坑	652，653	
SX-019	イノシシ/臼歯	?	方形周溝状遺構	38	未萌出
SX-025	獣/骨片	近世	溝	7-9	

第３節　炭化モモ核と赤彩土器

１　概要

第２節で述べたように，現地採取の炭化植物遺体は，古代のものに限れば27点のうち24点がモモ核であり（第11表），すべて隣接する４軒の竪穴住居跡から出土したものである。南側に張り出す台地の中央やや南寄りのこの一角には，８世紀代に４軒の大型の竪穴住居跡が順に建てられ，その間に概ね「コ」の字形の配列をもつ建物群が創設された。また，南西側の近くには村堂とみられる建物が建てられている（第678図）。この付近は，８世紀から９世紀にかけて集落の中核をなしていたものと考えられる。モモ核は，多数の赤彩土器を含む土器群とともに，この付近で行われた何らかの祭祀・儀礼に使われ，その一部は建物群を創設するための整地に伴い，建物群の範囲内の竪穴の窪みに拡散したものと推定された。

２　モモ核と共伴資料の出土状況

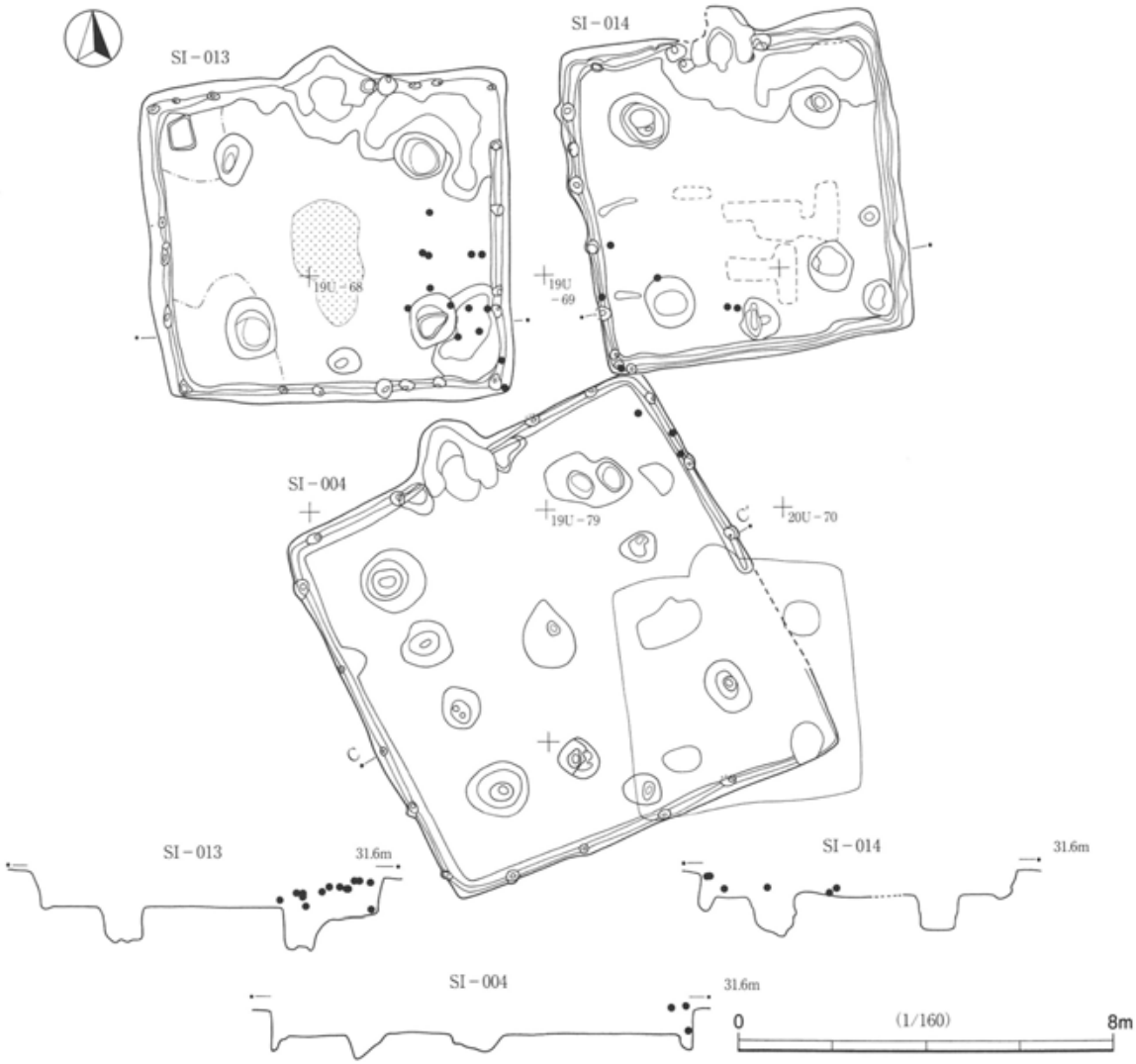
(1) モモ核

炭化したモモ核は，以下の隣接した４軒の竪穴住居跡跡から出土した。

遺構No.	遺構	点数	出土状況
SI－002	Ⅰ－２期：８世紀中葉・住居跡	１点	不詳
SI－004	Ⅰ－１期：８世紀前～中葉・住居跡	４点	北東隅，覆土最上層にまとまる
SI－013	Ⅰ－２期：８世紀中葉・住居跡	14点	南東隅，覆土中層にまとまる
SI－014	Ⅱ期：８世紀後葉・住居跡	５点	南西隅，覆土上層にまとまる

モモ核の出土位置は，第679図のように，SI－004の北東隅，SI－013の南東隅，SI－014の南西隅に集中しており，以上の３か所は図のように隣接した位置関係にある。中心はSI－013にあり，床面に焚き火痕跡を有するなど，祭祀・儀礼に直接関係した可能性がある。３か所の窪みに同時に流入したものというのが当初の見通しであった。流入の時期は，SI－013では床面中央部が露出し，周囲が埋まりかけた段階，SI－014は中心部までかなり埋まった段階，SI－004はほぼ埋まりきった段階となる。しかしながら，各住居跡の出土土器の年代からこれは成立しない。モモ核がもっとも多く，覆土中層に分布するSI－013より

第678図　中心建物群周辺の遺構と赤彩土器・炭化モモ核の出土点数



第679図　炭化モモ核の集中出土状況

も，SI－014の方が年代的に新しいからである。モモ核流入の機会は少なくとも２回以上あったことになる。この付近でモモ核を使用した祭祀・儀礼が何度か行われた可能性や，SI－014には，周提帯などに混じっていたモモ核が後年土とともに堆積した可能性などいくつかの解釈が可能である。柱穴覆土中の土器から推定した建物群の年代は，一部の建物がSI－004と同じⅠ－１期に遡るものの，規則的な配置をとるものはⅠ－２期からである。すなわち，建物群の創設期は概ねSI－013竪穴住居跡の存在した時期であり，それより新しいSI－014の存在から，建物群と大型の竪穴住居跡は共存したことは疑いのないところである。

(2)　赤彩土器

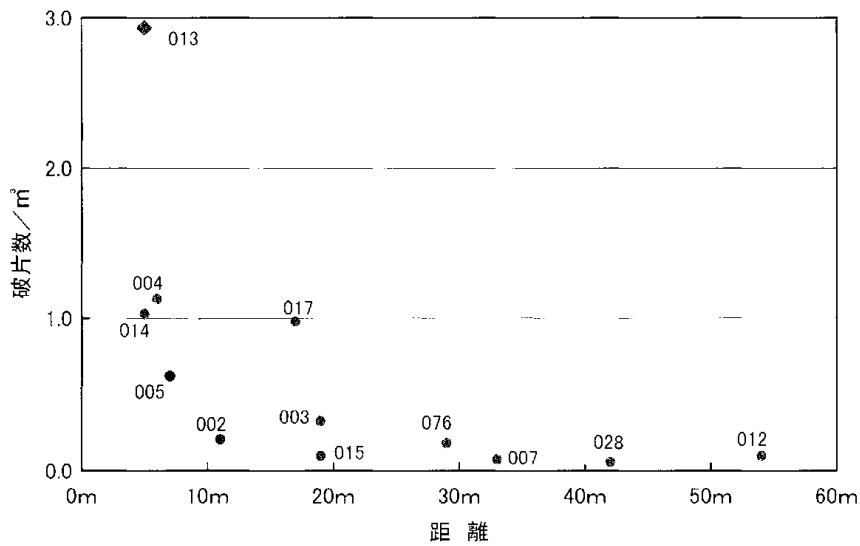
建物群付近の竪穴住居跡からは，赤彩土器が多量に出土している。６～８世紀代に比定される12軒の竪穴住居跡で例外なく出土しており，出土数にはかなりの濃淡が認められる。器種は皿，鉢，片口が各１例あるほかは杯である。出土数は，非掲載分も含めた破片数（明らかな同一個体は１点とする）でみるとSI－013とSI－004が突出しており，SI－014がこれに続く。これは，モモ核の出土傾向とほぼ一致している。全体として細かく割れた破片が多いが，これらの３軒，および隣接するSI－017には実測個体も比較的多

い。一方で，モモ核と赤彩土器の集中区から遠ざかるほど，点数は少なく，破片のサイズが小さい傾向がみられる。これは第678図をみれば明らかであるが，試みに体積あたりの赤彩土器破片数を比較してみても，第13表および第680図のグラフのように負の相関関係が強く表された。「距離」はモモ核集中の中心から各遺構までの距離を示し，面積と調査深度から大まかな覆土の体積を算出して，体積あたりの破片数を比較したものである。グラフ上の直線は，Microsoft Excelのグラフに付加できる近似曲線－線形近似による回帰直線である（計算式は，y＝相関係数r×yの標準偏差Sy/xの標準偏差Sx×（x－xの平均）＋yの平均による）。

このように，赤彩土器は一定の範囲内で面的な分布をみせており，建物群に近い遺構に例外なく入っていて，しかも，モモ核の集中部から遠ざかるにつれて少なくなっている。赤彩土器は，SI－013付近で行われた祭祀・儀礼に使われ，建物群域の整地に伴って周辺の窪みに落ち込んだものが多かったのではないかと考えられる。

第13表　赤彩土器出土数の比較

遺構名	時　期	実測個体	破片数	距離	面積	調査深度	遺存率	破片数/㎥	備考
SI-004	8C前～中葉	17個	152片	6m	81m	0.6m	100%	1.13片/㎥	
SI-014	8C～後葉	3個	63片	5m	49m	0.8m	100%	1.03片/㎥	
SI-013	8C中葉	9個	198片	5m	54m	0.8m	100%	2.93片/㎥	SI003，005，007と接合
SI-005	8C後	3個	26片	7m	25m	0.6m	20%	0.62片/㎥	←5倍した。SI013と接合
SI-002	8C中葉	4個	25片	11m	60m	0.5m	100%	0.21片/㎥	
SI-017	7C	6個	75片	17m	46m	0.6m	100%	0.98片/㎥	
SI-003	7C ?	3個	7片	19m	35m	0.5m	100%	0.10片/㎥	SI013と接合
SI-015	9C前葉	3個	17片	19m	36m	0.7m	100%	0.33片/㎥	
SI-076	7C	4個	10片	29m	27m	0.5m	100%	0.19片/㎥	
SI-007	7C	2個	11片	33m	56m	0.4m	100%	0.08片/㎥	SI013と接合
SI-028	9C前葉～中葉	1個	2片	42m	14m	0.4m	100%	0.06片/㎥	
SI-012	7C	2個	5片	54m	25m	0.5m	100%	0.10片/㎥	
合　計	－	28個	178片	－	－	－	－	－	－



第680図　赤彩土器出土数

(3) その他の資料

赤彩土器とモモ核の出土した3軒の竪穴住居跡では，ほかに須恵器坏の割合が高いこととともに，ヘラ書きや線刻をもつ土器が多いのも特徴である。「人」に似たものが多く，「二」「＋」「＿」といった九字切りに関わる可能性をもつものも目立つ。その他「与」「方or方」などが存在する。焼成前のヘラ書きのほうが多いが，九字切りの省略形とみられる線刻の存在は，儀礼との関わりを思わせる。また，SI－013からは鉄鏃3点，刀子7点が出土しており，竪穴住居跡としては，かなりまとまった出土数といえるだろう。ヘラ書き・線刻土器や金属製品の出土状況には埋納等の特殊な状況は認められないが，儀礼に使われ廃棄された可能性も考慮すべきであろう。

3　モモに関する信仰とモモ核の出土例

(1) モモに関する信仰

モモの木やその果実の霊力に関して書かれたものは枚挙に暇がない。モモが鬼を祓うことの謂れや説話は中国の文献に多く，日本書紀などにも取り入れられている。道教や神仙思想，陰陽道の影響を受けた国家的な儀礼や，そこから派生した民間の行事などについての記載も数多く見ることができる（森田 2001）。しかし，古代に，どのような祭祀・儀礼のなかで，どのようにモモが使われたのかという点になると情報は乏しい。また，モモの霊力は道教や神仙思想にルーツをもつことは疑いないところだが，実際にどのような思想・信仰によっていたのかなど，遺跡から出土するモモ核の意味については未解明の部分が多いようである。

(2) モモ核の出土例

遺跡出土のモモ核については，大山真充による全国的な類例の紹介（大山 1994）と，大谷弘幸による千葉県内の竪穴住居跡出土例の集成（大谷 2002）がある。それによると，全国的には弥生中期，県内では古墳時代前期の出土例がもっとも古いものである。その後古墳時代中期にやや増え，古墳時代後期から平安時代の事例がとくに多い。大谷は，各時期の竪穴住居跡中での出土位置を検討した結果として，古墳時代には，竪穴住居跡の埋没時に，周辺で行われた祭祀行為で使われたモモが投入された可能性を指摘した。また，奈良・平安時代ではカマド廃絶に伴う祭祀行為にモモが使われたものと考えた。出土状況に時期差を認めたことは，モモ核の出土が単なる食糧残滓や偶然によるものではないことを具体的に示した点で重要である。全国的には，祭祀・儀礼に直接結びつく事例として，奈良県牧野古墳の石室内出土例，法隆寺五重塔の柱・金堂の柱に封入されていた例（7世紀後半）などが知られている。牧野古墳の例は，かなりの数のモモを木製容器に入れて石棺の近くに置いたものと復元されており，鬼気（邪気）を祓う目的で置かれたものとされている（河上 1987）。法隆寺の五重塔の例では人骨片，布片，紙片，経巻の心木，銅版，木炭等とともに封入されていた。金堂の例では，核の状態になったものを封入したものとみられている（大山 1994）。

(3) モモ核の特徴と利用の可能性

法隆寺金堂の例をみると，モモのとりわけ核とよばれる部分自体にも霊力が存在すると考えられることがあったようである。しかし，核の部分が遺跡から数多く検出されるのは，言うまでもなく遺存しやすく，検出しやすいことによっており，過大評価につながる危険がある。

モモ核は，現在に至るまで様々に利用されている。漢方薬，顔料，脱臭等の吸収剤などである。顔料は，

「ピーチブラック」あるいは「桃核炭」とよばれるもので，現在は植物炭の黒色顔料全般に使われる名称だが，もとは桃の核を燃焼させたものという。吸収剤は，ヤシ殻やコーヒー殻などとともに良質の活性炭の製作に使われるものである。いずれも，きわめて緻密な性質を活かしたもののようである。具体的な根拠を示すことはできないが，モモ核は緻密な構造のためきわめて燃え尽きにくいようである。したがって，ほかのほとんどのものが燃えて小片になってしまっても，最後に燃え残る確率が高かった可能性がある。実の部分や枝などは，使用されても検出できない可能性が高い。しかしながら，儀礼等にモモの果実を利用できるのは春の一時期に限られるのであるから，春以外には保管しておいた核を使うことになるのではないだろうか。このあと述べるように，当遺跡の例では地鎮のような，必ずしも時季を選ばない儀礼が想定できる。出土した核の形状やサイズの個体差が大きい（第677図写真）ことも，核があらかじめ用意されたことを裏付ける情報といえるかもしれない。

4　モモ核と赤彩土器の意味

これまでみてきたように，モモと赤彩土器は，建物群創設に先立つ整地が行われた時期の前後に，SI－013付近でなんらかの祭祀・儀礼が行われ，その後付近の窪みに廃棄されたか，落ち込んだものと推定される。さらに，整地範囲内に存在した廃屋の窪みにも，整地行為に伴って赤彩土器の破片が流入した可能性がある。その場所は，中心的な家屋とみられた大形の竪穴住居跡が廃絶され，新たに建築された建物群に南面する前庭ともいうべき特別な位置といえる。以上の諸点から想起されるのは，建物群の創設にあたって行われた祭祀・儀礼である。祭祀・儀礼の内容は，モモを用いている点からみれば鬼気を鎮めるための地鎮めが想定され，中心的な竪穴住居跡を廃絶していることからすれば，あるいは祖先・祖霊に対する鎮謝・慰霊の意味が込められた可能性も考えられる。モモ核は，このような祭祀・儀礼において，神々に神饌として供えられたか，または鎮め物とされた可能性が考えやすい。出土状況は意識的に埋められた状況ではなく，前者の考えのほうが有力かもしれない。このような推定が許されるならば，赤彩土師器や須恵器の坏は神饌を供えるために使われたか，または饗宴に使われた食材を盛り付けた可能性などが考えられる。赤い食器自体も鬼気を除ける効果をもつものとして意識されたことは十分考えられる。そのほか，SI－013で数多く出土した鉄鏃・刀子やヘラ書き・線刻をもつ土師器も祭祀・儀礼に関わる可能性がある。

赤彩した杯が多いのは当遺跡に限らず，この時期に特徴的な傾向といえ，その存在のみから祭祀を想起するのは誤りであろう。しかし，本例のモモ核と赤彩土器がともに集中して出土した点，遺物を含まないで埋まりかけた竪穴の窪みに赤彩土器片のみが入り込んだ例の存在など，特殊性は否定できない。むしろ，赤彩土器の多出をこの時期の一般的な特徴と片付けてしまう前に，この時期に多いことになんらかの意味を見出すことができないか，可能性を検討すべきであろう。

古墳時代のモモ核出土例は，古代の道教・陰陽道祭祀に先立って，道教や神仙思想に由来する祭祀・儀礼・信仰が民間に広がっていた可能性を示すものである。本例がモモへの信仰を物語るものであるかどうかは確かではない。単に美味しい果物として春の饗宴に供されたのではないか，という疑問も残る。また，当遺跡の祭祀・儀礼に関わる資料は明らかに時間幅をもっており，建物群創設以前から，この周辺で繰り返し祭祀・儀礼が行われたとみるべきである。しかし，モモが使われたのがたった１回のことであったとしても，それが建物群創設に関わる整地直前である可能性が高い点を重視したい。本例は，モモ信仰の存在や地鎮儀礼を検討しうる貴重な資料といえるだろう。

文献

大山真充　1994「桃」『考古学と信仰』　同志社大学考古学シリーズ刊行会

大谷弘幸　2002「モモ核の出土状況と祭祀行為」『研究紀要23』　千葉県文化財センター

河上邦彦　1987「古墳時代人の心を観る」『日本の古代13　心のなかの宇宙』　中央公論社

森田安彦　2001「桃　その１」「桃　その２」「江南町の文化財」　WEBサイト．文化財覚書埼玉県江南町教育委員会

第7章　ま　と　め

縄文時代のまとめについては，第２章で記述しているため，ここでは省略する。また，中・近世及びその他の遺構・遺物についても，第５章第１節でその概要を記述したので，同様に省略する。

さて，小屋ノ内遺跡については，その地形からおおまかに４地区の区分をして報告してきたが，ここであらためて区分を考えてみる。第４図に示した地区は，おおむね周囲から入る支谷によって区分したものである。このうち東部地区は南北に長いため，本章では北東部，東部に分離して記述を進める。もちろん，地続きであることからその境は画然としたものではない。また，北方の稲荷塚遺跡とも地続きであることから，稲荷塚遺跡との関連も考えられる。さらに最も東方の部分は馬場遺跡側の台地である。なお，北東部はほぼ平成12・14・15年度調査区と重なる。次回報告予定であり，本書には収録していない。

西部地区については，区分に変更はないが，北側の地域を含むことから，本章では北西部とする。

中央部は他の地区と地続きであり，とくに地形的には南部と最も区分しがたい。しかし，時代によっては北西部からくくった方がよい場合もあり，ここでも各地区の中間地帯として，設定しておく。

なお，当然のことであるが，各地区の遺構群どうしに関わりがある場合が考えられる。また，調査対象外である南部と東部間の支谷緩斜面に多くの竪穴住居跡が存在するならば，区分自体にも再考の余地がある。

一方で，各地区内をさらに区分することが可能である。南部の遺構群はその中央の南北に若干の空白地帯があり，東西の２群に分けることが妥当である。また，同様に北西部もおおまかであるが南北の２群に分けられる。

次に，弥生時代から平安時代の遺構について，概観したい。

弥生時代～古墳時代前期　検出された遺構は，竪穴住居跡35棟，壺棺墓１基，土坑１基である。竪穴住居跡は，四街道市調査分が１棟あるが[1]，SI－206と同一遺構と思われるため，棟数に変化はない。竪穴住居跡の遺構分布は北西部に多い。SI－114Aが中央部に近いが，北西部に含めると19棟であり，過半数を占める。北西部には調査範囲外があり，北西から南東方向の現道路部分にも存在したことが考えられるので，実数はより増えると予想できる。

北西部以外では南部に11棟あって，比較的まとまっている。とくに南部の東側では，台地縁辺に沿って，南北方向に一列状に位置している。台地中央側には分布がみられず，森林の存在や畑地等の別の土地利用が考えられる。南部の西側に位置する竪穴住居跡のうち，SI－068・SI－103も比較的台地縁に近い位置にあり，同様の占地傾向がうかがえる。なお，より内側に位置するSI－084は古墳時代中期の鍛冶工房でもあり，古墳時代前期の竪穴住居跡のなかでは最も新しい時期のものである。

その他の地区の分布は少なく，中央部に１棟，東部に４棟の所在である。この場合，中央に位置するSI－116については北西部に含めることが妥当である。東部の４棟は北側に比較的まとまった状態で立地している。

壺棺墓のSK－309は西部の最も北側に位置する。弥生時代後期の遺構である。東関東の再葬墓は浅いところで発見される場合が通例である。表土から若干の掘込みをして土器を据えた後に埋め戻されるが，土

第681図　弥生時代～古墳時代前期遺構分布図

で覆われた上部が表土より高い場合も考えられるという[2]。本遺構も確認面からの掘込みが非常に浅く，重機による遺物発見により，その存在を確認したという状況である。したがって，周囲に同様の遺構が存在した可能性が高い。

土坑SK－171は南部西側の南縁辺に位置する。古墳時代前期の遺構である。

弥生時代～古墳時代前期の遺構を時期的に概観すると，南部東側では，弥生時代後期のものが多いのに対し，西側には弥生時代のものがみられず，対照的な状況である。北西部は弥生時代後期の遺構が多いが，南側でやや古墳時代初頭～前期の竪穴住居跡が目立つ。南部地区のあり方と似通っており，両地区間の支谷の開発が進んだ状況を反映している可能性がある。東部は当該期の遺構が少ないが，弥生時代後期の竪穴住居跡が卓越する。

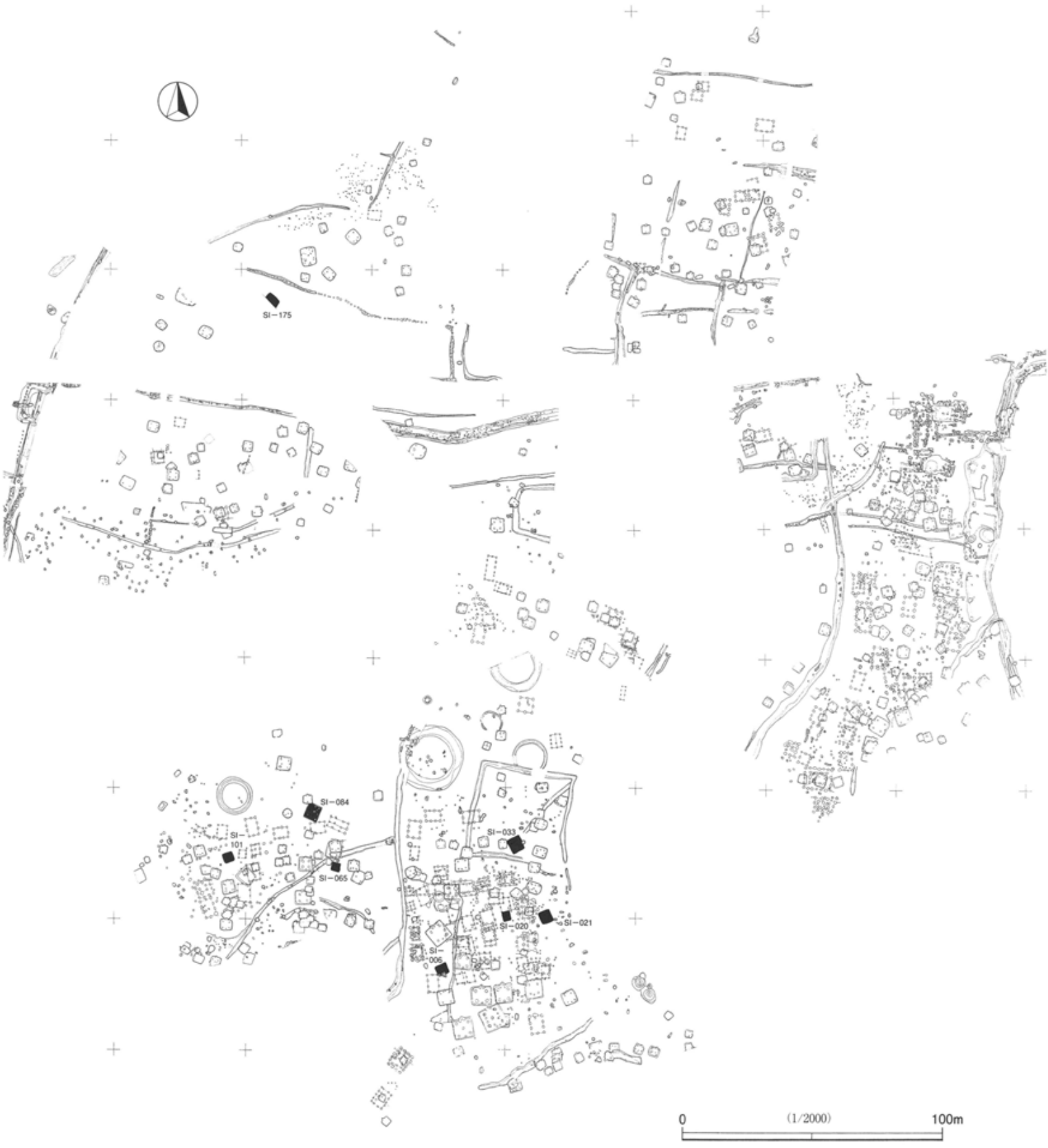
古墳時代中期　検出された遺構は，竪穴住居跡７棟，鍛冶工房の竪穴建物１棟である。なおSI－084については，前期の住居で１棟，中期の工房で１棟と数えている。当該期の遺構は，北西部に１棟存在するほかは，南部に分布している。北西部のSI－175については，出土遺物から古墳時代中期の遺構としたが，竪穴が1/2強の遺存であり，中期の遺構と断定できるか若干の懸念がある。遺構の分布は中央部と東部にはみられず，北東部にも存在しないようである。したがって古墳時代中期の遺構は，薄い分布で南部を主体とするものといえる。南部の竪穴住居跡は東側地域に４棟，西側地域に３棟所在する。その分布をみると，弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡の立地よりも，台地の内側に立地する傾向がうかがえる。

古墳時代中期の遺構のなかでも，鍛冶工房の竪穴建物であるSI－084は，類例が少なく，注目される遺構である。第１章でも触れたが，周辺の遺跡のうち，四街道市和良比に所在する中山遺跡で，同様の遺構が検出されている[3]。また，前期に溯るが，小屋ノ内遺跡の南方に位置する川戸下遺跡では，ガラス玉鋳型が出土しており[4]，類似の生産遺構として，技術や文化の伝播に注意する必要がある。中山遺跡・川戸下遺跡は鹿島川の支流である小名木川によって開析された支谷を臨む台地上に立地する。小屋ノ内遺跡とともに，鹿島川水系の遺跡群である。

古墳時代初頭から中期の鍛冶工房・製鉄関連遺跡は，八千代市沖塚遺跡・海上町岩井安町遺跡・千葉市鎌取遺跡・同市有吉北貝塚など，千葉県内のいくつかの遺跡で類例がある。古墳時代の鉄生産について考察した萩原恭一氏によれば，それらのうち，岩井安町遺跡と沖塚遺跡は突出して古く，ほかの遺跡は両遺跡からはかなりの空白期間を置いた５世紀代のものであるという[5]。５世紀における鍛冶工程の鉄生産遺跡は関東地方全域で検出されており，小屋ノ内遺跡のSI－084も，そのような汎関東的な動態のなかで考察されるべき遺構である。

古墳時代後期　本章で述べる古墳時代後期は７世紀末頃まで含むものとする。したがって，本章では飛鳥・藤原期をここに含める。第３章第３節で報告した古墳時代後期の竪穴住居跡は11棟である。このうち，SI－070には出土遺物がなく，遺構の様相とあわせてみても，古墳時代後期の遺構とする根拠がない。むしろ本遺跡の遺構量からすれば，奈良・平安時代の遺構とする方が妥当であろう。しかし，その確実な根拠もないことから，前章までの記載を変更しないこととする。ただし，ここではSI－070を除いてみていく。したがって，古墳時代後期の確実な竪穴住居跡は10棟である。

竪穴住居跡の分布は古墳時代中期と似ており，北西部に１棟存在するほかは，南部に９棟所在する。南部での分布は，東側地域に７棟，西側地域に２棟であり，遺構数は東側地域が卓越している。東側地域の竪穴住居跡は東側地域の中央寄りから南側に分布し，南方の支谷と行き来しやすいところに位置している



第682図　古墳時代中期遺構分布図

第683図　古墳時代後期遺構分布図

といえる。西側地域の２棟は，その西側に位置し，西方から南方の支谷への動線が考えられる。

竪穴住居跡の時期をみると，古墳時代後期でも後半であり，前半に遡るものはない。歴年代を想定すれば，６世紀後葉から７世紀代と思われ，６世紀中葉以前のものは存在しないようである。古墳時代中期の遺構からは１世紀以上の空白があり，集落はいったん断絶している。なお，断絶前後の集落には直接の系譜関係がないことも考えられる。

小屋ノ内遺跡では，古墳も検出されている。SX－001・SX－007・SX－009の３基は，古墳時代後期の円墳である。また，SX－018は出土遺物が僅少であるが，比較的規模が大きいため，古墳時代後期の円墳と思われる。他に円形の周溝状遺構（SX－005・SX－008）が２基ある。小規模で遺物も僅少のため，時代や性格にやや不安がある。しかし，以上の古墳の近くに位置するため，群中の古墳としておきたい。したがって，古墳時代後期の円墳は６基である。その他に，方形の周溝状遺構も１基見つかっている（SX－017）。７世紀代から奈良・平安時代の区画墓の可能性があると思われる。

より詳細に築造時期をみると，SX－001・SX－007・SX－009の３基は，出土した土師器から古墳時代後期前半，歴年代では６世紀前半と思われる。なお，SX－001出土の須恵器横瓶・大甕の時期は古墳時代後期後半，歴年代ではおそらく７世紀代と思われる。それらの須恵器は追葬または築造後の墓前祭祀に伴うものと考える。古墳群の築造時期をこのようにみると，古墳時代中期集落と後期集落との断絶期間に，築造されたことが理解できる。したがって，古墳の築造が開始された頃の小屋ノ内遺跡は墓域であり，居住域は存在しない。

奈良・平安時代　今回報告する遺構は，竪穴住居跡236棟，掘立柱建物跡125棟，土坑墓４基，大型円形土坑２基，土坑14基である。なお，次回報告分の竪穴住居跡は37棟，掘立柱建物跡は12棟である。また，四街道市調査分の竪穴住居跡が10棟，掘立柱建物跡が５棟あり[6]，小屋ノ内遺跡において調査された竪穴住居跡は計283棟，掘立柱建物跡142棟である。

なお，小屋ノ内遺跡の範囲内では，中央部等に調査対象外地域があり，それらにも遺構の存在が予想される。また，中央部・南部と東部間の緩斜面および北西部南側斜面の調査区外にも若干の分布が予想される。他遺構との重複等により，失われた遺構もあると考えられるので，遺構の数量は上記の記述を上回ることが確実である。また，地続きである稲荷塚遺跡との関係も問題となるところである。

遺構の総量はより増加すると考えられるものの，小屋ノ内遺跡・稲荷塚遺跡については，地形によって区切られた台地のほぼ全域を調査している点で，今後の奈良・平安時代集落研究のモデルとなる遺跡群に数えられると考える。

南部最南端に位置するSB－060・SB－061・SB－070およびSI－075は，遺構の様相や出土遺物から，仏堂および仏堂と関係のある竪穴建物と考えられる。SB－061はSB－070の中に全体が収まっている。四面廂建物とも思われるが，やや柱筋がぶれることと柱穴の様相から，両者は建て替えの関係にあると思われる。SB－060付近からは瓦塔片が１点出土している。また，香炉蓋が出土しているSI－075は僧侶の住まいと考えられる。SI－075の出土遺物から，仏堂は９世紀前葉頃には，存在していたと考える。

４基の土坑墓はいずれも有天井のものである。良好な出土遺物がないため，時期が判然としないが，古代の土坑墓と考えられる。大型円形土坑については，第４章第４節で記述したように，井戸状遺構説と氷室または氷室を含めた室状遺構説の２説がある。どちらか断定しがたいため，本書では大型円形土坑とした。

14基の土坑は，出土遺物や遺構の様相から，奈良・平安時代の遺構としたものである。性格は概して判然としないが，土坑墓と思われるもの（SK－316）や祭祀遺構と思われるもの（SK－400）がある。

SB－060付近から出土した瓦塔片を含めて，本遺跡からは４～５個体の瓦塔片が出土している。なかでも，中央部と北西部の境付近から出土した１個体は，時期が８世紀中葉～後葉であり，比較的古いものである。

土器様相については，須恵器の様相から大きく３期に区分した。その特徴を端的に述べると，Ⅰ期は須恵器がほぼ新治窯産のもので占められる土器群の時期，Ⅱ期は新治窯産須恵器と千葉産須恵器が混在する土器群の時期，Ⅲ期は千葉産須恵器が主体である土器群の時期である。なお，ここでいう千葉産の須恵器とは，千葉市域および周辺地域の窯で焼成された須恵器で，色調は灰色に加えて黒み，赤み，黄色みを帯びるものが多く，軟質でややざらつく質感のものである。市原市永山・不入窯跡群等の須恵器は含めない。

Ⅰ期は２期に小区分した。Ⅰ－１期は非ロクロの土師器杯が主体であるのに対し，Ⅰ－２期はロクロ土師器杯の増加が目立つ。また，Ⅲ期も４期に小区分し，Ⅲ－１・２期は千葉産須恵器の隆盛期，Ⅲ－３期は衰退期，Ⅲ－４期は消滅期である。Ⅲ－１期とⅢ－２期の区分は，土師器杯の口径に対する底径の縮小度合いを目安とした。

以上の土器様相に基づき，遺構群の時期区分を行った。各期を時代区分にあてはめるならば，Ⅰ期は奈良時代中頃から後半，Ⅱ期は奈良時代末から平安時代初頭，Ⅲ期は平安時代前期と考える。

注１　川端弘士　1990「物井小屋ノ内遺跡調査略報」『四街道市の文化財』第16号　四街道市教育委員会

２　加藤修司氏の教示による。

３　澁谷興平他　1987『四街道市四街道南土地区画整理事業地内発掘調査報告書』（財印旛郡市文化財センター

阿部寿彦　2003「第Ⅱ部資料　第２章　古墳時代　259　中山遺跡」『千葉県の歴史　資料編　考古２（弥生・古墳時代）』　千葉県

４　新井和之他　1982『北総線』　東京電力北総線遺跡調査会

大久保奈々　2004「第Ⅱ部資料　第２章　遺跡・遺構と遺物　第４節古墳時代（13）装身具」『千葉県の歴史資料編　考古４（遺跡・遺構・遺物）』　千葉県

５　萩原恭一　2004「第Ⅱ部資料　第２章　遺跡・遺構と遺物　第４節古墳時代（3）鉄の生産と鉄器の製作」『千葉県の歴史　資料編　考古４（遺跡・遺構・遺物）』　千葉県

萩原恭一　2001「八千代市沖塚遺跡の再検討」『千葉県史研究』第９号　千葉県

６　注１に同じ。

第14表　竪穴住居跡観察表

（　）は推定値

遺構No.	時代	時期小区分	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸方位	形状	火所	火所位置	主柱	出入口	貯蔵穴数	貯蔵穴位置	面積 上面形(㎡)	面積 床面(㎡)	面積 柱穴間(㎡)	備考	位置グリッド
SI-001	奈・平	Ⅰ-1	3.6	3.9	40	N82° W	方形	カマド	W	4	1	1	NW	14.17	12.85	4.00		19R－66
SI-002	奈・平	Ⅰ-2	7.8	7.6	48	N11° W	方形	カマド	NNW	4	1	2	NE	60.54	56.15	21.55		19U－86
SI-003	古墳	後期	5.8	6.0	45	N17° W	方形	カマド	NNW	4	0	1	NE	34.62	32.00	10.56		19U－65
SI-004	奈・平	Ⅰ-1	9.1	8.9	57	N35° W	方形	カマド	NNW	8	1	2	N. 中央	80.55	76.00	26.97		19U－88
SI-005	奈・平	Ⅱ	5.2	4.9	58	N6° W	方形	カマド	NNW	4	0	0	－	(25.10)	(22.40)	8.48		19U－79
SI-006	古墳	中期	4.6	4.2	27	N114° W	方形	－	－	0	0	1	W	19.01	17.30	－		19U－45
SI-007	古墳	後期	7.4	7.5	40	N44° W	方形	カマド	NW	4	1	1	NE	56.37	52.96	18.16		19U－14
SI-008	奈・平	?	3.2	2.9	18	N85° E	不整形	カマド	E	0	0	0	－	9.44	8.29	－		19T－75
SI-009	奈・平	Ⅲ-3	2.8	2.5	8	N14° E	方形	カマド	NE	0	0	0	－	(7.20)	(6.20)	－		19T－63
SI-010	奈・平	?	4.1	3.6	16	N	不整形	－	－	0	0	0	－	(14.90)	(13.00)	－		19T－63
SI-011	奈・平	Ⅲ?	5.2	4.3	28	－	円形	－	－	0	0	0	－	16.00	13.79	－		19T－63
SI-012	古墳	後期	4.9	5.1	45	N6° W	方形	カマド	NE	4	1	1	E	24.93	22.68	7.29		19T－66
SI-013	奈・平	Ⅰ-2	7.0	7.7	75	N2° W	方形	カマド	N	4	1	1	W	54.35	47.72	14.38		19U－68
SI-014	奈・平	Ⅱ	7.0	7.0	60	N5° W	方形	カマド	N	4	1	0	－	48.93	43.53	14.10		19U－59
SI-015	奈・平	Ⅲ-1	6.1	5.9	65	N2° E	方形	カマド	N	4	1	0	－	36.09	29.98	8.50		19U－36
SI-016	奈・平	Ⅲ-1	3.2	3.8	47	N1° W	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	－	11.64	9.93	－		20U－41
SI-017	古墳	後期	6.9	6.6	55	N8° W	方形	カマド	N	4	1	1	N	46.12	43.49	10.57		20U－52
SI-018	奈・平	Ⅲ-1	3.9	3.7	58	N2° W	方形	カマド	N	0	1	0	－	14.41	11.38	－		19U－39
SI-019	奈・平	Ⅲ-1	3.4	3.5	26	N	方形	カマド	N	0	0	0	－	12.05	10.20	－		20U－12
SI-020	古墳	中期	3.0	3.6	11	N103° W	長方形	炉	中央S	0	0	0	－	11.25	10.65	－		20T－90
SI-021	古墳	中期	4.8	5.1	61	N110W	方形	炉	中央NW	4	0	1	SW	23.25	21.17	－		20T－91
SI-022	弥生	後期	5.9	4.5	51	N69° W	隅丸長方形	炉	中央W	4	0	0	－	(24.10)	(21.30)	8.40		20T－72
SI-024	弥生	後期?	3.5	3.2	41	N88° W	隅丸長方形	炉	中央W	0	0	0	－	10.58	9.16	－		20T－91
SI-025	奈・平	Ⅲ-2	3.8	3.4	25	－	方形	－	－	0	0	0	－	12.36	10.80	－		19T－96
SI-026	古墳	後期	6.0	5.6	48	N2° W	方形	カマド	N	4	1	0	－	33.01	30.01	9.54		19T－86
SI-027	弥生		4.3	3.7	47	N46° W	隅丸長方形	炉	中央S	0	0	0	－	(14.80)	(13.20)	－		20T－81
SI-028	奈・平	Ⅲ-1	3.5	3.9	37	N	方形	カマド	N	4	1	0	－	14.36	12.27	8.43		19T－89
SI-029	奈・平	Ⅲ-1	2.4	2.6	40	N26° E	隅丸方形	カマド	NE	0	0	0	－	(6.00)	(4.96)	－		20U－21
SI-030	奈・平	Ⅲ-2	4.4	4.3	25	N10° E	隅丸方形	カマド	N	4	0	0	－	18.57	17.07	6.13		19T－57
SI-031	奈・平	Ⅰ-2	3.9	4.0	47	N7° W	方形	カマド	N	4	1	0	－	15.75	13.86	3.97		19T－48
SI-032	奈・平	Ⅲ-2	3.6	3.4	15	N5° W	方形	カマド	N	2	1	0	－	11.52	10.43	－		19T－49
SI-033	古墳	中期	5.7	5.2	30	N24° W	方形	炉	中央W	4	0	0	－	(29.36)	(26.40)	7.62		20T－41
SI-034	古墳	前期?	4.8	3.9	42	N80° W	隅丸長方形	炉	中央W	4	1	0	－	17.59	(15.40)	4.57		20T－62
SI-035	奈・平	Ⅲ-1	3.1	3.3	34	N20° E	方形	カマド	NE	4	1	0	－	10.44	8.83	－		19T－46
SI-036	奈・平	Ⅲ-3	3.2	3.4	18	N2° W	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	－	10.48	9.59	－		19T－45
SI-037	奈・平	Ⅲ-3	3.0	3.0	6	N65° W	隅丸方形	カマド	NW	0	0	0	－	8.50	7.55	－		20T－00
SI-038	奈・平	Ⅲ-3	2.9	3.1	24	N10° E	方形	カマド	N	0	1	0	－	9.04	7.90	－		19S－99
SI-039	奈・平	Ⅰ-2	3.2	3.0	43	－	隅丸方形	カマド	NE隅	4	0	0	－	8.76	6.94	1.32		19S－68
SI-040	奈・平	Ⅱ	3.7	3.9	41	－	方形	カマド	隅NW	0	0	0	－	14.12	11.82	－		19S－69
SI-041	奈・平	Ⅲ-4	2.9	3.0	12	N22° W	方形	カマド	N	0	0	0	－	9.02	7.43	－		20S－40
SI-042	奈・平	Ⅲ-4	2.7	3.6	8	N27° E	長方形	カマド	NE	0	0	0	－	(9.90)	(8.20)	－		20S－75
SI-043 建て替え後	奈・平	Ⅲ-2	3.7	4.1	40	N11° E	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	－	14.92	12.97	－		23Q－60
SI-043 建て替え前	奈・平		3.6	3.3	40	N11° E	－	カマド	N	－	－	－	－	11.69	10.72	－		23Q－60
SI-044	奈・平	Ⅲ-1	4.1	4.1	60	N8° E	隅丸方形	カマド	N	4	1	0	－	16.74	14.74	4.68		23Q－82
SI-045	奈・平	?	3.4	4.2	60	N13° W	方形	カマド?	N	4	0	0	－	(13.70)	(12.50)	3.51		23Q－82
SI-046	弥生		5.2	3.9	42	N25° W	隅丸長方形	炉	中央N	4	1	0	－	19.02	17.33	4.54		23Q－71
SI-47A	奈・平	Ⅲ-2	3.3	3.3	35	N10° W	方形	カマド	N	0	0	0	－	21.24		－		23Q－72
SI-47A														(10.06)	(9.70)			
SI-47B	奈・平	Ⅰ-2	4.6	4.6	49	N11° W	方形	カマド	N	4	1	0	－	21.60	19.58	6.40		23Q－72
SI-048	奈・平	Ⅲ-2	3.6	3.8	34	N108° E	隅丸方形	カマド	SE	4	1	0	－	(13.50)	(12.10)	3.93		23Q－81
SI-049	弥生	後期	4.5	4.0	46	N43° W	隅丸長方形	炉	中央NW	4	1	1	SE	16.82	14.32	4.36		22Q－37
SI-050	奈・平	Ⅲ-1	3.9	4.1	61	N83° W	方形	炉	W	0	1	2	W	16.00	13.07	－		22Q－88
SI-051	奈・平	Ⅲ-2	2.6	3.1	33	N44° W	方形	カマド	NW	0	0	0	－	(8.30)	(6.40)	－		22Q－76
SI-052	奈・平	Ⅲ-1	3.6	3.4	12	N23° E	方形	－	－	3	1	0	－	外(12.6)	外(11.7)	－		22Q－43
SI-052														内(10.7)	内(9.7)			
SI-053	奈・平	Ⅲ-2	3.0	3.5	49	N2° W	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	－	10.45	8.58	－		22Q－31
SI-054	奈・平	Ⅲ-1	4.6	4.4	65	N14° W	隅丸方形	カマド	N	4	1	0	－	19.86	16.84	4.07		22Q－42
SI-055	奈・平	Ⅲ-3	3.2	－	16	N120° E	隅丸方形	カマド	SE	4	1	0	－	(12.60)	(11.50)	3.15		22Q－62
SI-056	奈・平	Ⅲ-2	4.5	4.2	21	N75° E	隅丸方形	カマド	E	5	1	0	－	18.61	17.23	－		22Q－61
SI-057	奈・平	Ⅲ?	－	－	40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		22Q－34
SI-058	奈・平	?	－	－	14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		22Q－34
SI-059	奈・平	Ⅰ	4.5	4.5	46	N19° W	方形	カマド	N	4	1	0	－	20.52	18.49	5.48		21Q－38
SI-060	奈・平	Ⅲ-1	4.0	4.4	57	N2° W	隅丸方形	カマド	N	4	1	1	N	18.00	15.50	4.12		21Q－29
SI-061	奈・平	Ⅲ-2	5.0	－	40	N16° W	方形	?	－	2	0	0	－	(27.20)	(23.20)	－		21Q－58
SI-062	奈・平	Ⅲ-4	4.1	3.8	32	N24° E	方形	カマド	NE	0	1	1	SW	15.57	13.86	－		20T－04

遺構No.	時代	時期小区分	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸方位	形状	火所	火所位置	主柱	出入口	貯蔵穴数	貯蔵穴位置	面積 上面形(㎡)	面積 床面(㎡)	面積 柱穴間(㎡)	備考	位置グリッド
SI-063	奈・平	Ⅱ	4.0	3.8	45	N22° E	方形	カマド2	N, E	0	0	0	−	15.69	12.88	3.44		18U − 08
SI-064	奈・平	Ⅲ-3	3.7	3.7	50	N8° E	方形	カマド	N	0	0	0	−	13.32	11.24	3.67		18U − 09
SI-065	古墳	5C初中期	3.5	3.4	30	N77° W	方形	炉	W	0	1	1	SW	11.52	10.62	−		18T − 66
SI-066	弥〜古		4.6	3.9	35	S 83° W	隅丸長方形	炉	中央・W	4	1	0	−	17.20	15.47	4.82		20S − 93
SI-067	奈・平	Ⅱ	4.3	4.5	62	N	方形	カマド	N	4	1	0	−	19.55	17.77			18T − 58
SI-068	古墳	5C	4.5	4.8	20	N70° W	方形	炉	W	4	1	0	−	(21.40)	(20.20)	7.13		18T − 68
SI-069	奈・平	?	2.6	2.9	30	N8° W	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	7.46	6.38	−		18T − 89
SI-070	古墳	後期	−	3.2	42	N2° W	方形?	カマド	N	−	−	−	−	−	−	−		18T − 98
SI-071	奈・平	Ⅲ-4	3.7	3.5	21	N6° W	方形	カマド	N	0	0	1	SE	12.96	10.87	−		19T − 00
SI-072	奈・平	Ⅲ-2	3.8	−	62	N6° E	方形	カマド	N	0	0	0	−	(14.80)	(12.90)	−		20T − 12
SI-073	奈・平	Ⅰ〜Ⅱ	3.4	3.3	36	N78° W	隅丸方形	カマド	W	0	0	0	−	(11.00)	(9.40)	−		20T − 22
SI-074	弥生		4.7	3.8	56	N76° W	隅丸長方形	炉	W	4	1	0	−	16.55	15.13	4.22		20T − 22
SI-075	奈・平	Ⅲ-1	3.1	3.2	49	N51° W	隅丸方形	カマド	NW	0	0	0	−	9.89	8.24	−		19V − 50
SI-076	古墳	後期	5.2	5.2	46	N26° W	方形	カマド	NW	4	1	1	NW	26.80	24.29	7.10		20U − 54
SI-077	奈・平	?	3.1	3.0	7	N78° W	方形	カマド	W	−	0	0	−	9.41	8.34	−		19U − 84
SI-078	古墳	後期	3.4	3.7	42	N22° W	方形	炉 カマド	中央	0	0	0	−	12.05	9.40	−		19U − 06
SI-079	奈・平	?	2.7	2.7	34	−	隅丸方形	−	−	0	0	0	−	6.76	5.37	−		19V − 30
SI-080	奈・平	Ⅱ	3.4	3.7	27	N24° W	方形	カマド	NW	0	0	0	−	13.19	11.62	−		20V − 03
SI-081	奈・平	Ⅱ	3.5	3.6	20	N90° W	方形	カマド	W	4	−	0	−	(12.70)	(11.20)	3.30		20V − 03
SI-082	奈・平	Ⅲ-2	3.8	3.4	81	N121° W	不整形	カマド2	NW・SW	0	0	0	−	11.65	9.85	−	新カマドの方向からの主軸方位	20V − 12
SI-082						N31° W											旧カマドの方からの主軸方位	
SI-083	奈・平	Ⅱ	4.4	4.8	59	N4° W	隅丸方形	カマド	N	4	1	0	−	20.92	18.86	4.84		18T − 46
SI-084	古墳	前期	6.2	5.7	51	N23° E	方形	炉2	NE	4	0	0	−	35.44	31.41	9.18		18T − 25
SI-085	奈・平	Ⅲ-2	3.2	3.6	30	N12° E	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	11.49	10.01	−		18T − 34
SI-086	奈・平	Ⅲ-1	3.4	3.7	39	N2° W	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	11.83	10.02	−		18T − 04
SI-087	奈・平	Ⅲ-3〜4	2.0	2.2	19	N97° E	隅丸方形	カマド2	N・E	0	0	0	−	(4.60)	(3.70)	−		18T − 56
SI-088	奈・平	Ⅰ〜Ⅱ	5.2	5.3	55	N	隅丸方形	カマド	N	4	1	0	−	27.44	23.84	5.82		18T − 54
SI-089	奈・平	Ⅲ-2	3.2	3.3	56	N103° W	隅丸方形	カマド2	N・W	0	1	0	−	11.18	8.56	−		18T − 63
SI-090	奈・平	Ⅰ-1	3.2	3.2	50	N	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	(11.00)	(9.60)	−		18T − 53
SI-091	奈・平	Ⅲ-1	3.1	3.2	48	N	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	9.84	8.92	−		18T − 52
SI-092	奈・平	Ⅲ-1	3.2	3.7	43	N111° W	方形	カマド	W	0	0	0	−	12.09	9.85	−		20V − 13
SI-093	奈・平	Ⅰ〜Ⅱ	5.7	5.7	34	N13° E	方形	−	−	4	1	0	−	(32.00)	(29.80)	7.37		18T − 56
SI-094	奈・平	?	2.7	−	25	−	隅丸方形	−	−	−	−	0	−	(7.34)	(6.30)	−		20V − 03
SI-095	奈・平	Ⅱ	5.3	4.9	66	N13° W	方形	カマド	N	4	1	0	−	27.18	24.40	8.55		17T − 78
SI-096	奈・平	Ⅲ-1	3.1	2.7	46	N100° E	隅丸方形	カマド	E	0	0	0	−	8.27	7.45	−		19T − 99
SI-097	奈・平	?	−	5.0	45	−	隅丸方形	−	−	2	0	0	−	(24.50)	(21.50)	−		20U − 97
SI-098	奈・平	Ⅲ-2	3.5	3.1	105	N24° W	方形	カマド	N	0	0	1	SW	12.05	9.39	−		20V − 05
SI-099	奈・平	?	3.7	4.0	21	N12° W	方形	カマド	N	2	1	0	−	(15.60)	(14.00)	−		17T − 89
SI-100	奈・平	Ⅲ-1	3.0	3.5	69	N5° E	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	10.92	8.47	−		18T − 55
SI-101	古墳	中期	4.1	4.0	53	N107° W	隅丸方形	炉	中央	4	1	0	−	16.10	13.40	5.00		17T − 58
SI-102	奈・平	Ⅲ-4	3.3	3.0	41	N101° E	方形	カマド	E	0	1	0	−	9.37	7.86	−		18T − 75
SI-103	古墳	前期	5.4	5.3	30	N80° W	方形	炉	中央・SW	4	1	1	SE	28.16	25.29	7.31		18S − 83
SI-104	奈・平	Ⅱ	3.0	2.9	39	N19° W	方形	カマド	N	0	1	0	−	8.76	7.45	−		18T − 60
SI-105	奈・平	Ⅲ-3	2.4	−	27	N3° E	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	6.26	4.50	−		18T − 55
SI-106	奈・平?	?	3.0	3.0	53	N23° W	方形	カマド	N	0	1	0	−	8.78	7.59	−		20V − 23
SI-107	奈・平	?	2.0	2.0	18	N15° W	方形	−	−	0	0	0	−	(3.90)	(3.40)	−		18T − 60
SI-108	奈・平	Ⅰ〜Ⅱ	2.5	2.5	68	N52° W	隅丸方形	カマド	NW	0	1	0	−	6.53	5.46	−		19V − 02
SI-109	奈・平	Ⅱ	3.4	3.3	63	N46° E	隅丸方形	カマド	NE	0	0	0	−	10.96	9.40	−		20V − 20
SI-110	奈・平	Ⅱ	4.9	4.0	57	N102° W	不整長方形	カマド	W	7	0	0	−	(17.50)	(14.60)	6.00		20V − 30
SI-111	奈・平	Ⅱ	3.1	3.2	44	N5° E	方形	カマド2	N.W	0	1	0	−	10.09	8.39	−		18T − 42
SI-112	縄文	中期					円形	炉	−	4		0	−	−	−	−		18T − 23
SI-113	奈・平	Ⅲ-3	2.4	2.8	25	N15° E	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	6.90	5.43	−		20Q − 41
SI-114	弥生	後期	6.2	5.5	61	N67° W	小判形	炉	NW	4	1	1	E	(31.10)	(28.70)	9.86		19Q − 33
SI-115	奈・平	Ⅲ-4	3.0	2.9	68	−	隅丸方形	カマド	NE・隅	0	1	0	−	8.67	7.34	−		19Q − 12
SI-116	弥生	後期	3.9	3.1	40	N56° W	不整長方形	炉	NE	0	−	0	−	11.04	9.29	−		20Q − 70
SI-117	奈・平	Ⅲ-2	3.6	3.7	40	N18° E	方形	カマド	N	0	1	0	−	13.86	11.84	−		20R − 66
SI-118	奈・平	Ⅲ-2	3.1	3.3	35	N19° E	方形	カマド	N	0	1	0	−	(12.10)	(10.10)	−		20R − 67
SI-119	奈・平	Ⅲ-2	3.8	3.9	51	N23° E	方形	カマド	N	0	1	1	SW	15.17	12.73	−		20R − 89
SI-120	奈・平	Ⅰ-2	3.8	4.2	53	N11° E	不整形	カマド	N	4	1	0	−	15.65	14.01	4.80		20R − 78
SI-121	奈・平?	Ⅲ-1〜2	−	−	44	−	方形?	−	−	−	−	−	−	−	−	−		20R − 99
SI-122	奈・平	Ⅲ-3	−	3.3	34	N17° E	方形?	−	−	−	1	0	−	−	−	−		20R − 14
SI-123	奈・平	Ⅲ-2	5.4	5.4	51	N4° E	方形	カマド	N	4	1	0	−	29.25	26.48	6.68		19Q − 99
SI-124	奈・平	Ⅲ-4	2.8	2.1	24	N26° E	長方形	カマド	N	1	−	0	−	7.05	(6.10)	−		20S − 92
SI-125	弥生	後期	5.2	4.3	47	N73° W	隅丸長方形	炉	W	4	1	0	−	21.20	19.35	5.19		20T − 42
SI-126	奈・平	Ⅲ-3〜4	3.0	2.6	26	N96° E	隅丸長方形	カマド	E	0	0	0	−	7.55	6.73	−		18T − 74
SI-127	奈・平	Ⅱ	3.1	3.2	79	N83° E	方形	カマド	E	0	0	0	−	10.19	9.10	−		18T − 84

遺構No	時代	時期小区分	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸方位	形状	火所	火所位置	主柱	出入口	貯蔵穴数	貯蔵穴位置	面積上面形(㎡)	面積床面(㎡)	面積柱穴間(㎡)	備考	位置グリッド
SI-128	奈・平	Ⅰ-1	5.5	6.1	71	N	方形	カマド	N	4	0	0	−	34.10	31.25	7.30		18T−84
SI-129A	奈・平	Ⅲ-1	3.9	3.8	54	N8° E	方形	カマド+炉?	N	0	0	0	−	13.19	12.20	−		18U−20
SI-129B	奈・平	Ⅲ-1	3.3	3.4	53	N6° E	隅丸方形	炉	NW	0	0	0	−	(11.00)	(10.00)	−		
SI-130	奈・平	Ⅲ-4	3.6	3.5	59	N35° E	方形	カマド	N	0	0	0	−	13.58	12.24	−		17U−29
SI-131	奈・平	Ⅲ-4	3.1	3.0	40	N99° E	隅丸方形	カマド	E	0	0	0	−	8.70	7.26	−		21U−84
SI-132	奈・平	Ⅲ-1	3.6	4.2	92	N22° E	隅丸方形	カマド	NE	2	0	0	−	14.77	11.02	−		21V−01
SI-133	奈・平	Ⅲ-1	3.7	3.7	77	N87° W	方形	カマド	W	4	1	0	−	(13.50)	(11.30)	2.06		20U−98
SI-134	奈・平	Ⅰ-2	2.9	−	67	N88° E	方形	カマド	E・隅	0	0	0	−	(8.60)	(6.60)	−		21U−94
SI-135	奈・平	Ⅲ-3	3.0	3.1	24	N42° E	方形	カマド	NE	0	0	0	−	9.16	7.83	−		21U−72
SI-137	奈・平	Ⅲ-1	3.8	3.7	94	N68° W	方形	カマド2	NE, W	0	2	1	NE	13.34	10.52	−	建て替え前の主軸方向	21U−90
SI-137	奈・平					N22° E											建て替え後の主軸方向	
SI-138	奈・平	Ⅲ-2?	2.7	3.0	36	N33° E	方形	カマド	NE	0	1	0	−	8.62	7.45	−		17T−88
SI-139	奈・平	Ⅲ-4	3.5	3.2	38	N52° E	方形	カマド	NE	0	0	0	−	11.66	9.85	−		17T−98
SI-140	奈・平	Ⅲ-1～2?	2.9	3.0	46	N51° E	方形	カマド	NE	0	0	0	−	9.29	7.69	−		17T−98
SI-141	奈・平	?	−	−	0	−	方形	カマド	NE	−	−	−	−		−	−	SI−140の一部?	17T−99
SI-142	奈・平	Ⅱ	4.5	4.7	52	N5° E	方形	カマド	N	4	1	0	−	19.77	17.73	−		17U−08
SI-143	奈・平	Ⅲ-3	3.2	3.5	33	N21° W	方形	カマド	N	0	1	0	−	11.44	9.82	−		17T−55
SI-144	奈・平	Ⅰ-1	3.0	3.0	58	N12° E	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	9.52	8.53	−		17T−43
SI-145	古墳	後期	3.7	3.9	49	N	方形	カマド	N	0	1	0	−	14.21	13.06	−		17T
SI-146	古墳	後期	4.2	4.3	47	N14° W	方形	カマド	N	4	1	0	−	18.42	16.20	4.11		17T
SI-147	奈・平	Ⅲ-1	3.9	4.0	77	N13° E	方形	カマド	N	4	0	0	−	15.20	12.95	3.22		17T−67
SI-148	奈・平	Ⅲ-4	4.0	4.0	31	N60° W	方形	カマド	WN	1	0	0	−	(16.10)	(13.50)	−		17U−26
SI-149	奈・平	Ⅱ	3.9	3.4	39	N69° W	方形	カマド	W	0	0	0	−	12.71	11.05	−		17U−36
SI-150A	奈・平	Ⅲ-4	3.5	2.6	36	N53° W	不整長方形	カマド	W	0	0	0	−	9.88	7.76	−		17U−25
SI-150B	奈・平	Ⅲ-4	2.8	2.9	51	N42° E	方形	カマド	NE	0	0	0	−	(8.10)	(6.10)	−		17U−15
SI-151	奈・平	Ⅲ-3	3.9	4.0	56	N80° W	方形	カマド3	N1, W2	3	0	0	−	14.97	12.56	−	ABのカマドを基軸にした時	17U−37
						N10° E											Cのカマドを基軸にした時	
SI-152	奈・平	Ⅰ?	4.8	4.3	53	N3° W	方形	カマド	N	3	1	1	N	(19.80)	(17.10)	−		18U−03
SI-153	奈・平	Ⅲ-3	3.4	3.4	28	N	方形	カマド	N	0	0	0	−	9.50	8.00	−		18T−94
SI-154	奈・平	Ⅱ	4.1	3.5	53	N94° E	隅丸長方形	カマド	E	0	0	0	−	(14.34)	(11.10)	−		18U−04
SI-155	奈・平	Ⅲ-3	3.0	3.0	30	N1° W	方形	カマド	N	0	0	0	−	(9.30)	(7.50)	−		18V−94
SI-156	奈・平	Ⅲ-2	−	3.0	29	N17° E	方形	カマド	N	0	0	0	−	(8.90)	(7.80)	−		18U−05
SI-157	奈・平	Ⅰ～Ⅱ?	3.2	−	46	N93° E	方形	カマド	E	0	0	0	−	(8.90)	(7.20)	−		18U−06
SI-158	奈・平	Ⅲ-3	−	−	70	N11° W	方形?	カマド	N	−	−	−	−	(20.50)	(16.50)	−		18U−24
SI-159	奈・平	?	2.8	3.7	51	N177° E	方形	カマド	S	0	0	0	−	10.23	7.66	−		18S−62
SI-160	奈・平	?	2.4	2.0	23	N21° W	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	(4.86)	(3.80)	−		17T−52
SI-161	奈・平	Ⅲ-1or2	5.1	3.5	24	N21° W	方形	−	−	0	0	0	−	(26.60)	(24.40)	−		17T−61
SI-162	奈・平	Ⅲ-4	2.3	2.6	23	N13° W	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	5.27	4.54			17S−95
SI-163	奈・平	Ⅲ-1	3.3	3.0	30	N75° W	方形	カマド	W	4	1	0	−	(10.40)	(9.10)	2.51		20P−18
SI-164	奈・平	Ⅲ?	3.1	2.9	29	N72° W	隅丸方形	カマド	W	0	1	0	−	(8.70)	(7.60)	−		20P−18
SI-165	奈・平	Ⅲ-1	3.4	3.3	40	N79° W	方形	カマド2	W, NW隅	4?	1	0	−	11.78	9.34	3.29		20P−17
SI-166	奈・平	Ⅱ	4.3	3.9	35	N32° E	方形	カマド	N	4	1	0	−	(16.20)	(14.40)	4.66		20P−08
SI-167	奈・平	Ⅰ-2	3.3	3.0	55	N9° E	隅丸方形	カマド	N	2	0	0	−	10.27	8.54	−		19O−62
SI-168	弥生		3.7	3.2	50	N19° W	隅丸長方形	炉	N	0	1	0	−	11.55	9.53	−		19O−71
SI-169	奈・平	Ⅰ～Ⅱ	3.1	3.1	37	N12° W	方形	カマド	N	0	1	0	−	9.78	8.73	−		19P−12
SI-170	弥生		5.4	4.9	55	N42° W	隅丸方形	炉1	中央・NW	4	1	1	SE	24.00	21.94	6.23		18O−78
SI-171	弥生		3.8	3.1	51	N16° W	隅丸長方形	炉1	中央・N	0	1	1	S	11.09	9.65	−		18O−67
SI-172	古墳		7.1	5.9	64	N10° W	隅丸長方形	炉1	中央・N	6	1	1	S	40.65	37.74	11.20		18O−85
SI-173	古墳	古墳初	4.8	4.0	43	N47° W	隅丸長方形	炉1	中央・NW	4	1	0	−	18.23	16.48	4.86		18P−06
SI-174	奈・平	Ⅲ-1～3?	3.1	3.4	34	N20° E	方形	カマド	N	0	2	0	−	11.51	9.04	−		18P−04
SI-175	古墳	中期	5.5	3.0	47	N51° W	隅丸方形	炉1	中央・NW	2	0	1	SE	−	−	−		18P
SI-176	古墳	古墳初	3.8	3.5	53	N76° W	隅丸方形	炉1	中央・W	4	1	0	−	12.28	10.47	−		17O−89
SI-177	古墳	後期	3.8	3.7	38	N1° W	方形	カマド	N	4	0	0	−	12.44	10.52	3.50		19O・19P
SI-178	奈・平	Ⅱ	2.9	3.0	40	−	隅丸方形	カマド	NE・隅	0	?	0	−	8.32	6.79	−		19O−04
SI-179	奈・平	Ⅰ-2	2.7	2.5	38	N102° W	隅丸方形	カマド	W	0	0	0	−	6.58	4.71	−		19O−23
SI-180	奈・平	Ⅱ	3.4	3.1	44	N9° W	隅丸方形	カマド	N	0	1?	0	−	9.87	8.51	−		19O−72
SI-181	古墳		8.1	−	70	N7° W	隅丸長方形	炉	中央・W	1	0	0	−	(46.70)	(42.00)	−		17P−25
SI-182	古墳		4.1	3.3	49	N55° W	隅丸長方形	炉	NW	0	0	0	−	12.69	11.30	2.06		17P−43
SI-183	弥生	後期	4.2	4.3	25	N39° W	円形	炉	中央	0	0	0	−	(14.20)	(12.60)	−		17P−52
SI-184	古墳		4.7	4.0	52	N79° W	隅丸長方形	炉	中央・W	4	1	1	E	17.88	15.13	3.52		17Q−23
SI-185	古墳		4.4	2.9	32	N44° E	隅丸方形	−	−	2	1	−	−	(18.90)	(17.20)	−		17Q−40
SI-186	古墳		5.6	4.2	50	−	隅丸長方形	−	−	2	−	−	−	23.49	20.94	−		17Q−61
SI-187	古墳		3.2	3.4	21	N43° W	隅丸方形	炉	中央・NW	3	0	0	−	(10.80)	(9.40)	−		17Q−54
SI-188	奈・平	Ⅲ-2	4.3	4.5	65	N6° E	隅丸方形	カマド	N	4	1	1?	S	19.97	17.21	4.98		17Q−54
SI-189	奈・平	Ⅲ-2	3.5	3.9	47	N85° W	方形	カマド	W	0	1	0	−	13.98	12.10	−		17Q−63
SI-190	奈・平	?	2.2	1.7	24	N7° E	隅丸方形	カマド	N・隅	0	0	0	−	(3.40)	(2.70)	−		17Q−75
SI-191	奈・平	Ⅲ-1	4.0	4.2	54	N10° W	隅丸方形	カマド	N	4	1	0	−	16.86	14.65	4.50		17Q−46

遺構No.	時代	時期小区分	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸方位	形状	火所	火所位置	主柱	出入口	貯蔵穴数	貯蔵穴位置	面積 上面形(㎡)	面積 床面(㎡)	面積 柱穴間(㎡)	備考	位置グリッド
SI-192	奈・平	Ⅱ	3.2	3.0	75	N6° W	隅丸方形	カマド	N	4	1	0	−	9.58	7.78	1.98		17Q−36
SI-193	奈・平	Ⅲ-1〜3?	3.0	3.0	35	N43° W	隅丸方形?	−	−	−	−	−	−	(9.10)	(7.60)	−		17Q−36
SI-194	奈・平	Ⅱ	3.7	4.2	51	N86° W	隅丸方形	カマド	W	7	1	1	N	15.39	13.48	3.26		18Q−30
SI-195	奈・平	Ⅲ-1	2.9	3.0	55	N16° W	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	8.95	7.30	−		18Q−50
SI-196	奈・平	Ⅰ-2	3.2	3.4	45	N24° W	隅丸方形	カマド	N	0	1	0	−	11.02	9.83	−		17Q−68
SI-197	奈・平	Ⅲ-1	2.5	2.6	39	−	方形?	カマド	N	0	0	0	−	(5.50)	(4.00)	−		17Q−43
SI-198	奈・平	Ⅲ-1〜2	3.6	3.8	50	N28° W	−	カマド	N	0	0	0	−	(13.60)	(11.30)	−		18Q−40
SI-199	奈・平	Ⅲ-2	3.3	2.9	38	N16° E	方形	カマド	N	0	0	0	−	9.74	8.51	−		18Q−32
SI-200	奈・平	Ⅲ-2	3.7	3.9	57	N5° W	方形	カマド	N	0	1	0	−	14.96	12.70	−		18Q−23
SI-201	奈・平	Ⅲ-2	2.8	3.2	27	N63° E	方形	カマド	NE	0	1	0	−	(9.50)	(8.60)			18Q−33
SI-202	奈・平	Ⅲ-1	4.3	3.9	45	N12° E	方形	カマド2	N, E	5	1	1	N	17.53	15.69	3.90	北カマド	18Q−24
SI-202						N105° E											東カマド	
SI-203	弥〜古		4.8	4.1	58	N66° W	隅丸長方形	炉	W	3	1	2	SE	18.54	16.93			18Q−35
SI-204	弥〜古		3.8	4.3	50	N76° W	隅丸方形	炉	W	0	1	1	E	15.70	13.74			18Q−65
SI-205	弥〜古		5.1	3.8	55	N78° W	隅丸方形	炉	中央・W	2	−	1	W	(21.10)	(19.30)			18Q−58
SI-206	弥〜古		3.9	−	45	N10° E	楕円形	炉	中央・W	0	−	−	−	(15.10)	(13.70)			18Q−68
SI-207	奈・平	Ⅲ-1	2.9	3.2	57	N27° E	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	9.30	7.98			18Q−86
SI-208	奈・平	Ⅲ-1	3.9	4.0	47	N85° E	隅丸方形	カマド	E	0	0	0	−	(16.40)	(14.40)			18Q−81
SI-209	奈・平	Ⅱ	3.2	3.4	47	N19° E	隅丸方形	カマド	N	1	1	0	−	10.68	9.54			17Q−89
SI-210	弥〜古		5.3	4.7	57	N116° E	隅丸方形	炉	中央・W	5	2	1	SE	22.10	20.75	5.12		17P−47
SI-300	奈・平	Ⅱ	4.3	4.5	53	N23° E	隅丸方形	カマド	NE	4	0	0	−	21.46	18.98	5.48		22S−94
SI-301	奈・平	Ⅲ-1〜3?	3.8	3.9	41	−	隅丸方形	カマド	NE・隅	0	0	0	−	14.47	12.52	−		22S−95
SI-302	奈・平	Ⅰ-2	3.5	3.5	31	N7° E	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	12.01	10.55	−		22S−92
SI-303	奈・平	Ⅱ	3.1	2.8	29	N10° E	方形	カマド	N	0	0	0	−	(8.54)	(7.50)	−		22S−77
SI-304	奈・平	Ⅲ-3	−	3.3	34	N13° W	方形	カマド	N	0	0	0	−	(11.10)	(9.40)	−		22S−69
SI-305	奈・平	Ⅱ	5.6	−	50	N15° E	方形	カマド	N	2	0	0	−	(34.30)	−	−		22S−68
SI-306	奈・平	Ⅱ	−	4.7	43	N63° W	方形	カマド	W	4	0	0	−	21.20	−	10.33		22S−67
SI-307	奈・平	Ⅲ-1	6.4	6.4	80	N57° W	方形	カマド	NW	4	1	0	−	42.15	38.23	10.94		22S−58
SI-308	奈・平	Ⅲ-4	3.4	3.5	29	N70° W	方形	カマド	W	0	0	0	−	12.00	10.87	−		22S−47
SI-309	奈・平	?	4.4	4.4	27	N44° W	方形	カマド	NW	4	1	0	−	20.65	19.35	−		22S−47
SI-310	奈・平	Ⅲ-4	3.4	3.7	20	N53° W	方形	カマド	NW	0	0	0	−	12.75	11.07	−		22S−35
SI-311	奈・平	Ⅲ-1	3.7	3.9	44	N72° W	方形	カマド	W	0	1	0	−	15.07	12.56	−		22S−38
SI-312	奈・平	Ⅰ-2	3.3	−	76	N36° E	隅丸方形	カマド	NE	0	0	0	−	(10.80)	(9.50)	−		22S−21
SI-313	奈・平	Ⅰ-2	5.7	6.0	140	N17° W	方形	カマド	N	4	−	0	−	(34.90)	(30.90)	9.67		23S−40
SI-314	奈・平	Ⅲ-3	3.4	−	35	N55° E	方形	カマド	NE	0	0	0	−	(11.70)	(9.90)	−		23S−31
SI-315	奈・平	?	3.2	3.4	30	N20° W	方形	カマド	N	0	0	0	−	(10.40)	(9.10)	−		23S−21
SI-316	奈・平	Ⅲ-1〜3?	−	3.5	47	N30° W	方形	カマド	NW	0	0	0	−	(12.40)	(11.10)	−		23S−32
SI-317	奈・平	?	3.8	3.8	26	N45° W	方形	カマド	NW	0	0	0	−	12.60	12.95	−		23S−12
SI-318	奈・平	Ⅲ-4	3.0	3.3	30	N66° W	隅丸方形	カマド	NW	0	0	0	−	10.66	8.85	−		22S−09
SI-319	奈・平	Ⅲ-3	3.6	3.0	55	N58° W	方形	カマド	NW	0	0	0	−	11.31	(9.20)	−		23R−63
SI-320	奈・平	Ⅰ-2	4.4	4.7	40	N5° E	隅丸方形	カマド	N	4	0	0	−	21.27	19.21	6.26		23R−90
SI-321	奈・平	Ⅲ-2	2.6	2.7	13	N6° E	方形	カマド	N	0	0	0	−	(7.00)	(6.00)	−		22R−67
SI-322	奈・平	Ⅲ-3	3.3	4.0	20	N91° E	隅丸長方形	カマド	E	0	0	0	−	12.56	11.32	−		22R−78
SI-323	奈・平	Ⅰ-1	4.5	4.3	40	N51° W	方形	−	−	4	0	0	−	(19.40)	(18.00)	4.72		22R−89
SI-324	奈・平	Ⅰ-2	4.3	4.6	32	N28° W	隅丸方形	カマド	NW	4	0	0	−	19.97	18.16	5.18		22R−88
SI-325	奈・平	Ⅲ-4	3.3	3.1	15	N102° E	方形	カマド	E	0	0	0	−	(10.80)	(9.30)	−		22R−69
SI-326(旧)	奈・平	Ⅲ-4	3.6	3.6	15	N129° E	隅丸方形	カマド	SE	0	0	0	−	(12.88)	(11.00)	−		22R−59
SI-326(新)						N39° E			NE									22R−59
SI-327	奈・平	Ⅰ-1	4.2	4.5	35	N9° E	隅丸方形	カマド	N	4	0	0	−	18.61	16.85	3.20		23R−41
SI-328	奈・平	Ⅰ-2	3.6	3.7	35	N11° W	隅丸方形	カマド	N	4	0	0	−	12.75	11.38	2.89		23R−41
SI-329	奈・平	Ⅰ-2	3.4	3.7	40	N59° W	方形	カマド	NW	4	0	0	−	12.79	11.03	2.46		23R−70
SI-330	奈・平	Ⅱ	3.1	3.4	34	N45° W	方形	カマド	NW	4	1	0	−	(10.69)	(9.40)	2.21		23R−93
SI-331	奈・平	Ⅰ-2	4.4	−	38	N16° E	方形	カマド	N	2	0	0	−	19.70	17.10	−		23S−03
SI-332	奈・平	Ⅲ-4?	3.1	2.6	32	N	隅丸長方形	カマド	N	0	0	0	−	7.84	5.84	−		22R−44
SI-333A	奈・平	Ⅱ	4.0	4.0	60	N29° E	方形	カマド	NE	4	1	0	−	16.60	15.17	4.00		23R−74
SI-334	奈・平	Ⅲ-1	3.9	4.1	59	N24° E	方形	カマド	NE	0	1	0	−	16.20	14.54	−		23R−73
SI-335	奈・平	Ⅱ	4.3	5.0	81	N24° E	長方形	カマド	NE	4	1	0	−	21.52	18.73	6.01		23R−64
SI-336	奈・平	Ⅰ-2	−	3.7	39	N126° E	方形	カマド2	SE, NE	0	0	0	−	(12.80)	(11.10)	−	新カマドからみた主軸	22S−24
SI-336	奈・平					N35° E											旧カマドからみた主軸	
SI-337	奈・平	Ⅰ-2	3.4	3.6	50	N35° E	隅丸方形	カマド	NE	4	0	0	−	12.00	9.55	2.10		22S−30
SI-338	奈・平	Ⅰ?	−	3.1	64	N36° E	隅丸方形	カマド	NE	0	0	0	−	(10.10)	(8.90)	−		22S−11
SI-339	奈・平	Ⅲ-4	−	3.6	50	N128° E	方形	カマド	SE	0	0	0	−	(11.90)	(19.60)	−		22S−02
SI-340	奈・平	Ⅰ?	4.3	4.1	38	N13° E	隅丸方形	カマド	N	4	1	0	−	17.91	16.65	3.52		22R−74
SI-341	奈・平	Ⅰ?	−	4.5	58	N45° W	方形	カマド	NW	2	0	0	−	(20.40)	(18.10)	−		23S−16
SI-342	奈・平	Ⅲ-2	−	5.2	53	N40° W	方形	カマド	NW	0	0	0	−	(27.10)	(24.20)	−		23S−26
SI-343	奈・平	Ⅲ-2	2.7	2.8	50	N20° W	隅丸方形	カマド	NW	0	0	0	−	7.90	6.49	−		23S−53
SI-344	奈・平	Ⅰ-2	3.5	3.3	70	N25° W	隅丸方形	カマド	NW	0	0	0	−	(11.90)	(10.70)	−		23S−52
SI-345	奈・平	Ⅲ-4	4.3	−	70	N153° W	方形	カマド	S	0	0	0	−	(16.50)	(14.20)	−		23S−45
SI-346	奈・平	Ⅱ	4.0	3.8	80	N57° E	方形	カマド	NE	0	0	0	−	15.04	13.03	−		23S−19

遺構No	時代	時期小区分	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸方位	形状	火所	火所位置	主柱	出入口	貯蔵穴数	貯蔵穴位置	面積 上面形(㎡)	面積 床面(㎡)	面積 柱穴間(㎡)	備考	位置グリッド
SI-347	奈・平	?	−	−	−	−	−	カマド	−	−	−	−	−	−	−	−		23S−09
SI-348	奈・平	Ⅲ-1or2	2.9	2.4	70	N25W	方形	カマド	NW	0	0	0	−	(6.70)	(5.60)	−		23S−51
SI-349	奈・平	?	3.3	3.2	39	N13°E	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	10.40	8.66	−		22R−18
SI-350	奈・平	Ⅲ-1	2.5	2.7	22	N55°E	隅丸方形	カマド	NE	0	0	0	−	6.45	5.51	−		23S−20
SI-351	奈・平	?	3.0	3.0	36	N46°W	隅丸方形	カマド	NW	0	0	0	−	(8.80)	(7.20)	−		23S−21
SI-352	奈・平	Ⅰ-2	5.0	4.9	65	N8°W	方形	カマド	N	4	1	0	−	25.48	23.10	−6.11		23Q−92
SI-353	奈・平	Ⅲ-3	2.9	3.0	38	N77°W	隅丸方形	カマド	W	0	0	0	−	8.45	6.71	−		22S−43
SI-354	奈・平	Ⅰ-1	2.9	2.9	21	N4°W	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	8.66	7.52	−		22R−11
SI-355	奈・平	Ⅰ-2	−	4.5	45	N	方形	−	−	4	1	0	−	(20.90)	(18.90)	5.11		23Q−93
SI-356	奈・平	Ⅰ-1	4.2	4.5	34	N11°W	隅丸方形	カマド2	N, E	0	1	0	−	18.50	16.55	−		22R−48
SI-357	奈・平	Ⅲ-1	4.6	4.7	51	N6°E	方形	カマド	N	4	1	0	−	22.01	20.14	5.48		23Q−83
SI-358	奈・平	Ⅰ-1	6.0	5.5	36	N11°W	方形	カマド	N	4	1	0	−	(33.10)	(30.90)	9.20		23R−04
SI-359	弥生		5.4	4.6	34	N74°W	小判形	炉	W	4	0	0	−	23.68	21.27	5.78		23R−22
SI-360	奈・平	Ⅲ-1	4.0	4.0	66	N4°E	方形	カマド	N	4	0	0	−	15.03	12.59	4.01		23Q−81
SI-361	奈・平	Ⅲ-2	3.9	3.6	44	N55°W	方形	カマド	NW	0	1	0	−	14.96	12.37	−		22Q−89
SI-362	奈・平	Ⅰ	2.6	2.6	30	N31°E	方形	カマド	N	0	0	0	−	7.09	5.84	−		22R−97
SI-363	奈・平?	?	−	−	46	−	−	−	−	0	0	0	−	−	−	−		22S−17
SI-364	弥生		4.4	3.5	30	N39°W	小判形	炉	中央・N	4	1	0	−	−	−	−		22Q−99
SI-365	奈・平	Ⅲ-4	2.9	3.3	22	N17°E	方形	カマド	N	0	0	0	−	(9.60)	(8.60)	−		22R−67
SI-366	奈・平	Ⅰ?	2.2	2.2	35	−	隅丸方形	カマド	NW・隅	0	0	0	−	4.97	4.01	−		22Q−86
SI-367	奈・平	Ⅲ-4	−	3.4	25	N29°W	隅丸方形	カマド	NW	0	0	0	−	(12.30)	(11.00)	−		22S−49
SI-371	奈・平	Ⅱ	2.9	2.8	75	N30°E	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	8.16	6.16	−		18Q−94
SI-372	奈・平	Ⅰ-2	3.9	4.2	45	N18°W	隅丸方形	カマド	N	4	1	1	S	16.76	15.32	3.82		17Q−88
SI-373	奈・平	Ⅲ-2	2.6	2.5	70	N78°E	隅丸方形	カマド	E	0	0	0	−	(6.60)	(5.70)	−		17Q−98
SI-374	奈・平	Ⅲ-1〜3?	−	3.7	50	−	方形	−	−	0	0	0	−	(14.20)	(12.60)	−		17R−09
SI-375	奈・平	Ⅲ-2	3.6	3.7	68	N115°W	方形	カマド	SW	0	0	0	−	(13.20)	(11.40)	−		17Q−96
SI-377	奈・平	Ⅰ-2	2.2	2.6	65	−	隅丸方形	カマド	NE・隅	4?	1	0	−	5.44	4.64	1.58		17R−12
SI-378	奈・平	Ⅲ-3	3.8	3.8	45	N83°W	方形	カマド	W	0	0	0	−	(14.60)	(13.34)			16R−39
SI-379	奈・平	?	3.0	−	65	N70°W	方形	カマド?	W?	0	0	0	−	(9.40)	(8.30)	−		16R−03
SI-380	奈・平	Ⅰ-2	2.5	2.5	60	−	隅丸方形	カマド	NE・隅	4?	0	0	−	6.08	4.90	0.80		17Q−82
SI-381	奈・平?	?	−	3.4	15	N	隅丸方形	カマド	N	0	0	0	−	(11.00)	(9.30)	−		24P−89
SX-004	古墳前		7.0	?	15	N30°W	隅丸方形か小判形	炉	中央・NE	?	?	?	?	?	?	?		19U−74

第15表　掘立柱建物跡観察表

（　）は推定値

遺構No	規格(梁×桁)	桁行長(m)	梁行長(m)	柱間寸法(m)	面積(㎡)	柱穴径(cm)	柱穴深(cm)	柱穴深平均(cm)	桁行方位(°)	位置(グリッド)	調査年度	備考
SB-001	2間×3間	6.9	4.2	2.0〜2.5	28.98	79〜121	35〜62	49	N-11-E	19R-88	1989	SB-002と重複
SB-002	身舎　2間×2間	4.2	4.1	1.8〜2.6	17.22	48〜120	28〜64	46	N-7-W	19R-79	1989	南庇．SB-001と重複
	全体　2間×3間	5.6	4.1	1.2〜2.6	22.96	44〜120	28〜64	46				
SB-003	2間×2間	4.3	3.7	1.5〜2.2	15.91	40〜116	16〜40	28	N-10-W	19R-58	1989	総柱．SB-002に南近
SB-004	2間×3間	6.8	4.3	2.1〜2.4	29.24	78〜104	80〜100	90	N-6-W	19U-54	1989	総柱．SI-003・006と重複．（東柱除外）
SB-005	2間×3間	5.5	3.9	1.4〜2.1	21.45	36〜104	16〜76	46	N-15-W	19U-23	1989	SB-006(A)・006(B)と重複
SB-006(A)	2間×3間	5.0	3.4	1.2〜1.8	17.00	36〜112	12〜52	32	N-10-W	19U-23	1989	SB-005・006(B)と重複
SB-006(B)	2間×2間	4.2	3.9	1.6〜2.6	16.38	60〜160	−	−	N-8-W	19U-23	1989	SB-005・006(A)と重複
SB-007(A)	身舎　2間×2間	3.2	2.6	1.3〜2.0	8.32	28〜72	60〜92	76	N-7-W	19U-13	1989	総柱．南庇．SB-008・009と重複
	全体　2間×3間	4.5	2.6	1.2〜2.0	11.70	28〜92	24〜92	58				建て替え．旧SB-008→009→007(A)新
SB-007(B)	1間×2間	3.0	2.9	1.4〜2.9	(8.7)	44〜68	40〜72	56	N-20-W	19U-03	1989	SB-007(A)・008・009に南近
SB-008	2間×2間	3.8	2.9	1.3〜2.1	11.02	40〜120	56〜72	64	N-7-W	19U-13	1989	総柱．SB-007(A)・009と重複 建て替え．旧SB-008→009→007(A)新
SB-009	2間×2間	3.7	2.7	0.8〜2.0	9.99	44〜116	44〜68	56	N-7-W	19U-13	1989	総柱．SB-007(A)・008と重複 建て替え．旧SB-008→009→007(A)新
SB-010	2間×2間	3.0	3.0	1.4〜1.5	8.70	44〜100	56〜84	70	N-17-W	19T-93	1989	総柱．単独
SB-011	2間×3間	6.5	4.1	1.9〜2.4	26.65	44〜76	24〜72	48	N-22-W	19T-84	1989	SB-044と重複．SB-027に西近
SB-012	2間×2間	3.9	3.5	1.6〜2.0	13.65	36〜56	12〜48	30	N-71-E	19U-46	1989	SB-013と重複
SB-013	2間×3間	6.6	4.2	2.0〜2.3	(27.72)	36〜72	24〜72	48	N-11-W	19U-47	1989	SB-012・SI-015と重複
SB-014	2間×3間	4.8	3.0	1.4〜1.6	14.40	44〜84	16〜80	48	0	20U-43	1990	SB-033と重複．SB-015に西近．SI-017に南西近
SB-015	身舎　2間×2間	3.8	4.1	1.8〜2.2	15.58	40〜96	16〜44	30	N-10-W	20U-31	1990	東庇．SB-016・033と重複．SB-014に東近．SI-016に南近．周辺に小穴多し
	全体　2間×3間	5.0	4.1	0.9〜2.4	20.50	40〜115	16〜76	46				
SB-016	2間×3間	5.1	4.0	1.6〜2.1	20.40	36〜84	24〜96	60	N-11-W	20U-31	1990	SB-015と重複．SI-029に北近．SI-016に南近
SB-017	2間×3間	5.3	4.1	1.6〜2.2	21.73	48〜120	28〜68	48	N-7-W	20U-21	1990	SB-034・SI-029と重複．SI-019に東近．SI-016に南近
SB-018	2間×3間	5.5	4.3	1.7〜2.3	23.65	52〜72	56〜68	62	N-14-W	19U-07	1990	SB-028と重複．SB-020に東近

遺構No.	規格（梁×桁）	桁行長（m）	梁行長（m）	柱間寸法（m）	面積（㎡）	柱穴径（cm）	柱穴深（cm）	柱穴深平均（cm）	桁行方位（°）	位置（グリッド）	調査年度	備考
SB-019	身舎　2間×3間	4.6	4.3	1.2～2.4	19.78	80～148	56～80	68	N-11-W	19U-18	1990	南北両庇．SB-020と重複．SB-018に北西近
	北庇	1.7	4.3	1.8～2.4	7.31	84～104	64～68	66				
	南庇	1.9	4.3	1.8～2.2	8.17	84～88	60～80	70				
	全体　2間×5間	8.2	4.3	1.2～2.4	35.26	80～148	56～80	68				
SB-020	身舎　3間×3間	6.4	4.7	1.4～2.2	30.8	60～76	44～88	62	N-17-W	19U-08	1990	南庇．SB-019と重複．SB-035に北東近．
	全体　3間×4間	7.8	4.7	1.3～2.2	36.66	48～76	36～88	46				SB-018に西近
SB-021	身舎　2間×3間	5.2	3.7	1.6～1.8	19.24	36～60	20～48	34	N-12-W	19U-90	1990	東庇．SI-020・027・SB-035と重複．SB-022・023
	全体　3間×3間	5.2	5.1	1.5～1.8	26.52	20～60	20～60	46				に東近
SB-022	2間×3間	6	4.2	1.9～2.4	25.20	64～120	24～84	54	N-11-W	20T-81	1990	SB-023・024・SI-024・027と重複．SB-021に西近
SB-023	2間×3間	5.6	3.8	1.6～2.1	21.28	40～96	36～92	64	N-10-W	20T-81	1990	SB-022・024・SI-024・027と重複．SB-021に西近
SB-024	2間×3間	6.9	4.7	1.6～4.4	32.43	68～128	28～44	36	N-4-W	20T-81	1990	SB-022・023・SI-024・027と重複．SB-021に西近
SB-025	身舎　2間×2間	3.6	3.8	1.3～2.0	13.68	72～100	28～52	40	N-85-E	19T-65	1990	南庇．SB-026・SI-008と重複．SB-043・044に
	全体　2間×3間	4.9	3.8	1.2～2.0	18.62	36～100	24～52	38				南近
SB-026	2間×2間	3.9	3.7	2.4～2.0	14.43	40～84	24～36	30	N-14-W	19T-65	1990	SB-025・SI-008と重複．SB-043・044に南近
SB-027(A)	2間×2間	2.8	2.8	1.3～1.6	7.84	48～120	40～48	44	N-5-W	19T-82	1990	総柱．SB-027(B)と重複．SB-011に東近
SB-027(B)	（柱穴3基）			1.4～1.6		84～128	36～60	48	N-25-W	19T-82	1990	SB-027(A)と重複．SB-011に東近
SB-028	3間×3間	6.4	4.6	1.5～2.2	29.44	44～88	24～64	44	N-16-W	19T-96	1990	SB-018・SI-025と重複．SB-029に南西近
SB-029	3間×3間	5.8	3.8	1.1～2.1	22.04	72～112	20～64	42	N-10-W	19U-15	1990	SB-030・045・SI-007と重複．SB-028に北近
SB-030	2間×3間	6.8	4.5	2.2～2.3	(30.60)	52～84	28～80	54	N-9-W	19U-26	1990	SB-029・031・045・SI-015と重複．SB-018に北東近
SB-031	身舎　2間×3間	7.0	4.3	2.1～2.5	(30.10)	56～80	40～60	50	N-14-W	19U-26	1990	東庇．SB-030・045・SI-015と重複
	全体　3間×4間	7.0	5.9	1.1～2.5	(41.30)	36～80	20～60	40				SB-029に北西近．SB-032に南東近
SB-032	（2間×3間）	6.4	4.2	0.9～2.1	(26.88)	32～104	8～68	38	N-10-W	19U-38	1990	SI-018と重複．SB-019に北近．SB-013に北西近
SB-033	2間×2間	4.5	3.8	1.8～2.4	17.10	72～128	12～56	34	N-84-W	20U-32	1990	SB-014・015と重複．SB-016に北西近
SB-034	2間×3間	6.4	4.5	2.0～2.2	28.80	64～180	40～80	60	N-1-W	20U-11	1990	SB-017・SI-019・029と重複．SB-016に南西近
SB-035	2間×3間	5.8	4.1	1.4～2.2	23.78	60～92	48～92	70	N-90-E	19T-89	1990	SB-021・SI-028と重複．SB-020に南西近
SB-036	2間×3間	5.5	4.1	1.6～2.2	22.55	64～100	40～80	60	N-82-E	19T-69	1990	SB-037・038と重複．SB-035に南西近
SB-037	2間×2間	4.2	4.1	1.4～2.8	17.22	48～94	12～104	58	N-81-E	19T-69	1990	SB-036・038と重複．SB-035に南西近
SB-038	2間×2間	3.0	2.2	1.0～1.6	6.60	40～70	28～100	64	N-75-E	19T-69	1990	SB-036・037と重複．SB-035に南近
SB-039	2間×2間	3.4	3.4	1.4～1.8	11.56	60～104	50～76	63	N-15-W	19T-78	1990	総柱．SB-040と重複．SI-028に南東近
SB-040	2間×2間	3.9	3.9	1.8～2.2	15.21	76～96	24～48	36	N-8-W	19T-78	1990	総柱．SB-039と重複．SB-035に南東近
SB-041	3間×3間	6.8	4.6	1.4～2.4	(31.28)	44～116	44～76	60	N-80-E	19T-76	1990	SB-042・SI-026と重複．SB-040に東近
SB-042	3間×3間	6.3	4.8	1.3～2.4	28.98	56～128	40～76	58	N-10-W	19T-76	1990	SB-041・SI-026と重複．SB-040に北近
SB-043	2間×3間	5.6	4.0	1.6～2.0	22.40	52～80	12～68	40	N-85-E	19T-75	1990	SB-044・SI-008・026と重複．SB-026に北近
SB-044	2間×3間	6.0	3.8	1.8～2.2	22.80	44～112	32～80	56	N-81-E	19T-74	1990	SB-011・043と重複．SI-008・026と重複．SB-026に北近
SB-045	3間×3間	6.0	4.0	1.1～2.2	(24.00)	40～55	16～48	32	N-87-E	19U-16	1990	SB-029・030・031と重複
SB-046	2間×3間	4.8	3.1	1.5～1.6	14.88	32～52	16～28	22	N-6-E	19T-43	1990	単独
SB-047	2間×3間	6.3	4.4	2.0～2.3	27.72	85～100	40～68	54	N-5-W	19T-33	1990	単独
SB-048	2間×3間	5.5	3.9	1.6～2.2	21.45	78～112	50～68	59	N-89-E	19T-24	1990	単独
SB-049	2間×3間	6.3	4.4	1.7～2.3	27.72	76～92	30～40	35	N-85-E	19T-27	1990	単独
SB-050	2間×3間	5.3	5.3	2.4～2.7	28.09	87～124	48～52	50	N-10-E	20S-31	1990	単独
SB-051	2間×3間	4.7	3.8	1.5～2.1	17.86	36～48	24～40	32	N-7-W	20S-63	1990	南庇．単独
SB-052(A)	2間×3間	5.6	3.9	1.7～2.1	(21.84)	68～128	20～76	48	N-90-E	23Q-63	1990	SB-052(B)に南近
SB-052(B)	2間×2間	4.1	3.9	1.8～2.0	(15.99)	60～125	38～60	49	N-90-E	23Q-72	1990	SB-052(A)に北近
SB-053	2間×3間	5.3	3.4	1.5～1.8	18.02	82～96	38～68	53	N-19-E	23Q-60	1990	SI-043(A)・043(B)・046と重複．SB-055に北近
SB-054	2間×3間	5.6	4.0	1.7～2.0	22.40	82～120	64～78	71	N-78-E	21Q-29	1990	SI-060と重複．SB-059に西近
SB-055	2間×2間	3.5	3.5	1.6～1.8	12.25	60～88	36～60	48	N-16-E	23Q-80	1990	単独．SB-056に西近
SB-056	(－)間×3間	5.4	－	1.5～2.1	－	72～108	62～78	70	(N-71-W)	22Q-88	1990	SI-050と重複．SB-055に東近
SB-057	(－)間×3間	4.9	－	1.4～1.7	－	64～100	30～50	40	(N-75-E)	22Q-50	1990	
SB-058	(－)間×(－)間	－	－	2.6	－	64～92	32～36	34	(N-37-W)	22Q-31	1990	SI-053・054と重複
SB-059	2間×2間	4.3	4.1	2.0～2.3	(17.63)	72～88	36～56	46	N-67-E	21Q-38	1990	SI-059・060と重複．SB-054に東近
SB-060	身舎　2間×3間	5.0	3.6	1.5～1.9	18.00	76～108	40～96	68	N-37-E	19V-30	1991	SI-079と重複
	全体　3間×3間	5.0	4.8	1.5～1.9	24.00	76～108	32～96	64				
SB-061	身舎　2間×3間	5.0	4.2	1.5～1.9	21.00	68～118	24～64	48	N-32-E	19V-02	1991	SB-070・SI-108と重複
	全体　2間×4間	6.1	4.2	0.9～2.4	25.62	68～118	24～92	58				
SB-062	2間×3間	7.0	4.6	2.0～2.4	32.20	84～120	72～112	92	N-9-W	20U-72	1991	単独
SB-063	3間×3間	6.3	4.7	1.2～2.2	29.61	56～96	20～44	32	N-11-W	18T-60	1991	SI-104・107と重複．SB-068に南近
SB-064	2間×3間	5.0	3.7	1.5～2.1	18.50	56～76	26～64	45	N-3-E	17T-38	1992	単独
SB-065	2間×3間	6.4	4.1	1.8～2.4	26.24	80～108	30～56	43	N-13-W	18T-30	1992	単独
SB-066	2間×3間	5.4	4.1	1.7～2.2	(22.14)	44～80	30～52	41	N-80-E	18T-35	1992	SB-067に東近．SI-084・085と重複
SB-067	2間×3間	7.4	4.2	1.9～3.0	31.08	40～100	16～54	35	N-72-W	18T-37	1992	総柱．SB-066に西近
SB-068	3間×3間	6.7	4.8	1.5～2.4	(32.16)	36～52	30～70	50	N-1-E	18T-80	1992	SB-063に北近．SI-096・099と重複．SI-095に西近
SB-069	2間×2間	4.0	3.5	1.4～2.0	14.00	44～132	24～80	52	N-10-W	18T-40	1992	総柱．単独．SB-073に西近

遺構No	規格（梁×桁）	桁行長（m）	梁行長（m）	柱間寸法（m）	面積（㎡）	柱穴径（cm）	柱穴深（cm）	柱穴深平均（cm）	桁行方位（°）	位置（グリッド）	調査年度	備考
SB-070	3間×5間	7.4	6.2	1.4～2.1	45.88	80～120	36～80	58	N-40-E	19V-02	1992	SB-061・SI-108と重複
SB-071	2間×3間	6.3	4.1	1.9～2.3	25.83	60～92	32～56	44	N-4-E	18T-47	1992	SI-083・093と重複
SB-072	2間×3間	5.2	4.0	1.4～2.1	20.80	70～92	12～80	46	N-81-E	18T-32	1992	単独
SB-073	1間×2間	2.8	2.6	1.2～2.7	7.28	40～56	50～80	65	N-1-E	17T-59	1992	単独
SB-074	2間×3間	5.4	3.7	1.6～1.9	19.98	52～85	25～58	42	N-75-E	20R-89	1992	SB-075・077・080と重複．SI-119と重複
SB-075	2間×3間	5.7	3.7	1.6～2.0	21.09	62～92	20～68	44	N-23-E	20R-89	1992	SB-074・077・080と重複．SI-119と重複
SB-076	－	－	－	2.0～2.2	－	60～72	42～72	57	－	20R-77	1992	SI-117に北近．SI-118に東近
SB-077	(2間)×3間	5.8	4.0	1.8～2.0	(23.20)	60～92	20～44	32	N-18-E	20R-99	1992	SB-074・075・080・SI-119と重複
SB-078	2間×(3間)	6.2	4.7	2.0～2.5	29.14	64～108	12～88	50	N-21-E	20R-68	1992	SI-118・120と重複
SB-079	2間×(－)間	－	3.8	1.6～2.0	－	32～48	20～50	35	N-26-E	21S-00	1992	SI-121と重複
SB-080	－	4.9	－	1.3～1.8	－	32～48	18～36	27	N-49-W	20R-99	1992	SB-074・075・077と重複
SB-081	2間×3間	6.8	4.4	1.9～2.4	29.92	56～136	40～60	50	N-17-W	17T-97	1993	単独．SB-083(A)・083(B)に北近
SB-082	1間×1間	2.0	2.0	2.0～2.0	4.00	85～92	48～52	50	N-20-E	17T-36	1993	単独
SB-083(A)	3間×3間	6.4	5.6	1.5～2.4	35.84	60～120	32～55	44	N-18-W	17T-76	1993	SB-081に南近．SI-145・147に北東近
SB-083(B)	2間×2間	4.0	3.4	2.0～2.2	(13.60)	68～140	36～56	46	N-63-E	17T-76	1993	SB-081に南近．SI-145・147に北東近
SB-084	2間×3間	4.9	3.3	1.6～1.9	16.17	64～80	22～45	34	N-86-W	19O-50	1993	単独
SB-085	2間×2間	3.8	3.1	1.4～1.9	11.78	44～60	20～44	32	N-82-W	17Q-24	1993	単独
SB-086	2間×2間	4.5	4.0	1.6～2.4	(18.00)	40～80	20～52	36	N-13-W	17Q-43	1993	SB-089・SI-197と重複
SB-087	2間×(－)間	3.1	－	1.5～－	－	48～56	20～44	30	N-85-W	17Q-56	1993	単独
SB-088	3間×(－)間	4.0	－	1.2～－	－	64～80	20	20	N-15-E	18Q-78	1993	単独か？（東側範囲外）
SB-089	2間×2間	4.2	3.8	1.8～2.6	15.96	40～80	16～48	32	N-3-W	17Q-43	1993	SB-086・SI-197と重複
SB-090	(－)間×4間	7.0	－	1.5～1.8	－	45～52	40～60	50	N-21-E	18Q-40	1993	SI-195・198と重複
SB-091	－	－	－	－	－	20～52	8～60	34	－	17Q-43	1993	SB-086・089と重複
SB-100	身舎　2間×2間	4.1	4.0	1.8～2.1	16.40							
	2間×3間	6.2	4.0	1.2～2.4	24.80							
	全体　6間×4間	10.6	7.7	1.2～2.8	81.62	80～148	52～68	60	N-85-W	22S-83	1994	SB-101に北西近．SI-300・301・302と重複
SB-101	2間×2間(3間)	4.1	3.8	1.2～2.0	15.58	52～136	24～75	50	N-20-E	22S-72	1994	単独．SB-100に南近
SB-102	3間×3間(4間)	6.7	4.6	1.1～2.2	30.82	64～160	24～50	37	N-2-W	22S-75	1994	単独．SB-100に南西近
SB-103	3間×3間	6.2	4.6	1.6～2.2	28.52	70～108	20～52	36	N-17-E	22S-56	1994	SB-104と重複
SB-104	2間×(3間)	4.0	3.2	1.3～2.1	－	48～96	12～44	28	N-20-W	22S-56	1994	SB-103と重複
SB-105	3間×5間	11.2	5.4	1.6～2.4	60.48	96～128	44～60	52	N-5-E	22R-57	1994	SI-321・365と重複．SI-322・324に東近
SB-106	2間×3間	5.4	4.2	1.9～2.1	20.68	80～130	40～74	58	N-27-E	22S-43	1994	SI-353と重複．SI-310に北東近．SB-111に南近
SB-107	2間×3間	6.6	4.0	1.8～2.4	26.64	64～94	24～68	46	N-16-E	22S-17	1994	単独
SB-108	2間×2間	4.8	4.3	1.9～2.4	20.64	80～100	40～60	50	N-13-E	23R-00	1994	SB-109と重複．SB-120北西近
SB-109										23R-00	1994	SB-108と重複．柵列？
SB-110	2間×3間	7.7	5.1	2.4～2.6	39.27	98～144	55～68	62	N-8-E	22R-98	1994	SB-117と重複．SI-362に西近
SB-111	2間×3間	5.1	4.2	1.6～2.0	21.42	68～136	12～51	32	N-27-E	22S-53	1994	SB-106に北近
SB-112	2間×3間	4.8	4.5	1.3～2.4	19.20	76～132	42～64	53	N-81-W	22T-03	1994	SB-113・114と重複．SB-100に北近
SB-113	2間×2間	4.4	3.7	1.6～2.3	16.28	92～128	39～45	42	N-79-W	22T-04	1994	SB-112・114と重複．SB-100に北近
SB-114	2間×2間	4.4	4.1	1.8～2.6	18.04	65～128	29～88	59	N-65-W	22T-04	1994	SI-112・113と重複．SB-100に北西近
SB-115	2間×3間	5.1	4.1	1.8～2.1	20.91	72～100	24～46	35	N-12-W	22S-19	1994	SI-318と重複．SB-110・117に北西近
SB-116	2間×3間	7.2	4.6	2.0～2.4	33.12	80～136	30～56	43	N-7-E	23R-50	1994	単独．SI-327・328に北近
SB-117	3間×3間	6.1	4.7	1.4～2.0	28.67	80～128	29～65	47	N-90-E	22R-98	1994	SB-110と重複．SI-362に西近
SB-118	2間×4間	7.1	4.2	1.6～2.2	29.82	64～116	32～84	58	0	22R-36	1994	SB-121・122と重複．SB-105に南近
SB-119	2間×4間	8.3	4.6	1.8～2.8	38.18	60～112	12～80	46	N-89-E	23S-01	1994	SB-123・SI-315・317と重複．SI-350に南西近
SB-120	2間×2間	3.8	3.2	1.4～2.2	12.16	44～80	32～60	46	N-10-E	23Q-90	1994	総柱？．SB-129と重複．SI-360に北近
SB-121	2間×3間	4.4	3.6	1.2～1.8	15.84	60～100	28～56	42	N-12-E	22R-37	1994	SB-118・122と重複
SB-122	2間×3間	6.1	3.5	1.6～2.4	21.35	72～160	64～72	68	N-80-W	22R-37	1994	SB-118・121と重複
SB-123	3間×3間	4.3	4.2	1.3～1.6	18.06	52～80	20～60	40	N-3-W	23S-12	1994	SB-119・SI-317と重複
SB-124	2間×3間	7.3	4.7	2.3～2.5	34.31	76～128	50～64	57	N-14-E	23S-36	1994	SI-309と重複．SI-308に東近
SB-125	身舎　2間×2間	3.3	3.9	1.7～2.1	12.87	84～260	40～88	64	N-18-E	22S-61	1994	北庇．単独．SB-101に東近
	全体　2間×3間	4.9	3.9	1.1～2.1	19.11	84～260	24～88	56				
SB-126	2間×3間	6.2	4.5	1.7～2.4	27.90	80～128	50～84	67	N-11-E	23R-84	1994	SI-330と重複．SI-333に北東近．SI-334に北西近
SB-128	身舎　3間×4間	8.5	5.2	1.2～2.5	44.20	72～140	14～100	57	N-79-W	23R-43	1994	SI-335と重複．SI-319に南近
	全体　4間×4間	8.5	7.4	1.2～3.9	62.90	72～140	14～100	57				
SB-129	1間×2間	2.4	1.9	1.2～1.9	4.56	60～92	20～60	40	N-32-E	23Q-80	1994	SI-120と重複．SI-360に東近．SI-36に西近
SB-141	2間×2間	4.3	4.2	1.8～2.3	18.06	68～100	50～80	65	N-80-E	17Q-88	1995	SI-372と重複．SI-209に東近．SI-373に南近

第16表　奈良・平安時代竪穴住居跡出土土器観察表

SI001土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-001	1	32, 35, 40, 62, 19R-67-1	須恵器	杯	13.2	7.5	3.4	80	灰	灰		砂粒少			回転ヘラケズリ		
SI-001	2	38, 72	須恵器	杯	14.8	8.0	4.0	30	灰	灰		砂粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-001	3	10	須恵器	杯	14.8	8.4	3.7	30	褐灰	褐灰		砂粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-001	4	41, 45	須恵器	杯	14.6	8.0	4.0	20	灰	灰		粗白色粒子多，砂粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-001	5	8, 73	須恵器	杯	14.2	－	3.2	10	赤灰	赤灰		砂粒・乳白色粒子			ロクロ成形。調整。		
SI-001	6	49, 71	須恵器	杯	14.6	－	2.95	10	灰	灰		砂粒少			ロクロ成形。調整。		
SI-001	7	72	須恵器	杯	12.6	－	3.2	10	灰褐	灰褐		砂粒少			回転ヘラケズリ		
SI-001	8	65, 71	須恵器	杯	－	8.0	2.9	20	褐灰	褐灰		粗白色粒子・雲母・砂粒			回転ヘラケズリ		
SI-001	9	11	土師器	杯	－	6.8	1.3	10	淡褐	明褐・黒褐	密	砂粒少			回転ヘラケズリ		
SI-001	10	51	土師器	甕	21.4	－	4.2	10	淡赤褐	淡赤褐		粗粒子・砂粒多	ヘラナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			常総型
SI-001	11	77	土師器	甕	－	8.4	1.4	30	暗褐・黒褐	赤褐		粗白色粒子・砂粒多	ヘラナデ	ヘラケズリ		底部木葉痕	常総型
SI-001	12	9	土師器	甕	－	9.2	2.8	10	暗褐	黒褐・褐		粗白色粒子・砂粒・赤色スコリア	ナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-001	13	46	土師器	甕	24.6	－	6.0	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐		砂粒・粗粒子多	ヘラナデ・ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ			常総型
SI-001	14	1, 12	須恵器	甕	－	－	21.6	10	明褐・淡褐	明褐・暗褐		砂粒・乳白色微細粒少	タタキ	タタキ			
SI-001	15	82	須恵器	甑	－	14.0	6.9	10	橙褐	灰褐		砂粒・赤色スコリア・乳白色微細粒	タタキ・ナデ・ヘラケズリ	タタキ・ヘラケズリ・ナデ			ヘラ書き「子」。五孔
SI-001	16	5	陶器	壺	－	10.4	3.3	10	淡褐	淡暗褐		砂粒少			ロクロ成形。調整。	外面釉薬	

SI002土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-002	1	856, 857	土師器	杯	－	9.3	1.9	10	赤褐	赤褐	密	砂粒少			回転ヘラケズリ	赤彩	
SI-002	2	1, 442	土師器	杯	14.2	－	2.1	10	黒・黒褐	淡赤褐	密				ロクロ成形		
SI-002	3	1, 242, 706, 738, 857	須恵器	杯	13.5	7.4	4.0	40	暗灰	暗灰		小石多，砂粒少			回転ヘラケズリ		
SI-002	4	41, 75, 155, 157, 267, 708, 709	須恵器	杯	14.4	9.5	3.7	70	暗褐	暗褐		小石多，砂粒少			手持ちヘラケズリ	火襷	
SI-002	5	707, 788, 826	須恵器	杯	15.4	8.8	4.4	30	赤橙・灰	赤橙・灰		砂粒・雲母・赤色スコリア少			回転ヘラケズリ		線刻「＋（×）」
SI-002	6	911, 19U-89-1	須恵器	杯	13.6	7.4	3.4	30	灰白	灰白	密	砂粒少			回転ヘラケズリ		
SI-002	7	872, 903, 917, 919, 920, 921	須恵器	杯	13.2	8.6	4.6	50	灰褐・灰	灰褐・灰		砂粒・雲母微細粒少			手持ちヘラケズリ		内外面磨耗
SI-002	8	913, 19U-77	須恵器	杯	14.0	8.6	4.2	40	灰	灰	密	砂粒・雲母微細粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	9	777	須恵器	杯	14.2	9.0	4.4	20	赤褐・灰褐	赤褐・灰褐	密	砂粒・雲母微細粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	10	279, 907	須恵器	杯	14.2	10.0	3.8	10	灰白	灰白	密	砂粒・雲母少			手持ちヘラケズリ		底部ヘラ書き「＝」
SI-002	11	324	須恵器	杯	14.0	9.2	3.8	20	暗灰	暗灰	密	白色粒子多			回転ヘラケズリ		
SI-002	12	209, 217, 232, 689	須恵器	杯	14.6	8.8	3.7	30	灰白	灰白		砂粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	13	914	須恵器	杯	14.2	－	3.7	10	灰褐・灰・黒	灰褐・灰・黒		砂粒・雲母微細粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	14	267, 19U-77	須恵器	杯	14.0	－	3.9	20	青灰	青灰		細砂粒・雲母			ロクロ成形		
SI-002	15	718, 1018	須恵器	杯	13.2	－	2.6	10	灰・灰褐	灰・灰褐		乳白色微細粒少			ロクロ成形		
SI-002	16	792	須恵器	杯	－	8.4	2.1	10	灰	灰		砂粒，白色小石少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	17	321	須恵器	杯	－	8.2	2.2	10	灰褐	灰褐	密	砂粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	18	619	須恵器	杯	－	7.8	2.1	10	褐灰	褐灰		砂粒多			手持ちヘラケズリ		
SI-002	19	873	須恵器	杯	－	8.6	0.9	10	灰褐	灰褐		砂粒，小石，雲母微細粒少			手持ちヘラケズリ		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-002	20	16, 274, 429	須恵器	杯	－	8.0	2.5	10	褐灰	褐灰		砂粒・白色粒子少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	21	733	須恵器	杯	－	8.6	2.0	10	淡褐色 淡褐色	淡褐色	密	小石・雲母粒少			手持ちヘラケズリ		
SI-002	22	938	須恵器	杯	－	8.2	－	10	青灰	青灰		石英・長石・雲母・砂粒・黒色炭化物			手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「人」
SI-002	23	557	須恵器	高台付杯	－	12.0	5.5	10	淡赤褐	灰・淡褐		赤色スコリア粒・雲母粒・砂粒少			回転ヘラケズリ		
SI-002	24	1, 857	須恵器	蓋	17.0	－	1.5	10	灰・褐	灰・褐		砂粒・雲母微細粒少			ロクロ成形		
SI-002	25	1	陶器	壺	－	7.6	2.0	10	淡灰褐	淡灰褐	密				ロクロ成形	内面に灰釉胴下端「とちん」	
SI-002	26	236, 256, 734, 741, 743, 807, 103	須恵器	杯	18.1	10.2	6.8	30	灰・灰褐	灰・灰褐	密	雲母，砂粒少			回転ヘラケズリ		
SI-002	27	72, 113, 114, 118, 122, 167, 260, 407, 415, 419, 424, 614, 652, 703, 857, 19U-87	土師器	甕	24.4	－	31.7	30	明褐	明褐		砂粒・雲母，小石少	ヘラナデ・ナデ・ヨコナデ	ミガキ・ナデ・ヨコナデ			
SI-002	28	702, 793	土師器	甕	24.8	－	8.7	10	肌	肌		粗白色粒子，砂粒少	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ヘラアテ			
SI-002	29	790	土師器	甕	23.2	－	10.2	10	赤褐・黒褐	赤褐・黒褐		乳白色微細粒・砂粒・赤色スコリア	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ			
SI-002	30	5, 31, 34, 112, 19U-77	土師器	甕	24.5	－	14.6	10	明褐・黒褐	明褐・黒褐		砂粒・粗粒子多，雲母少	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ			
SI-002	31	13, 67, 19U-77-1	土師器	甕	22.6	－	6.6	10	淡赤褐	淡赤褐		砂粒・粗粒子多，雲母少	ヘラナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ			
SI-002	32	827	土師器	甕	24.2	－	3.8	10	淡褐・黒褐	赤褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヨコナデ			
SI-002	33	930	土師器	甕	25.0	－	4.4	10	淡褐	明褐		砂粒多	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			
SI-002	34	879	土師器	甕	22.8	－	2.5	10	赤褐	赤褐		砂粒多	ヨコナデ	ヨコナデ			
SI-002	35	72	土師器	甕	8.4	－	2.7	10	淡褐・暗褐	淡褐・暗褐		雲母微細粒少	ヨコナデ	ヨコナデ			
SI-002	36	825	土師器	甕	13.8	－	5.6	10	黒褐	赤褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ			磨耗・剥離激しい
SI-002	37	54, 63, 64	須恵器	甑	35.0	－	5.5	10	灰褐	灰褐	密	砂粒・雲母微細粒少	タタキ・ヨコナデ	タタキ・ヨコナデ			

SI003土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-003	1	324	土師器	杯	13.6	－	3.2	10	黒褐	褐・黒褐	密	砂粒少	ミガキ	ヘラケズリ・ミガキ		黒色処理？	
SI-003	2	665	土師器	甕	15.0	7.8	14.2	100	暗赤褐	暗赤褐		砂粒多	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ナデ		粘土紐巻き上げ痕	内面煤付着
SI-003	3	325, 560, 598	土師器	甕	15.2	－	9.7	10	暗褐色	暗茶暗褐色・黒		砂粒	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-003	4	287, 495, 526	土師器	甕	14.6	－	6.5	10	淡褐・黒褐	赤褐	密	砂粒少	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-003	5	664	土師器	甕	15.2	7.3	27.9	100	赤褐	赤褐		細砂粒多	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ			内面煤付着
SI-003	6	661, 667	土師器	甕	－	－	14.2	10	褐・赤褐	黄褐		砂粒	ナデ（ヘラナデか）	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-003	11	428, 605	土師器	杯	111.6	－	3.0	10	赤褐	赤褐	密	砂粒少	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ		赤彩	
SI-003	12	67, 343	須恵器	杯	14.2	9.4	3.3	20	灰褐	暗褐・黒		砂粒・雲母			手持ちヘラケズリ		
SI-003	13	546	土師器	甕	21.4	－	3.8	10	淡褐	淡褐		砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			

SI004土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-004	1	733, 834	土師器	杯	13.5	－	3.4	70	赤褐	赤褐		砂粒	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ			口縁部磨耗著しい
SI-004	2	729, 755, 901	土師器	杯	13.8	－	4.0	90	赤褐	赤褐		砂粒	ヘラミガキ	ヘラケズリ			
SI-004	3	92, 481, 714-1, 717-2, 720-3	土師器	杯	14.4	－	3.3	50	赤褐	赤褐		砂粒多	ヘラミガキ	ヘラケズリ			
SI-004	4	840, 901	土師器	杯	15.2	10.2	3.2	30	赤褐	赤褐		砂粒	ナデ	ヘラケズリ		赤彩	
SI-004	5	830	土師器	杯	14.0	11.4	2.8	40	赤褐	赤褐		砂粒	ヘラミガキ		回転ヘラケズリ	赤彩	

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-004	6	654,816	土師器	杯	14.2	11.2	3.1	90	赤褐	赤褐		砂粒	ヘラミガキ	ヘラケズリ		赤彩	
SI-004	7	306,578,579,671,717-2	土師器	杯	14.0	10.0	3.1	40	赤褐	赤褐		砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ		赤彩	
SI-004	8	734,738,909	土師器	杯	14.1	10.6	3.3	50	赤褐	赤褐		砂粒多	ヘラミガキ	ヘラケズリ		赤彩	
SI-004	9	714-1,829	土師器	杯	13.8	9.0	3.2	40	赤褐	赤褐		砂粒多	ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラケズリ		赤彩	器面の荒れ著しい
SI-004	10	512	須恵器	杯	13.6	9.0	3.6	30	青灰	青灰		砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	11	290,521,717-2	須恵器	杯	12.6	8.2	3.7	20	青灰	青灰		砂粒			回転ヘラケズリ後ナデ?切り離し不明		
SI-004	12	506,531,532,595	須恵器	杯	14.5	8.8	3.8	70	白灰	白灰		細砂粒			手持ちヘラケズリ		器面磨耗の為不明瞭
SI-004	13	804,812,868,900,901	須恵器	杯	14	9.6	3.7	70	青灰	青灰		雲母・黒色粒子混砂粒			回転ヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	14	853,901	須恵器	杯	13.6	8.6	3.7	80	灰・褐	灰・褐		砂粒			切り離し不明		器表面剥落
SI-004	15	511,718-2,719-2,SI014-38	須恵器	杯	11.0	7.3	3.2	80	青灰	青灰		雲母混細砂粒			手持ちヘラケズリ回転ヘラ切り		SI-014と接合
SI-004	16	806	須恵器	杯	14.6	8.3	4.3	70	青灰	青灰		雲母・白色粒子混砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	17	521,776,779,900	須恵器	杯	13.2	−	4.5	80	青灰	青灰		石英少，雲母微粒子多			手持ちヘラケズリ切り離し技法不明		
SI-004	18	717,737,741	須恵器	杯	13.6	8.9	4.1	70	青灰	青灰		砂粒			回転ヘラケズリナデ		一部酸化炎焼成となる器表面磨耗
SI-004	19	669	須恵器	杯	13.1	9.2	3.5	100	灰褐	黒褐・灰褐	密	雲母・砂粒		ナデ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「＝」
SI-004	20	635	須恵器	杯	13.2	8.8	3.9	70	青灰	青灰		雲母微粒子混砂粒			手持ちヘラケズリ		
SI-004	21	770,917	須恵器	杯	11.4	8.2	3.0	50	青灰	青灰		雲母・白色粒子混砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	22	104	須恵器	杯	16.0	10.4	3.8	50	青灰	青灰		雲母微粒子多			回転ヘラ切り離し無調整	外面一部粘土紐痕	
SI-004	23	896	須恵器	杯	11.8	8.0	2.6	100	青灰	青灰		雲母混細砂粒			手持ちヘラケズリ		再利用品
SI-004	24	774,900	須恵器	杯	14.0	9.4	3.9	60	青灰	青灰		雲母微粒子混砂粒多			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	25	754,20U-03	須恵器	杯	12.8	8.6	4.3	30	青灰	青灰		雲母微粒子混細砂粒多			回転ヘラケズリ		
SI-004	26	318,837	須恵器	杯	14.0	9.9	3.0	40	青灰	青灰		雲母微粒子・白色粒子混砂粒			回転ヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	27	703,716-1,901	須恵器	杯	11.8	7.0	3.7	50	青灰	青灰		雲母混細砂粒			回転ヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	28	689	須恵器	杯	−	9.6	2.1	10	青灰	青灰		雲母混細砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明	火襷	
SI-004	29	641,720-3	須恵器	杯	13.6	8.6	3.3	20	青灰	青灰		黒色粒子混細砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	30	752	須恵器	杯	14.4	8.8	4.2	40	青灰	青灰		砂粒			回転ヘラケズリ		線刻火襷
SI-004	31	81	須恵器	杯	14	8.4	3.9	20	青灰	青灰		雲母微粒子混細砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	32	88	須恵器	杯	13.8	9.6	4.4	40	青灰	青灰		黒色粒子混砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	33	803,901	須恵器	杯	13.8	9.0	3.6	10	灰	灰		砂粒			ロクロ成形		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-004	34	572717-2, 900	須恵器	杯	14.0	3.8	3.7	30	青灰	青灰		粗白色粒混砂粒多			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	35	720-3, 723-4	須恵器	杯	16.4	−	2.8	10	青灰	褐・青灰		雲母			ロクロ成形		
SI-004	36	717, 726, 876	須恵器	杯	13.6	8.2	3.7	20	青灰	青灰		砂粒			手持ちヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	37	726	須恵器	杯	−	−	−	10	灰褐	灰褐	密	砂粒・白色粒	ナデ	ナデ	ロクロ成形		墨書
SI-004	38	717-2	須恵器	杯	−	−	−	10	灰白	灰白	密	砂粒	ヘラナデ	ナデ	ロクロ成形		墨書
SI-004	39	757	須恵器	杯	−	10.0	1.1	10	灰褐	褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ	ロクロ成形		ヘラ書き「キ又はサ」
SI-004	40	363, 365, 900, 901, 720-3, 723-4	須恵器	高台付杯	14.4	8.8	5.5	60	青灰	青灰		雲母混砂粒			回転ヘラケズリ		二次的火熱受ける
SI-004	41	494, 900	須恵器	高台付杯	13.8	8.5	4.9	60	青灰	青灰		砂粒			回転ヘラケズリ切り離し不明		
SI-004	42	840, 901	須恵器	高台付杯	12.8	7.6	4.6	10	灰	灰		粗雲母多混砂粒多			回転ヘラケズリ?		
SI-004	43	902, 928, SI005-1, 107	須恵器	蓋	14.2	−	3.2	10	褐・青灰	褐・青灰		白色粒子混砂粒			回転ヘラケズリ		
SI-004	44	271, 717-2, 901, 913	須恵器	蓋	16.4	−	1.4	20	青灰	青灰		砂粒			ロクロ成形		自然釉
SI-004	45	590, 714-1, 776, 901	須恵器	盤	24.2	−	2.8	20	青灰	青灰		砂粒			ロクロ成形		
SI-004	46	482	須恵器	蓋	−	−	3.2	20	青灰	青灰		白色粒子・雲母混砂粒			回転ヘラケズリ		
SI-004	47	510	須恵器	蓋	−	−	2.3	10	青灰	青灰		細砂粒			回転ヘラケズリ		
SI-004	48	522	須恵器	高杯	16.8	3.8	3.8	30	青灰	青灰		雲母混砂粒			ロクロ成形		脚部欠損
SI-004	49	740	土師器	高杯	−	6.6	6.0	20		暗褐	密	雲母・スコリア・砂粒・白色粒		ナデ・指頭圧痕			
SI-004	50	777	土師器	高杯	−	10.2	3.7	10	黒褐	黒褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-004	51	589	須恵器	長頸壺	−	−	3.6	10	青灰	青灰		細砂粒			ロクロ成形		自然釉
SI-004	52	712	須恵器	長頸壺	−	−	13.3	10	青灰	青灰		黒色粒子混砂粒			ロクロ成形		自然釉
SI-004	53	539, 567, 717-2, 719-2, 726, 876, 912, 925, 939	土師器	甕	13.1	−	3.0	10	黒褐	赤褐		細砂粒	ヨコナデ・ナデ	ヘラケズリ			
SI-004	54	300	土師器	甕	11.0	−	6.6	10	暗褐	黒褐・暗褐	密	スコリア・砂粒・黄色粒子	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ			煤付着
SI-004	55	566, 577, 886, 898, 901	土師器	甕	12.4	−	6.7	40	黒褐	赤褐		砂粒	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ			
SI-004	56	586, 714-1	土師器	甕	11.8	−	4.1	10	黒褐	暗褐	密	スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			煤付着
SI-004	57	723-4, 725-4	土師器	甕	11.6	−	4.0	10	暗褐	暗赤褐	粗	砂粒	ナデ	ヘラケズリ			
SI-004	58	867, 905	土師器	甕	13.2	−	2.1	10	暗赤褐	暗赤褐		細砂粒	ヨコナデ・ナデ	ヘラケズリ			
SI-004	59	555	土師器	甕	−	7.6	−	30	褐	暗褐・黒褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ			煤付着
SI-004	60	464, 609, 900, 913	土師器	甕	15.4	−	4.3	10	暗褐	褐・黒褐	密	スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			
SI-004	61	902, 19U-79	土師器	甕	15.4	−	5.4	10	暗褐	赤褐		砂粒	ヨコナデ・ナデ	ヘラケズリ			
SI-004	62	864, 900	土師器	甕	16.4	−	7.1	10	暗赤褐	赤褐		砂粒	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ			
SI-004	63		土師器	甕	19.0	−	5.2	10	暗褐	暗褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	64	712-2, 273, 276, 717-2	土師器	甕	15.2	−	4.2	10	黒褐・赤褐	赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-004	65	546, 586, 643, 714-1, 924, 939	土師器	甕	25.0	−	23.0	40	暗褐	赤褐・暗褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ミガキ			常総型・煤付着
SI-004	66	747, 769, 802, 818	土師器	甕	22.6	−	19.0	20	明赤褐 明赤褐	明赤褐		砂粒多	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ナデ・ヘラミガキ			常総型・煤付着
SI-004	67	642, 832	土師器	甕	23.0	−	8.6	10	暗褐	明褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	68	75, 85, 357	土師器	甕	26.8	−	10.1	10	暗褐	褐	密	雲母・砂粒・白色粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	69	107, 108, 554	土師器	甕	23.4	−	13.8	10	暗褐	明褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ		赤彩?	常総型・煤付着

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-004	70	640,723-4,726,743	土師器	甕	26.0	－	11.8	10	暗褐	暗褐・赤褐	密	雲母・砂粒・白色粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総,煤付着
SI-004	71	717-2,718-2	土師器	甕	28.4	－	8.7	10	褐	赤褐・暗褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ			外面煤付着2次焼成による剥離有り・常総型
SI-004	72	784,786,860	土師器	甕	26.0	－	11.0	10	褐	褐	密	砂粒	ナデ	ナデ			
SI-004	73	70,831,901	土師器	甕	23.4	－	6.1	10	暗褐	暗褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	74	634	土師器	甕	23.1	－	7.5	10	暗褐	暗褐	密	石英・長石・雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	75	662・749	土師器	甕	20.6	－	11.0	10	褐	褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	76	540,657,698,714-1,825	土師器	甕	24.0	－	7.5	20	褐	褐	密	雲母・スコリア・砂粒・白色粒子	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	77	611,720-3,758	土師器	甕	23.0	－	8.5	10	褐	褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	78	880	土師器	甕	22.0	－	6.5	10	褐・赤褐	褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ		赤彩？	常総型・煤付着
SI-004	79	759,901	土師器	甕	24.0	－	8.3	10	褐・赤褐	赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ			外面煤付着・常総型
SI-004	80	647	土師器	甕	24.1	－	5.9	10	褐	褐		雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	81	736,760	土師器	甕	23.2	－	5.8	10	褐	明褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			内面付着物有・常総型
SI-004	82	605	土師器	甕	22.6	－	5.3	10	暗褐・黒褐	暗褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型
SI-004	83	877・884	土師器	甕	－	9.8	9.5	20	褐	褐,赤褐・黒褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ	ミガキ・ナデ			常総型
SI-004	84	547・692・723-4	土師器	甕	21.0	－	6.2	10	橙褐	褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			常総型・内面線刻のような物？
SI-004	85	761	土師器	甕	－	9.4	5.0	10	灰褐	褐	密	スコリア・砂粒・白色粒	ナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	86	822,901	土師器	甕	－	8.2	3.9	10	褐	暗褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ			
SI-004	87	720-3,739	土師器	甕	－	9.0	12.1	10	暗褐	黒褐・赤褐	密	砂粒多	ナデ・ヘラナデ	ミガキ		底部木葉痕・赤彩	常総型
SI-004	88	557,561,562,619,649,900,901,912,914	土師器	甕	－	9.4	10.6	40	暗褐	暗赤褐	密	雲母・砂粒	ヘラナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	89	601,900	土師器	甕	－	8.8	1.8	10	暗褐	赤褐	密	砂粒	ナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	90	171	土師器	甕	－	8.0	2.2	20	赤褐	暗褐・赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ			煤付着
SI-004	91	645,SI005-107	土師器	甕	－	6.4	2.4	10	暗褐	黒褐黒褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ			
SI-004	92	866,900	土師器	甕	－	8.1	8.2	20	黒褐	赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	93	593	土師器	甕	－	8.2	6.2	10	黒褐	暗赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	94	783	土師器	甕	－	9.2	2.2	20	赤褐	赤褐	密	雲母・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	95	418,714-1,720-3,849,901	土師器	甕	－	9.0	6.7	20	暗褐	暗褐	密	スコリア・砂粒	ナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	96	542,901	土師器	甕	－	9.0	5.8	10	褐	黒褐・赤褐	密	雲母・砂粒・白色粒	ナデ	ヘラミガキ		底部木葉痕	常総型・線刻？
SI-004	97	794	土師器	甕	－	8.2	4.1	20	暗褐・黒褐	暗褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ		底部木葉痕	常総型・砥石に転用？
SI-004	98	691	土師器	甕	－	9.2	2.9	20	褐・暗褐	褐・明褐	密	雲母・砂粒・白色粒	ナデ・ヘラナデ	ヘラミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-004	99	574,778,864,900	須恵器	甕	21.7	－	5.0	10	青灰	青灰		雲母・白色粒子混砂粒多			ロクロ成形		
SI-004	100	573,600,781,793,841,843,900,913	土師器	甑	30.0	－	9.1	30	褐	暗褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ			常総型・煤付着
SI-004	101	559,714-1	土師器	甑	－	12.2	9.4	10	暗褐	暗褐・赤褐	密	砂粒多	ナデ・ケズリ	ヘラケズリ			常総型
SI-004	102	525,563,714-1,721-3,773,854,900,901,913,914	須恵器	甑	28.2	12.5	26.0	10	暗青灰	暗青灰		白色粒子多混粗砂粒	ナデ・ヨコナデ	タタキ・ヘラケズリ			
SI-004	103	603,663,720-3	須恵器	甑	32.0	－	19.9		青灰	青灰		砂粒	ナデ	タタキ			
SI-004	104	676,702,724-2,861	須恵器	甑	32.8	－	9.2	20	青灰	青灰		白色粒子多混砂粒	ヨコナデ・ナデ	タタキ			

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-004	105	569, 717-2, 900	須恵器	甑	33.9	－	11.3		青灰	青灰		雲母混細砂粒	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・タタキ			
SI-004	106	272	須恵器	甑	－	17.3	13.7	10	青灰	青灰		白色粒子多混砂粒	ナデ・ヘラケズリ	タタキ・ヘラケズリ			

SI005土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-005	2	9	須恵器	杯	11.8	7.6	3.1	50	灰褐	淡黒褐・灰褐	密	白雲母多, 砂粒			手持ちヘラケズリ		全体磨耗著しい
SI-005	3	25	須恵器	杯	14.6	9.2	4.5	30	黒褐	暗黄褐	密	砂粒			ヘラケズリ		
SI-005	4	66, 106	土師器	杯	－	7.6	1.0	30	明褐・褐	明褐	密	雲母・スコリア・砂粒多		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ切り離し不明		墨書「与」
SI-005	5	5	須恵器	蓋	15.9	－	2.6	13	青灰	青灰	密	砂粒			回転ヘラケズリ		
SI-005	6	8	須恵器	甕	50.4	－	7.1	10	灰褐	灰褐	密	白雲母多, 砂粒			ロクロ成形	外面波状紋（3段）	

SI006土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-006	1	15	土師器	高杯	16.7	－	5.5	30	赤褐・黒褐	赤褐・黒褐	密	砂粒	ミガキ		ロクロ成形	赤彩	
SI-006	2	1, 2, 4, 8, 14	土師器	甕	14.8	－	21.3	30	黒褐・赤褐	黒褐・暗赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ミガキ			

SI007土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-007	1	65, 0-4	土師器	杯	12.3	－	4.3	100	暗褐	暗赤褐・黒褐	密	砂粒	ヘラミガキ	ナデ・ヘラケズリ	切り離し不明	黒色処理？	
SI-007	2	66, 0-4	土師器	杯	11.6	－	6.4	50	暗褐・黒褐	明褐・暗褐	密	砂粒	ナデ・ケズリ	ナデ・ヘラケズリ		赤彩	
SI-007	3	67, 88, 0-4	土師器	甕	19.5	－	25.5	30	暗褐	暗赤褐・黒褐	密	砂粒	ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	切り離し不明		
SI-007	4	34, 69, 0-3	土師器	高杯	－	－	77.8	10	明褐	明褐	密	細砂粒	刷毛目・ナデ	ナデ			
SI-007	5	59, 72	土師器	甕	21.0	8.1	33.5	80	赤褐	赤褐	密	砂粒多	ナデ	ヘラケズリ			
SI-007	6	70	須恵器	はそう	14.4	－	15.8	10	灰褐・青灰・緑	灰褐・青灰・緑	密	細砂粒		刷毛目	回転ヘラケズリ		灰釉
SI-007	7	75	手捏土器		7.6	6.2	2.6	30	暗褐	赤褐	密	砂粒	ナデ	ナデ	無調整		
SI-007	8	71	手捏土器		7.8	6.8	2.1	30	黄褐	黄褐	密	砂粒	ナデ	ナデ	無調整		
SI-007	9	56	手捏土器		5.3	4.6	2.0	30	暗褐	暗褐・赤褐	密	砂粒	ナデ	ナデ	無調整		底部線刻
SI-007	10	81, 82	手捏土器		5.3	4.9	2.3	100	明褐	明褐	密	砂粒	ナデ	ナデ	無調整		
SI-007	11	44, 0-3	須恵器	杯	14.2	－	3.2	10	黒褐	黒褐	密	雲母・砂粒			ロクロ成形	黒色処理？	
SI-007	12	0-4	須恵器	長頸壺？	11.0	－	1.2		灰褐・緑	灰褐	密	砂粒			ロクロ成形	自然釉	

SI009土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-009	1	17, 21	陶器	碗	16.0	7.2	5.2	80	灰白・緑	灰白・緑	密	砂粒			ロクロ成形		灰釉
SI-009	2	1, 18	陶器	碗	14.0	6.8	4.3	70	灰褐・緑	灰褐・緑	密				ロクロ成形		灰釉
SI-009	3	21	土師器	杯	－	7.8	1.4	10	明褐	褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き?墨書

SI011土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-011	1	3	土師器	杯	－	－	－	－	淡褐	淡褐	密	砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ			墨書「大」

SI012土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-012	1	24	土師器	杯	12.6	－	4.1	100	暗褐	褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ミガキ？	ヘラケズリ・ナデ			線刻・黒斑有り
SI-012	2	9, 17, 27, 28, 37	土師器	杯	13.6	－	4.6	100	暗赤褐	暗赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ミガキ	ヘラケズリ・ミガキ・ナデ		黒色処理	
SI-012	3	17, 18	土師器	杯	14.4	－	3.7	10	黒褐・暗赤褐	黒褐・暗赤褐	密	砂粒	ミガキ	ヘラケズリ・ミガキ・ヨコナデ		黒色処理	
SI-012	4	25	土師器	杯	12.6	－	3.9	100	明褐・黒褐	赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ミガキ・ナデ		赤彩	
SI-012	5	1	須恵器	杯	13.8	7.4	4.25	40	暗灰黄	灰褐	粗	雲母・スコリア・砂粒	ヘラケズリ		手持ちヘラケズリ		
SI-012	6	19	土師器	小型土器	3.4	－	3.6	100	褐	褐・黒褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ		穿孔2箇所有り	
SI-012	7	28	土師器	甕	－	8.4	19.4	60	暗褐・黒褐	暗褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ			

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-012	8	1,2,16	須恵器	甕	−	−	11.6	20	黒褐	褐灰	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・タタキ	ヘラケズリ		
SI-012	12	15,26	土師器	甕	−	6.2	18.6	40	暗褐	赤褐		砂粒	ナデ・輪積痕	ヘラミガキ			

SI013土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-013	1	61,09-3	土師器	杯	13.0	8.3	4.2	60	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒			手持ちヘラケズリ静止糸きり	赤彩	線刻？油煙付着 擦痕有
SI-013	2	33,72,482	土師器	杯	13.4	8.8	3.8	90	にぶい赤褐	赤	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・静止糸切り	赤彩	黒い付着物有り
SI-013	3	206	土師器	杯	13.7	7.7	4.3	70	赤	明赤褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	赤彩	
SI-013	4	88,458,03-1,05-2,06-2	土師器	杯	13.2	7.7	4.1	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ静止糸切り	赤彩	ヘラ書き,SI-013と接合
SI-013	5	185,04-2,07-3	土師器	杯	14.2	9.2	4.3	30	にぶい橙	明赤褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ静止糸切り	赤彩	線刻
SI-013	6	07-3,08-3,09-3	土師器	杯	14.0	8.5	4.1	20	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	赤彩	SI-007と接合
SI-013	7	73,181,182,07-3,08-3,010-4	土師器	杯	12.8	9.0	3.9	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・静止糸切り	赤彩	油煙付着
SI-013	8	228,390,396,495,002-1	土師器	杯	13.6	9.3	3.8	70	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒			手持ちヘラケズリ静止糸切り	赤彩	
SI-013	9	244,010-4,012-4	須恵器	杯	12.6	8.0	4.3	30	灰褐	灰褐	密	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・静止ヘラキリ		
SI-013	10	217,05-2,06-2,014-5	須恵器	杯	14.8	9.2	3.1	50	灰褐	灰褐	密	雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	11	283	須恵器	杯	13.6	7.6	3.6	20	青灰	青灰	密	雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・静止ヘラキリ		
SI-013	12	113,114,012-4	須恵器	杯	14.0	8.2	4.5	90	青灰	青灰	密	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	13	254,010-4	須恵器	杯	13.7	7.6	4.0	80	青灰	灰褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻
SI-013	14	20,07-3,08-3	須恵器	杯	13.6	8.0	4.0	40	青灰	青灰	密	砂粒			手持ちヘラケズリ		
SI-013	15	198,04-2,05-2	須恵器	杯	13.2	7.2	4.0	40	灰褐	灰褐	密	雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・ヘラきり		
SI-013	16	111,115,292	須恵器	杯	13.4	5.7	4.7	50	青灰	青灰	密	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	17	110,011-4	須恵器	杯	15.1	7.8	3.7	100	暗褐・黒褐	暗褐・黒褐	密	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	18	426,432,495,013-5	須恵器	杯	13.9	8.0	3.7	70	灰褐	黒褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		口縁に油煙付着・灯明器
SI-013	19	292,316,010-4,011-4	須恵器	杯	13.8	8.0	3.7		青灰	青灰	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	20	289,489	須恵器	杯	11.5	6.8	3.3	100	黒褐	黒褐	密	砂粒・白色粒			手持ちヘラケズリ		ヘラ書き
SI-013	21	288,06-2	須恵器	杯	14.2	7.8	3.5	90	青灰	青灰	密	雲母・砂粒・黒色粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ・回転ヘラケズリ		線刻「井」
SI-013	22	291	須恵器	杯	13.4	7.9	4.3	70	青灰	青灰	密	雲母・砂粒・小石		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	23	42,50,230	須恵器	杯	13.9	7.4	4.4	80	灰褐	灰褐	密	雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・ヘラキリ		
SI-013	24	456	須恵器	杯	13.8	6.6	3.7	70	灰褐	灰褐	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「人」
SI-013	25	143,292,013-5	須恵器	杯	13.5	7.5	3.8	40	灰白	灰白	密	砂粒		ヘラケズリ	ヘラキリ・手持ちヘラケズリ		
SI-013	26	187	須恵器	杯	14.4	8.2	4.5	50	灰褐	灰褐	粗	雲母・砂粒・白色粒多		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	27	167,266,495,012-4,015-5	須恵器	杯	13.0	7.4	3.4	40	灰褐	灰褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	28	293	須恵器	杯	13.6	7.3	4.1	60	灰褐	灰褐	密	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-013	29	282, 389, 510, 04-2	須恵器	杯	13.4	7.6	3.8	80	灰褐	灰褐	密	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・静止ヘラ切り		
SI-013	30	53, 410	須恵器	杯	15.0	8.8	4.3	40	黒褐・青灰	黒褐・青灰	密	砂粒		ヘラケズリ	ヘラケズリ	火襷	
SI-013	31	−	須恵器	杯	−	7.6	1.8	30	青灰	青灰	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き
SI-013	32	112	須恵器	杯	−	7.6	1.8	25	青灰	青灰	密	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	
SI-013	33	469, 001-1, 013-5	須恵器	杯	−	7.1	1.9	20	褐灰	灰	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「人」
SI-013	34	180	須恵器	杯	−	6.8	1.9	30	褐灰	褐灰	密	砂粒		ヘラケズリ	ヘラケズリ		ヘラ書き「人」
SI-013	35	380, 010-4, 011-4, 012-4	須恵器	杯	−	7.8	3.7	30	青灰	青灰	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	静止ヘラキリ・手持ちヘラケズリ		ヘラ書き
SI-013	36	92, 342	須恵器	杯	−	8.0	3.7	30	灰褐	灰褐	粗	砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-013	37	010-4, 012-4	須恵器	杯	−	7.6	1.6	10	灰褐	灰褐	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-013	38	392	須恵器	杯	−	8.8	1.2	10	褐灰	褐灰	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		線刻(人)
SI-013	39	011-4	須恵器	杯	−	−	3.1		褐灰	褐灰	密	雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			漆付着
SI-013	40	001-1	須恵器	杯	−	−	1.8		灰黄褐	灰黄褐	密	砂粒	ナデ	ナデ			漆付着
SI-013	41	010-4, 012-4, 014-5	須恵器	蓋	16.0	6.6	2.4	10	灰褐	灰褐	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-013	42	292, 334, 06-2, 08-3	須恵器	蓋	15.0	7.9	2.8	40	青灰	青灰	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-013	43	183, 184, 231, 364, 06-2, 07-3	須恵器	蓋	18.9	10.9	3.5	50	青灰	青灰	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-013	44	04-2, 05-2, 07-4, 09-3, 010-4	須恵器	蓋	14.7	−	2.2	30	黄灰	黄灰	密	砂粒		ヘラケズリ			
SI-013	45	77, 84, 011-4	須恵器	高台付杯	18.4	11.6	7.3	80	黄灰褐	黄灰褐・黒褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ・ヘラキリ	黒色処理？	
SI-013	46	22, 23, 05-2	須恵器	高台付杯	10.8	6.4	3.4	50	青灰	青灰	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ無調整		
SI-013	47	251, 010-4, 013-5	須恵器	杯	16.4	−	5.0	30	灰褐	灰褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	ロクロ成形		
SI-013	48	426	須恵器	高杯	−	−	2.8	10	黄灰	黄灰	密	砂粒・白色粒	ナデ	ナデ		透かし	
SI-013	49	363, 495, 015-5	須恵器	高杯	−	−	5.0	10	黄灰	黄灰	密	砂粒・白色粒	ナデ	ナデ			
SI-013	50	171	須恵器	高杯	−	−	5.2	10	青灰	青灰	密	砂粒			ロクロ成形		自然釉
SI-013	51	227, 280, 001-1	土師器	鉢	16.3	−	7.2	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ナデ		赤彩	
SI-013	52	125, 139, 265, 292, 393, 495, 010-4, 011-4, 012-4	土師器	鉢	20.6	8.2	9.8	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒・白色粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	ヘラケズリ	赤彩	
SI-013	53	168, 015-5	須恵器	長頸壺	−	−	6.2	10	灰褐	黒褐・灰褐	密	砂粒			ロクロ成形		自然釉
SI-013	54	361, 04-2, 05-2, 06-2, 07-3, 08-2, 08-3, 013-5	土師器	甕	11.0	−	31.5	20	にぶい褐	にぶい褐 にぶい褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ			常総型
SI-013	55	271, 273	土師器	甕	22.1	−	14.5	10	にぶい褐	にぶい褐	密	砂粒	ヘラナデ	ナデ			常総型
SI-013	56	31, 124	土師器	甕	22.0	−	7.4	10	にぶい褐	にぶい褐	密	砂粒	ヘラナデ	ナデ		赤彩	常総型
SI-013	57	284, 06-2, 09-3	土師器	甕	14.5	−	11.0	30	黒褐	赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ			常総型・内面一部煤付着
SI-013	58	04-2, 06-2, 09-3, 010-4	土師器	甕	−	9.8	7.8	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-013	59	74	土師器	甕	−	6.2	4.3	30	褐	灰褐・明赤褐	密	雲母・白色粒	ナデ	ヘラケズリ			
SI-013	60	81, 296	須恵器	甑	34.6	−	13.8	10	灰黄褐	灰	密	砂粒	ナデ	タタキ			116・216同一
SI-013	61	139, 149, 174, 394, 10-4	須恵器	甑	−	15.1	13.0	20	黄灰	灰黄褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラケズリ	タタキ・ヘラケズリ			116・216同一
SI-013	62	186, 233, 235, 296, 325, 365, 04-2, 07-3, 10-4	須恵器	甑	36.3	−	22.5	20	灰	灰黄褐	密	雲母・砂粒・白色粒	ナデ	タタキ・ナデ			

SI014土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-014	1	32, 230	土師器	杯	15.5	10.4	6.0	90	にぶい褐	にぶい橙	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-014	2	31, 72	土師器	椀	12.4	7.6	4.6	10	褐灰	褐灰	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-014	3	40, 42, 203	土師器	杯	11.8	−	4.1	20	黒褐	にぶい褐・灰褐	密	スコリア・砂粒	ナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-014	4	5, 41, 291	土師器	杯	11.2	4.8	4.1	60	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ミガキ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		輪積痕残存
SI-014	5	8, 37, 39, 40	土師器	杯	12.6	7.6	4.2	20	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	スコリア・砂粒	ミガキ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ・静止ヘラキリ		
SI-014	6	172	土師器	杯	12.8	9.6	4.4	30	にぶい褐	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ		手持ちヘラケズリ		
SI-014	7	353, 360	須恵器	杯	12.8	9.4	3.9	30	黄灰	灰黄褐	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリナデ	火襷	
SI-014	8	173	須恵器	杯	12.8	7.6	3.9	90	灰黄褐・黄灰	灰・褐灰	密	白雲母多, 砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-014	9	224	須恵器	杯	14.7	9.6	4.4	100	灰黄・褐灰	にぶい黄橙・褐灰	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理？	
SI-014	10	32, 239	須恵器	杯	12.4	8.2	3.8	50	にぶい黄橙	灰黄	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	
SI-014	11	65, 391	須恵器	杯	12.9	7.8	4.1	40	褐灰	黄灰	密	雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-014	12	14	須恵器	杯	13.4	7.6	4.2	40	褐灰	黄灰	密	雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリナデ		
SI-014	13	382	須恵器	杯	13.0	−	3.5	10	灰黄	灰黄	密	砂粒	ヨコナデ			火襷	
SI-014	14	32, 90, 93, 99, 103, 290	須恵器	杯	13.4	7.0	3.5	30	灰黄褐	にぶい黄橙	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	
SI-014	15	36, 37, 38, 40	須恵器	杯	13.4	−	4.3	30	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	雲母・砂粒			ロクロ成形		線刻
SI-014	16	28	須恵器	杯	13.8	7.7	4.4	80	灰黄褐	灰黄褐・褐灰	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・回転糸切り		ヘラ書き
SI-014	17	271	須恵器	杯	−	7.4	2.9	40	灰黄褐	黄灰・暗灰	密	白雲母多, 砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内面油煙か？
SI-014	18	36, 289	須恵器	杯	−	7.0	0.9	20	灰黄褐	黄灰	密	砂粒			ヘラケズリ・回転ヘラキリ		ヘラ書き「方」
SI-014	19	31, 32, 41, 94	須恵器	蓋	15.0	−	3.0	40	灰	黄灰	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-014	20	122	須恵器	盤	−	11.2	3.4	60	黄灰	暗灰黄	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	高台貼付け		高台を貼付け
SI-014	21	213	土師器	高台付杯	−	6.8	1.8	20	明赤褐	明赤褐	密	雲母・砂粒・白色粒		ナデ	ロクロ成形		墨書「与」
SI-014	22	38, 42, 44, 140, 268, 269	土師器	甕	22.2	7.6	30.4	70	にぶい黄褐・黒褐	灰褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ		底部木葉痕	常総型
SI-014	23	278	土師器	甕	12.2	−	4.8	10	灰褐	にぶい赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			
SI-014	24	16	土師器	甕	12.8	−	2.4	10	黄褐	灰黄褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-014	25	294	土師器	甕	14.8	−	4.9	10	黒褐・赤褐	にぶい赤褐・赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ			内面炭化物付着
SI-014	26	25, 33, 41	土師器	甕	21.0	−	6.9	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐・灰褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-014	27	250	土師器	甕	−	7.0	2.1	10	にぶい黄褐	にぶい褐・褐灰	密	雲母・砂粒・小石	ナデ	タタキ・ナデ		底部木葉痕	常総型
SI-014	28	38	土師器	甕	−	7.0	2.1	10	褐灰	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒・小石	ナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-014	29	31, 32, 102, 115, 195, 229, 288, 291, 331	土師器	甕	21.2	−	24.8	30	灰褐	灰褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			常総型
SI-014	30	32, 42, 175, 291	土師器	甕	−	9.6	5.3	10	にぶい褐	にぶい褐・にぶい赤褐	密	雲母・砂粒・小石	ナデ	ミガキ		底部木葉痕	常総型
SI-014	31	31, 32, 89, 116, 290, 331	土師器	甕	21.0	−	21.6	30	灰褐・にぶい褐	にぶい褐・にぶい赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ			常総型・土器面一部磨耗
SI-014	32	31, 38, 64, 86, 205, 289	須恵器	甕	22.4	−	8.4	30	灰褐	灰褐	密	雲母・砂粒・小石		タタキ・ナデ			

SI015土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-015	1	32, 160, 4-2, 6-3, 8-4	土師器	杯	15.4	7.6	5.1	50	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-015	2	86, 153	土師器	杯	−	7.0	3.5	10	褐	褐灰	密	白雲母・スコリア・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-015	3	139, 1-1, 8-4	土師器	杯	−	7.2	2.5	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	白雲母・スコリア・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		線刻
SI-015	4	81, 1-1	土師器	杯	−	7.0	1.9	10	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き
SI-015	5	143	土師器	杯	−	7.3	1.1	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒	ナデ・ミガキ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻「+(×)」
SI-015	6	5-3	土師器	杯	−	6.2	1.5	10	褐	にぶい赤褐	密	長石・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ			線刻
SI-015	7	3-2	土師器	杯	−	−	−	10	にぶい褐	にぶい橙	粗	長石	ナデ	ナデ			線刻
SI-015	8	62, 141, 8-4	須恵器	蓋	−	−	3.1	30	黄灰	灰黄褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ	ロクロ成形	火襷	
SI-015	9	85	須恵器	杯	12.8	7.1	3.9	100	にぶい黄橙	灰黄褐・にぶい黄褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・回転ヘラキリ	火襷	
SI-015	10	89, 1-1, 5-3	須恵器	杯	11.4	7.1	3.9	70	暗灰	黒褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-015	11	195	須恵器	杯	11.2	6.6	3.5	25	褐	にぶい褐・黒褐	密	砂粒・小石		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き
SI-015	12	163, 6-3	須恵器	杯	11.8	8.8	3.8	40	黄灰	黄灰・にぶい赤褐	密	砂粒			手持ちヘラケズリ		
SI-015	13	6-3	須恵器	甕	−	−	−	-	黄灰	にぶい赤褐	密	石英・スコリア・砂粒	ナデ				ヘラ書き
SI-015	14	124, 4-2, 7-2, 8-4	須恵器	高台付杯	16.2	−	5.1	30	にぶい黄橙・灰褐	灰黄褐	密	砂粒			ロクロ成形		
SI-015	15	188	須恵器	高台付杯	−	6.6	2.2	40	灰黄褐	灰褐	密	砂粒			回転糸切り		ヘラ書き「+(×)」
SI-015	16	170	土師器	香炉(?)	−	−	4.9	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	スコリア・砂粒		ミガキ	ロクロ成形		
SI-015	17	166, 192, 193	土師器	甕	11.1	−	5.9	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			内面煤付着
SI-015	18	173, 7-4	須恵器	甑	−	14.4	7.8	30	黒褐	褐灰	密	スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・タタキ	ナデ		五孔
SI-015	19	15, 28, 3-2, 4-2	須恵器	甕	−	12.6	6.8	10	明赤褐・にぶい褐	にぶい赤褐	密	砂粒・白色粒	ナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ナデ	ナデ		
SI-015	20	137, 170, 174, 190, 3-2, 4-2, 7-4, 8-4	須恵器	甑	28.6	15.3	25.3	30	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	砂粒	ナデ・ケズリ	ヘラケズリ・タタキ・ナデ			
SI-015	21	57, 121, 122, 123, 149, 5-3, 6-3	須恵器	甑	34.0	−	27.6	10	褐灰	灰黄灰黄褐・赤褐	密	白雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ケズリ	ヘラケズリ・タタキ・ナデ			

SI016土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-016	1	18	須恵器	杯	13.3	6.7	4.0	55	褐灰	黄灰・褐灰	密	長石・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「+(×)」
SI-016	2	84	須恵器	杯	13.5	6.7	4.4	45	黄灰	黄灰・灰黄褐	密	長石・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ・手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「+(×)」
SI-016	3	85	須恵器	杯	12.5	6.0	4.4	80	灰黄褐	にぶい褐	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-016	4	100	須恵器	杯	13.4	7.5	4.3	100	黄灰・にぶい赤褐	褐灰・にぶい赤褐	密	スコリア・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ・回転ヘラケズリ		
SI-016	5	1	須恵器	杯	11.5	6.8	3.6	10	黄灰	黄灰	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ・ヘラケズリ		
SI-016	6	21	須恵器	蓋	11.0	−	2.1	20	灰黄褐・灰	灰黄褐	粗	砂粒		ヘラケズリ・ナデ	ロクロ成形		
SI-016	7	1, 71	須恵器	蓋	11.9	−	2.1	20	灰	褐灰	密	砂粒		ヘラケズリ	ロクロ成形		
SI-016	8	13, 73, 102, 128, 132, 134, 138, 145	土師器	甕	19.7	7.4	32.3	75	にぶい褐	にぶい褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ミガキ・ナデ	無調整		常総型
SI-016	9	10, 17, 56, 71, 72, 73, 77, 130, 137, 138	土師器	甕	20.8	−	9.0	10	灰褐	灰褐・にぶい赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ			
SI-016	10	54, 115, 126, 132	須恵器	甕	−	15.8	2.9	5	褐・にぶい赤褐	褐	粗	長石・雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ			線刻

SI017土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-017	1	393	土師器	杯	12.7	4.1	4.8	60	褐灰・にぶい褐	にぶい赤褐・褐灰		砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	2	309	土師器	杯	12.2	2.2	4.9	10	褐灰	灰褐	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	3	257	土師器	杯	11.6	−	4.7		灰赤	灰褐・黒褐	密	砂粒	ナデ・ヘラナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ミガキ・ナデ			
SI-017	4	394, 411, 485	土師器	杯	12.0	3.5	5.0	20	にぶい赤褐・褐灰	にぶい赤褐・灰	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ	ロクロ成形		
SI-017	5	281, 370	土師器	杯	15.2	5.6	5.5	10	にぶい褐	明赤褐		スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	6	281, 492	土師器	杯	13.6	3.0	4.0	-	にぶい赤褐	明赤褐	密		ナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	7	175, 281, 322	土師器	杯	12.8	4.0	3.0	20	にぶい褐	にぶい褐	密	砂粒	ナデ・ミガキ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	8	151, 281	土師器	杯	12.6	−	3.6	10	にぶい赤褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	ヘラケズリ		ロクロ成形		
SI-017	9	110	土師器	高杯	−	−	5.6	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ			
SI-017	10	405, 406, 407, 453, 456, 457, 458, 463, 464, 465, 466, 467, 482	土師器	甕	14.2	6.4	30.7	90	褐灰	にぶい赤褐・褐灰・黒褐	密	雲母・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
SI-017	11	281, 323, 413	土師器	甕	17	7	28.4	60	にぶい黄褐	にぶい黄褐・褐灰	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
SI-017	12	34, 35, 56, 281, 不明	土師器	甕	23.2	−	23.6		灰褐	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒		ヘラナデ			
SI-017	13	268, 281, 398	土師器	甕	−	10	12.5	20	にぶい褐	灰褐・にぶい褐	密	石英・雲母・砂粒	ヘラナデ	ミガキ			木葉痕
SI-017	14	415	土師器	甕	15.3	−	14.2	50	にぶい褐	にぶい褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ			
SI-017	15	281, 422	土師器	甕	−	7.6	19.9	-	褐灰	黒褐	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	16	281, 399, 401, 402, 419, 421, 437	土師器	甕	14.8	8.1	9.5	70	灰褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	17	2, 4, 7, 18, 211, 237, 281, 282	土師器	甑	30	−	19.9	30	にぶい赤褐	にぶい橙	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ			
SI-017	18	267, 281, 436, 441, 442, 445, 450, 456, 468, 470, 472, 475, 486, 487, 489	土師器	甑	29.8	−	24.5	60	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ミガキ・ナデ	ヘラケズリ			
SI-017	19	73, 251, 281, 288, 334, 358, 413	土師器	甑	28	−	20	60	にぶい赤褐	にぶい褐・明赤褐・暗灰	密	砂粒	ナデ・ミガキ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-017	23	281, 282	土師器	杯	15.2	4.2	3.4	10	赤褐	赤褐	粗	砂粒	ミガキ	ヘラケズリ？・ミガキ？	ナデ	赤彩	
SI-017	24	248, 281	土師器	杯	19.2	18.0	2.9		赤褐	にぶい赤	密	砂粒	ミガキ	ヘラケズリ・ミガキ	ナデ	赤彩	
SI-017	25	281, 329, 345	須恵器	杯	14.9	6.0	3.7	30	黄灰	灰黄褐	密	石英・雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	26	281, 282, 298, 318, 341, 411	須恵器	杯	12.7	7.7	4.5	40	黄灰	黄灰	密	砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラ切り 回転ヘラケズリ		
SI-017	27	281, 372	須恵器	杯	13.7	7.6	3.8	50	灰黄	灰黄褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-017	28	180, 281	須恵器	杯	12.2	6.0	3.7	10	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-017	29	281, 375	須恵器	杯	14.6	8.4	4.0	20	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・雲母・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ 手持ちヘラケズリ		
SI-017	30	16, 282	須恵器	杯	13.6	7.8	4.4	30	黄灰	灰黄褐	密	石英・砂粒・白色粒		ヘラケズリ	回転ヘラキリ 手持ちヘラケズリ		
SI-017	31	227, 232, 281, 282	須恵器	杯	13.0	7.5	3.5	40	褐灰	にぶい褐	密	雲母・スコリア・砂粒			回転ヘラケズリ		外面磨耗著
SI-017	32	344	須恵器	高台付杯	13.9	9.0	3.6	30	灰黄褐	黄灰	密	砂粒			ロクロ成形		
SI-017	33	327	須恵器	蓋	−	−	1.8		褐灰	にぶい赤褐・黒褐	密	雲母・スコリア・砂粒		ヘラケズリ	ロクロ成形		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-017	34	321	須恵器	蓋	13.0	－	1.4		灰白	灰黄褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ・ナデ	ロクロ成形		
SI-017	35	199, 219, 251, 281, 283	須恵器	蓋	15.0	－	2.4		灰黄褐	灰黄褐	密			ヘラケズリ	ロクロ成形		
SI-017	36	113	須恵器	壺	10.6	－	7.9	10	黄灰	灰黄褐	密	雲母・砂粒	ナデ		ロクロ成形	内面輪積痕	
SI-017	37	107	須恵器	甑	－	15.0	0.8		灰	灰黄褐	密	雲母・砂粒	ナデ	ヘラケズリ			

SI018土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-018	1	16, 19, 55	土師器	杯	12.6	8.0	3.8	20	褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-018	2	4, 40-3	土師器	杯	－	9.4	1.2	10	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		墨書「千」
SI-018	3	9	須恵器	杯	12.4	7.1	4.0	100	黄灰	黄灰	密	スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラキリ 手持ちヘラケズリ		
SI-018	4	26	須恵器	杯	13.2	7.7	3.8	50	灰黄褐	灰黄褐	密	長石・雲母・砂粒	ナデ	ナデ	回転ヘラキリ 回転ヘラケズリ		
SI-018	5	23, 55	須恵器	杯	－	6.5	－	20	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密		ナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラキリ・回転ヘラケズリ		
SI-018	6	44-4	須恵器	杯	－	－	－	－									線刻「＋(×)」
SI-018	7	34-1, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 54, 55, 58, 59	須恵器	甕	22.2	－	21.0	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-018	8	6, 25, 30, 36-1, 56	須恵器	甕	－	14.6	19.2	10	暗灰黄	灰黄褐	密	砂粒	ヘラナデ・タタキ・当て具痕	タタキナデ			

SI019土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-019	1	16, 18, 44	土師器	杯	14.5	7.6	4.5	40	にぶい褐	明赤褐	密	雲母・砂粒		ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		ヘラ書き「ノ」
SI-019	2	46	須恵器	杯	14.0	8.2	4.3	20	黄灰	黄灰	密	砂粒	ナデ・ケズリ		回転ヘラキリ 回転ヘラケズリ		
SI-019	3	35	土師器	甕	13.0	－	4.4	10	暗灰黄	灰褐	密	砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ			2次的被熱による器面荒れ

SI020土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-020	1	2, 14	土師器	高坏	－	－	5.6	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ	ナデ・ケズリ		輪積痕
SI-020	2	1, 5	土師器	壺	9.7	2.9	11.2	80	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	赤彩	
SI-020	3	3, 14	土師器	甕	－	6.0	13.0	30	灰褐	褐灰	密	砂粒	ヘラナデ		手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-020	4	4, 14	土師器	甕	－	7.0	19.1	30	にぶい赤褐	褐灰	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	手持ちヘラケズリ		

SI021土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-021	1	2, 29, 31, 32, 33, 37, 39, 157, 160	土師器	高坏	11.3	9.0	9.4	80	淡赤褐	赤褐		砂粒・雲母	ヘラケズリ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ・			
SI-021	2	1, 4, 5, 14	土師器	高坏	16.4	－	4.0	30	淡褐色・赤褐	淡褐色・赤褐		乳白色微細粒少	ナデ	ヘラケズリ・ナデ		赤彩	
SI-021	3	7, 2, 22, 23, 41, 40, 49, 45,	土師器	高杯	17.2	－	4.8	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密		ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		赤彩	一部煤付着
SI-021	4		土師器	壺	6.0	－	4.3	10			密	雲母	ナデ・ヘラナデ	ナデ		赤彩	
SI-021	5	25	土師器	小型甕	12.8	4.5	9.3	100	暗褐	暗褐		砂粒少	ヘラケズリ	ヘラケズリ・ナデ			坩？
SI-021	6	4, 18, 37	土師器	坩	14.8	3.0	7.3	100	赤褐・暗褐	赤褐・暗褐		乳白色微細粒・赤色スコリア	ヘラナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-021	7		土師器	甕	15.7	－	－	20	にぶい赤褐	赤褐	密		ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ			
SI-021	8	4, 19	土師器	坩	11.6	－	7.5	80	暗褐・黒褐	暗赤褐・黒褐		乳白色微細粒・赤色スコリア少	ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ			刻文

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-021	9	1,7,9,10	土師器	杯	14.8	8.2	4.0	70	淡赤褐	淡赤褐・黒褐		赤色スコリア・石英	ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-021	10	1,2,118,119,120,122,124	土師器	杯	15.0	9.4	5.1	10	暗褐	赤褐		砂粒・赤色スコリア・乳白色微細粒	ナデ	ヘラケズリ			
SI-021	11	7,152	須恵器	杯	13	8	3.6	40	黄灰	黄灰	密	長石	ナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-021	12	114	須恵器	高台付杯	−	7.4	−	20	灰黄褐	黄灰	密				回転ヘラケズリ・ナデ		
SI-021	13	1,2,3,6,7,9,104,105,107,108,109,116,148,149,150,155	土師器	甕	17.0	8.2	33.6	80	暗褐・黒	暗褐・黒		乳白色微細粒・赤色スコリア	ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ			
SI-021	14	1,8,9,131,132,140	土師器	甕	21.2	−	31.6	40	赤暗褐	暗赤褐・黒褐		雲母・小石	ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ・ミガキ			

SI025土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-025	1	8,18	土師器	杯	12.6	6.8	4.3	100	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒・スコリア	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリナデ		
SI-025	2	17,20,19T-95-1	土師器	杯	13.3	7.5	3.9	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ	回転糸切り無調整		
SI-025	3	10,17,20	須恵器	甕	−	14.4	9.8	10	にぶい赤褐	にぶい橙	密	砂粒	ナデ・ヘラナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ナデ			
SI-025	4	6	須恵器	長頸壺	−	−	−	15	褐黄灰	にぶい褐・灰オリーブ	密				ロクロ成形		灰緑釉
SI-025	5	23	須恵器	高台付盤	−	−	−	10	褐灰	褐灰	密	石英・長石	ナデ	ナデ			

SI026土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-026	1	10	土師器	杯	14.1	−	4.9	90	黄褐・黒・赤褐	黄褐・黒・赤褐		細砂粒・石英・スコリア少	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ミガキ		黒色処理	
SI-026	2	18	土師器	杯	13.0	−	4.9	100	褐・黒	褐・黒		砂粒・スコリア	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ナデ			
SI-026	3	17	土師器	杯	14.0	−	4.6	100	赤褐・黒	赤褐・黒		細砂粒・スコリア少	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ミガキ		黒色処理	
SI-026	4	16,29,32	土師器	杯	14.8	−	4.1	90	黄褐・黒	黄褐・赤褐・黄褐		細粒・石英・スコリア少	ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ミガキ			
SI-026	5	12	土師器	杯	14.0	−	3.4	90	黒・暗褐	黒・暗褐		微細粒・スコリア少	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ		黒色処理	
SI-026	6	20,25,29	土師器	杯	12.8	−	3.6	30	黄褐・黒	黄褐・黒		細粒	ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ミガキ		黒色処理	
SI-026	7	11	土師器	鉢	16.4	5.6	9.3	100	黄褐・赤褐	黒褐・黒・赤褐		砂粒	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ナデ		赤彩	
SI-026	8	12	土師器	鉢	17.6	−	11.1	30	黒褐・黒	黒褐・黒・赤褐		砂粒多	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ナデ			
SI-026	9	15	土師器	甕	16.1	8.1	24.0	100	黄褐	黄褐・黒・赤褐	密	微細粒・砂粒少	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ			
SI-026	10	14	土師器	甕	19.2	6.0	22.8	100	黄褐・黒	暗褐・黒		砂粒	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ナデ			
SI-026	11	13	土師器	甕	16.8	−	26.4		黄褐・赤褐・黒	黒・赤褐		砂粒少	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ナデ			
SI-026	12	15	土師器	甑	26.2	−	21.3	50	黄褐・黒	黒		砂粒	ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ナデ			

SI028土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-028	1	30	土師器	杯	12.8	7.0	3.9	50	黄褐・赤褐	黄褐・赤褐	密	スコリア			回転糸切り回転ヘラケズリ		
SI-028	2	52,53	土師器	杯	12.4	6.7	3.4	90	黄褐	黄褐	密	スコリア・細粒			回転ヘラケズリ		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-028	3	112	土師器	皿	12.8	6.4	2.6	90	赤褐	赤褐	密	スコリア・細粒			回転ヘラケズリ手持ちヘラケズリ		
SI-028	4	75	土師器	皿	14.0	6.3	2.3	100	赤褐	赤褐・黒褐	密	スコリア・細粒		ヘラケズリ	ロクロ成形・ヘラケズリ		
SI-028	5	183	土師器	高台付盤	16.4	10.4	3.9	80	黄褐	黄褐	密	スコリア・細粒			ロクロ成形・回転ヘラケズリ・ナデ		
SI-028	6	70	陶器	椀	15.6	7.9	5.3	90	緑灰	灰白	密	砂粒・小石少			ロクロ成形・回転ヘラケズリ・ナデ		灰釉
SI-028	7	85-2	土師器	杯	−	−	−		にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	ナデ・ミガキ	ナデ			墨書
SI-028	8		須恵器	長頸壺	−	−	18.9	60	黒灰	黒灰	密	細粒少			ロクロ成形		自然釉
SI-028	9	6, 19	須恵器	甕	27.4	−	6.5	10	黒	黄褐・黒	密	細粒多					
SI-028	10	44, 66	須恵器		−	−	15.3	10	黒褐	黒褐	密	細粒少	ヨコナデ・ヘラナデ	タタキ			
SI-028	11	22	土師器	甕	18.6	−	−	20	黄褐・黒褐	黄褐・黒褐	密	砂粒	ヨコナデ・ナデ	ヘラケズリ・ミガキ			常総型
SI-028	12	25, 59, 78, 86-3	土師器	甕	18.6	11.9	14.7	10	褐・黒	暗褐・黒	密	砂粒・少石多	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ナデ			常総型
SI-028	13	9, 18	須恵器	甑	26.6	−	15.5	20	黄褐・白褐	白褐	密	細粒・スコリア	ヨコナデ・ヘラナデ	タタキ			
SI-028	14	47	須恵器	甑	−	14.4	9.2	10	茶灰	白灰	密	砂粒		タタキ・ヘラケズリ	ロクロ成形		
SI-028	15	33, 87-4	須恵器	片口鉢	21.2	12.0	11.6	60	赤褐・黒	赤褐・黒	密	細粒・スコリア多		ヘラケズリ	ロクロ成形・ヘラケズリ・ナデ	赤彩	

SI029土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-029	1	77, 79	土師器	杯	16.0	8.6	4.7	40	黒	黒	密		ナデ	ナデ	回転糸切り回転ヘラケズリ	黒色処理	
SI-029	2	60, 62	土師器	杯	11.4	7.8	4.2	20	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	ナデ	ナデ	回転ヘラケズリ回転糸切り		墨書「与」
SI-029	3	6, 81	土師器	杯	11.8	7.2	3.9	10	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	ナデ	ナデ	手持ちヘラケズリ回転糸切りナデ		
SI-029	4	54	須恵器	杯	13.8	8.0	4.0	20	灰	灰	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリナデ		
SI-029	5	71	須恵器	杯	13.1	6.3	4.4	100	褐灰	にぶい赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		煤付着
SI-029	6	35, 36, 73, 74, 75, 80, 88	須恵器	杯	12.1	7.7	4.0	90	灰赤	灰赤	密	砂粒	ナデ	ナデ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-029	7	80, 81	須恵器	杯	13.2	8.0	4.1	10	にぶい赤褐	明赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-029	8	69, 86	須恵器	杯	13.0	7.2	4.0	20	灰	灰	密	長石	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ・静止糸切り		
SI-029	9	3, 22, 37, 72	須恵器	杯	13.0	6.8	3.9	40	黒褐	褐灰	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ		

SI030土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-030	1	24	土師器	杯	12.2	6.2	4.0	20	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	ヘラキリ・手持ちヘラケズリ		
SI-030	2	14, 28, P3-71	土師器	杯	14.8	7.8	5.0	20	暗灰	にぶい褐	密	砂粒	ミガキ・ナデ	ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理	
SI-030	3	19, 26	須恵器	杯	13.3	7.1	3.9	80	褐灰	黒褐	密	スコリア・砂粒		ヘラケズリ	ヨコナデ・ナデ手持ちヘラケズリ		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-030	4	11,37	須恵器	杯	14.6	9.2	4.2	20	灰褐	灰褐	密	砂粒		ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-030	5	30	須恵器	杯	13.4	−	3.8	10	黄灰	にぶい褐	密		ナデ	ナデ			焼ひずみ
SI-030	6	16,17	須恵器	甑	25.6	−	12.1	10	黒褐	褐灰	密		ナデ・ヘラナデ	ナデ・タタキ			
SI-030	7	20,26,28,29,68	須恵器	甑	−	14.0	11.2	20	灰褐	褐灰	密	砂粒	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・タタキ	ナデ		ヘラ書き「T」
SI-030	8	12,13,28,P4-72	須恵器	甑	−	−	1.1	10	灰黄褐	暗灰黄	密	砂粒	ナデ		ナデ		

SI031土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-031	1	35	須恵器	杯	13.9	8.0	4.3	90	灰黄	灰黄褐	密	砂粒・白雲母			手持ちヘラケズリ・回転ヘラキリ		
SI-031	2	36	須恵器	高台付杯	−	11.8	4.2	20	灰黄	灰白	密	砂粒	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
SI-031	3	1	土師器	甕	11.3	−	4.9	10	黄灰	褐灰	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-031	4	6,7,16,21,22,25,28,29,32,33	土師器	甕	19.8	−	7.8	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-031	5	23	須恵器	甕or甑	32.2	−	11.1	10	灰黄褐	灰黄	密	白雲母・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ・タタキ			
SI-031	6	18	須恵器	甕	28.4	−	9.0	10	灰黄褐	褐灰	密	砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ・タタキ			
SI-031	7	14,25,19t-47,6	須恵器	甕or甑	29.5	−	8.5	10	灰	褐灰	密	砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ・タタキ			

SI032土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-032	1	4	土師器	杯	11.0	6.2	4.8	40	にぶい赤褐・黒褐	にぶい褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-032	2	7,10	須恵器	杯	12.6	6.1	4.0	100	灰赤	灰赤	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-032	3	10	須恵器	杯	13.2	6.8	4.3	80	褐灰	褐灰・暗赤褐	密		ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ・回転ヘラキリ		
SI-032	4	6	須恵器	甑	33.9	−	−	10	褐・灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	タタキ・ナデ			
SI-032	5	3,5,16	須恵器	甕	−	15.2	−	10	灰黄褐	灰赤・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	無調整		ヘラ書き
SI-032	6	1,2,8,9,21,23	須恵器	甑	29.0	15.3	28.5	90	灰褐・黒褐	灰褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・ナデ・タタキ	無調整		底部ヘラ書き

SI033土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-033	1	1	土師器	杯	12.9	6.6	3.9	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	回転糸切り		
SI-033	2	1	土師器	杯	−	6.2	−	10	にぶい褐	にぶい褐	密		ナデ	ナデ	回転糸切り無調整		
SI-033	3	1	須恵器	杯	12.9	4.8	4.6	50	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	回転糸切り無調整		
SI-033	4	35,94	陶器	皿	14.0	6.4	2.5	10	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・砂粒	ナデ	ナデ			
SI-033	5	22,23,24,40	土師器	高杯	16.8	−	−	10	褐・にぶい赤褐	明赤褐・にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			
SI-033	6	17	土師器	坩	−	3.3	−	30	にぶい赤褐・暗褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ・ミガキ			
SI-033	7	5,6,9,12	土師器	坩	12.3	−	−	10	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-033	8	4,8,14,43,44,45,47	土師器	甕	16.4	−	−	10	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラナデ			

SI035土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-035	1	25	土師器	杯	11.4	6.8	4.3	30	灰褐・にぶい赤褐	灰褐・にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-035	2	42	須恵器	杯	12.2	6.7	4.0	40	にぶい赤褐	灰褐・にぶい赤褐	密		ナデ	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ		
SI-035	3	116	土師器	杯	11.0	4.2	3.6	20	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	回転ヘラケズリナデ	回転ヘラケズリナデ		
SI-035	4	2,51,62	土師器	甕	20.0	−	−	30	灰褐・黒褐	灰褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・タタキ・ナデ			
SI-035	5	52,78,80	土師器	甕	20.7	−	−	10	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			常総型

SI036土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-036	1	1,6,7,24,25,30,41	須恵器	杯	12.6	6.6	4	80	にぶい褐	にぶい赤褐・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒		手持ちヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-036	2	8,20,21,23,41	須恵器	杯	12.4	6.8	3.1	100	にぶい赤褐	にぶい赤褐・褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒			回転ヘラケズリ		
SI-036	3	9	土師器	杯	12.4	6.8	4.2	100	褐灰・にぶい褐	褐灰・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整		歪み大

SI037土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-037	1	2	土師器	杯	13.3	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒			ロクロ成形・ナデ		
SI-037	2	1,7,13	須恵器	甕	20.6	−	−	10	灰黄褐・にぶい褐	にぶい赤褐・褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ・タタキ			

SI038土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-038	1	107,182,186	須恵器	杯	13.0	6.7	4.8	90	褐・暗褐	灰褐・褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-038	2	1,4,8,162,175,176,184,188	土師器	高台付杯	14.8	7.5	6.0	30	明赤褐・にぶい赤褐	明赤褐・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	ナデ		
SI-038	3	200	土師器	皿	13.7	6.4	2.8	100	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒		手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-038	4	201	須恵器	甕	19.4	10.6	19	90	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	無調整		
SI-038	5	3,66,69,78,84,85,87,151,172,178,181,189,191,192,215	須恵器	甑	29.6	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	タタキ・ナデ・当て具痕			

SI039土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-039	1	2,8,35,69,71	土師器	杯	12.6	−	−	10	にぶい黄橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒			ロクロ成形		
SI-039	2	25,67,68,70	須恵器	杯	14.4	10.2	3.5	30	灰黄褐	黄褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒，雲母多			手持ちヘラケズリ		
SI-039	3	19,53,	須恵器	杯	13.5	9.2	4.1	90	灰黄褐・灰赤	灰黄褐・灰赤	密	石英・長石・スコリア・砂粒，雲母多			回転ヘラケズリ		
SI-039	4	26,83	須恵器	杯	12.0	8.1	3.3	60	灰褐・赤灰	灰赤	密	石英・長石・スコリア・砂粒，雲母多		回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		磨耗激しい
SI-039	5	47,49,57,58,59,61,73,93,95,96,97,104	土師器	小型甕	14.7	5.0	15.5	90	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ		底部木葉痕	常総型
SI-039	6	12	須恵器	杯					にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒					ヘラ書き「＋(×)」

SI040土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-040	1	9, 11, 30, 88	須恵器	杯	12.4	7.4	4.3	30	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		クスベ焼成
SI-040	2	82	須恵器	杯	12.6	7.3	4.0	50	黒褐	黒褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	手持ちヘラケズリ		クスベ焼成
SI-040	3	48	須恵器	甕	48.0	−	9.6	10	灰褐	灰褐		小石・砂粒	ナデ	ナデ・タタキ			
SI-040	4	13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 33, 46, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 58, 59, 60, 61, 62, 71, 91	土師器	甕	22.2	−	−	30	にぶい褐・黒褐	褐・灰黄褐・黒褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			

SI041土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-041	1	73, 78	土師器	杯	13.0	6.2	4.6	50	にぶい赤褐・にぶい褐	明赤褐・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒			回転糸切り・無調整		
SI-041	2	47, 63, 65, 76, 77	土師器	杯	12.4	6.0	4.1	20	にぶい橙	にぶい橙・にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒		回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-041	3	98	土師器	甕	21.3	−	−	10	にぶい赤褐・にぶい褐	にぶい赤褐・にぶい褐	密	ナデ	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			

SI042土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-042	1	17, 19, 20, 21, 22	土師器	杯	11.0	4.8	3.6	50	褐灰	灰褐・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒			回転糸切り・無調整		
SI-042	2	21	土師器	高台付杯	−	−	−	30	褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			

SI043土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-043	1	425, 660	土師器	杯	13.6	7.0	4.3	30	にぶい橙	橙	密	石英・砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ナデ	ロクロ成形		
SI-043	2	19, 411, 641	土師器	杯	13.8	5.8	4.0	70	灰褐	明褐	密	石英・スコリア・少礫	ミガキ・回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ナデ	手持ちヘラケズリ・静止ヘラキリ		墨書
SI-043	3	152	土師器	杯	13.0	6.8	4.7	40	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-043	4	282	土師器	杯	13.4	6.6	4.0	40	にぶい赤褐	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラキリ 回転ヘラケズリ		
SI-043	5	268, 303, 568	土師器	杯	13.6	7.2	4.5	40	橙	橙	密	石英	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		墨書「夫万」
SI-043	6	16, 423, 663	土師器	杯	13.4	6.8	5.0	30	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-043	7	591	土師器	杯	−	6.8	3.9	20	淡橙	淡黄	密	砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ナデ	手持ちヘラケズリ		墨書「□加」
SI-043	8	400	土師器	杯	−	−	−	10	淡橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ナデ	手持ちヘラケズリ		墨書
SI-043	9	647	土師器	杯	−	−	−	10	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	ロクロ成形		墨書「加」
SI-043	10	210	土師器	杯	−	3.1	1.3	10	暗赤褐	橙	密	砂粒	ナデ	ナデ			
SI-043	11	501	土師器	杯	−	−	−	10	淡橙	淡橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ 手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		墨書
SI-043	12	326, 336, 347, 486, 351	土師器	杯	12.6	6.6	3.8	50	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・スコリア・少礫	回転ナデ	ヘラケズリ 回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-043	13	417, 418	陶器	椀	14.4	6.4	3.9	40	黄灰	黄灰	密	長石・少礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-043	14	25, 702	須恵器	鉢	16.9	−	−	−	褐	灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	ロクロ成形		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-043	15	271	須恵器	鉢	28.3	−	−	30	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒多	ナデ	タタキ・ヘラケズリ			
SI-043	16	432, 442	土師器	甕	20.7	−	6.2	20	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ・輪積痕	ヘラケズリ			

SI044土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-044	1	142	土師器	杯	−	7.8	3.0	40	橙	橙	密	スコリア	ミガキ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-044	2	60, 69, 88	須恵器	杯	12.2	7.4	4.4	40	灰黄褐	褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-044	3	154, 251, 396, 419, 438, 541, 593	須恵器	杯	11.8	7.2	4.9	70	褐灰	にぶい黄褐	密	雲母・スコリア・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-044	4	91, 346, 378, 502	須恵器	杯	13.4	5.8	4.6	60	黄灰	褐灰	密	砂粒・少礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ・無調整		
SI-044	5	190	須恵器	杯	12.8	8.6	4.0	50	黒	黒褐	密	スコリア・砂粒多	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-044	6	344	須恵器	杯	12.2	6.8	4.6	40	黄灰	にぶい黄灰	密	少礫	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-044	7	314, 333, 552	須恵器	杯	13.0	7.6	3.9	50	褐	にぶい褐	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-044	8	41, 526	須恵器	杯	12.7	6.8	4.2	60	黒・暗褐	黒・暗褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-044	9	62, 281	須恵器	杯	12.5	6.9	3.6	50	黒褐	暗灰褐	密		回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-044	10	424, 439	須恵器	杯	13.0	7.0	3.9	50	褐灰	褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-044	11	189	須恵器	杯	12.1	6.8	3.8	90	灰褐	灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-044	12	136, 313, 315, 525, 559	須恵器	杯	12.3	6.2	3.8	70	灰黄褐	褐灰	密	スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き「+(×)」内外面煤付着
SI-044	13	252	須恵器	杯	−	7.9	2.2	30	褐灰	褐灰	密	スコリア・砂粒多	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-044	14	499	須恵器	蓋のつまみ	−	−	1.6	10	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-044	15	181, 592	土師器	蓋	12.8	7.3	2.1	60	橙	明赤褐	密	スコリア・砂粒多	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-044	16	544	須恵器	蓋	11.0	−	2.8	60	灰	黄灰	密	礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	ナデ	火襷	硯に転用
SI-044	17	104, 247, 249, 253, 341, 342, 343	土師器	甕	20.4	−	31.2	50	橙	橙	密	長石・雲母・砂粒・少礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型 外面煤 窯の砂付着 頸部輪積痕1条
SI-044	18	191	土師器	甕	16.0	−	16.1	40	赤褐	暗赤褐	密	石英・長石	ナデ・ヘラナデ・輪積痕	ヘラケズリ・接合痕			外面黒斑
SI-044	19	408, 409, 410, 417, 578	土師器	甕	15.8	−	8.9	20	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石	ヘラナデ	ヘラミガキ・ナデ			内面煤付着
SI-044	20	449, 473	土師器	甕	20.1	−	18.5	30	橙	橙	密	石英・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ナデ		外面輪積痕2条	外面胴部窯の砂付着・黒斑・内面煤付着
SI-044	21	317, 323, 336, 401, 496	土師器	甕	−	8.8	5.2	20	褐	褐	密	石英・長石・雲母・砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ		底部木葉痕	常総型 内外面煤付着
SI-044	22	43, 244, 248	土師器	甕	24.6	−	13.9	20	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			外面黒斑・内面煤付着
SI-044	23	345, 347, 353, 366, 369, 349	土師器	甕	−	6.5	7.7	20	赤褐	赤褐	密	石英・長石・スコリア・少礫	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		常総型 内面煤付着 外面黒斑

SI047A土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-047A	1	908	土師器	杯	12.9	7.1	4.0	90	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		墨書「又」
SI-047A	2	425, 432, 480, 698, 724, 732	土師器	杯	14.9	7.5	4.8	40	黒	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒, スコリア・白色針状物少	ミガキ	ナデ	回転ヘラケズリ	黒色処理	
SI-047A	3	145	土師器	皿	13.1	6.5	2.4	90	橙褐	橙褐	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着・黒斑
SI-047A	4	562, 622	土師器	杯	14.1	7.0	3.7	50	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		外面煤付着
SI-047A	5	780	須恵器	杯	12.5	6.9	3.8	50	灰褐	灰褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-047A	6	10, 11	須恵器	杯	14.2	6.6	4.3	30	暗褐	黒褐・淡褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-047A	7	56, 179, 181, 182, 184, 191, 225, 234, 241, 254, 255, 283, 286, 323, 394, 439, 467, 560, 768, 815, 846, 855, 856, 857, 865, 399	土師器	甕	13.1	8.5	15.5	50	明赤褐	赤褐	密		ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内外面煤付着・黒斑
SI-047A	8	1, 88, 101, 39, 65, 69, 80, 91, 187, 776	土師器	甕	21.5	−	30	30	にぶい赤褐	赤褐	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ			外面黒斑外面窯の砂付着
SI-047A	9	74, 79, 407, 503, 519, 520, 521, 522, 523	土師器	甕	20.7	−	12.9	40	赤褐	赤褐	密	石英・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内面煤付着
SI-047A	10	68, 577, 883, 887, 913, 924, 933, 1067	土師器	甕	16.2	−	25.1	60	暗褐	暗褐	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヘラケズリ・ナデ			内外面煤付着
SI-047A	11	258, 521, 709, 909	須恵器	甕	20.9	10.6	27.5	80	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・タタキ・ヨコナデ・指頭痕			外面煤付・窯の砂付着

SI047B土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-047B	1	996, 997, 998	須恵器	杯	14.2	8.6	4.2	70	灰白	灰白	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ		火襷？外面煤付着
SI-047B	2	1049	須恵器	甕	−	15.6	−	−	黄灰	灰黄	密	石英・長石, 雲母・砂粒多	ナデ	タタキ・ナデ・ヘラケズリ			
SI-047B	3	1062	土師器	小型甕	−	5.1	−	10	にぶい橙	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒, 白色針状物少	ナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

SI048土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-048	1	519	須恵器	杯	13.9	6.6	4.1	80	橙	橙	粗	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑
SI-048	2	86, 419	土師器	高台杯皿	12.8	6.6	3.6	60	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ミガキ・ナデ	ナデ	手持ちヘラケズリ		墨書
SI-048	3	364	土師器	杯	−	−	−	10	淡橙	淡橙	密	雲母	回転ナデ	回転ナデ			墨書「ヌ？」
SI-048	4	236	土師器	杯	−	−	−	−	橙	橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア, 雲母多	ナデ	ナデ・ヘラケズリ			墨書（不明）
SI-048	5	329	土師器	杯	−	6.7	−	10	橙	橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア, 雲母多	ナデ	ナデ	回転ヘラケズリ		墨書（不明）
SI-048	6	134	土師器	杯	−	6.5	−	10	にぶい橙	橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア, 雲母多	ミガキ		回転ヘラケズリ・ナデ		緑釉
SI-048	7	233, 286, 298, 299, 307, 401	土師器	甕	12.3	−	−	10	黒褐	明赤褐	密	石英・長石・砂粒・雲母, スコリア少	ナデ	ヘラケズリ			

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-048	8	148, 287, 325, 329, 343, 346, 397, 398, 408, 409, 410, 479, 490, 491, 493, 494, 496, 497, 500, 501	土師器	甕	－	9.6	16.3	30	赤褐	明赤褐	粗	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヘラケズリ	ヘラナデ・ヘラケズリ			
SI-048	9	481, 499	須恵器	甑	25.4	－	12.4	20	明赤褐	橙	粗	長石・砂粒・少礫	ヘラナデ・ヨコナデ当て具痕	タタキ・ヨコナデ			

SI050土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-050	1	359	土師器	杯	12.9	6.9	3.7	80	橙	橙	密	雲母・砂粒・スコリア	回転ナデ	手持ちヘラケズリ・回転ナデ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着・灯明器
SI-050	2	1225, 1289, 1267, 1269, 1272, 1286, 1293, 1303, 1318	土師器	杯	14.5	8.7	4.3	80	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラキリ・回転ヘラケズリ		
SI-050	3	19, 442, 444, 526, 527	土師器	杯	11.5	6.3	3.8	40	明赤褐	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		墨書「加」
SI-050	4	SI-050-112	須恵器	杯	－	7.5	－	－	黄黒	黄黒	密	石英・長石・雲母，スコリア少，砂粒多	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き
SI-050	5	382	土師器	杯	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒		ナデ			墨書（不明）
SI-050	6	492, 505, 536, 539, 627, 1186	須恵器	杯	12.7	7.2	4.1	80	黒褐	黒褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-050	7	262, 367, 513, 761	須恵器	杯	13.0	7.0	4.0	25	灰	灰	密	石英・長石・砂粒，スコリア多，雲母少	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-050	8	1223	土師器	皿	13.2	6.5	2.6	90	橙	橙	密	スコリア	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-050	9	530, 598, 684, 697, 736, 884, 941	土師器	甕	19	－	15.1	20	褐	褐	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ			外面胴部墨痕？
SI-050	10	978, 989, 1245	土師器	甕	21.5	－	34	80	淡黄褐	淡黄褐	粗	石英・砂粒・雲母	ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ・ミガキ・ナデ			常総型
SI-050	11	85, 128, 977, 980, 1062, 1070, 1071, 1072, 1074, 1075, 1092, 1096, 1138	須恵器	甕	60.2	－	27	20	灰黄褐	灰黄褐	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ・タタキ・ナデ			
SI-050	12	1183, 1218, 1283, 1284, 1300, 1301	須恵器	甕	21.5	－	19.6	70	淡褐	淡褐	密	スコリア	ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-050	13	259, 593, 607, 609, 1254, 1260, 1266	須恵器	甕	23	－	7.9	20	暗褐	暗褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	ロクロ成形		

SI051土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-051	1	88, 134, 149, 155, 188, 213	土師器	杯	13.2	7.2	4.2	80	淡褐	淡褐	密	スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		内外面黒斑・煤付着

SI052土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-052	1	42	須恵器	杯	12.9	7.0	4.0	70	にぶい褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア多	ナデ	ナデ	手持ちヘラケズリ		

SI053土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-053	1	347	土師器	杯	12.4	5.8	4.2	30	淡赤橙	淡赤橙	粗	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「＋（×）」内面煤付着
SI-053	2	157, 158, 160, 184, 185, 239, 243, 411, 674	土師器	杯	13.3	6.8	4.3	70	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷？	

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-053	3	420, 438, 829	土師器	杯	14.0	6.2	5.5	90	橙	橙	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		黒色処理
SI-053	4	188, 196, 254, 278, 287, 337, 390, 518, 574, 576, 604, 617, 621, 592	土師器	杯	13.7	6.4	4.7	70	橙褐	橙褐	密	スコリア・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		内外面黒斑
SI-053	5	70, 872, 877	土師器	杯	11.9	5.8	4.3	50	橙	橙	密	石英・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-053	6	595, 615, 669	須恵器	杯	12.2	6.0	3.2	90	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着 穿孔２箇所有
SI-053	7	20, 173, 215, 294, 335, 441, 533, 543, 538	須恵器	杯	13.0	6.1	3.8	60	黒	黒	密	石英・長石・雲母，砂粒多，白色針状物		ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラキリ・回転ヘラケズリ		
SI-053	8	159, 182, 693	須恵器	杯	12.7	6.0	3.7	70	にぶい橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面煤付着・ヘラ書き
SI-053	9	252, 338, 554, 644	緑釉陶器	椀	−	−	−	60	黄灰	黄灰	密			回転ヘラケズリ・ナデ	ナデ		
SI-053	10	279, 509, 713, 714	灰釉陶器	椀	15.4	7.8	4.8	40	灰白	灰白	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		灰釉・墨書「大」？
SI-053	11	139, 312	土師器	杯	−	6.0	1.4	20	にぶい橙	にぶい橙	粗	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・ナデ			墨書「□」
SI-053	12	487	土師器	杯	−	−	−	10	橙	橙	密		回転ナデ	回転ナデ			墨書「□」
SI-053	13	115	土師器	杯	−	−	−	10	橙	橙	密	スコリア	回転ナデ	回転ナデ			
SI-053	14	133	土師器	杯	−	−	−	10	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ			墨書「□」
SI-053	15	795	土師器	甕？	−	−	−	10	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・雲母					ヘラ書き
SI-053	16	810	須恵器	蓋	3.1	−	1.2	10	灰	灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-053	17	564	須恵器	置カマド?	−	−	−	10	橙	橙	密	砂粒	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・タタキ			内外面黒斑
SI-053	18	115, 164, 182, 258, 555, 562, 563, 668, 590, 600, 609, 614, 629, 645, 646, 699, 712	土師器	甕	22.5	−	17.8	20	にぶい赤褐	にぶい赤褐	粗	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面黒斑
SI-053	19	264, 490	土師器	甕	23.8	−	12.9	10	橙	橙	粗	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-053	20	861, 863, 867, 874, 875, 876	土師器	甕	17.6	−	21.3	40	にぶい橙	にぶい赤褐	粗	石英・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ヘラケズリ・ヨコナデ			外面黒斑
SI-053	21	103, 299, 306, 421, 547, 622, 671, 728, 729, 1369, 22, 221, 252, 286, 340, 406, 623, 730, 759, 780, 787, 788, 792	土師器	甕	19.9	−	26.3	60	にぶい橙	にぶい橙	粗	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			内外面黒斑
SI-053	22	151, 828	須恵器	甑	27.4	15.0	26.1	80	にぶい赤褐	橙	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・接合痕			

SI054土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-054	1	181, 332, 345	土師器	杯	11.8	5.5	4.3	90	淡褐	淡褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・輪積痕	回転ヘラケズリ		外面黒斑
SI-054	2	1044	土師器	杯	11.1	7.0	3.9	90	赤褐	赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ		外面黒斑・煤付着
SI-054	3	317, 774, 1206, 1210	土師器	杯	12.6	7.1	4.1	60	橙褐	橙褐	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-054	4	812	土師器	杯	11.1	6.3	3.6	100	淡褐	淡褐	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		内外面黒斑・煤付着
SI-054	5	883, 608, 660, 765, 923, 933, 1057, 1200, 1240	土師器	杯	15.5	8.2	4.6	90	黒	褐	密	砂粒・礫	ミガキ・回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ・回転ヘラキリ	内面黒色処理	外面黒斑
SI-054	6	814	須恵器	杯	13.0	7.6	4.2	90	橙褐	橙褐	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着 外面黒斑

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-054	7	1235	須恵器	杯	12.3	7.0	4.1	80	灰黄褐	灰黄褐	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-054	8	1383	須恵器	杯	12.2	7.8	4.1	50	黒褐	黒褐	密	長石・スコリア・砂粒・小礫		回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-054	9	953, 1112, 1117, 1120	須恵器	杯	13.5	8.1	3.9	90	橙褐	橙褐	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-054	10	815, 1017, 1343	須恵器	杯	12.7	7.4	4.3	80	暗灰黄褐	暗灰黄褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-054	11	1162, 1171, 1280, 1288, 1340	須恵器	杯	12.8	7.1	4.2	80	褐	褐	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-054	12	842	土師器	杯	12.0	6.8	3.8	70	淡橙褐	淡橙褐	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		内外面煤付着
SI-054	13	212, 447	須恵器	杯	11.3	6.3	3.8	90	灰	灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-054	14	688, 1110, 1111, 1114, 1270	須恵器	杯	13.2	8.0	3.9	50	黒	黒	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-054	15	613, 661, 1028	須恵器	杯	11.8	5.6	4.3	40	灰黄	黄灰		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物			回転糸切り 無調整	火襷 南比企産	
SI-054	16	906	須恵器	甕					橙	橙	密	雲母	ナデ	タタキ			墨書
SI-054	17	873, 880, 1354	須恵器	甕	−	16.4	14.1	40	橙	橙	密	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ	ヘラケズリ・タタキ			

SI055土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-055	1	42, 87, 96, 112, 113	土師器	杯	13.0	7.0	4.3	70	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-055	2	97, 115, 146	土師器	杯	13.2	7.5	4.4	80	橙・にぶい橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		

SI056土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-056	1	169, 199, 216	土師器	杯	12.0	5.8	4.0	90	橙	橙	密	雲母・砂粒・小礫・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「吉」
SI-056	2	125, 126, 210	土師器	杯	15.2	8.2	5.6	100	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	内外面輪積痕有 外面煤 内面炭化物付着
SI-056	3	108, 109, 208	土師器	杯	15.2	7.2	5.4	90	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理？	墨書「秋」 内外面黒斑
SI-056	4	129, 202, 296	土師器	杯	13.9	6.9	5.0	90	淡褐	淡褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き「＋（×）」 墨書「小俣」
SI-056	5	201	須恵器	杯	13.3	8.0	4.4	80	黒褐	黒褐	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ・輪積痕	手持ちヘラケズリ		外面輪積痕
SI-056	6	205	須恵器	杯	13.4	7.5	4.3	70	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-056	7	211	須恵器	杯	13.0	7.4	4.0	90	明赤褐	明赤褐	密	長石	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-056	8	197, 206	土師器	杯	12.1	7.5	4.0	80	褐	褐	密	砂粒・少礫	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転糸切り		
SI-056	9	204, 211	土師器	高台付杯	19.1	8.1	6.6	30	褐	褐	密	長石・砂粒・小礫	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-056	10	94, 203, 212, 291	土師器	甕	14.0	5.6	13.3	70	赤褐	赤褐	密	スコリア	回転ナデ	ヘラケズリ・回転ナデ	無調整・ナデ		
SI-056	11	121, 162, 174, 190, 200, 207, 213, 215, 217	土師器	甕	12.8	6.1	12.1	80	赤褐	赤褐・黄褐	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ			内面接合痕

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-056	12	206	須恵器	甕	25.4	－	17.3	20	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・タタキ・ヨコナデ			
SI-056	13	30, 61, 124, 168, 175, 209	須恵器	甑	－	15.0	－		黒褐	明赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・砂粒，スコリア多	ナデ・ケズリ	タタキ・ナデ・ヘラケズリ			底部五孔四基
SI-056	14	27, 29, 191, 198	須恵器	甕	－	15.2	18.4	40	黄褐	黄褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ・タタキ			外面ヘラ書き？

SI059土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-059	1	256, 259, 260, 261, 265, 262, 264, 257	土師器	甕	23.2	－	11.4	20	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ			武蔵型外面接合痕
SI-059	2	116, 127, 196, 201, 202, 126, 137, 188, 195, 203, 220	土師器	甕	15.0	－	11.1	10	にぶい橙	にぶい橙	粗	石英・長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型外面煤付着？

SI060土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-060	1	159, 266, 324, 389	須恵器	杯	13.8	7.6	4.0	50	灰	灰	粗	長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-060	2	87, 94, 433, 505	須恵器	杯	13.2	7.6	4.6	50	灰	灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-060	3	40, 154, 158, 237, 270	須恵器	杯	－	7.0	1.6	30	灰	灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		墨書「否」
SI-060	4	484	須恵器	杯	－	－	－	40	?	灰	密	石英	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		転用硯？内面煤付着
SI-060	5	251, 370, 444, 445, 446, 447, 448, 471	土師器	甕	10.4	－	8.5	30	赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			外面黒斑・内面接合混
SI-060	6	124, 194, 275, 427, 486, 496	土師器	甕	16.8	－	8.0	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	粗	長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型内面接合痕

SI061土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-061	1	16, 205, 388	土師器	杯	－	6.2	1.5	40	灰橙	橙	密	スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「生」
SI-061	2	250	土師器	杯	－	－	－	10	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			墨書
SI-061	3	9, 63, 70	須恵器	杯	13.3	6.9	4.4	80	赤褐	赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-061	4	257	土師器	高台付杯	－	－	1.9	10	橙	橙	密	スコリア	ミガキ	回転ナデ・ヨコナデ	回転ナデ	黒色処理	外面黒斑

SI062土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-062	1	240, 245, 257, 267, 269, 299	土師器	杯	12.2	6.3	4.4	50	灰黄褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	回転糸切り		
SI-062	2	103, 162, 163, 232, 233, 234, 266	土師器	杯	12.7	6.9	3.9	80	褐・にぶい褐	褐・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ	回転糸切り 手持ちヘラケズリ		支脚転用
SI-062	3	230	土師器	杯	12.4	5.8	4.1	100	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	回転糸切り 無調整		
SI-062	4	296	土師器	高台付杯	15.1	8.5	6.7	90	にぶい褐・黒褐	にぶい褐・明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ	ナデ		

SI063土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-063	1	453	須恵器	杯	12.5	7.0	4.4	90	黄褐	赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面煤付着
SI-063	2	505	須恵器	杯	14.4	8.9	4.4	50	黄灰	黄灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-063	3	76	須恵器	甕	－	－	－	10	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ		ヘラ書き
SI-063	4	215, 225, 252, 253, 437, 438, 445, 469, 477, 448, 487	土師器	甕	19.8	8.5	32.6	50	橙	橙	密	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・ミガキ・タタキ			常総型外面窯の砂付着

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-063	5	477	土師器	甕	19.6	－	29.8	90	橙	明褐	粗	長石・雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型 外面窯の砂付着
SI-063	6	55, 186, 212, 244, 463, 480, 322	土師器	甕	20.8	－	13.8	30	橙	橙	粗	石英・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			外面接合痕
SI-063	7	158, 180, 181, 255, 313, 340, 356, 383, 384, 407, 386, 387, 406, 408, 409, 410, 471, 472, 474	土師器	甕	－	7.8	13.5	30	にぶい橙	にぶい橙	粗	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ			常総型 外面煤付着

SI064土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-064	1	1-②, 99, 336, 363, 366, 317	土師器	杯	12.8	6.2	4.2	50	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			内面黒斑
SI-064	2	1-③, 147, 169, 282, 394, 396	土師器	皿	14.1	5.8	2.5	50	淡橙	淡橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-064	3	1, 70, 74, 76, 80, 135, 147, 160, 322, 324, 332	土師器	鉢	16.0	－	7.5	20	橙	赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラケズリ		
SK-072	1	393	土師器	杯	14.4	7.6	4.5	100	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

SI065土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-065	1	39, 42	土師器	甕	13.8	5.7	19.2	90	橙褐	橙褐	密	石英・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着
SI-065	2	39, 42	土師器	甕	13.8	5.8	17.2	90	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・指頭痕			内外面黒斑
SI-065	3	40	土師器	壺	12.8	4.8	16.9	90	褐	明褐	粗	石英・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ		赤彩・穿孔	内外面煤付着 内面接合痕
SI-065	4	45	土師器	壺	12.0	3.2	15.1	90	橙褐	橙褐	密	石英・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ・輪積痕	ミガキ・ヨコナデ	ヘラナデ	赤彩	内外面黒斑・煤付着
SI-065	5	44	土師器	壺	12.5	4.3	15.0	90	橙褐	橙褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・ヘラナデ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着
SI-065	6	41	土師器	壺	12.0	4.2	11.8	90	明赤褐	橙褐	密	砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヨコナデ・ヘラナデ	無調整		内外面黒斑・煤付着
SI-065	7	46	土師器	壺	10.6	3.9	11.3	90	橙褐	橙褐	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラナデ		
SI-065	8	43	土師器	壺	10.8	4.1	10.1	100	橙褐	橙褐	密	石英・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ミガキ・ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着
SI-065	9	47	土師器	壺	10.8	4.0	8.6	90	橙褐	橙褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラナデ		内面煤付着・外面黒斑

SI067土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-067	1	413	須恵器	杯	12.2	8.0	4.2	40	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	
SI-067	2	149	土師器	杯	12.2	7.4	4.2	20	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻 外面黒斑
SI-067	3	31	土師器	杯	－	7.3	－	15	黒褐	褐	密	石英・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ		ヘラ書き（不明）
SI-067	4	206, 376	須恵器	高台付杯	－	－	2.7	10	灰	灰	密	長石	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		
SI-067	5	2, 69, 73, 77, 262, 341, 342, 372, 375, 421, 422, 287, 530, 367, 469, 485	土師器	甕	23.8	－	19.5	20	にぶい赤褐	にぶい赤褐	粗	長石・雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・指頭痕	ミガキ・ヨコナデ・ヘラナデ			常総型
SI-067	6	425, 489	土師器	甕	22.6	－	13.0	10	橙	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕			常総型

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-067	7	1, 10, 32, 312, 379, 412, 472, 400, 403, 407, 444, 445	土師器	甕	20.8	−	7.5	20	橙	明赤褐	粗	石英・長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ヘラナデ			常総型
SI-067	8	287. 530. 367. 469. 485	土師器	甕	−	8.6	21.0	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	粗	石英・雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ	ミガキ	ナデ	木葉痕	常総型
SI-067	9	18, 222, 449	土師器	甕	20.8	−	24.8	60	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			武蔵型 外面煤・山砂付着・接合痕

SI069土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-069	1	1-④, 10, 38, 40, 42	土師器	甕	14.1	7.1	15.4	90	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ		ヘラナデ	外面煤・接合痕 内面接合痕

SI071土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-071	1	1-③, 1-④, 86, 88, 90, 91	土師器	杯	12.4	6.8	4.6	50	淡褐	淡褐	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		内外面黒斑・煤付着
SI-071	2	109	土師器	杯	18.7	−	3.7	10	赤褐	赤褐	密	石英・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			

SI072土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-072	1	516, 517, 518, 519	土師器	杯	13.7	6.8	4.6	90	黒	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り	黒色処理	墨書「津道」
SI-072	2	528	須恵器	杯	13.0	6.1	4.4	60	橙	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラ切り 手持ちヘラケズリ		
SI-072	3	310, 684	土師器	杯	14.0	7.8	4.5		橙・にぶい橙	橙・明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		
SI-072	4	389	土師器	杯	11.2	6.6	4.0	20	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-072	5	35, 42, 44, 45, 139, 169, 195, 332, 337	土師器	杯	13.9	5.8	4.9	60	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・砂粒, スコリア多	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-072	6	661	土師器	杯	12.3	7.0	4.0	100	黒	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転糸切り	黒色処理	
SI-072	7	1-②, 71, 76, 82, 94, 232, 251	須恵器	杯	12.8	6.0	4.0	70	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-072	8	577	土師器	杯	12.9	7.0	3.7	20	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転糸切り		
SI-072	9	416	土師器	杯	13.1	7.0	4.0	20	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-072	10	282, 396	土師器	杯	11.6	−	−	15	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-072	11	1-②, 1-④, 121, 138, 164, 228	土師器	杯	12.8	−	−	10	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ			外面煤付着
SI-072	12	436	土師器	杯	14.8	8.6	4.2	10	黒	黒	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	ヘラケズリ	黒色処理	
SI-072	13	515	土師器	杯	11.7	−	−	10	黒	明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ	ロクロナデ			墨書
SI-072	14	452, 549	須恵器	杯	12.6	−	−	20	明褐	明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転糸切り・手持ちヘラケズリ		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-072	15	500	土師器	杯	－	6.8	－	10	橙	黒	密	石英・長石・雲母・砂粒・白色針状物，スコリア多	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理	墨書
SI-072	16	1-①，107，148	土師器	杯	－	5.7	－	10	にぶい黄橙	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒，スコリア多	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		外面煤付着
SI-072	17	1-③，72，127，250，287，422，447	須恵器	杯	13.3	7.2	4.1	60	黄灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・砂粒，スコリア多	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-072	18	679	須恵器	杯	13.6	7.7	3.8	20	黒褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-072	19	40，347	須恵器	杯	－	6.8	－	20	灰褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-072	20	211	土師器	高台付皿	11.6	5.9	2.4	20	赤褐	明赤褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラミガキ	ロクロナデ	ロクロ成形		内外面煤付着
SI-072	21	581，582，606	土師器	高台付皿	12.8	6.9	2.2	50	橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り ナデ		
SI-072	22	46，50，227，339	土師器	高台付皿	12.6	5.9	3.1	50	橙	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒・白色針状物，スコリア多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り ナデ		内外面煤付着
SI-072	23	548	土師器	高台付皿	－	7.7		10	明赤褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラキリ ナデ		
SI-072	24	663	土師器	高台付皿	－	6.6	－	10	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り ナデ		
SI-072	25	73，272	土師器	高台付皿	－	6.1	－	10	赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ナデ		
SI-072	26	21，198，324	土師器	皿	12.0	6.6	2.1	40	明赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラキリ 手持ちヘラキリ		
SI-072	27	78，332	土師器	皿	14.3	7.2	3.3	40	にぶい褐	にぶい褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	回転ヘラキリ 手持ちヘラケズリ		
SI-072	28	39，280	土師器	皿	12.6	5.8	2.5	70	明赤褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-072	29	6	土師器	皿	13.7	－	－	10	橙	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ			
SI-072	30	385，554	土師器	皿	14.0	－	－	10	にぶい橙	橙		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ			煤付着
SI-072	31	34，602	土師器	皿	13.2	6.8	2.0	30	明橙褐	明橙褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	ヘラケズリ		
SI-072	32	640	土師器	小型甕	8.2	－	－	20	橙・黒褐	明赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			
SI-072	33	98，99，102，103，116，123，213，352，462	須恵器	甕	23.8	－	－	10	赤褐・黒褐	赤褐・褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			
SI-072	34	642，648	須恵器	甕or甑	25.0	－	－	10	黒褐	明赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ロクロナデ			
SI-072	35	66	須恵器	甕	－	14.9	－	10	にぶい黄橙	にぶい黄橙・橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ	ナデ		
SI-072	36	52，616，680	須恵器	甕	19.6	－	－	10	明褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・タタキ			
SI-072	37		須恵器	大甕	32.2	－	38.4	100	暗灰黄	暗灰黄	密	長石	ナデ	ナデ・タタキ			
SI-072	38	190，662，665，666	須恵器	甕	－	－	－	50	橙・灰黄褐	橙・灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			内面煤付着
SI-072	39	571，615，654，655，662，665，635	須恵器	甕	26.4	12.2	20.0	70	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	手持ちヘラケズリ・タタキ・ナデ	無調整		
SI-072	40	641，678	須恵器	甕	30.8	－	－	10	明赤褐・にぶい黄褐	明赤褐・にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			

SI073土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-073	1	35, 38, 40, 41, 49, 52, 53, 55, 57, 58, 61, 62, 63, 65	土師器	甕	20.0	－	－	20	橙	橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ			常総型

SI075土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-075	1	147	須恵器	杯	13.0	7.4	4.5	90	橙	橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-075	2	148	須恵器	杯	13.9	9.6	3.5	50	にぶい黄橙・灰黄褐	にぶい黄橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア，雲母多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラキリ		
SI-075	3	455	須恵器	杯	13.5	7.2	4.3	100	暗灰黄	暗灰黄	密		ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-075	4	147	土師器	杯	12.8	10.2	4.5	90	にぶい褐	にぶい橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻後墨書「＋（×）」内面煤付着
SI-075	5	454	須恵器	杯	13.5	7.8	4.2	100	にぶい赤褐・褐	にぶい黄褐・褐	密		ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ		
SI-075	6	146	土師器	杯	11.4	6.8	4.0	100	橙	橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ回転糸切り		灯明器として使用。墨書「与」内外面煤付着
SI-075	7	149	須恵器	香炉の蓋	－	－	8.1	100	にぶい赤褐	明赤褐	密		ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリナデ		4孔
SI-075	8	1-③, 1-④, 96, 99, 103, 125, 132, 140, 142	土師器	甕	20.2	－	－	10	にぶい赤褐	赤褐	密	石英・スコリア・長石多，雲母少，砂粒	ナデ・ヘラナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-075	9	61, 66, 119, 121, 122	土師器	甕	19.8	－	－	10	明赤褐	明赤褐・橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ			
SI-075	10	98, 150	土師器	甕	20.5	－	－	80	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-075	11	1-①, 8, 10, 11, 12, 14, 38, 48, 52	土師器	小型甕	12.8	7.6	11.2	60	橙	橙	密	石英・スコリア・長石多，雲母少，砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-075	12	460	土師器	小型甕	－	6.1		20	明褐	橙	密	石英・スコリア・長石多，雲母少，砂粒	ナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-075	13	459	須恵器	甑	－	13.5	－	30	褐	褐	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ・タタキ	無調整		
SI-075	14	3, 25, 27, 37, 53, 458, 461, 466	須恵器	甑	－	9.1	－	30	にぶい黄褐	にぶい橙・にぶい黄橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア・雲母	ナデ	タタキ・手持ちヘラケズリ	無調整		

SI076土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-076	1	262	土師器	杯	13.7	－	4.5	90	橙	橙・明黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-076	2	255	土師器	杯	13.8	－	4.6	100	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			外面黒斑
SI-076	3	257	土師器	杯	12.5	－	4.7	100	淡橙	にぶい橙・赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-076	4	254	土師器	杯	14.2	－	3.3	100	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-076	5	1-③, 236, 238, 239, 241, 245, 247	土師器	杯	15.8	－	－	30	明赤褐・黒	橙・黒	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-076	6	248	土師器	杯	11.7	－	－	100	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-076	7	249	土師器	杯	11.0	－	4.6	100	黒	黒	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-076	8	261	土師器	杯	13.1	－	－	90	橙	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ・手持ちヘラケズリ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-076	9	250, 256	土師器	杯	11.6	－	4.3	90	橙・にぶい褐	橙・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ケズリ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-076	10	260	土師器	杯	11.6	－	6.6	80	赤褐	にぶい橙・赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ケズリ	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-076	11	264	土師器	小型甕	12.9	6.5	8.5	100	橙・明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-076	12	253	土師器	小型甕	15.9	8.6	14.1	100	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-076	13	258	土師器	壺	13.0	6.6	24.1	80	黒褐・橙	明赤褐・橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-076	14	252	土師器	小型甕	12.3	7.0	19.1	90	にぶい黄橙	にぶい黄橙・橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-076	15	172, 219, 221, 263	土師器	小型甕	14.8	7.0	14.6	70	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-076	16	98	土師器	甕	23.6	－	－	10	橙	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-076	17	82, 97, 221, 224, 226, 228, 259	土師器	甑	20.8	8.2	21.3	90	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラケズリ・ヘラミガキ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-076	19	23	土師器	壺	19.6	－	－	15	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ・刷毛目	ヘラケズリ・刷毛目・ナデ			
SI-076	20	225	土師器	高杯	－	－	－	10	橙	赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・ナデ		赤彩	
SI-076	21	6, 7, 8, 16, 79	須恵器	杯	14.7	8.8	4.1	50	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母多，スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		黒色（吸炭）
SI-076	22	216, 217, 218	須恵器	杯	14.2	8.3	4.1	40	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ	外面黒色	
SI-076	23	185	須恵器	蓋	－	－	－	40	灰・灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			
SI-076	24	57, 60	須恵器	蓋	－	－	－	30	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			
SI-076	25	183, 184	須恵器	蓋	－	－	－	20	灰黄	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			
SI-076	26	65, 127, 140, 146, 148, 151, 197	土師器	甕	24.6	－	－	30	にぶい黄橙・灰黄褐	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ			

SI078土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-078	1	76, 79	土師器	甕	17.8	9.5	34.4	80	明褐	橙	密	長石・スコリア・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラナデ		外面黒斑
SI-078	2	78	土師器	甕	19.5	－	－	10	にぶい褐	橙・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラケズリ・ナデ・爪痕	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-078	3	56	須恵器	蓋	12.5	－	－	30	黄灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ			

SI079土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-079	1	21	近世陶器	不明	－	3.1	－	20	淡黄橙	淡黄橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			二彩痕跡有

SI080土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-080	1	373, 378	須恵器	杯	12.3	6.8	4.2	50	橙・黒灰	橙・黒灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリナデ		
SI-080	2	345, 382	須恵器	杯	12.4	6.8	4.0	50	灰褐	灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリナデ		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-080	3	353, 402, 403	須恵器	杯	13.0	7.2	3.9	40	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ・重焼痕	手持ちヘラケズリナデ		
SI-080	4	427	須恵器	高台付杯	10.2	5.4	5.4	90	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリナデ		
SI-080	5	329	土師器	杯	11.6	−	−	10	橙	明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ミガキ	手持ちヘラケズリ・ナデ			外面煤付着
SI-080	6	335	土師器	杯	11.6			10	橙	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			外面煤付着
SI-080	7	152, 297, 309, 332, 333, 434, 435, 437, 458, 461	土師器	甕	17.2	10.4	31.9	10	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ		木葉痕	常総型
SI-080	8	320	土師器	甕	20.6	−	−	10	にぶい橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			常総型
SI-080	9	12, 147, 304	須恵器	甑	19.6	−	−	10	黒褐・褐	黒褐・明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-080	10	44, 227, 292, 319	須恵器	甕	16.6	−	−	20	灰黄褐	明黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			

SI-080周辺土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-080周辺	①	SI-080 142, 167, 168, 194	須恵器	杯	11.8	5.9	4.2	30	灰	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリナデ		
SI-080周辺	②	SI-080 56, 59, 107, 182	須恵器	杯	12.9	7.6	4.9	20	暗褐	暗褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリナデ		
SI-080周辺	③	SI-080 118, 132	須恵器	蓋	−	−	−	10	黒灰	橙・灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリナデ		
SI-080周辺	④	SI-080 1-④, 84, 85, 88, 181	須恵器	甕	18.7	−	−	10	黒褐	黒褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-080周辺	⑤	SI-080 265	須恵器	甑	21.6	−	−	10	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-080周辺	⑥	SI-080 193, 195, 204	須恵器	甑	25.8	−	−	10	黄灰・灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-080周辺	⑦	SI-080 81	須恵器	甑	26.7	−	−	10	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	タタキ・ナデ			
SI-080周辺	⑧	SI-080 15, 21, 24, 102, 141, 185, 192, 203, 212, 213, 258	須恵器	甑	24.1	−	−	40	黒褐	黒褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-080周辺	⑨	SI-080 236	須恵器	甕	18.1	−	−	10	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			
SI-080周辺	⑩	SI-080 13, 14, 109, 137, 267	須恵器	甕	−	−	−	20	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			

SI081土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-081	1	161, 179, 181	須恵器	杯	11.8	6.7	4.4	30	暗灰黄	暗灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-081	2	175	須恵器	杯	12.8	7.2	4.1	20	にぶい褐・灰褐	明赤褐・橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-081	3	1, 157	須恵器	杯	12.6	−	−	10	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			
SI-081	4	159	土師器	甕	16.6	−	−	10	にぶい褐	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ			常総型
SI-081	5	163	土師器	甕	−	5.6	−	10	赤褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリナデ		
SI-081	6	9, 129, 130, 132, 134, 135, 146, 158	須恵器	甕	−	17.0	−	20	黒褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ・手持ちヘラケズリ	無調整		

SI082土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-082	1	727	須恵器	杯	12.5	6.2	3.8	70	明褐・黒褐	明褐・黒褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-082	2	672	土師器	杯	12.0	6.2	4.0	90	明黄褐	にぶい黄橙・橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラキリ無調整		
SI-082	3	673, 678, 683	土師器	杯	12.4	7.3	4.1	90	にぶい黄橙	にぶい橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		墨書『丈』？体外正位
SI-082	4	371, 529, 697	土師器	杯	12.3	7.0	4.4	60	橙・黒褐	橙・黒褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-082	5	1-③, 522, 523, 637	土師器	杯	14.6	7.9	4.8	20	灰白	灰白	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		
SI-082	6	352, 353	土師器	杯	13.2	7.0	4.0	10	橙	橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	ヘラケズリ		
SI-082	7	145, 257, 539, 633, 664	須恵器	杯	12.6	6.9	4.2	60	明赤褐・黒褐	明赤褐・暗赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-082	8	1-③, 470, 567, 568, 569, 571, 669	須恵器	杯	13.0	7.0	4.3	70	黒褐	黒褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-082	9	1-④, 192, 665	須恵器	杯	14.2	7.9	4.0	50	にぶい黄橙	にぶい橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリナデ		
SI-082	10	138, 368, 385, 386	須恵器	杯	－	7.0	－	10	灰	灰	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		底部重ね焼き痕
SI-082	11	1-④, 527, 671	土師器	皿	11.3	5.7	1.9	90	橙	橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	墨書？体外正位？
SI-082	12	719	土師器	皿	13.0	5.9	2.4	80	橙・にぶい褐	明赤褐・にぶい褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-082	13	144	須恵器	高台付杯	－	－	－	10	灰	灰	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリナデ		
SI-082	14	730	土師器	小型甕	14.6	－	－	10	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ			
SI-082	15	1-③, 315, 429, 439	土師器	小型甕	－	6.0	－	10	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ			
SI-082	16	711	須恵器	甕	25.0	－	－	10	赤褐	赤褐	密		ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-082	17	587, 718, 724, 725	須恵器	甕	－	15.0	－	10	褐・明褐	褐・明褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・タタキ・ナデ	無調整		
SI-082	18	1, 402, 434, 675, 688	須恵器	長頸壺	－	9.3	－	40	灰黄褐	灰黄褐	密		ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	ナデ		自然釉（灰緑色）
SI-082	19	1-②, 129, 196, 263, 333, 358, 382, 438, SI018-886, 903, 959, 20V-16表採, SI098-8, SI081-1-②	須恵器	長頸壺	－	8.6	－	60	褐灰	褐灰	密		ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	回転糸切り・ナデ		自然釉（灰緑色）
SI-082	20	1-②, 1-③, 324, 373, 513, 577, 659	須恵器	甑	－	13.3	－	30	赤褐	赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	無調整		
SI-082	21	9	須恵器	甑	－	11.8	－	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ		単孔式？	

SI083土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-083	1	1-④, 290, 291, 468, 584, 585, 557, 770, 778	須恵器	杯	12.5	8.3	4.3	50	明褐	明褐	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑外面煤付着
SI-083	2	809, 811, 882	須恵器	杯	12.1	7.8	4.6	80	黄灰	黄灰	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-083	3	1, 1-③, 38, 127, 150, 178, 334	須恵器	杯	12.3	8.3	4.3	40	黄灰	黄灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-083	4	720, 731	須恵器	高台付盤	21.0	12.7	4.35	20	灰	灰	密	砂粒・少粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-083	5	41	須恵器	高台付杯	－	8.4	2.7	40	灰黄	灰黄	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		線刻
SI-083	6	3, 4, 5, 85, 631, 687, 698, 801, 804, 812, 830, 831, 835, 896	土師器	甕	20.4	－	30.0	60	淡橙褐	淡橙褐	密	長石・スコリア・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・内外面黒斑 外面接合痕
SI-083	7	670, 752, 876, 886, 889, 884, 750	土師器	甕	－	－	8.2	10	橙褐	橙褐	密	石英・スコリア・砂粒・少粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデヨコナデ			内外面黒斑
SI-083	8	708	須恵器	杯	－	－	－	－	暗灰黄	暗灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒 白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ			穿孔
SI-083	9	1-④	須恵器	杯	－	－	－	－	灰	灰	密	石英・長石・スコリア・砂粒，雲母多			不明		線刻
SI-083	10	464	須恵器	杯	－	－	－	－	灰白	灰白	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ ナデ		線刻
SI-083	11	7, 88, 161, 163, 206, 210, 234, 606, 611, 613, 690, 699, 700, 727, 738, 845, 863, 871, 332, 881, 608, 711, 806, 815	須恵器	甕	20.8	－	27.5	70	明褐	明褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ			内外面黒斑

SI085土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-085	1	231	土師器	杯	14.0	7.1	3.6	80	明赤褐	明赤褐	粗	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-085	2	227	土師器	杯	13.4	7.8	3.8	100	橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		
SI-085	3	115, 193, 219	土師器	杯	13.6	6.6	4.3	40	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		外面黒斑
SI-085	4	47, 62, 142, 175, 237	土師器	杯	－	7.4	3.2	40	橙	橙	密	石英・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-085	5	230, 77	土師器	杯	12.9	7.9	3.8	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	水ひき痕・漆？	内外面煤付着
SI-085	6	238, 232	土師器	高台付皿	12.7	5.2	3.1	40	橙	橙	密	スコリア多，砂粒	ヨコナデ・回転ナデ	ヨコナデ・回転ナデ	回転ナデ		内外面煤付着
SI-085	7	20, 66, 226, 286, 245, 257, 252, 281, 284, 255, 274, 275	土師器	甕	22.4		19.0	20	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内面煤付着 外面窯の砂付着
SI-085	10	53, 178, 229, 223, 239, 174	須恵器	甕	23.4	－	18.5	40	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ・回転ナデ・当て具痕・輪積痕	タタキ・回転ナデ	ロクロ成形		
SI-085	11	26, 28, 104, 108, 116, 55, 57, 153, 198, 103, 239, 42, 224	須恵器	甑	－	14.0	14.1	20	暗灰黄	暗灰黄	密		ヘラナデ・ナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・タタキ・輪積痕			

SI086土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-086	1	22	須恵器	杯	13.8	7.6	4.6	60	褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-086	2	64, 115, 177	須恵器	杯	12.4	6.4	3.9	90	灰黄・黄褐	灰黄・にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母，スコリア・砂粒多	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		胴部木片付着
SI-086	3	65	須恵器	杯	12.9	7.0	4.2	40	黄褐	黄褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-086	4	46, 51, 48, 105, 153	土師器	皿	14.3	－	2.4	90	橙	橙	密	砂粒	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		畿内産
SI-086	5	22, 36, 90, 249, 255	土師器	小型甕	13.5	6.5	13.5	70	橙	橙	粗	石英・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕	手持ちヘラケズリ		内面煤付着 外面黒斑

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-086	6	1-⑤, 32, 33, 55, 83, 84, 126, 127, 133, 135, 136, 137, 138, 140, 146, 157, 158, 161, 173, 216	須恵器	甕	22.0	8.0	28.0	30	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕・接合痕	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ・タタキ			外面カマドの砂付着
SI-086	7	1-②, 1-⑤, 78, 82, 256, 142, 79	須恵器	甕	21.6	10.9	28.5	70	灰	灰	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ナデ・ヨコナデ・タタキ	ナデ		外面カマドの砂付着
SI-086	8	1-①, 76, 77, 98, 183, 199, 202, 256, 230	須恵器	甕	25.9	−	22.3	20	黄褐	暗褐	密	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ			

SI088土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-088	1	45, 44, 99, 1-③	土師器	杯	12.6	5.8	4.0	40	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	無調整・回転糸切り		墨書
SI-088	2	355, 357	土師器	小型甕	12.5	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ			
SI-088	3	367, 363, 312, 368, 294, 299, 370, 345, 364, 49	土師器	甕	21.4	7.7	23.9	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラケズリ		内外面黒斑・外面煤付着
SI-088	4	254, 293, 294, 1-③	土師器	甕	−	8.7	14.0	40	淡黄橙	明褐	密	長石・雲母・小礫	ヘラナデ・接合痕	ミガキ	無調整	木葉痕	常総型 内外面黒斑・煤付着
SI-088	5	167, 175, 177, 206, 209, 231	土師器	甕	−	10.0	−	20	橙	赤褐	密	長石・雲母・小礫	ヘラナデ	ミガキ	無調整	木葉痕	常総型 内外面黒斑・煤付着
SI-088	6	160, 295, 245, 161, 259, 80, 98, 300, 386, 385, 384, 1-①, 301, 387, 380, 382, 383, 397, 392, 390,	土師器	甕	−	9.1	23.0	50	明褐	明赤褐	密	雲母・小礫	ヘラナデ	ヘラナデ・ミガキ	無調整	木葉痕	常総型 内外面黒斑・外面煤付着
SI-088	7	218, 294, 343, 344, 302, SI105-54, 58, 28, 57	土師器	甑	28.5	−	17.3	30	明褐	明褐	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内外面黒斑

SI089土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-089	1	1-②, 393, 34, 122, 305, 317, SI087-399	土師器	杯	12.8	6.4	4.1	80	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		線刻
SI-089	2	356, 366, 367, 368, 407, 468, 1-①, 370	土師器	杯	14.4	7.4	4.8	90	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-089	3	451	土師器	杯	12.6	6.7	4.1	90	橙	にぶい橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-089	4	1, 434	土師器	杯	14.2	7.0	3.4	90	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着
SI-089	5	1-①, 39, 174, 294, 295, 298	須恵器	杯	14.1	6.6	4.2	60	赤褐	赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-089	6	358	土師器	皿	13.4	6.8	2.7	20	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り・ナデ		墨書（不明）
SI-089	7	311	土師器	杯	−	−	−	−	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物少	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロ成形		墨書（不明）
SI-089	8	271, SI87-1-④	土師器	杯	−	−	−	−	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			穿孔
SI-089	9	1-②, 47, 236, 278, 293, 376, 385, 389, 479, 482, 484, 485, 483, 486	土師器	甕	19.0	−	−	20	にぶい橙	明褐	密	石英・長石・雲母・砂粒多，スコリア少	ナデ	ナデ			常総型
SI-089	10	1, 444, 449, 452, 455, 459, 464, 469	土師器	甕	20.8	8.1	31.5	100	橙	明褐	密	石英・長石・雲母・砂粒多・スコリア	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-089	11	282, 283, 372, 375, 384, 387, 389, 442, 436, 447, 461, 463, 462, 1, 466	須恵器	甑	17.4	10.5	21.5	40	赤褐	赤褐	密	雲母・砂粒	ヨコナデ・ヘラナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ	網代痕		
SI-089	12	252, 257, 271	須恵器	甕	16.4	－	12	10	灰黄褐	灰黄褐	密			ヨコナデ・タタキ			

SI090土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-090	1	28, 29, 43, 52, 1-②	須恵器	杯	13.4	7.5	3.4	40	褐灰	褐灰	粗	石英・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		線刻（底部内面）

SI091土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-091	1	41, 113, 1-②	須恵器	杯	12.6	8.2	4.0	30	明褐	黄褐	密	スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-091	2	137	須恵器	杯	12.4	7.6	4.1	100	暗灰黄	黄橙・灰・灰黄	密	石英・長石, 砂粒多, スコリア少	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-091	3	1-①, 9, 136	須恵器	杯	12.6	7.3	4.5	90	橙	明赤褐	密	石英・長石, 雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-091	4	138, 1-①	須恵器	杯	13.1	7.4	4.6	90	暗褐	黄褐・赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-091	5	7, 12, 15, 16, 140, 1-④, 132	須恵器	杯	12.2	5.7	4.0	70	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-091	6	135, 1-④	須恵器	杯	13.5	8.2	4.0	60	明赤褐	にぶい赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-091	7	27, 28, 36, 1-④, 25	須恵器	杯	13.4	8.2	4.1	30	黄褐	黄褐	密	石英・長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-091	8	4, 18, 10, 135, 139	須恵器	杯	12.8	7.2	4.3	60	黄褐	黄褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着

SI092土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-092	1	SI-081 112	須恵器	杯	23.8	8.0	4.0	20	黒褐	にぶい黄褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-092	2	78, 79, 82, 89, 269, 309, 322	須恵器	杯	12.5	7.0	3.9	50	暗灰黄	暗灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-092	3	SI-092-219, SD-018-924	須恵器	高杯	－	－	－	10	暗灰	暗灰	密	石英多, 長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ			自然釉
SI-092	4	54	須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物					ヘラ書き「門」
SI-092	5	274, 333	須恵器	甑	27.6	－	－	10	暗灰黄	暗灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			
SI-092	6	85, 138, 221, 231, 245, 254, 260, 265, 268, 307	土師器	甕	16.7	－	－	10	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-092	7	7, 135, 180, 235	土師器	甕	20.6	－	－	10	橙・褐	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラケズリ	ナデ・ヘラケズリ			常総型

SI095土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-095	1	1-①, 1-②, 192, 236, 250, 253, 394, 190, 500	土師器	甕	23.9	－	10.2	10	橙	橙	粗	石英・長石・雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型 外面煤付着
SI-095	2	36, 74, 75, 96, 361, 497, 466, 423, 415, 540	土師器	甕	12.9	－	20	30	黄橙	黄橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型・外面黒斑
SI-095	3	373, 620	土師器	台付甕	－	－	6.8	20	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ	ヨコナデ		炭化物付着
SI-095	4	218, 453	土師器	甕	－	6.9	－		明赤褐	明赤褐	密		ナデ	ヘラケズリ		木葉痕	常総型

SI096土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-096	1	59	土師器	甕	19.4	−	26.2	50	橙	橙	粗	長石・雲母・スコリア・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ・接合痕			常総型
SI-096	2	45	須恵器	杯	12.9	6.9	4.3	70	橙	橙	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ・回転ヘラキリ		

SI098土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-098	1	341	土師器	杯	12.0	7.2	3.4	100	赤褐・褐	赤褐・褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		
SI-098	2	347	土師器	杯	12.6	6.1	4.0	90	にぶい黄褐・黒褐	明褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		
SI-098	3	270, 276, 284, 286, 291, 292	土師器	杯	12.7	6.5	4.0	50	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内面漆付着
SI-098	4	18, 20, 93, 140, 141, 143, 152, 189, 190	須恵器	杯	12.8	6.1	4.5	80	にぶい黄褐・黒褐	にぶい黄褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-098	5	265	土師器	杯	−	4.3	−	10	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転糸切り		墨書「□□(成カ)」
SI-098	6	252	土師器	皿	12.9	6.3	2.0	70	にぶい黄橙・黒褐	にぶい黄橙・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリナデ		墨書
SI-098	7	275, 309, 312, 316, 317, 318, 320, 321, 324, 325, 329, 333, 337, 340	土師器	甕	19.4	−	−	10	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	タタキ・ナデ・手持ちヘラケズリヘラケズリ			
SI-098	8	6, 9, 11, 30, 31, 51, 107, 111, 169, 171, 172, 173, 174, 183, 302, 344	土師器	甕	20.8	−	−	10	にぶい黄橙・褐灰	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-098	9	322, 325, 326, 328, 330	土師器	甕	17.2	−	−	10	明褐・褐	明褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・刷毛目	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-098	10	150, 162, 198, 199, 200, 207, 247, 274	須恵器	甕	−	13.7	−	10	明黄褐	明黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ	無調整		
SI-098	11	23, 64, 74, 78, 80, 85, 87, 90, 112, 113, 115, 124, 134, 167, 177, 225, 242, 271, 350	須恵器	壺	38.8	−	−	10	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	タタキ・ナデ			

SI099土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-099	1	2, 14	土師器	甕	15.4	−	18.8	20	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕			内面黒斑・外面煤付着

SI100土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-100	1	260	土師器	杯	12.5	6.9	4.0	90	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ			内外面煤付着
SI-100	2	61, 100, 187, 1-③, 1-④	土師器	杯	14.6	8.7	4.0	40	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-100	3	35, 86, 123, 135, 140, 249, 131, 246, 213, 206, 1-③, 1-②, 1-①, 201, 202	土師器	甕	22.2	−	14.0	20	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕			内外面煤付着

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-100	4	233, 262, 271, 210, 278, 298, 305, 308, 316, 270, 276, 290, 275, 333, 211, 295, 307, 227, 224, 223, 225, 234, 253, 292, 267, 294, 1, 1-①, 1-④	土師器	甕	20.0	8.4	33.7	60	橙	橙	密	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ		木葉痕	常総型外面黒斑・煤付着
SI-100	5	138, 191, 192, 238	須恵器	甕	20.0	−	7.1	20	灰	灰	密	石英・雲母	ヘラナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・タタキ			
SI-100	6	264, 328	須恵器	甕	24.2	15.0	24.9	40	明褐	明褐	密	長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・タタキ			内外面煤付着
SI-100	7	1, 261, 242, 253, 233, 296, 221, 287, 279, 322, 314, 320, 315, 312, 207, 289, 285, 219, 310, 313, 250, 297, 1-①, 1-③, 1-④	須恵器	甕	19.8	12.0	16.8	70	褐灰	褐灰	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ			

SI101土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-101	1	52, 143	土師器	高杯	16.5	−	10.5	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヘラナデ・ヨコナデ		赤彩？（判別不能）	
SI-101	2	10, 108, 6, 73	土師器	高杯	16.4	−	4.0	20	橙	橙	粗	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕			
SI-101	3	98	土師器	壺	−	−	5.0	20	赤褐	赤褐	粗	石英・砂粒	ヘラナデ・ナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ		赤彩？（判別不能）	内面黒斑
SI-101	4	126	土師器	鉢	9.4	2.8	4.6	30	赤褐	赤褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデヨコナデ			
SI-101	5	2, 15, 18, 54, 55, 79, 80, 85, 112	土師器	甕	−	5.7	9.6	30	にぶい橙	橙	粗	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・輪積痕	ヘラナデ			内外面煤付着

SI102土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-102	1	47	土師器	杯	−	7.0	−	10	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 回転ヘラケズリ		線刻「生」
SI-102	2	2, 19, 65, 69, 79, 80, 87, 90, SI-088-75	須恵器	甕	−	9.5	12.3	60	赤褐	赤褐	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・内面煤付着

SI104土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-104	1	88	土師器	杯	12.4	6.5	4.0	90	橙	橙	密	長石・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕			外面煤付着
SI-104	2	90	須恵器	蓋	12.5	6.4	3.0	90	明黄褐	明黄褐	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラナデ	回転ナデ		内外面黒斑
SI-104	3	13, 1-③	須恵器	高台付杯	−	8.6	2.6	40	灰	灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	
SI-104	4	84, 91	土師器	甕	13.8	−	10.2	50	橙	橙	密	砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			
SI-104	5	6, 86, 84, 97, 1	土師器	甕	12.0	6.9	13.5	60	明赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・砂礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-104	6	91	土師器	甕	−	5.7	5.6	20	明赤褐	褐	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ			ヘラ書き外面煤付着
SI-104	7	89	土師器	甕	15.3	6.6	18.3	90	橙	橙	粗	石英・長石・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・指頭痕			常総型・外面煤付着
SI-104	8	108, 103, 65	土師器	甕	19.6	−	27.0	30	明褐	明褐	粗	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型
SI-104	9	97, 89, 1-①	土師器	甕	19.4	−	12.4	30	赤褐	赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			外面煤付着

SI105土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-105	1	19, 20, 48, 50, 51, 55, 56	土師器	杯	15.6	7.1	5.0	50	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		線刻
SI-105	2	1, 16, 17, 18, 34, 59, SI-088-330	土師器	杯	12.0	5.7	4.2	60	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	無調整 回転糸切り		
SI-105	3	30	土師器	杯	13.2	6.4	3.5	100	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		墨書「□(田カ)」内外面煤付着
SI-105	4	45, 46, 47	土師器	杯	12.6	5.9	3.6	50	橙	橙	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		内面煤付着

SI106土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-106	1	45, 46	須恵器	杯	10.9	−	−	10	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロ成形		

SI108土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-108	1	22	土師器	杯	11.4	7.5	4.4	100	明褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラミガキ	手持ちヘラケズ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-108	2	15	須恵器	高杯	−	−	−	10	にぶい黄	淡黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ			線刻「矣」

SI109土器表

遺構	No	注・記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-109	1	575	土師器	杯	12.6	7.5	3.9	50	明褐・黒褐	明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-109	2	176, 496	土師器	小型碗？	9.8	6.5	4.2	30	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-109	3	502, 588	須恵器	杯	13.2	6.4	4.9	60	黄灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-109	4	SI-110-18	須恵器	杯	13.3	8.4	3.8	40	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-109	5	590	須恵器	杯	12.3	7.2	4.1	80	灰	灰・明黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-109	6	586	須恵器	杯	12.9	7.8	4.1	90			密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻「サ」
SI-109	7	81, 157, 252, 497	須恵器	杯	11.8	6.6	4.2	40	灰	灰・暗灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-109	8	306	須恵器	杯	12.4	7.6	4.2	10	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「＋(×)」
SI-109	9	521	須恵器	盤	−	8.6	−	20	黄灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き「雄」・「＋(×)」
SI-109	10	427, 444	陶器	長頸壺	−	8.9	−	10	灰黄	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			
SI-109	11	SI-109-560, SD-018-2, 456, 457	須恵器	高台付杯	−	8.9		10	灰	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-109	12	83, 142	須恵器	甕	26.8	−	−	10	灰	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	タタキ・ナデ			
SI-109	13	SI-110-129, 130, 132	須恵器	甕	32.6	−	−	10	灰黄	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			

SI110土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-110	1	325	土師器	高台付杯	12.0	7.2	4.1	50	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ		
SI-110	2	323	須恵器	杯	11.8	8.5	4.5	70	灰	灰黄・暗灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-110	3	73, 108, 224, 307	須恵器	杯	11.2	7.5	4.3	50	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-110	4	1-④, 122, 156, 322	土師器	甕	－	8.3	－	20	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ		木葉痕	常総型
SI-110	5	188	陶器	長頸瓶	－	10.0	－	10	灰黄	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		
SI-110	6	225, 238	須恵器	甕	－	9.9	－	10	にぶい黄褐・黒褐	にぶい黄褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色状針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ	無調整		ヘラ書き「キ」
SI-110	7	229, 345, 417, 423	須恵器	小型甕	14.7	9.9	15.6	10	赤褐	赤褐	密	石英多，長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	手持ちヘラケズリ・タタキ・ナデ	無調整		
SI-110	8	224, 226, 240, 242, 244, 250, 251, 253, 321, 324	須恵器	甕	21.1	－	－	10	にぶい橙	にぶい黄橙・赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-110	9	28, 34, 42	須恵器	甕	18.9	－	－	－	黄灰	明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			

SI111土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-111	1	104	土師器	杯	11	6	4.0	45	にぶい褐	にぶい褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		墨書「□□」
SI-111	2	68	須恵器	高台付杯（盤or皿）	－	8.8	1.7	10	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	長石・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ		転用硯墨汁痕

SI113土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-113	1	56	土師器	杯	14.8	8.4	4.5	80	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		
SI-113	2	85	土師器	杯	12.4	7.2	4.0		褐	にぶい褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズ回転糸切り		墨書「有」
SI-113	3	96	土師器	杯	12.5	6.6	4.5	30			密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		内外面灰付着
SI-113	4	1-④, 32, 51, 57, 93	土師器	杯	13.3	7.4	3.8	60	にぶい褐・灰褐	にぶい褐・灰褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		
SI-113	5	1-④, 4, 19, 38, 50, 57, 58	土師器	甕	18.7	8.5	24.5	60	にぶい黄褐・黒褐	にぶい黄褐・黒褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ・タタキ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着

SI115土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-115	1	17, 33, 41, 53, 58, 62, 66, 75, 86, 87, 91	土師器	甑	26.0	11.0	26.5	30	にぶい赤褐・黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			

SI117土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-117	1	328, 351, 443, 464, 498, 532, 573	土師器	杯	18.2	8.2	5.9	40	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-117	2	1-③, 1-④, 174, 191, 258, 260, 261	土師器	杯	12.0	7.6	4.6	90	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		
SI-117	3	54, 430	土師器	杯	11.8	6.0	4.0	70	にぶい赤褐	暗赤褐・にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-117	4	96, 455, 461, 463	土師器	杯	13.0	6.4	4.3	30	赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-117	5	516, 533, 537, 557	土師器	杯	17.4	8.0	4.7	30	にぶい赤褐	にぶい褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-117	6	344	須恵器	杯	12.7	7.0	4.4	30	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-117	7	467	土師器	皿	14.2	7.0	2.2	90	にぶい褐	にぶい橙	密	石英・長石・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		墨書「里」「麻呂」
SI-117	8	1-①, 93, 143, 177	土師器	皿	13.7	−	−	10	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-117	9	87, 368	土師器	蓋	17.4	−	3.4	30	褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ			
SI-117	10	489, 496	土師器	甕	21.8	−	−	10	暗赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ			
SI-117	11	432	土師器	甕	21.8	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-117	12	465, 524	土師器	甕	21.8	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-117	13	431, 441, 442	須恵器	甑	31.8	15.0	27.5	30	褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	手持ちヘラケズリ・ナデ・タタキ	無調整		

SI118土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-118	1	1-④, 229, 409	土師器	杯	14.0	7.2	4.6	80	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		
SI-118	2	1-③, 155, 166, 222, 223, 224, 408	土師器	杯	13.2	5.4	4.6	90	褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転糸切り		外面黒斑
SI-118	3	466	土師器	杯	13.4	7.0	3.8	40	灰黄褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-118	4	245, 355, 386	土師器	皿	14.0	6.4	2.5	40	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-118	5	128, 251	須恵器	杯	13.0	6.5	4.1	60	灰黄褐	褐灰・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転糸切り		
SI-118	6	465	須恵器	杯	12.8	6.8	4.1	100	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-118	7	399	須恵器	杯	12.6	6.3	4.5	100	暗赤褐	灰赤・褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-118	8	365, 400	須恵器	杯	12.1	6.8	4.0	60	黒褐	黒褐・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		底部外面重ね焼き痕
SI-118	9	1-②, 34, 123, 183	須恵器	杯	12.7	6.2	4.2	60	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-118	10	485	須恵器	杯	13.8	7.3	4.3	60	にぶい黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-118	11	469, 475	土師器	甕	20.2	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-118	12	1-②, 42, 225, 242, 243, 267, 276, 325, 367, 368	土師器	甕	20.2	−	−	20	明赤褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			外面煤付着
SI-118	13	8, 20, 39, 296, 333, 407, 416	須恵器	甑	30.8	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-118	14	384	須恵器	甕	12.6	−	−	10	灰黄褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ当て具痕	ナデ・タタキ			
SI-118	15	198, 358, 359, 391	須恵器	甑	27.3	−	−	10	褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			

SI119土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-119	1	257	須恵器	杯	14.8	7.4	4.5	30	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		ヘラ書き「+(×)」
SI-119	2	1-③,172,232	須恵器	杯	12.0	6.0	3.4	40	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-119	3	1-①,1-④,282,289	土師器	杯	13.0	7.0	3.4	50	にぶい赤褐	にぶい橙		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-119	4	252,262,266,268	須恵器	杯	13.2	6.8	4.1	80	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-119	5	1-①,123,255	土師器	高台付皿	13.0	5.8	4.2	90	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		
SI-119	6	226,228,229	土師器	高台付皿	12.2	5.7	3.0	70	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物，酸化鉄多	ヘラミガキ		ナデ		
SI-119	7	25	土師器	高台付皿	−	6.1	−	10	灰赤	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		
SI-119	8	1-①,14,48,276,293,296,308,309,312,320,328,333	須恵器	甕	−	16.5	−	30	にぶい褐・黒褐	褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	無調整		

SI120土器表

遺構	No	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備考
SI-120	1	175	須恵器	杯	13.1	7.5	4.1	80	灰赤・褐	灰赤・褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-120	2	128	須恵器	杯	14.1	7.5	4.2	20	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		重ね焼痕
SI-120	3	71,112	須恵器	高台付皿	−	−	−	20	褐灰	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-120	4	4,26,44	須恵器	蓋	−	−	−	10	褐灰	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ			自然釉
SI-120	5	166	土師器	小型甕	14.8	−	−	10	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-120	6	113	須恵器	甕	23.5	−	−	10	灰黄褐・灰	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ・当て具痕	手持ちヘラケズリ・ナデ			

SI121土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-121	1	2	須恵器	甑	28.4	−	−	10	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			

SI122土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-122	1	3,15,19	土師器	杯	13.0	6.8	4.2	30	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・回転糸切り		墨書「吉」
SI-122	2	20	土師器	杯	−	−	−	−	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ			墨書「吉」

SI123土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-123	1	1-④,322,809	土師器	杯	13.3	5.8	4.5	80	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-123	2	91	土師器	杯	11.4	6.0	4.6	20	にぶい褐	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ回転糸切り		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-123	3	136	土師器	杯	13.0	6.0	3.9	40	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-123	4	108	土師器	杯	－	8.7	－	－	にぶい褐	褐	密		ヘラミガキ	回転ヘラケズリ			黒色処理・墨書「加□(集カ)」
SI-123	5	4, 115, 213	土師器	鉢	21.1	9.0	7.8	10	明赤褐・にぶい赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ・ヘラミガキ	ロクロナデ・ヘラケミガキ	手持ちヘラケズリ回転ヘラケズリ		
SI-123	6	467	陶器	杯	13.8	7.1	4.5	90	灰黄褐	灰黄褐	密		ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラキリ・ナデ	火襷	灰釉
SI-123	7	1-④, 445, 673	須恵器	杯	12.4	5.0	4.2		明黄褐	赤灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ	火襷	
SI-123	8	254, 311, 714	土師器	皿	12.2	5.5	2.3	50	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		墨書(不明)
SI-123	9	1-④, 92, 240	土師器	皿	13.8	7.0	2.1	20	にぶい赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ		
SI-123	10	102, 254, 310, 796	須恵器	皿	14.4	6.5	2.3	20	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ		
SI-123	11	711	土師器	杯	－	－	－	10	明赤褐	明赤褐	密	雲母	ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	12	177	土師器	杯	－	－	－	10	明赤褐	にぶい橙	密		ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	13	783	土師器	杯	－	－	－	10	明赤褐	明赤褐	密	雲母	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	14	676	土師器	杯	－	－	－	10	明赤褐	にぶい赤褐	密		ヘラミガキ	手持ちヘラケズリ・ナデ			墨書(不明)
SI-123	15	1-③	土師器	杯	－	－	－	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密		ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	16	1-④	土師器	杯	－	－	－	10	にぶい褐	にぶい褐	密		ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	17	1-①	土師器	杯	－	－	－	10	にぶい褐	にぶい褐	密		ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	18	1-④	土師器	杯	－	－	－	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密		ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	19	1-②	土師器	杯	－	－	－	10	暗灰	にぶい褐	密	長石	ナデ	ナデ			墨書(不明)
SI-123	20	1-④	土師器	杯	－	－	－	10	にぶい橙	にぶい橙	密		ロクロナデ	ロクロナデ			墨書(不明)
SI-123	21	1-③, 532	土師器	杯	－	6.5	－	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密		ミガキ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	ヘラケズリ		墨書(不明)
SI-123	22	1-③, 462	土師器	高台付皿	－	6.2	－	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ・ヘラミガキ	ロクロナデ・ヘラケズリ	ナデ		
SI-123	23	11	土師器	高台付杯	－	5.5	－	20	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		
SI-123	24	40-794	土師器	高台付椀	－	7.4	－	10	にぶい赤褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラキリナデ		
SI-123	25	473	土師器	高台付杯	－	6.8	－	10	にぶい橙	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ・ヘラミガキ	ナデ	回転糸切りナデ		
SI-123	26	469	土師器	高台付杯	－	7.5	－	10	黒褐	暗赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ナデ	手持ちヘラケズリナデ		緑釉
SI-123	27	263	陶器	長頸壺	－	7.4	－	10	灰褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ナデ	回転糸切りナデ		灰釉
SI-123	28	347, 428, 453, 558	陶器	長頸壺	－	－	－	10	にぶい赤褐・灰黄褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			灰釉
SI-123	29	1-①, 1-③, 1-④, 188, 193, 219, 315, 402, 409, -410, 411, 472, 479, 482, 483, 485, 486, 487, 556, 648	土師器	小型甕	14.4	7.0	15.2	60	にぶい黄褐・灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密		ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「＋(×)」
SI-123	30	552, 624, 672, 681, 814, 879	土師器	甕	21.2	－	－	10	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・手持ちヘラケズリ	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-123	31	228, 231, 553, 644, 655, 683	須恵器	甕	17.4	－	－	10	にぶい赤褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-123	32	354	須恵器	甕	－	7.8	－	10	褐	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・ナデ	無調整		灰付着
SI-123	33	1-④, 261, 439, 442, 478, 502, 529	須恵器	甕	－	－	－	10	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			
SI-123	34	35	須恵器	甕	11.0	－	－	10	赤灰	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ヘラケズリ	無調整		ヘラ書き
SI-123	35	470, 484, 497, 527, 555	須恵器	甕	28.4	－	－	10	暗灰黄	暗灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・タタキ			
SI-123	36	211, 320, 566	須恵器	甑	30.3	－	－	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・タタキ			
SI-123	37	645	須恵器	甕	－	6.6	－	10	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ	無調整		

SI124土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-124	1	6	土師器	杯	17.7	8.0	4.5	80	黒褐・褐	黒褐・にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ回転糸切り		煤付着
SI-066	2	86	土師器	杯	12.9	5.6	4.4	50	にぶい褐	褐・赤褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		ヘラ書き・外面黒斑
SI-124	3	56	土師器	杯	－	－	－	10	にぶい褐	にぶい褐	密		ロクロナデ	ロクロナデ			墨書「生」か「任」
SI-124	4	37	土師器	甕	22.8	－	－	10	にぶい褐	にぶい橙・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			
SI-124	5	12	須恵器	甕	－	13.9	－	10	明赤褐・にぶい橙	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・回転糸切り			
SI-124	6	34	須恵器	杯	14.8	7.4	6.1	70	褐	暗褐・にぶい黄褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-124	7	54	須恵器	片口鉢	20.2	9.7	10.1	30	灰黄褐・灰褐	灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	手持ちヘラケズリ・タタキ			
SI-124	8	30	須恵器	甑	27.4	－	－	20	褐・灰褐	褐・灰褐		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ロクロナデ・タタキ			

SI127土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-127	1	54, 96	須恵器	杯	12.8	7.4	4.3	30	明黄褐	明黄褐	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ヘラナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		内外面煤付着
SI-127	2	108, 131	須恵器	杯	11.4	7.4	4.4	30	灰	灰	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-127	3	106, 108, 118, 119, 120, 124, 125, 126, 117, 110, 123	土師器	甕	－	9.0	18.0	20	橙	橙	密	石英・砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ			外面黒斑
SI-127	4	12, 22, 23	須恵器	甕	23.5	－	11.0	10	灰	灰	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヨコナデ・タタキ			
SI-127	5	114	土師器	甕	17.3	－	11.0	10	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型

SI128土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-128	1	①, 35, 97, 126, 167, 187, 220, 223, 306	土師器	杯	16.0	－	4.9	50	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒・小礫	ヨコナデ・ミガキ	ヘラナデ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ	赤彩	
SI-128	2	①, 149, 150, 151	土師器	杯	－	－	－	70	赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア多	ナデ・ミガキ	回転ヘラケズリ	ヘラミガキ	赤彩	
SI-128	3	1, 227, 248, 555, 557	土師器	杯	18.8	－	3.7	90	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ミガキ	手持ちヘラケズリ・ナデ	赤彩	
SI-128	4	295	土師器	杯	13.6	－	3.0	20	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ・ミガキ	手持ちヘラケズリ	赤彩	

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-128	5	⑤,342	土師器	杯	14.0	−	3.5	40	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒・小礫	ヨコナデ・ミガキ	手持ちヘラケズリ・ヨコナデ・ミガキ・工具痕		赤彩	
SI-128	6	3,516, SI-127-19	土師器	杯	23.1	−	3.3	10	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ		赤彩	
SI-128	7	565③	須恵器	杯	14.2	9.9	3.9	90	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・砂粒,スコリア多			回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-128	8	543,564	須恵器	杯	13.9	8.0	3.9	60	灰	灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-128	9	566	須恵器	杯	14.1	8.8	3.8	60	灰白	灰白	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-128	10	1,54,138, 155,169,175, 125,218,221, 153	須恵器	杯	14.3	9.1	3.8	90	灰黄	灰黄	密	雲母・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		内外面煤付着
SI-128	11	154	須恵器	杯	14.2	10.4	4.3	20	黄灰	黄灰	密	砂粒・礫	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-128	12	①,5,92	須恵器	杯	12.8	7.4	4.6	50	灰白	灰白	密	石英・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-128	13	454	須恵器	杯	−	9.0	2.9	60	灰白	灰白	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラキリ		外面煤付着
SI-128	14	⑥,273	須恵器	蓋	12.5	11.9	2.9	70	灰	灰	密	長石・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-128	15	527	須恵器	蓋	13.1	8.9	1.3	30	白灰	灰	密	長石・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-128	16	564	須恵器	つまみ	3.2	3.5	1.3	10	灰	灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		
SI-128	17	544	須恵器	高台付杯	−	8.2	1.4	50	灰白	灰白	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		硯又は研ぎ具に転用
SI-128	18	1,2,6,523	須恵器	盤	21.6	18.6	2.2	40	灰白	灰白	密	石英・長石・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ・回転ヘラキリ		
SI-128	19	508	須恵器	盤	21.8	13.9	2.2	20	灰白	灰白	密	石英・長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-128	20	454,493	土師器	甑or鉢	21.1	−	7.4	10	明黄褐	明黄褐	密	雲母・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ			内外面煤付着
SI-128	21	①,27,28,73, 88,93,95,98, 96,110,142, 163,164,165, 166,172,193, 195,216,217, 262,324,2,5,	須恵器	甕	38.4	17.6	18.5	60	灰	灰	密	長石・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヘラナデ・ヨコナデ・タタキ			
SI-128	22	556	須恵器	長頸壺	11.1	−	12.4	70	灰白	灰白	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			自然釉
SI-128	23	1,5,204,322, 385,475	土師器	甕	12.8	−	8.5	30	橙	明赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面黒斑・煤付着
SI-128	24	1,④,376, 263,266,267, 272,275,381, 521	土師器	甕	25.1	−	19.9	20	淡黄褐	淡黄褐	密	長石・雲母・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			外面煤付着
SI-128	25	412,415,452, ④,⑤,⑥, 414,453,469, 473,497,498, 499,500501, 502,503,506	土師器	甕	22.6	−	29.9	50	橙	橙	密	雲母・砂粒	ヨコナデ・ヘラナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型外面煤・窯の砂付着
SI-128	26	36,37,39,47, 57,130,159, 531,545,549, 552,554	土師器	甕	22.0	9.2	32.2	40	橙	橙	密	長石・雲母・砂粒	ナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ミガキ	ナデ		常総型内面炭化物付着？
SI-128	27	③,⑤,130, 148,211,245, 254,255,292, 436,457,459, 567,225,250, 421,422,456, 458,562,568	土師器	甕	23.4	−	27.8	70	橙	橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型外面黒斑・煤付着
SI-128	28	1,451,462, 463,475,519	土師器	甕	23.4	−	11.8	20	淡橙	淡橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			外面黒斑
SI-128	29	258,265,312, 341	土師器	甕	25.8	−	7.6	10	橙	橙	密	雲母・礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			内外面煤付着

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-128	30	①, 50, 51, 78, 89, 101, 114, 132, 145, 196, 197, 198, 222, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 505, 522, 544, 120	土師器	甕	25.0	−	32.5	40	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ			常総型
SI-128	31	40, 61, 123, 173, 184, 188, 232	土師器	甕	22.0	−	9.8	10	橙	橙	密	雲母・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			
SI-128	32	⑤, 6, 101, 207, 325, 5	土師器	甕	22.6	−	10.6	20	橙	橙	密	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型
SI-128	33	316, 437, 491	土師器	甕	24.0	−	9.1	10	橙	橙	密		ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			
SI-128	34	1, 3, 135, 156, 174, 176, 189, 202, 251, 313, 404, 405, 420, 534	土師器	甕	−	7.7	12.4	20	淡橙	淡橙	密	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・指ナデ	ヘラナデ・ミガキ	ナデ	木葉痕	常総型
SI-128	35	1, 203, 274, 301, 318, 377, 387, 407	土師器	甕	−	8.6	20.7	40	橙	橙	密	長石・砂粒	ヘラナデ・輪積痕	ヘラナデ・ミガキ		木葉痕	常総型 内外面煤付着
SI-128	36	3, 300, 388, 389	土師器	甕	−	9.3	2.4	10	淡黄橙	淡黄橙	密	雲母・小礫	ヘラナデ	ヘラナデ・ミガキ	無調整	木葉痕	外面煤付着

SI129A・B土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-129 A・B	1	4, 32	土師器	高台付皿	12.8	7.8	2.7	40	橙	橙	密	石英・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-129 A・B	2	26, 28, 31	須恵器	杯	13.6	7.8	3.4	40	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-129 A・B	3	15	須恵器	杯	13.7	7.3	4.0	20	褐灰	褐灰	密	長石・砂粒・砂礫	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-129 A・B	4	33	須恵器	杯	11.6	7.2	3.8		灰白	灰白	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-129 A・B	5	53	須恵器	甕	29.7	−	13.5	10	灰褐	灰褐	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・回転ナデ・当て具痕・	ヨコナデ・回転ナデ・タタキ			

SI130土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-130	1	3, 57, 60	土師器	杯	12.8	6.3	3.7	90	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り？		灰釉
SI-130	2	54, 60, 61, 62	土師器	杯	12.6	5.6	3.9	50	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ・輪積痕	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-130	3	2, 4, 1	土師器	杯	13.7	5.8	5.1	60	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		
SI-130	4	2	土師器	杯				10	灰褐	灰褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			墨書
SI-130	5	30, 34, 35	土師器	杯	14.1	−	4.0	40	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-130	6	4, 17	土師器	杯	11.7	5.4	3.3	40	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸きり？ 無調整		内外面煤付着
SI-130	7	26, 48	土師器	高台杯椀？	13.8	−	5.5	40	橙	橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り		外面煤付着 内面黒斑
SI-130	8	57	陶器	皿	13.8	−	2.8	40	灰オリーブ	灰オリーブ	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	重ね焼痕	灰釉
SI-130	9	4	陶器	皿	−	−	105	10	灰オリーブ	灰オリーブ	密	石英・長石	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		灰釉
SI-130	10	29	土師器	高台付杯	−	8.5	4.5	50	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	無調整		
SI-130	11	39, 1	土師器	高台付杯	−	−	3.6	40	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ・圧痕		内外面煤付着
SI-130	12	26, 43, 48, 1	土師器	甕	13.0	8.2	16.4	40	橙	橙	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			外面煤付着
SI-130	13	5	土師器	甕	13.4	−	5.5	10	赤褐	赤褐	密	石英・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-130	14	11	土師器	甕	−	11.0	4.5	20	橙	橙	密	砂粒・スコリア	ヘラナデ	ヘラナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転糸切り		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-130	15	1, 3, 4, 18, 19, 26	土師器	甕	19.2	−	13.9	10	橙	橙	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			
SI-130	16	37	土師器	甕	18.4	−	8.5	10	橙	橙	密	石英・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕			
SI-130	17	4, 37, 47	土師器	甕	−	14.6	14.9	10	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ・ヘラケズリ・輪積痕	手持ちヘラケズリ		外面煤付着

SI131土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-131	1	20	土師器	杯	15.2	7.6	4.5	90	灰黄褐・黒褐	灰黄褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-131	2	34	土師器	杯	12.4	6.4	3.7	70	にぶい赤褐・にぶい褐	明赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き
SI-131	3	19, 28	土師器	杯	13.7	5.8	4.3	80	にぶい褐・灰褐	にぶい褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-131	4	40	土師器	杯	13.1	5.8	4.2	90	にぶい褐	にぶい褐・にぶいか褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面煤付着・打ち欠き後灯明器として使用
SI-131	5	35, 42	土師器	杯	13.1	5.6	3.7	90	にぶい赤褐	にぶい赤褐・褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-131	6	31	土師器	杯	12.6	6.1	4.2	80	にぶい赤褐・灰黄褐	明赤褐・にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ回転糸切り		
SI-131	7	2	土師器	杯	12.4	6.3	4.8	10	にぶい褐・黒褐	灰黄褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		ヘラ書き「キ」
SI-131	8	22	土師器	杯	12.1	6.4	3.8	100	にぶい褐・黒褐	にぶい褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		内外面煤付着
SI-131	9	1, 13	土師器	杯	12.2	6.7	4.5	90	暗赤褐	暗赤褐・淡暗赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・回転糸切り		
SI-131	10	10	土師器	杯	11.6	5.3	3.9	60	にぶい褐・褐	にぶい褐・褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り・ナデ		
SI-131	11	2, 32, 36, 39, 42	土師器	杯	12.9	6.4	4.6	90	にぶい褐・灰黄褐	にぶい褐・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		
SI-131	12	5, 6, 7, 8, 9, 23, 42	土師器	小型甕	14.2	6.8	14.8	70	にぶい赤褐・灰褐	灰黄褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	無調整		
SI-131	13	30	土師器	甕	17.9	−	−	10	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			

SI132土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-132	1	15	須恵器	杯	12.9	7.0	4.3	70	赤灰	灰褐・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻・二重
SI-132	2	8	須恵器	杯	11.6	7.0	3.6	50	赤褐・黒褐	灰黄褐・灰赤	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「＋(×)」
SI-132	3	1, 13	須恵器	杯	12.0	7.4	3.9	90	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-132	4		土師器	高台付杯	−	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ナデ	ナデ		
SI-132	5	6	土師器	小型甕	−	5.4	−	10	暗赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-132	6	2, 4, 22, 23	土師器	甕	21.2	8.0	12.6	90	にぶい赤褐・灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ			
SI-132	7	11	土師器	小型甕	14.8	−	−	10	灰褐	にぶい赤褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ			
SI-132	8	20	土師器	甕	14.8	−	−	10	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-132	9	21	土師器	甕	18.4	−	−	10	にぶい赤褐・灰褐	褐・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-132	10	17, 21, 24, 26	土師器	甕	20.6	−	−	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-132	11	1, 5	土師器	甕	23.2	−	−	10	にぶい褐・褐	にぶい赤褐・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ・当て具痕	ナデ			常総型
SI-132	12	1, 2, 4, 9, 12, 21, 26, 27	土師器	甕	21.6	−	−	10	にぶい褐・にぶい赤褐	にぶい褐・にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			常総型
SI-132	13	1, 5, 12	須恵器	甑	25.8	−	−	10	褐灰	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-132	14	1, 2, 18, 22, 26, 27	須恵器	甕	26.4	13.0	23.5	30	灰赤・灰黄褐	灰赤・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ・手持ちヘラケズリ	無調整		
SI-132	15	1, 3, 4, 5, 14, 21, 26, 81	須恵器	甕	27.8	18.4	25.3	20	灰黄褐・灰褐	灰赤・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	手持ちヘラケズリ・タタキ・ナデ	無調整		

SI133土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-133	1	1, 2	土師器	杯	12.0	7.0	4.0	50	にぶい褐・にぶい赤褐	にぶい橙・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転糸切り・回転ヘラケズリ		
SI-133	2	1, 2	土師器	杯	11.8	6.2	4.2	40	褐・黒褐	にぶい褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		
SI-133	3	1, 2	土師器	杯	11.8	7.0	3.7	80	にぶい褐・明赤褐	にぶい褐・明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-133	4	1	土師器	杯	−	−	−	−	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ			墨書（不明）
SI-133	5	2, 6	須恵器	杯	12.9	7.2	3.9	90	黒褐	黒褐・赤灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		重ね焼痕
SI-133	6	7	須恵器	杯	13.4	7.9	4.3	60	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-133	7	10, 11	須恵器	杯	11.8	5.8	4.1	90	褐灰	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		重ね焼痕
SI-133	8	1, 8, 9	土師器	高台付杯	15.4	7.5	6.6	90	黒	赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラキリ・ナデ	黒色処理	
SI-133	9	1	須恵器	高杯	−	−	−	10	明赤褐・赤褐	明赤褐・赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	ナデ			三方透孔（長脚一段）
SI-133	10	2, 13	土師器	小型甕	10.0	5.0	9.6	70	にぶい赤褐・褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-133	11	2	土師器	甕	15.3	−	−	10	にぶい褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-133	12	2, 5	須恵器	甕	22.9	12.9	25.6	90	褐灰	褐灰・灰黄褐・淡褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	無調整		

SI134土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-134	1	2	須恵器	杯	14.5	8.8	4.6	90	灰褐・灰黄褐	灰褐・にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		底部内外面赤味有
SI-134	2	3	須恵器	杯	13.5	8.8	3.9	90	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		外面木片付着
SI-134	3	1	須恵器	杯	13.0	8.0	4.1	40	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き

SI135土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-135	1	1, 3	土師器	杯	15.8	8.0	5.4	60	にぶい褐・にぶい赤褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り ナデ		線刻

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-135	2	1,5,6	土師器	杯	11.7	6.0	3.9	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		
SI-135	3	1	土師器	杯	11.7	5.5	3.4	10	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書（不明）

SI137土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-137	1	15,17	土師器	杯	12	7.2	4.3	−	にぶい赤褐・にぶい褐	にぶい褐・明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラキリ・手持ちヘラケズリ		
SI-137	2	1,169,220,252,255	土師器	杯	12.8	8.6	4.1	60	にぶい赤褐・橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-137	3	1,3,4,9,12,119,120,235	土師器	杯	12.3	7.2	4.2	80	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	回転糸切り		
SI-137	4	49,235	土師器	杯	11.1	−	−	10	黒	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ・ヘラミガキ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ			黒色処理
SI-137	5	118	土師器	杯	−	6.8	−	10	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラケズリ		
SI-137	6	253,254	須恵器	杯	12.4	7.4	4.1	80	にぶい黄褐色・褐色	にぶい黄褐・褐色	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き「＋（×）」
SI-137	7	215,224,226	須恵器	杯	11.8	7.6	3.9	80	黒褐	黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	回転ヘラキリ・手持ちヘラケズリ		内面煤付着・灯明器として使用
SI-137	8	93,102,238	須恵器	杯	12.3	7.1	4.5	−	黒褐	にぶい黄褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-137	9	78	須恵器	杯	12.8	7.6	4.1	30	褐灰	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-137	10	75	須恵器	杯	12.2	7	4.1	40	灰黄褐・褐灰	灰黄褐・褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-137	11	235	須恵器	杯	11.4	7.6	3.7	50	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-137	12	1,4,24,38,204,238	須恵器	杯	11.7	7.2	3.9	60	褐灰	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-137	13	25,77,79	須恵器	杯	12.6	7.4	3.9	20	明黄褐・にぶい黄褐	灰黄褐・にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-137	14	2,107	須恵器	杯	−	7.4	−	10	灰黄褐・褐灰	灰黄褐・褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「＋（×）」
SI-137	15	1,14,158,167,213	須恵器	高台付杯	−	7.4	−	10	褐灰	赤灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ナデ			火襷
SI-137	16	76	須恵器	高台付杯	−	7	−	20	にぶい黄褐	灰黄・にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		ヘラ書き「＋＋」
SI-137	17	167,207,233,260	土師器	甕	17.0	−	−	10	赤褐・明赤褐	明赤褐・暗赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-137	18	74,260	土師器	小型甕	11.6	−	−	30	にぶい赤褐・黒褐	にぶい赤褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-137	19	121,164	土師器	小型甕	12.8	−	−	30	褐灰	にぶい赤褐・暗褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-137	20	229,234,248,260	土師器	小型甕	−	5.6	−	20	褐・黒褐	にぶい褐・灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・ヘラナデ	手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-137	21	125,127,231,247,259	土師器	甕	22.8	−	−	−	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ヘラケズリ・ナデ			常総型
SI-137	22	2,221,222	須恵器	甕	15.0	−	−	10	灰黄褐・にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			
SI-137	23	170	須恵器	甕	13.4	−	−	10	褐灰	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			砂目痕
SI-137	24	1,42,53	須恵器	甕	−	9	−	20	褐灰	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	無調整		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-137	25	2,106,108,134	須恵器	甕	－	15.4	－	10	にぶい黄褐・にぶい褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ	無調整		
SI-137	26	16,64,94,160,218,259	須恵器	甕	27.5	－	－	10	灰褐・にぶい赤褐	灰黄褐・にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ナデ・タタキ			
SI-137	27	101,120,122,129	須恵器	甑	29.8	13.8	20.2	20	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヘラケズリ	ナデ・タタキ・手持ちヘラケズリ	無調整		五孔式

SI138土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-138	1	78,79,80,81,82	土師器	杯	－	6.0	2.3	50	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		内面煤付着
SI-138	2	40	土師器	杯	－	7.4	1.1	10	橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書
SI-138	3	77	須恵器	高台付盤	－	－	2.1	60	灰	灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		朱墨書？

SI139土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-139	1	2,3,62	土師器	杯	－	6.0	3.5	20	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	無調整・回転糸切り		墨書「日」
SI-139	2	5,10,82,107	土師器	杯	12.0	6.4	4.1	70	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		内外面黒斑・煤付着
SI-139	3	2,92,113	土師器	杯	12.6	6.6	3.5	60	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ・回転糸切り		
SI-139	4	1,111	土師器	杯	13.2	6.0	4.1	70	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		内外面煤付着外面黒斑
SI-139	5	2,5,24,25,101,SI-142-1	土師器	杯	14.4	6.0	4.4	60	明褐	明褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面黒斑
SI-139	6	61,66,67,78	土師器	杯	11.4	5.1	3.8	90	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り・無調整		
SI-139	7	41,43,50,90	土師器	甕	19.1	－	10.5	10	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			
SI-139	8	4,2,27,74,76,97,115	土師器	甕	18.3	－	15.3	20	明赤褐	明赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面黒斑外面煤付着
SI-139	9	42,48,49,51,89	土師器	甕	－	10.5	12.5	20	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・輪積痕	ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		外面煤付着

SI140土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-140	1	8,11,12,20	土師器	甕	－	－	9.6	10	明赤褐	明赤褐	密	ヘラナデ	ヘラナデ・輪積痕				

SI142土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-142	1	134	須恵器	杯	－	7.4	1.9	10	褐灰	褐灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラ切り回転ヘラナデ		
SI-142	2	1,96,97,135	土師器	甕	13.3	6.5	15.5	60	赤褐	赤褐	密	石英・長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着

SI143土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-143	1	140,155	土師器	杯	13.1	7.2	3.8	90	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ・回転糸切り		内面煤付着
SI-143	2	152,170	土師器	杯	12.0	6.0	3.8	40	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-143	3	17	須恵器	杯	12.8	－	3.9	20	褐灰	褐灰	密	石英・長石・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ無調整		
SI-143	4	1,125	土師器	杯	15.7	7.1	4.7	40	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・ヘラケズリ	無調整回転糸切り		
SI-143	5	58,82,154	土師器	甕	18.2	－	10.4	10	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-143	6	17,141	須恵器	鉢	22.0	11.6	11.4	40	赤褐	赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ	手持ちヘラケズリ	黒色処理？	

SI144土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-144	1	42,103	土師器	杯	16.1	－	3.5	70	淡橙	淡橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ミガキ	手持ちヘラケズリ	赤彩	内面煤付着 内面タール付着
SI-144	2	1,4,33,34,35,36,37,38,60	須恵器	杯	13.7	8.9	4.2	80	灰黄	灰黄	密	石英・雲母・小礫	回転ナデ	回転ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-144	3	1,4,43,44,72	須恵器	杯	13.5	7.9	3.8	70	灰黄褐	黄灰	密	雲母・スコリア・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-144	4	2,3,11	須恵器	蓋	－	－	2.3	20	灰黄	灰黄	密	雲母・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-144	5	86	陶器	高台付杯	－	8.8	1.6	10	灰黄褐	灰黄褐	密	砂礫	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		底部釉付着
SI-144	6	1,2,3,4,27,29,41,45,63,70,75,87,98,99,100,105,106,117	土師器	甕	25.5	－	28.7	50	淡黄褐	淡黄褐	密	雲母	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・外面黒斑
SI-144	7	1,49,88,96,97,101,119	土師器	甕	21.5	－	27.0	30	淡黄橙	淡黄橙	密	雲母スコリア	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型 外面窯の土付着
SI-144	8	1,2,3,4,40,46,47,83,89,90,91,92,93,94,95,104,111,112,113,114,118,120,表採	土師器	甕	25.1	－	25.5	50	淡橙	淡橙	密	雲母・スコリア	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・外面窯の土付着

SI145土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-145	1	4,28,99	土師器	杯	13.4	－	4.8	20	橙	橙	粗	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			赤彩？内外面煤付着
SI-145	2	54	須恵器	蓋	12.7	－	3.8	10	灰黄	黄褐	密	長石・砂粒・小礫砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-145	3	92,100	土師器	甕	－	8.0	4.2	20	にぶい橙	橙	粗	長石・雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・接合痕	ミガキ			常総型・木葉痕

SI146土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-146	1	1,4,24,30,39,52	土師器	甕	－	5.6	5.9	20	橙	赤褐	密	スコリア・小礫	ヘラナデ				２次焼成激しいため調整？
SI-146	2	34,42,50	土師器	甕	13.4	－	10.4	40	橙	橙	密	石英・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ			

SI147土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-147	1	1,70,71,72,179,180	土師器	杯	11.2	7.2	3.9	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-147	2	280	土師器	杯	15.3	7.8	4.8	90	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-147	3	276	須恵器	杯	12.8	7.3	4.2	90	明黄褐	明黄褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ	黒色処理？	内外面煤付着
SI-147	4	279	須恵器	杯	12.5	5.8	4.0	100	明黄褐	橙	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-147	5	1, 2, 16, 61, 199, 216	須恵器	高台付杯	16.1	－	5.6	60	黄灰	にぶい黄灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		
SI-147	6	1, 2, 62, 74, 275, 280	土師器	小型甕	12.2	7.0	12.4	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-147	7	203	須恵器	長頸壺	－	－	8.6	20	灰黄	灰黄	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ・指頭痕・接合痕	回転ナデ			
SI-147	8	1, 134, 212, 284, 213, 274, 237, 28, 30, 141, 173, 247	土師器	甕	18.5	－	22.9	40	橙	橙	粗	石英・長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型内面黒斑
SI-147	9	2, 3, 4, 43, 79, 158	土師器	小型甕	13.5	－	6.5	30	明赤褐	明赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面黒斑・外面煤付着
SI-147	10	4, 130, 197, 209, 214, 270	土師器	甕	20.0	8.0	32.0	50	にぶい橙	にぶい橙	粗	石英・長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ		木葉痕	常総型内外面煤付着外面窯の砂付着
SI-147	11	278, 1, 4, 272	須恵器	甕	21.2	15.3	31.9	70	灰	灰	密	長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕・輪積痕	ヨコナデ・タタキ	無調整		

SI148土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-148	1	3, 15	土師器	杯	12.8	5.9	3.7	80	橙	橙	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		

SI149土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-149	1	2, 11	須恵器	杯	12.2	8.5	4.2	70	黄灰	黄灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-149	2	41	須恵器	高台付杯	12.0	8.2	5.0	80	灰黄	灰黄	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-149	3	1, 17, 27	土師器	甕	22.3	－	9.4	10	黄橙	黄橙	密	雲母	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型外面煤付着
SI-149	4	14	土師器	甕	20.8	－	5.9	10	淡黄橙	淡黄橙	密	長石・雲母・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型

SI150A土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-150A	1	25	土師器	杯	12.7	6.2	4.4	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		内外面黒斑
SI-150A	2	29, 30, SI-150B-35	土師器	杯	12.5	5.2	4.3	90	橙	淡黄橙	密	長石・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転糸切り無調整		内外面煤付着
SI-150A	3	1	土師器	杯	13.8	－	－	10	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			墨書（不明）
SI-150A	4	2	土師器	杯	12.5	－	－	10	橙	明黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			墨書（不明）
SI-150A	5	1, 14	土師器	杯	14.4	－	3.5	30	橙	橙	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-150A	6	33	土師器	甑	24.2	－	20.3	20	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内外面黒斑外面煤付着

SI150B土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-150B	1	36, 20, 40, 41, 44	土師器	杯	12.6	5.5	4.1	80	明赤褐	橙	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		内外面煤付着外面窯の砂付着
SI-150B	2	50	土師器	高台付杯	15.3	－	5.1	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ナデ		黒色処理・外面煤付着
SI-150B	3	23, 36	土師器	甕	－	5.6	3.6	20	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面黒斑
SI-150B	4	29, 31, 36, 39, 40	土師器？	置きカマド？	－	－	－	10	褐色	暗褐色	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			
SI-150B	5	36, 37, 46, 48	土師器	鉢	18.1	13.0	12.6	40	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		外面煤付着

SI151土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-151	1	50, 138, 140	土師器	杯	13.6	6.2	3.7	60	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・回転ヘラキリ		墨書「□」
SI-151	2	61	土師器	杯	−	9.0	4.2	30	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		外面窯の砂付着
SI-151	3	48	土師器	杯	13.7	6.5	3.5	40	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-151	4	54, 55, 61	土師器	皿	13.7	7.4	3.4	90	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・無調整		外面煤付着
SI-151	5	105, 138, 139	土師器	甕	16.2	−	14.3	40	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			外面窯の砂付着
SI-151	6	24, 70, 73	土師器	甕	17.0	−	10.3	20	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-151	7	134	土師器	甕	12.8	−	6.9	20	橙	橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			外面煤付着
SI-151	8	82, 122, 124, 126, 128	須恵器	甕	25.2	−	8.0	10	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・タタキ			
SI-151	9	115, 132	須恵器	甑	−	13.6	3.8	10	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-151	11	91	陶器	把手	−	−	−	10	-	灰オリーブ	密	砂粒		ヘラケズリ・ナデ			灰釉

SI153土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-153	1	46	陶器	杯	13.1	6.0	3.1	90	明褐灰	明褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		灰釉・赤色物質（朱墨？）
SI-153	2	54, 53, 61, 78, 87, 84, 93, 104, 1, 2, 4, 58, 71, 72, 86, 70, 74, 56, 73, 85, 27	土師器	甕	−	9.0	20.3	20	淡	灰黄	密	砂粒・スコリア	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着

SI154土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-154	1	144	土師器	杯	−	6.2	1.8	10	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転糸切り		線刻「井」
SI-154	2	228, 245, 318	須恵器	杯	12.4	6.4	4.1	70	明黄褐	明黄褐	密	スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着
SI-154	3	330	須恵器	杯	13.1	7.3	4.0	60	明赤褐	明赤褐	密	スコリア	回転ナデ	回転ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-154	4	1, 2, 221, 271	須恵器	杯	14.0	9.0	4.0	20	黒褐	黒褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-154	5	1	須恵器	杯	13.6	8.9	4.0	40	淡黄橙	淡黄橙	密	長石・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-154	6	233, 241, 248, 305, 332	須恵器	杯	12.9	8.0	4.0	40	明黄褐	明黄褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ	黒色処理？	
SI-154	7	3, 189, 200	須恵器	杯	13.2	8.0	4.0	10	黄黒褐	黄黒褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-154	8	1, 116, 123, 294, 3	須恵器	杯	14.0	9.5	4.3	30	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-154	9	232, 316	須恵器	杯	15.6	−	4.9	10	灰	黒褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-154	10	70	須恵器	高台付杯	14.8	9.1	5.9	20	暗灰黄	暗灰黄	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-154	11	292	須恵器	蓋		14.5	−	20	灰白	灰白	密	雲母	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-154	12	38	土師器	高台付杯	−	−	1.9	10	橙	橙	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り		外面煤付着
SI-154	13	4, 11, 118, 238, 240, 308, 315, 316, 323, 326, 328, 332, 372. 329	土師器	甕	20.8	−	22.4	30	明褐	明褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ			内外面黒斑・外面窯の砂付着
SI-154	14	136, 201, 203, 204, 205, 214, 215	土師器	甕	21.0	−	8.6	10	黄褐	黄褐	密	石英・砂粒・小礫	ヘラナデヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型内外面煤付着

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-154	15	1, 2, 9, 14, 16, 17, 20, 24, 26, 28, 32, 33, 36, 10, 25, 27, 29, 30	土師器	甕	20.4	−	15.5	40	黄褐	黄褐	密	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内外面黒斑・煤付着

SI155土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-155	1	70	土師器	杯	13.4	6.8	4.3	90	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ回転糸切り無調整		外面黒斑・煤付着
SI-155	2	68	土師器	杯	12.6	7.1	3.6	50	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着
SI-155	3	1, 28, 39, 44	土師器	杯	14.4	6.3	4.1	50	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ・回転糸切り		墨書「加」
SI-155	4	26, 30, 32, 51	土師器	杯	14.7	6.7	4.4	40	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ミガキ・回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ	内面黒色処理	外面黒斑
SI-155	5	60	土師器	杯	13.2	7.6	4.4	30	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・砂粒	回転ナデ	ヘラケズリ・回転ナデ	手持ちヘラケズリ無調整・回転糸切り		
SI-155	6	69	須恵器	杯	13.3	6.7	4.2	70	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒・砂礫	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-155	7	45	須恵器	杯	−	6.7	2.8	30	赤褐	赤褐	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ		刻書「×」
SI-155	8	10	土師器	杯	13.4	7.4	4.0	20	橙	橙	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		内外面黒斑
SI-155	9	3	土師器	杯	14.1	−	3.9	10	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-155	10	47, 57	土師器	甕	−	7.4	6.2	10	赤褐	赤褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ	ヘラケズリ	無調整		外面灰付着
SI-155	11	62	土師器	甕	11.5	−	6.4	10	明赤褐	明赤褐	密	雲母・砂粒	ヨコナデ・回転ナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			
SI-155	12	2, 27, 40, 46, 53, 71	土師器	甕	10.8	6.8	9.9	90	橙	橙	密	石英・長石・スコリア	ヘラナデ・回転ナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		

SI156土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-156	1	1, 47, 58	土師器	杯	15.4	−	3.8	30	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-156	2	57	須恵器	皿	12.5	5.6	1.3	70	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		内外面黒斑・煤付着

SI158土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-158	1	1, 6, 10, 17	土師器	杯	19.5	7.6	7.0	60	橙	橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-158	2	1, 2, 3	土師器	甕	10.3	5.8	10.0	50	橙	明赤褐	密	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ	回転糸切り・無調整		内外面黒斑・煤付着

SI159土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-159	1	4	須恵器	高台付盤	−	−	5.7	20	灰褐	灰褐	密		回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着

SI161土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-161	1	5	須恵器	小型杯	7.4	5.0	3.4	90	黒	黒	密	石英・長石・雲母・砂粒少	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	無調整		灯明器・油煙付着
SI-161	2	6	須恵器	小型杯	7.8	5.1	4.3	80	黒	黒	密	石英・長石・雲母・砂粒	ロクロナデ	ヘラケズリ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ無調整		
SI-161	3	2	須恵器	甕	−	9.6	−	10	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・砂粒スコリア少	ロクロナデ	ヘラケズリ・ロクロナデ	無調整		ヘラ書き「＋(×)」

SI162土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-162	1	2	土師器	杯	11.5	4.8	4.3	70	明褐	明褐	密	長石・雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		内外面煤付着

SI163土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-163	1	4	土師器	杯	10.7	7	3.9	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	長石，スコリア，砂	ナデ	ナデ，ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-163	2	2, 4, 5, 7, 9, 12, 13	須恵器	甕	14	13.2	27.1	40	灰黄褐	灰黄褐	密	長石，スコリア	ナデ	ヘラケズリ，タタキ，ナデ			ヘラ書き・煤付着

SI164土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-164	1	3	土師器	杯	11.7	−	−	10	灰黄褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ			墨書

SI165土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-165	1	1, 21, 26, 41, 43, 44, 46, 47, 48, 68	土師器	杯	15.9	7.6	5.5	80	にぶい橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	静止（？）糸切り手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-165	2	50	土師器	杯	11.8	6.4	4.1	100	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り回転ヘラケズリ		外面窯の砂付着
SI-165	3	3, 14, 15, 16, 17	土師器	杯	11.8	6.6	4.2	50	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「禾」
SI-165	4	2, 31, 45	須恵器	杯	12.7	6.1	3.8	80	明黄褐	明黄褐	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラ切り手持ちヘラケズリ		外面黒斑
SI-165	5	3, 40	須恵器	杯	13.2	6.0	3.9	40	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラ切り手持ちヘラケズリ		
SI-165	6	64	須恵器	甕	−	−	−	−	暗灰黄	暗灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ		無調整		ヘラ書き「大」
SI-165	7	13, 25, 30, 3, 46, 51, 4, 38	土師器	甕	22.2	9.0	36.2	40	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型外面窯の砂付着
SI-165	8	1, 22, 36, 47, 52	須恵器	甕	26.2	−	18.7	30	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕・当て具痕	ヨコナデ・ヘラケズリ・タタキ			外面黒斑

SI166土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-166	1	3, 7	須恵器	杯	11.0	7.0	4.3	30	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	墨書「得」
SI-166	2	45	須恵器	蓋	−	14.8	−	10	にぶい黄橙	にぶい黄橙・暗灰黄	密	石英・長石・雲母・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリナデ		

SI167土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-167	1	1, 2, 12, 13, 18, 28, 31, 35, 36, 43	土師器	甕	22.4	8.4	29.0	60	橙	橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ・接合痕			常総型内面黒斑・外面煤・窯の砂付着
SI-167	2	10, 11, 13, 15, 20, 21, 27, 29, 37, 41, 45, 46, 50	土師器	甕	19.4	9.6	32.4	30	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕	ナデ		内外面煤付着外面黒斑
SI-167	3	30, 48	須恵器	壺	−	−	18.3	50	灰	灰	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・回転ナデ・接合痕	回転ヘラケズリ・タタキ・回転ナデ・接合痕	無調整・回転ヘラケズリ		

SI169土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-169	1	37, 38	土師器	甕	20.6	−	13.5	10	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕			内外面煤付着
SI-169	2	1, 4, 14, 15, 17, 18, 21, 28, 16, 19, 22, 31	土師器	甕	21.4	−	20.0	20	にぶい褐	にぶい褐	密	長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・外面黒斑

SI175土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-175	1	9,10,21	土師器	高杯	－	－	8.5	30	明赤褐	明赤褐	密	石英・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕			

SI177土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-177	1	43	土師器	杯	15.4	10.7	6.6	100	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密		ヘラミガキ・ナデ	ナデ・ヘラケズリ手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-177	2	45,54	土師器	甕	15.5	8.9	24.1	90	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密		ヘラナデ・ナデ	ナデ・ヘラケズリ			

SI178土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-178	1	10	須恵器	杯	－	7.6		35	灰	灰	密	砂粒，白雲母	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		底部線刻「大」
SI-178	2	7	須恵器	高台付杯	－	8.0	2.3	30	灰	灰	密	砂粒，白雲母	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		底部転用?線刻「山」

SI179土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-179	1	15	須恵器	杯	12.8	7.9	4.1	90	灰	灰	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		油煙付着・灯明器転用
SI-179	2	23	須恵器	短頸壺	6.1	6.2	7.9	90	灰黄	灰黄	密	雲母・砂粒	回転ナデ	ヨコナデ・回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-179	3	16	須恵器	蓋	12.6	－	2.2	100	暗灰黄	暗灰黄	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ	火襷	
SI-179	4	17	須恵器	蓋	17.7	－	4.2	100	暗灰	暗灰	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-179	5	18	須恵器	高台付盤	19.6	12.5	3.9	70	暗灰黄	暗灰黄	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-179	6	12	須恵器	高台付杯	－	9.9	2.2	20	暗灰黄	暗灰黄	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		転用硯？
SI-179	7	22	土師器	甕	14.0	8.2	16.4	90	明黄褐	明黄褐	密	雲母・小礫・礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ		木葉痕	常総型内外面黒斑・煤付着
SI-179	8	2,3,4,10,1,2,	土師器	甑	17.8	－	9.2	20	淡橙	淡橙	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			
SI-179	9	11	土師器	灯明皿	7.3	－	－	10	黒	黒・灰黄褐	密	石英・長石・砂粒少，スコリア	ロクロナデ	ロクロナデ		釉	近世・志戸呂窯

SI180土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-180	1	4,90,112	土師器	杯	11.7	7.0	4.3	60	橙	橙	密	砂粒	ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		線刻
SI-180	2	87,88,89	須恵器	杯	13.0	7.7	4.0	80	灰黄	灰黄	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-180	3	70,85,86	須恵器	甕	－	15.5	13.2	40	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	砂粒・小礫	ヘラナデ・当て具痕	ヘラケズリ・タタキ	ヘラナデ		ヘラ書き「カ」
SI-180	4	69	須恵器	甑	－	14.8	16.7	40	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヘラケズリ・当て具痕・輪積痕	手持ちヘラケズリ・タタキ・指ナデ	手持ちヘラケズリ・ヘラナデ		

SI188土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-188	1	145	土師器	杯	12.5	7.0	3.6	50	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-188	2	97	土師器	杯	12.1	5.8	3.7	60	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-188	3	1,34	須恵器	杯	12.5	6.8	4.2	90	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面煤付着
SI-188	4	1,79,80,81	須恵器	杯	12.8	7.4	4.3	60	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-188	5	84	土師器	高台付杯	－	－	2.9	40	橙	橙	密	砂粒・小礫	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-188	6	2, 62, 146	土師器	高台付皿	14.6	−	1.4	80	明赤褐	明赤褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ミガキ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-188	7	52, 53	土師器	甕	21.1	−	14.4	10	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・指頭痕・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型
SI-188	8	4, 8, 51, 132, 137, 141, 142, 143, 146	須恵器	甕	17.1	−	12.9	40	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕・	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・タタキ			内外面煤・窯の砂付着
SI-188	9	47, 48, 49, 50, 55, 56, 57, 58, 71, 106, 109, 110, 133, 138, 146	須恵器	甑	32.8	13.0	28.7	40	褐	褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・当て具痕	ヨコナデ・タタキ・ヘラケズリ	ヘラナデ		

SI189土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-189	1	66	土師器	杯	11.9	6.6	3.3	90	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		内外面煤付着
SI-189	2	1, 3, 4, 79	土師器	杯	12.9	5.3	4.3	70	明赤褐	明赤褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑
SI-189	3	1, 53, 55	土師器	杯	12.8	6.8	4.2	40	明赤褐	明赤褐	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑・煤付着
SI-189	4	1, 3, 54	須恵器	杯	12.6	6.8	4.1	30	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-189	5	1, 2, 3, 4	須恵器	杯	12.2	6.6	3.4	50	灰	灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-189	6	1, 28, 29, 51	須恵器	杯	12.5	6.3	4.4	50	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		外面煤付着
SI-189	7	64, 94, 95, 60	須恵器	杯	13.3	6.4	4.4	50	褐灰	褐灰	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-189	8	32, 34, 63	土師器	皿	14.3	6.4	1.3	70	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内面煤付着
SI-189	9	1, 3, 24, 26, 30, 37, 38, 48, 52, 56, 58, 71, 82, 83, 89, 94	須恵器	甕	−	16.2	35.0	50	灰	灰	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ			

SI191土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-191	1	34, 58, 62	須恵器	杯	13.5	7.0	4.3	90	褐灰	褐灰	密	長石・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-191	2	13	須恵器	高台付杯	−	−	2.9	40	黄灰	黄灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-191	3	1, 2, 26, 30, 60, 61	土師器	小型甕	14.0	−	6.7	20	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内面黒斑・外面煤付着

SI192土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-192	1	29	土師器	杯	11.4	7.9	3.5	90	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・回転糸切り・無調整		内外面黒斑
SI-192	2	6	須恵器	杯	12.3	8.0	4.0	80	にぶい橙	橙	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	墨書「右中」内外面黒斑
SI-192	3	42, 43, 44	須恵器	杯	12.1	8.0	3.9	90	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	
SI-192	4	1, 5, 51	須恵器	杯	12.7	8.4	4.5	90	淡黄	淡黄	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ	火襷	

SI194土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-194	1	3, 4, 67	須恵器	杯	12.8	8.4	3.8	30	灰黄褐	灰黄褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き
SI-194	2	77, 66	須恵器	杯	12.1	8.1	3.9	40	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-194	3	37	須恵器	杯	−	7.8	1.6	20	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「リ」
SI-194	4	12	須恵器	杯	12.0	7.2	4.0	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-194	5	3, 20	須恵器	高台杯盤	18.8	13.4	2.7	10	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-194	6	115	須恵器	盤	18.6	−	2.8	90	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ・ヨコナデ	回転ナデ・ヨコナデ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-194	7	117, 120	須恵器	盤	18.6	9.4	2.6	40	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ・ヨコナデ	回転ナデ・ヨコナデ	回転ヘラケズリ		
SI-194	8	3, 4, 24, 31, 51, 52, 55, 102, 106, 107, 108, 112, 113, 114, 120	土師器	甕	23.8	−	24.1	70	橙	明赤褐	密	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕			外面黒斑

SI195土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-195	1	34	土師器	杯	15.4	8.1	4.4	90	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 無調整 回転糸切り		
SI-195	2	4	須恵器	杯	−	−	−	−	灰黄	灰黄	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ			墨書？, 朱書？
SI-195	3	1, 13	須恵器	杯	12.3	7.6	4.3	50	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ	火襷	ヘラ書き「土」
SI-195	4	1, 4, 10	須恵器	杯	13.4	7.4	3.7	40	にぶい黄	にぶい黄	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	
SI-195	5	10	須恵器	杯	13.8	8.6	3.9	20	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-195	6	17	土師器	小型甕	−	6.0	7.2	40	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内面煤付着

SI196土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-196	1	1, 11, 12, 52, 54, 56	土師器	杯	14.0	8.8	3.8	80	にぶい褐・黒	にぶい橙・黒	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ミガキ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-196	2	25, 53, 56	須恵器	杯	14.0	9.1	4.0	90	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-196	3	49, 50	須恵器	杯	13.2	7.9	3.5	100	灰	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-196	4	38	須恵器	杯	13.6	8.0	4.5	90	灰黄	灰黄	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-196	5	39	須恵器	杯	13.4	8.9	3.5	100	灰	灰	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-196	6	4, 13, 36	須恵器	杯	12.6	7.7	4.3	50	暗灰	暗灰	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-196	7	55	土師器	小型甕	13.4	−	−	10	赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-196	8	46	須恵器	甑	26.8	−	−	30	灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	タタキ・手持ちヘラケズリ			

SI197土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-197	1	1	須恵器	杯	11.4	6.8	4.0	40	黄褐	黄褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	重ね焼痕

SI199土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-199	1	84	土師器	杯	14.1	7.5	4.3	70	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ミガキ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-199	2	2, 9, 62	須恵器	杯	13.0	6.8	4.3	70	黄橙	にぶい黄橙・灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-199	3	5	須恵器	杯	13.5	6.2	3.9	100	黒	黒	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-199	4	2, 55, 63	土師器	皿	13.5	6.5	2.2	90	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-199	5	47	土師器	皿	13.1	6.5	2.7	80	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 無調整		墨書「饗司」
SI-199	6	2, 10, 11, 12, 59, 65, 66, 67, 69, 70, 71, 77, 81, 89, 83	土師器	甕	20.7	6.4	28.7	70	橙・明赤褐	橙・明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-199	7	71, 89	土師器	小型甕	10.8	5.0	10.9	70	にぶい黄褐	明黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-199	8	21, 22, 60	土師器	甕	21.8	−	−	10	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・指紋又は掌紋			常総型
SI-199	9	1, 2, 7, 25, 37, 61, 64, 76, 77, 78, 80, 82, 86, 87, 88, 89	須恵器	甕	21.9	11.4	23.0	70	にぶい赤褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	ヘラケズリ・タタキ・ロクロナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-199	10	16, 17, 50, 58	須恵器	長頸壺	−	8.6	12.9	10	灰黄	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		釉

SI200土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-200	1	4, 119, 120, 153, 199	土師器	皿	14.6	6.0	2.0	90	明赤褐	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ・回転ナデ	手持ちヘラケズリ		内面煤付着・外面黒斑
SI-200	2	1, 138, 211, 220	土師器	高台杯皿	13.0	−	−	70	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		煤付着
SI-200	3	3, 145, 212	須恵器	杯	12.2	6.6	4.1	30	灰黄褐	灰黄褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-200	4	1, 3, 25, 200, 220	須恵器	杯	12.2	6.1	3.8	50	褐灰	褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き「本」
SI-200	5	62	須恵器	杯	−	−	−	10	橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒					線刻「＋(×)」
SI-200	6	142	須恵器	甑	−	−	−	10	赤褐	明赤褐	密	砂粒	ヘラナデ				ヘラ書き
SI-200	7	41, 68, 69, 73, 151, 152, 173,	土師器	甕	21.3	−	10.3	10	橙	橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型 外面煤付着
SI-200	8	161, 206, 213, 214, 215, 220	土師器	甕	−	8.4	14.9	20	橙	橙	粗	雲母・小礫	ヘラナデ	ミガキ	無調整		常総型 外面煤付着
SI-200	9	2, 9, 15, 49, 232, 1, 3	須恵器	甕	23.2	−	15.7	10	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヨコナデ・タタキ			

SI201土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-201	1	39	土師器	杯	12.7	7.1	3.3	80	にぶい橙	にぶい橙	密		回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「立」外面煤付着
SI-201	2	18	土師器	杯	13.8	−	3.3	−	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			墨書「□家坏」
SI-201	3	5	土師器	甕	17.3	−	6.4	10	にぶい褐	にぶい褐	密	雲母・スコリア	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			外面窯の砂付着
SI-201	4	38	須恵器	甕	19.6	−	14.0	10	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・指頭痕	ヨコナデ・タタキ			

SI202土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-202	1	2, 30, 31, 34, 179	土師器	杯	15.6	8.8	5.5	50	黒褐	にぶい赤褐	密	砂粒	ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理	
SI-202	2	4, 121, 161	土師器	杯	12.3	6.9	4.0	70	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-202	3	2, 211, 220	土師器	杯	12.7	7.0	4.2	40	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内面煤付着
SI-202	4	102	土師器	高台付杯	−	−	−	−	黒	にぶい黄橙	密	石英・長石・砂粒・雲母・スコリア・白色針状物			回転ヘラケズリ	黒色処理	線刻「#」
SI-202	5	2, 4, 133	須恵器	杯	12.6	6.8	4.0	60	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻・内外面煤付着
SI-202	6	2	土師器	杯	−	7.0	−	−	橙	橙	密	石英・長石・砂粒・雲母・スコリア	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	回転糸切り		墨書「□」
SI-202	7	3, 4, 57, 183	須恵器	杯	13.1	7.5	4.0	80	橙	橙	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-202	8	56	須恵器	杯	12.7	7.9	3.7	90	明褐	明褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-202	9	2, 3, 4, 64, 71, 162, 165	須恵器	杯	13.2	7.5	4.4	60	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-202	10	4, 114	須恵器	杯	12.3	6.1	3.5	90	黄灰	黄灰	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		
SI-202	11	92	須恵器	杯	10.5	7.2	4.1	100	褐灰	褐灰	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	
SI-202	12	4, 210, 212	須恵器	杯	12.4	6.8	4.4	30	にぶい黄橙	灰黄褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-202	13	17, 19	須恵器	杯	12.3	7.3	4.6	70	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着・ヘラ書き
SI-202	14	86, 87	須恵器	杯	13.0	7.6	3.8	40	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「+(×)」内外面煤付着
SI-202	15	3, 4, 20, 42	須恵器	杯	14.3	7.8	3.8	30	灰	灰	密	石英・長石・砂粒, 雲母・スコリア少	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	
SI-202	16	45, 46	須恵器	高台付杯	10.9	−	−	60	橙	橙	密	石英・長石・砂粒・雲母・スコリア	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		ヘラ書き「+(×)」
SI-202	17	131	土師器	甕	21.7	−	−	10	橙	橙	密	石英・長石・砂粒・スコリア	ロクロナデ	ロクロナデ			常総型
SI-202	18	141, 150, 153, 157	土師器	甕	20.4	−	−	10	にぶい褐	橙	密	石英・長石・砂粒・雲母	ナデ	ナデ・ヘラミガキ			常総型

SI207土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-207	1	1, 2, 15	土師器	高台付杯	−	9.7	−	10	にぶい黄橙	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ			
SI-207	2	6, 8	須恵器	杯	12.8	7.0	4.2	30	暗褐	暗褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

SI208土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-208	1	32	須恵器	杯	13.2	7.0	4.6	80	明赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒, スコリア多	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-208	2	5, 63, 65, 91, 92	土師器	小型甕	15.0	−	−	10	明赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	ロクロナデ	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-208	3	45, 61, 95, 97, 100, 101	土師器	甕	21.5	10.0	32.8	70	橙	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ			常総型
SI-208	4	17	須恵器	甕	25.8	−	−	10	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア, 白色針状物少	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ・タタキ・ロクロナデ			
SI-208	5	1, 20, 59, 60	須恵器	甑	26.0	13.0	23.4	20	明褐	明褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	ナデ・ケズリ	タタキ・ナデ・ヘラケズリ			

SI209土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-209	1	40, 41	須恵器	杯	12.3	8.0	4.5	80	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ	黒色処理	
SI-209	2	75, 95	須恵器	高台付盤	14.3	9.1	3.0	80	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	回転ナデ回転ヘラキリ		
SI-209	3	48, SK-437-1, 4, 6, 7	土師器	甕	18.8	−	−	10	明褐	褐	密		ナデ・ケズリ	ナデ・ヘラケズリ			

SI300土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-300	1	29	土師器	杯	10.4	6.9	4.0	90	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		墨書「中」
SI-300	2	4, 17, 18	須恵器	杯	13.6	8.2	4.0	90	灰	灰	密	石英・長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		墨書「夫」
SI-300	3	2, 18	須恵器	杯	12.9	8.0	3.8	60	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-300	4	37	須恵器	杯	13.1	7.6	4.3	70	灰	灰	密	長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		内外面黒斑

SI302土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-302	1	27	須恵器	蓋	11.8	7.7	1.7	40	灰	灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-302	2	26	須恵器	高台付杯	17.2	12.0	6.0	30	黄灰	黄灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-302	3	30, 31, 13, 15	土師器	甑	29.5	11.6	28.6	60	橙	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ	ナデ		常総型・外面煤付着

SI303土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-303	1	3, 4, 13	須恵器	高台付杯	15.0	9.2	6.7	40	褐灰	褐灰	密	長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		

SI304土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-304	1	1	土師器	杯	−	−	2.0	10	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ			墨書
SI-304	2	59	土師器	高台付杯	−	9.0	4.5	10	橙	橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ナデ	黒色処理	
SI-304	3	31, 33	須恵器	甕	33.7	−	10.8	10	灰黄褐	灰黄褐	密	長石・雲母・スコリア・砂粒・砂礫	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヨコナデ			
SI-304	4	19, 22, 25, 30, 37, 39, 43, 50, 56, 62, 63, 69, 85, 86	土師器	甕	19.2	8.4	31.7	40	明赤褐	明赤褐	粗	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型内外面煤付着・外面窯の砂付着

SI305土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-305	1	86	土師器	杯	12.0	8.6	4.2	40	橙	橙	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-305	2	106	土師器	鉢	14.6	8.2	7.1	90	橙	橙	密	石英・長石・雲母	ヨコナデ・ミガキ	手持ちヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		外面黒斑・煤付着
SI-305	3	139, 142	須恵器	蓋	17.8	−	2.9	60	明褐	明褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			内外面煤付着
SI-305	4	67, 68, 137, 138	須恵器	高台付盤	17.8	9.8	3.7	30	明赤褐	明赤褐	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		

SI306土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-306	1	54, 71	須恵器	杯	11.6	8.2	4.2	30	にぶい褐	にぶいにぶい褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き内外面黒斑

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-306	2	56, 130	須恵器	蓋	14.6	−	3.6	70	黄灰	黄灰	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ		火襷	
SI-306	3	63	須恵器	蓋	14.6	−	3.2	70	黄灰	黄灰	密	石英・長石・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ		火襷	
SI-306	4	133	須恵器	高盤	21.8	−	6.6	50	黄灰	黄灰	密	長石・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ		透かし孔	
SI-306	5	1, 34, 48, 50, 52, 73, 136, 147	須恵器	甕	19.6	−	14.4	40	明褐	明褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・指頭痕	ヘラナデ・ヨコナデ			内外面煤付着
SI-306	6	35, 36, 37, 38, 39, 41, 42, 43, 58, 59, 60, 144, 145, 149, 151, 152, 146	須恵器	甕	18.0	9.8	28.5	70	にぶい褐	にぶい褐	密	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ			内外面煤付着

SI307土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-307	1	1, 348, 761	土師器	杯	16.0	8.6	4.4	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理	ヘラ書き
SI-307	2	1, 4, 38, 405	土師器	杯	12.3	7.0	3.9	70	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		外面煤付着
SI-307	3	3, 597, 598, 599, 608	土師器	杯	11.9	7.2	3.7	80	淡黄橙	淡黄橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		
SI-307	4	1, 522, 706	土師器	杯	12.0	7.3	3.6	30	淡黄橙	淡黄橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 無調整 回転糸切り		
SI-307	5	535, 536, 542	土師器	杯	11.8	7.4	3.9	70	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		
SI-307	6	3, 435, 446, 546	土師器	杯	11.8	6.0	3.6	70	橙	橙	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		
SI-307	7	1, 466	土師器	杯	11.8	7.6	3.6	70	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		外面黒斑
SI-307	8	3, 419, 454, 572, 761	土師器	杯	11.7	7.0	4.4	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		外面黒斑
SI-307	9	440, 554	土師器	皿	16.2	9.4	3.1	80	橙	橙	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		
SI-307	10	561	土師器	高台付杯	11.8	7.3	4.7	70	橙	橙	密	雲母・スコリア	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		ヘラ書き 外面黒斑
SI-307	11	4, 611	土師器	杯	11.6	7.1	3.9	70	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		墨書「因」カ
SI-307	12	354	土師器	杯	−	−	−	−	黒	橙	密	石英・長石・スコリア・砂粒，雲母多，白色針状物少	ロクロナデ		回転糸切り 回転ヘラケズリ	黒色処理	墨書「因」
SI-307	13	2, 62	土師器	杯	13.6	7.6	4.0	10	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「工」
SI-307	14	3, 588, 591	土師器	杯	12.0	6.0	3.6	40	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		墨書
SI-307	15	383, 700	土師器	杯	14.4	7.6	4.6	60	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理	外面黒斑
SI-307	16	605, 606	土師器	杯	11.3	−	3.8	40	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ		黒色処理	

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-307	17	3, 282, 555	土師器	杯	12.8	6.8	4.0	30	橙	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒 スコリア少	ミガキ	回転ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		
SI-307	18	486, 662, 764	須恵器	杯	13.2	7.3	4.3	40	灰黄	灰黄	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面黒斑
SI-307	19	1, 2, 3, 4, 167, 309	須恵器	杯	15.7	9.2	4.8	40	淡黄褐	淡黄褐	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-307	20	1, 217, 607	須恵器	杯	14.0	8.0	4.4	40	灰黄	灰黄	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-307	21	4, 332	須恵器	杯	12.5	8.0	3.3	50	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	長石・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-307	22	1, 4, 265, 497, 553, 761	須恵器	杯	12.4	7.0	4.1	60	灰黄褐	灰黄褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-307	23	1, 668, 674, 692, 719	須恵器	杯	12.7	7.1	4.3	90	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-307	24	523	須恵器	杯	12.1	7.2	4.3	90	褐灰	褐灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-307	25	639, 695, 761	須恵器	杯	14.2	7.4	4.1	40	黒褐	黒褐	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		外面黒斑
SI-307	26	1, 2, 3, 234, 481, 761	須恵器	杯	12.9	7.2	3.9	40	明赤褐	明赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面黒斑
SI-307	27	1, 2, 4, 544	須恵器	杯	12.5	7.2	3.9	90	褐灰	褐灰	密	長石・スコリア・砂礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-307	28	2, 482, 576, 761	須恵器	杯	13.2	7.0	4.3	90	灰	灰	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-307	29	1, 2, 532, 22S-59-1	須恵器	杯	12.7	7.8	3.7	70	灰	灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-307	30	1, 4, 30, 57, 204, 534	須恵器	杯	12.4	6.8	3.8	70	灰黄	灰黄	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-307	31	3, 4, 494, 610	須恵器	杯	10.7	6.7	3.6	80	黒褐	黒褐	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-307	32	2, 324, 593	須恵器	杯	13.2	7.7	4.3	70	黄褐	黒褐	密	石英・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-307	33	653, 741, 744	土師器	小型甕	10.8	7.0	10.8	50	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-307	34	634, 644, 645, 647, 648, 649, 650, 654, 657, 660, 663, 664, 669, 670, 671, 672, 675, 684, 690, 707, 708, 726	土師器	甕	20.8	−	28.5	70	橙	橙	粗	石英・長石・雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型 内外面煤付着
SI-307	35	678, 680, 681, 712, 713, 718, 736, 739, 751	土師器	甕	19.6	−	13.5	20	にぶい橙	にぶい橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕			常総型・外面煤付着
SI-307	36	1, 216, 551, 564, 636, 641, 728, 761, 762	須恵器	甕	29.8	−	22.7	20	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ			
SI-307	37	1, 2, 4, 184, 186, 188, 191, 304, 336, 339, 340, 366, 367, 368, 369, 371, 375, 376, 380, 404, 410, 411, 473, 499, 500, 503, 504, 505, 506, 507, 510～514, 527, 549, 550, 562, 563, 564, 566, 569, 608, 616, 620, 633	須恵器	甕	28.6	15.7	26.2	80	橙	橙	密		ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ	無調整		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-307	38	1,104,508,509,643,651,652,656,659,679,688,689,696,701,710,711,714,717,722,724,733,749,764,220,612,661,685,702	須恵器	甑	31.7	15.0	37.1	60	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ・タタキ			
SI-307	39	70,80,87,331,333,423,451,515,640,646,658,676,691,697,699,715,723,725,730,740,748,761,696	須恵器	甑	40.5	15.0	36.9	60	にぶい橙	にぶい橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ・タタキ			

SI308土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-308	1	38	土師器	杯	14.1	5.6	4.7	40	にぶい褐	にぶい褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	黒色処理	外面黒斑
SI-308	2	1,26	土師器	高台付杯	14.7	－	5.5	30	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		内外面黒斑
SI-308	3	1,2,12,13,29,41,47	土師器	羽釜	18.2	－	12.0	40	橙	橙	密	長石・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面煤付着

SI310土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-310	1	81	土師器	杯	11.3	4.0	3.2	90	褐	褐	密	長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・無調整		
SI-310	2	69,3	土師器	杯	11.0	4.1	3.5	90	にぶい褐	にぶい褐	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・無調整		内面炭化物？付着
SI-310	3	2,16,18,19,20	土師器	杯	11.3	4.4	3.4	70	橙	橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		
SI-310	4	2,3,9,10	土師器	杯	12.3	5.0	4.3	60	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		
SI-310	5	1,62	陶器	高台付椀	11.6	6.2	2.5	30	灰黄	灰黄	密	長石・スコリア	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り		緑釉
SI-310	6	72	土師器	杯	11.3	4.9	3.2	80	にぶい褐	にぶい褐	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り		ヘラ書き「×(+)」内面煤付着
SI-310	7	2,12,14,60,66	土師器	杯	17.5	5.4	5.2	20	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	無調整		
SI-310	8	39	須恵器	杯	11.7	7.2	4.0	60	明褐	明褐	密	石英・長石・雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「z」内外面煤付着
SI-310	9	1,5,18,88	土師器	高台付杯	14.1	8.4	5.9	80	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ		火襷	内外面煤付着
SI-310	10	75	土師器	杯	11.8	5.6	3.5	60	にぶい褐	にぶい褐	密	砂粒・スコリア	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り		

SI311土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-311	1	2,3,29,54,63	須恵器	杯	13.7	7.2	4.3	50	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			

SI312土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-312	1	SI338-63	須恵器	高台付盤	20.3	11.7	4.9	80	黄灰	黄灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-312	2	SI338-2,3,11,12,13,15,16,17,19,21,24,26,40,41	土師器	甕	21.9	－	19.8	40	橙	橙	密	石英・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型外面煤付着

SI313土器表

遺構	No.	実測No.	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-313	1	594	213	須恵器	杯	14.7	9.4	4.5	40	黄灰	黄灰	密	砂粒	ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ・ナデ	回転ヘラキリ		ヘラ書き「不」

遺構	No.	実測No.	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備考
SI-313	2	597	165	須恵器	杯	13.4	7.8	4.0	40	灰	灰	密	長石・砂粒・小礫	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-313	3	596	225, 226	須恵器	杯	13.5	8.0	4.1	80	灰	灰	密				回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ	火襷	
SI-313	4	595	150	須恵器	杯	13.2	8.0	4.0	40	灰	灰	密	スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-313	5	611	1, 3, 4, 119, 122, 177	須恵器	杯	12.9	7.5	3.6	50	灰	灰	密	長石・砂粒	ナデ	ナデ	回転ヘラキリ	火襷	
SI-313	6	598	145	須恵器	杯	12.3	7.7	4.5	50	灰黄	灰黄	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-313	7	604	128, 169	須恵器	蓋	−	−	2.5	60	灰白	灰白	密	スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-313	8	563	192	土師器	台付甕	−	−	4.5	30	赤褐	赤褐	密	雲母	ヘラナデ	ヘラナデ			外面煤付着
SI-313	9	602	69	須恵器	高盤(高杯)	−	−	6.2	20	黄灰	黄灰	密	長石・小礫	ナデ	ナデ			
SI-313	10	603	2, 230	須恵器	高盤(高杯)	−	−	5.9	20	灰	灰	密	砂粒・小礫	ナデ・ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ			
SI-313	11	605	35, 117, 182	土師器	杯	14.8	−	5.8	90	橙	橙	密	砂粒	ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ミガキ			
SI-313	12	601	4, 19	須恵器	短頸壺	5.8	−	4.9	20	灰	灰	密	スコリア・小礫	ナデ	ナデ			
SI-313	13	562	4, 113, 166, 168, 219	土師器	甕	10.8	−	6.4	40	明赤褐	明赤褐	粗	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面煤付着
SI-313	14	600	228	須恵器	高台付杯	−	10.2	2.4	10	黄灰	黄灰	密	長石・雲母・砂粒・小礫	ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-313	15	561	3, 4, 96, 158, 218, 227, 240, 241, 242	須恵器	甕	−	15.4	14.2	20	黄灰	黄灰	密	砂粒・小礫	ヘラナデ・ナデ・指頭痕・接合痕	ヘラケズリ・タタキ			遺物不明
SI-313	16	599	3, SI-367-1区, 10	陶器	耳皿	−	5.3	3.2	70	淡黄	淡黄	密	砂粒	ナデ	ナデ	回転糸切り		灰釉

SI314土器表

遺構	No.	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備考
SI-314	1	2, 8	土師器	杯	12.7	5.8	4.0	60	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	ナデ	ナデ	回転糸切り		
SI-314	2	2, 3	土師器	杯	15.4	7.4	5.6	30	にぶい橙	淡黄橙	密	スコリア・砂粒	ミガキ・ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-314	3	20, 21	土師器	杯	12.5	6.2	3.7	40	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ			

SI317土器表

遺構	No.	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備考
SI-317	1	31	土師器	手捏	10.9	8.8	11.8	60	明赤褐	橙	密	砂粒	ヨコナデ・ヘラナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕		木葉痕	外面黒斑

SI318土器表

遺構	No.	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備考
SI-318	1	51, 68, 69, 70, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 88, 90, 91, 92, 93, 95, 96, 98, 102, 103, 107, 89	須恵器	甕	21.4	−	22.2	40	赤褐	赤褐	密	長石・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ			

SI319土器表

遺構	No.	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備考
SI-319	1	15, 45, SI335-1	土師器	杯	13.4	7.4	4.5	20	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	ナデ	ナデ	回転糸切り 無調整		内外面煤付着
SI-319	2	8	土師器	杯	14.2	7.2	3.9	10	明赤褐	明赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ			内面黒斑
SI-319	3	3, 5, 10, 11	土師器	皿	14.1	6.5	2.6	40	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	スコリア・砂粒	ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転糸切り		
SI-319	4	27	土師器	甕	20.1	−	6.0	10	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型・内面煤付着
SI-319	5	49, 59, 61, 62	土師器	甕	18.8	−	11.5	20	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			常総型

SI320土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-320	1	1, 2, 3, 15, 44, 127	須恵器	杯	13.3	8.3	4.5	40	灰	灰	密	長石・雲母・小礫	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-320	2	1, 10, 100, 143	須恵器	杯	13.3	7.3	4.0	40	灰	灰	密	砂粒・小礫	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-320	3	134, 153, 154	須恵器	杯	13.2	7.3	4.5	80	灰	灰	密	長石・小礫	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-320	4	133, 140	須恵器	杯	12.8	7.2	3.7	80	灰	灰	密	砂粒・小礫	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-320	5	11, 47, 122	土師器	甕	22.3	−	8.0	10	灰黄褐	灰黄褐	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型
SI-320	6	1, 4, 23, 91, 132, 137, 150, 155, 23R-80	土師器	甕	19.8	5.5	25.4	60	明赤褐	明赤褐	密	スコリア	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			外面煤付着
SI-320	7	1, 135, 142, 150, 152, 158	土師器	甕	22.5	−	15.6	50	明赤褐	明赤褐	密	雲母・スコリア	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			

SI321土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-321	1	52	土師器	杯	12.9	7.3	3.8	80	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・水引痕	回転ヘラケズリ		外面黒斑
SI-321	2	1, 4, 6, 8, 9, 12, 13, 71, 72, 73, 75, 123, 125, 130	土師器	甕	21.6	−	22.1	20	明褐	明褐	粗	砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕			内外面煤付着
SI-321	3	4, 50	須恵器	甕	29.5	−	8.3	10	明赤褐	明赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヨコナデ・タタキ			

SI322土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-322	1	45, 108	土師器	杯	13.0	6.5	4.0	90	橙	橙	密	石英・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		墨書「為」内外面黒斑
SI-322	2	2, 28, 57, 59	土師器	杯	12.9	7.3	4.5	50	明黄褐	明黄褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		内外面黒斑
SI-322	3	15, 62	土師器	杯	14.5	6.8	4.1	40	赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転糸切り 手持ちヘラケズリ・無調整		内外面黒斑
SI-322	4	2, 30, 63, 65	土師器	杯	13.6	7.3	3.5	50	明赤褐	明赤褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		ヘラ書き
SI-322	5	35, 58	土師器	皿	13.7	7.6	2.6	80	橙	橙	密	石英・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		
SI-322	6	2, 4, 37, 66	土師器	杯	13.6	7.0	4.1	50	明黄褐	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		ヘラ書き 内外面煤付着・線刻「+(×)」
SI-322	7	3, 41, 86, 89, 92, 95, 96, 101, 103, 104, 106, 111	須恵器	甕	23.5	13.7	26.6	60	明赤褐	赤褐	密	スコリア	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ	ナデ		内外面黒斑

SI323土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-323	1	1, 10, 28, 40, 80, 81	須恵器	杯	13.0	8.6	3.8	60	灰黄褐	灰黄褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ・水引痕	回転ヘラキリ 無調整		
SI-323	2	1, 100, 113	須恵器	杯	14.2	9.0	4.1	40	黄灰	黄灰	密	石英・雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ 無調整		線刻「キ」
SI-323	3	2, 89, 94, 1	須恵器	杯	14.0	8.6	3.5	70	褐灰	褐灰	密	長石・スコリア・	回転ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ・無調整		
SI-323	4	9	須恵器	盤	14.4	−	2.1	20	黄灰	黄灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ	火襷？	

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-323	5	1, 106, 111, 119	土師器	甕	21.5	－	10.2	20	にぶい褐	にぶい褐	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			武蔵型
SI-323	6	2, 32, 35, 52, 6, , 67, 75, 87, 90, 112, 36	須恵器	甑	34.8	15.8	26.5	50	黄灰	黄灰	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラケズリ・ヘラナデ・当て具痕	ヘラナデ・ヨコナデ・タタキ	ヘラナデ		

SI324土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-324	1	4, 15, 16, 17, 23	須恵器	杯	13.7	9.1	4.6	80	明灰	明灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-324	2	12, 61	須恵器	杯	13.8	7.6	3.9	70	明灰	明灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		底部外面線刻
SI-324	3	56, 60	土師器	甕	18.8	－	5.0	10	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズ・リヨコナデ			武蔵型

SI325土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-325	1	1, 2, 31, 58	土師器	杯	11.0	6.1	2.9	80	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		内外面煤付着
SI-325	2	1, 49	土師器	杯	10.9	6.4	2.6	80	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		外面黒斑
SI-325	3	3	土師器	杯	10.8	－	－	10	灰色	にぶい褐	密	石英・長石・スコリア・砂粒・白色針状物少，雲母	ヘラミガキ	回転ナデ			漆付着
SI-325	4	1	土師器	杯	－	－	－	10	灰色	灰褐	密	雲母・スコリア	回転ナデ	回転ナデ			漆付着
SI-325	5	2, 20, 22, 23, 24, 25	土師器	杯	13.3	6.0	4.5	90	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転糸切り無調整	黒色処理	
SI-325	6	1, 2, 10, 56, 59, 57	土師器	杯	14.1	6.2	5.4	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	回転糸切り無調整	黒色処理	
SI-325	7	1, 2, 4, 12, 13, 14, 27, 53, 54, 55, 不明1	土師器	高台付杯	14.9	－	7.0	80	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ミガキ・回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		内面黒斑
SI-325	8	1, 2, 47, 76	土師器	足高高台付杯	15.2	－	5.6	60	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		
SI-325	9	1, 2, 65, 70	土師器	足高高台付杯	14.9	7.1	4.7	70	橙	橙	密	石英・雲母・スコリア・砂粒，スコリア・白色針状物少	回転ナデ	回転ナデ	杯部底部回転糸切り・無調整後高台貼り付け		
SI-325	10	61	土師器	足高高台付杯	15.2	－	4.1	70	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り		外面黒斑
SI-325	11	60, 64, 72, 73	土師器	甕	18.0	－	17.8	40	橙	明赤褐	粗	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			

SI326土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-326	1	2, 17, 19, 25	土師器	杯	10.7	4.6	3.1	60	にぶい橙	にぶい橙	密		回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り無調整		内外面煤付着
SI-326	2	SI-356, 6, 7, 9, SI-326-18	土師器	杯	15.1	7.2	7.1	6.0	明褐	明褐	密	石英・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り無調整		内外面煤付着
SI-326	3	SI-356, 13	土師器	高台付杯	15.2	－	4.4	80	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	長石・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ		
SI-326	4	SI-356, 4	土師器	甕	－	6.6	5.7	30	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	ヘラナデ	手持ちヘラケズリ			

SI327土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-327	1	2, 5, 6, 8, 9, 30	土師器	杯	14.3	－	3.9	80	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	ナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ	手持ちヘラナデ・ヘラナデ		線刻？
SI-327	2	2, 22, 32	土師器	杯	14.1	6.9	4.0	40	明赤褐	明赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-327	3	16, 23	須恵器	蓋	16.5	－	3.5	90	にぶい黄橙	褐灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		天井部外面線刻

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-327	4	1, 2, 9, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 29, SX-21-1	土師器	甕	13.8	6.2	14.7	40	赤褐	赤褐	密	長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-327	5	3, 5, 6	土師器	甕	24.9	−	15.6	20	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			
SI-327	6	13, 14	土師器	甕	16.8	−	14.3	10	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			

SI328土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-328	1	1, 2, 3, 6	須恵器	杯	13.1	7.6	4.0	40	灰	灰	密	スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラキリ		
SI-328	2	12	須恵器	蓋	18.0	−	3.8	30	黄灰	黄灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ		火襷	
SI-328	3	2, 6, 14, 19, 20, 24, 25	土師器	甕	−	7.6	5.9	40	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-328	4	4	須恵器	高台付盤	20.2	11.0	3.3	40	黄灰	黄灰	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		線刻
SI-328	5	10, 17	土師器	甕	24.8	−	16.5	20	橙	橙	密	石英・長石・スコリア・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			

SI329土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-329	1	52	須恵器	杯	−	9.0	−	10	灰	灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き?「キ」
SI-329	2	44, 99	土師器	甕	24.2	−	18.6	40	赤褐	明赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面煤付着 外面黒斑
SI-329	3	11, 54, 76, 79	須恵器	甕	36.5	18.9	16.6	30	黄灰	黄灰	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・タタキ	ヘラナデ・ヨコナデ			

SI330土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-330	1	20	須恵器	杯	15.9	10.8	7.1	70	灰黄	灰黄	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-330	2	15, 24	土師器	手捏・椀	9.7	6.0	5.0	80	明赤褐	明赤褐	粗	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・接合痕	手持ちヘラケズリ		外面黒斑
SI-330	3	12, 16, 19, 22, 23	土師器	手捏・鉢	11.4	5.8	8.6	60	明赤褐	橙	粗	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・指頭痕・接合痕	ナデ・無調整		外面煤付着

SI331土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-331	1	82	土師器	杯	14.7	−	6.3	80	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ・接合痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕			底部穿孔 内外面煤付着
SI-331	2	1, 32, 76	土師器	甕	−	6.5	3.5	20	明赤褐	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ		木葉痕	内外面煤付着
SI-331	3	45, 46, 49, 64, 72	須恵器	短頸壺	10.0	11.6	13.9	20	灰黄褐	灰黄褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ・ヨコナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラナデ		
SI-331	4	48	須恵器	甕	22.4	−	5.7	10	にぶい黄	にぶい黄	密	石英・雲母・砂粒・小礫	回転ナデ・ヨコナデ	回転ナデ・ヨコナデ・接合痕			

SI333A土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-333A	1	96	土師器	杯	11.8	7.8	3.8	100	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		線刻「+(×)」 内外面煤付着
SI-333A	2	76, 107	土師器	杯	12.8	9.9	3.8	30	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-333A	3	2, 58, 107	須恵器	杯	12.2	8.0	4.1	40	にぶい黄	にぶい黄	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-333A	4	65	須恵器	杯	12.6	7.5	4.2	90	明黄褐	明黄褐	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-333A	5	22, 23, 107	土師器	甕	15.1	−	14.9	20	黄褐	明黄褐	密	砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕			常総型・内面煤付着 内外面窯の砂付着
SI-333A	6	82, 107	土師器	甕	21.4	−	8.5	10	橙	明褐	密	長石・雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型・内面黒斑 内外面煤付着
SI-333A	7	67	土師器	甕	19.7	−	5.2	20	黄橙	黄橙	密	長石・砂粒	ヘラナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内外面煤付着
SI-333A	8	20, 38, 79, 94, 101, 107	土師器	甕	15.7	−	8.8	40	明赤褐	明赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内外面煤付着・黒斑
SI-333A	9	3, 4, 52, 107	土師器	甕	14.7	−	8.7	30	明赤褐	明赤褐	密	砂粒	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			
SI-333A	10	1, 2, 9, 110	土師器	甕	12.9	−	10.9	30	橙	橙	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			内外面黒斑
SI-333A	11	93, 107	土師器	甕	−	8.0	4.1	20	橙	橙	粗	石英・雲母・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き・外面黒斑
SI-333A	12	1, 2, 4, 5, 7, 8, 14, 15, 49, 50, 51, 63, 64, 66, 68, 80, 81, 107, 110	須恵器	甕	21.7	15.3	34.7	80	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・回転ナデ・当て具痕	ヘラケズリ・回転ナデ・タタキ・ナデ	ナデ	網代痕	ヘラ書き

SI334土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-334	1	2, 124	土師器	杯	14.6	8.2	3.9	60	橙	橙	密	石英・スコリア・砂粒	ミガキ・回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「万」
SI-334	2	199	須恵器	杯	13.8	7.0	4.2	50	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ・回転ヘラキリ		
SI-334	3	198	土師器	杯	12.6	6.6	3.2	40	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-334	4	255	土師器	杯	12.2	7.2	4.0	50	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ		内外面煤付着
SI-334	5	1, 4, 64, 66, 67, 70, 71, 108, 112, 113, 155, 166, 169, 200, 206, 209, 210, 219, 220, 227, 229, 235, 237, 242, 248	土師器	甕	21.2	−	30.5	60	明褐	明褐	粗	砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・内外面煤付着
SI-334	6	120, 152, 153, 160, 215, 216	土師器	甕	19.8	−	29.5	40	橙	橙	粗	砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・702・703同一 内外面煤付着
SI-334	7	4, 274, 276, 277	土師器	甕	20.4	−	25.6	70	橙	橙	粗	長石・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ・輪積痕			常総型 外面煤付着
SI-334	8	264	土師器	甕	21.0	−	20.3	20	にぶい橙	にぶい橙	密	長石・雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型 外面窯の砂付着
SI-334	9	1, 4, 63, 193, 195, 232, 240	土師器	甕	19.4	−	14.0	20	明褐	褐	密	石英・長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・接合痕			内外面煤付着
SI-334	10	194, 1, 137, 173, 223, 265, 269, 273, 277	須恵器	甑	−	12.8	21.2	30	灰黄	褐灰	密	長石・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・ヘラケズリ・当て具痕・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ	ナデ		

SI335土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-335	1	4, 76	須恵器	杯	12.1	8.2	4.2	60	にぶい黄褐	灰黄褐	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		線刻「＋（×）」外面煤付着
SI-335	2	79	須恵器	杯	12.0	8.0	3.7	50	褐灰	褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ	火襷	
SI-335	3	2, 3, 4, 62	須恵器	杯	12.2	8.8	3.5	40	褐灰	褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	火襷	

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-335	4	29, 64, 110	須恵器	杯	12.0	7.6	4.2	30	褐灰	褐灰	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書
SI-335	5	27	須恵器	杯	−	7	−	20	黒	褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「大」
SI-335	6	2, 15, 16, 21, 23, 26, 31, 34, 35, 60, 85, 105	土師器	甕	20.7	−	28.9	70	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		武蔵型 内外面煤付着
SI-335	7	98	土師器	甕	−	5.6	−	10	黒褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		木葉痕	常総型
SI-335	8	2, 9, 29, 69, 70, 110	須恵器	甕	19.1	−	6.2	10	褐灰	褐灰	密	砂粒	ヘラナデ・回転ナデ	回転ナデ			
SI-335	9	13, SI319-46	須恵器	甕	−	−	−	−	灰黄褐	橙	密		回転ナデ				ヘラ書き「大」

SI336土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-336	1	2, 4, 28, 29	土師器	杯	13.3	9.1	3.5	50	橙	橙	密	砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ・指頭痕	静止糸切り 手持ちヘラケズリ	赤彩	線刻「＋(×)」外面煤付着
SI-336	2	3	土師器	杯	−	6.2	2.5	10	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		墨書「丈」
SI-336	3	4	須恵器	高台付杯	−	9.0	2.5	50	灰黄	黄灰	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-336	4	2, 33	土師器	甕	−	5.8	22.8	70	明赤褐	明赤褐	密	砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラナデ		内外面黒斑 外面煤付着

SI337土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-337	1	2, 3, 68, 70	土師器	杯	15.7	−	5.4	70	明褐	明褐	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		線刻「＋(×)」外面煤付着
SI-337	2	86	須恵器	杯	13.2	9.2	3.7	20	灰	灰	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-337	3	29	須恵器	杯	13.7	8.3	4.2	80	明褐	灰黄褐	密	雲母・小礫	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-337	4	3, 12, 71	須恵器	杯	13.7	9.4	3.9	90	灰	灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-337	5	25, 46, 82, 83, 84, 85	須恵器	杯	13.7	8.1	3.9	40	暗灰	暗灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-337	6	8	須恵器	高台付杯	−	−	3.0	60	黄灰	黄灰	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ・回転ヘラキリ		
SI-337	7	1, 2, 4, 9, 17, 34, 35, 36, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 61, 63, 64, 65, 66, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 88, 92	土師器	甕	15.6	−	18.2	90	にぶい褐	にぶい褐	密	雲母・小礫	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型
SI-337	8	6, 26, 28, 93	土師器	甑	30.7	11.0	27.0	30	灰褐	灰褐	密	長石・雲母・スコリア	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・指頭痕	手持ちヘラケズリ		常総型・内面黒斑・煤付着
SI-337	9	6, 40, 67, 93, 94, 95	土師器	甕	22.4	−	24.3	−	橙	橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ			武蔵型 内外面煤付着 外面黒斑

SI339土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-339	1	29	土師器	杯	11.4	4.9	3.4	50	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		線刻「＋(×)」外面煤付着

SI340土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-340	1	32	須恵器	杯	－	－	－		にぶい褐色	暗灰色	やや密	雲母・長石	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ			線刻「＋（×）」外面煤付着
SI-340	2	4, 41, 42, 43	土師器	甕	24.3	－	19.5	60	明赤褐	明赤褐	粗	雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・内外面煤付着
SI-340	3	39, 42, 43, 44, 46	土師器	甕	23.0	－	8.7	20	橙	橙	粗	長石・雲母・スコリア・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型

SI341土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-341	1	52	土師器	甕	16.6	－	15.9	30	にぶい褐	にぶい黄褐	粗	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			常総型・外面煤付着
SI-341	2	8, 50	土師器	甕	23.6	11.8	31.5	40	明赤褐	橙	粗	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヨコナデ・ミガキ		木葉痕	常総型・外面煤付着

SI343土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-343	1	60	土師器	杯	11.8	6.6	4.1	60	明褐	明褐	密	石英・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着？
SI-343	2	1, 37, 49, 55, 79	土師器	高台付皿	12.6	7.2	3.6	60	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ回転ヘラケズリ	回転糸切り・無調整		
SI-343	3	20	手捏？	甕	－	9.5	－	10	明黄褐	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	回転ナデ・ケズリ	回転ナデ・刷毛目		木葉痕	縄文土器？

SI344土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-344	1	30	須恵器	杯	13.5	8.0	3.9	80	褐灰	褐灰	粗	長石・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-344	2	10	須恵器	杯	13.1	7.3	4.2	90	黄灰	黄灰	粗	長石・砂粒・小礫	手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

SI345土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-345	1	1, 38	土師器	杯	12.6	6.7	3.7	50	明褐	明褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		
SI-345	2	1, 14, 21	土師器	杯	13.4	6.7	4.1	50	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		内面煤付着
SI-345	3	1, 2, 13	土師器	杯	13.5	6.8	4.0	70	明褐	明褐	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		内外面煤付着
SI-345	4	1, 16, 19, 59	土師器	杯	13.0	5.7	4.1	60	黒	淡黄橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整	黒色処理	
SI-345	5	1, 41, 42	土師器	皿	13.6	5.6	2.6	40	淡橙	淡橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転糸切り		
SI-345	6	1, 89	緑釉陶器	椀	－	－	－	10	灰黄	灰黄	密		回転ナデ	回転ナデ			緑釉
SI-345	7	1, 17, 26	土師器	甑	25.5	－	7.4	20	明褐	褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ			外面煤付着
SI-345	8	25	須恵器	甕	19.0	－	8.5	10	橙	橙	密	石英・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ			
SI-345	9	20, 34	須恵器	甕	52.8	－	4.6	10	灰	灰	密	スコリア・砂粒・小礫	ヨコナデ	ヨコナデ			
SI-345	10	76	須恵器	甑	－	14.0	18.5	30	淡黄褐	淡黄褐	密	雲母・砂粒・礫	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヨコナデ・当て具痕・輪積痕	ヘラケズリ・タタキ			

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-345	11	31, 90	土師器?	火舎	－	－	－	30	明褐	明褐	密	砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ・ナデ・指頭痕			外面煤付着

SI346土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-346	1	17	須恵器	甕	－	－	－	10	灰黄褐	黄灰	密		ナデ	ナデ・櫛描波状文			自然釉
SI-346	2	10	須恵器	甕	－	－	－	10	黄灰	褐灰	密		ナデ	ナデ・櫛描波状文			自然釉

SI348土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-348	1	1, 2, 31	土師器	甕	20.3	－	－	70	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・スコリア・雲母・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラミガキ			常総型
SI-348	2	1, 3, 4, 7, 9, 24, 30, 31, 36, 38, 41, 44, 45	須恵器	甑	28.6	14.5	28.5	20	橙	赤褐・橙	密	石英・長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・タタキ・手持ちヘラケズリ			
SI-348	3	1	土師器?	香炉蓋?	－	－	－	－	にぶい赤褐	灰黄褐	密	砂粒	ナデ	ナデ			

SI350土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-350	1	6, 10	須恵器	杯	12.6	7.4	4.0	90	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	火襷	内外面煤付着・線刻
SI-350	2	14	土師器	杯	15.0	－	5.5	20	橙	橙	密	砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ		黒色処理	
SI-350	3	3, 7	土師器	皿	13.3	7.8	2.5	80	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		内外面煤付着
SI-350	4	4, 9	須恵器	甕	－	16.0	3.1	10	橙	橙	密	砂粒	ヘラナデ・回転ナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・	ヘラナデ		ヘラ書き「大」

SI352土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-352	1	141, 142, 231, 234, 249	須恵器	杯	13.7	8.8	3.9	90	灰黄	灰黄	密	石英・長石・砂粒・雲母	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-352	2	104, 105, 106	須恵器	杯	－	8.9	－	10	黄褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・砂粒・雲母	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラキリ 手持ちヘラケズリ		
SI-352	3	1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 25, 122, 124, 133, 149, 220, 222, 229, 251, 262	土師器	甕	19.7	－	33.0	40	明褐	明褐	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ			
SI-352	4	223, 225,	土師器	甕	24.9	－	－	10	明褐	明褐	密	石英・長石・砂粒多、雲母	回転ナデ	回転ナデ・ヘラケズリ・当て具痕			
SI-352	5	28	須恵器	長頸壺	－	－	－	5	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・砂粒	ナデ	ナデ・タタキ			自然釉
SI-352	6	135, 195, 215	須恵器	甕	23.0	－	－	20	灰	灰	密	石英・長石・砂粒・雲母・スコリア	回転ナデ・ナデ・当て具痕	回転ナデ・タタキ			

SI353土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-353	1	1, 25	土師器	杯	13.0	7.2	3.8	50	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-353	2	1	土師器	杯	13.3	6.7	4.1	80	橙	橙	粗	石英・スコリア・砂粒・小礫	ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-353	3	58	土師器	高台付杯	16.4	－	4.7	30	明赤褐	赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	無調整		
SI-353	4	30, 40, 52, 57	土師器	杯	14.0	6.5	4.2	80	明赤褐	明赤褐	粗	石英・スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ 無調整		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-353	5	11	土師器	杯	12.7	7.4	4.2	70	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り 無調整		内外面黒斑・煤付着
SI-353	6	1	土師器	高台付皿	14.0	6.1	2.6	60	橙	橙	粗	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		内外面煤付着
SI-353	7	1,3,4,8	土師器	杯	13.5	6.7	3.6	50	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転糸切り 無調整		線刻「＋（×）」内外面煤付着
SI-353	8	1,36,41,54,55,59	須恵器	甕	24.6	－	9.3	20	赤褐	赤褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕・接合痕	ヨコナデ・タタキ			

SI354土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-354	1	5,8,17	須恵器	杯	15.4	10.0	4.4	20	灰黄	灰黄	密	石英・雲母多，長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-354	2	1,20,21	須恵器	甕	18.7	－	－	10	明褐	明褐	密	石英・雲母・長石・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			
SI-354	3	13,14,22	土師器	甕	21.4	5.2	30.2	70	明赤褐	明赤褐	密	雲母・砂粒・スコリア	ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-354	4	19	土師器	甕	34.5	17.8	18.0	10	黄灰	灰黄褐	密	石英・雲母・長石・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・手持ちヘラケズリ			

SI355土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-355	1	2,17	須恵器	杯	14.0	8.1	4.2	50	灰黄褐	灰黄褐	密	長石・雲母・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-355	2	1,3,4,18,19	土師器	甕	24.6	－	23.3	30	灰黄	灰黄	密	雲母・スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・指頭痕			
SI-355	3	11	土師器	甑	21.5	－	14.1	10	黄灰	灰	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ			

SI356土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-356	1	3	須恵器	杯	14.2	9.6	3.9	90	灰黄褐	褐灰・灰黄褐	密		回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

SI357土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-357	1	17	須恵器	杯	12.8	8.1	4.2	50	黒褐	黒褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-357	2	1,3,4	須恵器	杯	12.3	7.3	4.0	30	褐灰	褐灰	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-357	3	4,38	須恵器	杯	12.6	－	3.7	20	褐灰	褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
SI-357	4	16	土師器	甕	19.9	－	15.7	20	橙	橙	密	雲母・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕，指頭圧痕	ナデ・ヨコナデ・ミガキ			
SI-357	5	1,3,4,28,30,34,37,40	須恵器	甕	21.8	－	20.5	20	褐	橙	密	雲母・砂粒	当て具痕 ヘラナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・タタキ			
SI-357	6	2,18	土師器	甕	20.2	－	6.5	10	橙	橙	密	雲母・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型 外面黒斑・煤付着
SI-357	7	2,12,17	土師器	甕	18.7	－	6.9	10	明黄褐	淡黄橙	密	雲母・小礫	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラナデ・ヨコナデ			常総型 内外面黒斑・煤付着

SI358土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-358	1	1,58,68	須恵器	蓋	16.3	−	2.3	40	赤褐	赤褐	密	雲母・砂粒・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	回転ヘラケズリ		内外面煤付着
SI-358	2	39	須恵器	蓋	14.9	−	2.0	40	灰白	灰白	密	雲母・砂粒・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	回転ナデ		
SI-358	3	1,18,27,51,68,4	須恵器	高台付椀	17.5	9.2	7.3	30	灰	灰	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-358	4	55,56,63,64,65,68	土師器	甕	−	8.4	4.0	10	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・接合痕	ミガキ		木葉痕	

SI360土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-360	1	1,10,89	土師器	杯	15.7	7.0	4.9	50	黒褐	黒褐	密	雲母・スコリア	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	黒色処理	
SI-360	2	1,94,106	須恵器	杯	12.9	6.9	4.3	60	黒褐	黒褐	密	雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-360	3	4,112	須恵器	杯	12.3	6.6	4.5	50	褐灰	褐灰	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-360	4	4,50	須恵器	杯	12.6	7.0	4.0	30	灰褐	黒褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-360	5	2,69,106	須恵器	杯	11.3	6.4	3.4	40	褐灰	褐灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-360	6	55,56,73	須恵器	杯	14.3	8.6	4.5	60	黒褐	黒褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		ヘラ書き「万」
SI-360	7	8	須恵器	杯	13.0	7.1	3.9	80	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ回転ヘラキリ		朱書「有」内外面煤付着
SI-360	8	1,2,3,4,106	須恵器	杯	13.2	8.0	4.1	50	にぶい褐	にぶい褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		内外面煤付着
SI-360	9	2,3,4	須恵器	杯	12.2	−	3.6	40	黒褐	黒褐	密	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ			
SI-360	10	1,2,4,13,17,18,38,45,46,80,81,84,100,106,26,29	土師器	甕	22.6	−	23.0	50	明赤褐	明赤褐	密		ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			内外面煤付着
SI-360	11	3,59,88	土師器	甕	−	8.4	6.1	20	橙	橙	密	長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ミガキ			常総型
SI-360	12	2,3,51,61	須恵器	甕	−	14.6	4.8	10	明赤褐	にぶい赤褐	密	長石・砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	ヘラナデ		ヘラ書き「大」
SI-360	13	44	須恵器	甕	−	−	−	−	灰黄褐	灰黄褐	密	石英・長石・雲母・砂粒スコリア多	ナデ		無調整		ヘラ書き「+(×)」五孔式底部
SI-360	14	4	須恵器	瓶	−	−	−	−	褐	褐	密						ヘラ書き「+(×)」
SI-360	15	4	須恵器	杯	−	−	−	−	黒褐	灰褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	ヘラケズリ			線刻「大」
SI-360	16	2,30,54,63,72,77,86,93,106	須恵器	甕	21.4	−	24.9	80	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密		ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・タタキ			内外面煤付着
SI-360	17	4,21,31,66,82	須恵器	甕	32.3	−	14.5	20	灰	灰	密	長石・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・当て具痕	ヨコナデ・タタキ			

SI361土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-361	1	1,76	土師器	杯	14.2	8.0	4.0	90	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-361	2	124,134,146,137	土師器	杯	14.4	7.7	3.7	60	橙	橙	密	スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-361	3	1	土師器	杯	－	－	3.1	10	にぶい橙	にぶい橙	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ			墨書「大」
SI-361	4	102	須恵器	杯	13.7	6.4	4.4	100	赤褐	赤褐	密	長石・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-361	5	1, 76, 126	須恵器	杯	13.7	6.3	4.4	80	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ	火擦？	内外面煤付着
SI-361	6	12, 30, 36, 55	須恵器	杯	13.4	7.0	3.8	60	黄灰	黄灰	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ 無調整		
SI-361	7	1, 8, 9	須恵器	杯	14.2	7.8	4.4	30	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-361	8	51, 123	土師器	高台付皿	12.8	6.5	3.3	80	橙	橙	粗	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ	回転ナデ		
SI-361	9	61	土師器	高台付皿	－	6.0	2.1	40	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ	回転ヘラキリ・回転ナデ		
SI-361	10	62	土師器	高台付皿	12.4	5.8	2.4	60	にぶい橙	にぶい橙	密	雲母・スコリア	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	ナデ		外面煤付着
SI-361	11	133, 136, 140	須恵器	甕	15.8	－	15.3	20	明赤褐	赤褐	粗	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ			内外面煤付着 外面窯の砂付着・ヘラ書き「＋(×)」
SI-361	12	57	須恵器	甕	－	9.0	5.1	10	明赤褐	明赤褐	粗	スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・輪積痕			外面煤付着 ヘラ書き「＋(×)」

SI362土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-362	1	1, 2, 12, 13, 14, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 24	土師器	甑	27.3	10.0	22.1	60	橙	橙	密	雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラナデ		外面黒斑

SI365土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-365	1	SI321・1, 4, 18, 19	土師器	杯	11.9	5.6	3.4	80	赤褐	赤褐	密	雲母・スコリア・砂粒	ミガキ・回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・無調整		
SI-365	2	SI321・17, 19	土師器	甕	21.4	－	5.5	10	橙	橙	粗	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・接合痕	ヘラケズリ・ヨコナデ・輪積痕			

SI366土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-366	1	2, 1	土師器	甕	21.8	7.1	－	30	黄褐	明黄褐	密	雲母・砂粒・小礫	ヘラナデ・接合痕	ヘラナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ	木葉痕	常総 外面煤付着

SI367土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-367	1	3区	土師器	杯	14.7	－	－	5	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ			墨書（不明） 煤付着
SI-367	2	6	土師器	高台付杯	－	8.8	5.9	70	橙	橙	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り 無調整		内面炭化物付着

SI371土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-371	1	4, 56	土師器	杯	11.7	6.0	4.1	20	赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		
SI-371	2	64	須恵器	杯	11.6	8.2	4.0	100	褐灰	褐灰	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		線刻
SI-371	3	39	須恵器	杯	10.6	7.2	3.7	80	黄灰	黄灰	密	雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		油煙付着・灯明器

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-371	4	1, 5, 43, 47	土師器	小型甕	14.8	6.8	11.8	90	明赤褐	明赤褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ・輪積痕	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		外面黒斑・煤付着
SI-371	5	1, 2, 5, 31, 38, 39, 40, 50, 59, 60	土師器	甕	22.8	−	−	10	明赤褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・手持ちヘラケズリ			武蔵型
SI-371	6	1, 2, 7, 10, 12, 13, 16, 30, 33, 34, 35, 36, 37, 41	須恵器	甕	14.3	9.3	17.4	80	にぶい褐	にぶい褐	密	スコリア・砂粒	ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヨコナデ・タタキ	無調整		
SI-371	7	32	須恵器	長頸壺	8.3	−	8.5	10	灰黄褐	褐灰	密	砂粒	回転ナデ・ナデ	回転ナデ			自然釉

SI372土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-372	1	50, 51, 97	須恵器	杯	12.5	7.6	3.2	70	黄灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-372	2	53	須恵器	杯	13.4	9.0	4.4	20	暗灰	暗灰	密	石英・長石・砂粒・白色針状物	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ		外面煤付着
SI-372	3	71	土師器	甕	21.6	−	−	10	灰褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	手持ちヘラケズリ・ナデ			常総型
SI-372	4	94	土師器	甕	−	13.4	−	10	灰黄褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒		手持ちヘラケズリ・ナデ	手持ちヘラケズリ		常総型

SI373土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-373	1	2, 4, 87	土師器	杯	12.9	6.6	4.7	50	橙	橙	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	ヘラミガキ・回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転糸切り		墨書
SI-373	2	6	土師器	杯	12.5	7.0	4.4	30	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			墨書「中」
SI-373	3	1	土師器	杯				10	にぶい赤褐	にぶい褐	密		回転ナデ	回転ナデ			墨書「□寺」
SI-373	4	2, 59, 66, 86	須恵器	杯	12.4	6.4	4.6	90	赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒スコリア多	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-373	5	50	土師器	杯	12.0	6.4	4.7	80	にぶい赤褐	にぶい赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	ヘラミガキ・回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ・ナデ		
SI-373	6	59	土師器	皿	12.2	6.5	2.0	100	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		重ね焼痕
SI-373	7	43	土師器	皿	14.7	7.1	2	20	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア・白色針状物	回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・ミガキ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-373	8	4, 33, SI-374-3	土師器	高台付皿	14.2	7.8	3.4	50	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	回転ナデ	ナデ	回転ヘラケズリ		
SI-373	9	47, 49, 93	須恵器	甑	29.4	15.6	25.5	40	暗灰	暗灰	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ	無調整		五孔式
SI-373	10	81	須恵器	甕	29.6	−	−	10	暗赤褐	暗赤褐	密	石英・長石・雲母・砂粒・スコリア	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ			
SI-373	11	70, SD41-62, 95	須恵器	小型甕	−	7.0	10.5	60	灰	灰	密	長石・砂粒	回転ナデ	ヘラケズリ・回転ナデ	無調整		

SI375土器表

遺構	No	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-375	1	36	土師器	杯	14.4	7.2	4.2	90	橙	橙		石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	ヘラミガキ・回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「□」
SI-375	2	4, 51	土師器	杯	11.6	6.0	3.9	70	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		墨書「少□(千カ)□?」
SI-375	3	82	須恵器	杯	12.6	6.8	4.8	100	灰黄	灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ回転ヘラキリ		
SI-375	4	16, 73, 96	須恵器	杯	12.4	5.8	4.4	30	黒	黒	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-375	5	99	土師器	高台付皿	13.3	5.5	3.4	80	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ 回転糸切り		
SI-375	6	1, 32, 78	土師器	甕	20.2	−	−	10	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ			常総型
SI-375	7	3, 52, 53, 72, 75, 97, 100, 111,	須恵器	甕	23.8	15.0	−	20	明赤褐・暗灰・灰黄	にぶい黄橙・暗灰・灰黄	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ・手持ち? ヘラケズリ			ヘラ書き
SI-375	8	27, 42, 100, 101	須恵器	甕	−	14.9	−	10	橙	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ・当て具痕	タタキ・ナデ・手持ちヘラケズリ	無調整		

SI377土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-377	1	25	土師器	杯	11.8	7.7	4.0	50	橙	橙	密	スコリア・砂粒・小礫	ヨコナデ・ミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ	手持ちヘラケズリ		外面煤付着
SI-377	2	5	須恵器	杯	13.3	9.0	3.6	90	灰黄	灰黄	密	砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-377	4	8	須恵器	杯	13.8	8.2	4.0	80	にぶい黄橙	にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ 回転ヘラキリ		
SI-377	5	21	須恵器	杯	13.1	7.6	4.5	100	淡黄橙	淡黄橙	密	雲母・砂粒・小礫	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		墨書

SI378土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-378	1	3, 56	土師器	杯	13.5	6.4	4.5	80	暗褐	暗褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		
SI-378	2	59	土師器	杯	12.6	7.0	4.0	30	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ		
SI-378	3	54	土師器	杯	12.6	3.8	3.8	80	赤褐	赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ	油煙付着・灯明用	
SI-378	4	58	土師器	杯	13.7	7.0	4.0	90	橙	橙	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒・白色針状物	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 回転糸切り		
SI-378	5	57	土師器	甕	13.4	7.2	3.7	100	黄橙	明黄褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-378	6	60	土師器	小甕	14.8	6.4	13	90	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		

SI380土器表

遺構	No.	注　記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	胎土	混入物	調整内面	調整外面	ロクロ成形・調整	製作備考	備　考
SI-380	1	22, 23	土師器	杯	13.6	7.2	4.8	50	明褐・黒褐	明褐・黒褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-380	2	1, 58, 68	須恵器	杯	12.6	7.7	4.4	90	にぶい黄褐	にぶい黄褐	密	石英・長石・砂粒多, スコリア・雲母・	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-380	3	16, 18	須恵器	杯	13.6	8.2	4.1	60	黄灰	黄灰	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ヘラキリ 手持ちヘラケズリ	火襷	
SI-380	4	42, 65	土師器	小型甕	11.7	6.6	11.9	80	明赤褐	明赤褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	手持ちヘラケズリ		
SI-380	5	1, 2, 12, 45, 50, 51, 52, 54, 67	土師器	甕	21.2	12.2	29.5	30	にぶい褐	にぶい褐	密	石英・長石・雲母・スコリア・砂粒	回転ナデ	回転ナデ・手持ちヘラケズリ		木葉痕	常総型

第17表　金属製品観察表

遺構番号	挿図番号		材質	製品名	遺存	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	遺物番号	出土地点	備　考
SI-002	170	52	鉄	鎌	刃・基部	全長152.5、刃部114.0、基部38.5	刃部20.0、基部33.0	刃部2.0、茎部背側2.2・刃側2.0	41.5	0934		（平成３年度出土）
SI-002	170	53	鉄	刀子	刃部	35.5	8.0	2.5	3.2	0380	中層	
SI-002	170	54	鉄	鉄鏃	頸部	38.5	4.2	4.0	2.5	0823	竈付近中層	
SI-003	133	10	鉄	刀子	刃・茎部	全長50.5、刃部11.5、茎部39.0	刃部12.8、茎部7.0	刃部背側2.0、茎部背側2.0・刃側1.8	4.3	0190	上層	
SI-004	177	107	鉄	刀子	刃部	32.5	7.2	背側2.0	2.3	0616	上層	
SI-004	177	108	鉄	穂摘み具	端部	34.0	19.5	2.0	3.9	0911	下層	
SI-004	177	109	鉄	刀子	刃部	49.5	8.5	背側2.5	4.6	0631	上層	
SI-004	177	110	鉄	刀子	茎部	64.6	6.8	3.5	5.9	0931	床面直上	（平成２年度出土）
SI-004	177	111	鉄	門金具	端部欠	縦54.3、横56.8	6.0	4.0	17.8	0750	中層	B72処理済
SI-005	178	1	鉄	鉄鏃	茎部端欠	全長74.0、鏃身部21.4、頸部40.5、茎部7.0	鏃身部9.0、頸部7.0、茎部5.0	鏃身部2.0、頸部4.0、茎部4.0	9.2	0036	上層	B72処理済
SI-007	135	c	鉄	鉄鏃	頸・茎部	全長96.5、頸部34.5、棘部1.5、茎部61.0	頸部5.5、棘部7.5、茎部4.5	頸部3.0、茎部3.5	10.5	0083	竈内下層	木質残存
SI-007	135	17	鉄	鉄鏃	頸・茎部	全長59.5、頸部46.0、茎部13.5	頸部14.5、茎部3.0	頸部2.0～1.5、茎部2.5	5.9	0018		
SI-007	135	18	銅	帯先金具	完形	21.0	19.5	1.5	2.6	000-3		
SI-009	180	4	鉄	刀子	両端部欠	全長170.5、刃部129.0、茎部41.5	刃部9.5、茎部8.0	刃部背側3.8、茎部背側4.6・刃側2.5	28.8	0020	上層	
SI-009	180	5	鉄	刀子	両端部欠	全長80.0、刃部62.0、茎部18.0	刃部10.6、茎部7.0	刃部背側3.0、茎部背側3.0・刃側2.0		0019		B72処理済
SI-013	186	63	鉄	鉄鏃	茎部欠	全長66.5、鏃身部31.5、頸部51.0、逆刺16.2	鏃身部38.8、頸部6.5、逆刺3.8	鏃身部4.0、頸部4.0、逆刺背側2.0		0055	下層	B72処理済
SI-013	186	64	鉄	鉄鏃	頸部端欠	全長82.0、鏃身部21.0、頸部61.0	鏃身部5.5、頸部3.6	鏃身部1.5、頸部4.0	4.9	0435	中層	B72処理済
SI-013	186	65	鉄	鉄鏃	頸部	50.0	4.0	3.5	3.3	0001-1	上層	
SI-013	186	66	鉄	刀子	頸部	53.5	6.5	3.0	5.2	0066	上層	
SI-013	186	67	鉄	鑷子	端部欠	縦51.0、横22.0	2.0	5.0	3.7	0215	上層	
SI-013	186	68	鉄	刀子	刃・茎部	全長113.5、刃部107.5、茎部6.0	刃部9.8	刃部3.0	10.7	0245	中層	B72処理済
SI-013	186	69	鉄	刀子	刃・茎部	全長148、刃部57.5、茎部75.0	刃部10.5、茎部5.4	刃部背側3.4、茎部背側3.0・刃側3.0	18.4	0439	下層	B72処理済
SI-013	186	70	鉄	刀子	刃・茎部	全長127.5、刃部80.0、茎部48.0	刃部8.2、茎部6.0	刃部3.0、茎部背側2.6・刃側2.4	13.6	0260	下層	B72処理済 木片付着
SI-013	186	71	鉄	刀子	刃・茎部	全長119.0、刃部52.0、茎部65.5	刃部9.4、茎部6.0	刃部4.0、茎部背側3.0・刃側2.0	10.9	0234	下層	
SI-013	186	72	鉄	刀子	刃・茎部	全長143.5、刃部106.5、茎部37.0	刃部8.6、茎部6.5	刃部2.5、茎部背側3.5・刃側2.5	18.8	0317	中層	B72処理済 2個体
SI-013	186	73	鉄	刀子	完形	全長204.0、刃部134.0、茎部70.0	刃部10.5、茎部6.5	刃部背側2.6、茎部背側3.5・刃側2.5	24.3	0095・96	中層	木片付着。 29接合＝欠番
SI-013	186	74	鉄	鎌	刃・基部	全長39.0、刃部16.5、基部22.5	刃部20.0、基部21.5	刃部背側2.0、基部背側2.5・刃側1.5	6.4	0148	上層	
SI-013	186	75	鉄	刀子	刃部	全長25.5	刃部20.0	刃部2.0	4.7	0370	下層	
SI-014	190	37	鉄	鉄鏃	鏃身・頸・茎部	全長79、鏃身部29.2、頸部38.5、茎部17.3	鏃身部32、頸部9.0、茎部4.8	鏃身部2.5、頸部4.0、茎3.0	13.8	0087	中層	51接合＝欠番
SI-014	190	38	鉄	刀子	刃・茎部	全長53.0、刃部41.5、茎部11.5	茎部7.5	茎部背側3.0・刃側2.0	6.6	0146		
SI-014	190	39	鉄	刀子	刃部	全長41.0、刃部31.5、茎部9.5	刃部8.2、茎部6.6	刃部8.2、茎部背側2.5・刃部側1.5	3.6	0049		
SI-014	190	40	鉄	鎌	刃部	23.0	23.0	背側2.5・刃側1.5	4.5	0098	上層	
SI-014	190	41	銅	帯金具	完形	28.2	17.3	5.7	4.2	－		

遺構番号	挿図番号		材質	製品名	遺存	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	出土地点	備　考
SI-014	190	42	鉄	鑷子		52.5	5.5	1.5	1.5	0125	上層	B72処理済 不明鉄No1
SI-015	193	22	鉄	鉄鏃	鏃身・頸・茎部	全長96.5. 鏃身部19.5. 頸部41.0. 茎部36.0	鏃身部17.5. 頸部7.0. 茎部3.5	鏃身部2.5. 頸部2.5. 茎3.0	12.8	0147	上層	
SI-015	193	23	鉄	鉄鏃	頸・茎部	全長67.6. 頸部39.8. 茎部27.8	頸部5.5. 茎部3.2	頸部5.0. 茎部2.8	7	0054	上層	B72処理済 No1
SI-015	193	24	鉄	刀子	刃・茎部	全長45.0. 刃部20.0 茎部25.0	刃部8.0. 茎部6.0	刃部3.0. 茎部背側2.6・刃側2.4茎部背側3.2・刃側2.2	4.8	0035	上層	B72処理済 No1
SI-015	193	25	鉄	釘		59.0	3.5	3.0	3.1	0145	下層	
SI-015	193	26	鉄	穂摘み具		93.1	18.0	1.8	10.9	0112	下層	木片付着
SI-015	193	27	鉄	釘		48.0	5.0X3.0		8.7	0127	下層	
SI-017	140	20	鉄	刀子	茎部	54.8	6.9	2.0	3.3	0357	下層	
SI-017	140	21	鉄	刀子	刃・茎部	全長61.8. 刃部47.5. 茎部13.3	刃部47.5. 茎7.5	刃部2.0. 茎部背側3.5・刃側2.0	7.1	0025	上層	
SI-017	140	22	鉄	刀子	刃・茎部	全長103.2. 刃部75.0. 茎部28.2	刃部9.8. 茎部6.2	刃部1.8. 茎部背側3.0. 刃部側2.3	7.6	0355	下層	
SI-019	196	5	鉄	鎌	刃部	86.0	26.2	2.0	19.4	0036	下層	
SI-028	199	17	鉄	刀子	刃・茎部	全長39.0. 刃部35.0. 茎部4.0	刃部11.8	刃部3.0	6.6	0073	床下面	
SI-028	199	18	鉄	鉸具		縦65.8. 横41.2	3.5～6.0	5.0～9.0	44.6	0037	下層	
SI-029	200	10	鉄	刀子	刃・茎部	全長105.5. 刃部52.0. 茎部53.5	刃部6.8. 茎部5.5	刃部2.6. 茎部背側3.0・刃側2.5	11.2	0002	下層北東隅	一括
SI-031	202	8	鉄	刀子	刃・茎部	全長49.0. 刃部23.0. 茎部26.0	刃部9.8. 茎部26.0	刃部背側3.0. 茎部背側2.5・刃側2.0	4.3	0005	下層	
SI-035	204	6	鉄	鋸	刃・茎部	全長175.5. 刃部96.0. 茎部79.5	刃部24.2. 茎部5.0	刃部2.0. 茎部3.0	37	0034	下層	木質残存
SI-035	204	7	鉄	刀子	刃・茎部	全長123.0. 刃部77.5. 茎部45.5	刃部8.6. 茎部45.5	刃部2.5. 茎部背側3.5・刃部2.0	9.9	0057	カマド内	
SI-035	204	8	鉄	穂摘み具		最大長19.0	17.8	2.0	2	0004	下層	下層一括①
SI-044	216	25	鉄	刀子	刃・茎部	全長102.0. 茎部63.0	刃部9.0. 茎部67.0	刃部3.0. 茎部背側3.0・刃側2.5	9.4	0361	下層	
SI-044	216	26	鉄	門金具		縦49.5. 横56.5	5.6	4.5	11.6	0206	下層	
SI-047A	218	13	鉄	不明		81.5	5.5～6.8	1.5～3.5	10.8	0700	下層	
SI-047A	218	14	鉄	鎌	刃・基部	129.4	25.2	背側2.5・刃側2.0	22.8	0736	下層	
SI-047A	218	15	鉄	鎌	刃・基部	57.5	31.5	背側2.5・刃側1.5	14.8	0167		
SI-048	220	11	鉄	鉄鏃	刃・茎部	56.0	9.5～22.0	2.0～2.5	10.6	0217	上層	
SI-050	222	15	鉄	刀子	刃・茎部	全長57.2. 刃部41.5. 茎部6.2	刃部9.5. 茎部6.2	刃部2.2. 茎部背側2.2・刃部1.5	6.1	0803	中層	
SI-050	222	16	鉄	釘		20.5	4.0	2.0	0.8	1238		
SI-051	223	3	鉄	刀子	刃・茎部	全長68.5. 刃部56.5. 茎部6.5	刃部9.0. 茎部6.5	刃部2.0. 茎部背側3.5・刃部2.5	6.2	0111	上層	
SI-051	223	4	鉄	鎌	刃部	42.0	33.5	背側2.0・刃側1.5	19.4	0114	上層	
SI-053	226	25	鉄	刀子	刃・茎部	全長93.0. 刃部37.5 茎部55.5	刃部9.5. 茎部5.0	刃部3.0. 茎部背側2.5・刃側1.5	6.5	0546		
SI-053	226	26	鉄	刀子	刃部	28.0	14.4	2.5	4.8	0388		
SI-053	226	27	鉄	鎌	刃・基部	全長114.5. 刃部97.5. 基部17.0	刃部22.2	刃部2.8	29.4	0359		
SI-053	226	28	鉄	鎌	刃部	52.0	23.4	2.0	10.5	0359		
SI-053	226	29	鉄	釘		65.0	2.0	2.5	2.6	0183		
SI-053	226	30	鉄	釘		49.5	3.5	3.0	2.8	0198		
SI-054	228	18	鉄	刀子	刃・茎部	全長89.0. 刃部34.5. 茎55.0	刃部13.0. 茎部7.0	刃部2.5. 茎部背側3.0・刃側2.5	11.8	0267		
SI-054	228	19	鉄	刀子	刃・茎部	全長49.0. 刃部38.5. 茎部10.5	刃部9.0. 茎部6.0	刃部2.4・茎部背側2.0・刃側1.5	5.1	0858		

遺構番号	挿図番号		材質	製品名	遺存	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	出土地点	備　考
SI-060	234	7	鉄	刀子	刃・茎部	全長65.0. 刃部22.5. 茎部42.5	刃部8.6. 茎部42.5	刃部2.5・茎部背側2.0・刃側1.5	5.2	0338		
SI-060	234	8	鉄	刀子	刃部	全長37.0	10.5	3.5	3.9	0058		
SI-061	235	5	鉄	刀子	刃・茎部	全長164.0. 刃部98.0. 茎部66.0	刃部9.2. 茎部3.5	刃部3.0・茎部2.5	17.8	0362	下層	
SI-061	235	6	鉄	鎌	刃・基部	刃部10.5. 基部44.0	刃部25.0. 基部31.0	刃部2.5. 基部背側3.0・刃側1.5	60.2	0064	下層	
SI-061	235	7	鉄	穂摘み具		全長59.3	15.4	1.5	6.0	0019	中層	
SI-061	235	8	鉄	鋤		縦184.0. 横149.0	45.5		147.8	0065	下層	
SI-063	238	10	鉄	鉄斧		84.5	34.5～39.5	2.5	120.8	0444		
SI-063	238	11	鉄	刀子	刃部	42.0	18.5	1.5	4.5	0137		
SI-064	239	4	鉄	紡錘車		最大径46.5 孔径5.5×5.5		2.0	19.8	0063		
SI-067	241	11	鉄	釘		59.4	3.5	3.5	5.1	0430		
SI-069	242	5	鉄	穂摘み具		縦15.0～19.0. 横14.5～18.5	14.5	1.5	1.6	0026		
SI-069	242	6	鉄	鎌	刃部	37.8	18.5	2.3	2.7	0011		
SI-069	242	7	鉄	刀子	刃部	全長37.0	14.0	2.2	3.2	0027		
SI-069	242	8	鉄	刀子	刃・茎部	全長133. 刃部107. 茎部24.5	刃部9.0. 茎部9.5	刃部背2.0. 茎部背側2.0・刃側2.0	12.6	0059	カマド内	
SI-072	246	42	鉄	刀子	刃・茎部	全長153.0. 刃部96.0. 茎部57.0	刃部11.0. 茎部7.0	刃部3.0. 茎部背側3.0・刃側2.5	22.4	0556	床面直上	
SI-072	246	43	鉄	刀子	茎部	49.5	茎部6.0	茎部背側3.0・刃側2.5	3.7	1-①		
SI-072	246	44	鉄	刀子	刃部	42.5	刃部8.0. 茎部6.0～9.0	背側3.0	5.2	0002		
SI-072	246	45	鉄	刀子	刃・茎部	全長92.0. 刃部50.0. 茎部42.0	刃部9.5. 茎部7.5	刃部背25. 茎部背側2.0・刃側1.5	9.3	0257		
SI-072	246	46	鉄	鎌	刃・基部	87.0	刃部16.8. 基部26.5	基部刃側1.4・背側2.5. 刃部背側2.1	31.1	0246		
SI-072	246	47	鉄	鎌	刃・基部	79.0	刃部20.0. 基部28.0	基部刃側1.0・背側2.0. 刃部背側2.0	19	0506	床面直上	
SI-072	246	48	鉄	鎌	完形	188.5	刃部18.0. 基部24.6	基部刃側1.2・背側2.5. 刃部背側2.5	51.8	0258		
SI-072	246	49	鉄	穂摘み具	完形	111.5	22.7	2.0	18.4	0309		木質残存
SI-072	246	50	金銅	鈴尾		33.0	27.3	1.5	4.8	0247		孔径1.8
SI-073	247	3	鉄	鉄斧		全長129.0	49.5		379.4	0048		木片付着
SI-076	145	18	鉄	鉄鏃	頸・茎部	全長48.5. 頸部42.0. 茎部7.0	頸部5.5. 茎部55.0	頸部3.0. 茎部2.0	5.6	0282		
SI-079	251	2	鉄	鉄鏃	鏃身・箆被	全長43.0. 鏃身35.0. 箆被8.0	鏃身8.0. 箆被4.5	鏃身2.0. 頸部1.5	2.7	0019		
SI-081	255	7	鉄	刀子	刃・茎部	全長40.5. 刃部36.5. 茎部4.0	刃部9.0	刃部3.0	4.6	0125		
SI-082	257	22	鉄	鉄鏃	鏃身・箆被茎	全長192.0. 鏃身31.5. 箆被98.0. 茎62.5	鏃身13.0. 箆被5.0. 茎3.2	鏃身3.0. 箆被5.0. 茎3.0	12.0	0663		
SI-082	257	23	鉄	鉄鏃	鏃身・箆被茎	全長62.1. 鏃身26.5. 箆被21.6. 茎部14.0	鏃身21.2. 箆被7.0. 茎部2.5	鏃身3.0. 箆被3.5. 茎2.5	11.7	0674		
SI-082	257	24	鉄	刀子	刃・茎部	刃部34.5. 茎部31.5	刃部10.5. 茎部7.6	刃部3.0. 茎部背側3.5・刃側2.0	6.1	0660		
SI-083	259	13	鉄	刀子	刃・茎部	全長129.0. 刃部116.0. 茎部13.0	刃部8.8. 茎部2.5	背側2.5・刃側2.0	12.0	0401	下層	
SI-083	259	14	鉄	刀子	刃部	33.0	7.8	2.0	2.5	0358	上層	
SI-084	95	20	鉄	刀子	刃部	24.0	13.0	3.5	2.5	0342-a		
SI-084	95	21	鉄	刀子	刃部	17.0	18.0	4.5	2.2	0342-b		
SI-084	95	22	鉄	刀子	刃部	33.0	10.0	3.3	2.3	0399-a		
SI-084	95	23	鉄	刀子	刃部	17.0	7.0	7.0	1.9	0399-b		
SI-084	95	24	鉄	刀子	刃部	51.0	8.5	2.4	1.9	5c-9下		
SI-084	95	25	鉄	刀子	刃部	30.0	11.0	4.9	2.6	0390		
SI-084	96	26	鉄	刀子	刃部	17.0	9.5	5.3	1.3	0399		

遺構番号	挿図番号		材質	製品名	遺存	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	出土地点	備　考
SI-084	96	27	鉄	刀子	刃部	30.0	11.0	7.4	3.6	4b-16上		
SI-084	96	28	鉄	刀子	刃部	27.5	9.0	4.9	1.6	4c-12下		
SI-084	96	29	鉄	刀子	刃部	24.0	11.0	3.5	1.5	4c-12下		
SI-084	96	30	鉄	刀子	刃部	22.0	9.0	3.5	1.4	4c-12下		
SI-084	96	31	鉄	刀子	刃部	30.5	10.0	3.4	2.7	5d-10上		
SI-084	96	32	鉄	刀子	刃部	25.5	0.7	4.0	1.2	5c-4上		
SI-084	96	33	鉄	刀子	刃部	22.0	10.0	4.9	1.6	4c-8上		
SI-084	96	34	鉄	刀子	刃部	30.0	11.0	4.0	3.4	0193		
SI-084	96	35	鉄	小型鎌		23.0	17.5	6.2	2.7	4c-12下		
SI-084	96	36	鉄	小型鎌		22.0	28.0	6.4	4.1	4c-12下		
SI-084	96	37	鉄	小型鎌		53.5	15.0	4.7	7.3	3d-5上		
SI-084	96	38	鉄	鎌		39.0	25.5	6.8	11.4	5d-10上		
SI-084	96	39	鉄	鎌		35.0	23.5	6.7	8.9	0170		
SI-084	96	40	鉄	ヤリガンナ	身	33.0	14.0	7.2	5.1	5d-6上		
SI-084	96	41	鉄	ヤリガンナ	身	25.0	9.0	4.3	1.4	5d-14上		
SI-084	96	42	鉄	鉄塊		36.0	5.0	6.8	3.4	4c-8上		
SI-084	96	43	鉄	鉄塊		19.0	6.0	4.1	1.1	0345		
SI-084	96	44	鉄	鉄塊		20.0	4.0	2.3	0.4	4c-12下		
SI-084	96	45	鉄	鉄塊		14.0	4.0	3.2	0.3	5d-10上		
SI-084	96	46	鉄	鉄塊		12.5	2.5	3.9	0.3	5d-10上		
SI-084	96	47	鉄	鉄塊		34.5	4.5	3.8	0.5	5c-3上		
SI-084	96	48	鉄	鉄塊		48.0	10.0	4.2	1.6	4c-8下	中層	
SI-085	260	9	鉄	刀子	刃・茎部	77.0	13.5	背側3.5・ 刃側2.0	17.7	0240	カマド	(平成４年度出土)
SI-086	262	9	鉄	鉄鏃	鏃身	鏃身25.0	鏃身33.0～35.8	鏃身3.5	5.9	0003	上層	
SI-088	265	8	鉄	刀子	刃・茎部	全長102.5. 刃部62.5. 茎部40.0	刃部6.0. 茎部3.5	刃部3.0. 茎部背側2.5・ 刃側2.0	5.7	0308		
SI-088	265	9	鉄	穂摘み具		29.0	18.4	2.0	2.3	0349		
SI-088	265	10	鉄	釘か		58.0	4.2	5.0	4.3	0263	床面直上	
SI-088	265	11	鉄	釘か		38	5.0	4.0	2	0283		木片付着
SI-089	267	13	鉄	穂摘み具		80.0	22.8	2.0	9.4	0353	下層	
SI-089	267	14	鉄	不明		縦57.0. 横38.0	27.2	1.0～1.4	7.1	0437	下層	木片付着
SI-090	268	3	鉄	刀子	刃・茎部	全長145.5. 刃部97.0. 茎部48.5	刃部8.5. 茎部5.6	刃部3.0. 茎部背側3.5・ 刃側2.0	12.6	0071	中層	木片付着
SI-090	268	4	鉄	刀子	刃・茎部	全長140.0. 刃部100.5. 茎部39.5	刃部7.0. 茎部7.4	刃部2.5. 茎部背側3.5・ 刃側2.0	10.4	0032	中層	
SI-090	268	5	鉄	刀子	刃・茎部	全長100.5.　刃部 75.0. 茎部24.5	刃部8.2. 茎部6.5	刃部2.5. 茎部背側3.5・ 刃側2.0	12.2	0070	下層	木片付着
SI-091	269	9	鉄	穂摘み具		84.5	17.0	1.5	15.2	0134	中層	
SI-092	270	9	鉄	鎌	基・刃部	全長208.0. 刃部178.0. 基部30.0	刃部23.3. 基部35.0	刃部2.0. 茎部2.3	93.4	0267		
SI-093	271	1	鉄	鉄鏃	茎部	全長70.5	4.2	4.0	5.9	0064	上層	
SI-095	273	6	鉄	釘		62.0	4.0X5.0	5.0	6.3	0520	カマド内	(平成４年度出土)
SI-095	273	7	鉄	刀子	刃・茎部	全長176.5. 刃部108.5. 茎部68.0	刃部8.5. 茎部7.0	茎部3.0・ 刃部2.5	22.7	0491		柄部残存
SI-096	274	3	鉄	刀子	茎部	茎部6.05	6.8	背側3.0. 刃側2.0	5.4	0057	中層	
SI-096	274	4	鉄	鉈尾								
SI-098	277	12	鉄	くるる鍵		残長341.0	端部6.0. その他8.0～10.0	5.5	93.3	0279		
SI-100	279	8	鉄	刀子	刃・茎部	全長107.5. 刃部34.0. 茎部74.0	刃部12.0. 茎部6.0	刃部3.0. 茎部背側3.0・ 刃側2.0	8.7	0145	中層	
SI-100	279	9	鉄	刀子	茎部	茎部52.0	5.5	背側3.0. 刃側2.0	3.9	0002	上層	
SI-102	280	3	鉄	穂摘み具		全長97.5	19.5	2.0	9.3	0025		
SI-102	280	4	鉄	刀子	刃・茎部	全長110.5. 刃部58.0. 茎部52.5	刃部14.0. 茎部11.5	刃部4.0. 茎部背側4.0・ 刃側3.0	21.4	0071		
SI-104	281	10	鉄	刀子	刃・茎部	全長40.0. 刃部20.0. 茎部20.0	刃部7.0. 茎部7.5	刃部2.0. 茎部背側3.0・ 刃側2.0	3.2	0023	上層	
SI-117	292	14	鉄	鉄鏃	鏃身・頸・ 茎部	全長84.5. 鏃身39.0. 頸部32.0. 茎部34.5	鏃身部4.0～ 10.0. 頸部7.5. 茎部34.5	鏃身部1.5～3.0. 頸部4.0. 茎部2.5	9.7	0140	下層	

遺構番号	挿図番号		材質	製品名	遺存	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	出土地点	備　考
SI-117	292	15	鉄	釘		145.0	4.2X4.0		4.1	0257	上層	
SI-117	292	16	鉄	刀子	刃・茎部	全長22.0, 刃部135.0, 茎部80.5	刃部9.0, 茎部8.0,	刃部2.5, 茎部背側2.5・ 刃側2.0	19.3	0568		232は欠番
SI-118	294	16	鉄	鉄鏃	鏃身・頸部	全長34.0, 鏃身26.5, 頸部8.0	鏃身部3.5～ 16.0, 頸部4.0	鏃身部1.5, 頸部 2.0	3.5	0401	上層	
SI-118	294	17	鉄	刀子	刃・茎部	全長184.5, 刃部96.0, 茎部89.0	刃部9.0, 茎部6.0	刃部9.0, 茎部背側2.5・ 刃側2.0	20.7	0406	上層	
SI-118	294	18	鉄	穂摘み具		35.0	15.5	2.0	3.9	0424		
SI-118	294	19	鉄	刀子	刃部	85.0	8.5	2.0		0401	上層	
SI-118	294	20	鉄	鎌		31.0	13.0	1.5	2.9	0401	上層	
SI-118	294	21	鉄	留め金具			29.0	1.0	5.9	0426		
SI-118	294	22	鉄	不明		全長48.0	5.0	5.0		0404	上層	
SI-118	294	23	鉄	鉄鏃	鏃身・箆被 茎	全長77.5, 鏃身8.0, 箆被60.5, 茎9.0	鏃身部7.0 箆被3.75, 茎3.0	鏃身1.0, 箆被3.0, 茎2.0	6.7	0426		
SI-118	294	24	鉄	穂摘み具		97.5	19.5～20.0	1.6～1.8	9.9	0413	下層	
SI-118	294	25	鉄	穂摘み具		110.3	14.0～14.5	1.5～2.0	13.7	0412	上層	木片付着
SI-118	294	26	鉄	座金具		56.0X60.0			19.6	0411	上層	
SI-118	294	27	鉄	不明		44.0	12.5	1.5	3.5	0402	上層	
SI-119	294	9	鉄	刀子		39.5	12.0	1.5	2.9	0042	上層	
SI-119	294	10	鉄	鎌		54.8	39.0	3.5	23.3	0047	上層	
SI-119	294	11	鉛か	不明		外径 20.2×21.8 孔径 7.4×9.6,		7.8	16.9	0251	下層	環状
SI-120	296	7	鉄	刀子	刃・茎部	全長139.0, 刃部86.0, 茎部53.0	刃部7.0～13, 茎 部5.0	刃部3.0, 茎部2.5	10.8	0054, 141	下層	
SI-122	298	3	鉄	釘		39.0	3.0	3.0	2.2	0031	下層	
SI-123	301	41	鉄	鉄鏃	鏃身・頸部	全長102.0, 頸部79.0, 鏃身部24.0	頸部3.0, 鏃身部9.0	頸部2.8.0, 鏃身部2.0	8.1	0325	下層	
SI-123	301	42	鉄	鉄鏃		74.5	5.5	5.0	5.9	0810	下層	木片付着
SI-123	301	43	鉄	紡錘車		最大径47.8, 孔径6.0		2.0～2.5	28.8	0864		
SI-123	301	44	鉄	刀子	刃部	35.5	2.8		3.2	0002	上層	
SI-123	301	45	鉄	刀子	刃部	39.5	7.8	3.0	3.5	0393	中層	
SI-127	304	6	鉄	釘か		69.5	5.5	4.5	10	0105		
SI-127	304	7	鉄	刀装具		108.5	6.6～9.0	2.0～4.0	6.6	0009		
SI-127	304	8	鉄	穂摘み具		41.5	18.7	2.0	6.7	0107		土器一括
SI-128	308	39	鉄	刀子	刃部	71.0	11.5	2.3	9.3	0070		
SI-128	308	40	鉄	刀子	茎部	36.0	8.5	背側2.0, 刃側2.0	3.1	0001		一括
SI-128	308	41	鉄	刀子	刃・茎部	全長52.5, 刃部50.5, 茎部5.2	刃部11.2	刃部3.0	5.2	0282		
SI-130	310	18	鉄	刀子	刃・茎部	全長156.3, 刃部102.8, 茎部53.5	刃部31.5, 茎部5.0	背側2.0・ 茎部2.8	44.5	0024		木片付着
SI-130	310	19	鉄	刀子	刃・茎部	全長70.8, 刃部56.0, 茎部14.8	刃部10.6	刃部3.0	9.4	0062		一括 木片付着
SI-132	313	16	鉄	鉄鏃	頸・茎部	全長79.0, 頸部65.0, 茎部7.0, 棘部2.5	棘部7.0		5.8	0026		土器一括
SI-133	314	13	鉄	刀子	刃部	58.0	8.2	3.0	4.4	－		
SI-138	320	4	鉄	鉄斧		95.5	36.0	20.0	93.7	0066		
SI-142	324	3	鉄	鉄鏃？	頸・茎部	全長129.5, 頸部65.0, 茎部62.5, 棘部2.0	頸部4.5, 茎部4.0, 棘部8.0	頸部4.5, 茎部4.0	12	0063		
SI-142	324	4	鉄	釘？		38.0	4.0	3.7	5.8	0040		
SI-142	324	5	鉄	刀子	刃・茎部	全長45.5, 刃部24.5, 茎部21.0	刃部9.2, 茎部2.5	刃部3.0, 茎部背側2.5・ 刃部側1.5	5.2	0061		
SI-142	324	6	鉄	鋤		縦221, 横183.5	66.0	2.8	319.1	0133		
SI-143	325	7	鉄	刀子	刃・茎部	全長80.0, 刃部28.5, 茎部12.0	刃部8.0, 茎部6.0	刃部3.0, 茎部背側3.5, 刃 側2.0	5.1	0116		

遺構番号	挿図番号		材質	製品名	遺存	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	出土地点	備　考
SI-147	328	13	鉄	鉄鏃	刃・茎部	全長76.0. 刃部18.5. 茎部57.5	刃部8.0. 茎部5.5	刃部8.0. 茎部背側2.0・ 刃側1.5	5.3	0002		土器一括
SI-147	328	14	鉄	釘		37.0	4.0	5.5	4.4	0223		
SI-147	328	15	鉄	紡錘車	円板部	最大径54.0		1.5～2.0	21.1	0077		
SI-147	328			紡錘車	軸部	91.4	幅4.6～5.0	3.7～3.8	4.3	0077		
SI-147	328	16	鉄	鎌	刃部	102.0	24.5	2.5	23.9	0118. 0194		
SI-150A	331	7	鉄	刀子	刃・茎部	全長53.0. 刃部43.0. 茎部10.0	刃部9.5. 茎部7.5	刃部2.5. 茎部背側2.5・ 刃側1.5	6.2	0008		
SI-150A	331	8	鉄	釣り針？		54.0	4.5	4.0	5.3	0024		
SI-152	334	1	鉄	鉄鏃	頸・茎部	全長60.0. 頸部50.0. 茎部10.0	頸部4.5. 茎部2.5	頸部3.0. 茎部2.5	5.5	0053		
SI-152	334	2	鉄	不明		92.0	5.0	4.0	7.9	0008．9		SI-152 0009と接合
SI-154	337	17	鉄	刀子	刃・茎部	全長75.5. 刃部68.0. 茎部7.5	刃部9.5. 茎部2.5	刃部2.5. 茎部背側2.0・ 刃側2.0	9.8	0234		
SI-154	337	18	鉄	刀子	刃・茎部	全長107.5. 刃部72.0. 茎部35.5	刃部11.0. 茎部7.0	刃部3.0. 茎部背側3.0・ 刃側2.0	16.7	0229		
SI-154	337	19	鉄	鎌	刃・基部	全長136.5. 刃部126.0. 基部11.0	刃部28.5	刃部2.5	37.8	0159		
SI-154	337	20	鉄	鎌	刃・茎部	全長95.0. 刃部56.0. 茎部39.0	刃部21.5. 茎部33.0	刃部2.0. 茎部背側2.5・ 刃側2.0	34.2	0319		
SI-156	339	4	鉄	刀子	刃・茎部	全長88.0. 刃部44.0. 茎部47.0	刃部6.4. 茎部6.0	背側2.0・ 刃側1.5	4.7	0056		
SI-156	339	5	鉄	鎌	刃・基部	全長171.0. 刃部124.5. 基部46.5	刃部15.5. 基部34.0	刃部2.5. 基部背側2.5・ 刃側2.0	49	0032．42		SI-156 42と接合
SI-157	340	1	鉄	刀子	刃部	84	3.0	7.0	7.0	0008	カマド内	
SI-158	341	3	鉄	刀子	刃・茎部	全長68.5. 刃部26.5. 茎部42.5	刃部13.5. 茎部7.5	刃部3.0. 茎部背側3.5・ 刃側2.0	7.3	0004		一括
SI-164	347	2	鉄	刀子	刃部	82.5	9.0	3.0	10.6	0009		
SI-165	348	9	鉄	刀子	刃・茎部	全長94.0. 刃部41.5. 茎部52.5	刃部10.0. 茎部5.0	刃部3.0. 茎部背側2.5・ 刃側2.0	7.1	0006		
SI-177	149	3	鉄	鉄鏃	頸・茎部	全長139.5. 頸部82.0. 茎部56.5	頸部6.6. 茎部3.5	頸部3.0. 茎部2.5	9.3	0031		309a。 木片付着
SI-195	363	7	鉄	刀子	茎部	51.0	5.5	背側2.5・刃側2.0	5.2	0002		
SI-200	369	10	鉄	鉄鏃	鏃身・頸・ 茎部	全長104. 鏃身部14.0. 頸部78.0. 茎部12.0	鏃身部7.5．頸部 4.8.	鏃身2.5. 頸部4.5	10.1	0054	覆土	
SI-201	370	5	鉄	釘か		39.0	5.5	4.0	3.9	0034		
SI-203	114	3	鉄	刀子	刃・茎部	全長53. 刃部46.5. 茎部6.5	刃部9.0. 茎部5.5	刃部2.5. 茎部背側2.0・ 刃側1.5	3.3	0011		
SI-307	387	40	鉄	刀子	刃・茎部	全長69.0. 刃部52. 茎部17.0	刃部3.0. 茎部7.0	刃部3.0. 茎部背側2.5・ 刃側3.0	9.3	0162		
SI-307	387	41	鉄	刀子	刃部	49.5	7.5	2.0	3.7	0085		
SI-307	387	42	鉄	鉄鏃	鏃身・頸・ 茎部	全長91.0. 鏃身部11.0. 頸部66.5. 茎部12.5	鏃身部8.0. 頸部5.0. 茎部2.0	鏃身2. 頸部3.0. 茎部1.5	8.6	0023		
SI-307	387	43	鉄	鉄鏃	頸部	65.0	5.5	3.0	5.9	0208		
SI-312	392	3	鉄	刀子	刃・茎部	全長161.2. 刃部105. 茎部56.2	刃部10.0. 茎部7.0	刃部2.5. 茎部背側3.0・ 刃側2.0	15.7	SI-338 0048		
SI-312	392	4	鉄	小刀	刃・茎部	全長245.9. 刃部193.3. 茎部49.8	刃部14.8. 茎部11.0	刃部2.4. 茎部背側3.2・ 刃側2.0	39.7	SI-338 0044		
SI-315	396	1	鉄	不明		75.5	3.5	4.0	4.6	0017		
SI-318	399	3	鉄	鉄鏃	鏃身・頸・ 茎部	全長138.5. 鏃身部75.0. 頸部19.5. 茎部49.5. 棘部4.0	鏃身部6.0～ 23.5. 頸部7.5. 茎部4.0. 棘部9.0	鏃身2～4. 頸部3.0. 茎部3.0	27.1	0050．56		先端部。 326接合＝欠番
SI-320	402	8	鉄	鉄斧		縦82.5. 横37.0	37.5	17.0	84.6	0151		
SI-320	402	9	鉄	刀子	刃部	64.5	8.0	3.0	5.8	0067		
SI-322	404	8	鉄	不明		33.5	12.0	1.0	4.3	0003		土器一括

遺構番号	挿図番号		材質	製品名	遺存	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	出土地点	備　考
SI-323	405	7	鉄	刀子	刃・茎部	65.0. 刃部55.5. 茎部9.5	刃部6.0. 茎部7.0	刃部2.0. 茎部背側3.0・ 刃側1.0	4.3	0057		
SI-323	405	8	鉄	刀子	茎部	64.0	6.5	背側2.0・ 刃側1.5	4.6	0078		木片付着
SI-333A	416	13	鉄	ノミ		90.5	7.0	3.0	8.1	0062		
SI-333A	416	14	鉄	鉄鏃	完形	全長119.0. 鏃身部29.0. 箆被長40.0. 茎部50.0.	鏃身38.0. 箆被7.0. 茎部4.0	鏃身3.5. 箆長5.0. 茎部4.0	18.8	0053		
SI-333A	416	15	鉄	環状製品	完形	外径 81.7×92.5. 孔径 71.2×78.9		5.6	34.2	0075		
SI-335	420	10	鉄	刀子	刃・茎部	全長60.0. 刃部21.0. 茎部39.0	刃部9.0. 茎部7.57.0	刃部2.5. 茎部背側3.0・ 刃側2.0	10.4	0114		
SI-335	420	11	鉄	刀子	刃・茎部	全長60.0. 刃部21.0. 茎部39.0	刃部9.0. 茎部7.57.0	刃部2.5. 茎部背側3.0・ 刃側2.0	6.5	0095		
SI-335	420	12	鉄	刀子	刃・茎部	全長134.5. 刃部81.0. 茎部53.5	刃部9.8. 茎部7.5	刃部2.5. 茎部背側3.0・ 刃側2.0	161.1	0078		
SI-339	425	2	鉄	刀子	刃・茎部	全長68.0. 刃部23.0. 茎部45.0	刃部11.0. 茎部6.0	刃部3.5. 茎部背側2.5・ 刃側2.0	6.1	0031		
SI-340	426	4	鉄	刀子	刃・茎部	全長44.5. 刃部41.0. 茎部3.5	刃部10.5. 茎部10.0	刃部3.0. 茎部背側2.0・ 刃側1.0	4.3	0003		一括
SI-345	432	12	鉄	刀子	刃・茎部	69.5	5.0	5.0	7.4	0002		一括
SI-345	432	13	鉄	刀子	刃部	51.0	6.5	3.5	4.8	0001		一括
SI-352	439	7	鉄	刀子	刃部	全長74.0. 刃部89.0	8.5	2.2	5	0257		
SI-353	440	10	鉄	刀子	茎部	73.5.	11.5	背側3.0. 刃側2.0	8.7	0051		
SI-357	445	10	鉄	鉄鏃	鏃身・茎部	全長80.0. 鏃身部72.5. 茎部7.5	鏃身4.5. 茎部3.5	鏃身部4.0. 茎部3.5	7.6	0007		
SI-357	445	11	鉄	釘		69.5	3.5	4.0	10.5	0032		
SI-357	445	8	鉄	刀子	刃・茎部	全長54.0. 刃部44.0. 茎部10.0	刃部6.8. 茎部5.5	刃部2.5. 茎部背側2.5・ 刃側2.0	3.6	0039	カマド内	
SI-357	445	9	鉄	刀子	刃・茎部	全長36.0. 刃部19.0. 茎部17.0	刃部7.5. 茎部4.0	刃部3.0. 茎部背側2.5・ 刃側2.0	3.7	0035		
SI-360	448	18	鉄	刀子	刃部	91.0	7.0	2.0	8.6	0055		
SI-371	455	9	鉄	刀子	刃・茎部	全長145.5. 刃部70.0. 茎部75.5	刃部10.8. 茎部5.5	刃部3.0. 茎部背側2.5・ 刃側2.0	18.0	0046		
SI-380	463	7	鉄	刀子	刃部	56.0	9.0	2.0	4.6	0035		
SB-057	517	2	鉄	鉄鏃	柄部	73.0	5.0	4.0	6.3	P2-3	中層	
SB-069	526	1	鉄	鎌	刃部	84.0	25.0	2.0	15.7	0007		P-6
SB-105	542	3	鉄	轡	鏡板．引き手	外径 98.0×98.8. 孔径 75.0×76.0		5.0～9.0	112.0	0001．8		P一括。 368は欠番。 環状
SK-171	123	2	鉄	鉄鏃	茎部	51.5	6.0	5.5	6.7	0006		
SK-412	674	15	鉄	釘		縦66.2. 横36.0	3.5	4.0	11.4	0001		379a
SK-581	674	14	鉄	小刀？	刃・茎部	全長123.5. 刃部99.6. 茎部23.9	刃部19.0. 茎部13.0	刃部4.0. 茎部背側4.2・ 刃側3.0	46.8	0008		
SD-005	575	111	鉄	鉄斧		53.0	36.0	13.8	53.6	0513		土器一括
SD-021	図版 310		鉄	鉄製品		28.0	14.9	1.0	2.0	0124		
SD-015	674	16	銅	銅製品		27.8	14.0	0.7	1.7	0003		
SX-001	153	2	鉄	鉄鏃	鏃身・箆被	全長92.5. 鏃身部50.0. 頭部50.0	鏃身部3.5～ 12.5. 箆被4.0	鏃身部1.5～3.0. 箆被4.0	17.3	0359	周溝内上層	2個体
SX-001	153	3	鉄	鉄鏃	鏃身・棘・茎部	全長80.8. 鏃身部37.4. 棘部2.0. 茎部41.4	鏃身部9.0. 刃部7.8. 棘部1.1. 茎部4.2	鏃身部2.8. 刃部1.8. 棘部2.0. 茎部3.6	10.5	1010	周溝内下層	
SX-001	153	4	鉄	鉄斧		73.0	27.0	14.6	29.6	0018		
P-851	570	15	鉄	環状製品		外径96.0. 内径78.0.		4.0	58	0001		元SB-105-2
20T-93	575	110	鉄	鉄斧	刃部	全長69.0. 刃部40.0	32.0	13.0		－		一括

第18表　土製品観察表

遺構	挿図番号		製品名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	遺存度 (%)	色調	焼成	特徴	遺物番号
SI-002	170	38	土玉	2.7	2.6	2.5	15.3	100	暗赤褐	良好	孔径5.0～6.5	234
SI-002	170	39	土玉	2.7	2.6	2.6	15.5	100	暗赤褐	良好	孔径6.5～7.0	690
SI-002	170	40	土玉	2.7	2.8	2.5	17	100	暗赤褐	良好	孔径7.0～8.0	651
SI-002	170	41	土玉	2.5	2.7	2.5	14.2	100	暗褐	良好	孔径5.0～7.5	844
SI-002	170	42	土玉	2.8	2.8	2.7	19.9	100	淡褐・黒褐	普通	孔径	1025
SI-002	170	43	土玉	2.3	2.6	2.2	13.4	100	暗褐	良好	孔径4.5～6.5	842
SI-002	170	44	土玉	2.5	2.4	2.3	12	100	暗赤褐	良好	孔径6.0～6.5	837
SI-002	170	45	土玉	2.6	2.6	2.6	14.4	100	暗赤褐	良好	孔径5.0～6.5	843
SI-002	170	46	土玉	2.5	2.4	2.3	11.9	100	暗赤褐	良好	孔径4.5～7.0	690
SI-002	170	47	土玉	2.4	2.3	2.0	9.5	100	褐	良好	孔径	1023
SI-002	170	48	土玉	2.4	2.3	2.2	11.2	100	暗赤褐	良好	孔径6.0～7.0	838
SI-002	170	49	土玉	2.1	2.2	2.0	8.2	100	明褐	普通		878
SI-002	170	50	土玉	2.2	2.2	2.0	9.2	100	暗赤褐	良好		1032
SI-003	133	7	焼成粘土塊	4.9	3.5	1.5	22.4	－	にぶい赤褐			659
SI-003	133	8	焼成粘土塊	4.6	4.3	1.4	17.2	－	にぶい赤褐			660
SI-003	133	9	焼成粘土塊	4.3	3.3	1.5	17	－	にぶい赤褐			633
SI-004	177	112	土玉	2.0		1.3	4.8	40	にぶい褐	良好	孔径0.5	551
SI-004	177	113	焼成粘土塊	2.9	2.3	1.6	9.2	－				288
SI-007	135	15	支脚	14.0	底径 8.9		920	90				73
SI-007	135	13	ミニチュア土器	21.0	2.3	0.5	1.9	10	褐	良好		一括
SI-007	135	14	ミニチュア土器	2.0	2.5	0.7	2.2	10	褐	良好		一括
SI-012	136	9	支脚	14.7	底径 7.2		660	80				30
SI-012	136	10	支脚	17.1	底径 9.9		1170	100				29
SI-012	136	11	白玉	0.8	0.7	0.4	0.22	100	暗褐	良好	孔径0.15	34
SI-014	190	33	支脚	9.1	底径 10.5		900	10				91・307
SI-014	190	34	紡錘車	4.0		1.8	13.2	50	明赤褐	良好		38
SI-014	190	35	紡錘車	3.0		0.7	3.1	40	灰褐	良好		291
SI-019	190	4	支脚	8.9	底径 8.2		340	50	にぶい赤褐	良好		47
SI-026	142	13	土玉	0.8	0.8	1.0	0.83	100	にぶい赤褐	良好	孔径0.15	23
SI-026	142	14	支脚	17.2	底径 8.2		890	70				19
SI-028	199	16	紡錘車	4.0		1.0	10.9	50	灰黄褐	良好		51
SI-033	128	9	支脚	15.0	底径 6.4		410	100				11
SI-033	128	10	把手			2.0	6.4	80	にぶい褐		上部径2.0. 低部径0.8	111
SI-033	128	11	土玉	2.5	2.5	2.3	12.5	95	にぶい黄褐		孔径0.5	1
SI-033	128	12	土玉	2.9	2.9	2.4	4.8	100	灰黄褐		孔径0.6	19
SI-033	128	13	埴輪	4.4	8.3	2.5	61.9	10	にぶい赤褐			1
SI-038	207	6	支脚	19.7	底径 7.6		960	90				208
SI-043	213	17	硯形土製品	13.3	10.7	1.5	268.7	80	にぶい赤褐	良好		498, 511, 739, 754
SI-044	216	24	支脚	23.1	底径 10.1		2100	100				602
SI-047A	218	12	支脚	22.5	底径 9.3		1640	90				945
SI-048	220	10	支脚	15.9	底径 7.7		940	70				525
SI-049	90	2	埴輪	2.9	3.4	10.0	11.28	－	にぶい赤褐	良好		25
SI-050	222	14	土器片円板	3.8	4.6	0.6	15.1	－	にぶい赤褐	良好		1123
SI-051	223	2	丸瓦	10.6	6.7	1.8	285.5	20	灰黄褐	良好		109

遺構	挿図番号		製品名	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	遺存度（%）	色調	焼成	特徴	遺物番号
SI-053	226	24	支脚	15.0	底径6.1		480	90				381
SI-059	233	3	支脚	17.1	底径8.1		810	90				255
SI-063	238	8	支脚	21.0	底径7.9		880	95				499, 506
SI-063	238	9	焼成粘土塊	13.0	5.7	2.5	109	－	暗赤褐	良好		454
SI-067	241	12	転用紡錘車	5.4	5.3	1.0	36.9	100	黄灰	良好	孔径0.8	405
SI-069	242	4	不明	3.5	1.5	1.0	5.4	－	暗褐	良好		41
SI-069	242	3	紡錘車	3.8	4.2	2.1	48.2	100	浅黄橙		孔径0.8	37
SI-072	246	41	支脚	13.9	底径7.3		620	100				672
SI-073	247	2	埴輪	5.0	3.0	1.2	19.8	－	にぶい赤褐	良好		74
SI-075	249	15	不明	4.3	2.1	1.1	10.2	－	橙	良好		54
SI-084	95	14	羽口	上部径3.9	低部径12.4	高さ7.0	167.9	80	明赤褐	良好	孔径2.0	205, 206, 207, 208, 209, 210, 328
SI-084	95	15	羽口	上部径3.2	低部径10.8	高さ6.5	130	80	にぶい赤褐	良好	孔径1.1	1-④, 177, 235, 429, 441
SI-084	95	16	羽口	上部径4.4	低部径6.0	高さ2.5	13.9	10	にぶい赤褐	良好		244
SI-084	95	17	羽口	上部径4.2	低部径6.6	高さ7.2	88	30	褐	良好	孔径2.0	1-③, 1-②, 445, 330
SI-084	95	18	羽口	3.1	4.1	0.9	18.14	10	褐灰			51, 406
SI-084	95	19	羽口	上部径4.0	低部径5.7	高さ8.1		40	にぶい赤褐	良好	孔径3.1	1-③, 213, 406
SI-084	96	49	土玉	2.8		2.3	10.5	50	灰黄褐	良好		14
SI-087	263	1	不明	2.5	0.7	0.6	0.84	－	橙	良好		75
SI-090	268	2	土器片有孔円板	7.2	7.4	0.7	44.46	100	灰黄褐	良好		48
SI-092	270	8	不明	4.3	4.0	2.0	29.71	－	にぶい黄褐	良好		56
SI-095	273	5	支脚	5.0	4.4	2.8	65	50	にぶい赤褐	良好		30
SI-103	97	8	焼成粘土塊	2.7	2.3	0.6	3.15	－	明赤褐	良好		1-⑥
SI-113	289	6	不明	5.3	3.6	1.2	23.19	－	にぶい褐	良好	縄文	10
SI-123	300	38	焼成粘土塊？	7.9	8.2	2.7	102.8	－	にぶい赤褐		布目痕あり	266
SI-123	300	39	焼成粘土塊？	10.3	10.9	2.5	218.9	10	黒褐	良好	布目痕あり	153
SI-123	300	40	支脚	24	底径11.8		1740	90				59
SI-125	100	9	羽口	上部径4.0	底部径9.0	高さ6.0	52.94	30	にぶい赤褐	良好		7, 9, 199-②, 244
SI-128	308	37	羽口	5.4	4.9	1.7	25.47	20	にぶい橙	良好		526
SI-128	308	38	埴輪	4.2	3.0	0.7	29.6	10	橙	良好		76
SI-150B	332	6	支脚	13.4	底部径7.3		460	90				49
SI-151	333	10	支脚	22.5	底部径9.7		1470	90				131
SI-154	336	16	支脚	22.3	底部径11.0		1540	100				324
SI-155	338	13	支脚	17.6	底部径10.5		1310	70				72
SI-156	339	3	羽口	4.0	3.5	1.8	48.19	10	黄灰			2
SI-172	104	10	紡錘車	4.3	4.4	2.3	50.21	100	にぶい赤褐	良好	孔径0.6	12
SI-199	368	11	支脚	21.5	底部径10.4		1120	100				8, 68
SI-301	377	1	焼成粘土塊	12.0	8.0	4.0	202.3	－	暗赤褐	良好		36
SI-310	390	11	支脚	11.0	底部径12.9		1150	30				80
SI-310	390	12	土壁	8.3	9.2	4.1	212.05	－				遺物番号不明
SI-318	399	2	支脚	22.5	底部径11.2		1590	100				106
SI-325	407	12	焼成粘土塊	13.5	15.3	8.5	1830	－	暗赤褐			74
SI-326	443	5	支脚	15.6	底部径11.9		1530	100				14

遺構	挿図番号		製品名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	遺存度 (%)	色調	焼成	特徴	遺物番号
SI-334	418	11	耳飾り	2.5	1.1	1.0	3.29	50	にぶい赤褐	良好		1
SI-348	435	3	不明	2.3	5.1	0.8	11.73	−	灰黄褐	良好		1
SI-350	437	5	支脚	17.0	底部径 9.0		850	70				67
SI-353	440	9	支脚	14.4	底部径 7.7		530	90				56
SI-378	461	7	支脚	15.1	底部径 7.0		710	100				67
SI-380	463	6	土錘	4.0	2.0	3.3	53.27	50	明褐			48
SK-183	575	115	焼成粘土塊	8.3	3.2	2.8	80.95	−	にぶい黄褐	良好		23
SK-581・25P-82	575	109	丸瓦	15.8	15.3	2.4	570					2,16
SK-308	575	120	焼成粘土塊	3.1	1.5	1.1	4.4	−	にぶい黄橙			2
SD-001	571	24	瓦塔	7.7	7.3	2.0	120.67	−	灰黄褐			11
SD-002	575	116	焼成粘土塊	3.1	2.4	0.5	3.14	−	灰黄褐			99
SD-007	575	117	焼成粘土塊	2.3	1.0	0.8	1.59	−	にぶい赤褐	良好		1-②
SD-021	571	19	瓦塔	6.8	6.8	1.2	61.52	−	灰黄褐	良好		212
SD-021	571	15	瓦塔	4.1	3.8	1.7	21.18	−	灰黄褐	良好		246,248
SD-021	571	22	瓦塔	3.8	3.5	1.0	16.76	−	灰黄褐	良好		277
SD-021	571	16	瓦塔	4.7	4.6	0.9	27.95	−	にぶい黄橙			210
SD-021	571	20	瓦塔	12.7	8.5	1.3	170.41	−	灰黄	良好		154,185,214,247
SD-021	571	13	瓦塔	7.5	5.0	3.1	59.24	−	灰黄褐	良好		232
SD-021	571	17	瓦塔	7.0	9.0	4.0	112.26	−	にぶい黄褐	良好		206
SD-021	571	14	瓦塔	4.8	5.0	1.4	32.76	−	にぶい黄橙	良好		260
SD-021	571	1	瓦塔	4.3	7.3	1.7	55.85	−	灰黄褐	良好		129
SD-021	571	2	瓦塔	4.5	4.4	1.0	25.2	−	灰黄	良好		259
SD-021	571	3	瓦塔	3.2	4.5	1.5	13.49	−	灰黄褐	良好		262
SD-021	571	4	瓦塔	3.9	3.9	1.8	19.65	−	灰黄褐	良好		211
SD-021	571	5	瓦塔	2.7	2.9	1.9	11.33	−	灰黄褐	良好		221
SD-021	571	6	瓦塔	3.8	3.8	1.3	14.73	−	灰黄	良好		222
SD-021	571	7	瓦塔	2.6	3.5	1.1	13.25	−	灰黄褐	良好		244
SD-021	571	8	瓦塔	3.7	2.7	1.4	17.26	−	灰黄褐	良好		392
SD-021	571	9	瓦塔	3.7	2.6	1.1	13.15	−	灰黄褐	良好		245
SD-021	571	21	瓦塔	5.5	7.4	1.3	32.34	−	にぶい黄褐	良好		227
SD-021	571	23	瓦塔	3.8	3.4	1.5	16.77	−	にぶい褐	良好		250
SD-021	571	11	瓦塔	7.5	5.9	2.1	68.01	−	灰黄	良好		401
SD-021	571	18	瓦塔	8.0	9.8	1.3	72.99	−	にぶい黄橙	良好		213
SD-021	571	12	瓦塔	6.3	7.6	0.8	54.19	−	にぶい黄橙	良好		231
SD-042	571	25	瓦塔	5.4	10.3	2.8	121.36	−	灰白色	良好		1
SX-001	571	28	瓦塔	5.7	6.6	1.5	70.58	−	灰白色	良好		3116
SX-018	163	1	土玉	2.3	2.2	1.7	5.61	40	にぶい褐	良好		1
SX-018	163	2	土玉	2.0	1.7	1.1	3.52	20	にぶい褐	良好		1
SX-025	164	4	埴輪	4.7	3.0	1.2	26.31	−	橙	良好		14
18-O-90	575	113	土器片円板	3.8	3.5	0.5	6.85	−	にぶい褐	良好		1
19-O-13	575	118	焼成粘土塊	2.6	1.5	1.1	3.41	−	灰褐	良好		635
19Q-22	571	27	瓦塔	3.3	2.8	1.1	11.5	−	灰黄褐	良好		1
20Q-12	571	10	瓦塔	4.4	2.7	1.3	10.98	−	灰黄褐	良好		一括
23R-26	573	58	転用土器	6.0	6.8	0.6	28.42	70	明赤褐	良好		1
23S-46	575	114	土器片円板	4.4	4.6	0.7	16.65	10	にぶい赤褐	良好		1
17T-08	164	9	土玉	3.1	1.3	1.2	6.02	20	褐	良好		1
19T-27	575	119	形象埴輪	3.9	4.0	3.8	36.64	10	にぶい赤褐	良好		1
20U-72	164	8	土玉	2.8	3.0	2.8	22.55	100	にぶい褐	良好	口径0.6	表採
18V-49	571	26	瓦塔	2.6	6.7	1.1	32.28	−	暗灰黄	良好		1

第19表　石製品観察表

遺構	挿図番号		製品名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	遺存度	石材	特徴	遺物番号
SI-002	170	51	管玉	2.44	0.97	1	3.33	95	細粒緑色凝灰岩	孔径0.32～0.46	969
SI-004	177	116	紡錘車	4	4	1.8	43.81	100	蛇紋岩		926
SI-004	177	114	ガラス小玉	1	1	0.7	1.01	100		孔径0.7	927
SI-004	177	115	勾玉	3.3	0.9	0.5	3.77	100	滑石		695
SI-006	124	3	砥石	5.4	3.1	2.1	59.11		流紋岩質凝灰岩		7
SI-013	186	76	勾玉	2.2	0.8	0.8	3.21	90	細粒緑色凝灰岩		137
SI-015	193	28	砥石	3.7	4.2	2.8	45.98	－	流紋岩質凝灰岩		9
SI-016	194	11	砥石	10.8	4.3	4.5	196.45	－	流紋岩質凝灰岩		119
SI-014	190	36	紡錘車	1.6	2.9	0.4	3.18	10	滑石		40
SI-044	216	27	紡錘車	4.5	4.6	2.5	77.24	100	滑石		434
SI-051	223	5	砥石	5.1	3.7	2.2	48.54	－	流紋岩質凝灰岩		33
SI-053	226	31	砥石	5.4	3.5	2.0	30.83	－	流紋岩質凝灰岩		710
SI-053	226	32	砥石	4.1	2.0	1.4	11.93	－	流紋岩質凝灰岩		824
SI-060	234	9	滑石模造品	4.5	3.5	1.0	22.58	100	滑石	未製品	14
SI-064	239	5	砥石	4.9	3.6	1.5	38.78	－	流紋岩質凝灰岩		359
SI-067	241	10	砥石	16.9	9.2	5.4	1300	－	砂岩		360
SI-069	242	2	砥石	4.6	4.0	2.3	53.25	－	流紋岩質凝灰岩		34
SI-071	243	3	砥石	4.6	3.0	2.9	42.22	－	流紋岩質凝灰岩		63
SI-078	146	4	砥石	5.5	4.0	2.0	57.77	－	流紋岩質凝灰岩		27
SI-079	251	3	滑石製剣形品	6.0	2.9	1.0	19.78	100	滑石		20
SI-082	257	25	紡錘車	3.6	3.6	1.5	31.74	100	滑石		668
SI-083	259	12	砥石	4.8	8.5	1.7	95.72	－	砂岩		8
SI-084	96	50	滑石製単孔円盤	2.8	2.8	0.3	4.05	100	滑石		457
SI-084	96	51	臼玉	0.42		0.2	0.07	100	滑石		440
SI-084	96	52	臼玉	0.37		2.5	0.06	100	滑石		2b-2
SI-084	96	53	臼玉	0.40		3.2	0.08	100	滑石		2b-8
SI-084	96	54	臼玉	0.37		2.4	0.07	100	滑石		2e-12
SI-084	96	55	臼玉	0.37		2.5	0.06	100	滑石		3d-2下
SI-084	96	56	臼玉	0.34		1.7	0.04	100	滑石		3c-16下
SI-084	96	57	臼玉	0.37		1.8	0.05	100	滑石		3c-16下
SI-084	96	58	臼玉	0.37		3.0	0.06	100	滑石		3d-5下
SI-084	96	59	臼玉	0.43		2.4	0.07	100	滑石		3d-10下
SI-084	96	60	臼玉	0.41		2.1	0.08	100	滑石		3e-12
SI-084	96	61	臼玉	0.38		2.3	0.07	100	滑石		4a-9上
SI-084	96	62	臼玉	0.41		1.9	0.06	100	滑石		4b-2
SI-084	96	63	臼玉	0.42		1.9	0.06	100	滑石		4b-10上
SI-084	96	64	臼玉	0.41		1.2	0.04	100	滑石		4c-4上
SI-084	96	65	臼玉	0.41		1.8	0.07	100	滑石		4c-4下
SI-084	96	66	臼玉	0.43		2.8	0.10	100	滑石		4c-8上
SI-084	96	67	臼玉	0.40		2.6	0.10	100	滑石		4c-16下
SI-084	96	68	臼玉	0.42		2.3	0.07	100	滑石		5b-2
SI-084	96	69	臼玉	0.42		1.7	0.05	100	滑石		5b-9
SI-084	96	70	臼玉	0.37		3.2	0.08	100	滑石		5c-10上
SI-084	96	71	臼玉	0.41		1.8	0.06	100	滑石		5c-14上
SI-084	96	72	臼玉	0.37		2.4	0.06	100	滑石		6c-14下
SI-084	96	73	臼玉	0.38		2.4	0.05	100	滑石		6d-01
SI-084	96	74	臼玉	0.39		2.7	0.08	100	滑石		6d-06
SI-084	96	75	臼玉	0.39		1.5	0.04	100	滑石		6d-13上
SI-084	96	76	臼玉	0.36		2.1	0.05	100	滑石		6d-13上

遺構	挿図番号		製品名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	遺存度	石材	特徴	遺物番号
SI-084	96	77	臼玉	0.42		1.7	0.06	100	滑石		6e-9
SI-084	96	78	臼玉	0.40		1.8	0.05	100	滑石		6f-9
SI-084	96	79	臼玉	0.40		3.0	0.07	100	滑石		6f-11
SI-084	96	80	臼玉	0.42		2.1	0.06	100	滑石		6f-11
SI-084	96	81	臼玉	0.43		2.4	0.09	100	滑石		炉④内
SI-084	96	82	臼玉	0.43		1.2	0.03	70	滑石		5f-14
SI-084	96	83	臼玉	0.41		1.5	0.02	50	滑石		4c-8下
SI-084	96	84	臼玉	0.37		1.7	0.01	40	滑石		5d-10下
SI-084	96	85	臼玉	−		0.7	0.01	40	滑石		5c-10上
SI-084	96	86	臼玉	−		0.6	0.01	35	滑石		5f-8
SI-084	96	87	臼玉	−		0.5	0.01	10	滑石		炉④内
SI-084	96	88	臼玉	0.42		0.7	0.02	30	滑石		4c-12下
SI-084	96	89	臼玉	0.41		1.2	0.02	30	滑石		4c-16下
SI-084	96	90	臼玉	−		0.6	0.01	20	滑石		5b-13上
SI-084	96	91	臼玉	−		0.6	0.01	5	滑石		5d-9床
SI-084	96	92	滑石剥片	0.35	0.30	1.3	0.02	−	滑石		5a-16
SI-084	96	93	滑石剥片	0.60	0.40	2.1	0.09	−	滑石		5d-8
SI-084	96	94	滑石剥片	0.70	0.40	1.4	0.05	−	滑石		5g-12
SI-084	96	95	滑石剥片	0.67	0.39	1.6	0.06	−	滑石		6f-4
SI-084	96	96	滑石剥片	0.70	0.41	0.7	0.02	−	滑石		2b-4
SI-084	96	97	滑石剥片	0.29	0.32	1.4	0.02	−	滑石		3c-1
SI-084	96	98	滑石剥片	1.40	0.58	3.3	0.32	−	滑石		4b-10上
SI-084	96	99	滑石剥片	0.90	0.67	2.7	0.19	−	滑石		4e-3上
SI-084	96	100	滑石剥片	2.5	1.9	0.7	2.7	−	滑石		134
SI-084	96	101	滑石剥片	1.5	1.0	0.4	0.7	−	滑石		6e-8？
SI-084	96	102	ガラス小玉	0.40		0.3	0.07	100			12
SI-084	96	103	管玉破砕品	0.65		0.75	0.15	−	細粒緑色凝灰岩		6d-9下
SI-084	96	104	管玉破砕品	−		−	0.02	−	細粒緑色凝灰岩		6d-11下
SI-085	260	8	砥石	2.2	5.0	1.2	14.56	−	砂岩		130
SI-093	271	2	勾玉	3.1	1.2	0.6	5.47	100	滑石		99
SI-109	286	12	砥石	6.2	5.8	1.1	72.38	−	流紋岩質凝灰岩		406
SI-110	287	12	砥石	3.6	4.4	2.4	25.73	−	泥岩		287
SI-123	301	46	砥石	5.1	3.8	2.3	47.41	−	流紋岩質凝灰岩		649
SI-137	319	28	砥石	4.3	4.2	2.5	46.73	−	細粒緑色凝灰岩		143
SI-137	319	29	砥石	5.0	5.6	3.3	112.81	−	細粒緑色凝灰岩		123
SI-137	319	30	砥石	5.0	6.0	3.2	109.59	−	細粒緑色凝灰岩		147
SI-142	324	7	紡錘車	4.1	4.6	1.5	46.59	100	流紋岩質凝灰岩		137
SI-147	328	12	砥石	7.9	7.0	4.0	287.95	−	砂岩		281
SI-148	329	2	砥石	3.7	5.7	3.3	67.67	−	流紋岩質凝灰岩		29
SI-174	352	1	砥石	12.2	5.0	6.5	257.22	−	流紋岩質凝灰岩		14
SI-179	354	10	砥石	7.5	4.3	2.2	126.56	−	流紋岩質凝灰岩		27
SI-181	107	2	砥石	4.7	5.1	1.5	51.01	−	流紋岩質凝灰岩		5
SI-189	357	10	砥石	6.6	4.0	3.2	81.19	−	流紋岩質凝灰岩		67
SI-194	362	9	砥石	4.3	3.6	2.7	50.01	−	流紋岩質凝灰岩		56
SI-194	362	10	滑石製剣型	3.8	1.9	0.5	5.67	100	滑石		49
SI-209	375	4	砥石	6.6	4.0	4.2	145.76	−	流紋岩質凝灰岩		69
SI-307	387	44	滑石製双孔円盤	2.5	1.5	0.3	1.35	40	滑石		2
SI-308	388	4	紡錘車	4.0	4.0	1.8	54.95	100	滑石		44
SI-316	397	1	砥石	4.0	3.1	2.1	24.94	−	流紋岩質凝灰岩		14
SI-322	404	9	紡錘車	3.0	3.0	1.7	20.78	100	滑石		60

遺構	挿図番号		製品名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	遺存度	石材	特徴	遺物番号
SI-326	408	2	砥石	5.2	1.3	1.5	305.15	−	チャート		31
SI-327	409	7	砥石	10.8	6.2	4.3	20.27	−	流紋岩質凝灰岩		5,7
SI-334	418	12	砥石	5.0	3.0	1.5	33.55	−	流紋岩質凝灰岩		191
SI-354	441	5	砥石	7.3	2.5	2.5	77.19	−	流紋岩質凝灰岩		10
SI-358	446	5	砥石	4.8	3.2	1.4	33.73	−	流紋岩質凝灰岩		4
SI-360	448	19	勾玉	3.5	1.2	0.9	9.77	100	瑪瑙		35
SI-371	455	8	砥石	4.6	2.4	1.6	12.02	−	流紋岩質凝灰岩		47
SI-373	457	12	砥石	7.7	4.1	2.2	90.75	−	流紋岩質凝灰岩		83
SI-375	459	10	砥石	5.9	4.0	1.9	69.25	−	流紋岩質凝灰岩		77
23Q-22	164	7	小玉	1.2	1.0	1.0	2.15	100	瑪瑙		1
SD-018	164	6	勾玉	3.0	1.0	0.9	5.32	90	瑪瑙		128
SK-213	575	110	紡錘車	3.7	3.7	1.5	36.43	100	滑石		1
SX-001	153	1	滑石製剣形品	4.5	1.9	0.5	5.04	100	滑石		288
SX-010	164	5	滑石製剣形品	7.7	2.6	0.7	16.74	100	滑石		2145
SI-002	図版318		軽石	5.4	3.6	3.8	25.17	−			516
SI-004	図版318		軽石	5.7	4.8	3.6	25.17	−			858
SI-004	図版318		軽石	4.0	3.2	2.0	7.16	−			716-1
SI-005	図版318		軽石	3.8	2.4	2.0	2.84	−			107
SI-014	図版318		軽石	8.9	8.0	5.3	99.81	−			219
SI-014	図版318		軽石	2.0	1.3	1.3	1.33	−			42
SI-015	図版318		軽石	3.0	3.6	2.3	5.06	−			84
SI-020	図版318		軽石	10.0	8.5	7.9	99.39	−			16
SI-021	図版318		軽石	3.0	2.1	2.5	3.89	−			30
SI-022	図版318		軽石	4.0	2.8	1.4	2.82	−			18
SI-038	図版318		軽石	8.8	6.5	4.7	60.19	−			205
SI-046	図版318		軽石	9.0	6.1	5.2	46.95	−			107
SI-076	図版318		軽石	2.5	2.4	2.0	2.6	−			1-②
SI-104	図版318		軽石	3.3	1.8	1.2	1.83	−			31
SI-104	図版318		軽石	2.0	1.5	1.3	0.93	−			33
SI-104	図版318		軽石	2.2	2.1	1.8	1.1	−			98
SI-188	図版318		軽石	5.3	2.3	3.0	5.71	−			1
SI-188	図版318		軽石	2.3	1.8	1.9	2.33	−			118
SI-195	図版318		軽石	2.4	2.0	1.5	1.68	−			2
SI-310	図版318		軽石	4.2	4.8	2.4	6.09	−			40
SI-360	図版318		軽石	3.7	3.7	2.7	9.32	−			4
SI-361	図版318		軽石	4.8	3.0	1.6	8.87	−			1
SD-004	図版318		軽石	3.4	2.6	1.5	4.1	−			681
SD-018	図版318		軽石	3.5	3.4	2.5	4.45	−			438
SK-017	671	1	板碑	17.8	13.0	3.2	880	一部	石墨片岩		
SK-017	671	2	板碑	6.6	6.2	1.1	62	一部	点紋緑泥片岩		3
SK-018	671	3	板碑	39.0	20.0	2.3	3000	一部	緑泥片岩		1
SK-018	672	4	板碑	29.2	18.4	2.2	1610	一部	石墨片岩		33,35,37
SK-018	672	5	板碑	14.8	6.0	1.8	335	一部	点紋緑泥片岩		34
SK-018	672	6	板碑	38.6	17.0	2.7	2050	一部	点紋緑泥片岩		36,38,40
SK-185	673	7	板碑	22.0	17.4	2.3	1380	一部	石墨片岩		2
SK-185	673	8	板碑	12.0	11.2	1.8	370	一部	石墨片岩		3
SD-001	673	9	板碑	10.2	8.1	1.7	160	一部	石墨片岩		12
SK-071	673	10	五輪塔	19.0	19.4	12.6	5570	一部	安山岩	塔身(水輪)部	6

第20表　中・近世陶磁器・土器観察表

遺構	指図番号		図版番号	種別	生産地	器種	年代	法量(cm)			胎土色	備考
								口径	器高	座径		
SK-017	669	1	325	陶器	古瀬戸	擂鉢	15C	−	−	10.1	にぶい黄橙	
SK-017	669	2	325	土師質	在地	杯	15C	17.6	4.2	9.2	淡赤橙	
SK-017	669	3	325	土師質	在地	杯	15C	−	−	12.3	淡赤橙	
SK-018	669	4	325	土師質	在地	杯	15C	−	−	8.4	淡赤橙	
SK-018	669	5	325	土師質	在地	杯	15C	−	−	9.2	淡赤橙	
SK-018	669	6	325	土師質	在地	杯	15C	−	−	10.5	淡赤橙	
SD-002	−	7	325	土師質	在地	カマド敷輪	近世	−	−	−	にぶい赤褐	
SD-001	669	8	325	土師質	在地	杯	15C	−	−	9.8	橙	
SD-012	−	9	325	土師質	在地	焙烙	19C	−	−	−	灰赤	
SD-016	−	10	325	土師質	在地	深鉢	近世	−	−	−	灰褐	
SX-016	−	11	325	陶器	益子	行平	19C後半	13.6	−	−	オリーブ灰	
SD-028	−	12	325	陶器	瀬戸・美濃	輪禿皿	18C後半	−	−	−	にぶい黄橙	
SD-028	−	13	325	陶器	瀬戸・美濃	灯明皿(受皿)	19C中葉	10.4	2.4	5.0	灰	
SD-021	−	14	325	陶器	瀬戸・美濃	香炉か火入	18C	−	−	6.3	にぶい黄橙	底部外面「クリ原」墨書
SD-021	−	15	325	土師質	在地	焙烙	17C後半～18世紀前半	34.4	−	−	にぶい赤褐	
SD-021	−	16·17	325	瓦質	在地	浅鉢	19C	22.2	−	13.4	黄灰	
SD-019	669	18	325	土師質	在地	小皿	15C	7.0	1.0	5.0	にぶい橙	
SX-019	−	19	325	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	−	−	−	灰黄褐	
SX-019	−	20	325	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	−	−	−	灰黄褐	
SX-019	−	21	325	陶器	肥前	火入	17C後半	−	−	4.8	浅黄橙	京焼風，底部外面「柴」印銘
SX-019	−	22	325	陶器	肥前	皿	17C末～18世紀前半	−	−	−	にぶい黄	
SX-019	−	23	325	陶器	瀬戸・美濃	丸碗	18C後半	−	−	−	にぶい黄褐	
SX-019	−	24	325	陶器	志戸呂	灯明皿(受皿)	18世紀前半～中葉	−	2.4	5.6	暗緑灰	油煙痕
SX-019	−	25	325	磁器	肥前	白磁紅猪口	18C末～19C中葉	−	−	2.6	灰白	
SX-019	−	26	325	磁器	肥前	染付仏飯器	18C末～19C前半	6.4	−	−	灰白	
SX-019	−	27	325	土師質	在地	焙烙	18C前半	−	−	−	灰褐	
SD-042	−	28	325	陶器	瀬戸・美濃	瓶掛	19C前半	−	−	−	にぶい黄橙	
SD-055	−	29	325	陶器	瀬戸・美濃	鉄絵皿	17C前半～中葉	−	−	5.0	浅黄橙	
SX-025	−	30·31	325	磁器	肥前	染付深皿	19C前半	−	−	−	灰白	焼継ぎ
SX-025	−	32	325	磁器	肥前	染付皿	18C末～19C前半	−	−	6.0	灰白	
SX-025	−	33	325	磁器	肥前	青磁香炉	18C末～19C中葉	−	−	−	灰黄	
SX-025	−	34	325	磁器	瀬戸・美濃	染付小杯	19C前半	−	−	3.2	灰白	
SK-411	−	35	325	陶器	京都・信楽	灯明皿	19C前半	−	−	−	淡黄	油煙痕
SK-411	−	36	325	土師質	在地	焙烙	18C後半～19C前半	−	−	−	にぶい褐	
SK-412	−	37	325	陶器	瀬戸・美濃	角皿か向付	19C前半	−	−	6.0	にぶい黄	
SK-412	−	38	325	陶器	堺	擂鉢	19C前半	−	−	−	灰褐	
SK-412	−	39·40	325	磁器	肥前	青磁染付鉢	19C前半	18.9	−	10.0	灰白	焼継ぎ
SK-412	−	41	325	磁器	肥前	染付蓋付鉢	19C前半	−	−	−	灰白	
SK-412	−	42	325	磁器	肥前	白磁合子(身)	19C前半	−	−	5.6	灰白	
SK-412	−	43	325	磁器	瀬戸・美濃	染付端反碗	19C中葉	10.6	−	3.6	灰白	底部外面「寿」銘
SK-412	−	44	325	磁器	瀬戸・美濃	染付端反碗	19C中葉	11.6	4.6	3.7	灰白	焼継ぎ，底部外面「寿」銘
SK-412	−	45	325	磁器	瀬戸・美濃	染付端反碗	19C中葉	−	−	4.4	灰白	
SK-412	−	46	325	磁器	瀬戸・美濃	染付碗	19C後半	−	−	−	灰白	
SK-412	−	47	325	磁器	瀬戸・美濃	小杯	19C中葉	6.8	4.6	3.0	灰白	
SK-412	−	48	325	磁器	瀬戸・美濃	小杯	19C後半	6.4	4.4	2.8	灰白	底部外面方形枠に「角福」銘
SK-412	−	49	326	磁器	瀬戸・美濃	擂絵染付皿	19C後半	11.0	2.4	7.4	灰白	
SK-412	−	50·51	326	土師質	在地	焙烙	19C前半	−	−	−	にぶい赤褐	
SX-010	−	52	326	陶器	肥前	碗	17C後半	11.4	15.4	5.1	浅黄橙	
SX-010	−	53	326	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	11.6	−	−	灰黄褐	
SX-010	−	54	326	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	−	−	−	にぶい黄橙	
SX-010	−	55	326	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	−	−	−	にぶい黄橙	
SX-010	−	56	326	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	−	−	−	黄褐	
SX-010	−	57	326	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	10.0	−	−	にぶい褐	
SX-010	−	58	326	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	−	−	4.0	灰黄褐	
SX-010	−	60	326	陶器	肥前	皿	17C後半	15.4	−	−	にぶい黄橙	
SX-010	−	61	326	陶器	肥前	鉢	17C後半	−	−	−	浅黄橙	
SX-010	−	62～65	326	陶器	肥前	火入	17C後半	24.4	−	13.0	灰黄褐	

遺構	指図番号		図版番号	種別	生産地	器種	年代	法量(cm)			胎土色	備考
								口径	器高	座径		
SX-010	669	66	326	陶器	古瀬戸	平碗	15C中葉～後半	－	－	－	浅黄橙	
SX-010	－	67	326	陶器	瀬戸・美濃	丸碗	17C後半	12.4	5.8	－	浅黄橙	
SX-010	－	68	326	陶器	瀬戸・美濃	御室茶碗	18C前半	－	－	－	浅黄橙	
SX-010	－	69	326	陶器	瀬戸・美濃	腰錆碗	18C中葉～後半	9.8	－	－	にぶい黄橙	
SX-010	－	70	326	陶器	瀬戸・美濃	鎧湯呑碗	近世	－	－	－	灰黄橙	
SX-010	－	71	326	陶器	瀬戸・美濃	丸皿	18C中葉	11.6	2.4	6.8	明褐灰	
SX-010	－	72	326	陶器	瀬戸・美濃	揺絵皿	18C中葉	13.8	2.9	8.0	オリーブ黄	
SX-010	－	73	326	陶器	瀬戸・美濃	菊皿	17C後半	－	－	－	灰オリーブ	
SX-010	－	74	326	陶器	瀬戸・美濃	黄瀬戸鉢	17C中葉～後半	－	－	16.4	淡黄	
SX-010	－	75	326	陶器	瀬戸・美濃	香炉	18C前半	－	－	－	灰黄	
SX-010	－	76	326	陶器	瀬戸・美濃	香炉	18C前半	8.8	－	－	浅黄	
SX-010	－	77	326	陶器	瀬戸・美濃	片口	18C後半	－	－	13.2	暗灰黄	
SX-010	－	78	326	陶器	瀬戸・美濃	徳利	18C前半	－	－	－	にぶい黄橙	
SX-010	－	79	326	陶器	瀬戸・美濃	銭甕	近世	－	－	－	にぶい黄橙	
SX-010	－	80	326	陶器	瀬戸・美濃	壺	近世	－	－	12.4	にぶい黄橙	
SX-010	－	81	326	陶器	瀬戸・美濃	汁次(取手)	近世	－	－	－	にぶい黄橙	
SX-010	－	82	326	陶器	瀬戸・美濃	灯明皿	17C中葉～後半	8.2	1.9	3.8	灰	
SX-010	－	83	326	陶器	志戸呂	灯明皿	18C前半～中葉	12.8	1.7	－	灰褐	油煙痕
SX-010	－	84	326	陶器	志戸呂	灯明皿	18C前半～中葉	13.0	1.7	5.6	灰褐	油煙痕
SX-010	－	85	326	陶器	志戸呂	灯明皿	18C前半～中葉	－	－	－	にぶい褐	
SX-010	－	86	326	陶器	志戸呂	灯明皿	18C前半～中葉	－	－	－	灰褐	
SX-010	－	87·88	326	陶器	志戸呂	灯明皿	18C前半～中葉	12.0	－	－	褐灰	
SX-010	669	89	327	陶器	古瀬戸	揺鉢	15C中葉～後半	－	－	－	にぶい褐	
SX-010	－	90	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	17C後半	－	－	－	にぶい橙	
SX-010	－	91	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	17C後半	－	－	－	明褐灰	
SX-010	－	92	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	17C後半	－	－	－	黄橙	
SX-010	－	93·94	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	17C末～18C前半	35.5	15.5	13.6	灰黄	
SX-010	－	95	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	18C前半	37.5	－	－	にぶい褐	
SX-010	－	96	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	18C前半	31.6	－	－	にぶい黄橙	
SX-010	－	97	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	18C中葉	－	－	－	浅黄橙	
SX-010	－	98	327	陶器	瀬戸・美濃	揺鉢	18C中葉	－	－	－	浅黄橙	砥石に転用
SX-010	－	99	327	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	11.6	－	－	灰白	
SX-010	－	100	327	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	12.2	6.2	4.2	灰白	
SX-010	－	101	327	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	－	－	－	灰白	
SX-010	－	102	327	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	－	－	－	灰白	
SX-010	－	103	327	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	10.8	－	－	灰白	
SX-010	－	104	327	磁器	肥前	染付丸形碗	18C前半	9.6	－	－	灰白	
SX-010	－	105	327	磁器	肥前	染付碗	18C後半	－	－	4.4	灰白	底部外面方形枠に「渦福」銘
SX-010	－	106	327	磁器	肥前	染付碗	18C後半	－	－	－	灰白	
SX-010	－	107	327	磁器	肥前	青磁碗	18C後半	－	－	3.6	灰白	
SX-010	－	108	327	磁器	肥前	染付小杯	17C中葉	－	－	－	灰白	
SX-010	－	109	327	磁器	肥前	染付小杯	17C中葉	9.4	－	－	灰白	
SX-010	－	110	327	磁器	肥前	染付小杯	17C中葉	－	－	－	灰白	底部外面「大明」銘
SX-010	－	111	327	磁器	肥前	染付小杯	17C中葉	－	－	3.2	灰白	底部外面「大明」銘
SX-010	－	112	327	磁器	肥前	染付小杯	19C前半～中葉	－	－	－	灰白	
SX-010	－	113	327	磁器	肥前	染付皿	17C中葉	12.8	3.0	5.3	灰白	
SX-010	－	114	327	磁器	肥前	染付皿	17C中葉	13.4	2.7	5.4	灰白	
SX-010	－	115	327	磁器	肥前	染付菊皿	17C中葉	13.8	2.8	5.6	灰白	
SX-010	－	116	327	磁器	肥前	染付手塩皿	17C中葉	－	－	2.8	灰白	
SX-010	－	117	327	磁器	肥前	色絵油壺	17C後半	3.2	－	－	灰白	
SX-010	－	118	327	磁器	肥前	青磁蓋	17C中葉	6.0	－	－	灰白	
SX-010	－	119	327	磁器	肥前	青磁壺	17C中葉	－	－	－	灰白	
SX-010	－	120	327	磁器	瀬戸・美濃	染付端反碗	19C中葉	－	－	－	灰白	
SX-010	－	122	328	土師質	在地	焙烙	17C中葉～18C前半	39.4	－	－	にぶい黄褐	
SX-010	－	123	328	土師質	在地	焙烙	17C中葉～18C前半	－	－	－	にぶい黄褐	
SX-010	－	124	328	土師質	在地	焙烙	17C中葉～18C前半	38.6	－	－	にぶい赤褐	
SX-010	－	125	328	土師質	在地	焙烙	17C中葉～18C前半	38.6	－	－	にぶい赤褐	
SX-010	－	126	328	土師質	在地	焙烙	18C中葉～後半	－	－	－	灰褐	
SX-010	－	127	328	土師質	在地	焜炉	近世	－	－	－	灰赤	

遺構	指図番号		図版番号	種別	生産地	器種	年代	法量(cm)			胎土色	備考
								口径	器高	座径		
SX-011	−	128	328	陶器	京都・信楽	碗	18C前半	−	−	3.0	灰黄褐	
SX-011	−	129	328	陶器	京都・信楽	灯明皿	18C前半	−	−	−	灰黄褐	油煙痕
SX-011	−	130	328	陶器	瀬戸・美濃	香炉	18C前半	−	−	8.0	にぶい黄橙	
SX-011	−	131	328	陶器	肥前	土瓶	19C前半	−	−	−	にぶい褐	
SX-011	−	132	328	磁器	肥前	小杯	17C中葉～後半	−	−	−	灰白	
SX-012	−	133	328	陶器	肥前	碗	17C末～18C前半	11.0	−	−	灰黄褐	
SX-012	−	134	328	陶器	肥前	碗	17C末～18C前半	4.4	−	−	灰黄褐	
SX-012	−	135	328	陶器	肥前	碗	17C末～18C前半	−	−	−	灰白	京焼風
SX-012	−	136	328	陶器	肥前	碗	17C末～18C前半	−	−	−	灰白	
SX-012	−	137	328	陶器	肥前	皿	17C末～18C前半	−	−	−	灰白	
SX-012	−	138	328	陶器	肥前	火入	17C中葉～後半	−	−	5.4	にぶい橙	京焼風
SX-012	−	139	328	陶器	瀬戸・美濃	丸碗	近世	−	−	−	灰黄橙	
SX-012	−	140	328	陶器	瀬戸・美濃	腰錆碗	18C後半	−	−	−	灰白	
SX-012	−	141	328	陶器	瀬戸・美濃	輪禿皿	17C後半	−	−	−	灰白	
SX-012	−	142	328	陶器	瀬戸・美濃	香炉	18C前半	−	−	10.0	灰	
SX-012	−	143	328	陶器	瀬戸・美濃	肩衝小壺	18C前葉	−	−	−	にぶい黄褐	
SX-012	−	144	328	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	17C末～18C前半	−	−	−	灰赤	
SX-012	−	145･146	328	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	18C中葉	40.4	−	−	にぶい黄橙	
SX-012	−	147	328	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	近世	−	−	10.0	灰褐	
SX-012	−	148	328	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	8.1	−	−	灰白	
SX-012	−	149	328	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	−	−	−	灰白	
SX-012	−	150	328	磁器	肥前	染付碗	17C末～18C前半	−	−	4.2	にぶい黄橙	
SX-012	−	151	328	磁器	肥前	染付碗	18C前半	10.0	−	−	灰白	
SX-012	−	152	328	磁器	肥前	染付菊皿	17C中葉	11.6	3.2	5.0	灰白	
SX-012	−	153	328	磁器	肥前	染付小杯	17C中葉	−	−	3.4	灰白	底部外面「大明」銘
SX-012	−	154	328	磁器	肥前	染付小杯	17C後半	−	−	−	灰白	
SX-012	−	155	328	磁器	肥前	染付仏飯器	18C末～19C中葉	−	−	−	灰白	
SX-012	−	156	328	土師質	在地	焙烙	18C前半	39.6	−	−	にぶい赤褐	
SX-012	−	157	328	土師質	在地	焙烙	18C前半	−	4.3	−	灰褐	
SX-012	−	158	328	土師質	在地	焙烙	18C前半	−	−	−	にぶい赤褐	
SX-020	669	159	329	陶器	古瀬戸	縁釉小皿	15C中葉～後半	−	−	−	灰白	
SX-020	669	160	329	陶器	古瀬戸	天目茶碗	14C前半	11.5	−	−	灰オリーブ	
SX-020	669	161	329	陶器	常滑	甕	15C前半	24.6	9.0	10.0	明黄褐	
SK-588	−	162	329	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	近世	−	−	−	にぶい黄橙	
SK-588	−	163	329	陶器	瀬戸・美濃	碗	18C後半	−	−	3.6	にぶい黄橙	
SK-588	−	164	329	陶器	瀬戸・美濃	腰錆碗	18C後半	−	−	4.0	にぶい黄橙	
SK-588	−	165	329	陶器	瀬戸・美濃	丸碗	18C	−	−	−	灰褐	
SK-060	−	166	329	陶器	瀬戸・美濃	碗	18C	−	−	−	黄灰	
SK-060	−	167	329	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	18C	−	−	14.6	にぶい黄橙	
SK-060	−	168	329	陶器	志戸呂	徳利	17C末～18C前半	−	−	14.1	灰オリーブ	
SK-060	−	169	329	磁器	肥前	染付皿	17C中葉～後半	−	−	3.6	灰白	底部外面「大明」銘
SK-060	−	170	329	土師質	在地	焙烙	18C前半	−	−	−	にぶい赤褐	
SD-004	−	171	329	陶器	肥前	碗	17C末～18世紀前半	−	−	−	灰オリーブ	
SD-004	−	172	329	磁器	肥前	染付碗	17C末～18世紀前半	−	−	−	灰白	
SK-057	−	173	329	陶器	肥前	皿	17C末～18C中葉	−	−	−	にぶい黄	
SK-057	−	174	329	陶器	瀬戸・美濃	壺	近世	−	−	−	灰褐	
SK-057	−	175	329	陶器	瀬戸・美濃	片口	18C後半	−	−	−	にぶい黄	
SX-015	669	176	329	陶器	常滑	壺	中世	−	−	11.0	黄灰	
SX-015	669	177	329	陶器	常滑	甕	中世	−	−	−	にぶい赤褐	
SX-015	−	178	329	陶器	肥前	碗	17C中葉～後半	−	−	4.4	にぶい黄橙	
SX-015	−	180	329	陶器	肥前	土瓶	18C後半～19C前半	−	−	−	にぶい黄橙	
SX-015	−	181	329	陶器	瀬戸・美濃	鉄絵皿	17C	−	−	−	灰黄褐	
SX-015	−	182	329	陶器	瀬戸・美濃	腰錆碗	18C後半	−	−	−	灰黄	
SX-015	−	183	329	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	近世	−	−	−	にぶい橙	砥石に転用
SX-015	−	184	329	陶器	志戸呂	灯明皿(受皿)	18C前半	−	−	−	黄灰	
SX-015	−	185	329	陶器	相馬	行平(蓋)	19C前半～中葉	−	−	−	黄灰	
SX-015	−	186	329	陶器	堺	擂鉢	18C後半	−	−	−	にぶい赤褐	
SX-015	−	187	329	磁器	肥前	染付碗	18C後半	−	−	−	灰白	
SX-015	−	188	329	磁器	肥前	染付筒形碗	18C後半	−	−	3.6	灰褐	

遺構	指図番号		図版番号	種別	生産地	器種	年代	法量(cm)			胎土色	備考
								口径	器高	座径		
SX-015	−	189	329	磁器	肥前	染付皿	19C前半～中葉	−	−	6.0	灰白	
SX-015	−	190	329	磁器	肥前	染付合子(身)	19C前半～中葉	−	2.2	5.0	灰白	
SX-015	−	191	329	磁器	肥前	白磁紅皿	19C前半～中葉	5.6	−	−	灰白	
SX-014	−	192	329	陶器	瀬戸・美濃	碗	18C後半	−	−	−	黄灰	
SD-009	−	193	329	磁器	肥前	染付碗	17C後半～18C前半	−	−	−	灰白	
SD-005	669	194	329	陶器	古瀬戸	擂鉢	15C中葉～後半	−	−	−	灰オリーブ	
SD-005	−	195	329	陶器	瀬戸・美濃	丸皿	17C中葉	11.4	3.3	6.8	にぶい黄	
SD-006	−	196	329	陶器	瀬戸・美濃	皿	近世	−	−	6.4	灰オリーブ	
SD-006	−	197	329	陶器	瀬戸・美濃	香炉	17C後半～18C前半	−	−	−	灰オリーブ	
SD-007	669	198	329	陶器	古瀬戸	縁釉小皿	14C末～15C前半	−	−	−	灰オリーブ	
SD-007	−	199	329	陶器	肥前	皿	17C	−	−	−	にぶい黄橙	
SD-050	−	200	329	陶器	瀬戸・美濃	菓子鉢	19C中葉	−	−	−	にぶい黄橙	
SD-050	−	201	329	磁器	瀬戸・美濃	端反碗	19C中葉	−	−	−	灰白	
SD-054	−	202	329	陶器	古瀬戸	縁釉小皿	14C末～15C前半	−	−	−	灰オリーブ	
SD-054	669	203·204	329	陶器	古瀬戸	縁釉小皿	15C後半	−	−	−	灰オリーブ	
SD-054	669	205	329	陶器	古瀬戸	折縁深皿か直縁大皿	15C前半	−	−	−	灰オリーブ	
SD-054	669	206	329	陶器	古瀬戸	擂鉢	15C中葉～後半	−	−	10.8	にぶい褐	
SD-054	−	207	329	陶器	瀬戸・美濃	灯明皿	19C中葉	9.8	2.3	4.0	灰オリーブ	
SD-054	−	208	329	陶器	瀬戸・美濃	花瓶	19C	7.8	−	−	褐灰	
SD-054	669	209	329	陶器	常滑	片口鉢	15C後半	−	−	−	灰黄褐	
SD-054	669	210	329	陶器	常滑	甕	中世	−	−	−	黄灰	
SD-054	−	211·212	330	陶器	肥前	碗	17C後半	12.4	−	−	にぶい黄橙	
SD-054	−	213	330	陶器	肥前	皿	17C末～18C前半	−	−	4.4	オリーブ灰	
SD-054	−	214	330	陶器	肥前	皿	17C末～18C前半	−	−	−	オリーブ灰	
SD-054	−	215	330	土師質	在地	カワラケ	17C	9.4	2.0	4.4	黒褐	油煙痕
SD-054	−	216	330	土師質	在地	焙烙	17C末～18C前半	−	−	−	灰黄褐	
SD-053	670	217	330	陶器	古瀬戸	折縁深皿	15C後半	−	−	−	灰黄	
SD-053	−	218	330	磁器	肥前	色絵碗	近世	−	−	−	灰白	
SX-023	−	219	330	陶器	瀬戸・美濃	輪禿皿	17C後半	−	−	−	灰黄	
SX-023	−	220	330	陶器	瀬戸・美濃	丸皿	17C後半	−	−	−	灰黄	
SX-030	670	221·222	330	陶器	古瀬戸	縁釉小皿	15C後半	−	−	−	灰黄	
SX-030	670	223	330	陶器	古瀬戸	片口鉢	15C後半	−	−	−	にぶい褐	
SX-030	−	224	330	磁器	肥前	白磁小杯	17C前半～中葉	−	−	−	灰白	
SX-013	−	225	330	土師質	在地	焙烙	18C前半	39.6	−	−	にぶい橙	
SX-013	670	226·227	330	陶器	古瀬戸	擂鉢	15C中葉～後半	−	−	−	オリーブ灰	
SX-013	−	228	330	陶器	肥前	碗	17C末～18C初頭	−	−	5.0	淡黄	京焼風
SX-013	−	229	330	陶器	瀬戸・美濃	湯呑碗	近世	−	−	−	にぶい黄褐	
SX-013	−	230	330	陶器	瀬戸・美濃	丸皿	近世	−	−	−	黄褐	
SX-013	−	231	330	陶器	瀬戸・美濃	銭甕	近世	−	−	−	オリーブ灰	
SX-013	−	232	330	陶器	瀬戸・美濃	香炉	17C末	15.2	7.5	11.4	にぶい橙	
SX-013	−	233	330	陶器	瀬戸・美濃	片口	17C後半	−	−	9.8	黄灰	
SX-013	−	234	330	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	17C後半～18C初頭	−	−	−	にぶい黄橙	
SX-013	−	235	330	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	近世	−	−	−	にぶい褐	
SX-013	−	236	330	陶器	堺	擂鉢	近世	−	−	−	にぶい赤褐	
SX-013	−	237	330	磁器	肥前	青磁碗	17C中葉	12.4	6.4	5.4	灰白	
SX-013	−	238	330	磁器	肥前	青磁染付筒形碗	18C中葉～後半	−	−	−	灰白	
SX-013	−	239	330	磁器	肥前	染付筒形碗	18C中葉～後半	−	−	−	灰白	
SX-013	−	240	330	土師器	在地	焙烙	18C後半	−	−	−	褐灰	
SX-022	670	241	331	陶器	古瀬戸	折縁深皿	15C中葉～後半	−	−	−	褐灰	
SX-022	670	242	331	陶器	常滑	片口鉢	中世	−	−	−	黄灰	
SX-031	−	243	330	陶器	常滑	甕	18C	47.5	56.7	19.0	にぶい赤褐	
SX-031	−	244·245	331	陶器	瀬戸・美濃	灯明皿	19C中葉	9.8	2.0	4.0	黄灰	
SX-031	−	246	331	陶器	瀬戸・美濃	蓋	19C	8.8	1.1	−	にぶい黄橙	
SX-031	−	247	331	陶器	瀬戸・美濃	徳利	19C中葉	3.8	14.8	6.0	黄灰	
SX-031	−	248	331	陶器	益子	皿	19C後半	28.0	−	−	褐灰	
SX-031	−	249	331	陶器	益子	片口	19C後半	20.2	−	−	にぶい赤褐	
SX-031	−	250～252	331	土師質	在地	焙烙	19C	34.8	−	−	にぶい赤褐	
SX-031	−	253	331	磁器	瀬戸・美濃	染付碗	19C後半	−	−	−	灰白	
SX-031	−	254	331	磁器	瀬戸・美濃	染付蓋	19C後半	7.4	−	−	灰白	

遺構	指図番号		図版番号	種別	生産地	器種	年代	法量(cm)			胎土色	備考
								口径	器高	座径		
SX-031	−	255	331	磁器	肥前	色絵碗	19C後半	−	−	−	灰白	
SD-064	−	256	331	陶器	瀬戸・美濃	鉄絵湯呑碗	18C後半	−	−	−	灰白	
SD-064	−	257	331	土師質	在地	カワラケ	18C後半	6.6	1.2	4.2	橙	
SK-107	−	258	331	土師質	在地	カワラケ	18C後半	5.8	0.9	3.0	にぶい橙	
SK-461	−	259	331	土師質	在地	焙烙	19C	−	−	−	灰黄褐	
SK-553	−	260	331	磁器	瀬戸・美濃	染付端反碗	19C中葉～後半	−	−	3.9	灰白	
SK-570	−	261	331	土師質	在地	カワラケ	近世	−	−	−	にぶい黄橙	
SK-576	−	262	331	陶器	瀬戸・美濃	輪禿皿	18C後半	31.2	6.1	8.2	黄灰	
SK-579	−	263	331	磁器	肥前	染付碗	18C前半	−	−	−	灰白	
SK-581	−	264	331	陶器	瀬戸・美濃	香炉	18C前半	9.2	−	−	黄灰	
SK-581	−	265	331	土師質	在地	カワラケ	18C	14.4	1.6	4.8	明黄褐	
SK-581	−	266·267	331	土師質	在地	焙烙	18C後半	−	−	−	にぶい褐	
SK-586	−	268	331	陶器	瀬戸・美濃	丸碗	17C後半～18C前半	−	−	5.0	にぶい黄	内面に酸化鉄付着
SK-597	670	269	331	陶器	常滑	甕	14C後半	−	−	−	灰褐	
SK-597	−	270	331	土師質	在地	焙烙	18C後半	−	−	−	にぶい赤褐	
SK-604	−	271	331	陶器	瀬戸・美濃	腰錆碗	18C後半	−	−	4.5	にぶい黄	
SK-612	−	272	331	陶器	志戸呂	灯明皿	18C後半	7.8	1.3	3.8	にぶい橙	
25P-96	670	273	331	陶器	常滑	甕	中世	−	−	−	灰赤	
23K-02	670	274	331	陶器	古瀬戸	緑釉小皿	15C中葉～後半	−	−	−	オリーブ黄	
23Q-34	−	275	331	陶器	瀬戸・美濃	碗	17C後半	−	−	4.8	オリーブ黄	
25P-32	−	276	331	陶器	瀬戸・美濃	せんじ碗	18C後半	11.2	5.0	4.4	灰褐	
23Q-34	−	277	331	陶器	瀬戸・美濃	摺絵皿	18C中葉	11.0	3.2	7.5	灰褐	
25P-84	−	278	331	陶器	瀬戸・美濃	摺絵皿	18C中葉	12.2	3.0	6.2	浅黄	
23R-02	−	279	331	陶器	瀬戸・美濃	馬の目皿	19C前半	−	−	−	灰黄	
23Q-00	−	280	331	陶器	瀬戸・美濃	摺絵鬢盥	17C後半～18C前半	−	−	−	灰	
25P-96	−	281	331	陶器	瀬戸・美濃	香炉	17C後半	−	−	10.6	にぶい黄橙	
23Q-28	−	282	332	陶器	瀬戸・美濃	香合(身)	近世	10.0	−	−	にぶい黄橙	
23Q-38	−	283	332	陶器	瀬戸・美濃	仏花瓶	18C	−	−	5.0	灰黄褐	
21Q-48	−	284	332	陶器	瀬戸・美濃	壺	近世	−	−	−	にぶい橙	
19N-96	670	285	332	陶器	瀬戸・美濃	擂鉢	17C前半	−	−	−	にぶい橙	
25P-83	−	286	332	陶器	京都・信楽	碗	18C後半	9.0	−	−	灰白	
19O-06	−	287	332	陶器	京都・信楽	小杉碗	18C後半	9.4	−	−	にぶい黄橙	
25P-93	−	288	332	陶器	京都・信楽	端反碗	19C前半	9.0	−	−	浅黄橙	
24P-71	−	289	332	陶器	京都・信楽	碗	近世	4.0	2.7	1.8	灰白	
25P-82	−	290	332	陶器	肥前	皿	18C前半	−	−	−	灰黄	
25P-96	−	291·292	332	陶器	肥前	土瓶	19C	8.2	−	−	灰白	
24P-72	−	293	332	陶器	相馬	徳利	19C	−	−	−	暗赤灰	
SI-106	670	294	332	土師質	在地	片口鉢	15C	−	−	−	明赤褐	
23Q-02	−	295	332	土師質	在地	焙烙	18C前半	34.6	5.3	29.2	にぶい褐	
表採	−	296	332	瓦質	在地	焜炉	19C	20.2	−	−	灰褐	
25P-97	−	297	332	磁器	肥前	染付碗	17C中葉～後半	10.4	6.1	4.0	灰オリーブ	
23Q-13	−	298	332	磁器	肥前	染付碗	17C後半	10.4	5.4	4.1	灰オリーブ	
23Q-09	−	299	332	磁器	肥前	染付碗	17C末～18世紀前半	11.0	5.8	4.8	灰白	
25P-95	−	300	332	磁器	肥前	染付碗	18C前半	9.6	−	−	灰白	
25P-95	−	301	332	磁器	肥前	染付広東碗	18C末～19C前半	10.6	6.3	5.3	灰白	
23Q-02	−	303	332	磁器	肥前	色絵紅猪口	17C後半	−	−	2.8	灰白	内面に酸化鉄付着
23Q-34	−	304	332	磁器	肥前	染付皿	17C中葉	13.6	2.9	5.8	灰白	
23Q-08	−	305～307	332	磁器	肥前	染付皿	18C前葉	−	−	−	灰白	焼継ぎ，底部外面「大明年製」銘
23Q-15	−	308	332	磁器	肥前	白磁皿	18C前半	9.2	2.8	3.8	灰白	
25P-96	−	309	332	磁器	肥前	染付深皿	19C前半	13.0	−	−	灰白	
25P-96	−	310·311	332	磁器	肥前	染付瓶	19C前半	1.4	−	−	灰白	
24P-82	−	312	332	磁器	肥前	染付香炉	19C	12.4	−	−	灰白	
25P-71	−	313	332	磁器	瀬戸・美濃	染付碗	19C中葉	11.0	5.7	4.4	灰白	
25P-71	−	314	332	磁器	瀬戸・美濃	染付端反碗	19C中葉	10.6	5.2	4.2	灰白	底部内面「寿」銘
25P-71	−	315	332	磁器	瀬戸・美濃	染付碗	19C中葉	10.9	5.2	2.2	灰白	
25P-71	−	316	332	磁器	瀬戸・美濃	染付小杯	19C中葉	8.0	3.1	2.9	灰白	

千葉県教育振興財団調査報告第557集

四街道市小屋ノ内遺跡(2)

－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－

［第３分冊］

平成18年10月２日発行

編　　集　　財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター

発　　行　　独立行政法人　都市再生機構
財団法人　千葉県教育振興財団
千葉県四街道市鹿渡809番地の2

印　　刷　　株式会社　正　文　社
千葉市中央区都町1丁目10番6号